

令和7年度
堺市高齢者等実態調査
報告書

令和8（2026）年3月

堺市

目次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査対象	1
3 回収状況	2
4 報告書の見方	4
5 本市の高齢化率、要支援・要介護認定率等について	5
第2章 一般高齢者・要支援認定者調査結果	9
1 回答者の属性	9
2 家族や生活状況について	11
3 からだを動かすことについて	22
4 食べることについて	38
5 毎日の生活について	53
6 地域での活動について	71
7 たすけあいについて	88
8 健康について	105
9 耳の状態について	118
10 認知症について	124
11 仕事について	133
12 介護について	136
13 住み慣れた地域で暮らし続けることについて	150
14 スマートフォン、タブレット、パソコン等の使用状況について	155
15 リスク判定	159
16 地域の社会資源等の把握	183
第3章 在宅介護実態調査結果	191
1 回答者の属性	191
2 調査対象者について	192
3 調査対象者の生活状況や健康について	203
4 サービスの利用状況について	207
5 住み慣れた地域で暮らし続けることについて	217
6 主な介護者の方について	222
7 主な介護者の方の介護に要する時間等について	237

第4章 介護事業者調査結果	269
1 回答事業者の状況や実施事業について	269
2 災害時の対策について	314
3 居宅介護支援事業所	319
4 施設サービス	323
第5章 調査結果から見た高齢者の実態と課題	325
1 高齢化の進行とひとり暮らし高齢者の増加.....	325
2 認知症の予防と認知機能低下への備え	325
3 高齢者の社会参加・地域活動に関する実態と意識	326
4 在宅での生活を続けるための支援ニーズと介護負担の状況	326
5 介護サービスを支える人材と事業所の状況	327
6 高齢者の情報入手手段の変化	327
第6章 母集団に関する推定	328
1 母集団に関する推定について	328
2 母集団の推定方法.....	328
3 一般高齢者・要支援認定者調査 母集団に関する推定値	329
第7章 調査票.....	347
1 一般高齢者・要支援認定者調査.....	347
2 在宅介護実態調査	366
3 介護事業者調査	382

第 1 章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、高齢者の生活状況や保健・福祉に関するニーズを把握し、今後の高齢者保健福祉行政のより一層の計画的かつ効果的な推進と、令和 9（2027）年度から令和 11（2029）年度を計画期間とする次期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定の基礎資料とするため、実施するものです。

2 調査対象

(1) 一般高齢者・要支援認定者調査

- ① 調査地域：堺市全域
- ② 調査対象：令和 7（2025）年 10 月末日現在で、下記のいずれかに該当する市内在住の 65 歳以上の方（189,469 人）から 13,200 人を抽出
 - ・介護保険の認定を受けていない方
 - ・要支援認定（要支援 1、2）を受けている方
- ③ 抽出方法：層化無作為抽出（日常生活圏域 21 圏域毎に無作為抽出）
- ④ 調査方法：郵送及びインターネット回答（郵送により調査票を送付）
- ⑤ 調査期間：令和 7（2025）年 12 月 19 日から令和 8（2026）年 1 月 23 日まで

(2) 在宅介護実態調査

- ① 調査地域：堺市全域
- ② 調査対象：令和 7（2025）年 10 月末日現在で、下記のいずれかに該当する市内在住の 65 歳以上の方（60,502 人）から 1,300 人を抽出
 - ・要支援認定（要支援 1、2）を受けている在宅の方
 - ・要介護認定（要介護 1～5）を受けている在宅の方
- ③ 抽出方法：無作為抽出
- ④ 調査方法：郵送及びインターネット回答（郵送により調査票を送付）
- ⑤ 調査期間：令和 7（2025）年 12 月 19 日から令和 8（2026）年 1 月 23 日まで

(3) 介護事業者調査

- ① 調査地域：堺市全域
- ② 調査対象：令和 7（2025）年 12 月 1 日現在で、堺市の指定を受けた介護保険事業所を市内に保有している法人 987 件
- ③ 調査方法：郵送及びインターネット回答（郵送により調査票を送付）
- ④ 調査期間：令和 8（2026）年 1 月 9 日から令和 8（2026）年 2 月 13 日まで

3 回収状況

(1) 一般高齢者・要支援認定者調査

図表 1-3-1 一般高齢者・要支援認定者調査 回収状況

日常生活圏域	調査対象者数	配布数	有効回収数	有効回収率
堺1区	9,624人	634件	405件	63.9%
堺2区	7,674人	615件	409件	66.5%
堺3区	7,488人	614件	406件	66.1%
堺4区	7,337人	614件	384件	62.5%
中1区	8,273人	622件	415件	66.7%
中2区	7,709人	615件	398件	64.7%
中3区	10,489人	642件	430件	67.0%
東1区	10,478人	642件	453件	70.6%
東2区	10,410人	642件	455件	70.9%
西1区	8,860人	628件	417件	66.4%
西2区	11,443人	650件	444件	68.3%
西3区	8,956人	629件	428件	68.0%
南1区	9,901人	636件	443件	69.7%
南2区	11,632人	651件	468件	71.9%
南3区	8,445人	623件	417件	66.9%
南4区	9,180人	630件	447件	71.0%
北1区	7,552人	614件	401件	65.3%
北2区	7,148人	613件	396件	64.6%
北3区	8,346人	623件	418件	67.1%
北4区	8,985人	629件	451件	71.7%
美原1区	9,539人	634件	441件	69.6%
地区不明	—	—	34件	—
合計	189,469人	13,200件	8,960件	67.9%
うち、インターネットによる回答数			1,142件 (有効回収数全体のうち12.7%)	8.7%

※ 令和4(2022)年度調査では、インターネットによる回答は有効回収数全体のうち4.6%

図表 1-3-2 (参考) 日常生活圏域別 校区一覧表

日常生活圏域	日常生活圏域を構成する小学校区
堺 1 区	三宝・錦西・市・英彰
堺 2 区	錦・錦陵・浅香山・三国丘
堺 3 区	熊野・少林寺・安井・榎
堺 4 区	神石・新湊・大仙・大仙西
中 1 区	八田荘・八田荘西・深井・深井西
中 2 区	東百舌鳥・宮園・東深井・土師
中 3 区	久世・東陶器・西陶器・福田・深阪
東 1 区	南八下・八下西・日置荘・日置荘西・白鷺
東 2 区	登美丘西・登美丘東・登美丘南・野田
西 1 区	浜寺・浜寺東・浜寺石津・浜寺昭和
西 2 区	鳳・鳳南・福泉・福泉上・福泉東
西 3 区	津久野・向丘・平岡・家原寺・上野芝
南 1 区	美木多・赤坂台・新檜尾台・城山台
南 2 区	福泉中央・桃山台・原山ひかり・庭代台・御池台
南 3 区	上神谷・宮山台・竹城台・竹城台東・若松台・茶山台
南 4 区	三原台・泉北高倉・はるみ・槇塚台
北 1 区	東浅香山・新浅香山・五箇荘・五箇荘東
北 2 区	東三国丘・光竜寺・新金岡・新金岡東
北 3 区	大泉・金岡・金岡南・北八下
北 4 区	中百舌鳥・百舌鳥・西百舌鳥
美原 1 区	黒山・平尾・美原北・八上・美原西・さつき野

(2) 在宅介護実態調査

図表 1-3-3 在宅介護実態調査 回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
1,300 件	729 件	56.1%
うち、インターネットによる回答数	66 件 (有効回収数全体のうち 9.0%)	5.1%

※ 令和 4（2022）年度調査では、インターネットによる回答は有効回収数全体のうち 4.0%

(3) 介護事業者調査

図表 1-3-4 介護事業者調査 回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
987 件	671 件	68.0%
うち、インターネットによる回答数	320 件 (有効回収数全体のうち 47.7%)	32.4%

※ 令和 4（2022）年度調査では、回答方法はインターネットのみで、今回調査からインターネットと郵送を併用

4 報告書の見方

- 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- 一般高齢者・要支援認定者調査の有効回収数（全体）には属性（性別、年齢、居住地、認定状況）の不明分を含んでいます。

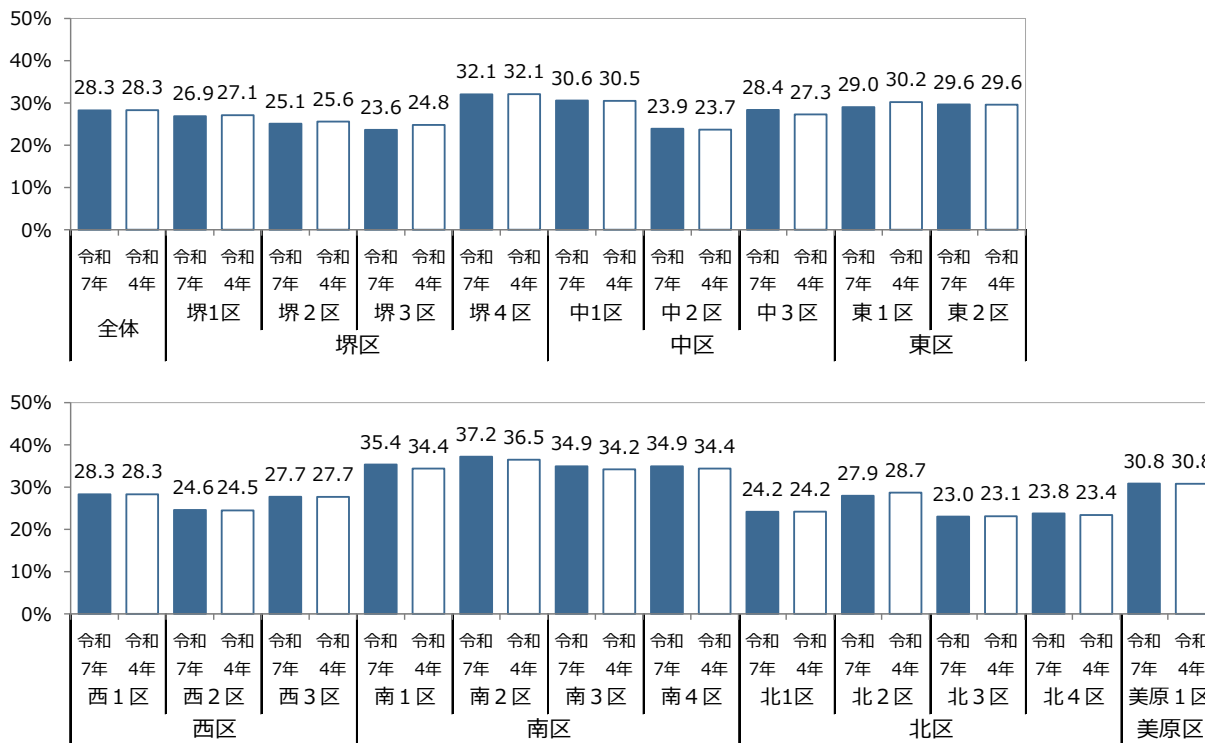
5 本市の高齢化率、要支援・要介護認定率等について

(1) 高齢化率

本市の令和 7（2025）年 12 月末現在における高齢化率（総人口に占める 65 歳以上人口の割合）は、全体で 28.3%で、令和 4（2022）年度調査（28.3%）と同水準で推移しています。

圏域別にみると、南 2 区が 37.2%で最も高い状況です。

図表 1-5-1 高齢化率 圏域別



※ 各年 12 月末日現在

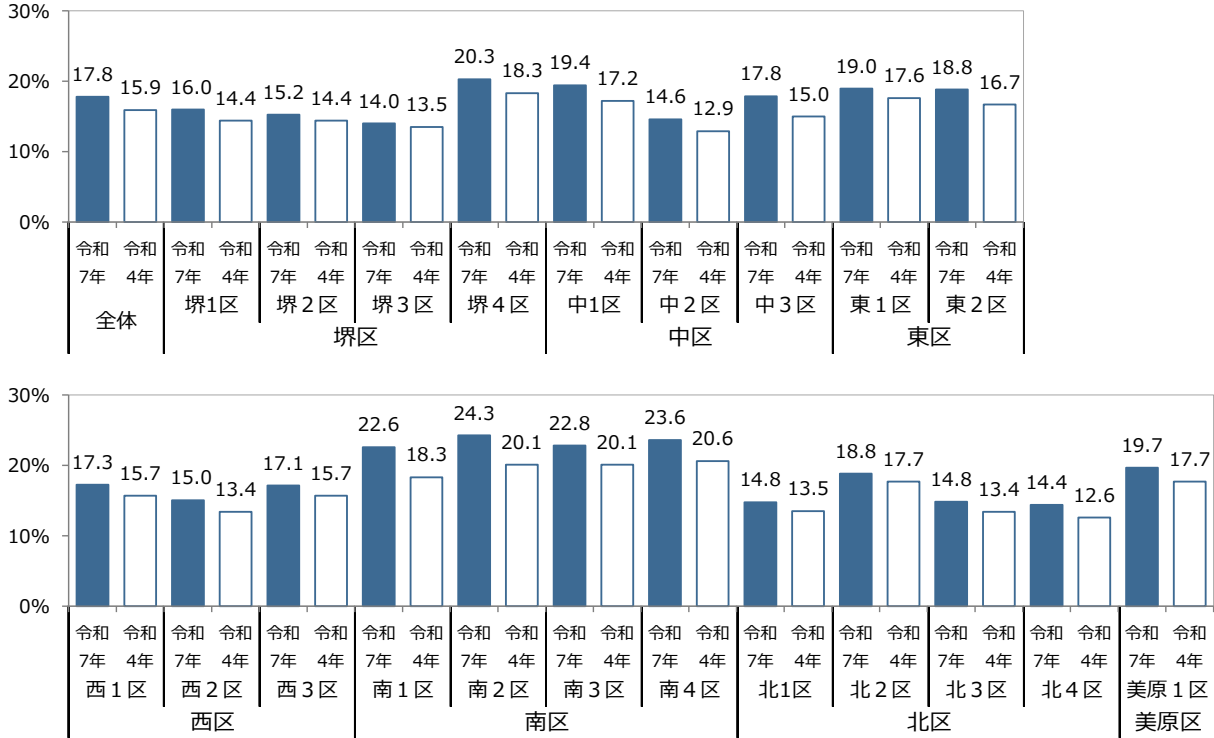
資料：堺市

(2) 75 歳以上人口の状況

本市の令和 7（2025）年 12 月末現在における総人口に占める 75 歳以上人口の割合は、全体で 17.8%で、令和 4（2022）年度調査（15.9%）より 1.9 ポイント増加しています。

圏域別にみると、すべての圏域で令和 4（2022）年より増加しており、南 2 区が 24.3%で最も高い状況です。

図表 1-5-2 75 歳以上人口の割合 圏域別



※ 各年 12 月末日現在

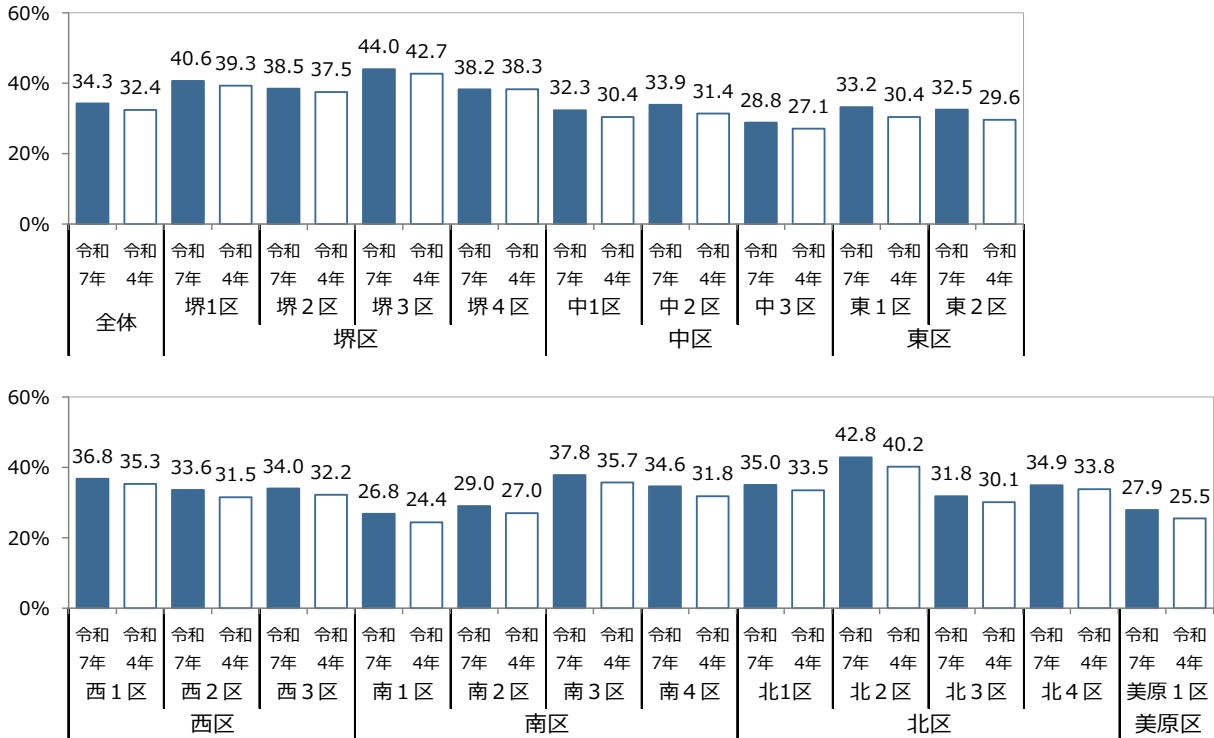
資料：堺市

(3) 65歳以上ひとり暮らし高齢者の状況

本市の令和7（2025）年12月末現在における65歳以上人口に占めるひとり暮らし高齢者の割合は、全体で34.3%で、令和4（2022）年度調査（32.4%）より1.9ポイント増加しています。

圏域別にみると、堺4区を除くすべての圏域で令和4（2022）年より増加しており、堺3区が44.0%で最も高い状況です。

図表 1-5-3 65歳以上ひとり暮らし高齢者の状況 圏域別



※ 各年12月末日現在

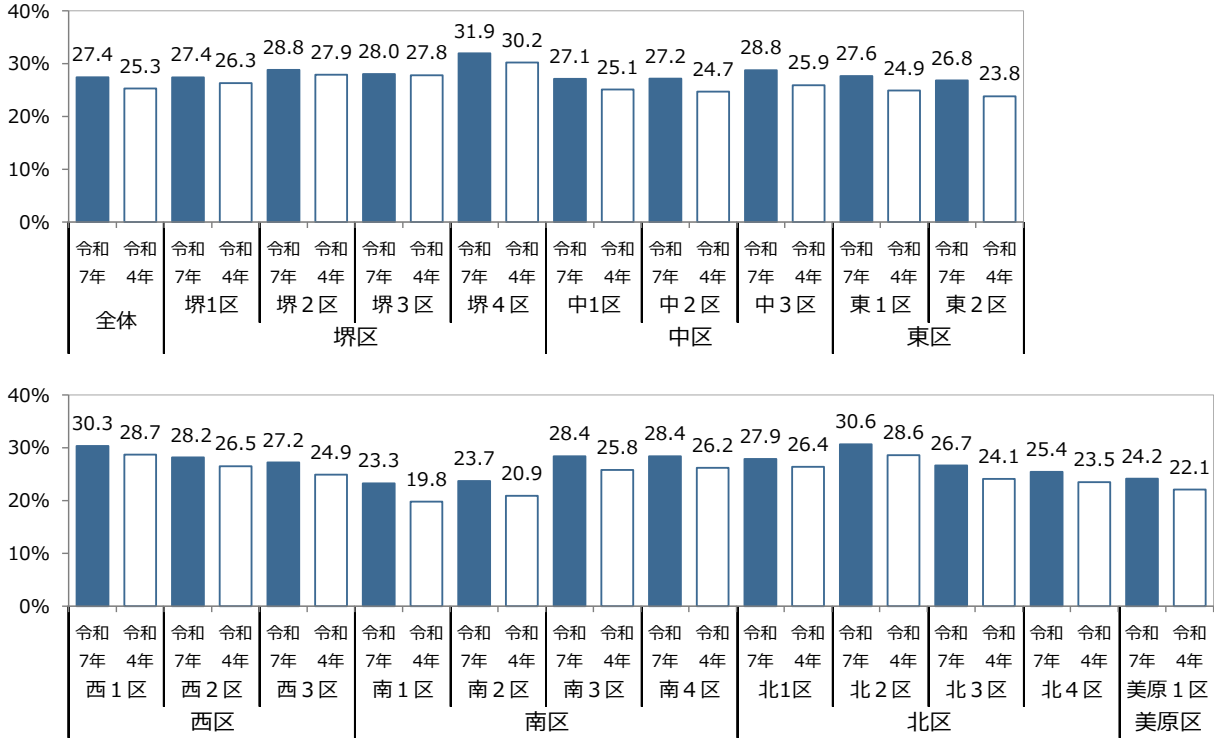
資料：堺市

(4) 要支援・要介護認定率の状況

本市の令和 7（2025）年 12 月末現在における要支援・要介護認定率（第 2 号含む）は、全体で 27.4%です。

圏域別にみると、すべての圏域で令和 4（2022）年より増加しており、堺 4 区が 31.9%で最も高い状況です。

図表 1-5-4 要支援・要介護認定率の状況（第 2 号含む） 圏域別



※ 各年 12 月末日現在

資料：堺市

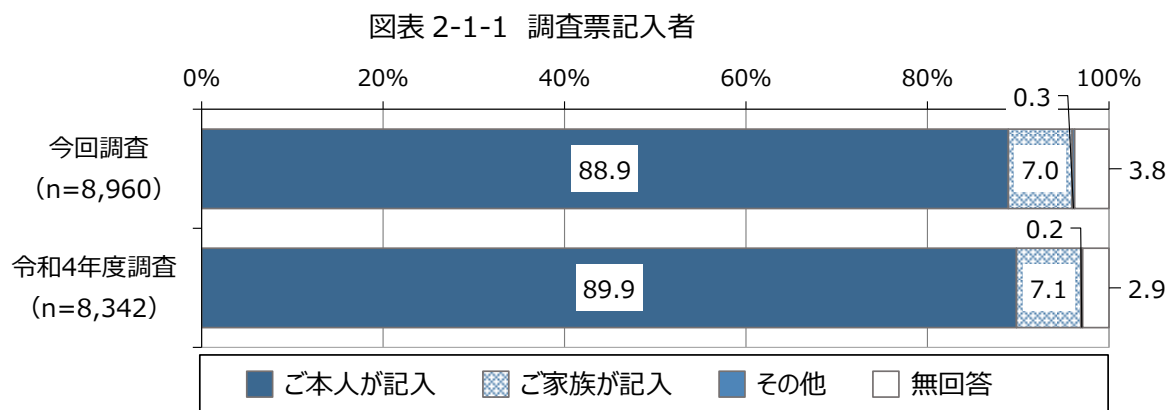
第2章 一般高齢者・要支援認定者調査結果

1 回答者の属性

(1) 調査票記入者

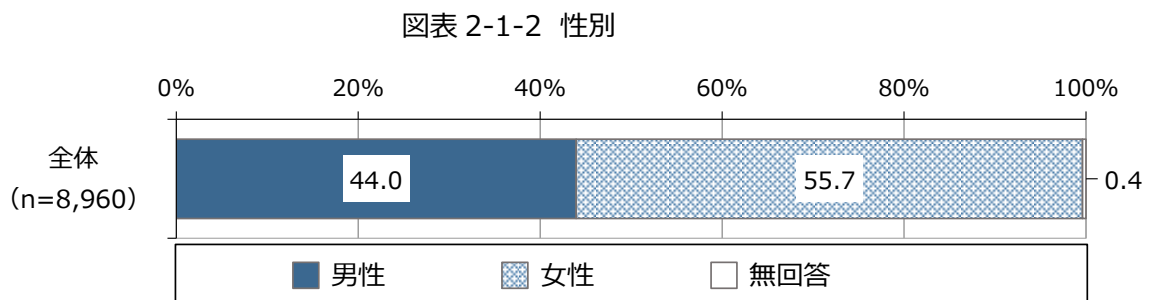
問	調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。
---	------------------------------

調査票記入者については、「ご本人が記入」が 88.9%で最も高く、次いで「ご家族が記入」が 7.0%、「その他」が 0.3%です。



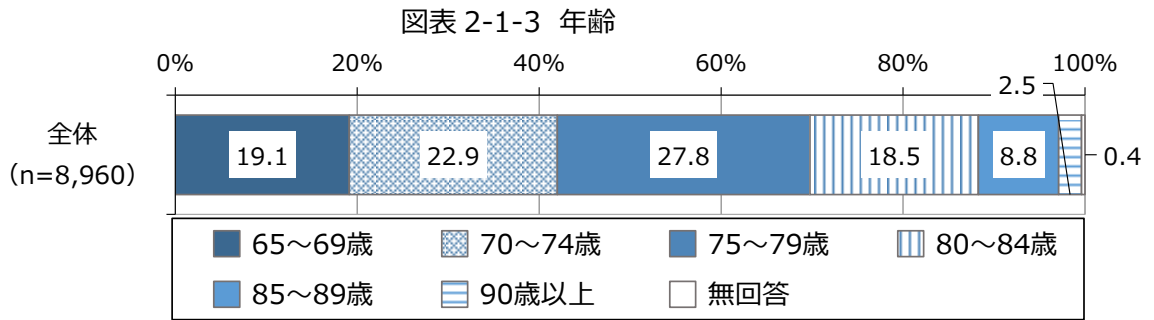
(2) 性別

性別については、「男性」が 44.0%、「女性」が 55.7%です。



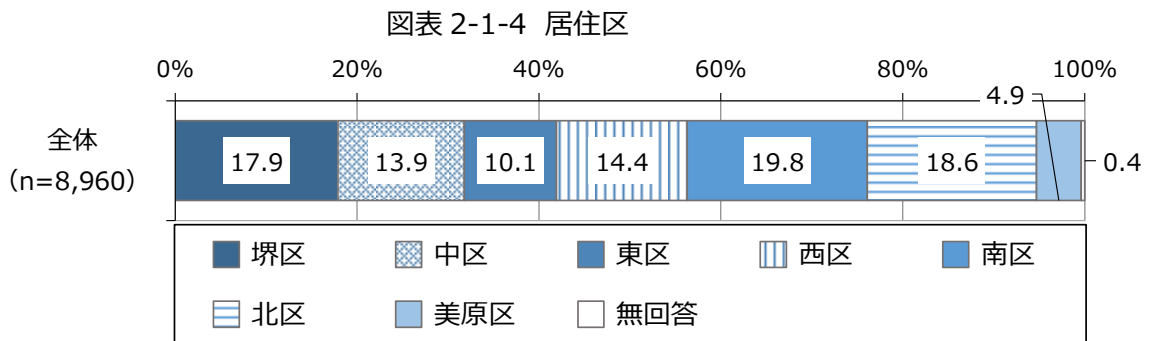
(3) 年齢

年齢については、「75～79 歳」が 27.8%で最も高く、次いで「70～74 歳」が 22.9%、「65～69 歳」が 19.1%と続いています。



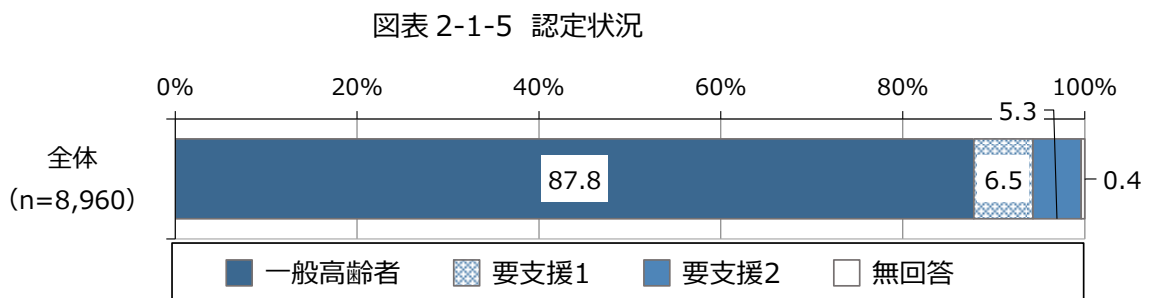
(4) 居住区

居住区については、「南区」が 19.8%で最も高く、次いで「北区」が 18.6%、「堺区」が 17.9%と続いています。



(5) 認定状況

認定状況については、「一般高齢者」が 87.8%で最も高く、次いで「要支援 1」が 6.5%、「要支援 2」が 5.3%です。



2 家族や生活状況について

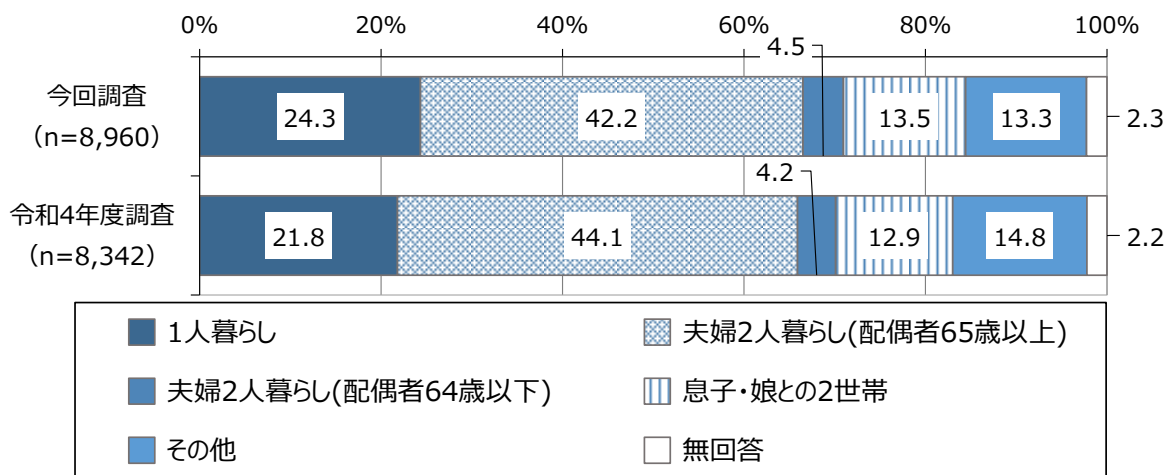
(1) 家族構成

問 1 (1)	家族構成をお教えてください（○はひとつ）
------------	----------------------

家族構成については、「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 42.2%で最も高く、次いで「1 人暮らし」が 24.3%、「息子・娘との 2 世帯」が 13.5%と続いています。

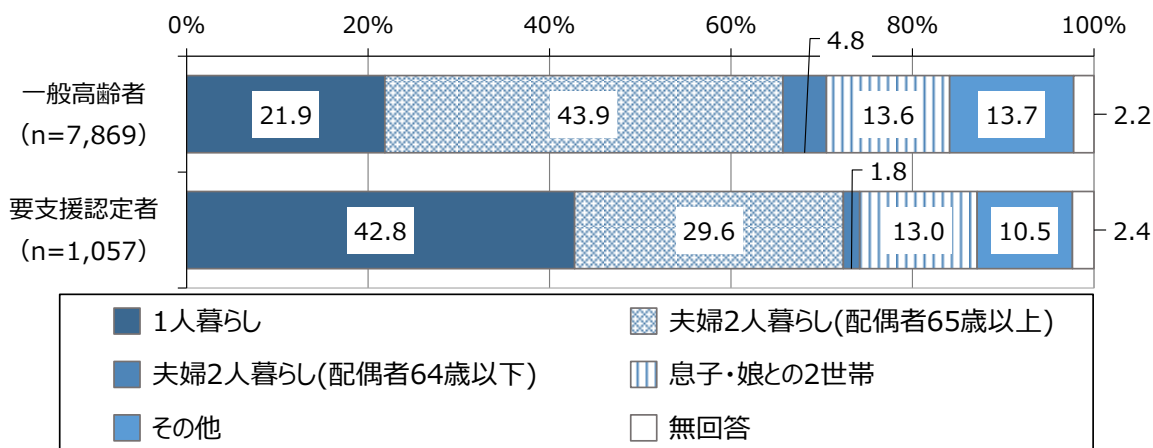
令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-2-1 家族構成

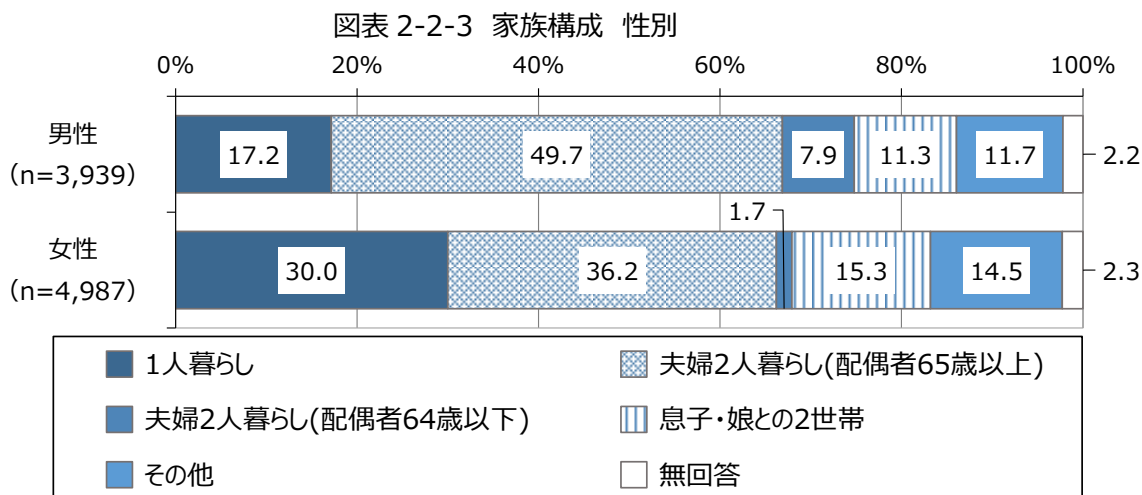


認定状況別で見ると、一般高齢者では「夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が 43.9%で最も高く、要支援認定者では「1 人暮らし」が 42.8%で最も高い割合を占めています。

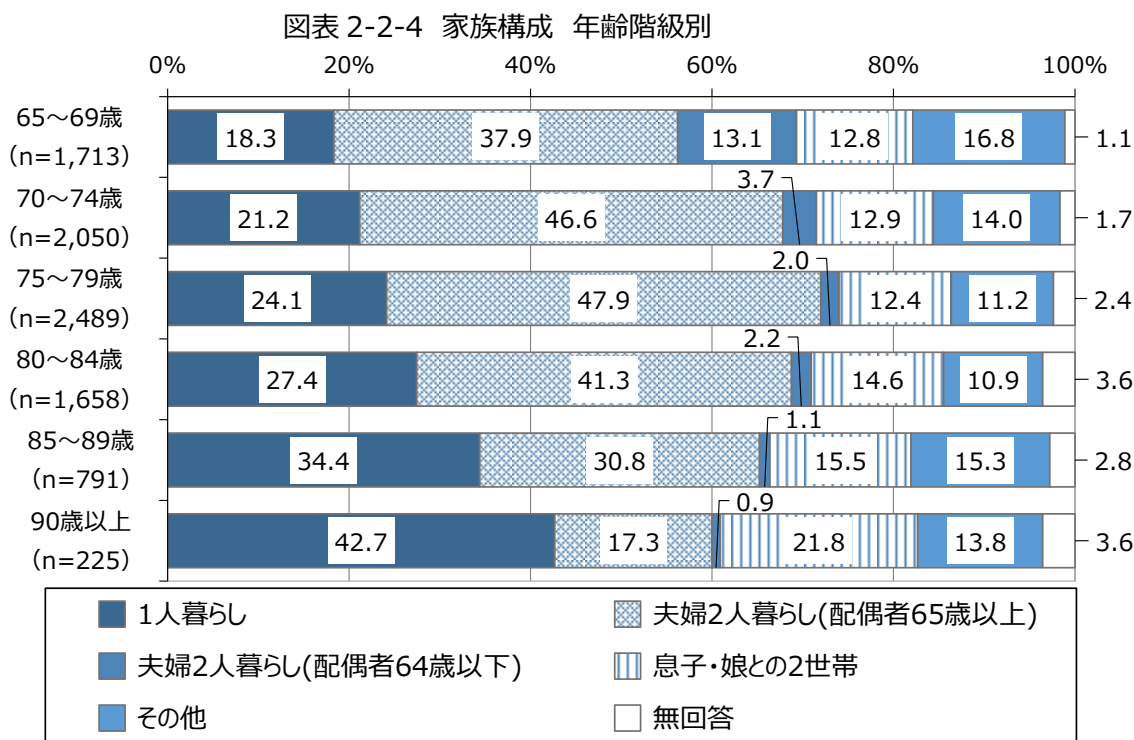
図表 2-2-2 家族構成 認定状況別



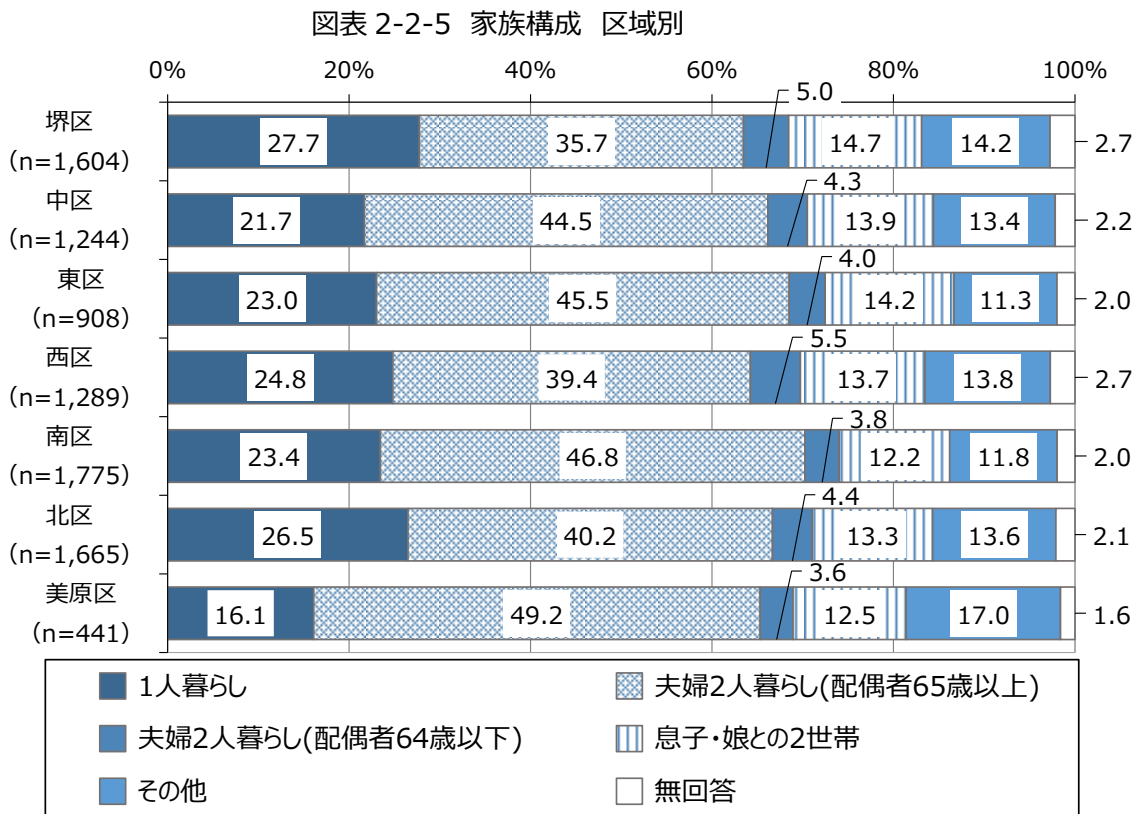
性別でみると、「1人暮らし」では、女性が30.0%で、男性（17.2%）より12.8ポイント高い状況です。



年齢階級別でみると、「1人暮らし」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が42.7%で最も高い状況です。



区域別でみると、「1人暮らし」では、堺区が27.7%で最も高い状況です。

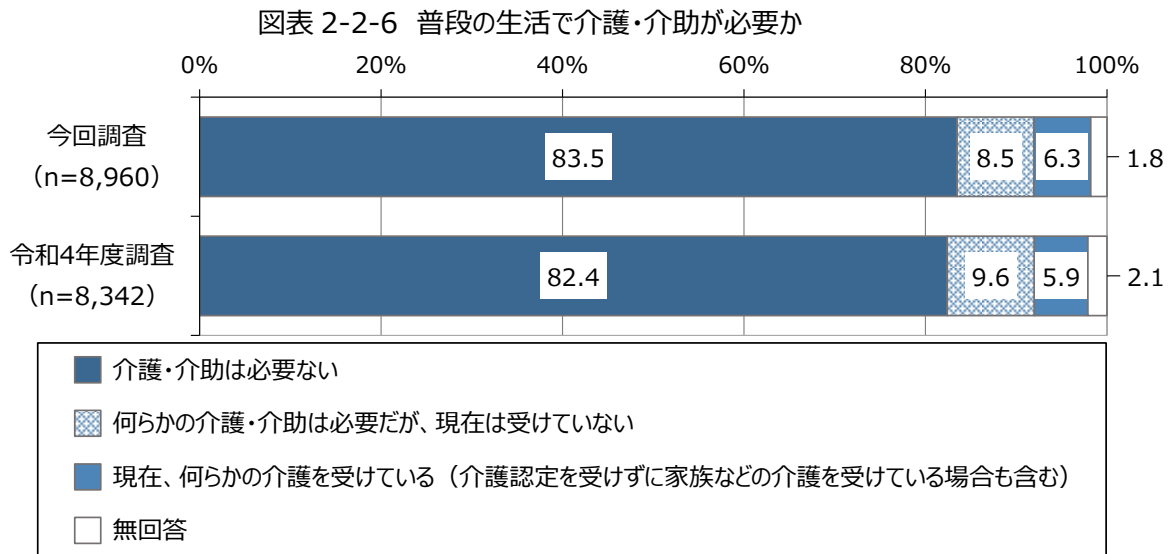


(2) 普段の生活で介護・介助が必要か

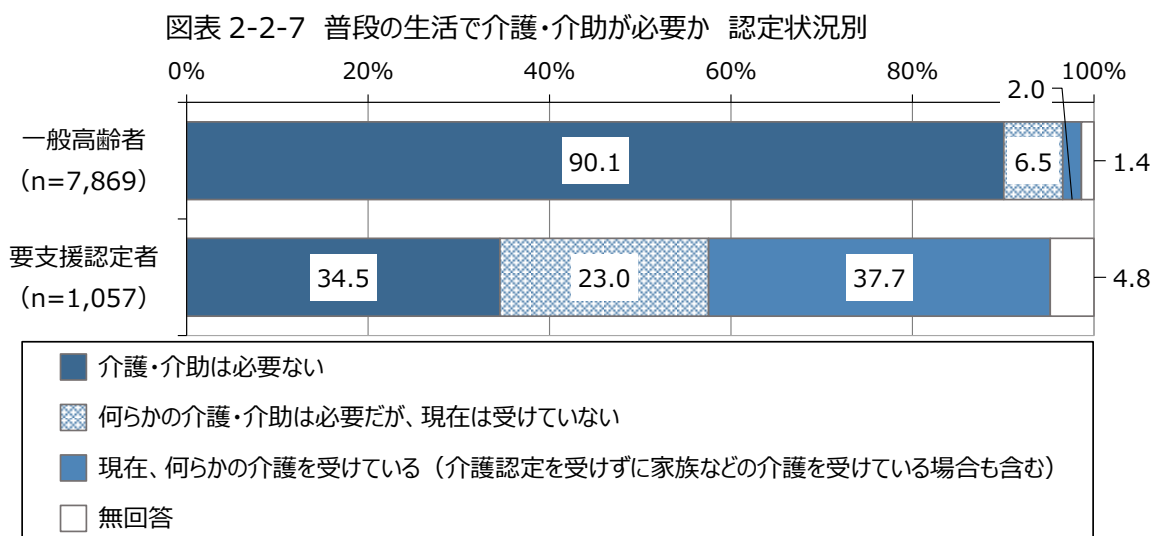
問 1 (2)	あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか（○はひとつ）
------------	------------------------------------

普段の生活で介護・介助が必要かについては、「介護・介助は必要ない」が 83.5%で最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 8.5%、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が 6.3%です。

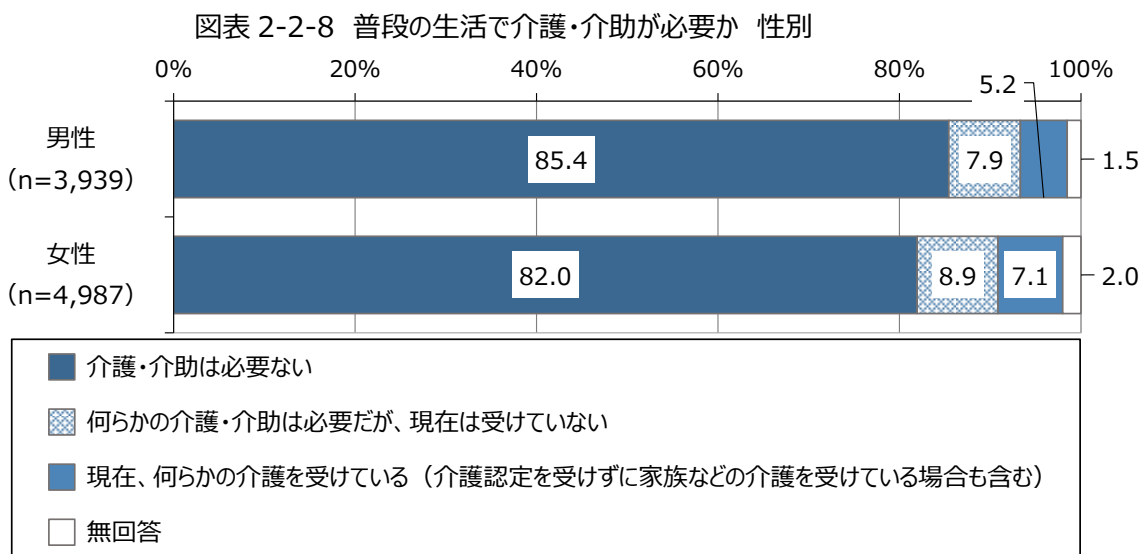
令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。



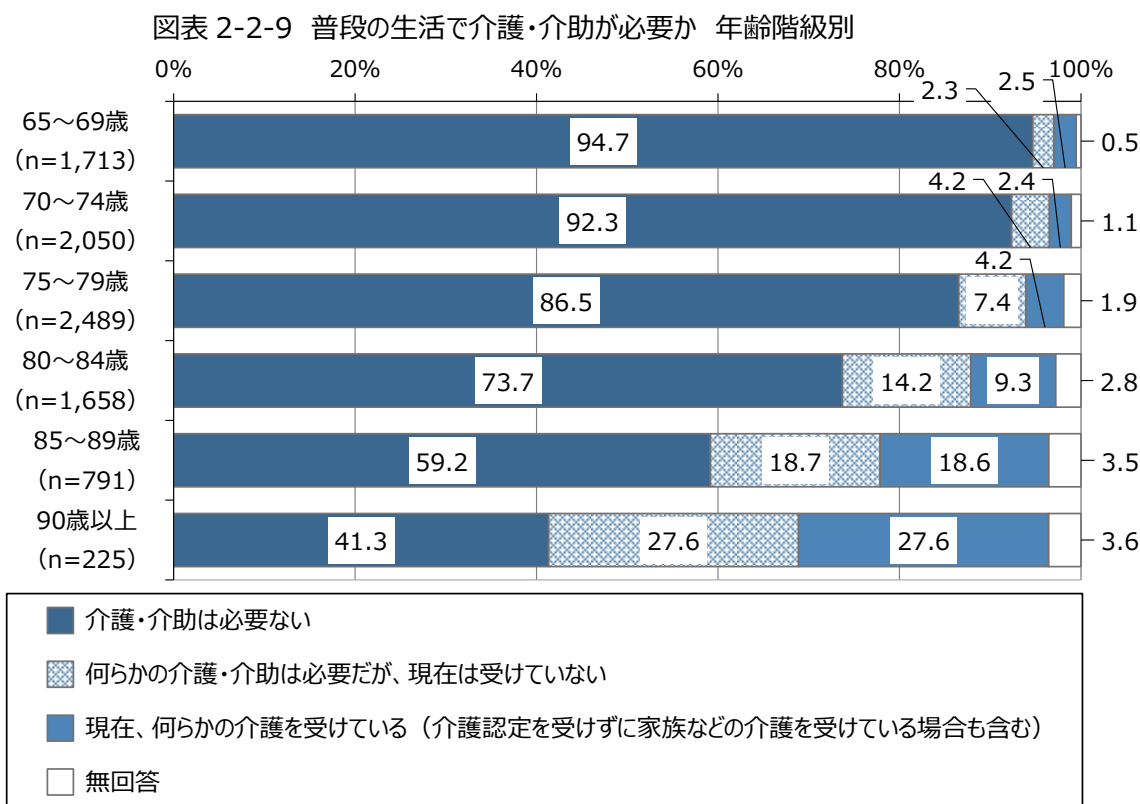
認定状況別でみると、一般高齢者では「介護・介助は必要ない」が 90.1%で最も高く、要支援認定者では「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」が 37.7%で最も高い割合を占めています。



性別でみると、「介護・介助は必要ない」では、男性が 85.4%で、女性（82.0%）より 3.4 ポイント高い状況です。

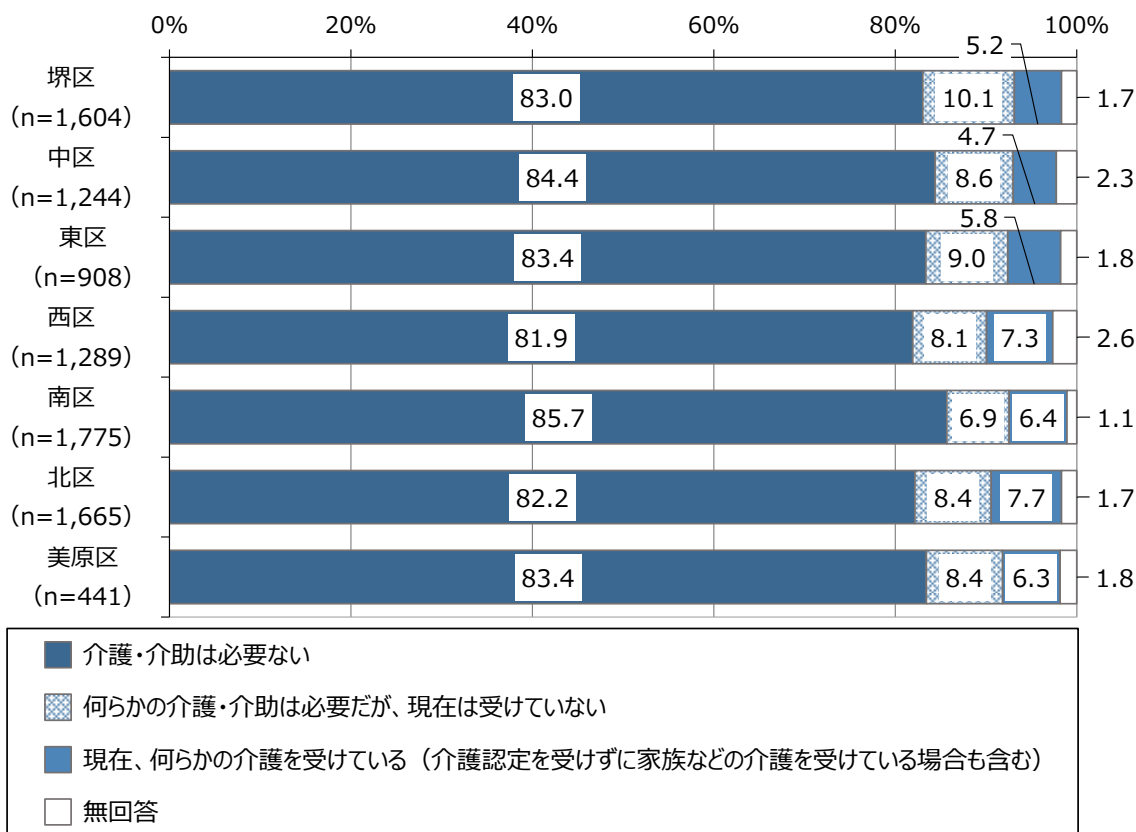


年齢階級別でみると、『介護・介助が必要』（「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」の合計）では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が 55.2%で最も高い状況です。



区域別でみると、『介護・介助が必要』では、北区が16.1%で最も高い状況です。

図表 2-2-10 普段の生活で介護・介助が必要か 区域別



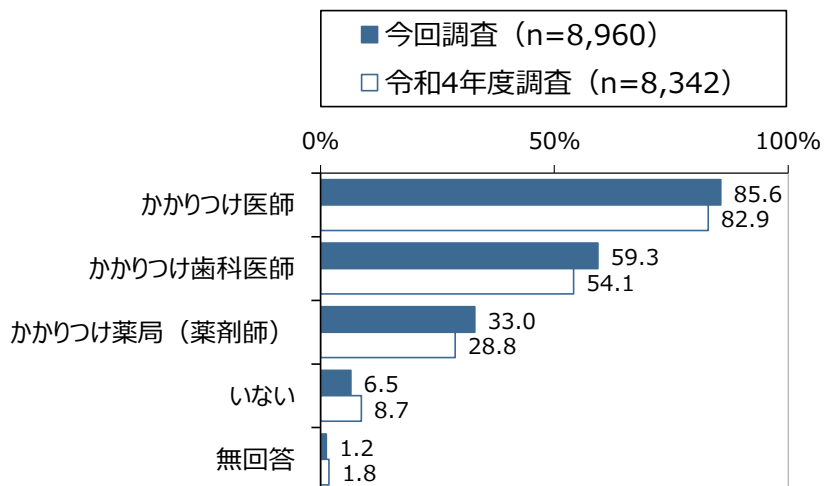
(3) かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師がいるか

問 1 (3)	定期的に通っていたり、必要な時に診療や相談しようと思う、かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいますか（○はいくつでも）
------------	---

かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師がいるかについては、「かかりつけ医師」が 85.6%で最も高く、次いで「かかりつけ歯科医師」が 59.3%、「かかりつけ薬局（薬剤師）」が 33.0%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、『かかりつけがある』がすべての項目で増加しています。

図表 2-2-11 かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師がいるか



認定状況別で見ると、「いない」では、一般高齢者が 7.1%で、要支援認定者（2.1%）よりも 5.0 ポイント高い状況です。

性別で見ると、「いない」では、男性が 7.4%、女性が 5.8%です。

年齢階級別で見ると、「いない」では、年齢階級が下がるにつれて概ね割合が増加しており、65～69 歳が 10.0%で最も高い状況です。

区域別で見ると、「いない」では、中区が 7.2%で最も高い状況です。

図表 2-2-12 かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師がいるか 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	かかりつけ医師	かかりつけ歯科医師	（かかりつけ薬剤師）	いない	無回答
全体		8,960	85.6	59.3	33.0	6.5	1.2
認定別	一般高齢者	7,869	84.5	59.7	31.1	7.1	1.2
	要支援認定者	1,057	94.2	56.2	46.5	2.1	1.9
性別	男性	3,939	85.8	53.7	28.8	7.4	1.4
	女性	4,987	85.5	63.7	36.2	5.8	1.1
年齢階級別	65～69歳	1,713	79.3	58.8	27.0	10.0	0.7
	70～74歳	2,050	83.7	58.4	30.3	7.5	0.8
	75～79歳	2,489	87.2	61.3	34.0	5.9	1.0
	80～84歳	1,658	89.2	60.6	38.2	3.8	1.9
	85～89歳	791	89.9	56.3	35.8	4.4	2.7
	90歳以上	225	92.0	48.0	41.8	4.0	2.2
区域別	堺区	1,604	84.9	59.6	35.3	6.5	1.5
	中区	1,244	85.9	57.3	31.4	7.2	1.8
	東区	908	85.8	61.5	29.1	5.2	1.7
	西区	1,289	86.7	59.7	37.0	5.7	1.4
	南区	1,775	84.9	60.8	29.0	7.1	0.7
	北区	1,665	85.8	58.4	34.8	6.7	0.8
	美原区	441	86.6	54.9	33.8	6.6	1.1

※網掛け■は最も割合が高いもの

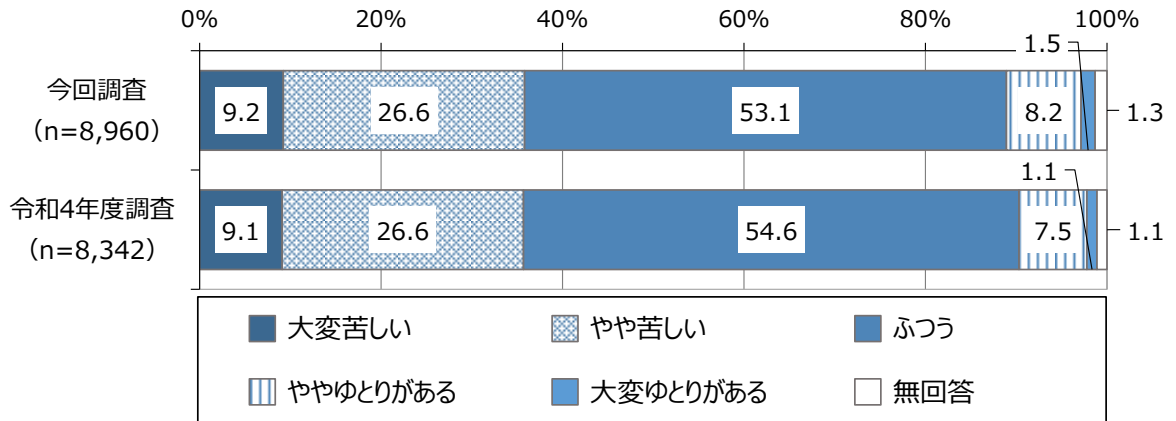
(4) 現在の暮らしの経済的状況

問 1 (4)	現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (○はひとつ)
------------	-----------------------------------

現在の暮らしの経済的状況については、「ふつう」が 53.1%で最も高く、次いで「やや苦しい」が 26.6%、「大変苦しい」が 9.2%と続いています。

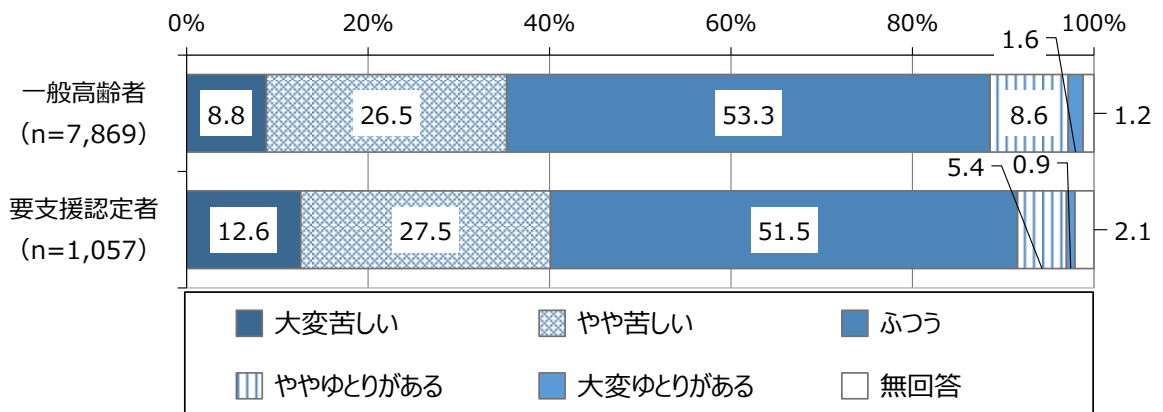
令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-2-13 現在の暮らしの経済的状況



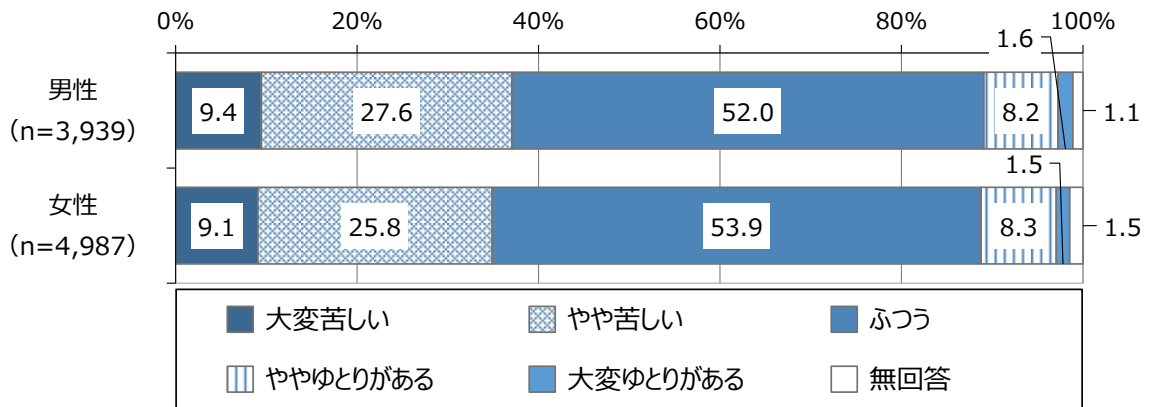
認定状況別でみると、『苦しい』（「大変苦しい」と「やや苦しい」の合計）では、一般高齢者が 35.3%、要支援認定者が 40.1%です。

図表 2-2-14 現在の暮らしの経済的状況 認定状況別



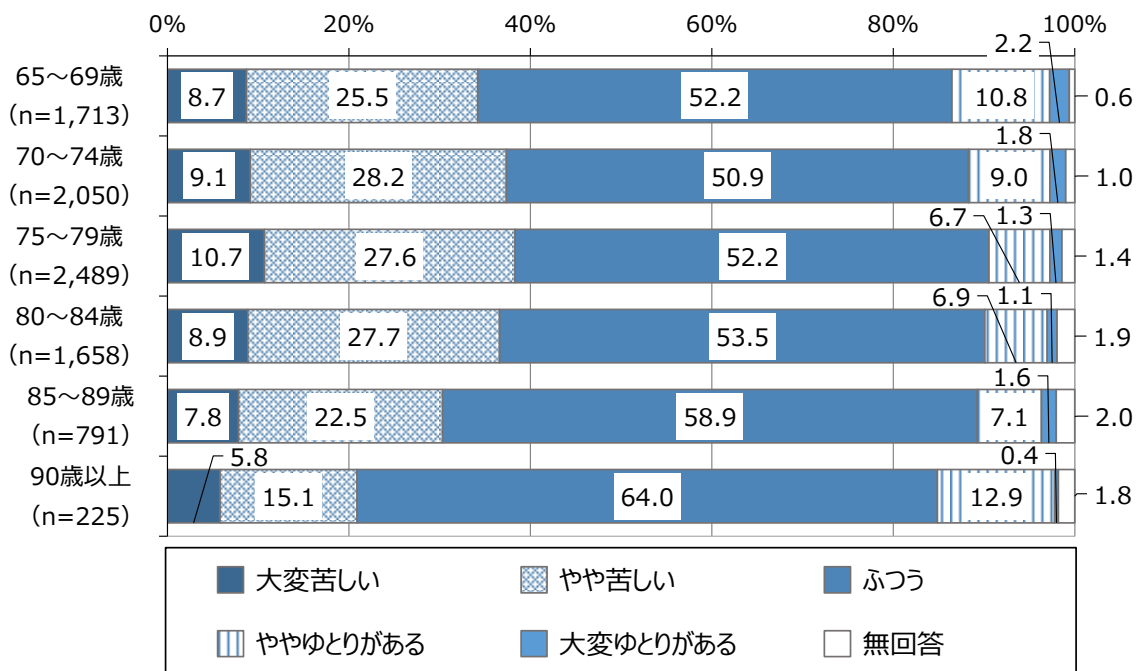
性別でみると、『苦しい』では、男性が 37.0%、女性が 34.9%です。

図表 2-2-15 現在の暮らしの経済的状況 性別

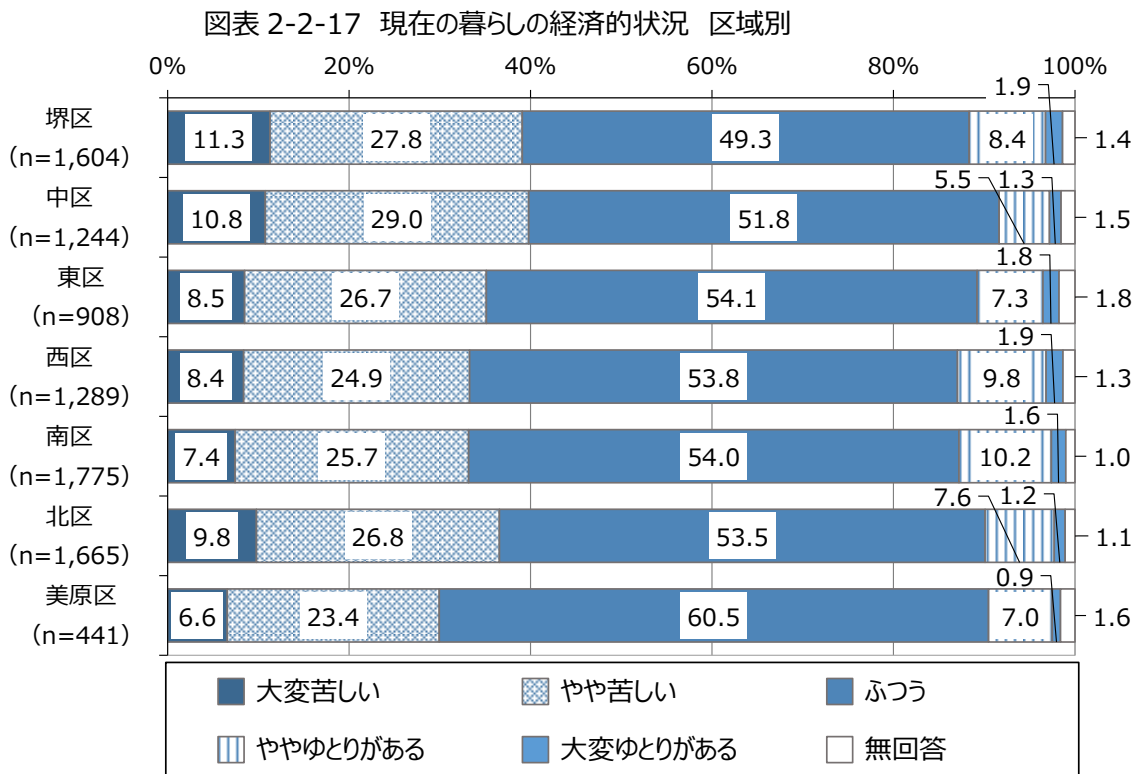


年齢階級別でみると、『苦しい』では、75～79歳が 38.3%で最も高い状況です。

図表 2-2-16 現在の暮らしの経済的状況 年齢階級別



区域別でみると、『苦しい』では、中区が39.8%で最も高い状況です。



3 からだを動かすことについて

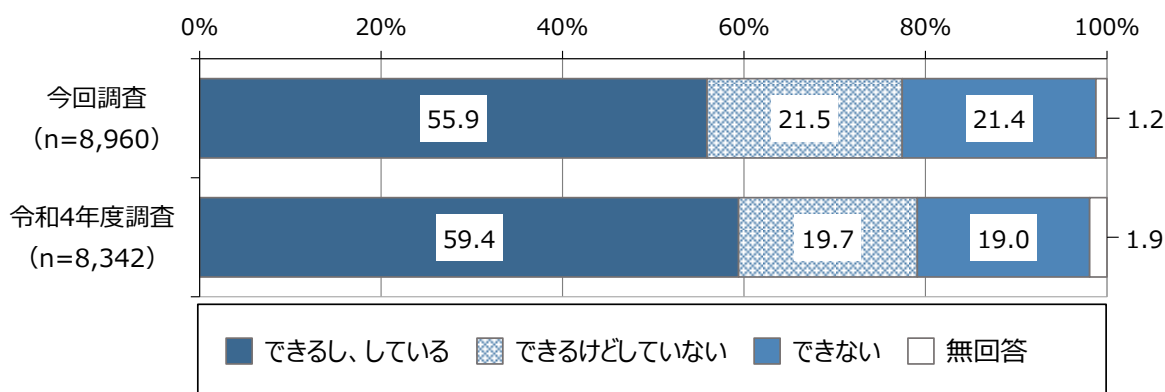
(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか

問 2 (1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか（○はひとつ）
------------	------------------------------

階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについては、「できるし、している」が 55.9%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が 21.5%、「できない」が 21.4%です。

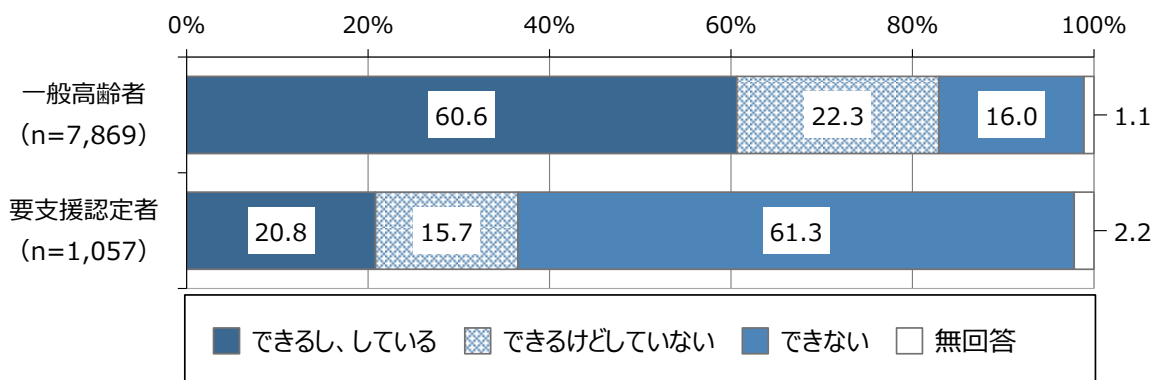
令和 4（2022）年度調査と比較すると、「できるし、している」（55.9%）では、令和 4（2022）年度調査（59.4%）より 3.5 ポイント減少しています。

図表 2-3-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか



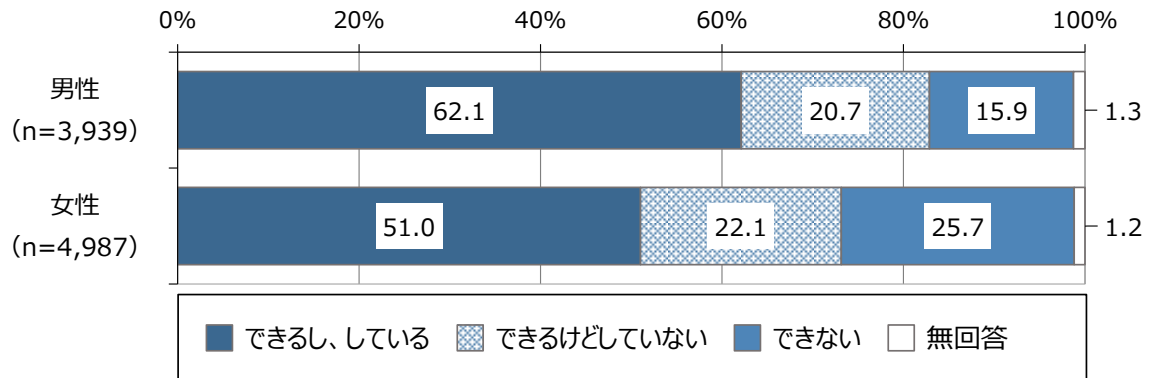
認定状況別でみると、一般高齢者では「できるし、している」が 60.6%で最も高く、要支援認定者では「できない」が 61.3%で最も高い割合を占めています。

図表 2-3-2 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか 認定状況別



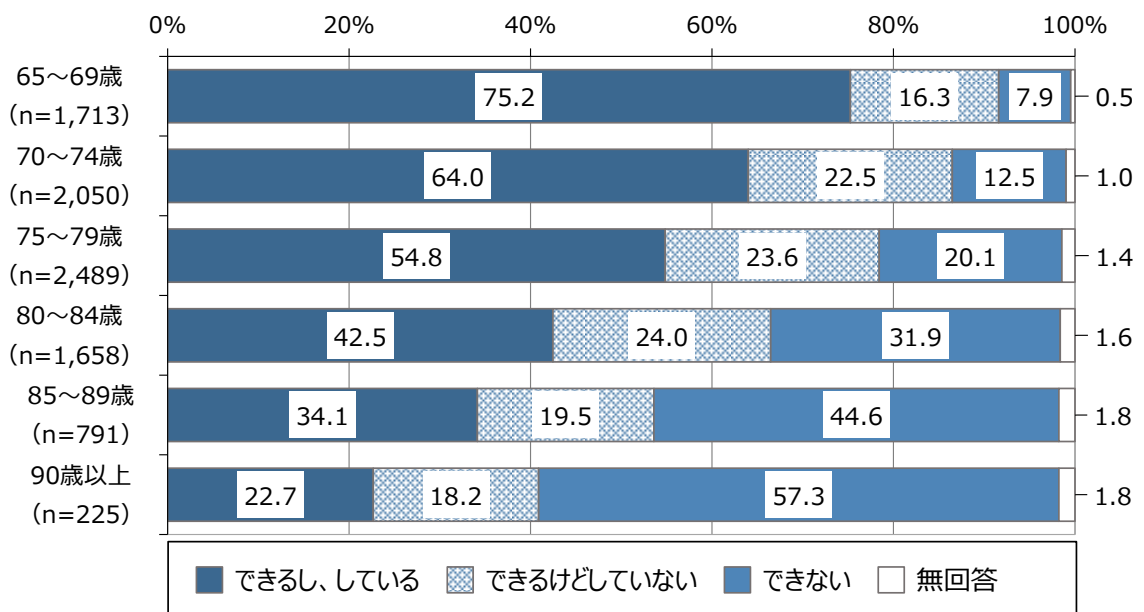
性別でみると、「できるし、している」では、男性が 62.1%で、女性（51.0%）より 11.1 ポイント高い状況です。

図表 2-3-3 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか 性別



年齢階級別でみると、「できない」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90 歳以上が 57.3%で最も高い状況です。

図表 2-3-4 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか 年齢階級別



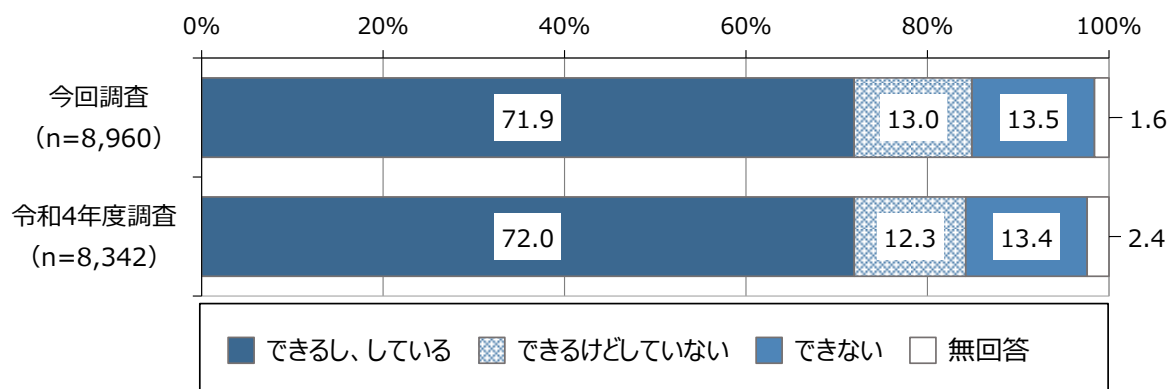
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか

問 2 (2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (○はひとつ)
------------	--------------------------------------

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについては、「できるし、している」が71.9%で最も高く、次いで「できない」が13.5%、「できるけどしていない」が13.0%です。

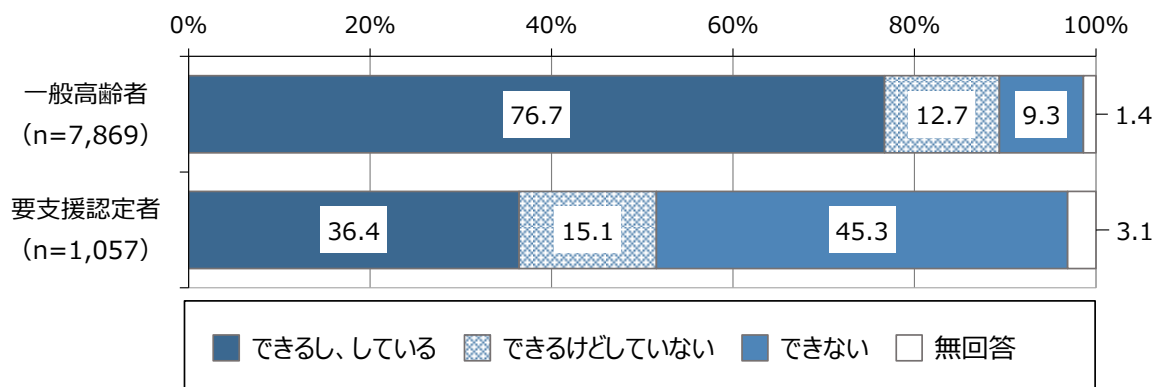
令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-3-5 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか



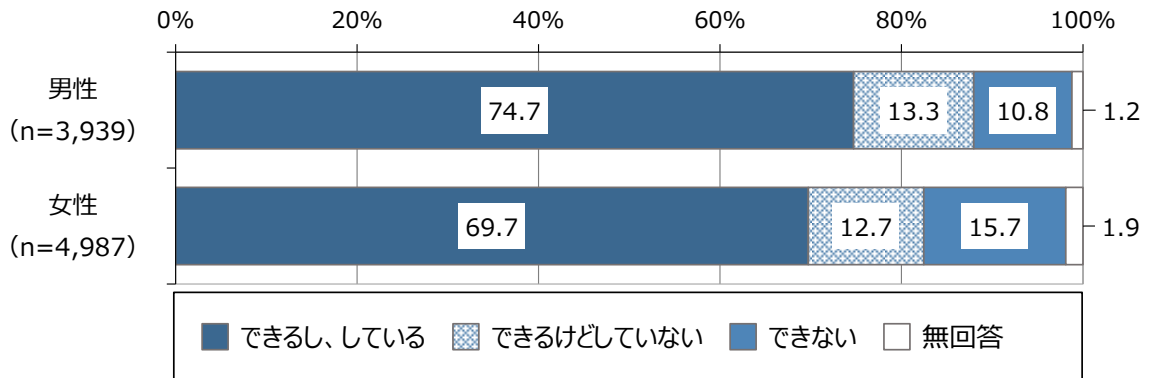
認定状況別で見ると、一般高齢者では「できるし、している」が76.7%で最も高く、要支援認定者では「できない」が45.3%で最も高い割合を占めています。

図表 2-3-6 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか 認定状況別



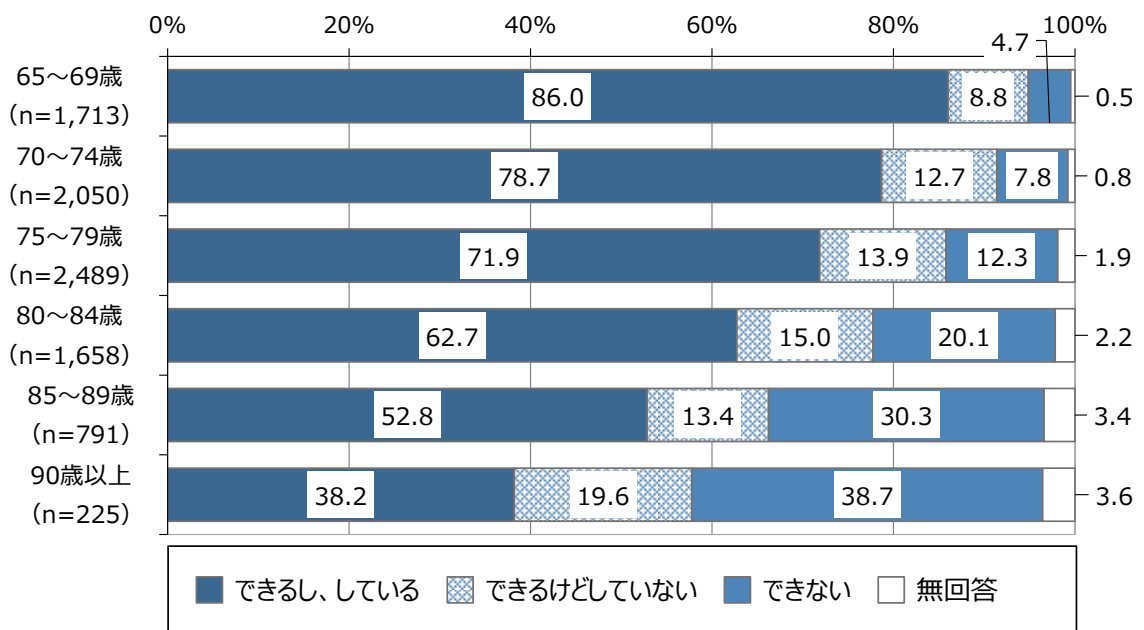
性別でみると、「できるし、している」では、男性が 74.7%で、女性（69.7%）より 5.0 ポイント高い状況です。

図表 2-3-7 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか 性別



年齢階級別でみると、「できない」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90 歳以上が 38.7%で最も高い状況です。

図表 2-3-8 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか 年齢階級別



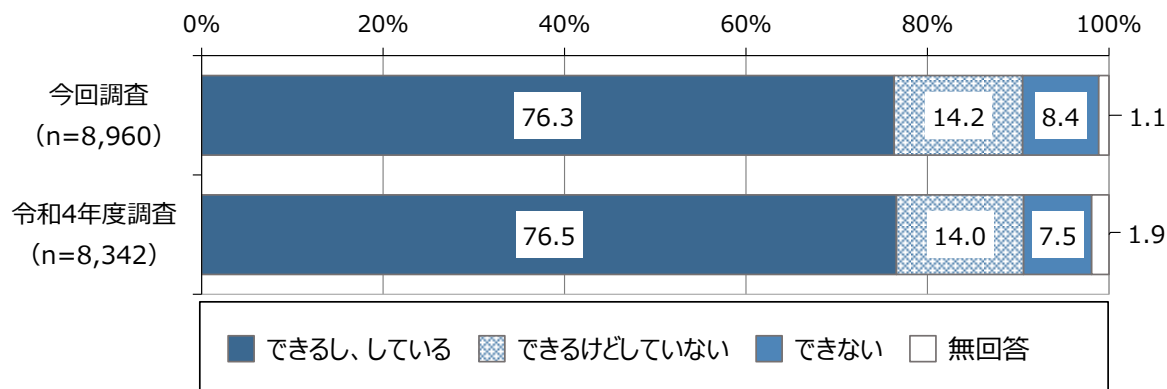
(3) 15分位続けて歩いているか

問2 (3)	15分位続けて歩いていますか（○はひとつ）
-----------	-----------------------

15分位続けて歩いているかについては、「できるし、している」が76.3%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が14.2%、「できない」が8.4%です。

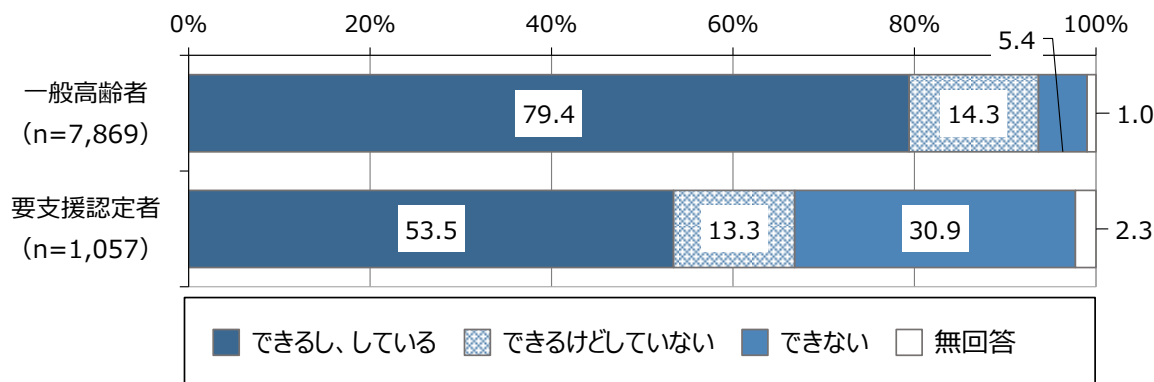
令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-3-9 15分位続けて歩いているか



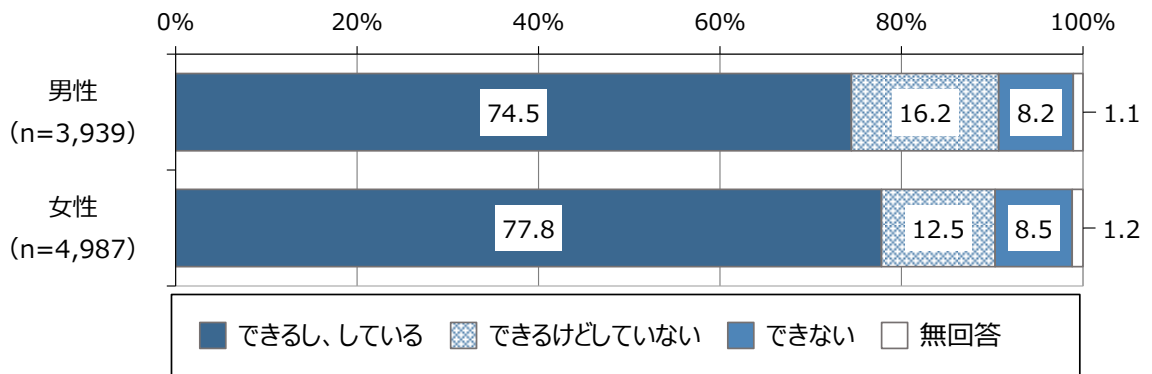
認定状況別でみると、「できるし、している」では、一般高齢者が79.4%、要支援認定者が53.5%です。

図表 2-3-10 15分位続けて歩いているか 認定状況別



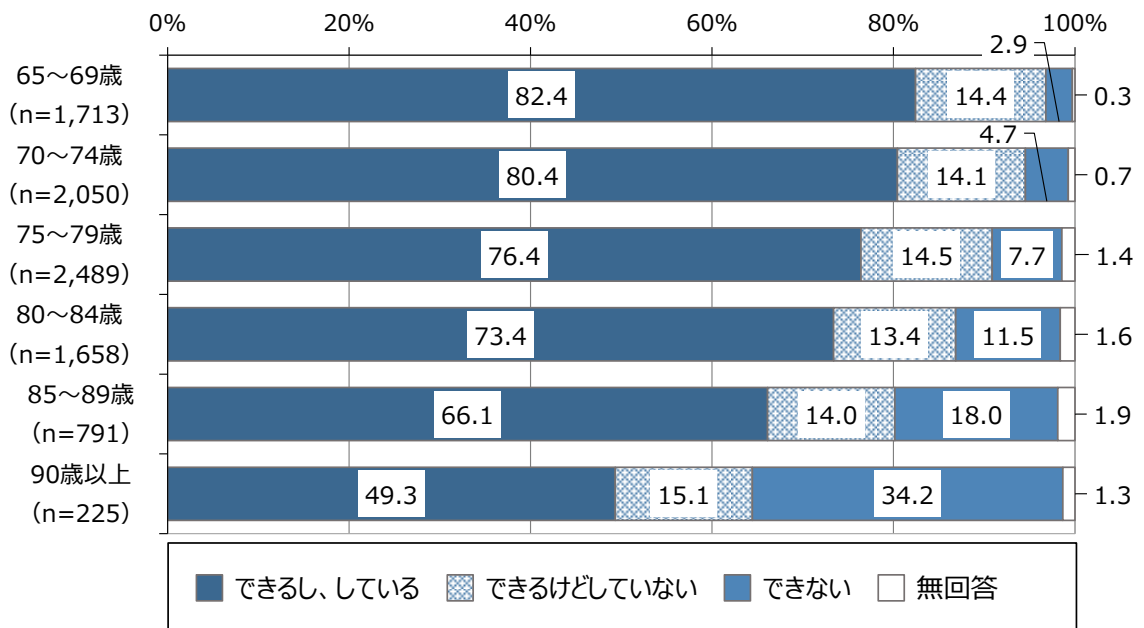
性別でみると、「できるし、している」では、男性が74.5%、女性が77.8%です。

図表 2-3-11 15分位続けて歩いているか 性別



年齢階級別でみると、「できない」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が34.2%で最も高い状況です。

図表 2-3-12 15分位続けて歩いているか 年齢階級別



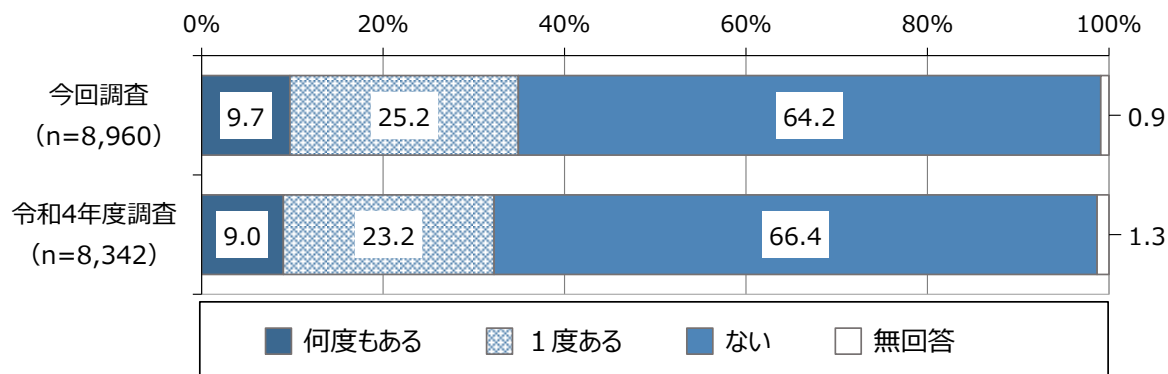
(4) 過去 1 年間に転んだ経験があるか

問 2 (4)	過去 1 年間に転んだ経験がありますか (○はひとつ)
------------	-----------------------------

過去 1 年間に転んだ経験があるかについては、「ない」が 64.2%で最も高く、次いで「1 度ある」が 25.2%、「何度もある」が 9.7%です。

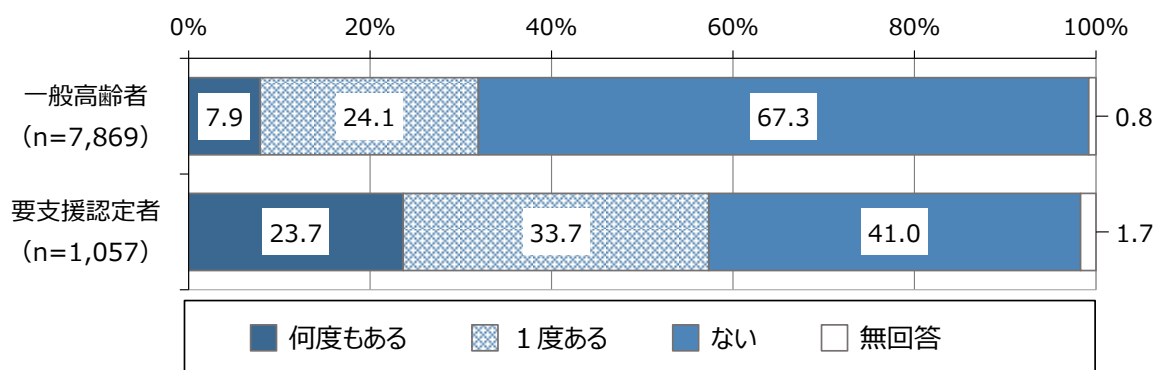
令和 4 (2022) 年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-3-13 過去 1 年間に転んだ経験があるか



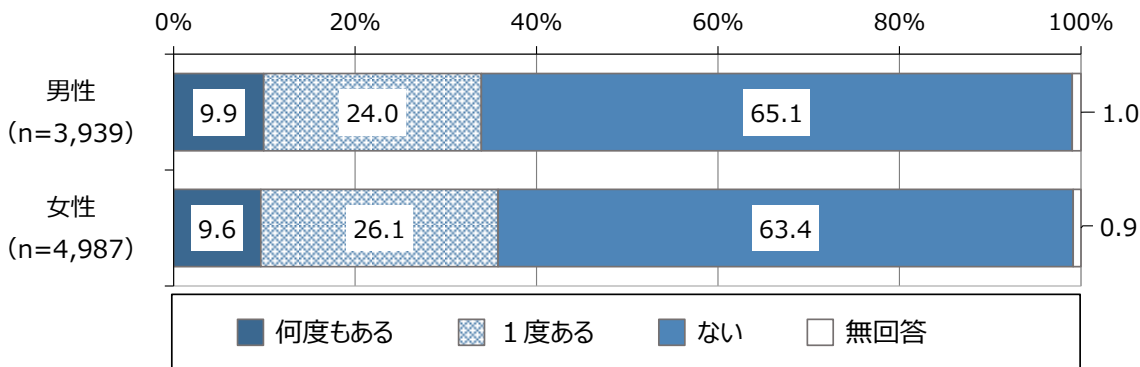
認定状況別でみると、「何度もある」では、一般高齢者が 7.9%、要支援認定者が 23.7%です。

図表 2-3-14 過去 1 年間に転んだ経験があるか 認定状況別



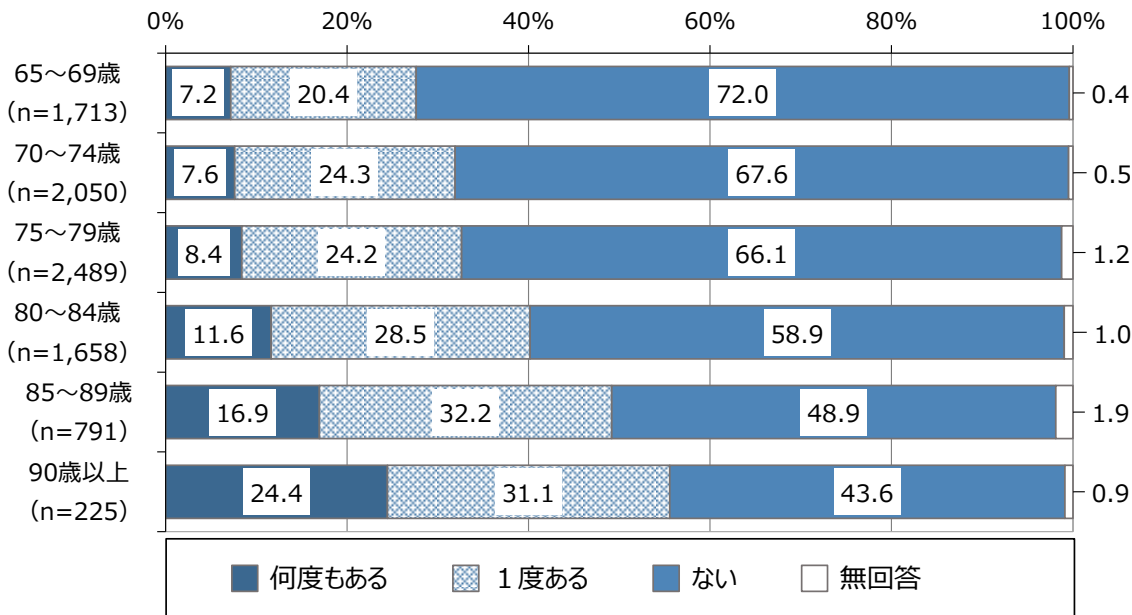
性別でみると、「何度もある」では、男性が9.9%、女性が9.6%です。

図表 2-3-15 過去1年間に転んだ経験があるか 性別



年齢階級別でみると、「何度もある」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が24.4%で最も高い状況です。

図表 2-3-16 過去1年間に転んだ経験があるか 年齢階級別



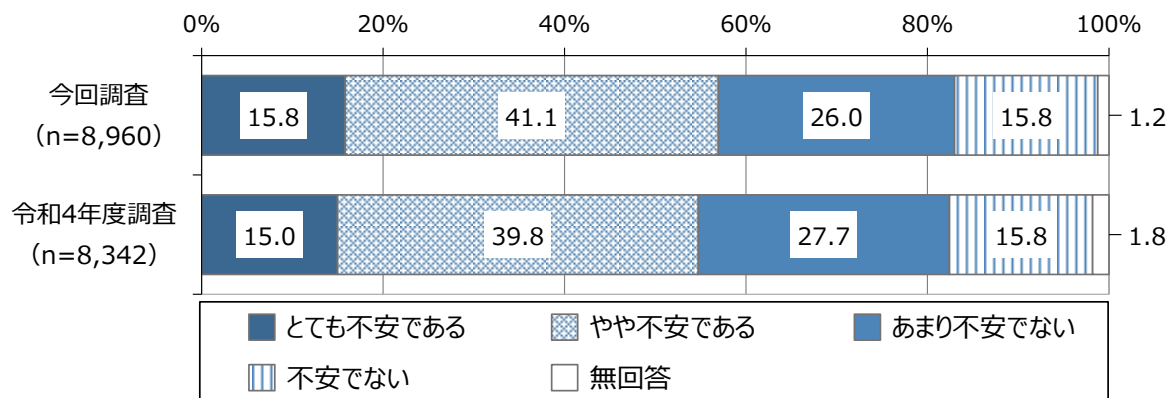
(5) 転倒に対する不安は大きいか

問 2 (5)	転倒に対する不安は大きいですか (○はひとつ)
------------	-------------------------

転倒に対する不安は大きいかについては、「やや不安である」が 41.1%で最も高く、次いで「あまり不安でない」が 26.0%、「とても不安である」が 15.8%と続いています。

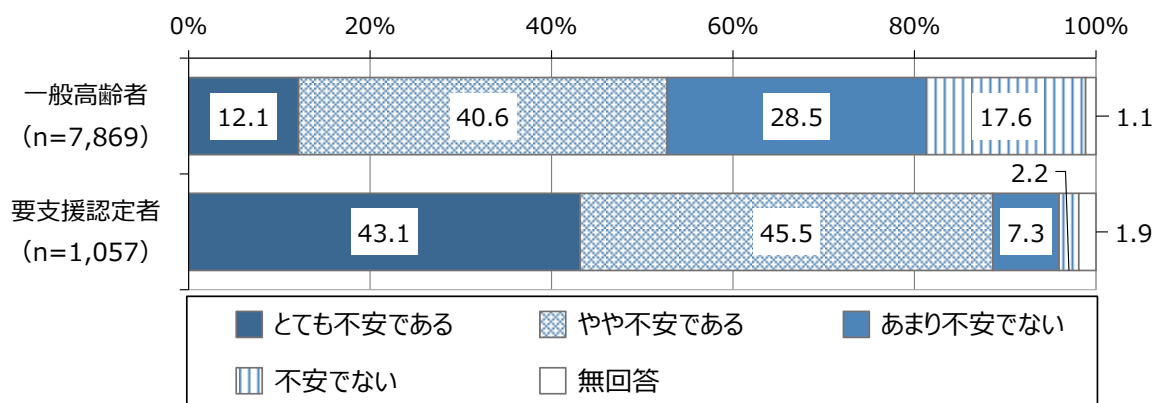
令和 4 (2022) 年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-3-17 転倒に対する不安は大きいか



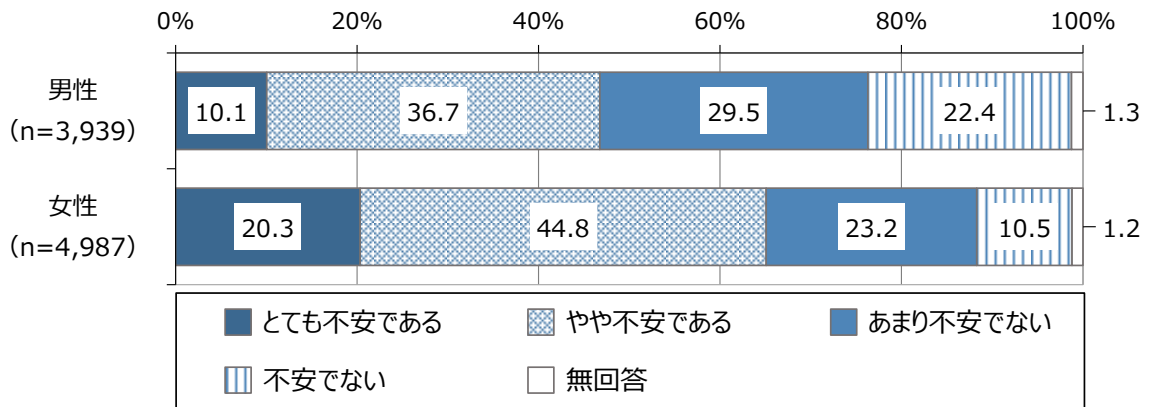
認定状況別でみると、『不安である』（「とても不安である」と「やや不安である」の合計）では、一般高齢者が 52.7%、要支援認定者が 88.6%です。

図表 2-3-18 転倒に対する不安は大きいか 認定状況別



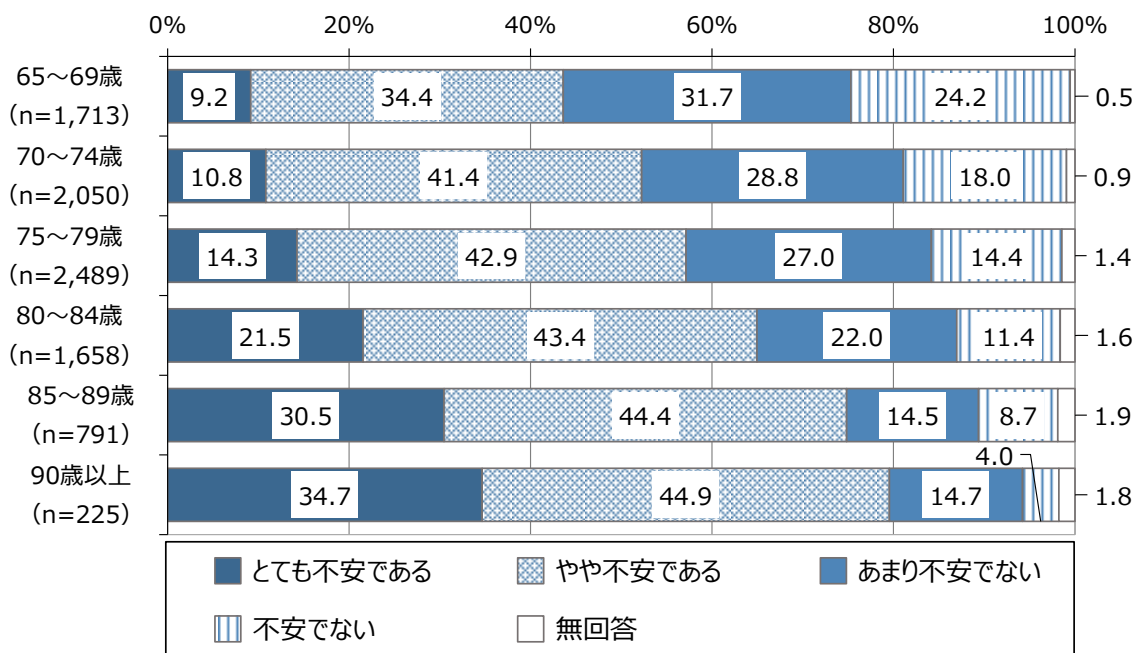
性別でみると、『不安である』では、女性が65.1%で、男性（46.8%）より18.3ポイント高い状況です。

図表 2-3-19 転倒に対する不安は大きいか 性別



年齢階級別でみると、『不安である』では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が79.6%で最も高い状況です。

図表 2-3-20 転倒に対する不安は大きいか 年齢階級別



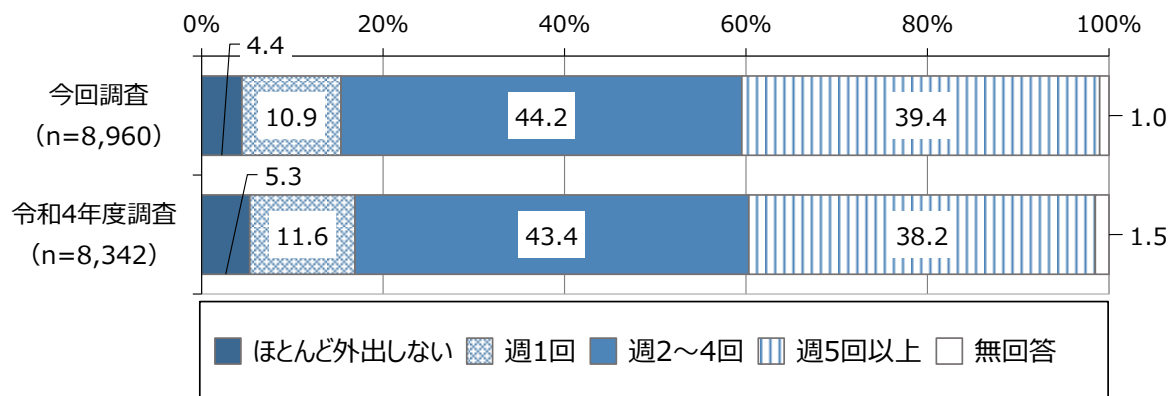
(6) 週に1回以上は外出しているか

問2 (6)	週に1回以上は外出していますか（○はひとつ）
-----------	------------------------

週に1回以上は外出しているかについては、「週2～4回」が44.2%で最も高く、次いで「週5回以上」が39.4%、「週1回」が10.9%と続いています。

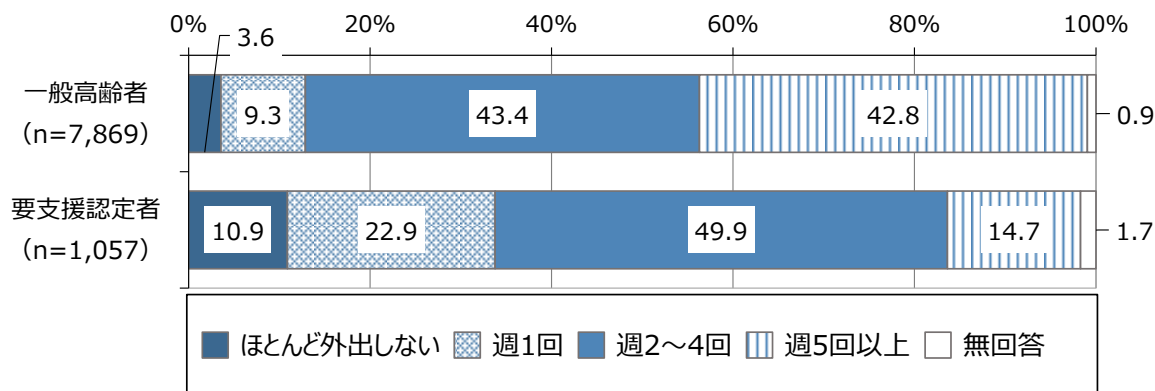
令和4（2022）年度調査と比較すると、「ほとんど外出しない」がわずかに減少しました。

図表 2-3-21 週に1回以上は外出しているか



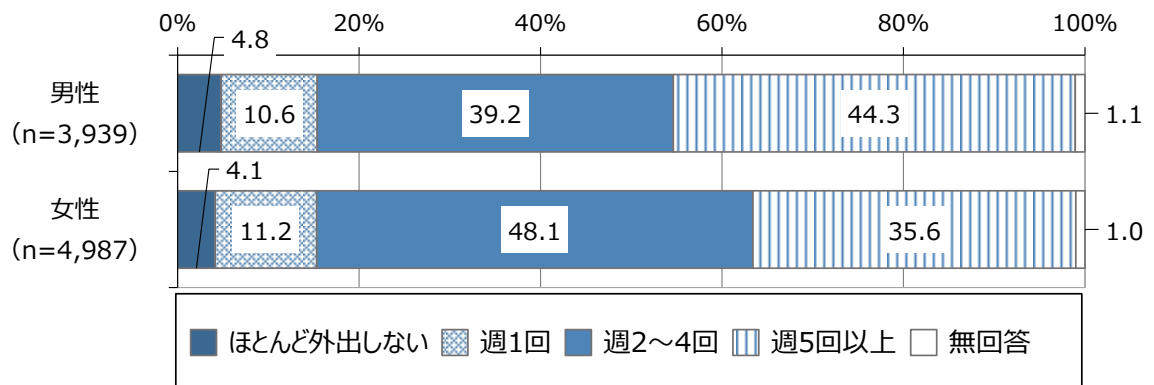
認定状況別でみると、「ほとんど外出しない」では、一般高齢者が3.6%、要支援認定者が10.9%です。

図表 2-3-22 週に1回以上は外出しているか 認定状況別



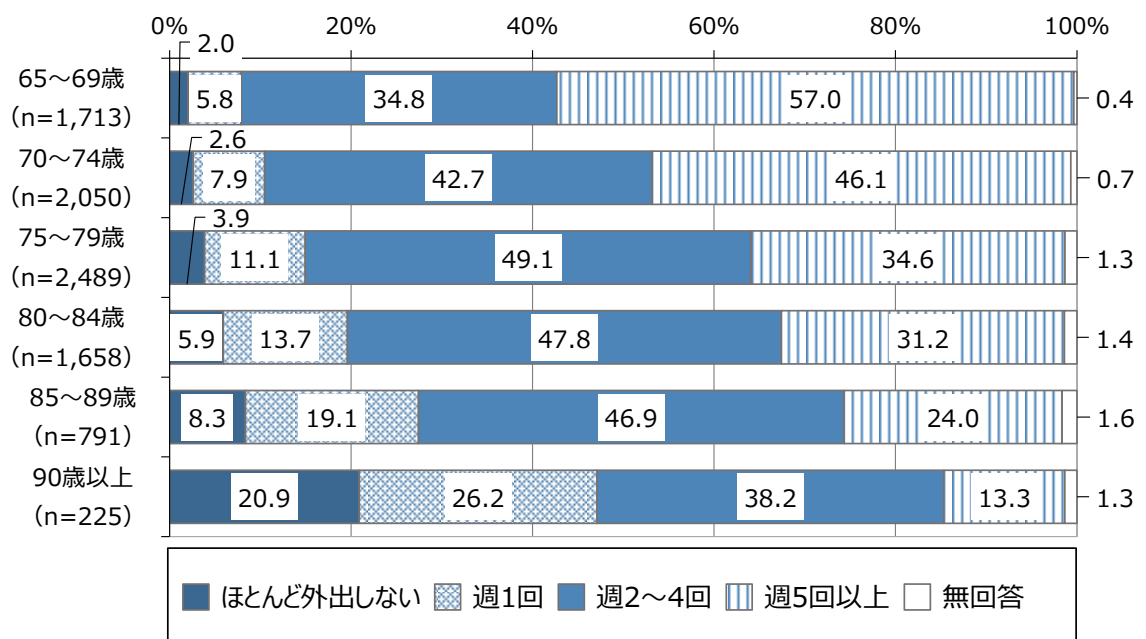
性別でみると、男性では「週5回以上」が44.3%で最も高く、女性では「週2～4回」が48.1%で最も高い割合を占めています。

図表 2-3-23 週に1回以上は外出しているか 性別



年齢階級別でみると、「ほとんど外出しない」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が20.9%で最も高い状況です。

図表 2-3-24 週に1回以上は外出しているか 年齢階級別



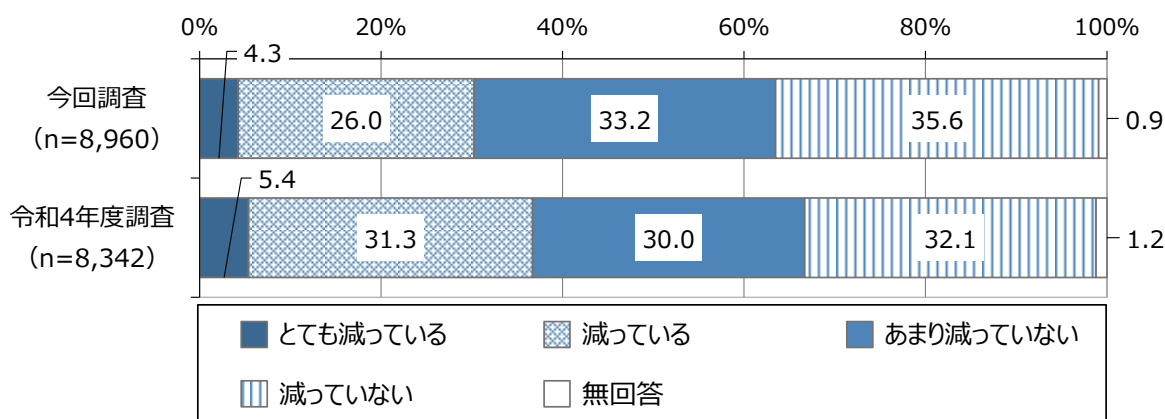
(7) 昨年と比べて外出の回数が減っているか

問 2 (7)	昨年と比べて外出の回数が減っていますか（○はひとつ）
------------	----------------------------

昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、「減っていない」が 35.6%で最も高く、次いで「あまり減っていない」が 33.2%、「減っている」が 26.0%と続いています。

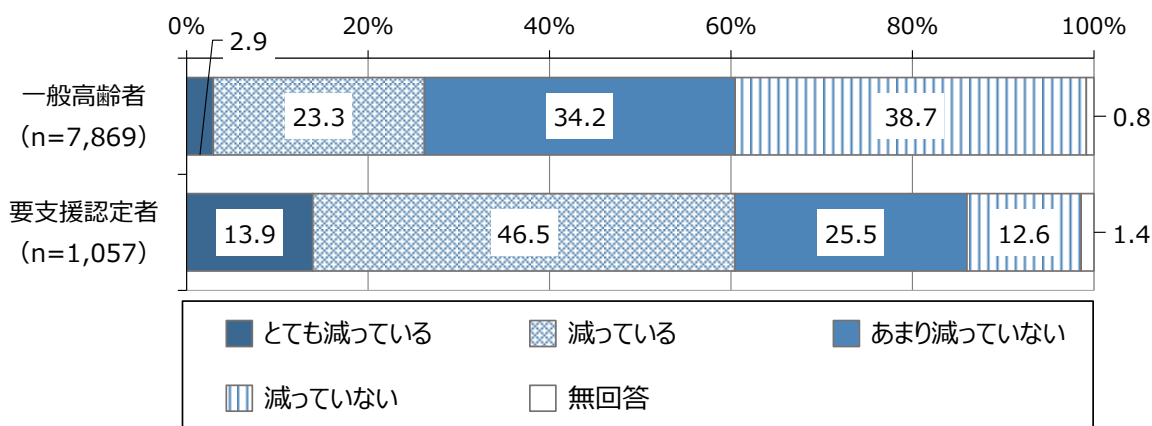
令和 4（2022）年度調査と比較すると、『減っていない』（「あまり減っていない」と「減っていない」の合計）（68.8%）では、令和 4（2022）年度調査（62.1%）より 6.7 ポイント増加しています。

図表 2-3-25 昨年と比べて外出の回数が減っているか



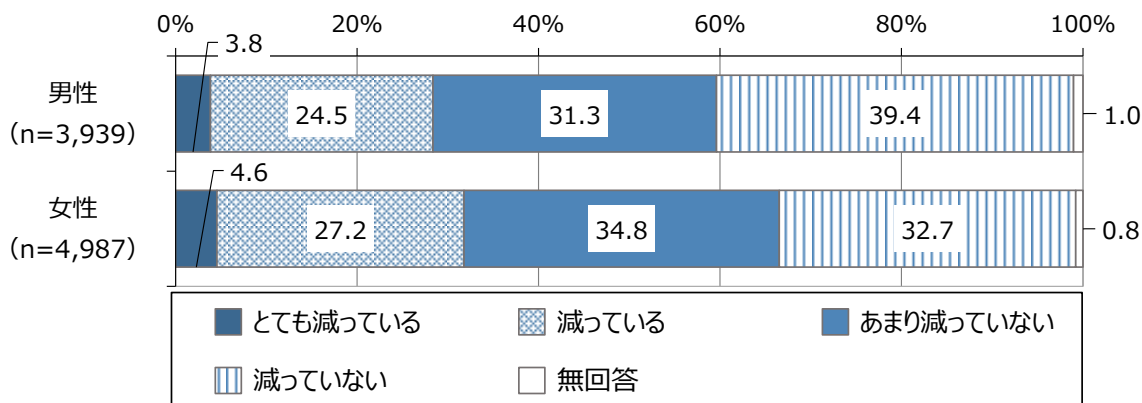
認定状況別でみると、『減っている』（「とても減っている」と「減っている」の合計）では、一般高齢者が 26.2%、要支援認定者が 60.4%です。

図表 2-3-26 昨年と比べて外出の回数が減っているか 認定状況別



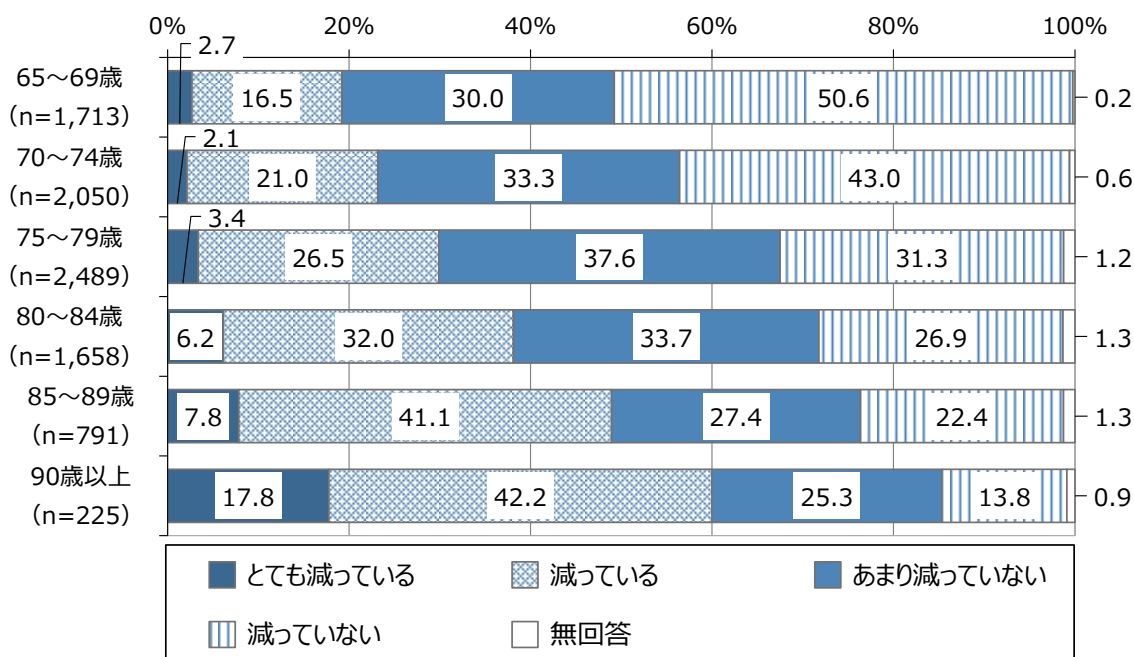
性別でみると、男性では「減っていない」が 39.4%で最も高く、女性では「あまり減っていない」が 34.8%で最も高い割合を占めています。

図表 2-3-27 昨年と比べて外出の回数が減っているか 性別



年齢階級別でみると、『減っている』では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が 60.0%で最も高い状況です。

図表 2-3-28 昨年と比べて外出の回数が減っているか 年齢階級別

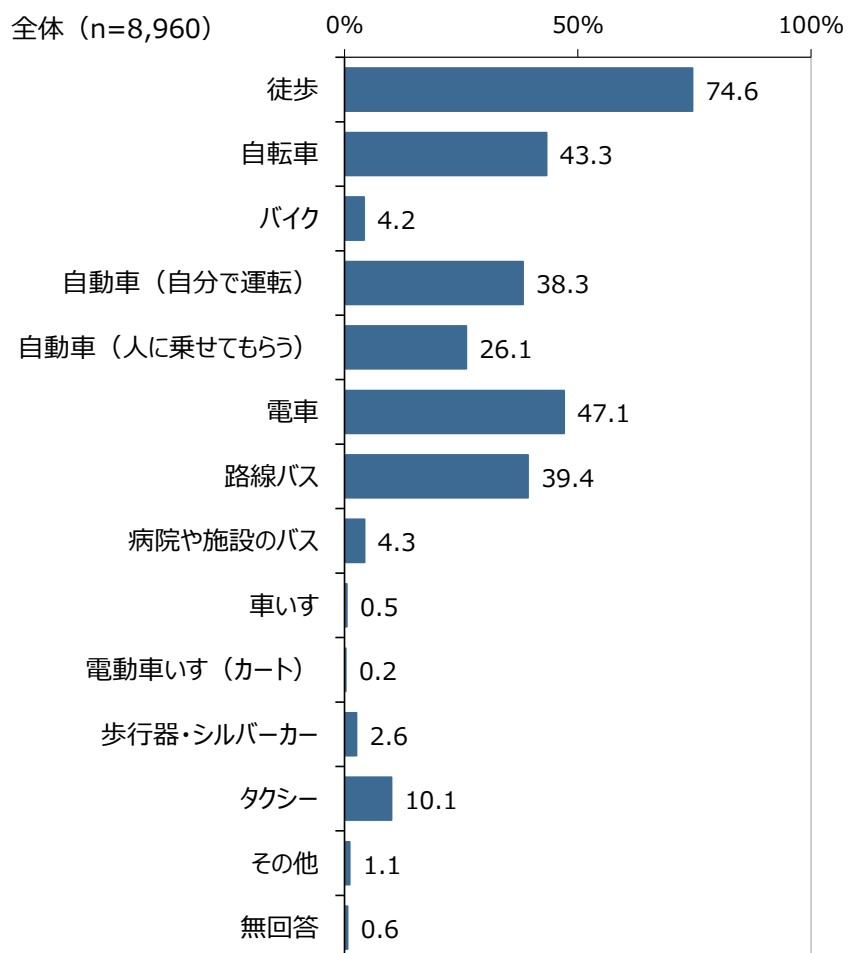


(8) 外出する際の移動手段

問 2 (8)	外出する際の移動手段は何ですか (○はいくつでも)
------------	---------------------------

外出する際の移動手段については、「徒歩」が 74.6%で最も高く、次いで「電車」が 47.1%、「自転車」が 43.3%と続いています。

図表 2-3-29 外出する際の移動手段



認定状況別で見ると、一般高齢者、要支援認定者いずれも「徒歩」の割合が最も高い状況です。

性別で見ると、「自動車（自分で運転）」では、男性が58.0%で、女性（22.6%）より35.4ポイント高い状況です。

年齢階級別で見ると、「自動車（自分で運転）」では、年齢階級が上がるにつれて割合が減少しており、90歳以上が4.4%で最も低い状況です。

区域別で見ると、「自動車（自分で運転）」では、美原区が55.1%で最も高い状況です。

図表 2-3-30 外出する際の移動手段 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	徒歩	自 転 車	バ イ ク	で 自 動 車 （ 自 分	う 乗 自 動 車 （ 人 に	電 車	路 線 バ ス	バ ス 院 や 施 設 の	車 い す	電 動 車 い す （ カ ー ト ）	単位：実数（人）、構成比（%）									
												合計	徒歩	自 転 車	バ イ ク	で 自 動 車 （ 自 分	う 乗 自 動 車 （ 人 に	電 車	路 線 バ ス	バ ス 院 や 施 設 の	車 い す
全体	8,960	74.6	43.3	4.2	38.3	26.1	47.1	39.4	4.3	0.5	0.2										
認 定 別	一般高齢者	7,869	76.4	46.2	4.6	41.9	24.9	49.4	39.5	2.9	0.2	0.0									
	要支援認定者	1,057	61.3	21.9	1.4	10.7	35.4	29.0	37.8	14.5	2.8	1.9									
性 別	男性	3,939	73.7	45.5	5.3	58.0	13.9	46.1	33.8	3.6	0.4	0.2									
	女性	4,987	75.3	41.6	3.3	22.6	35.8	47.8	43.7	4.8	0.6	0.3									
年 齢 階 級 別	65～69歳	1,713	77.3	49.3	6.7	56.1	25.3	57.5	34.1	1.6	0.2	0.2									
	70～74歳	2,050	76.3	46.8	5.4	48.5	24.3	51.4	38.1	2.7	0.2	0.1									
	75～79歳	2,489	75.4	47.0	3.7	38.1	26.1	46.7	43.0	3.9	0.4	0.0									
	80～84歳	1,658	72.7	38.9	2.7	24.1	25.0	41.4	42.2	6.5	0.5	0.5									
	85～89歳	791	70.2	26.0	1.6	12.6	31.9	33.2	40.1	8.2	1.5	0.4									
	90歳以上	225	58.7	18.7	0.4	4.4	38.7	21.8	26.2	12.0	2.7	1.8									
区 域 別	堺区	1,604	77.6	55.4	2.4	32.5	22.5	48.2	38.0	2.9	0.4	0.2									
	中区	1,244	68.5	42.8	7.5	44.6	30.3	39.0	41.4	4.8	0.6	0.2									
	東区	908	77.2	49.1	3.3	34.8	27.0	55.3	31.2	5.7	0.6	0.0									
	西区	1,289	74.1	49.9	3.9	37.5	27.6	48.6	36.0	3.1	0.5	0.2									
	南区	1,775	76.8	15.9	5.1	43.8	26.6	47.4	50.9	7.9	0.2	0.2									
	北区	1,665	76.6	55.9	2.5	31.1	24.2	49.5	33.6	2.2	0.8	0.5									
	美原区	441	60.5	32.9	7.0	55.1	27.4	32.7	40.1	1.6	0.7	0.0									
	合計		バ 歩 行 カ 器 ・ シ ル	タ ク シ 	そ の 他	無 回 答															
全体	8,960	2.6	10.1	1.1	0.6																
認 定 別	一般高齢者	7,869	0.8	7.8	0.7	0.6															
	要支援認定者	1,057	15.5	27.1	3.8	1.1															
性 別	男性	3,939	0.8	7.9	0.5	0.9															
	女性	4,987	4.0	11.8	1.6	0.4															
年 齢 別	65～69歳	1,713	0.2	4.4	0.5	0.2															
	70～74歳	2,050	0.6	6.5	0.6	0.3															
	75～79歳	2,489	1.3	8.8	0.8	0.7															
	80～84歳	1,658	4.3	14.3	2.0	1.1															
	85～89歳	791	9.7	21.6	2.3	0.8															
	90歳以上	225	13.8	27.1	2.2	1.8															
区 域 別	堺区	1,604	2.7	10.6	1.2	0.8															
	中区	1,244	3.0	8.2	0.7	0.9															
	東区	908	2.1	10.1	1.0	0.9															
	西区	1,289	2.5	10.9	1.3	0.9															
	南区	1,775	1.4	8.5	1.2	0.2															
	北区	1,665	3.8	13.0	1.4	0.4															
	美原区	441	2.3	5.9	0.0	0.5															

※網掛け■は最も割合が高いもの

4 食べることについて

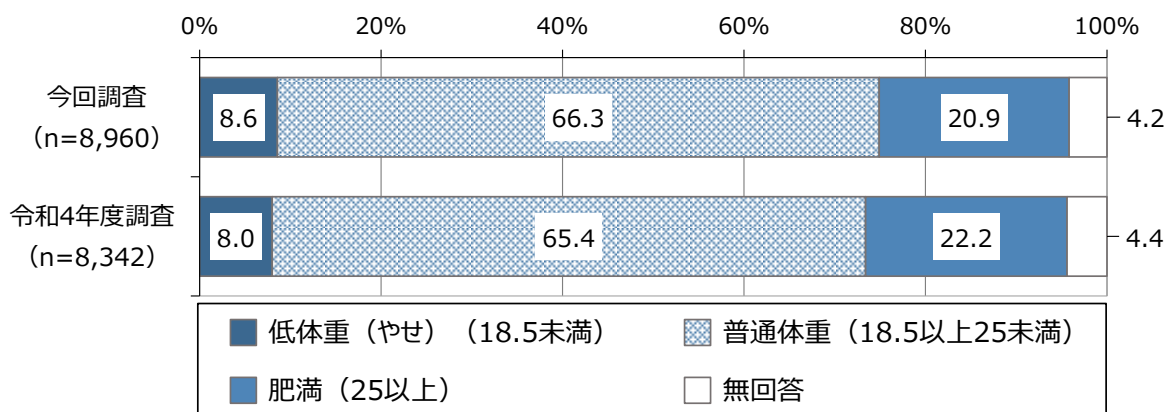
(1) BMI

問3 (1)	身長・体重を教えてください（数字を記入） ※おおよその数値で結構です。
-----------	-------------------------------------

BMI（身長・体重より算出）については、「普通体重（18.5以上25未満）」が66.3%で最も高く、次いで「肥満（25以上）」が20.9%、「低体重（やせ）（18.5未満）」が8.6%です。

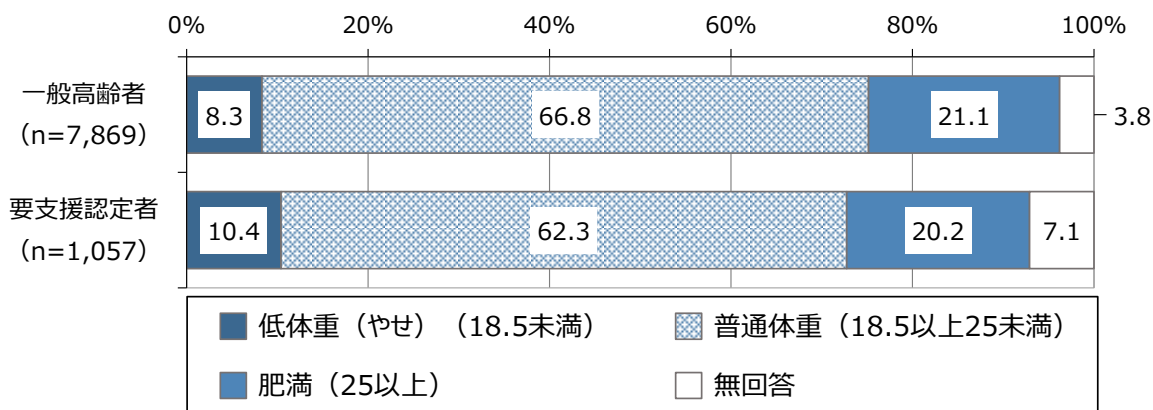
令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-4-1 BMI

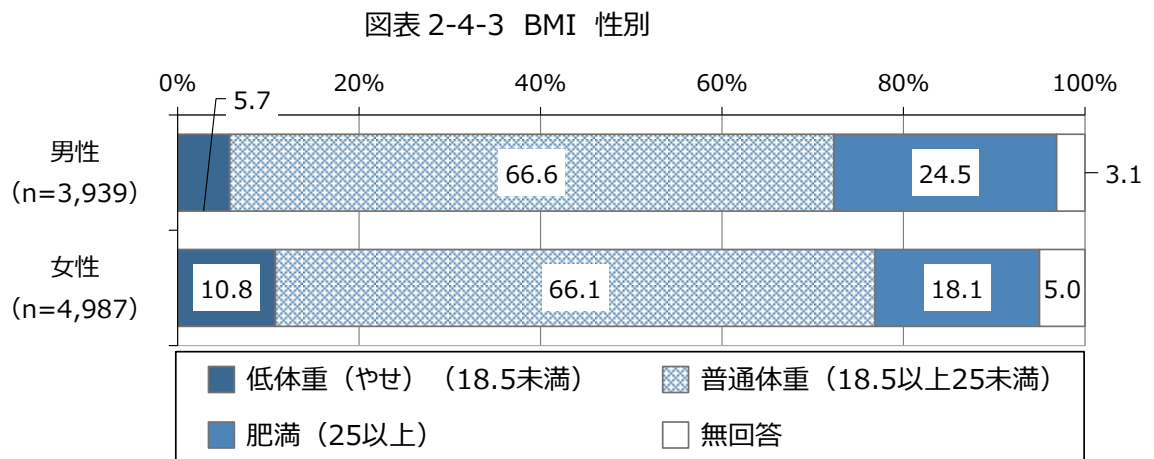


認定状況別でみると、「低体重（やせ）（18.5未満）」では、一般高齢者が8.3%、要支援認定者が10.4%です。

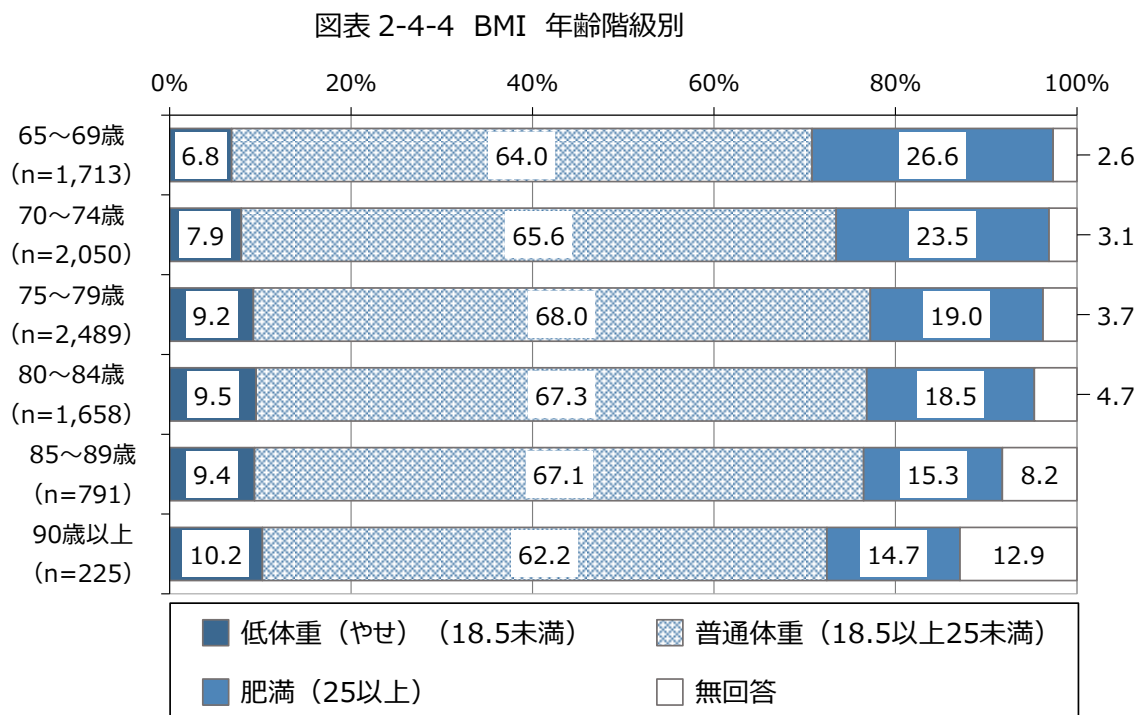
図表 2-4-2 BMI 認定状況別



性別でみると、「低体重（やせ）（18.5未満）」では、女性が10.8%で、男性（5.7%）より5.1ポイント高い状況です。



年齢階級別でみると、「低体重（やせ）（18.5未満）」では、年齢階級が上がるにつれて概ね割合が増加しており、90歳以上が10.2%で最も高い状況です。

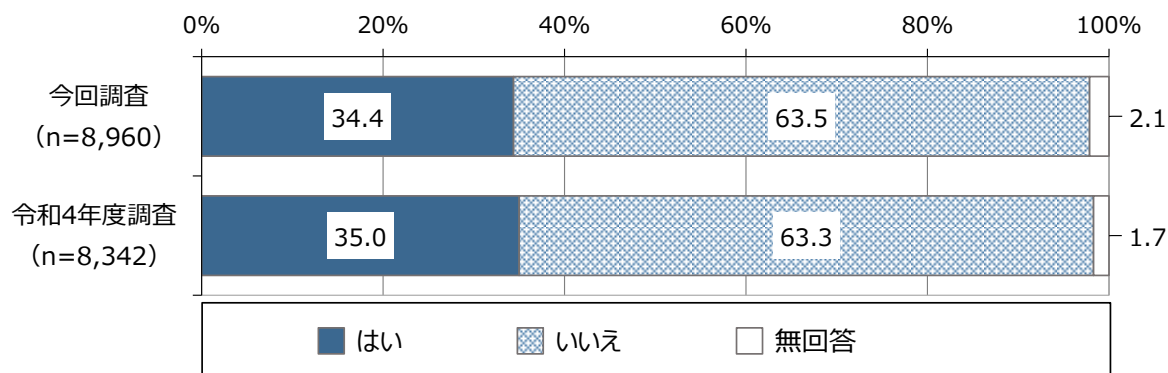


(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか

問3 (2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか（○はひとつ）
-----------	--------------------------------

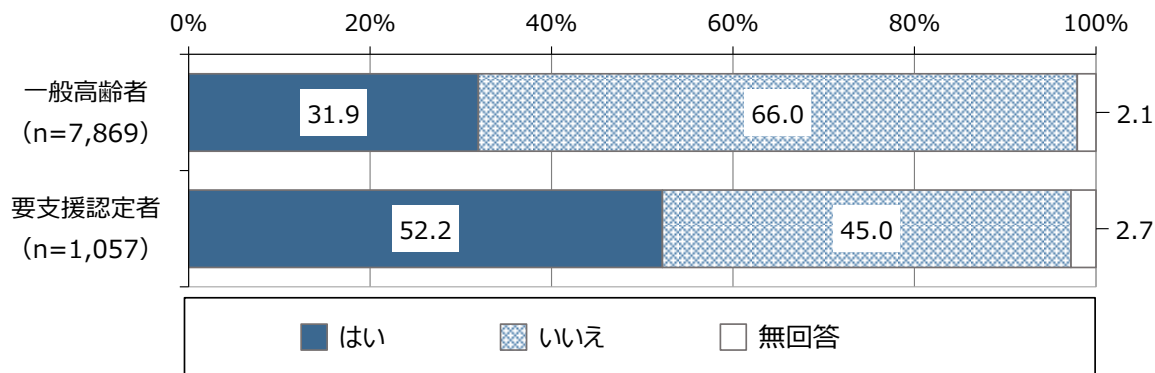
半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについては、「はい」が34.4%、「いいえ」が63.5%です。
令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-4-5 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか



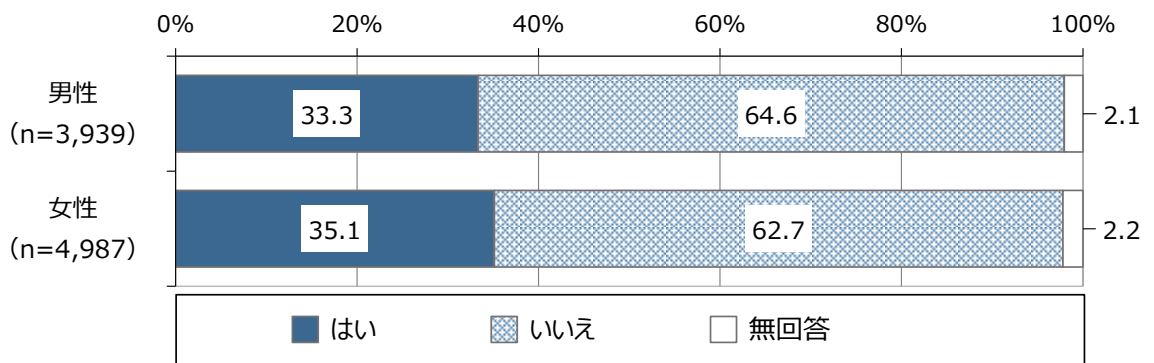
認定状況別で見ると、一般高齢者では「いいえ」が66.0%、要支援認定者では「はい」が52.2%です。

図表 2-4-6 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか 認定状況別



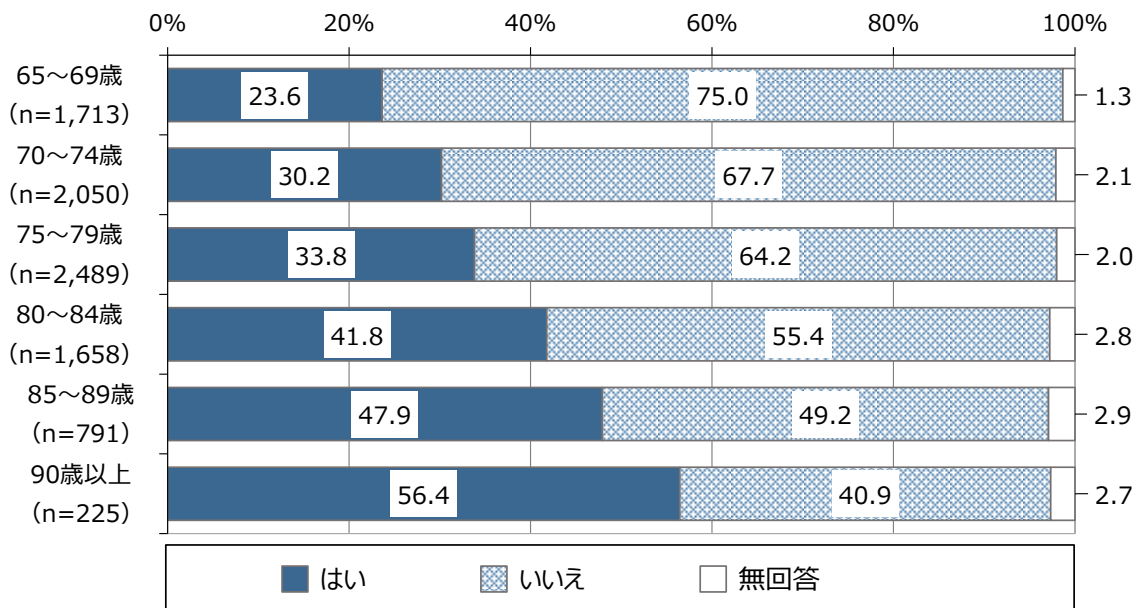
性別でみると、「はい」では、男性が 33.3%、女性が 35.1%です。

図表 2-4-7 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか 性別



年齢階級別でみると、「はい」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90 歳以上が 56.4%で最も高い状況です。

図表 2-4-8 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか 年齢階級別



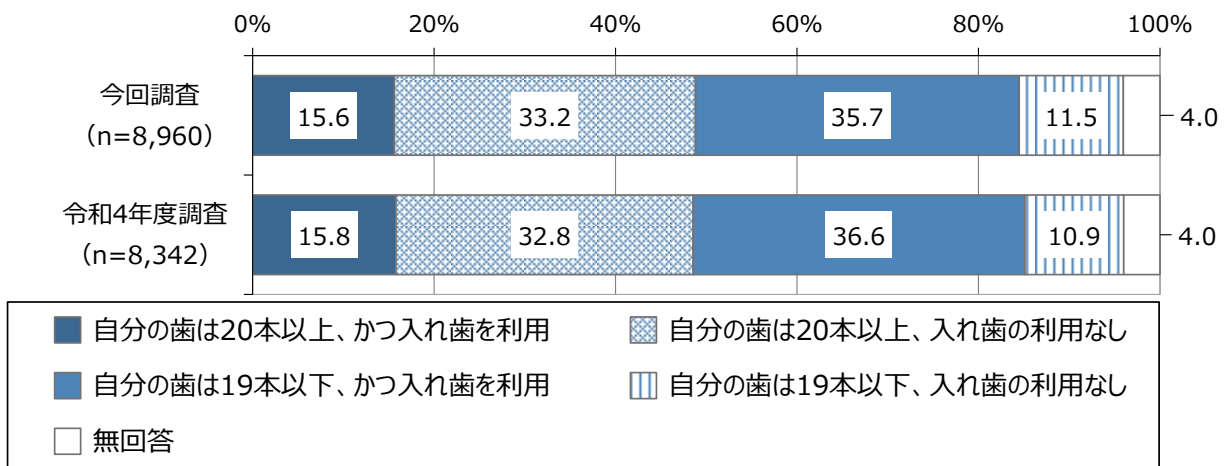
(3) 歯の数と入れ歯の利用状況

問 3 (3)	歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください（○はひとつ） （成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です）
------------	---

歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 35.7%で最も高く、次いで「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 33.2%、「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」が 15.6%と続いています。

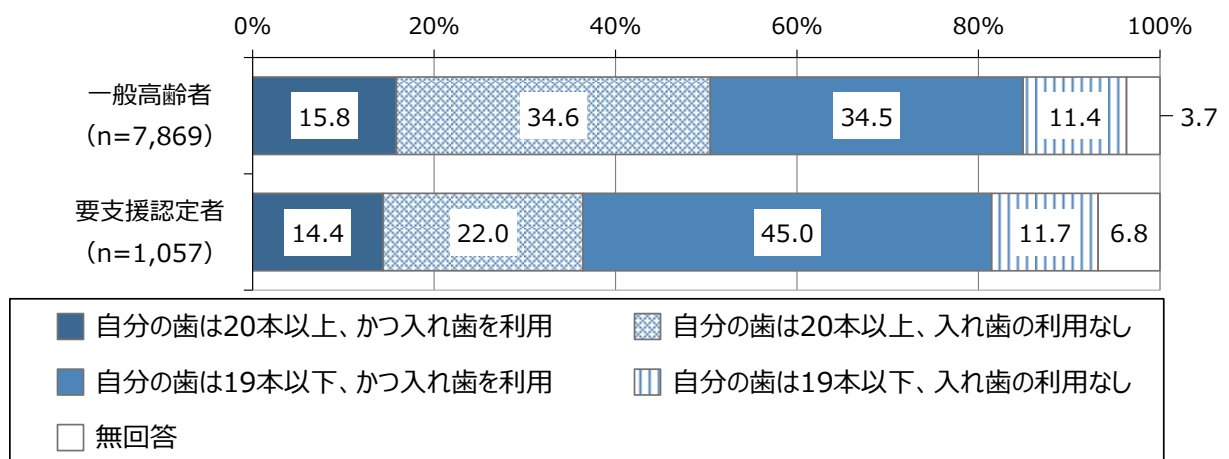
令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-4-9 歯の数と入れ歯の利用状況

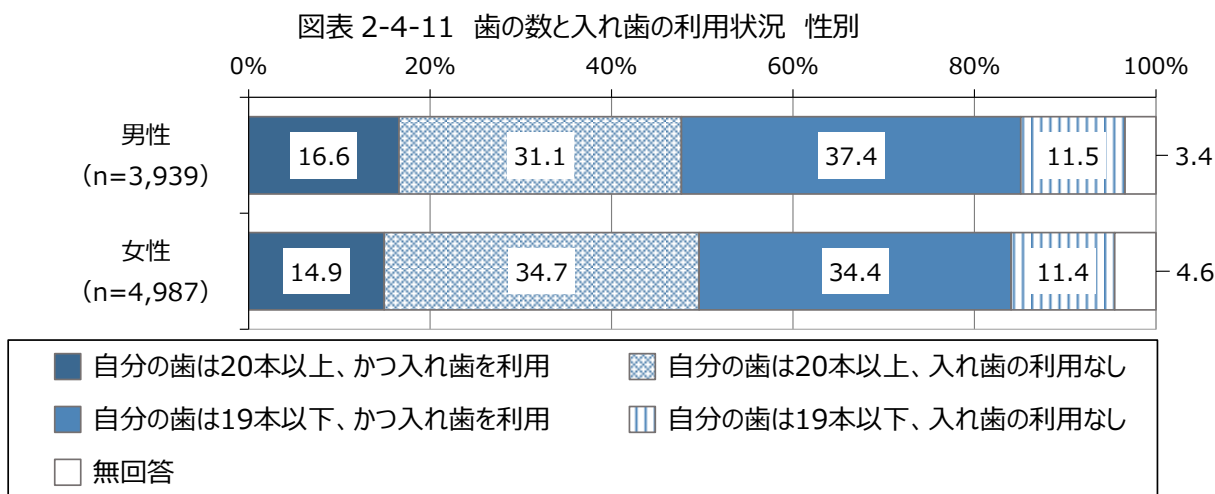


認定状況別でみると、一般高齢者では「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 34.6%で最も高く、要支援認定者では「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 45.0%で最も高い割合を占めています。

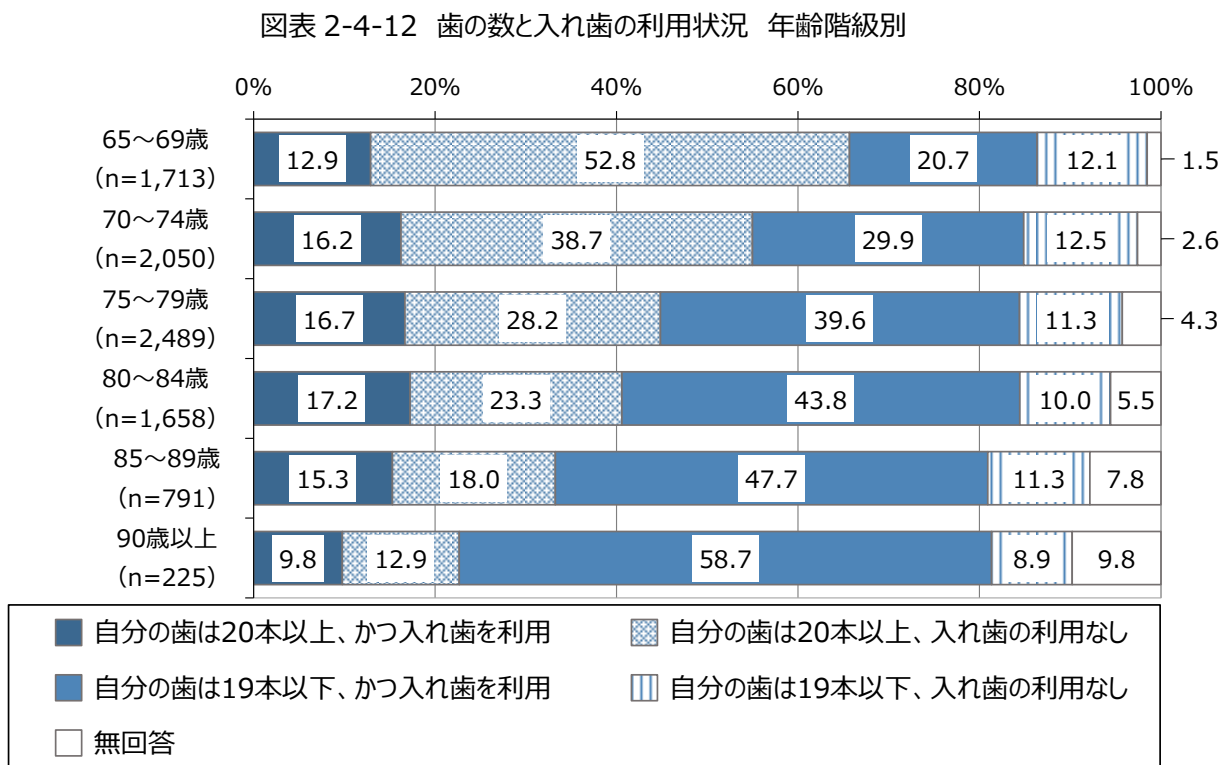
図表 2-4-10 歯の数と入れ歯の利用状況 認定状況別



性別でみると、男性では「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が37.4%で最も高く、女性では「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が34.7%で最も高い割合を占めています。



年齢階級別でみると、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が58.7%で最も高い状況です。



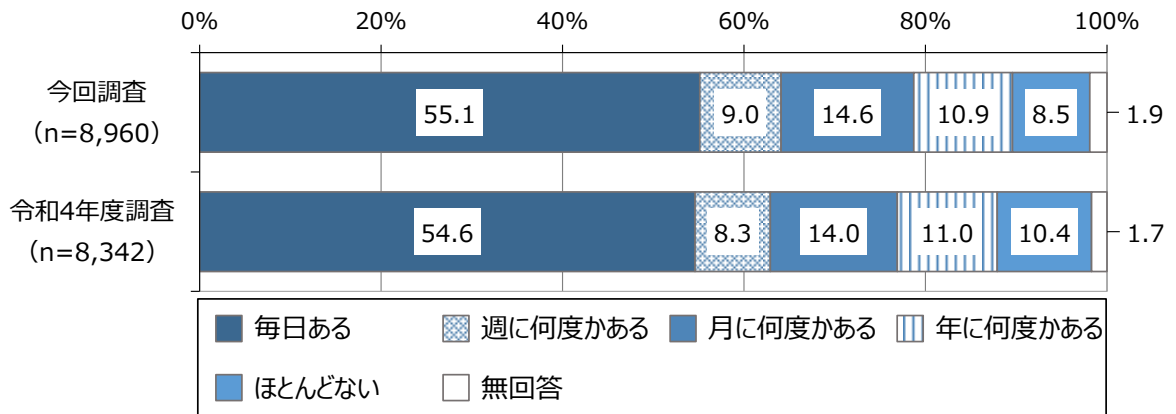
(4) 誰かと食事をとにもする機会があるか

問3 (4)	どなたかと食事をとにもする機会がありますか（○はひとつ）
-----------	------------------------------

誰かと食事をとにもする機会があるかについては、「毎日ある」が 55.1%で最も高く、次いで「月に何度かある」が 14.6%、「年に何度かある」が 10.9%と続いています。

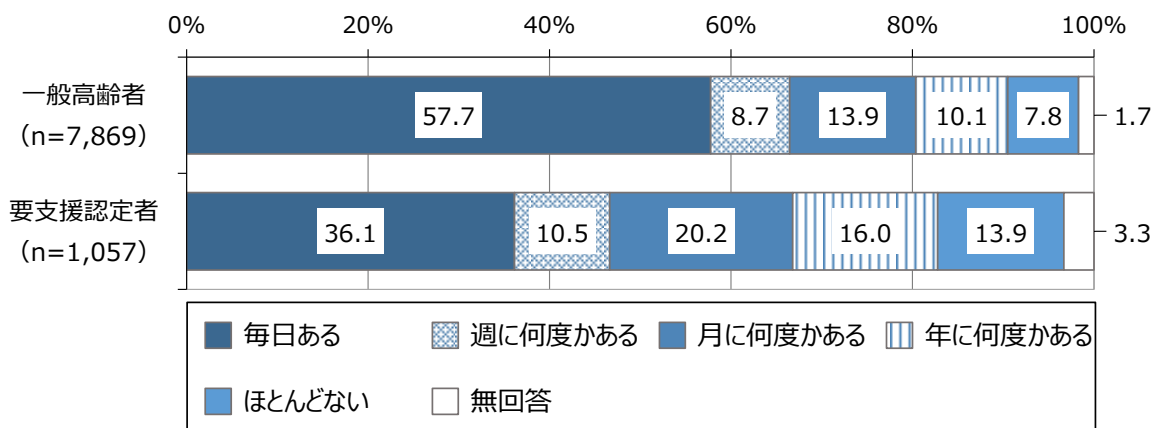
令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-4-13 誰かと食事をとにもする機会があるか



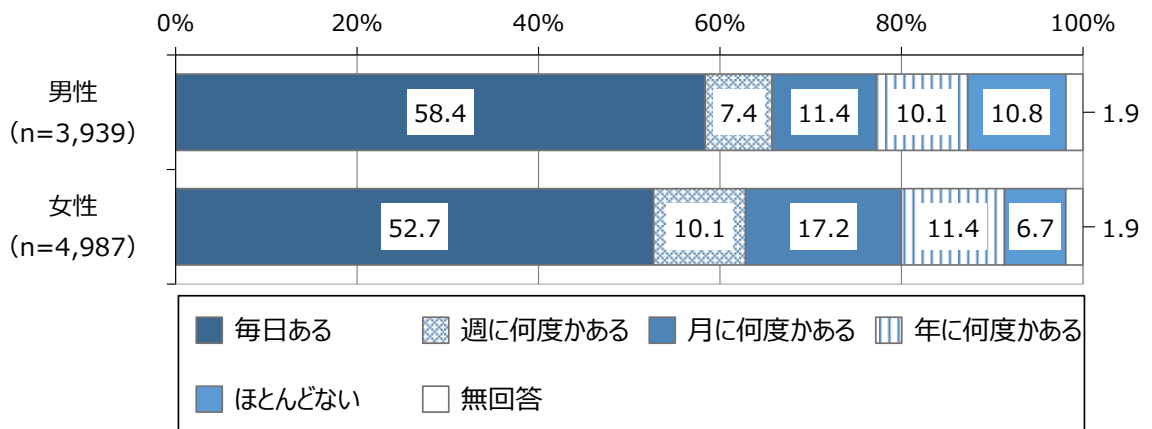
認定状況別でみると、「ほとんどない」では、要支援認定者が 13.9%で、一般高齢者（7.8%）より 6.1 ポイント高い状況です。

図表 2-4-14 誰かと食事をとにもする機会があるか 認定状況別



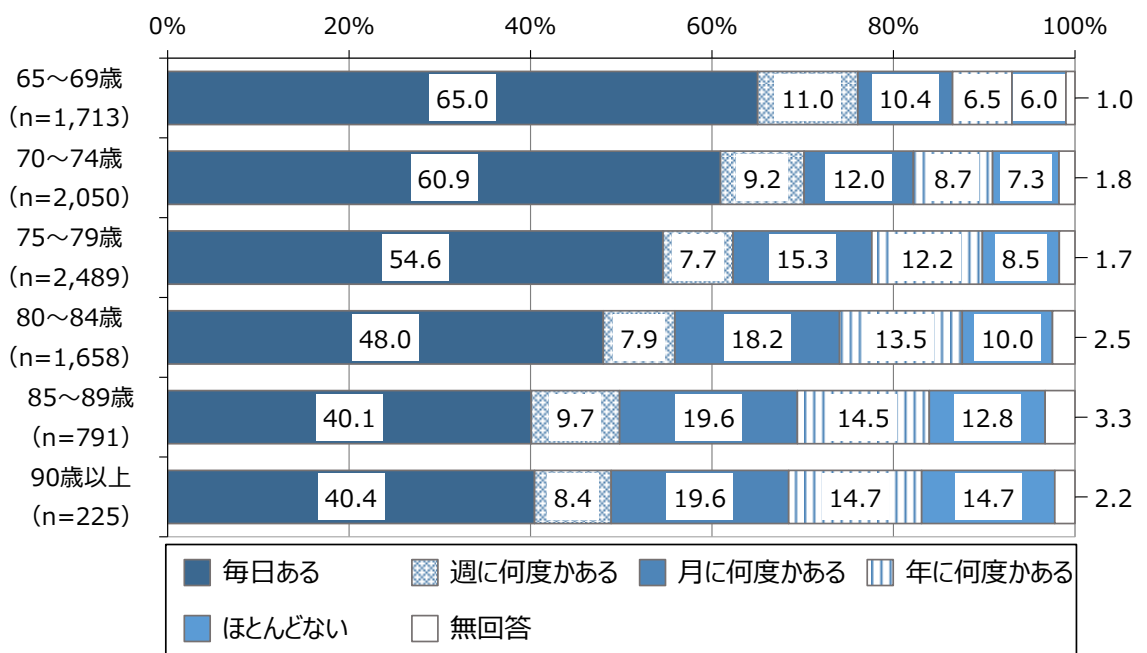
性別でみると、「ほとんどない」では、男性が 10.8%で、女性（6.7%）より 4.1 ポイント高い状況です。

図表 2-4-15 誰かと食事をともしる機会があるか 性別



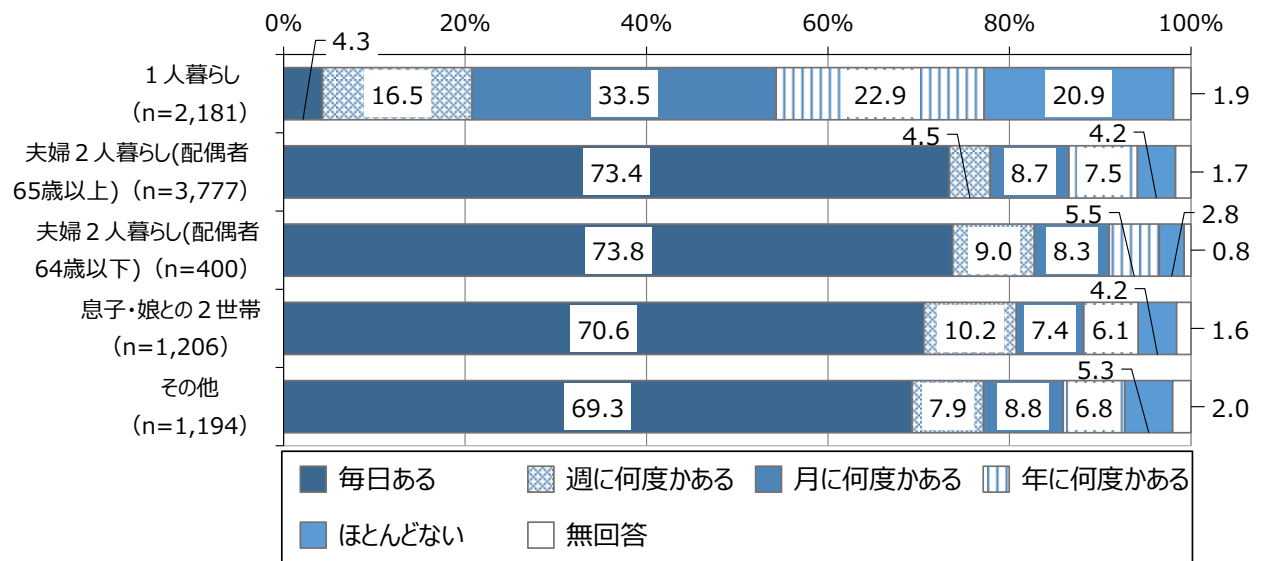
年齢階級別でみると、「ほとんどない」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90 歳以上が 14.7%で最も高い状況です。

図表 2-4-16 誰かと食事をともしる機会があるか 年齢階級別



家族構成別でみると、「ほとんどない」では、「1人暮らし」が20.9%で最も高い状況です。

図表 2-4-17 誰かと食事をとにもする機会があるか 家族構成別



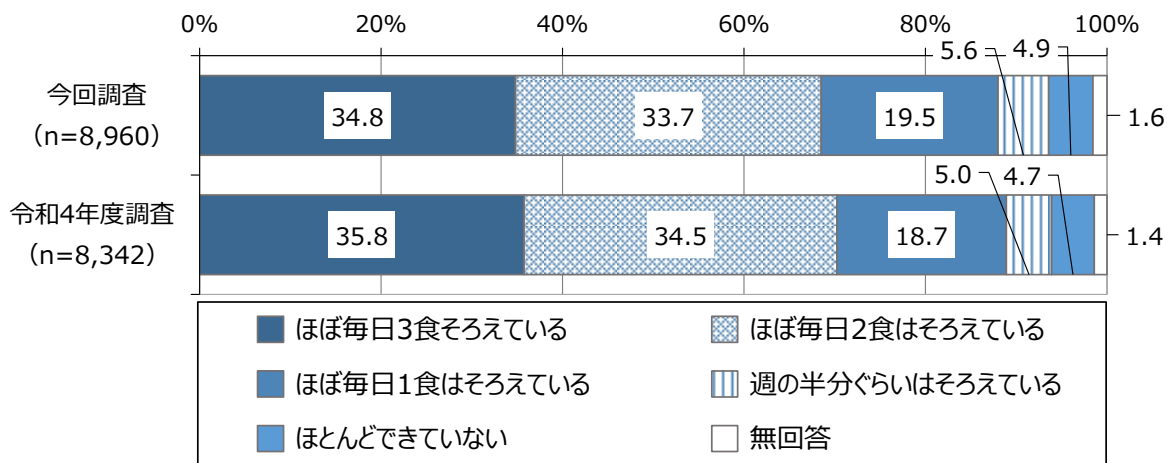
(5) 主食・主菜・副菜をそろえた食事を毎日しているか

問3 (5)	主食・主菜・副菜をそろえた食事を毎日していますか（○はひとつ）
-----------	---------------------------------

主食・主菜・副菜をそろえた食事を毎日しているかについては、「ほぼ毎日3食そろえている」が34.8%で最も高く、次いで「ほぼ毎日2食はそろえている」が33.7%、「ほぼ毎日1食はそろえている」が19.5%と続いています。

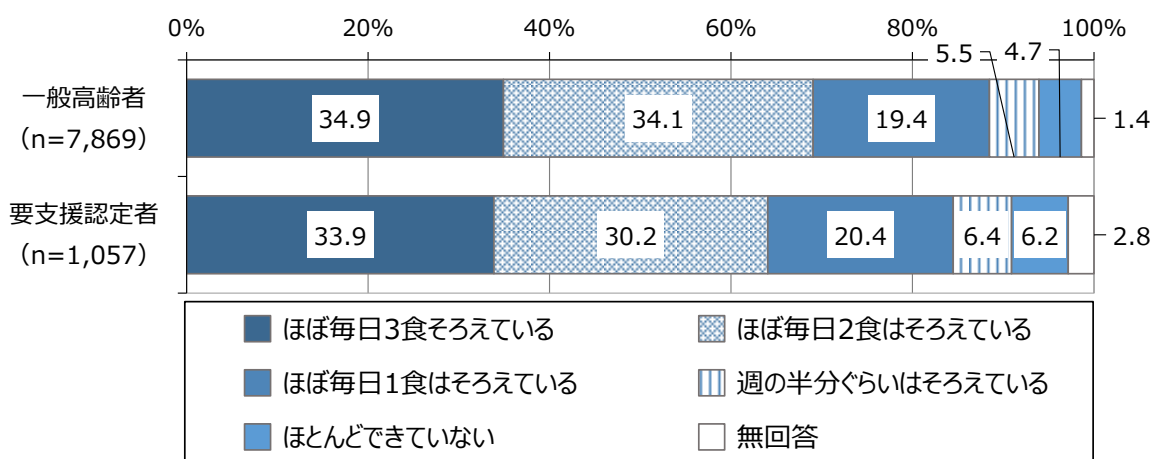
令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-4-18 主食・主菜・副菜をそろえた食事を毎日しているか



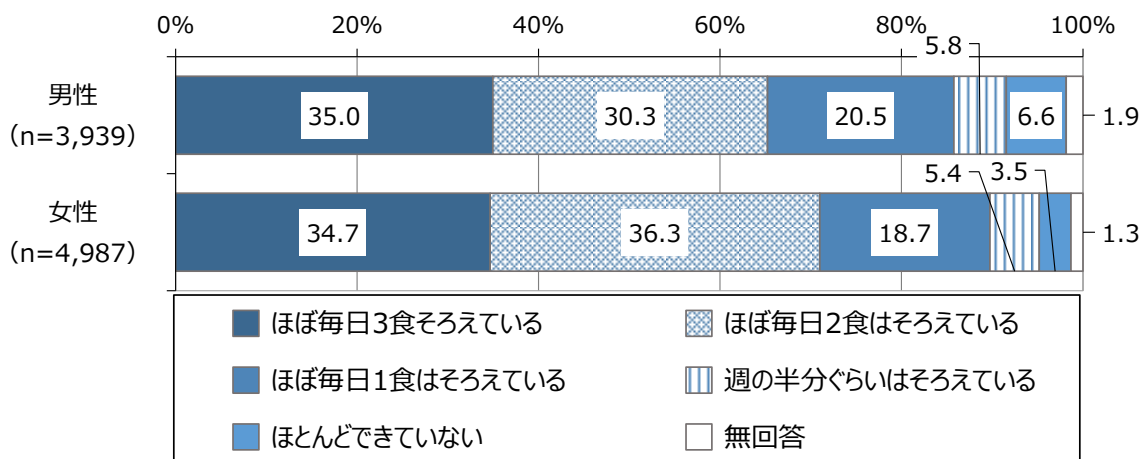
認定状況別でみると、「ほとんどできていない」では、一般高齢者が4.7%、要支援認定者が6.2%です。

図表 2-4-19 主食・主菜・副菜をそろえた食事を毎日しているか 認定状況別



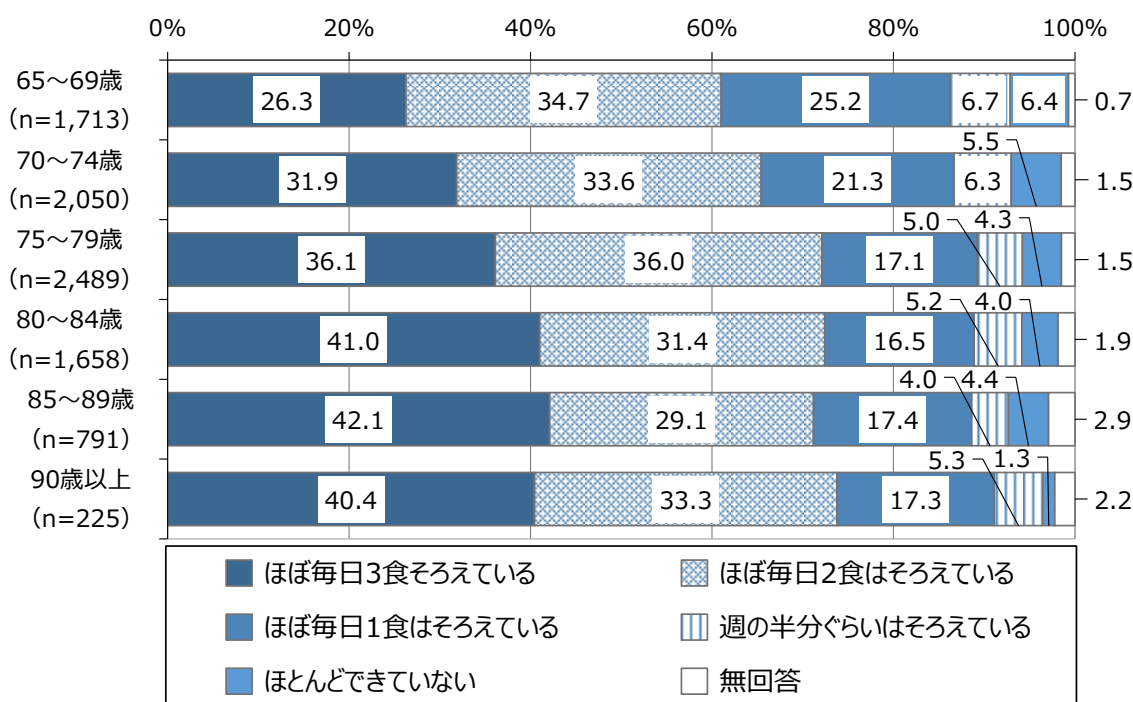
性別でみると、「ほとんどできていない」では、男性が 6.6%で、女性（3.5%）より 3.1 ポイント高い状況です。

図表 2-4-20 主食・主菜・副菜をそろえた食事を毎日しているか 性別



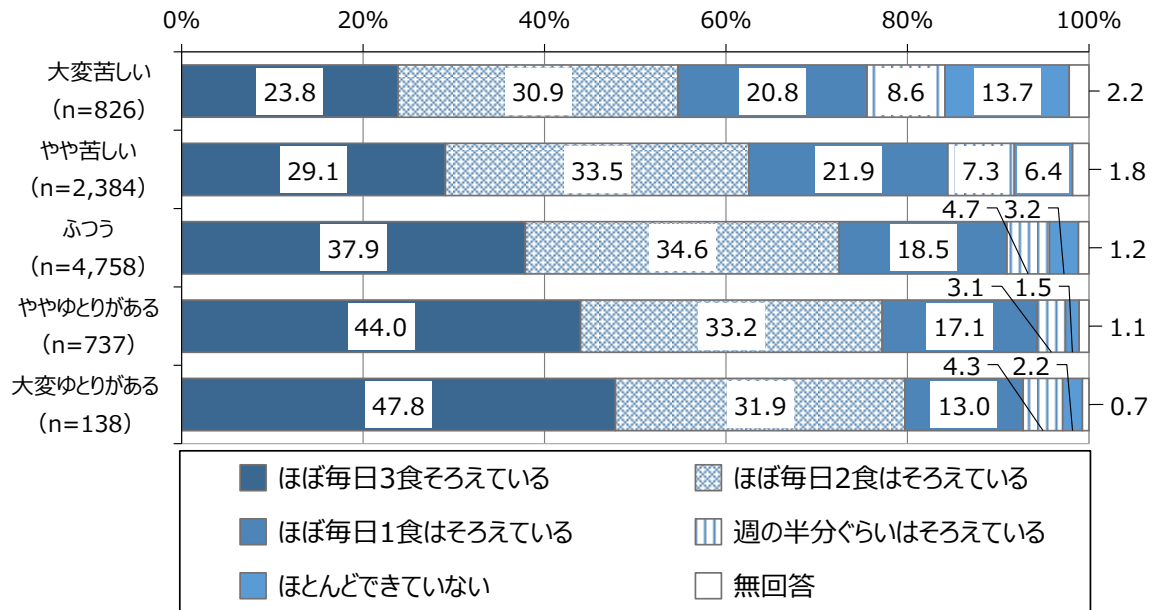
年齢階級別でみると、「ほぼ毎日 3 食そろえている」では、85～89 歳が 42.1%で最も高い状況です。

図表 2-4-21 主食・主菜・副菜をそろえた食事を毎日しているか 年齢階級別



現在の暮らしの経済的状況別でみると、「ほぼ毎日3食そろえている」では、ゆとりがあると感じる割合が強くなるにつれて割合が増加しており、「大変ゆとりがある」が47.8%で最も高い状況です。

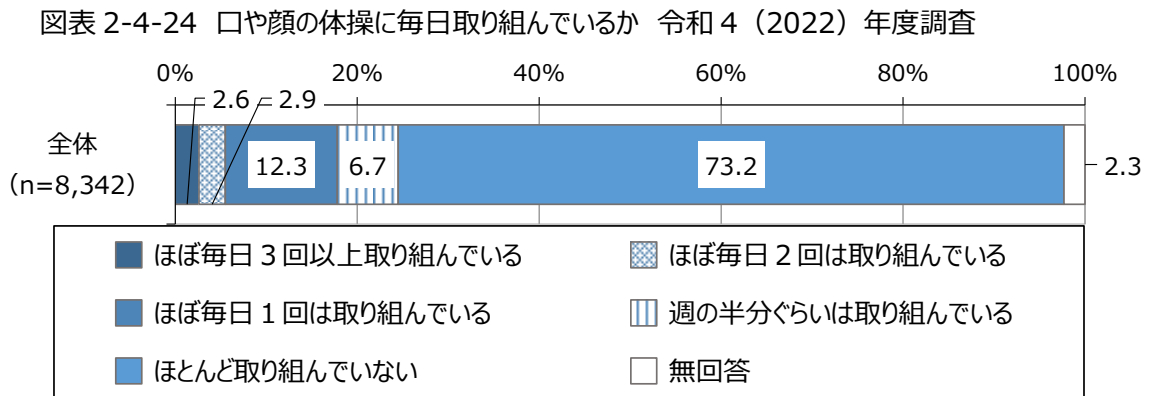
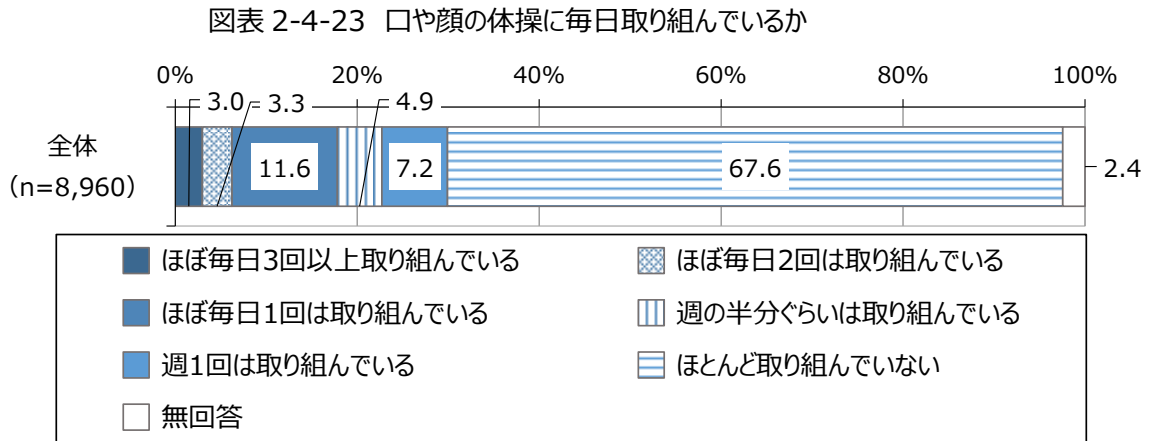
図表 2-4-22 主食・主菜・副菜をそろえた食事を毎日しているか 現在の暮らしの経済的状況別



(6) 口や顔の体操に毎日取り組んでいるか

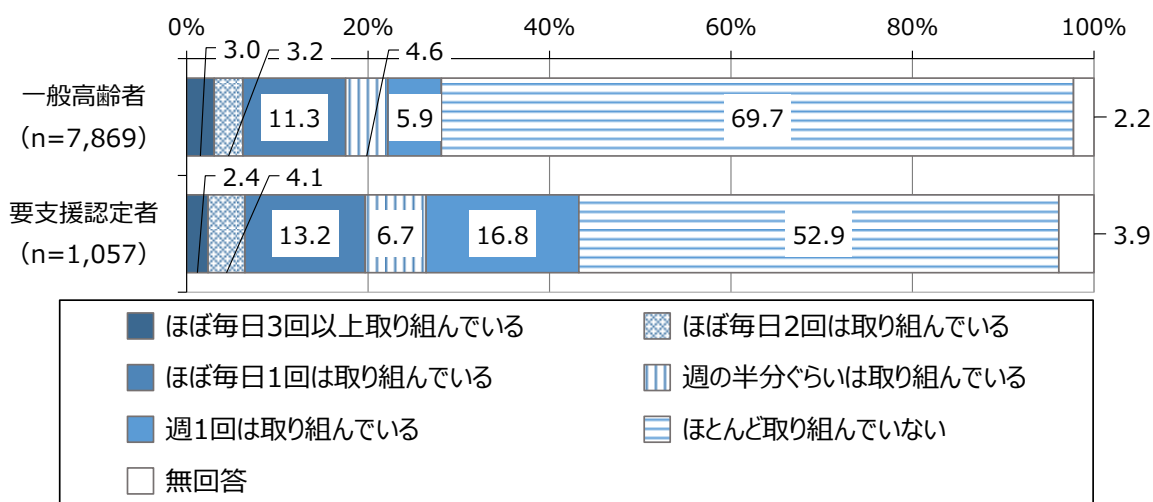
問3 (6)	口や顔の体操に毎日取り組んでいますか（○はひとつ）
-----------	---------------------------

口や顔の体操に毎日取り組んでいるかについては、「ほとんど取り組んでいない」が 67.6%で最も高く、次いで「ほぼ毎日1回は取り組んでいる」が 11.6%、「週1回は取り組んでいる」が 7.2%と続いています。



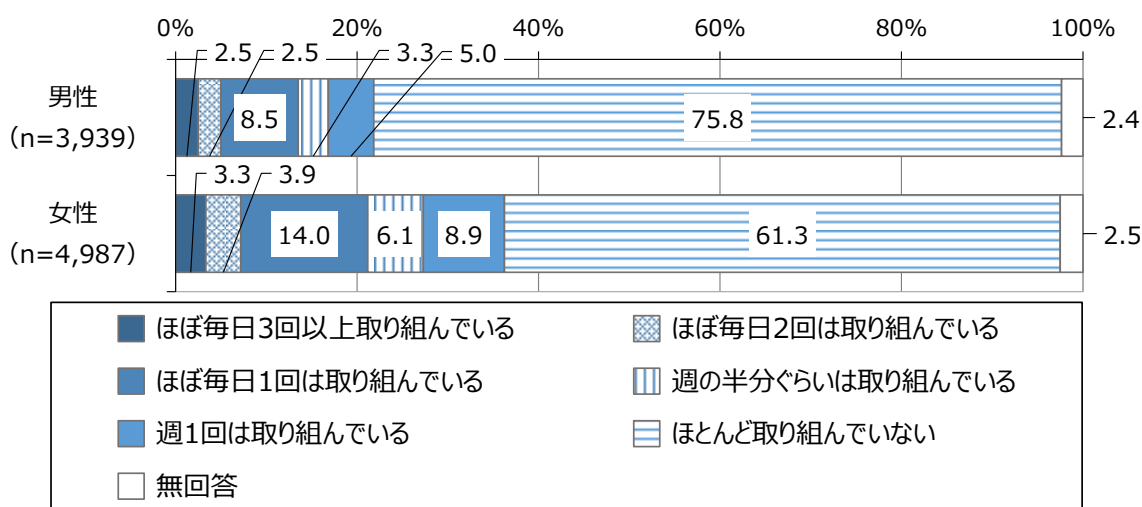
認定状況別でみると、『週1回以上は取り組んでいる』（「ほぼ毎日3回以上取り組んでいる」から「週1回は取り組んでいる」の合計）では、要支援認定者が43.2%で、一般高齢者（28.0%）より15.2ポイント高い状況です。

図表 2-4-25 口や顔の体操に毎日取り組んでいるか 認定状況別



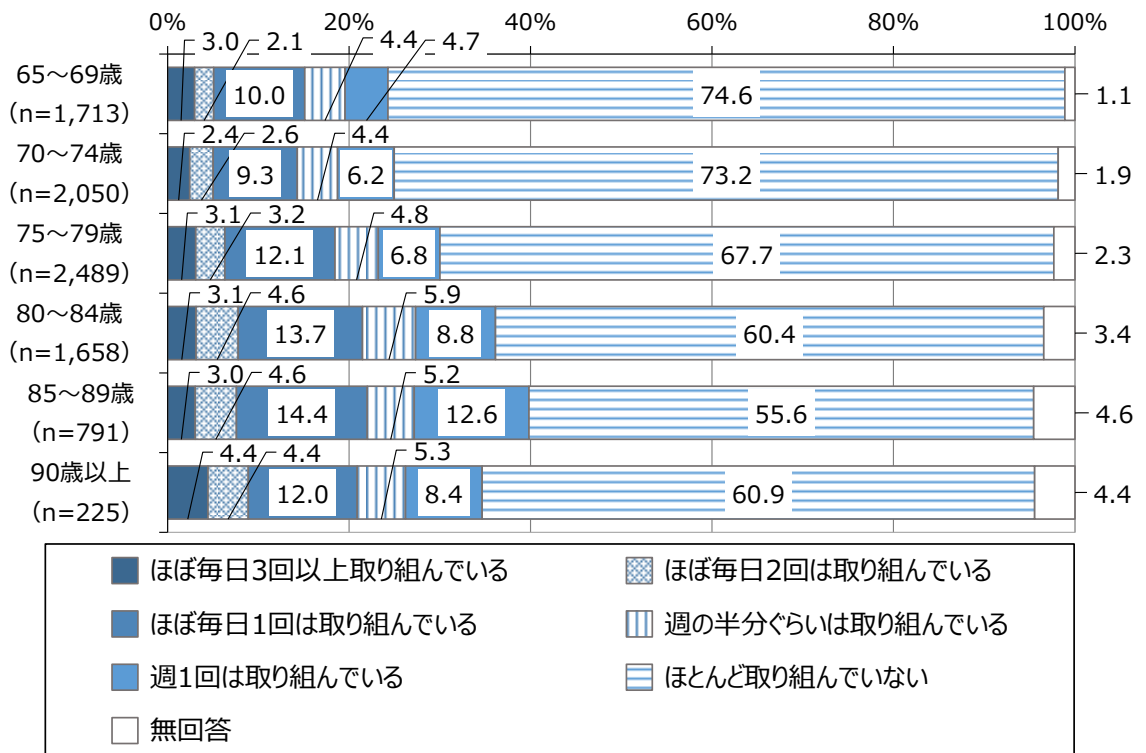
性別でみると、『週1回以上は取り組んでいる』では、女性が36.2%で、男性（21.8%）より14.4ポイント高い状況です。

図表 2-4-26 口や顔の体操に毎日取り組んでいるか 性別



年齢階級別でみると、『週1回以上は取り組んでいる』では、85～89歳が39.8%で最も高い状況です。

図表 2-4-27 口や顔の体操に毎日取り組んでいるか 年齢階級別



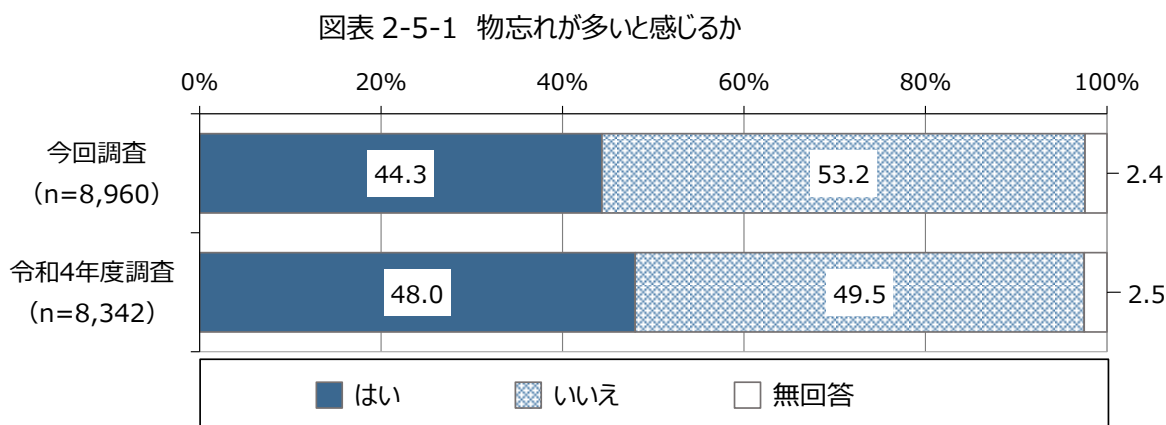
5 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じるか

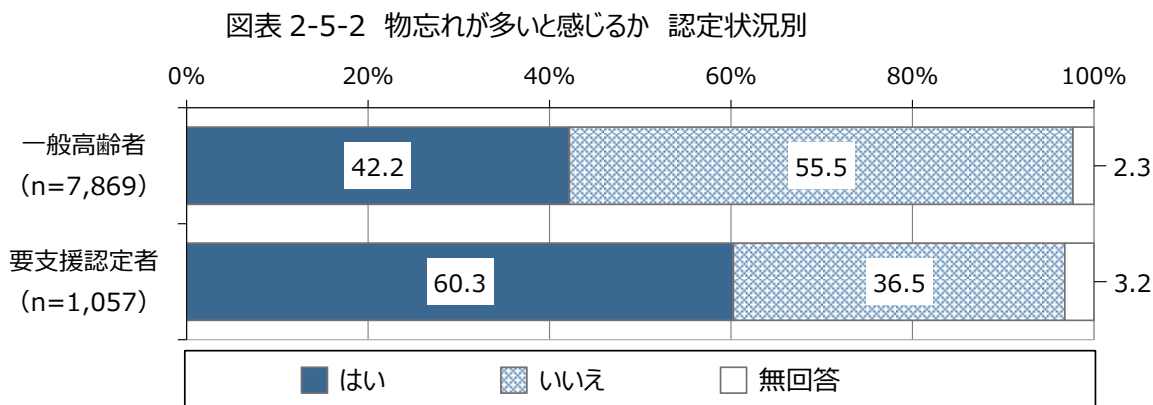
問 4 (1)	物忘れが多いと感じますか（○はひとつ）
------------	---------------------

物忘れが多いと感じるかについては、「はい」が 44.3%、「いいえ」が 53.2%です。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「いいえ」（53.2%）では、令和 4（2022）年度調査（49.5%）より 3.7 ポイント増加しています。

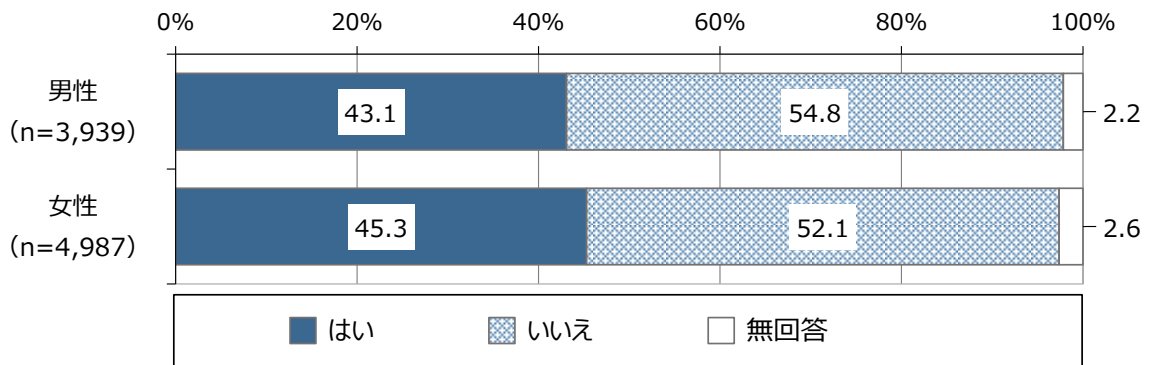


認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が 60.3%で、一般高齢者（42.2%）より 18.1 ポイント高い状況です。



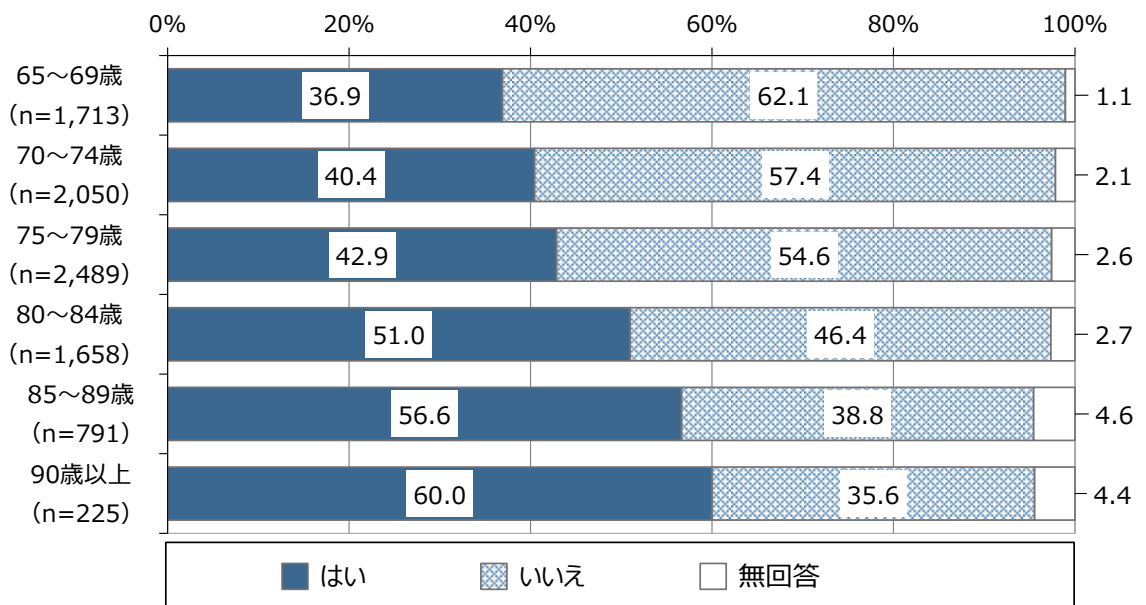
性別でみると、「はい」では、男性が43.1%、女性が45.3%です。

図表 2-5-3 物忘れが多いと感じるか 性別



年齢階級別でみると、「はい」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が60.0%で最も高い状況です。

図表 2-5-4 物忘れが多いと感じるか 年齢階級別

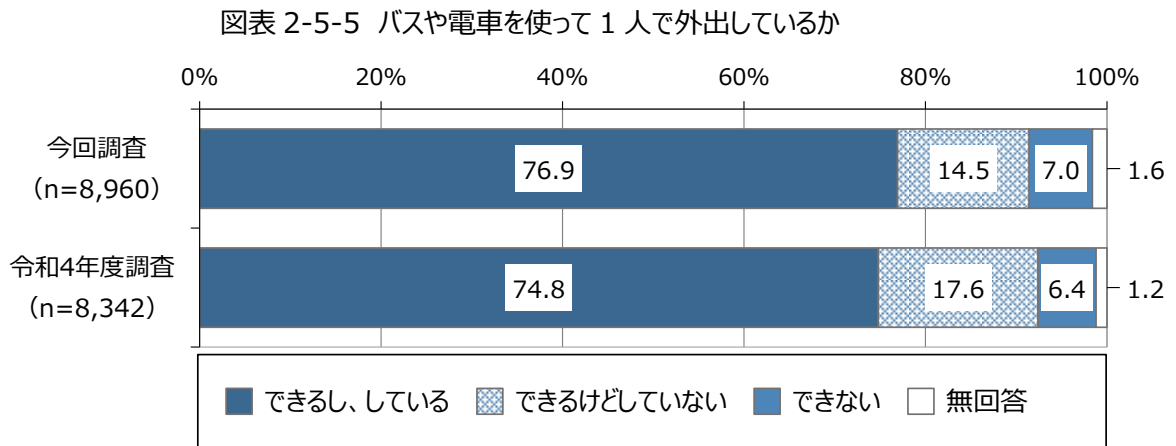


(2) バスや電車を使って1人で外出しているか

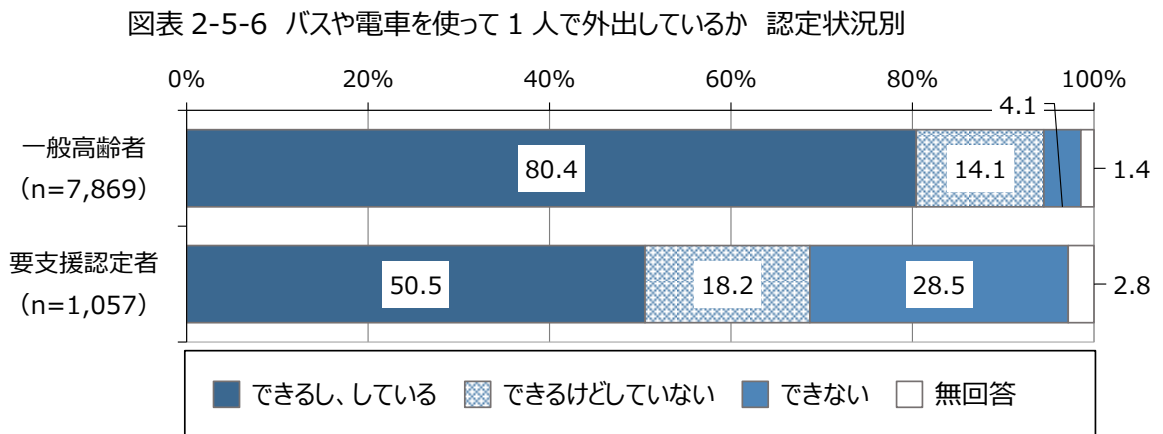
問 4 (2)	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）（○はひとつ）
------------	--------------------------------------

バスや電車を使って1人で外出しているかについては、「できるし、している」が76.9%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が14.5%、「できない」が7.0%です。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「できるけどしていない」（14.5%）では、令和4（2022）年度調査（17.6%）より3.1ポイント減少しています。

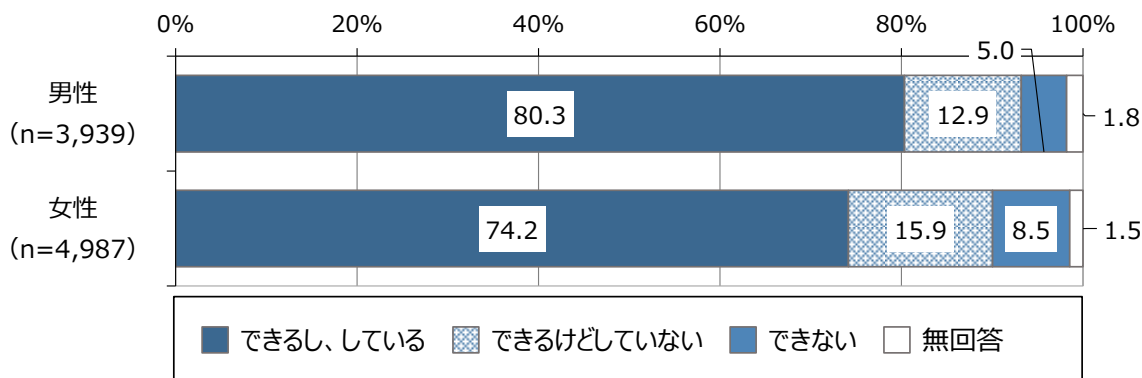


認定状況別でみると、「できない」では、一般高齢者が4.1%、要支援認定者が28.5%です。



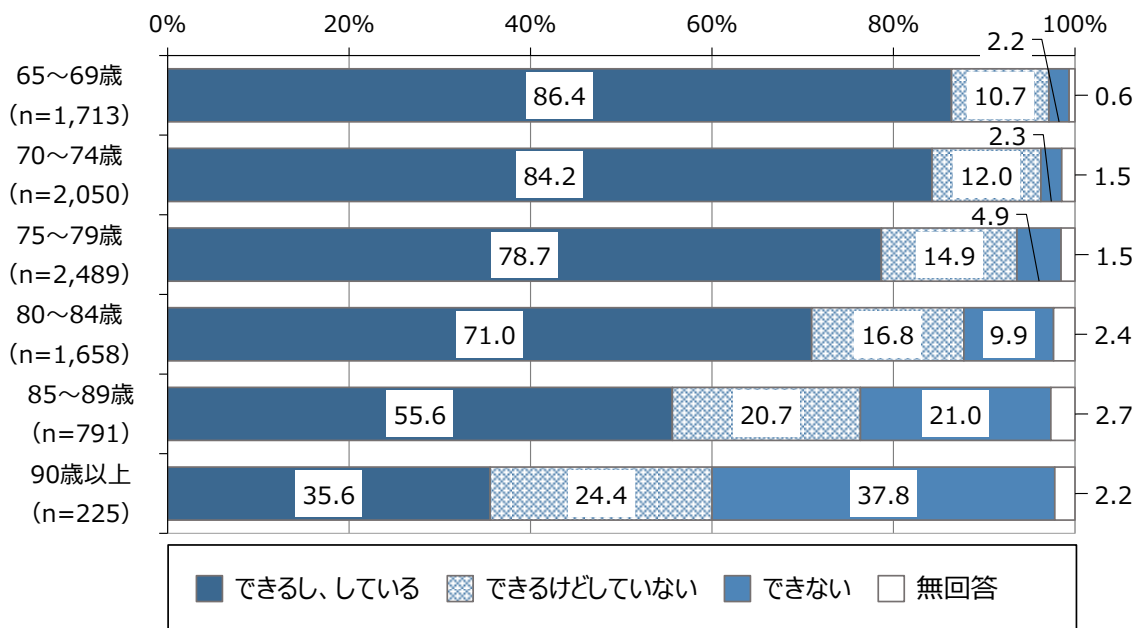
性別でみると、「できない」では、男性が 5.0%、女性が 8.5%です。

図表 2-5-7 バスや電車を使って 1 人で外出しているか 性別



年齢階級別でみると、「できない」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90 歳以上が 37.8%で最も高い状況です。

図表 2-5-8 バスや電車を使って 1 人で外出しているか 年齢階級別



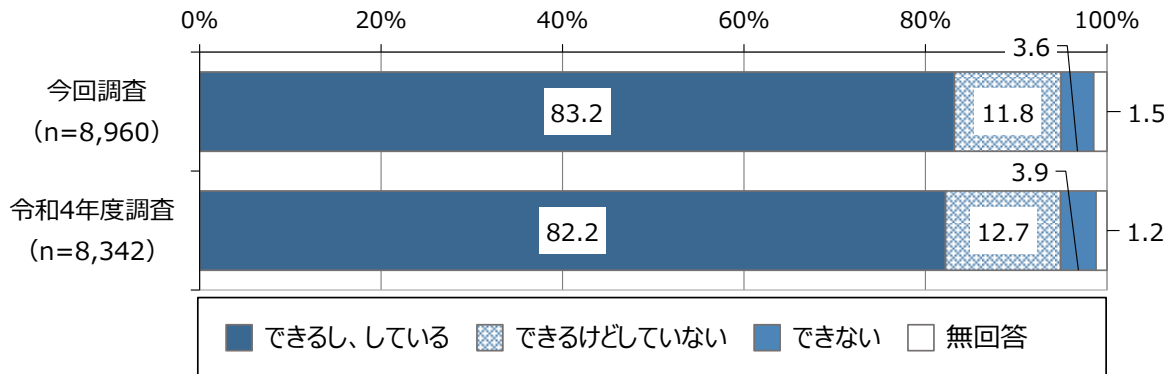
(3) 自分で食品・日用品の買物をしているか

問 4 (3)	自分で食品・日用品の買物をしていますか（○はひとつ）
------------	----------------------------

自分で食品・日用品の買物をしているかについては、「できるし、している」が 83.2%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が 11.8%、「できない」が 3.6%です。

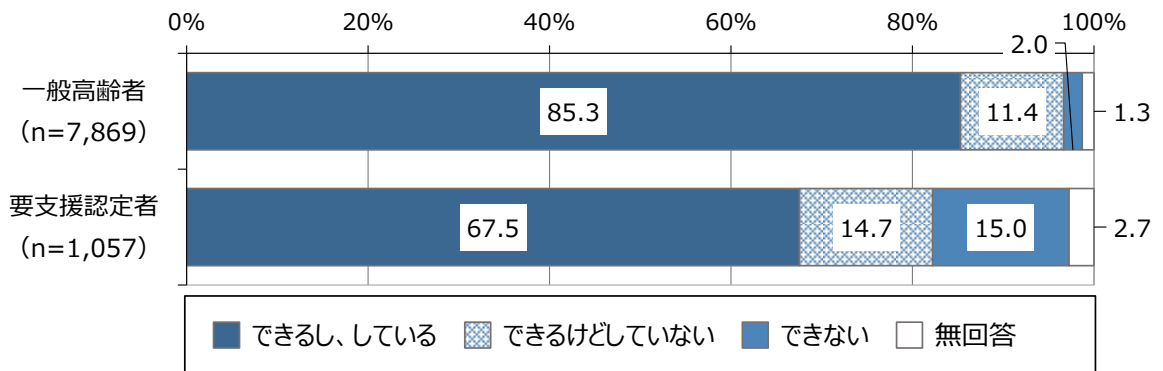
令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-5-9 自分で食品・日用品の買物をしているか



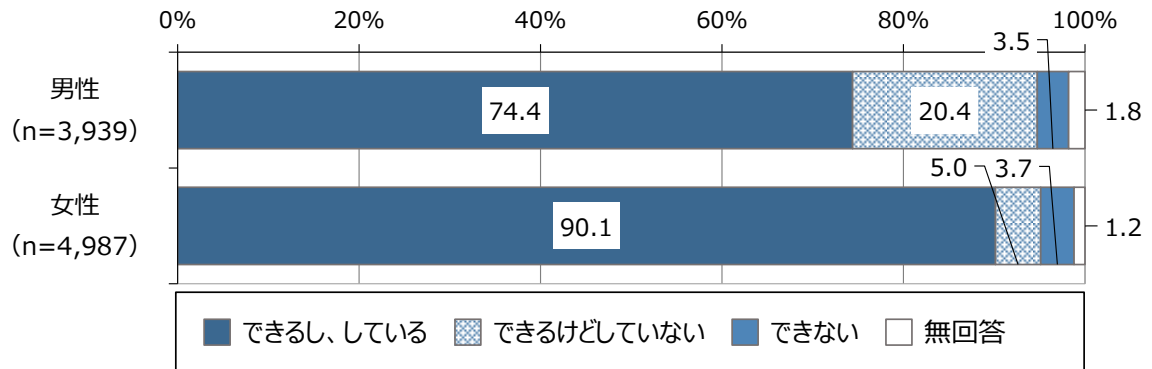
認定状況別でみると、「できない」では、一般高齢者が 2.0%、要支援認定者が 15.0%です。

図表 2-5-10 自分で食品・日用品の買物をしているか 認定状況別



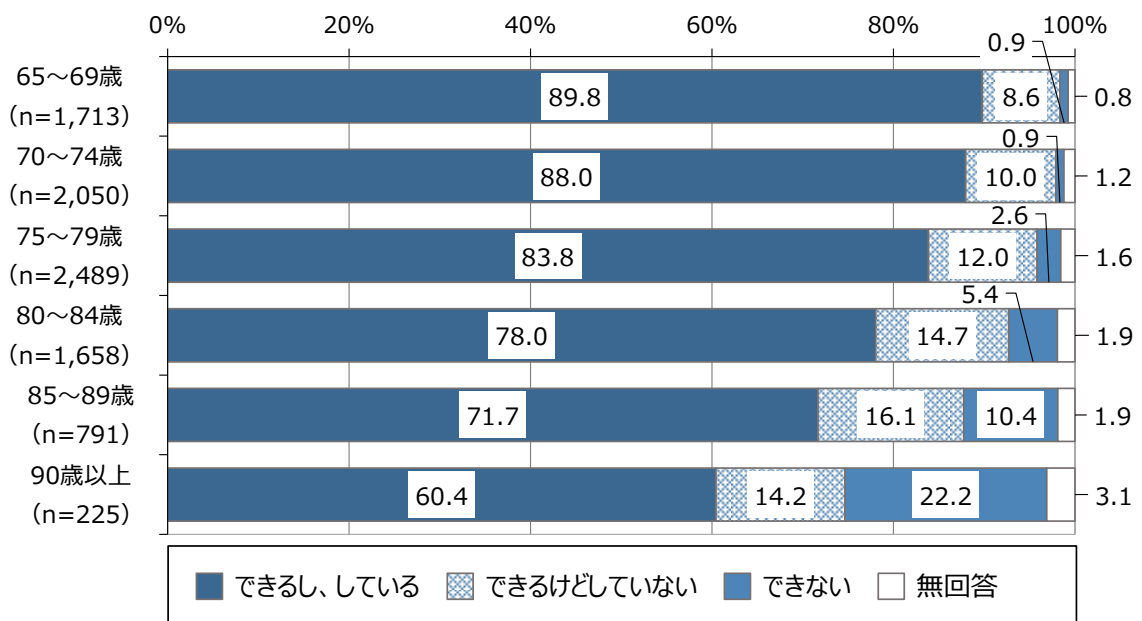
性別でみると、「できるし、している」では、女性が 90.1%で、男性（74.4%）より 15.7 ポイント高い状況です。

図表 2-5-11 自分で食品・日用品の買物をしているか 性別



年齢階級別でみると、「できない」では、年齢階級が上がるにつれて概ね割合が増加しており、90 歳以上が 22.2%で最も高い状況です。

図表 2-5-12 自分で食品・日用品の買物をしているか 年齢階級別



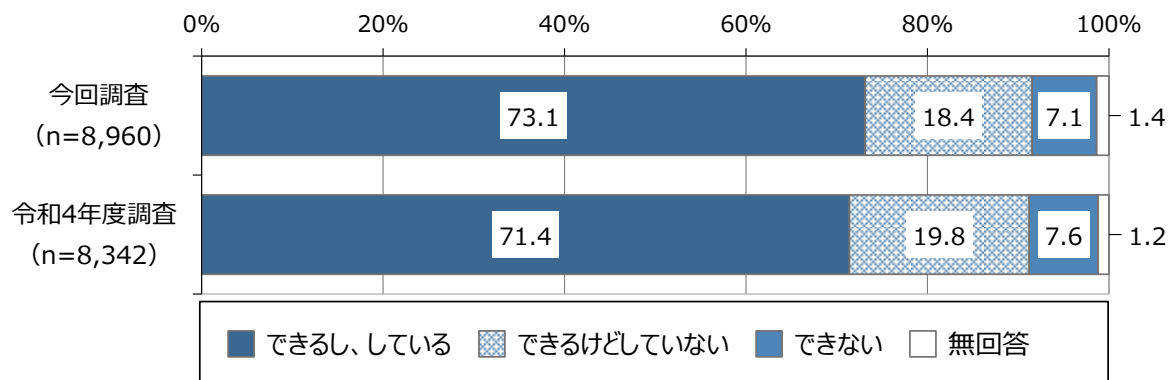
(4) 自分で食事の用意をしているか

問 4 (4)	自分で食事の用意をしていますか (○はひとつ)
------------	-------------------------

自分で食事の用意をしているかについては、「できるし、している」が 73.1%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が 18.4%、「できない」が 7.1%です。

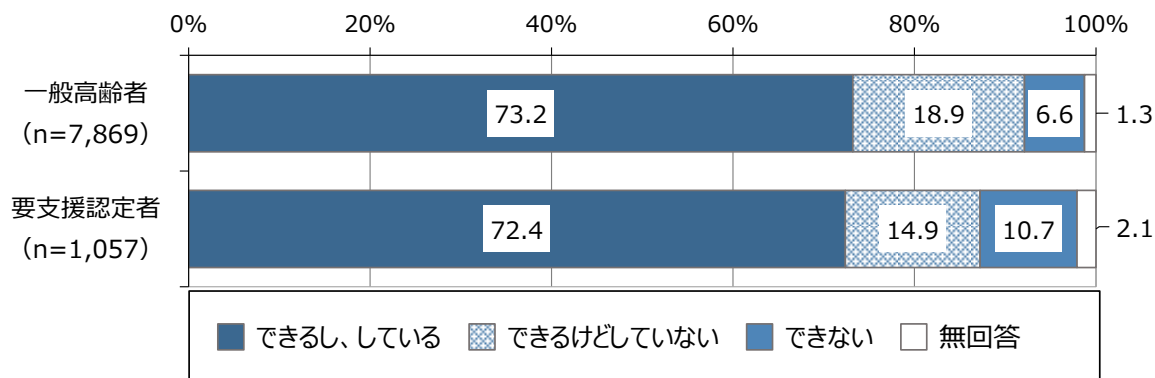
令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-5-13 自分で食事の用意をしているか



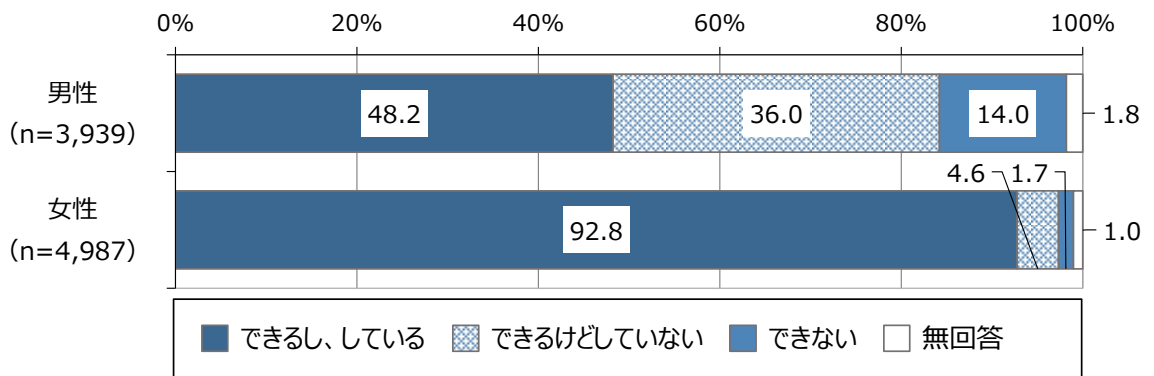
認定状況別でみると、「できない」では、一般高齢者が 6.6%、要支援認定者が 10.7%です。

図表 2-5-14 自分で食事の用意をしているか 認定状況別



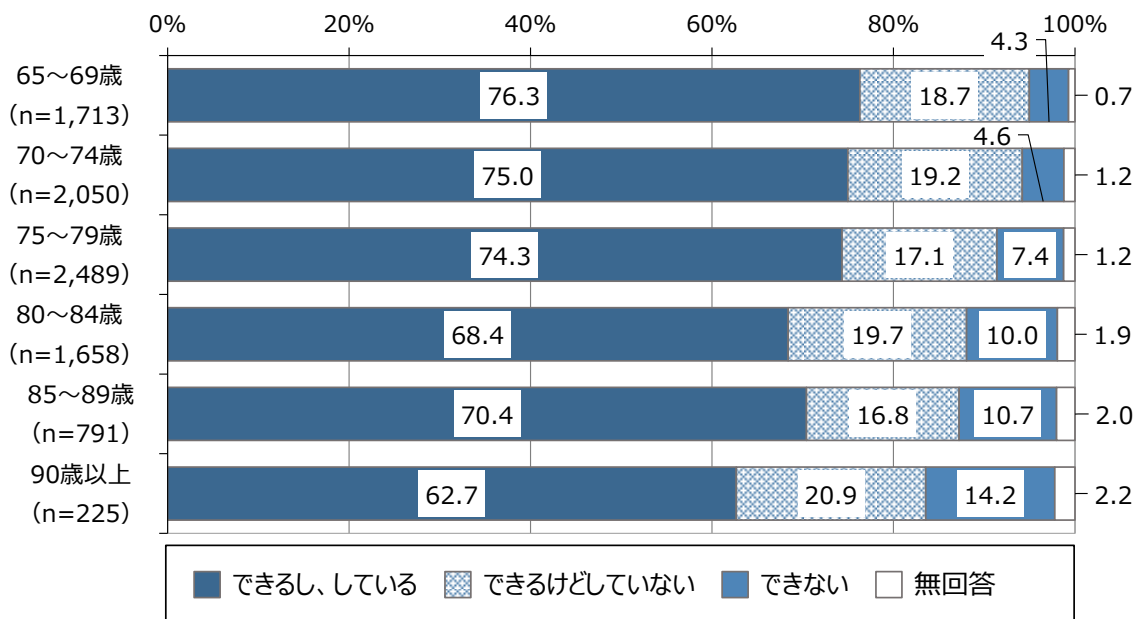
性別でみると、「できない」では、男性が 14.0%で、女性（1.7%）より 12.3 ポイント高い状況です。

図表 2-5-15 自分で食事の用意をしているか 性別



年齢階級別でみると、「できない」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90 歳以上が 14.2%で最も高い状況です。

図表 2-5-16 自分で食事の用意をしているか 年齢階級別



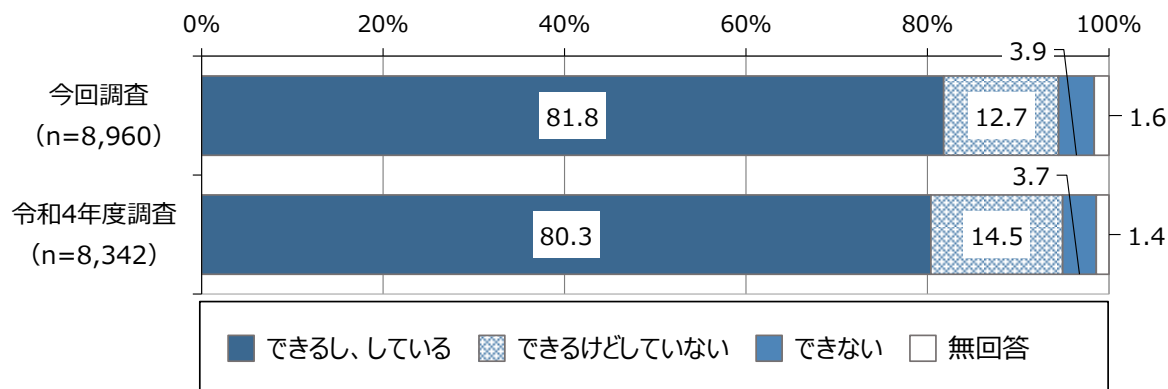
(5) 自分で請求書の支払いをしているか

問 4 (5)	自分で請求書の支払いをしていますか（○はひとつ）
------------	--------------------------

自分で請求書の支払いをしているかについては、「できるし、している」が 81.8%で最も高く、次いで「できるだけしていない」が 12.7%、「できない」が 3.9%です。

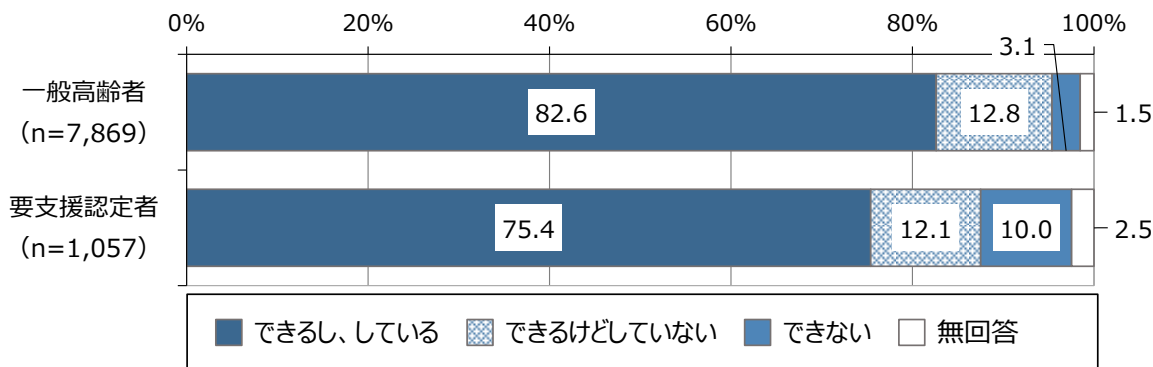
令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-5-17 自分で請求書の支払いをしているか



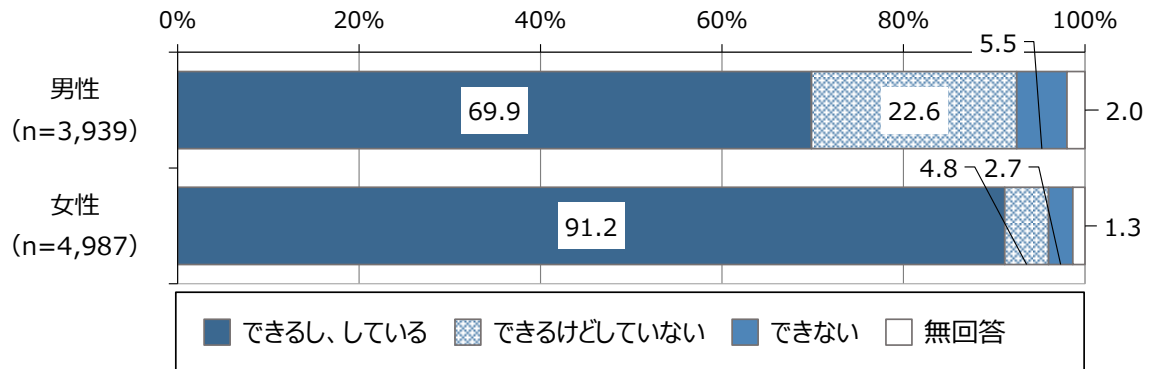
認定状況別でみると、「できない」では、要支援認定者が 10.0%で、一般高齢者（3.1%）より 6.9 ポイント高い状況です。

図表 2-5-18 自分で請求書の支払いをしているか 認定状況別



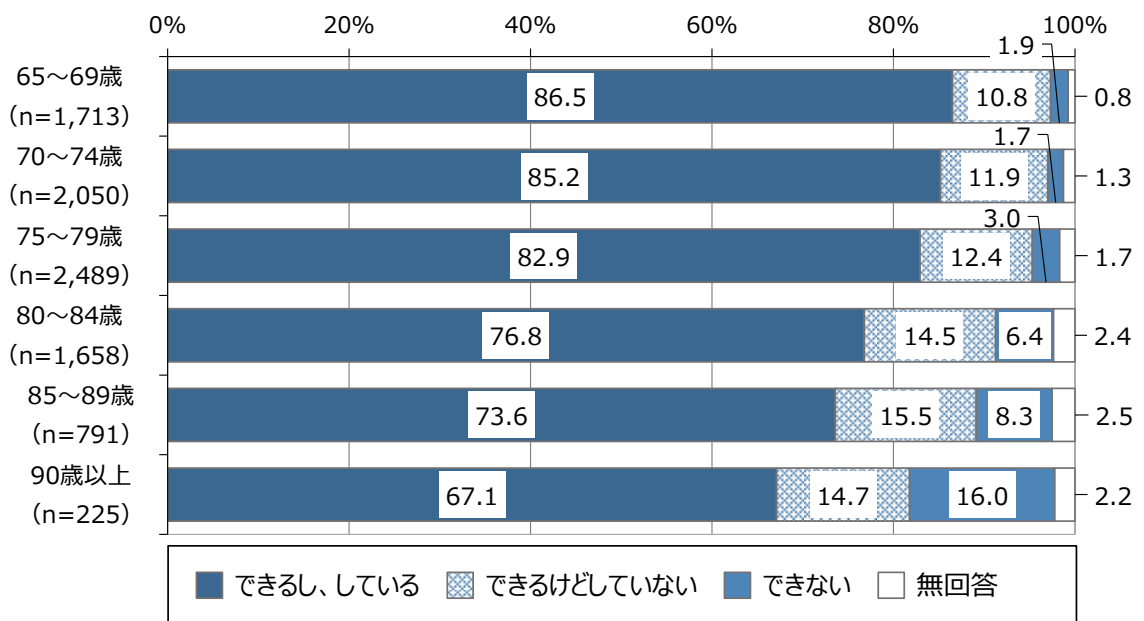
性別でみると、「できるし、している」では、女性が 91.2%で、男性（69.9%）より 21.3 ポイント高い状況です。

図表 2-5-19 自分で請求書の支払いをしているか 性別



年齢階級別でみると、「できない」では、70 歳以上で年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90 歳以上が 16.0%で最も高い状況です。

図表 2-5-20 自分で請求書の支払いをしているか 年齢階級別



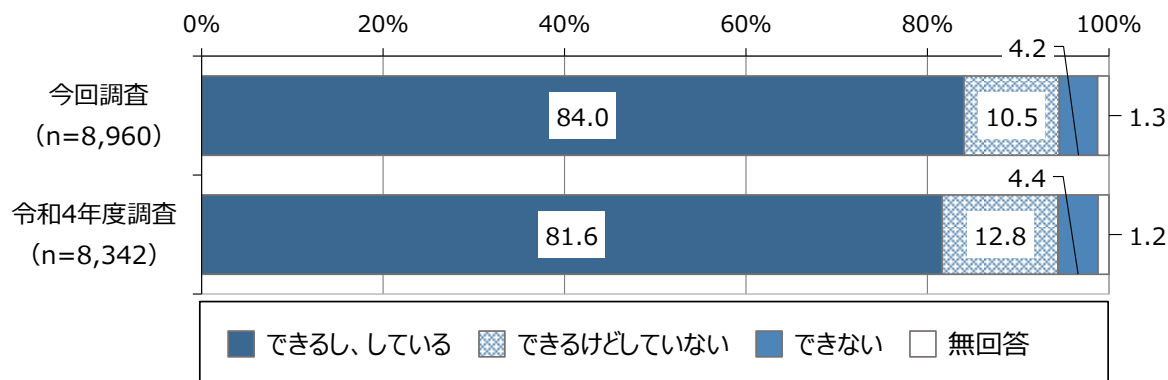
(6) 自分で預貯金の出し入れをしているか

問 4 (6)	自分で預貯金の出し入れをしていますか（○はひとつ）
------------	---------------------------

自分で預貯金の出し入れをしているかについては、「できるし、している」が 84.0%で最も高く、次いで「できるけどしていない」が 10.5%、「できない」が 4.2%です。

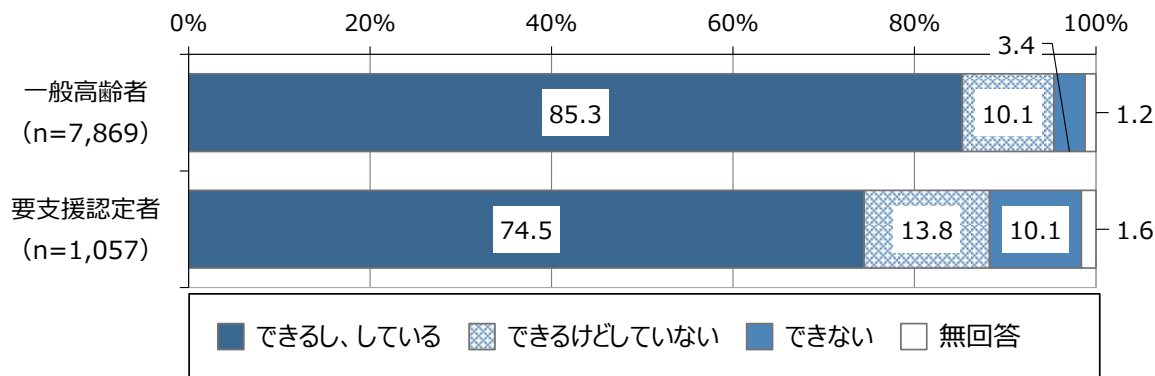
令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-5-21 自分で預貯金の出し入れをしているか



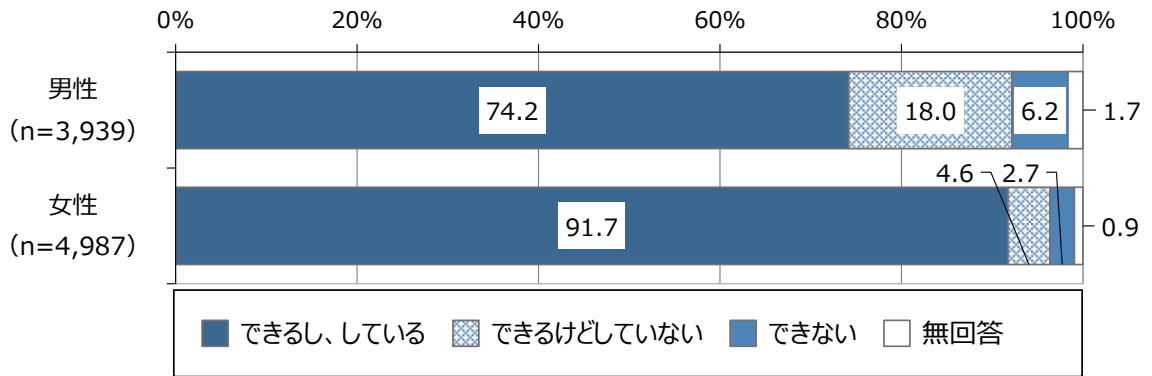
認定状況別でみると、「できない」では、要支援認定者が 10.1%で、一般高齢者（3.4%）より 6.7 ポイント高い状況です。

図表 2-5-22 自分で預貯金の出し入れをしているか 認定状況別



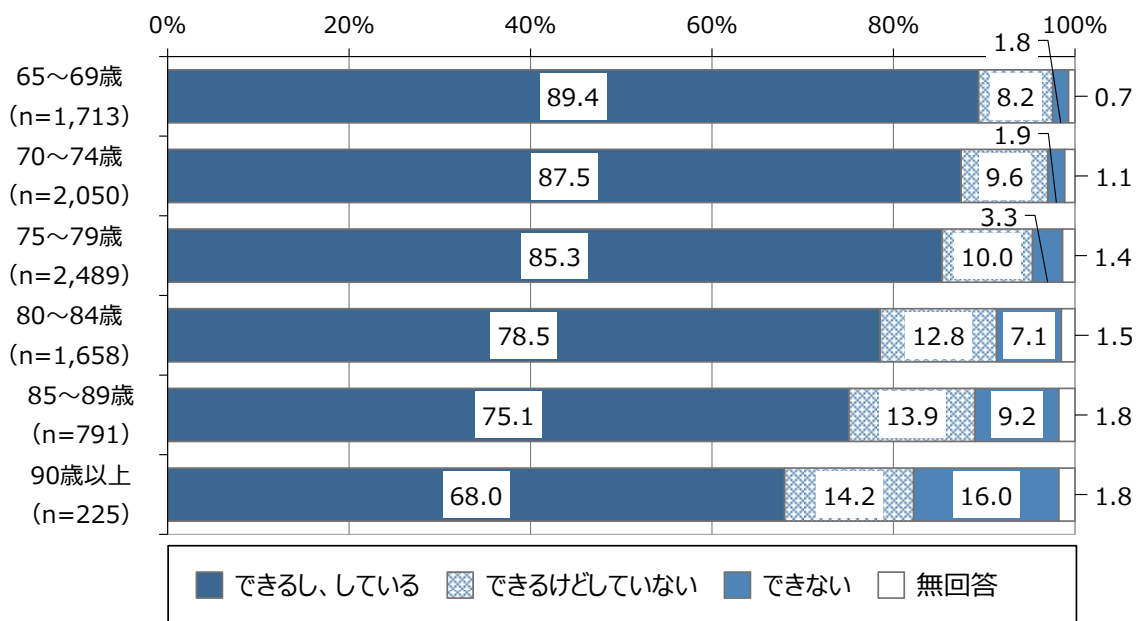
性別でみると、「できるし、している」では、女性が91.7%で、男性（74.2%）より17.5ポイント高い状況です。

図表 2-5-23 自分で預貯金の出し入れをしているか 性別



年齢階級別でみると、「できない」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が16.0%で最も高い状況です。

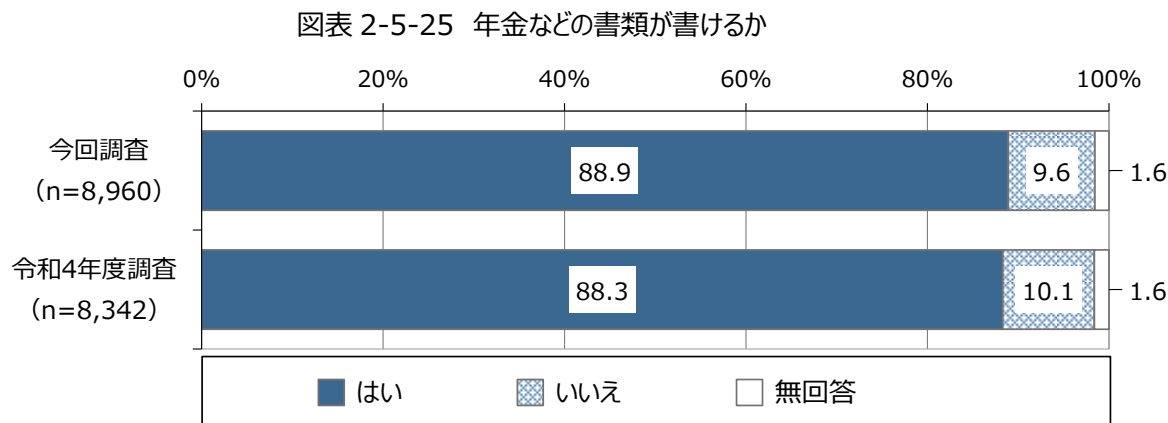
図表 2-5-24 自分で預貯金の出し入れをしているか 年齢階級別



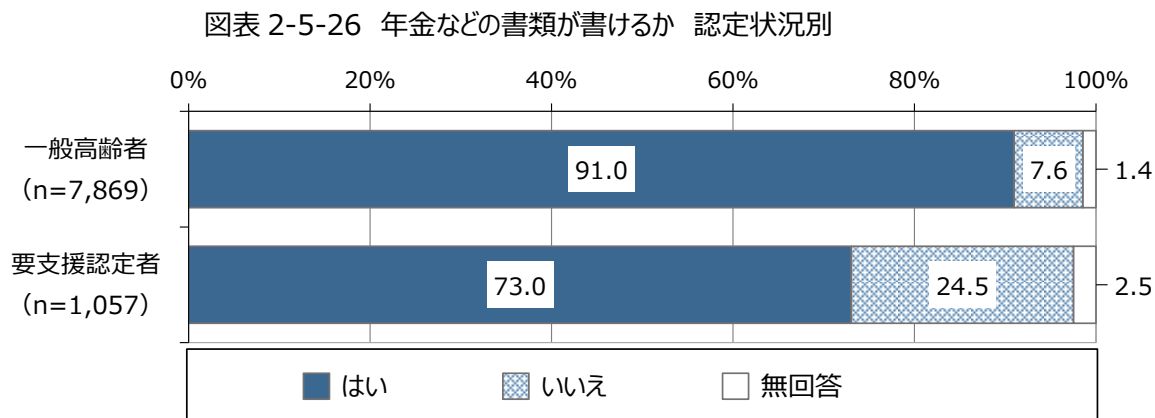
(7) 年金などの書類が書けるか

問 4 (7)	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか（○はひとつ）
------------	------------------------------------

年金などの書類が書けるかについては、「はい」が 88.9%、「いいえ」が 9.6%です。
令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

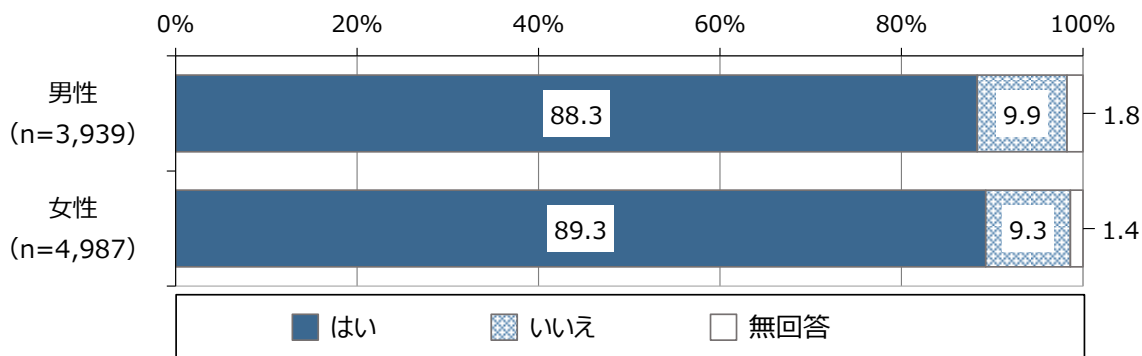


認定状況別でみると、「いいえ」では、要支援認定者が 24.5%で、一般高齢者（7.6%）より 16.9 ポイント高い状況です。



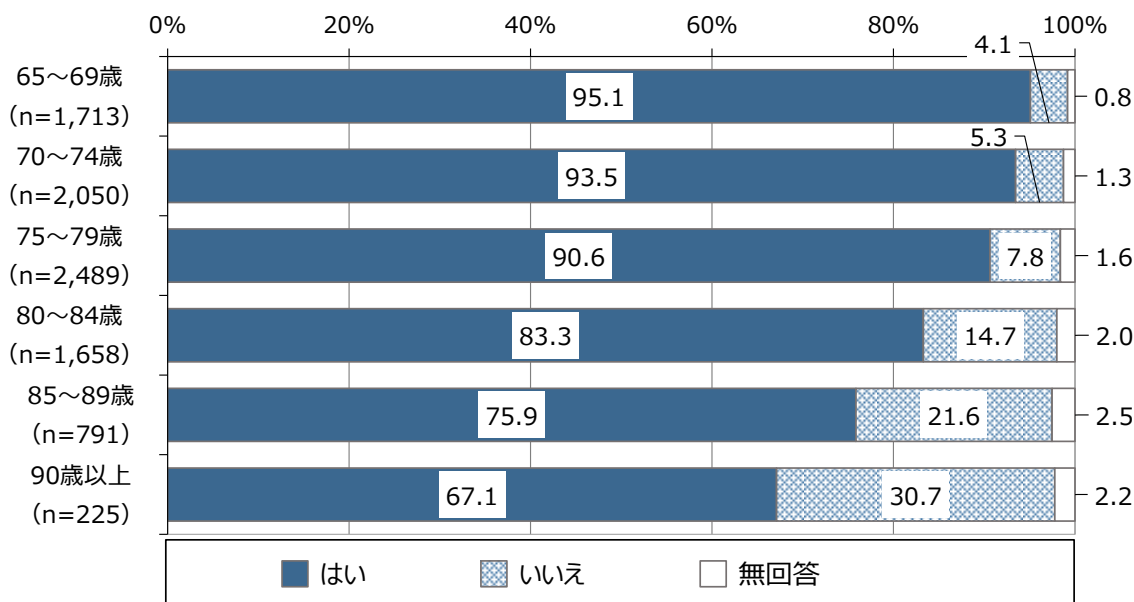
性別でみると、「いいえ」では、男性が9.9%、女性が9.3%です。

図表 2-5-27 年金などの書類が書けるか 性別



年齢階級別でみると、「いいえ」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が30.7%で最も高い状況です。

図表 2-5-28 年金などの書類が書けるか 年齢階級別



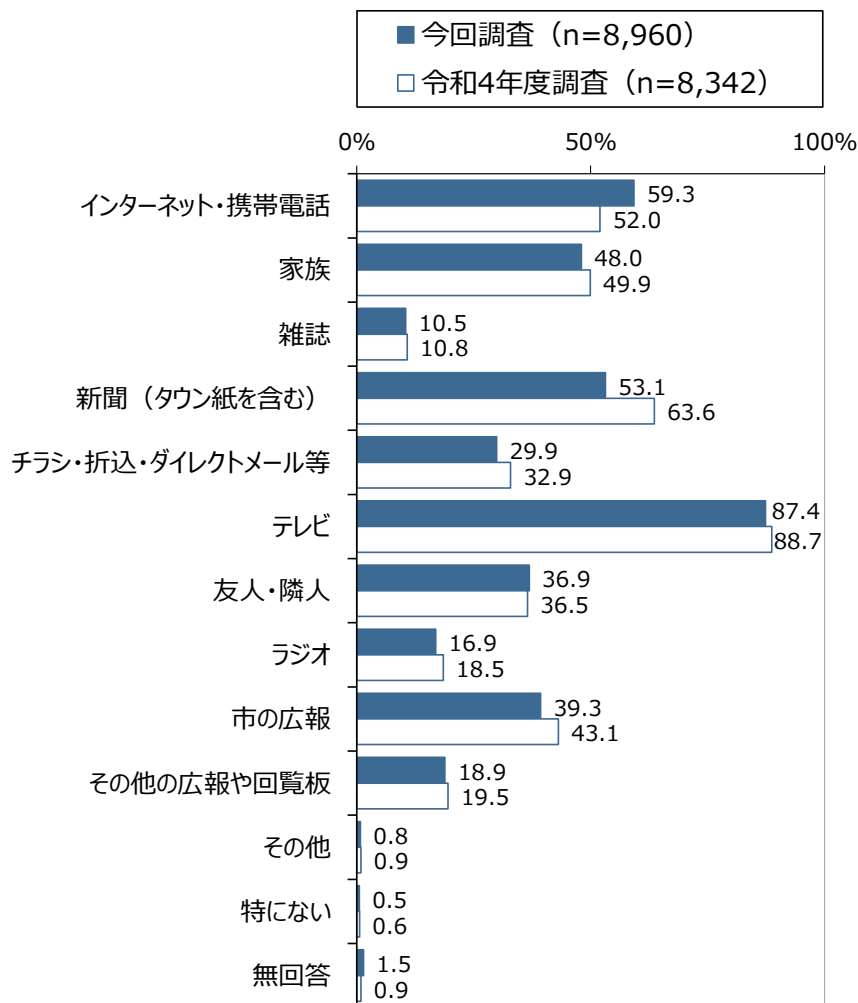
(8) 日常生活に関する情報をどこから得ているか

問 4 (8)	日常生活に関する情報をどこから得ていますか（○はいくつでも）
------------	--------------------------------

日常生活に関する情報をどこから得ているかについては、「テレビ」が 87.4%で最も高く、次いで「インターネット・携帯電話」が 59.3%、「新聞（タウン紙を含む）」が 53.1%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「インターネット・携帯電話」（59.3%）では、令和 4（2022）年度調査（52.0%）より 7.3 ポイント増加しています。

図表 2-5-29 日常生活に関する情報をどこから得ているか



認定状況別でみると、「インターネット・携帯電話」では、一般高齢者が 63.0%で、要支援認定者（30.8%）より 32.2 ポイント高い状況です。

性別でみると、男性、女性いずれも「テレビ」の割合が最も高い状況です。

年齢階級別でみると、「インターネット・携帯電話」では、年齢階級が上がるにつれて割合が減少しており、90歳以上が 17.3%で最も低い状況です。

区域別でみると、「その他の広報や回覧板」では、南区が 21.4%で最も高い状況です。

図表 2-5-30 日常生活に関する情報をどこから得ているか 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

属性別	認定	性別	年齢階級別	区域別	合計	携	家	雑	含	イ	テ	友	ラ	市	覧
						帯	族	誌	新	チ	レ	人	ジ	の	そ
					計	電	族	誌	聞	ラ	レ	人	オ	の	の
					計	話	・	（	ク	ビ	・	隣	オ	広	他
					計	・	・	）	シ	ジ	人	人	オ	報	の
					計	・	・	紙	ト	ジ	人	人	オ	報	の
					計	・	・	を	メ	ジ	人	人	オ	報	の
					計	・	・	を	折	ジ	人	人	オ	報	の
					計	・	・	を	込	ジ	人	人	オ	報	の
					計	・	・	を	ル	ジ	人	人	オ	報	の
					計	・	・	を	等	ジ	人	人	オ	報	の
					計	・	・	を	ダ	ジ	人	人	オ	報	の
全体					8,960	59.3	48.0	10.5	53.1	29.9	87.4	36.9	16.9	39.3	18.9
認定	一般高齢者				7,869	63.0	49.4	10.9	53.1	30.3	87.7	37.5	16.9	39.2	18.7
	要支援認定者				1,057	30.8	37.5	6.8	53.5	27.2	85.2	32.4	16.5	39.6	20.2
性別	男性				3,939	64.8	44.4	9.7	56.3	26.5	86.5	25.5	16.6	31.9	15.6
	女性				4,987	54.8	50.9	11.0	50.6	32.6	88.1	45.9	17.0	45.0	21.4
年齢階級別	65～69歳				1,713	85.6	53.1	11.7	38.5	25.4	83.5	37.7	14.4	35.8	12.7
	70～74歳				2,050	75.1	51.0	11.0	47.7	27.9	88.0	38.8	14.7	37.8	17.6
	75～79歳				2,489	55.7	46.1	11.0	58.3	33.0	89.4	38.6	17.8	40.7	19.8
	80～84歳				1,658	38.8	45.2	9.1	60.1	31.7	87.9	34.0	19.9	41.9	23.4
	85～89歳				791	26.7	43.4	7.7	64.1	31.2	87.2	33.6	18.8	40.8	22.1
	90歳以上				225	17.3	40.9	9.3	67.1	30.7	87.1	26.7	14.7	36.9	21.3
区域別	堺区				1,604	56.8	46.7	9.4	48.1	27.9	86.5	33.0	17.1	36.7	16.7
	中区				1,244	56.9	46.1	7.5	50.1	29.5	88.3	38.3	14.9	39.0	19.0
	東区				908	58.7	48.9	12.6	55.2	32.0	88.5	37.9	18.2	41.3	20.0
	西区				1,289	58.8	49.3	10.9	52.5	29.6	87.3	37.5	16.1	37.4	20.8
	南区				1,775	63.3	48.6	11.6	61.2	32.3	87.7	38.9	18.6	42.5	21.4
	北区				1,665	58.9	47.1	11.1	51.5	29.5	86.9	36.1	15.9	39.5	16.0
	美原区				441	61.7	54.0	10.0	51.2	26.3	87.8	37.9	17.7	36.1	18.6
					合計	そ	特	無							
					計	の	に	回							
					計	他	な	答							
					計	い	い								
					計										
全体					8,960	0.8	0.5	1.5							
認定	一般高齢者				7,869	0.7	0.6	1.3							
	要支援認定者				1,057	1.5	0.4	2.3							
性別	男性				3,939	0.8	0.7	1.7							
	女性				4,987	0.8	0.4	1.3							
年齢階級別	65～69歳				1,713	0.9	0.6	0.8							
	70～74歳				2,050	0.6	0.3	1.5							
	75～79歳				2,489	0.5	0.4	1.4							
	80～84歳				1,658	1.0	0.7	2.0							
	85～89歳				791	1.4	0.9	1.6							
	90歳以上				225	0.9	0.9	2.2							
区域別	堺区				1,604	1.2	0.8	2.0							
	中区				1,244	0.2	0.2	1.6							
	東区				908	0.9	0.4	1.0							
	西区				1,289	0.7	0.8	2.0							
	南区				1,775	0.9	0.4	1.0							
	北区				1,665	0.8	0.6	1.4							
	美原区				441	0.5	0.2	0.7							

※網掛け■は最も割合が高いもの

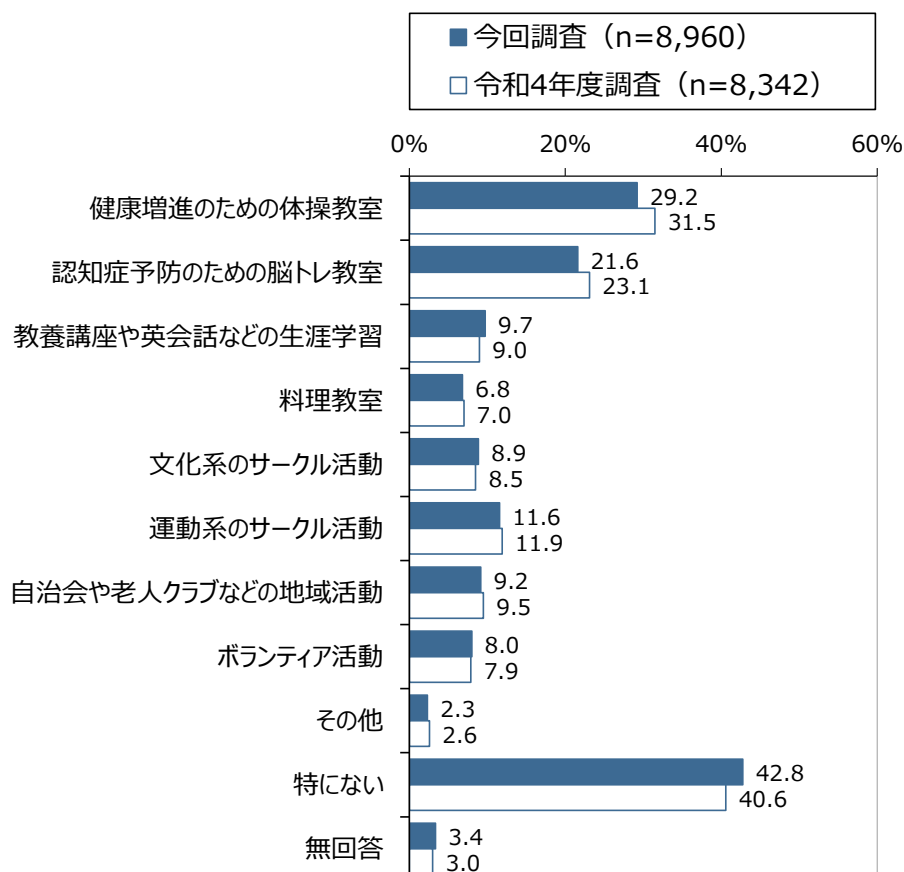
(9) 今後、参加（活動）したいと思うもの

問 4 (9)	今後、参加（活動）したいと思うものはどれですか。（○は3つまで）
------------	----------------------------------

今後、参加（活動）したいと思うものについては、「特にない」が 42.8%で最も高く、次いで「健康増進のための体操教室」が 29.2%、「認知症予防のための脳トレ教室」が 21.6%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-5-31 今後、参加（活動）したいと思うもの



認定状況別で見ると、「特にない」では、一般高齢者が 43.4%で、要支援認定者（37.9%）より 5.5 ポイント高い状況です。

性別で見ると、「特にない」では、男性が 50.4%で、女性（36.8%）より 13.6 ポイント高い状況です。

年齢階級別で見ると、「特にない」では、90 歳以上が 51.1%で最も高い状況です。

区域別で見ると、「自治会や老人クラブなどの地域活動」では、美原区が 11.1%で最も高い状況です。

図表 2-5-32 今後、参加（活動）したいと思うもの 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	健康増進のための体操教室	認知症予防教室のため	栄養講座や英会話など生涯学習	料理教室	文化系のサークル	運動系のサークル	自治会や老人クラブなどの地域活動	ボランティア活動	その他	特にない	無回答	
全体	8,960	29.2	21.6	9.7	6.8	8.9	11.6	9.2	8.0	2.3	42.8	3.4	
認定別	一般高齢者	7,869	28.6	20.6	10.2	6.9	9.0	12.3	8.7	2.3	43.4	3.0	
	要支援認定者	1,057	34.2	29.2	5.8	6.1	7.5	6.1	12.1	3.7	37.9	5.8	
性別	男性	3,939	20.9	16.6	9.0	6.7	7.1	12.6	9.1	7.4	2.3	50.4	3.0
	女性	4,987	35.8	25.5	10.3	6.9	10.2	10.8	9.2	8.5	2.3	36.8	3.6
年齢階級別	65～69歳	1,713	28.6	19.3	16.8	8.3	11.9	15.4	5.8	12.0	1.9	41.4	1.3
	70～74歳	2,050	28.8	20.8	12.1	7.9	10.8	12.8	7.3	9.6	2.0	43.2	2.5
	75～79歳	2,489	29.2	21.2	7.8	6.4	7.8	10.7	9.3	6.9	2.5	43.8	3.5
	80～84歳	1,658	31.0	24.4	6.0	6.0	6.0	10.6	12.1	6.5	2.6	41.6	5.0
	85～89歳	791	29.1	25.0	4.4	4.7	7.7	6.4	13.3	3.4	2.8	41.6	5.4
	90歳以上	225	24.4	18.7	1.3	4.4	4.9	6.2	13.8	2.7	2.7	51.1	4.9
区域別	堺区	1,604	29.4	21.0	10.5	7.2	10.0	10.6	8.6	8.2	2.9	42.6	3.2
	中区	1,244	27.5	19.9	7.3	7.0	7.2	10.5	9.3	7.4	2.0	45.3	4.7
	東区	908	29.5	23.7	9.6	5.9	8.5	13.9	7.5	8.6	1.5	41.6	3.4
	西区	1,289	27.9	20.1	8.7	6.6	8.6	10.6	9.0	8.5	2.4	44.8	3.7
	南区	1,775	30.8	22.9	11.1	7.1	9.7	13.4	10.3	7.9	1.8	40.3	2.6
	北区	1,665	29.1	21.9	10.6	6.5	8.8	11.2	8.8	8.2	3.1	42.3	3.3
美原区	441	30.8	22.7	8.2	7.5	7.3	10.4	11.1	6.3	1.4	44.9	2.3	

※網掛け■は最も割合が高いもの

6 地域での活動について

(1) 地域の会・グループ等への参加頻度

問 5 (1)	以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか ※ ① - ⑧それぞれに回答してください（○はそれぞれひとつずつ）
------------	--

① ボランティアのグループ

ボランティアのグループについては、「参加していない」が 72.0%で最も高く、次いで「月 1～3 回」が 3.9%、「年に数回」が 2.6%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

認定状況別でみると、『参加している』（「週 4 回以上」から「年に数回」の合計）では、一般高齢者が 9.7%、要支援認定者が 7.4%です。

性別でみると、「参加していない」では、男性が 76.4%で、女性（68.5%）より 7.9 ポイント高い状況です。

年齢階級別でみると、『参加している』では、80～84 歳が 10.3%で最も高い状況です。

区域別でみると、「参加していない」では、北区が 73.7%で最も高い状況です。

図表 2-6-1 地域の会・グループ等への参加頻度 ボランティアのグループ

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週 4 回以上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年に数回				
今回調査	8,960	0.7	1.0	1.2	3.9	2.6	9.4	72.0	18.5	
令和4年度調査	8,342	0.7	1.1	1.3	3.4	3.0	9.5	69.2	21.3	
認定別	一般高齢者	7,869	0.7	1.0	1.3	4.1	2.7	9.7	73.0	17.3
	要支援認定者	1,057	0.5	1.4	0.7	2.8	2.0	7.4	64.5	28.1
性別	男性	3,939	0.7	1.0	1.1	3.2	2.9	8.9	76.4	14.7
	女性	4,987	0.7	1.1	1.3	4.5	2.4	9.9	68.5	21.6
年齢階級別	65～69歳	1,713	0.4	0.5	1.2	3.4	3.5	9.0	82.0	9.0
	70～74歳	2,050	0.9	1.1	1.2	4.4	2.3	10.0	76.8	13.2
	75～79歳	2,489	0.9	0.9	1.2	4.3	2.7	9.9	71.4	18.7
	80～84歳	1,658	0.5	1.8	1.5	4.1	2.4	10.3	63.8	26.0
	85～89歳	791	0.6	1.3	0.9	2.5	2.0	7.3	59.0	33.6
	90歳以上	225	0.0	0.4	0.4	2.7	1.3	4.9	63.6	31.6
区域別	堺区	1,604	0.4	1.1	1.2	3.8	2.4	8.9	71.0	20.1
	中区	1,244	0.6	0.8	0.9	4.1	2.7	9.0	72.1	18.9
	東区	908	0.8	1.3	0.9	3.7	3.5	10.2	71.7	18.1
	西区	1,289	0.7	0.9	1.1	4.3	2.2	9.3	71.9	18.8
	南区	1,775	1.0	1.5	1.6	3.3	2.5	9.9	71.8	18.3
	北区	1,665	0.6	1.0	1.2	4.2	2.3	9.3	73.7	17.0
	美原区	441	0.7	0.2	1.4	4.3	3.6	10.2	70.1	19.7

※網掛け■は最も割合が高いもの

② スポーツ関係のグループやクラブ

スポーツ関係のグループやクラブについては、「参加していない」が 62.8%で最も高く、次いで「週 2～3 回」が 6.9%、「週 1 回」が 4.5%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

認定状況別でみると、『参加している』では、一般高齢者が 21.8%、要支援認定者が 12.4%です。

性別でみると、「参加していない」では、男性が 67.7%で、女性（58.8%）より 8.9 ポイント高い状況です。

年齢階級別でみると、『参加している』では、70～74 歳が 22.0%で最も高い状況です。

区域別でみると、『参加している』では、南区が 24.6%で最も高い状況です。

図表 2-6-2 地域の会・グループ等への参加頻度 スポーツ関係のグループやクラブ

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週 4 回以上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年に数回				
今回調査	8,960	3.8	6.9	4.5	3.7	1.8	20.6	62.8	16.6	
令和4年度調査	8,342	4.2	7.1	4.1	3.1	1.6	20.1	60.4	19.5	
認定別	一般高齢者	7,869	4.1	7.2	4.7	3.9	1.9	21.8	63.1	15.2
	要支援認定者	1,057	1.8	4.4	3.4	2.1	0.7	12.4	60.2	27.4
性別	男性	3,939	2.9	5.2	3.9	4.1	2.8	19.0	67.7	13.4
	女性	4,987	4.5	8.2	5.0	3.3	0.9	22.0	58.8	19.2
年齢階級別	65～69歳	1,713	2.9	6.7	5.1	4.7	2.5	21.9	70.2	7.9
	70～74歳	2,050	3.7	7.6	4.5	4.2	2.0	22.0	66.2	11.8
	75～79歳	2,489	4.5	6.6	4.5	3.8	1.4	20.7	62.9	16.4
	80～84歳	1,658	4.5	6.9	4.3	3.1	1.8	20.6	55.7	23.7
	85～89歳	791	3.2	6.6	4.4	1.5	0.9	16.6	53.1	30.3
	90歳以上	225	2.2	4.4	3.6	2.2	0.9	13.3	57.3	29.3
区域別	堺区	1,604	3.5	5.3	4.4	3.7	2.0	18.9	62.8	18.3
	中区	1,244	4.4	6.6	3.2	4.1	1.9	20.3	63.1	16.6
	東区	908	3.7	7.4	4.4	3.2	2.1	20.8	63.0	16.2
	西区	1,289	2.9	8.2	4.6	3.2	1.2	20.2	62.9	16.9
	南区	1,775	5.1	7.4	5.7	5.0	1.4	24.6	59.7	15.7
	北区	1,665	3.4	6.4	4.0	2.9	1.8	18.5	65.7	15.8
	美原区	441	2.7	7.7	5.9	2.7	2.3	21.3	61.0	17.7

※網掛け■は最も割合が高いもの

③ 趣味関係のグループ（各種文化活動や料理教室等を含む）

趣味関係のグループについては、「参加していない」が65.8%で最も高く、次いで「月1～3回」が7.5%、「週1回」が3.3%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「参加していない」（65.8%）では、令和4（2022）年度調査（59.5%）より6.3ポイント増加しています。

認定状況別でみると、『参加している』では、一般高齢者が17.2%で、要支援認定者（13.2%）より4.0ポイント高い状況です。

性別でみると、『参加している』では、女性が19.5%で、男性（13.3%）より6.2ポイント高い状況です。

年齢階級別でみると、『参加している』では、75～79歳が18.5%で最も高い状況です。

区域別でみると、『参加している』では、南区が20.1%で最も高い状況です。

図表 2-6-3 地域の会・グループ等への参加頻度 趣味関係のグループ

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
今回調査	8,960	0.9	2.4	3.3	7.5	2.7	16.7	65.8	17.5	
令和4年度調査	8,342	1.1	3.0	4.0	8.6	3.7	20.4	59.5	20.1	
認定別	一般高齢者	7,869	0.9	2.4	3.5	7.7	2.7	17.2	66.6	16.2
	要支援認定者	1,057	0.6	2.0	2.3	6.1	2.3	13.2	59.4	27.3
性別	男性	3,939	0.9	1.9	2.3	5.0	3.2	13.3	72.0	14.7
	女性	4,987	0.8	2.8	4.2	9.5	2.2	19.5	60.7	19.8
年齢階級別	65～69歳	1,713	0.5	1.5	2.6	7.3	3.6	15.4	75.7	8.9
	70～74歳	2,050	0.8	1.8	3.6	7.6	3.5	17.3	69.9	12.9
	75～79歳	2,489	0.9	3.2	3.8	8.5	2.1	18.5	64.7	16.8
	80～84歳	1,658	0.8	3.0	4.0	7.4	2.5	17.9	57.6	24.5
	85～89歳	791	1.4	2.1	1.6	5.2	1.5	11.9	56.3	31.9
	90歳以上	225	1.8	0.9	2.7	5.3	0.9	11.6	57.3	31.1
区域別	堺区	1,604	0.7	2.6	2.1	7.5	2.4	15.4	66.2	18.4
	中区	1,244	0.5	2.5	3.6	6.7	2.4	15.7	66.4	17.9
	東区	908	0.7	2.4	2.8	6.9	3.1	15.9	66.3	17.8
	西区	1,289	0.9	1.5	4.1	7.8	2.7	16.9	65.0	18.1
	南区	1,775	1.0	3.3	4.1	8.3	3.3	20.1	63.1	16.8
	北区	1,665	1.3	1.8	3.3	7.3	2.0	15.7	68.0	16.3
	美原区	441	0.9	2.0	2.7	7.0	3.6	16.3	64.9	18.8

※網掛け■は最も割合が高いもの

④ 学習・教養サークル

学習・教養サークルについては、「参加していない」が73.1%で最も高く、次いで「月1～3回」が2.6%、「年に数回」が1.8%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

認定状況別でみると、『参加している』では、一般高齢者が6.6%、要支援認定者が6.1%です。

性別でみると、『参加している』では、女性が8.7%で、男性（3.8%）より4.9ポイント高い状況です。

年齢階級別でみると、『参加している』では、75～79歳が7.3%で最も高い状況です。

区域別でみると、『参加している』では、南区が8.4%で最も高い状況です。

図表 2-6-4 地域の会・グループ等への参加頻度 学習・教養サークル

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
今回調査	8,960	0.3	0.6	1.2	2.6	1.8	6.6	73.1	20.3	
令和4年度調査	8,342	0.2	0.6	1.3	2.6	1.9	6.6	70.2	23.2	
認定別	一般高齢者	7,869	0.3	0.6	1.2	2.7	1.9	6.6	74.3	19.1
	要支援認定者	1,057	0.3	0.9	1.6	2.2	1.1	6.1	64.1	29.8
性別	男性	3,939	0.2	0.3	0.7	1.3	1.4	3.8	79.6	16.6
	女性	4,987	0.4	0.8	1.7	3.7	2.1	8.7	67.9	23.4
年齢階級別	65～69歳	1,713	0.2	0.4	1.3	2.4	2.0	6.2	82.9	10.9
	70～74歳	2,050	0.1	0.6	1.1	2.8	2.5	7.2	77.7	15.1
	75～79歳	2,489	0.3	0.6	1.5	3.2	1.7	7.3	73.1	19.6
	80～84歳	1,658	0.5	0.8	1.3	2.8	1.7	7.1	64.5	28.5
	85～89歳	791	0.3	0.6	0.4	1.3	0.5	3.0	61.2	35.8
	90歳以上	225	0.4	0.0	1.8	0.4	0.9	3.6	61.3	35.1
区域別	堺区	1,604	0.1	0.7	1.2	2.2	1.6	5.7	72.3	22.1
	中区	1,244	0.1	0.6	1.1	2.2	1.4	5.3	74.4	20.3
	東区	908	0.2	0.4	1.3	2.9	2.0	6.8	72.4	20.8
	西区	1,289	0.3	0.5	1.4	2.5	2.0	6.7	72.8	20.6
	南区	1,775	0.5	0.8	1.9	3.4	1.9	8.4	72.0	19.6
	北区	1,665	0.5	0.6	0.7	2.8	2.1	6.7	74.6	18.7
	美原区	441	0.0	0.2	0.7	2.0	1.6	4.5	73.7	21.8

※網掛け■は最も割合が高いもの

⑤ (いきいきサロンや体操など) 介護予防のための通いの場

介護予防のための通いの場については、「参加していない」が 73.3%で最も高く、次いで「月 1～3 回」が 2.4%、「週 1 回」が 1.7%と続いています。

令和 4 (2022) 年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

認定状況別でみると、『参加している』では、一般高齢者が 5.3%、要支援認定者が 23.7%です。

性別でみると、『参加している』では、女性が 10.1%で、男性 (4.2%) より 5.9 ポイント高い状況です。

年齢階級別でみると、『参加している』では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90 歳以上が 15.1%で最も高い状況です。

区域別でみると、『参加している』では、美原区が 11.1%で最も高い状況です。

図表 2-6-5 地域の会・グループ等への参加頻度 介護予防のための通いの場

単位：実数 (人)、構成比 (%)

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週 4 回以上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年に数回				
今回調査	8,960	0.5	1.5	1.7	2.4	1.5	7.5	73.3	19.2	
令和4年度調査	8,342	0.5	1.3	1.7	1.9	1.3	6.7	71.3	22.0	
認定別	一般高齢者	7,869	0.4	0.6	0.8	2.0	1.4	5.3	76.1	18.6
	要支援認定者	1,057	1.3	7.9	8.2	4.8	1.5	23.7	52.0	24.2
性別	男性	3,939	0.3	0.8	1.1	1.2	0.9	4.2	79.9	15.8
	女性	4,987	0.7	2.0	2.2	3.3	1.9	10.1	68.0	21.9
年齢階級別	65～69歳	1,713	0.2	0.3	0.5	1.1	0.8	2.8	86.5	10.7
	70～74歳	2,050	0.1	0.6	0.9	1.7	0.9	4.2	81.0	14.8
	75～79歳	2,489	0.6	1.2	1.5	2.9	2.0	8.2	72.9	18.8
	80～84歳	1,658	0.8	2.3	2.7	3.1	2.0	10.9	61.8	27.3
	85～89歳	791	1.4	4.6	4.3	2.9	1.5	14.7	54.7	30.6
	90歳以上	225	1.3	4.0	4.0	5.3	0.4	15.1	55.1	29.8
区域別	堺区	1,604	0.4	1.0	1.8	2.4	1.4	7.0	71.8	21.1
	中区	1,244	0.4	1.7	1.2	2.1	1.2	6.6	74.0	19.4
	東区	908	0.8	1.1	2.2	2.5	1.7	8.3	72.1	19.6
	西区	1,289	0.1	2.2	1.6	2.5	1.2	7.6	72.9	19.5
	南区	1,775	0.7	1.6	1.7	2.6	1.2	7.9	73.5	18.6
	北区	1,665	0.7	1.3	1.7	2.0	1.1	6.8	75.7	17.5
	美原区	441	0.2	0.7	2.5	2.9	4.8	11.1	69.4	19.5

※網掛け■は最も割合が高いもの

⑥ 老人クラブ

老人クラブについては、「参加していない」が73.8%で最も高く、次いで「年に数回」が3.3%、「月1～3回」が2.3%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

認定状況別でみると、『参加している』では、一般高齢者が6.5%、要支援認定者が11.4%です。

性別でみると、『参加している』では、男性が6.4%、女性が7.6%です。

年齢階級別でみると、『参加している』では、89歳以下で年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、85～89歳が13.9%で最も高い状況です。

区域別でみると、『参加している』では、美原区が11.8%で最も高い状況です。

図表 2-6-6 地域の会・グループ等への参加頻度 老人クラブ

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
今回調査	8,960	0.4	0.3	0.8	2.3	3.3	7.1	73.8	19.2	
令和4年度調査	8,342	0.4	0.5	0.7	1.8	3.1	6.5	71.1	22.5	
認定別	一般高齢者	7,869	0.3	0.3	0.7	2.0	3.1	6.5	75.4	18.1
	要支援認定者	1,057	0.9	0.4	1.2	4.1	4.8	11.4	61.0	27.6
性別	男性	3,939	0.4	0.4	0.6	1.8	3.3	6.4	78.2	15.4
	女性	4,987	0.4	0.3	0.9	2.7	3.2	7.6	70.2	22.3
年齢階級別	65～69歳	1,713	0.0	0.1	0.0	0.7	1.5	2.3	87.0	10.7
	70～74歳	2,050	0.2	0.2	0.5	1.2	2.4	4.5	80.9	14.5
	75～79歳	2,489	0.3	0.3	0.8	2.5	3.6	7.6	73.5	18.9
	80～84歳	1,658	0.7	0.7	1.4	3.4	4.5	10.7	62.6	26.7
	85～89歳	791	1.3	0.6	1.9	5.1	5.1	13.9	54.9	31.2
	90歳以上	225	0.9	0.0	0.4	4.0	4.9	10.2	57.3	32.4
区域別	堺区	1,604	0.3	0.2	0.6	2.1	2.8	5.9	73.0	21.1
	中区	1,244	0.3	0.2	0.4	2.6	3.1	6.7	74.4	18.9
	東区	908	0.2	0.0	0.4	1.5	3.1	5.3	74.2	20.5
	西区	1,289	0.5	0.6	1.0	1.5	2.9	6.6	74.0	19.4
	南区	1,775	0.5	0.5	1.0	2.9	3.4	8.3	73.4	18.3
	北区	1,665	0.4	0.4	0.8	2.8	2.9	7.2	75.3	17.5
	美原区	441	0.5	0.5	1.6	1.8	7.5	11.8	67.8	20.4

※網掛け■は最も割合が高いもの

⑦ 町内会・自治会

町内会・自治会については、「参加していない」が59.5%で最も高く、次いで「年に数回」が15.8%、「月1～3回」が5.0%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

認定状況別で見ると、『参加している』では、一般高齢者が23.6%で、要支援認定者（15.1%）より8.5ポイント高い状況です。

性別で見ると、『参加している』では、男性が22.7%、女性が22.6%です。

年齢階級別で見ると、『参加している』では、70～74歳が24.7%で最も高い状況です。

区域別で見ると、『参加している』では、美原区が29.3%で最も高い状況です。

図表 2-6-7 地域の会・グループ等への参加頻度 町内会・自治会

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回				
今回調査	8,960	0.6	0.4	0.7	5.0	15.8	22.6	59.5	17.9	
令和4年度調査	8,342	0.4	0.4	0.6	4.6	14.6	20.6	57.9	21.5	
認定別	一般高齢者	7,869	0.7	0.5	0.6	5.3	16.6	23.6	59.7	16.7
	要支援認定者	1,057	0.4	0.2	1.3	2.9	10.3	15.1	57.5	27.3
性別	男性	3,939	0.8	0.6	0.7	5.1	15.6	22.7	63.5	13.8
	女性	4,987	0.5	0.4	0.7	4.9	16.0	22.6	56.2	21.2
年齢階級別	65～69歳	1,713	0.6	0.5	0.4	5.2	17.1	23.8	67.0	9.2
	70～74歳	2,050	0.6	0.2	0.7	5.6	17.5	24.7	62.6	12.6
	75～79歳	2,489	0.4	0.5	0.7	5.5	16.4	23.5	58.5	18.0
	80～84歳	1,658	0.9	0.6	1.1	4.6	14.5	21.7	53.4	25.0
	85～89歳	791	0.8	0.5	0.9	2.5	12.6	17.3	50.4	32.2
	90歳以上	225	0.4	0.0	0.0	4.0	6.7	11.1	58.2	30.7
区域別	堺区	1,604	1.0	0.2	1.0	4.9	13.5	20.6	60.0	19.5
	中区	1,244	0.6	0.6	0.6	6.2	17.4	25.3	57.4	17.3
	東区	908	0.6	0.4	0.3	4.5	16.2	22.0	59.8	18.2
	西区	1,289	0.6	0.8	0.8	4.7	13.6	20.4	60.2	19.4
	南区	1,775	0.5	0.2	0.6	5.4	19.3	25.9	57.4	16.7
	北区	1,665	0.6	0.6	0.7	4.6	13.0	19.4	63.8	16.8
	美原区	441	0.5	0.5	1.1	4.3	22.9	29.3	51.7	19.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

⑧ 収入のある仕事

収入のある仕事については、「参加していない」が 57.6%で最も高く、次いで「週 4 回以上」が 14.2%、「週 2～3 回」が 6.6%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、『参加している』（24.8%）では、令和 4（2022）年度調査（21.9%）より 2.9 ポイント増加しています。

認定状況別で見ると、『参加している』では、一般高齢者が 27.6%で、要支援認定者（4.2%）より 23.4 ポイント高い状況です。

性別で見ると、『参加している』では、男性が 31.7%で、女性（19.3%）より 12.4 ポイント高い状況です。

年齢階級別で見ると、『参加している』では、年齢階級が上がるにつれて割合が減少しており、65～69 歳が 50.8%で最も高い状況です。

区域別で見ると、『参加している』では、堺区が 28.4%で最も高い状況です。

図表 2-6-8 地域の会・グループ等への参加頻度 収入のある仕事

単位：実数（人）、構成比（%）

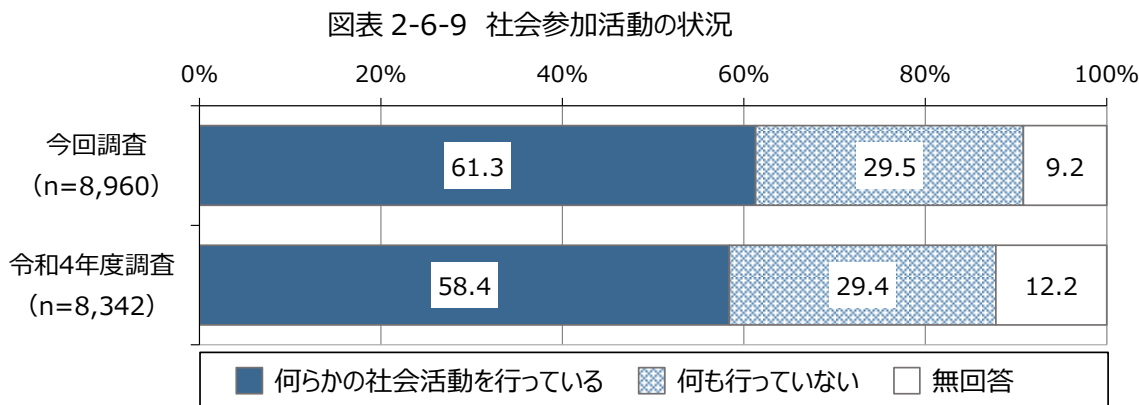
	合計	参加頻度					参加している	参加していない	無回答	
		週 4 回以上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年に数回				
今回調査	8,960	14.2	6.6	1.3	1.5	1.2	24.8	57.6	17.6	
令和4年度調査	8,342	12.0	6.3	1.2	1.5	0.9	21.9	57.4	20.8	
認定別	一般高齢者	7,869	15.8	7.4	1.4	1.6	1.3	27.6	56.4	16.0
	要支援認定者	1,057	1.8	0.9	0.3	0.8	0.4	4.2	65.8	30.0
性別	男性	3,939	19.5	7.4	1.4	1.6	1.8	31.7	55.0	13.3
	女性	4,987	10.0	6.0	1.2	1.4	0.7	19.3	59.5	21.2
年齢階級別	65～69歳	1,713	34.0	11.9	1.7	1.9	1.3	50.8	41.9	7.4
	70～74歳	2,050	18.3	9.8	1.7	2.0	1.5	33.2	55.5	11.3
	75～79歳	2,489	9.0	5.6	1.6	1.6	1.4	19.2	63.8	17.0
	80～84歳	1,658	3.9	2.4	0.6	1.0	1.0	8.8	64.1	27.1
	85～89歳	791	2.1	1.1	0.3	0.1	0.3	3.9	62.1	34.0
	90歳以上	225	0.9	0.0	0.0	0.4	1.3	2.7	61.8	35.6
区域別	堺区	1,604	16.5	7.4	1.4	1.3	1.8	28.4	53.4	18.1
	中区	1,244	15.2	7.1	1.2	1.0	1.0	25.5	56.8	17.8
	東区	908	10.9	6.3	1.2	1.9	1.2	21.5	59.6	18.9
	西区	1,289	15.2	6.7	1.9	1.6	1.2	26.5	55.1	18.4
	南区	1,775	12.6	6.1	1.0	1.4	1.1	22.3	61.1	16.6
	北区	1,665	14.0	6.2	1.1	1.7	1.0	23.9	59.4	16.7
	美原区	441	13.4	7.3	1.4	1.6	1.4	24.9	55.8	19.3

※網掛け■は最も割合が高いもの

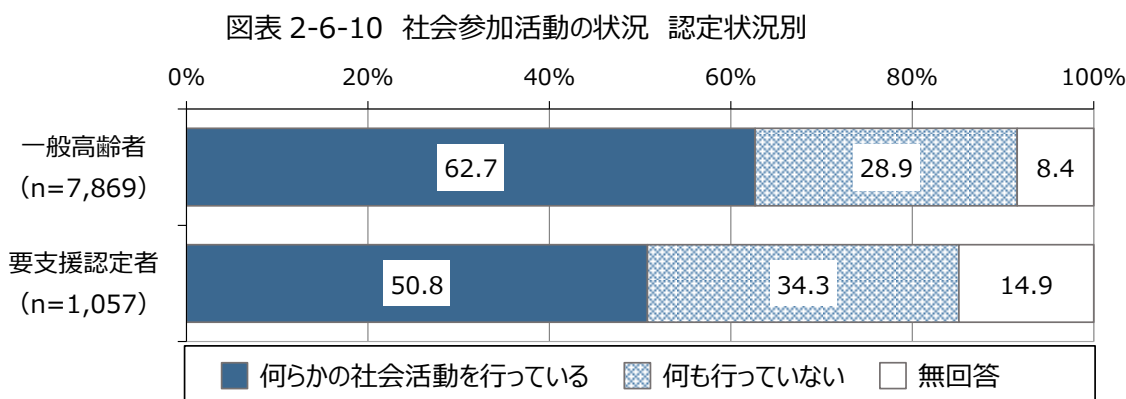
⑨ 社会参加活動の状況

上記①～⑧について、「何らかの社会活動を行っている」（①～⑧いずれかに年に数回以上の参加）人の割合は 61.3%、「何も行っていない」（①～⑧いずれも参加していない）人の割合は 29.5%です。

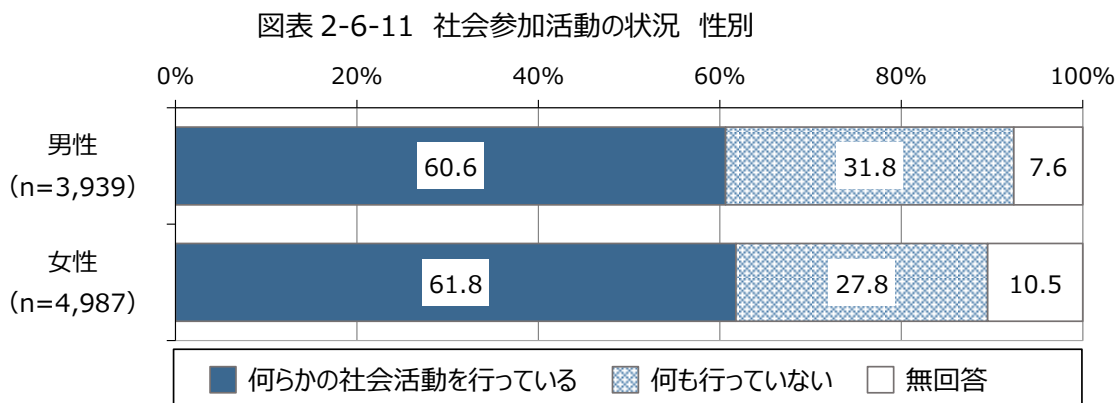
令和 4（2022）年度調査と比較すると、「何らかの社会活動を行っている」（61.3%）では、令和 4（2022）年度調査（58.4%）より 2.9 ポイント増加しています。



認定状況別でみると、「何らかの社会活動を行っている」では、一般高齢者が 62.7%で、要支援認定者（50.8%）より 11.9 ポイント高い状況です。

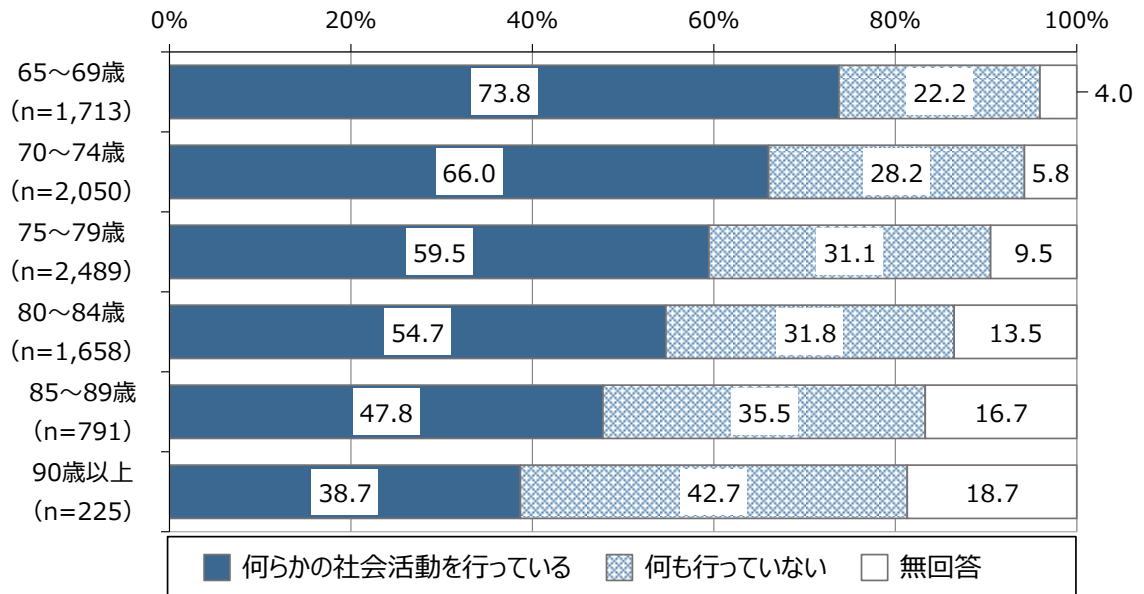


性別でみると、「何らかの社会活動を行っている」では、男性が 60.6%、女性が 61.8%です。



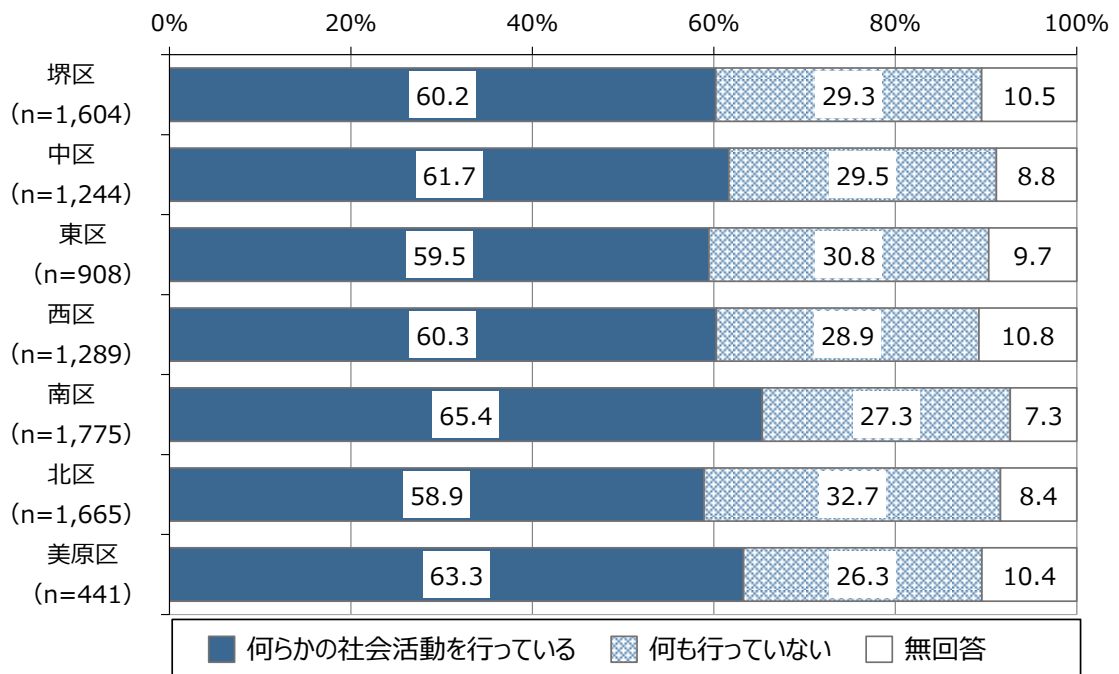
年齢階級別でみると、「何らかの社会活動を行っている」では、年齢階級が上がるにつれて割合が減少しており、90歳以上が38.7%で最も低い状況です。

図表 2-6-12 社会参加活動の状況 年齢階級別



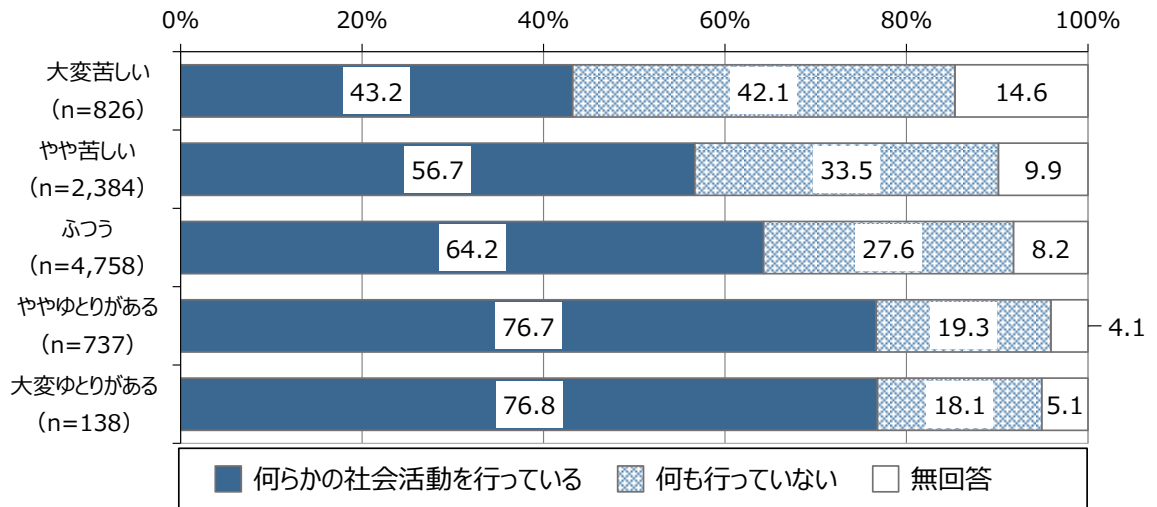
区域別でみると、「何らかの社会活動を行っている」では、南区が65.4%で最も高い状況です。

図表 2-6-13 社会参加活動の状況 区域別



現在の暮らしの経済的状況別でみると、「何らかの社会活動を行っている」では、ゆとりがあると感じる度合いが強くなるにつれて割合が増加しており、「大変ゆとりがある」が76.8%で最も高い状況です。

図表 2-6-14 社会参加活動の状況 現在の暮らしの経済的状況別



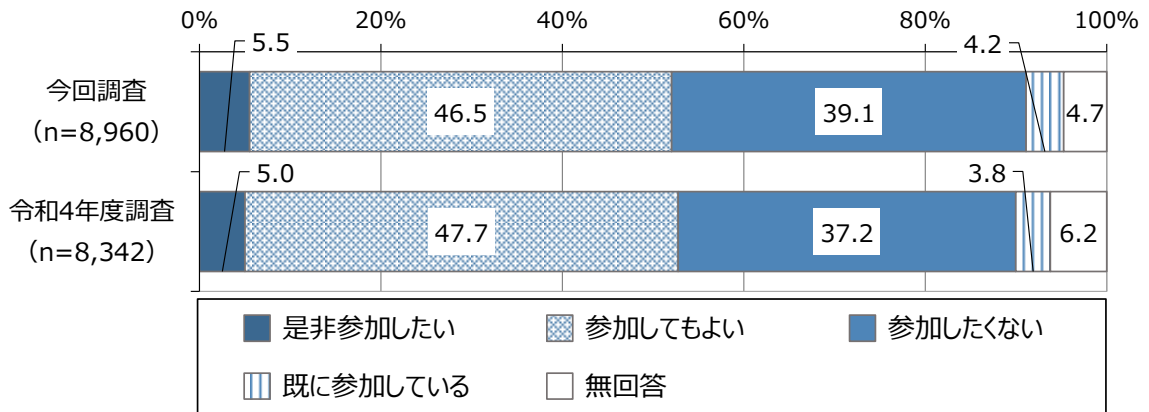
(2) 地域住民のグループ活動に参加者として参加したいか

問 5 (2)	地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか（○はひとつ）
------------	--

地域住民のグループ活動に参加者として参加したいかについては、「参加してもよい」が 46.5%で最も高く、次いで「参加したくない」が 39.1%、「是非参加したい」が 5.5%と続いています。

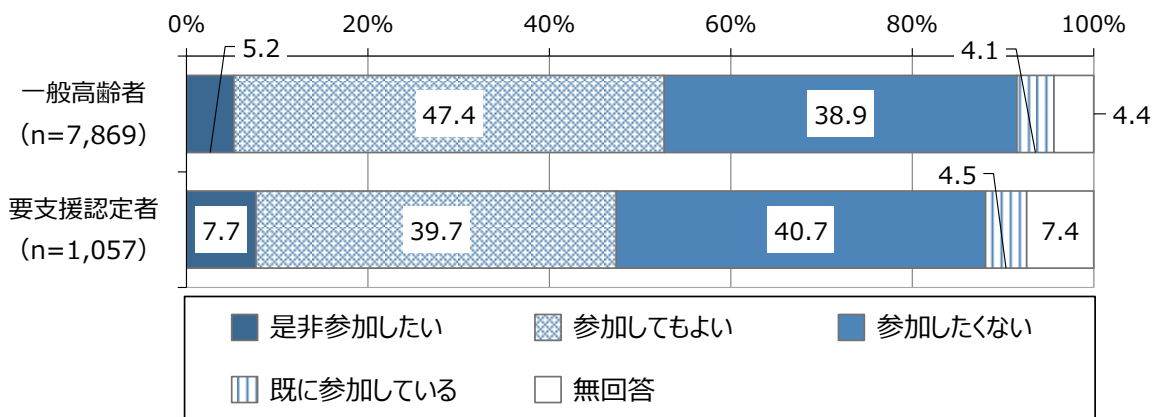
令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-6-15 地域住民のグループ活動に参加者として参加したいか



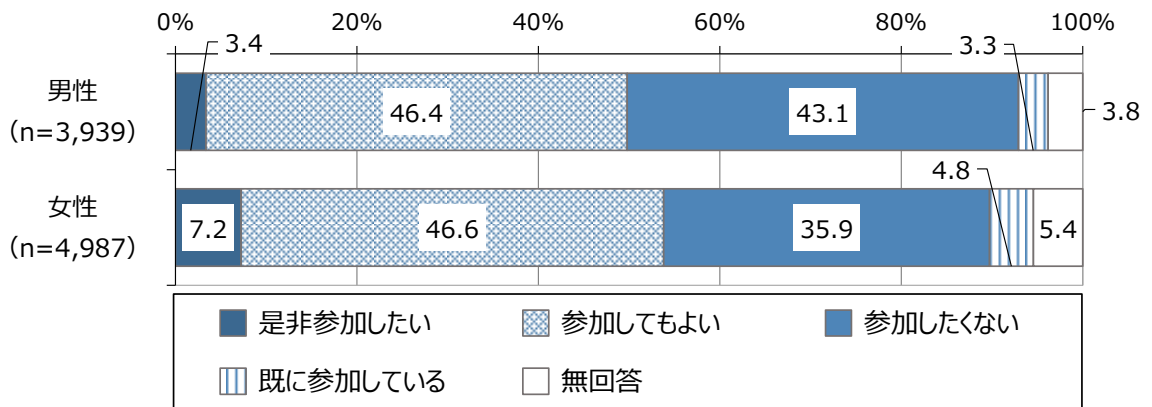
認定状況別でみると、『参加意向がある』（「是非参加したい」と「参加してもよい」、「既に参加している」の合計）は、一般高齢者が 56.7%で、要支援認定者（51.9%）より 4.8 ポイント高い状況です。

図表 2-6-16 地域住民のグループ活動に参加者として参加したいか 認定状況別



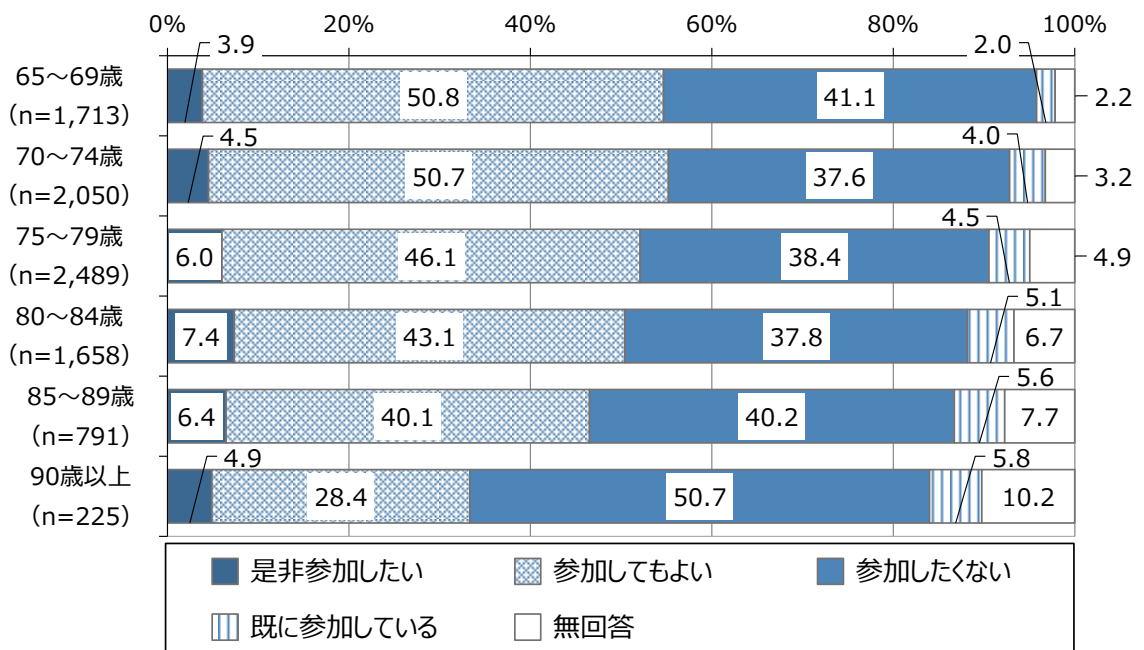
性別でみると、『参加意向がある』は、女性が 58.6%で、男性（53.1%）より 5.5 ポイント高い状況です。

図表 2-6-17 地域住民のグループ活動に参加者として参加したいか 性別



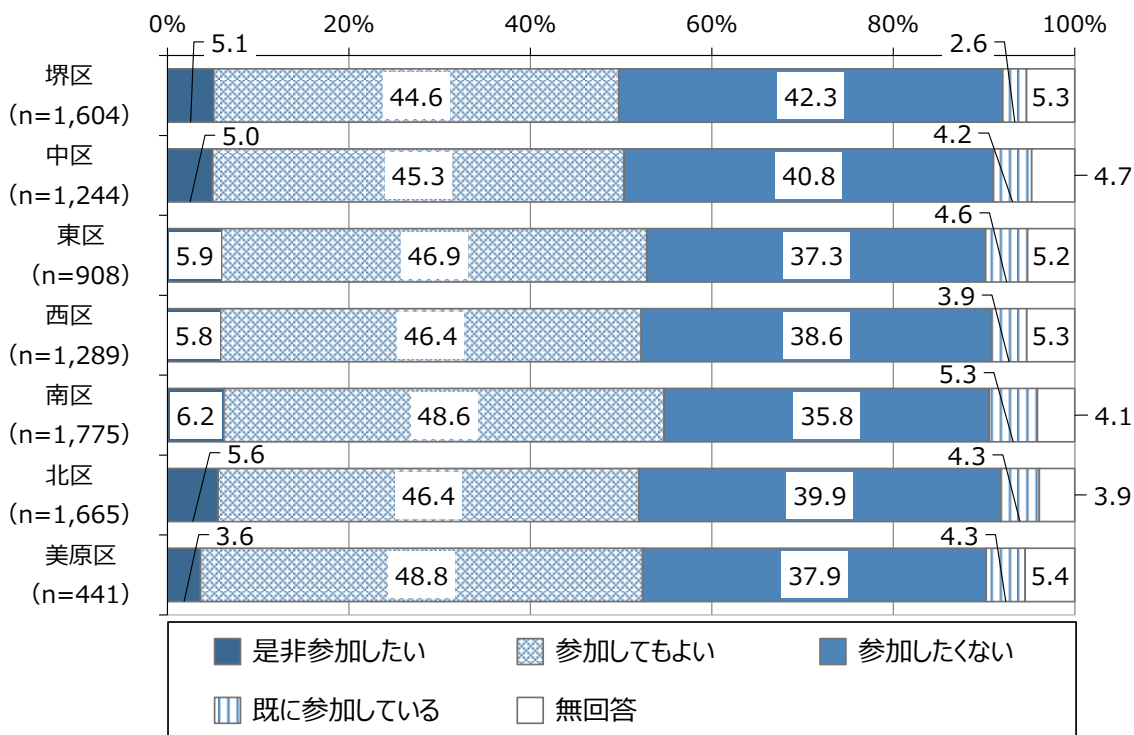
年齢階級別でみると、『参加意向がある』は、70～74 歳が 59.2%で最も高い状況です。

図表 2-6-18 地域住民のグループ活動に参加者として参加したいか 年齢階級別



区域別でみると、『参加意向がある』は、南区が60.1%で最も高い状況です。

図表 2-6-19 地域住民のグループ活動に参加者として参加したいか 区域別



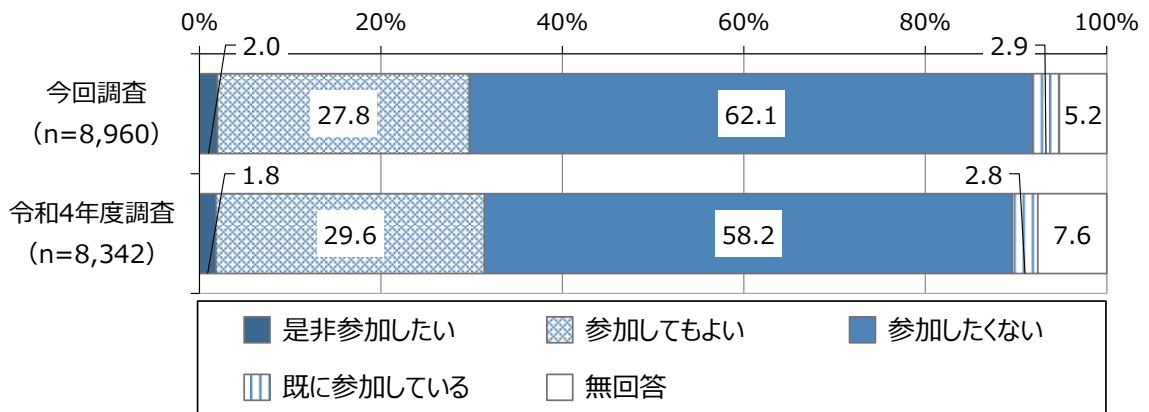
(3) 地域住民のグループ活動に企画・運営（世話役）として参加したいか

問 5 (3)	地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか（○はひとつ）
------------	--

地域住民のグループ活動に企画・運営（世話役）として参加したいかについては、「参加したくない」が62.1%で最も高く、次いで「参加してもよい」が27.8%、「既に参加している」が2.9%と続いています。

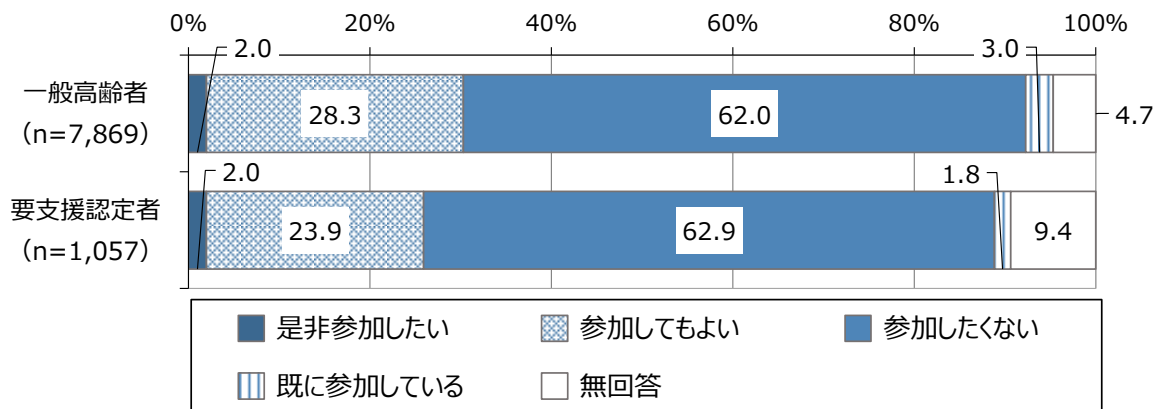
令和4（2022）年度調査と比較すると、「参加したくない」（62.1%）では、令和4（2022）年度調査（58.2%）より3.9ポイント増加しています。

図表 2-6-20 地域住民のグループ活動に企画・運営（世話役）として参加したいか



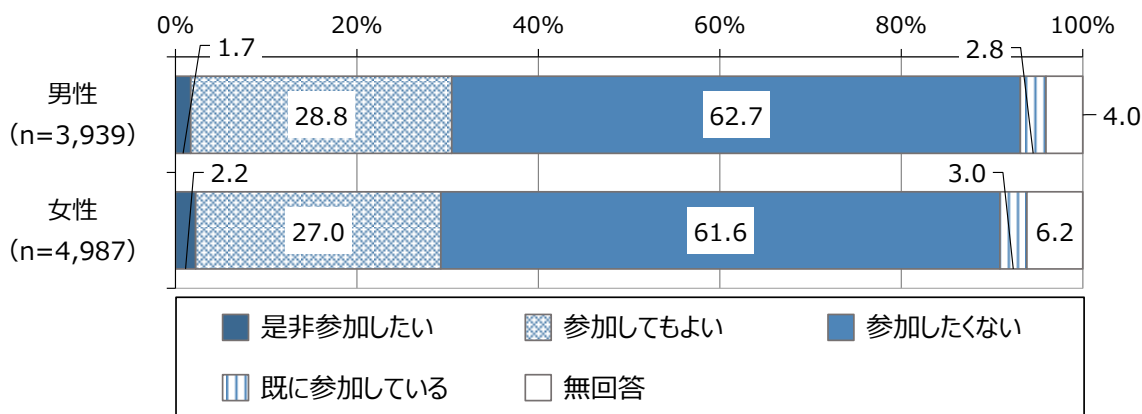
認定状況別でみると、『参加意向がある』は、一般高齢者が33.3%で、要支援認定者（27.7%）より5.6ポイント高い状況です。

図表 2-6-21 地域住民のグループ活動に企画・運営（世話役）として参加したいか 認定状況別



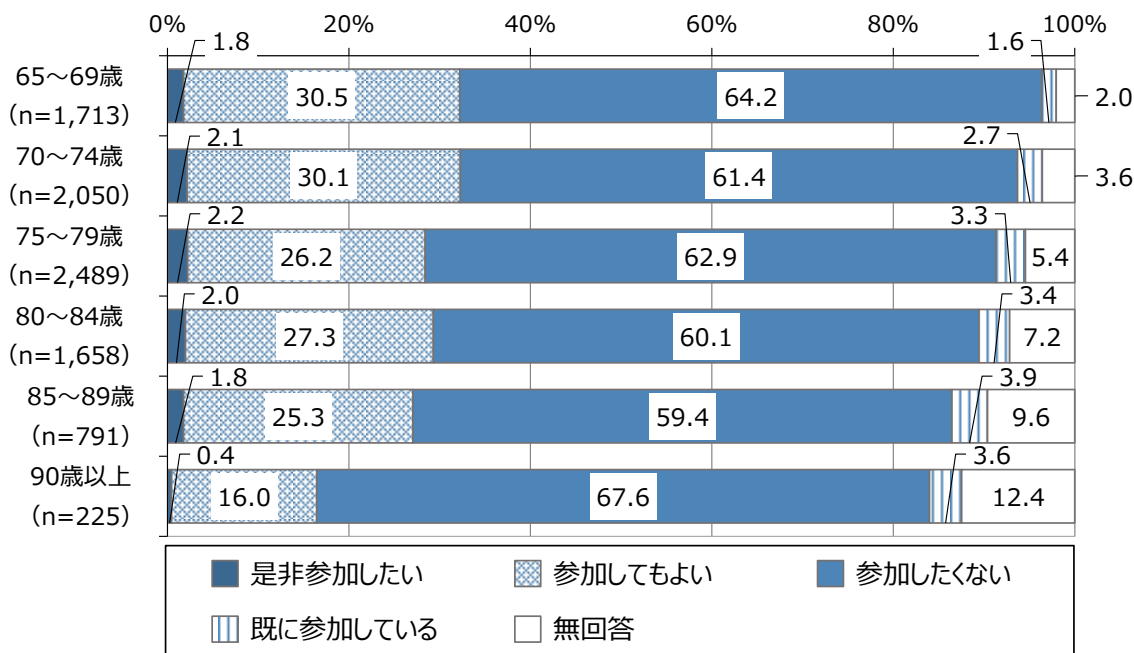
性別でみると、『参加意向がある』は、男性が 33.3%、女性が 32.2%です。

図表 2-6-22 地域住民のグループ活動に企画・運営（世話役）として参加したいか 性別



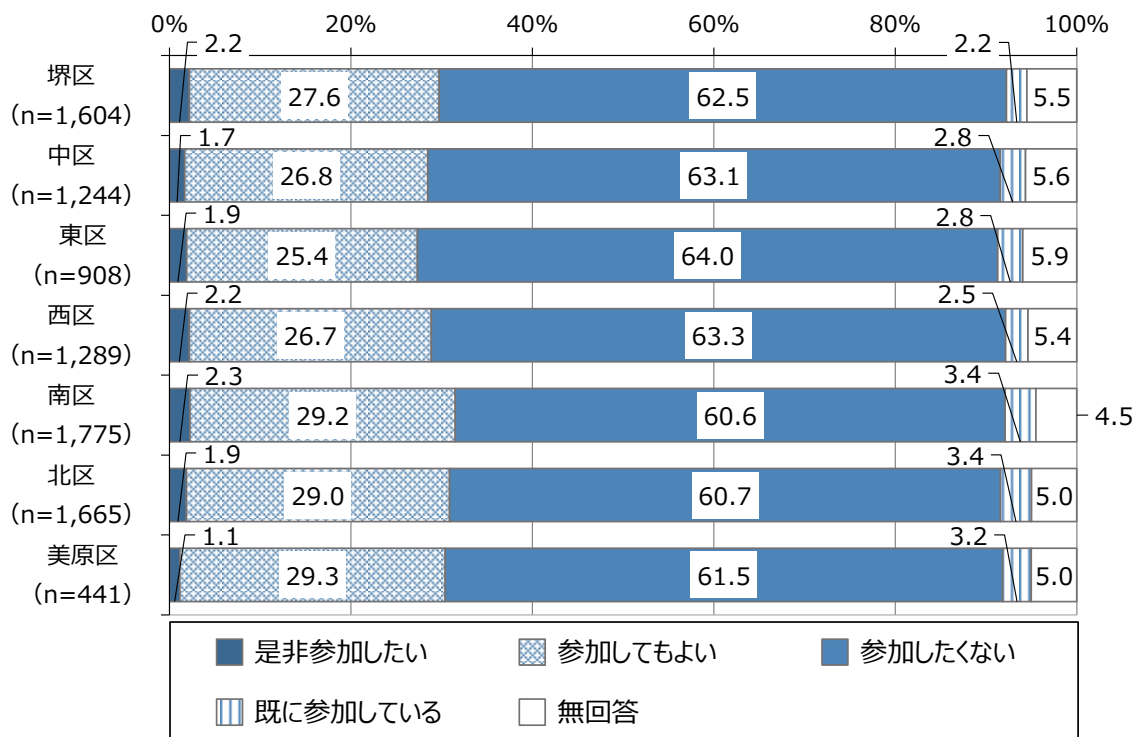
年齢階級別でみると、『参加意向がある』は、70～74 歳が 34.9%で最も高い状況です。

図表 2-6-23 地域住民のグループ活動に企画・運営（世話役）として参加したいか 年齢階級別



区域別でみると、『参加意向がある』は、南区が 34.9%で最も高い状況です。

図表 2-6-24 地域住民のグループ活動に企画・運営（世話役）として参加したいか 区域別



7 たすけあいについて

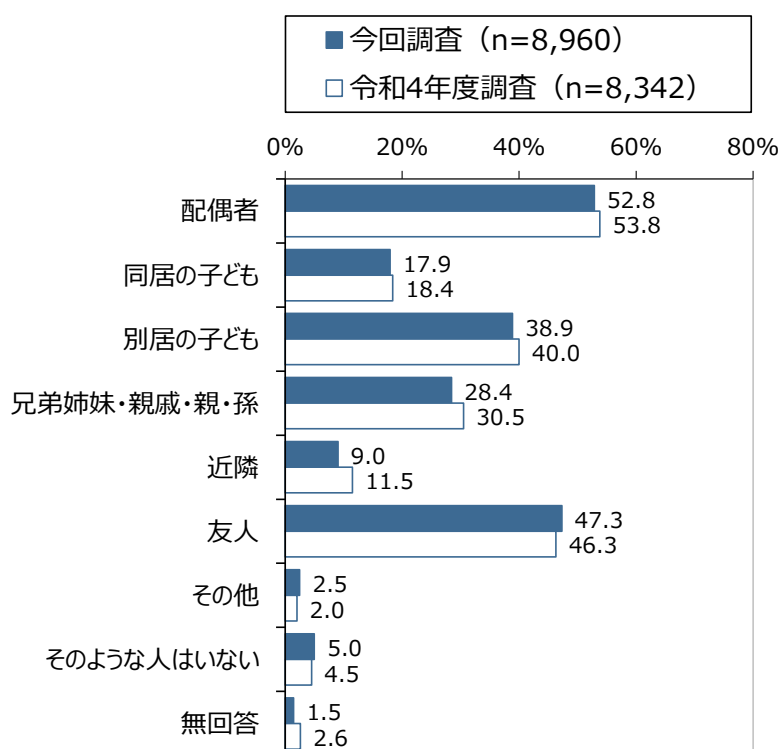
(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

問 6 (1)	あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（○はいくつでも）
------------	---------------------------------

心配事や愚痴を聞いてくれる人については、「配偶者」が 52.8%で最も高く、次いで「友人」が 47.3%、「別居の子ども」が 38.9%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-7-1 心配事や愚痴を聞いてくれる人



認定状況別で見ると、一般高齢者では「配偶者」が 55.8%で最も高く、要支援認定者では「別居の子ども」が 42.2%で最も高い割合を占めています。

性別で見ると、男性では「配偶者」が 69.8%で最も高く、女性では「友人」が 57.3%で最も高い割合を占めています。

年齢階級別で見ると、84 歳以下では「配偶者」の割合が最も高く、85 歳以上では「別居の子ども」が最も高い割合を占めています。

区域別で見ると、「そのような人はいない」では、堺区が 7.2%で最も高い状況です。

図表 2-7-2 心配事や愚痴を聞いてくれる人 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親兄弟・孫姉妹・親戚	近隣	友人	その他	ない	そのような人はいない	無回答
全体		8,960	52.8	17.9	38.9	28.4	9.0	47.3	2.5	5.0	1.5	
認定別	一般高齢者	7,869	55.8	18.2	38.4	28.7	8.5	48.2	2.4	4.8	1.2	
	要支援認定者	1,057	31.0	16.7	42.2	26.2	13.1	40.7	3.1	6.1	2.9	
性別	男性	3,939	69.8	12.8	28.7	20.2	3.5	34.7	2.6	7.4	1.2	
	女性	4,987	39.6	22.1	46.8	35.0	13.4	57.3	2.3	3.1	1.6	
年齢階級別	65～69歳	1,713	61.5	17.0	36.1	29.4	5.8	53.6	4.3	4.8	0.4	
	70～74歳	2,050	58.5	16.7	36.9	32.0	7.9	53.5	2.0	4.2	1.0	
	75～79歳	2,489	54.5	17.2	39.9	29.7	10.5	48.3	1.7	5.0	1.5	
	80～84歳	1,658	46.3	18.6	40.8	24.1	11.3	40.0	2.2	5.7	2.2	
	85～89歳	791	37.2	22.3	41.5	23.5	9.6	36.2	2.5	4.3	2.7	
	90歳以上	225	22.2	26.7	41.3	24.0	8.0	26.2	3.1	9.8	3.6	
区域別	堺区	1,604	48.5	20.0	34.7	27.9	8.6	44.3	3.1	7.2	2.5	
	中区	1,244	55.5	16.4	40.1	27.8	11.0	47.7	2.5	3.9	1.4	
	東区	908	54.4	17.6	38.0	26.3	9.7	48.6	2.1	5.2	2.0	
	西区	1,289	52.7	19.2	37.9	29.3	8.3	49.0	2.6	5.3	1.2	
	南区	1,775	55.9	16.1	41.9	28.0	9.7	49.2	2.0	4.3	1.0	
	北区	1,665	49.5	17.8	38.9	29.6	7.9	46.7	2.8	4.5	0.8	
	美原区	441	59.4	20.6	42.2	31.5	6.8	44.7	1.1	2.9	1.4	

※網掛け■は最も割合が高いもの

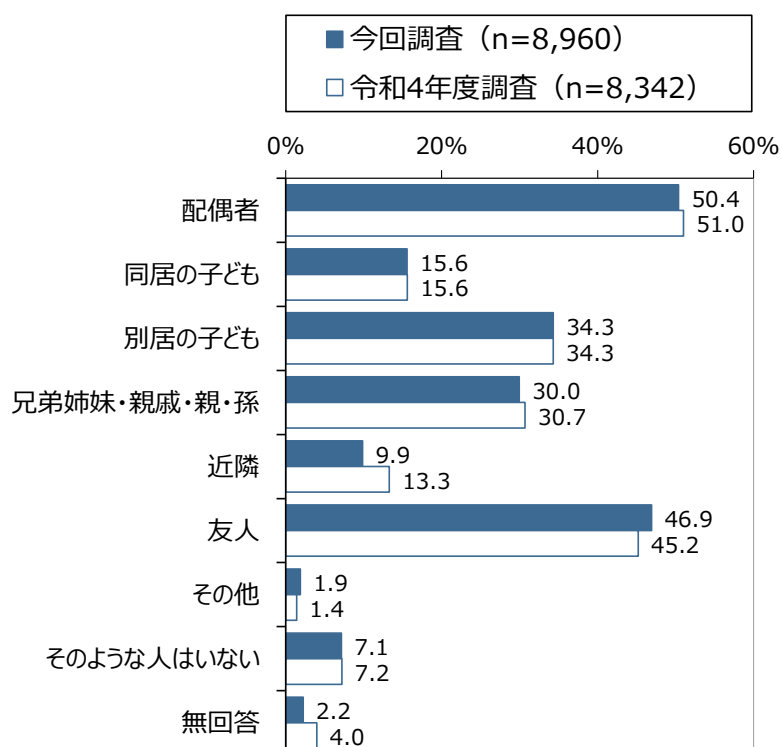
(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人

問 6 (2)	反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（○はいくつでも）
------------	-------------------------------------

心配事や愚痴を聞いてあげる人については、「配偶者」が 50.4%で最も高く、次いで「友人」が 46.9%、「別居の子ども」が 34.3%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「近隣」（9.9%）では、令和 4（2022）年度調査（13.3%）より 3.4 ポイント減少しています。

図表 2-7-3 心配事や愚痴を聞いてあげる人



認定状況別でみると、一般高齢者では「配偶者」が 53.5%で最も高く、要支援認定者では「友人」が 40.2%で最も高い割合を占めています。

性別でみると、男性では「配偶者」が 67.8%で最も高く、女性では「友人」が 57.8%で最も高い割合を占めています。

年齢階級別でみると、84 歳以下では「配偶者」の割合が最も高く、85 歳以上では「友人」が最も高い割合を占めています。

区域別でみると、「そのような人はいない」では、堺区が 10.3%で最も高い状況です。

図表 2-7-4 心配事や愚痴を聞いてあげる人 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親兄弟・孫姉妹・親戚	近隣	友人	その他	ない	そのような人はいない	無回答
全体		8,960	50.4	15.6	34.3	30.0	9.9	46.9	1.9	7.1	2.2	
認定別	一般高齢者	7,869	53.5	16.0	35.0	30.8	9.6	47.8	1.9	6.4	1.9	
	要支援認定者	1,057	27.6	12.8	28.9	23.7	12.2	40.2	1.9	12.9	4.7	
性別	男性	3,939	67.8	12.0	28.4	21.8	4.4	33.2	1.9	9.3	1.8	
	女性	4,987	36.7	18.4	39.0	36.4	14.2	57.8	1.8	5.4	2.6	
年齢階級別	65～69歳	1,713	60.7	17.3	37.7	33.0	7.2	53.7	4.0	5.3	0.4	
	70～74歳	2,050	56.9	15.1	35.3	33.4	8.8	53.0	1.6	5.5	1.1	
	75～79歳	2,489	51.0	14.4	35.0	31.2	11.8	48.0	1.1	6.6	2.2	
	80～84歳	1,658	42.8	15.0	32.4	25.6	12.2	39.3	1.6	8.7	3.7	
	85～89歳	791	34.1	16.4	28.4	23.0	8.2	35.0	1.5	10.5	4.9	
	90歳以上	225	20.9	21.8	26.7	18.7	7.1	27.1	0.4	18.2	6.7	
区域別	堺区	1,604	45.9	17.1	30.6	28.4	9.0	45.2	2.5	10.3	3.2	
	中区	1,244	53.2	14.5	34.6	29.2	10.5	47.4	1.4	5.1	2.4	
	東区	908	51.3	14.2	36.6	28.1	11.8	48.0	2.2	5.7	2.6	
	西区	1,289	50.6	17.4	34.3	31.3	9.6	48.3	2.2	7.1	1.6	
	南区	1,775	53.3	14.7	36.5	29.2	10.5	47.8	1.6	6.9	2.0	
	北区	1,665	48.2	15.0	33.1	31.4	9.3	47.2	1.6	6.6	1.7	
	美原区	441	54.0	16.6	37.6	34.7	7.9	41.3	1.4	7.3	2.5	

※網掛け■は最も割合が高いもの

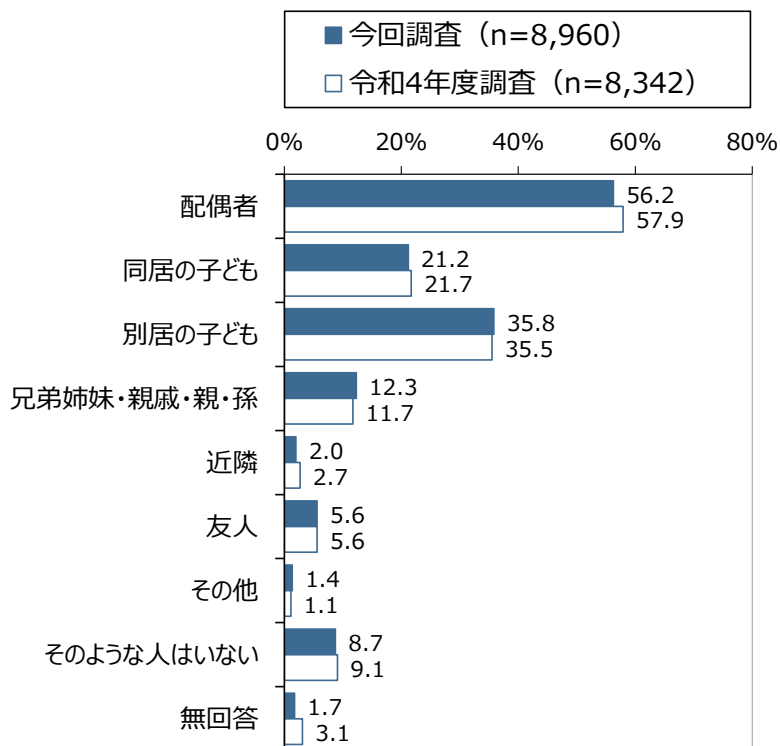
(3) 看病や世話をしてくれる人

問 6 (3)	あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人 (○はいくつでも)
------------	---

看病や世話をしてくれる人については、「配偶者」が 56.2%で最も高く、次いで「別居の子ども」が 35.8%、「同居の子ども」が 21.2%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-7-5 看病や世話をしてくれる人



認定状況別で見ると、一般高齢者では「配偶者」が 59.5%で最も高く、要支援認定者では「別居の子ども」が 42.1%で最も高い割合を占めています。

性別で見ると、「配偶者」では、男性が 73.5%で、女性（42.7%）より 30.8 ポイント高い状況です。

年齢階級別で見ると、84 歳以下では「配偶者」の割合が最も高く、85 歳以上では「別居の子ども」が最も高い割合を占めています。

区域別で見ると、「そのような人はいない」では、堺区が 11.2%で最も高い状況です。

図表 2-7-6 看病や世話をしてくれる人 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親兄弟・孫姉妹・親戚	近隣	友人	その他	ないような人はい	無回答
全体		8,960	56.2	21.2	35.8	12.3	2.0	5.6	1.4	8.7	1.7
認定別	一般高齢者	7,869	59.5	21.4	35.0	12.4	1.7	5.5	1.1	8.1	1.4
	要支援認定者	1,057	32.4	20.1	42.1	11.8	3.8	6.1	2.9	12.8	3.8
性別	男性	3,939	73.5	15.9	27.6	9.3	0.8	2.9	1.1	8.9	1.1
	女性	4,987	42.7	25.4	42.5	14.7	2.9	7.7	1.5	8.5	2.2
年齢階級別	65～69歳	1,713	67.0	19.9	27.9	13.1	0.9	5.1	1.3	8.3	0.5
	70～74歳	2,050	64.0	19.7	32.1	12.9	1.5	6.3	0.5	8.8	1.0
	75～79歳	2,489	57.7	19.5	38.3	13.1	2.4	6.3	1.2	8.6	1.6
	80～84歳	1,658	47.6	22.5	41.6	10.4	3.2	4.6	1.8	8.7	2.7
	85～89歳	791	36.4	27.7	42.0	10.1	2.1	4.9	2.5	9.4	3.9
	90歳以上	225	23.1	32.4	40.9	12.0	1.3	4.0	4.0	8.9	3.6
区域別	堺区	1,604	51.4	22.3	31.1	13.6	1.7	5.5	1.6	11.2	2.6
	中区	1,244	59.6	20.7	38.6	11.6	2.2	5.5	1.1	6.7	1.8
	東区	908	56.4	21.1	36.3	11.5	3.0	5.2	1.1	8.0	2.3
	西区	1,289	55.5	22.9	35.1	12.8	1.9	5.7	1.6	9.1	1.2
	南区	1,775	60.0	19.6	38.5	10.3	2.1	5.7	1.2	8.3	1.0
	北区	1,665	53.9	20.5	35.8	13.0	1.8	6.0	1.4	9.3	1.6
	美原区	441	60.8	23.4	36.7	15.0	1.1	4.1	0.9	4.5	2.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

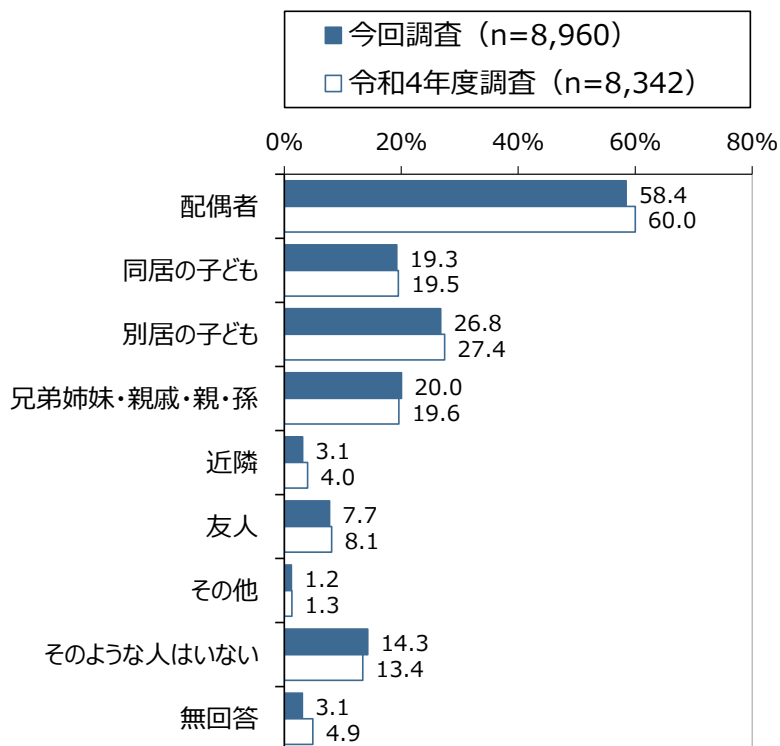
(4) 看病や世話をしあける人

問 6 (4)	反対に、看病や世話をしあける人 (○はいくつでも)
------------	---------------------------

看病や世話をしあける人については、「配偶者」が 58.4%で最も高く、次いで「別居の子ども」が 26.8%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 20.0%と続いています。

令和 4 (2022) 年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-7-7 看病や世話をしあける人



認定状況別で見ると、「そのような人はいない」では、要支援認定者が 30.0%で、一般高齢者（12.2%）より 17.8 ポイント高い状況です。

性別で見ると、「配偶者」では、男性が 71.6%で、女性（48.1%）より 23.5 ポイント高い状況です。

年齢階級別で見ると、「そのような人はいない」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90 歳以上が 38.7%で最も高い状況です。

区域別で見ると、「そのような人はいない」では、堺区が 17.0%で最も高い状況です。

図表 2-7-8 看病や世話をしあける人 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親兄弟・孫・姉妹・親戚・	近隣	友人	その他	な	そ	無
										い	の	回
										よ	う	答
										な	な	
										い	い	
										は	い	
										い		
全体		8,960	58.4	19.3	26.8	20.0	3.1	7.7	1.2	14.3		3.1
別認定	一般高齢者	7,869	61.7	20.1	28.2	21.1	3.1	7.7	1.0	12.2		2.5
	要支援認定者	1,057	34.5	13.0	16.3	11.8	3.0	7.6	2.5	30.0		7.8
性別	男性	3,939	71.6	15.1	20.2	15.1	1.1	3.6	0.9	14.4		1.9
	女性	4,987	48.1	22.6	32.0	24.0	4.7	11.0	1.5	14.2		4.1
年齢階級別	65～69歳	1,713	67.8	21.8	29.9	29.2	1.6	6.2	1.4	10.5		0.4
	70～74歳	2,050	64.7	20.0	29.0	23.2	3.2	8.5	0.7	11.5		1.7
	75～79歳	2,489	61.3	17.6	29.2	19.4	3.6	9.0	0.8	12.2		2.9
	80～84歳	1,658	50.9	18.5	23.0	13.8	4.2	7.9	1.7	17.5		4.7
	85～89歳	791	38.4	19.7	18.0	10.0	2.9	5.4	2.1	22.5		8.6
	90歳以上	225	24.9	17.3	14.2	9.8	0.9	4.0	1.8	38.7		7.6
区域別	堺区	1,604	53.5	20.6	23.1	19.5	2.4	7.7	1.3	17.0		3.8
	中区	1,244	61.2	17.9	30.4	19.8	3.2	7.1	1.1	11.2		3.4
	東区	908	60.0	19.6	28.0	17.0	4.6	6.5	1.0	14.4		3.3
	西区	1,289	57.2	19.8	25.6	21.4	3.3	7.9	1.3	14.8		2.9
	南区	1,775	61.8	18.3	28.6	18.1	3.3	8.2	1.1	13.6		2.6
	北区	1,665	56.5	19.5	25.7	22.8	2.8	8.5	1.6	14.8		2.8
	美原区	441	63.3	19.3	27.9	22.2	2.0	7.0	0.5	11.6		3.2

※網掛け■は最も割合が高いもの

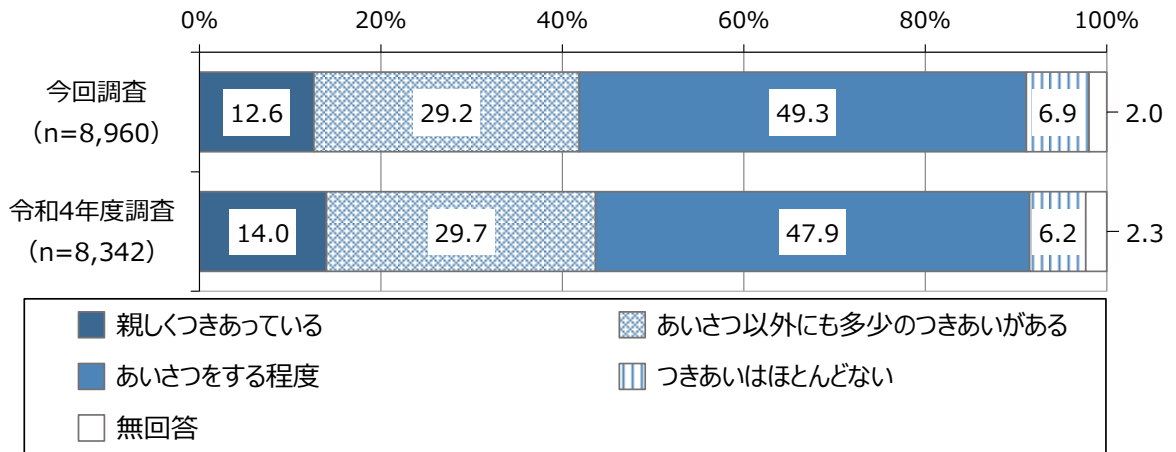
(5) 近所の人との付き合いの程度

問 6 (5)	ふだん、近所の人との程度のつきあいをしていますか（○はひとつ）
------------	---------------------------------

近所の人との付き合いの程度については、「あいさつをする程度」が49.3%で最も高く、次いで「あいさつ以外にも多少のつきあいがある」が29.2%、「親しくつきあっている」が12.6%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

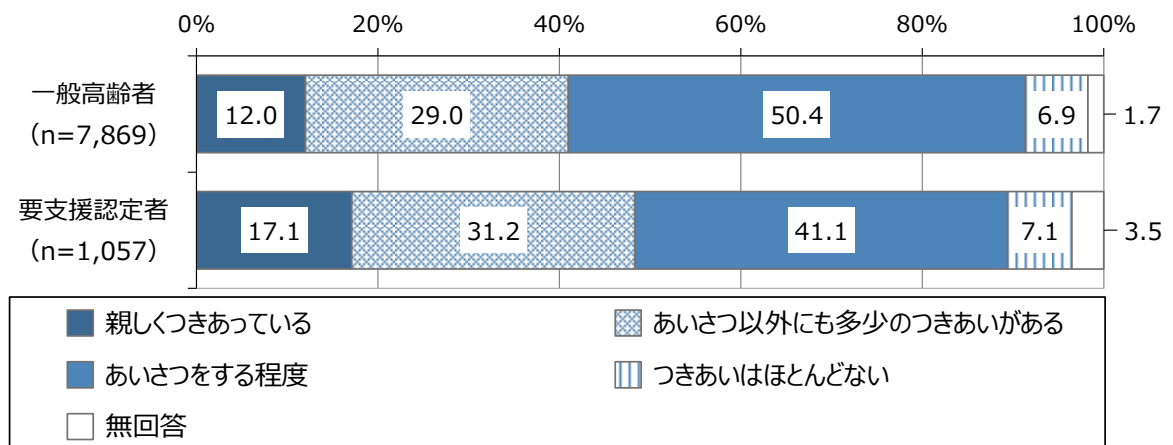
図表 2-7-9 近所の人との付き合いの程度



※ 「あいさつ以外にも多少のつきあいがある」…相手の名前や家族構成を知っていたり、物の貸し借りや趣味を共有しているなど

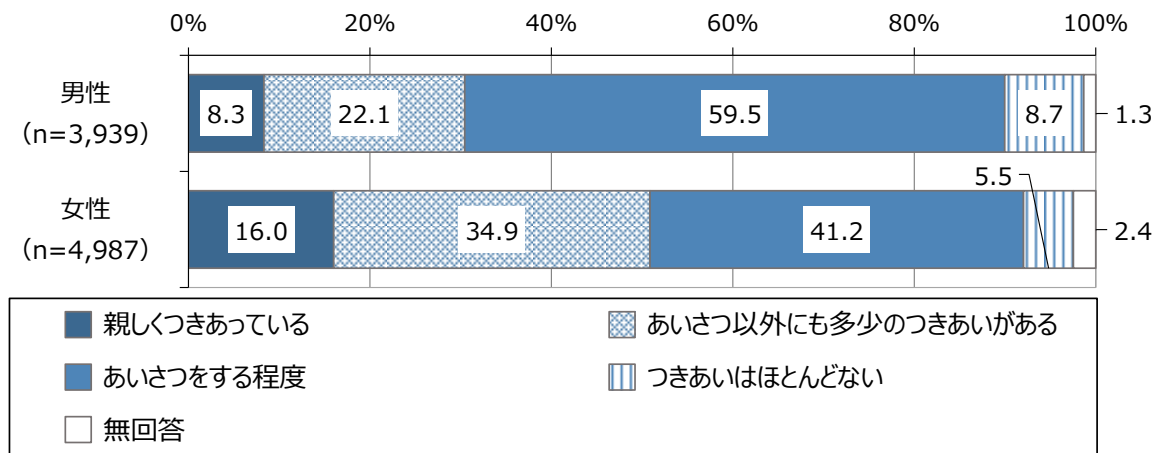
認定状況別でみると、「親しくつきあっている」では、要支援認定者が17.1%で、一般高齢者（12.0%）より5.1ポイント高い状況です。

図表 2-7-10 近所の人との付き合いの程度 認定状況別



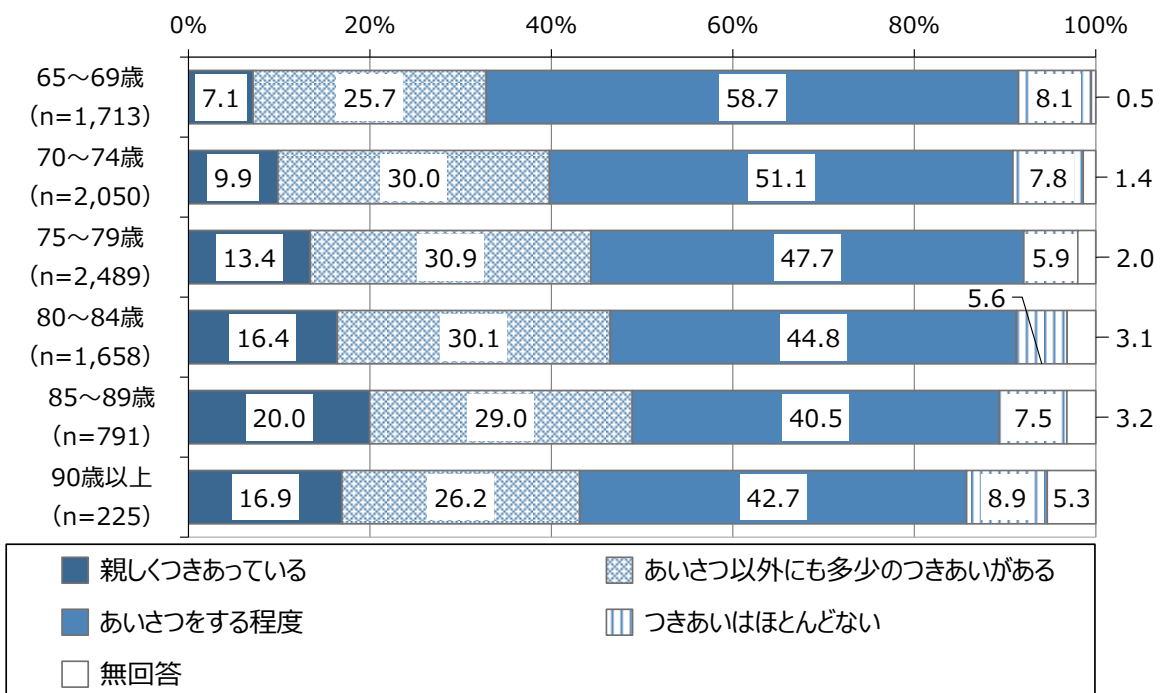
性別でみると、「親しくつきあっている」では、女性が 16.0%で、男性（8.3%）より 7.7 ポイント高い状況です。

図表 2-7-11 近所の人との付き合いの程度 性別



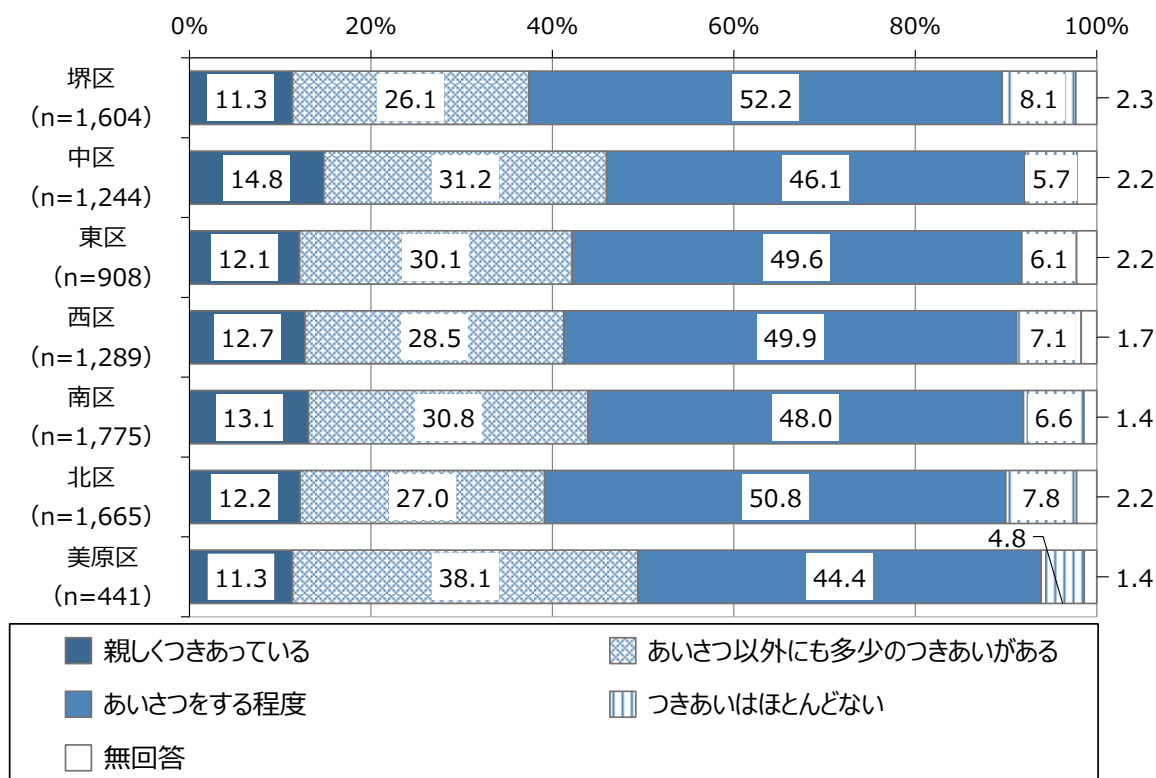
年齢階級別でみると、「つきあいはほとんどない」では、90 歳以上が 8.9%で最も高い状況です。

図表 2-7-12 近所の人との付き合いの程度 年齢階級別



区域別でみると、「つきあいはほとんどない」では、堺区が 8.1%で最も高い状況です。

図表 2-7-13 近所の人との付き合いの程度 区域別

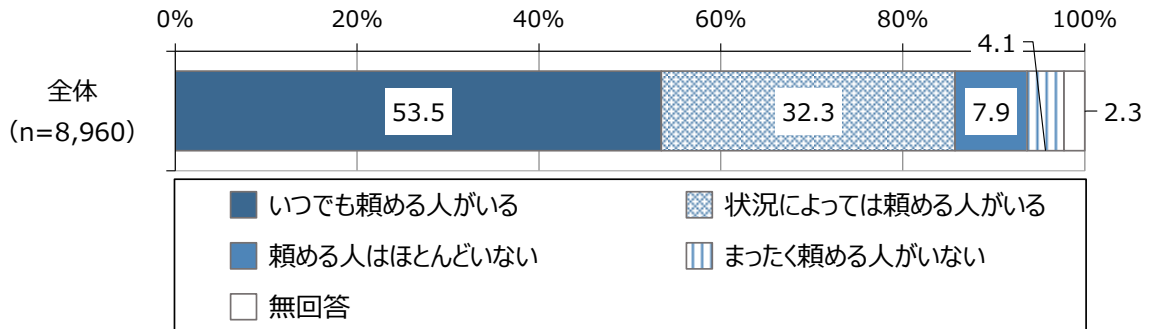


(6) 入院・療養が必要になった場合、身の回りのことを頼める人がいるか

問 6 (6)	病気やけがで入院・療養が必要になった場合、身の回りのことを頼める人はいますか（○はひとつ）
------------	---

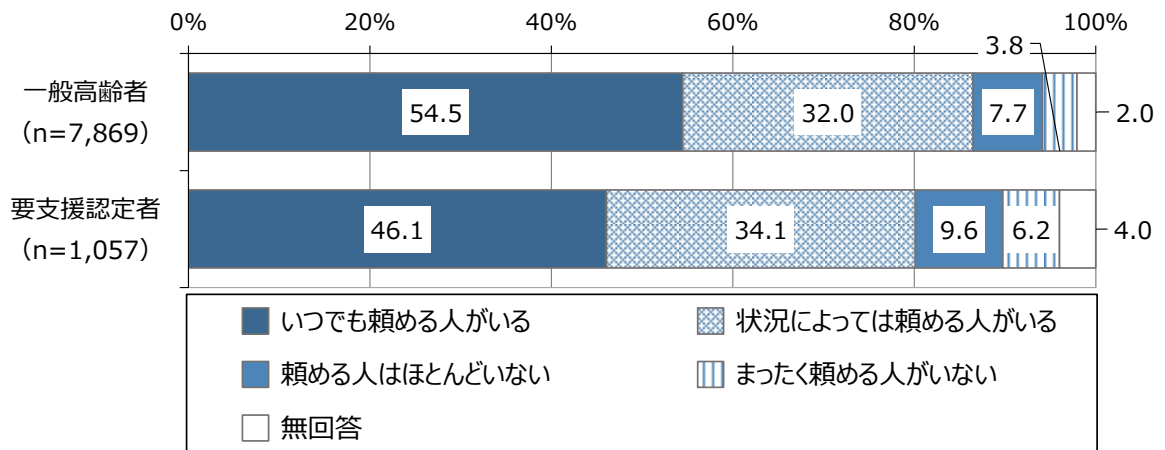
入院・療養が必要になった場合、身の回りのことを頼める人がいるかについては、「いつでも頼める人がいる」が53.5%で最も高く、次いで「状況によっては頼める人がいる」が32.3%、「頼める人はほとんどいない」が7.9%と続いています。

図表 2-7-14 入院・療養が必要になった場合、身の回りのことを頼める人がいるか



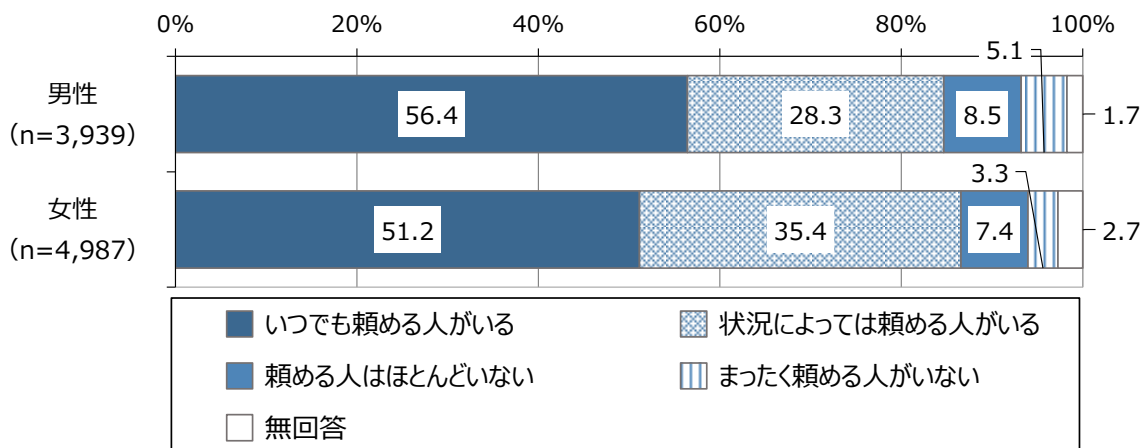
認定状況別でみると、『頼める人がいない』（「頼める人はほとんどいない」と「まったく頼める人がいない」の合計）では、要支援認定者が15.8%で、一般高齢者（11.5%）より4.3ポイント高い状況です。

図表 2-7-15 入院・療養が必要になった場合、身の回りのことを頼める人がいるか 認定状況別



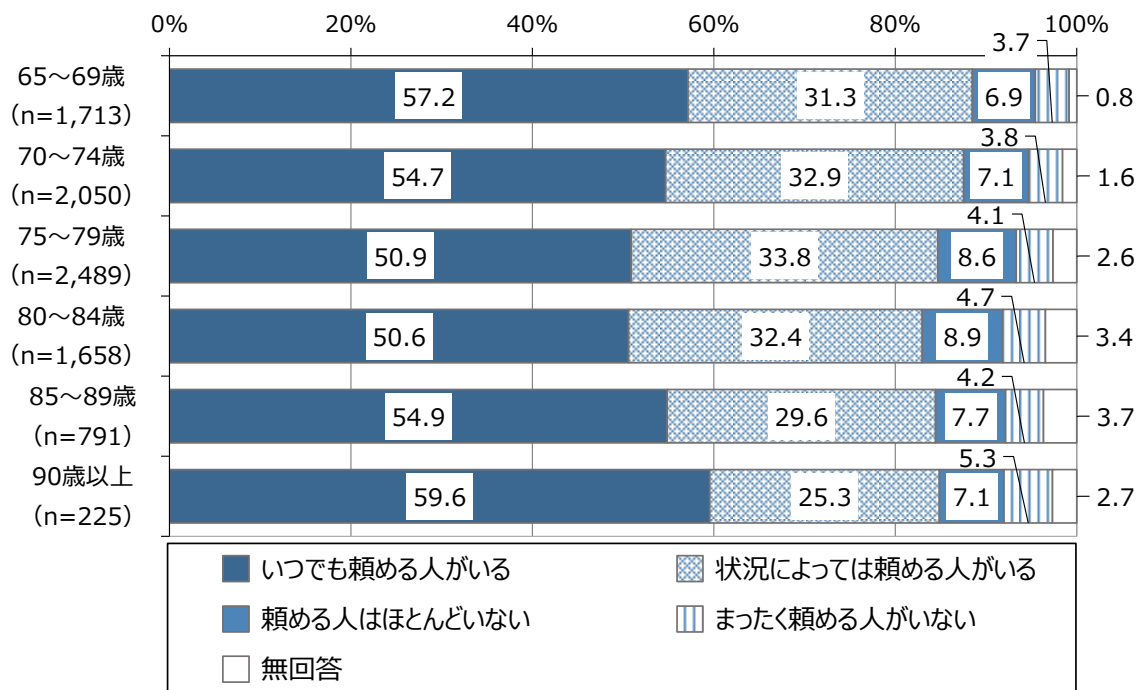
性別でみると、『頼める人がいない』では、男性が 13.6%、女性が 10.7%です。

図表 2-7-16 入院・療養が必要になった場合、身の回りのことを頼める人がいるか 性別



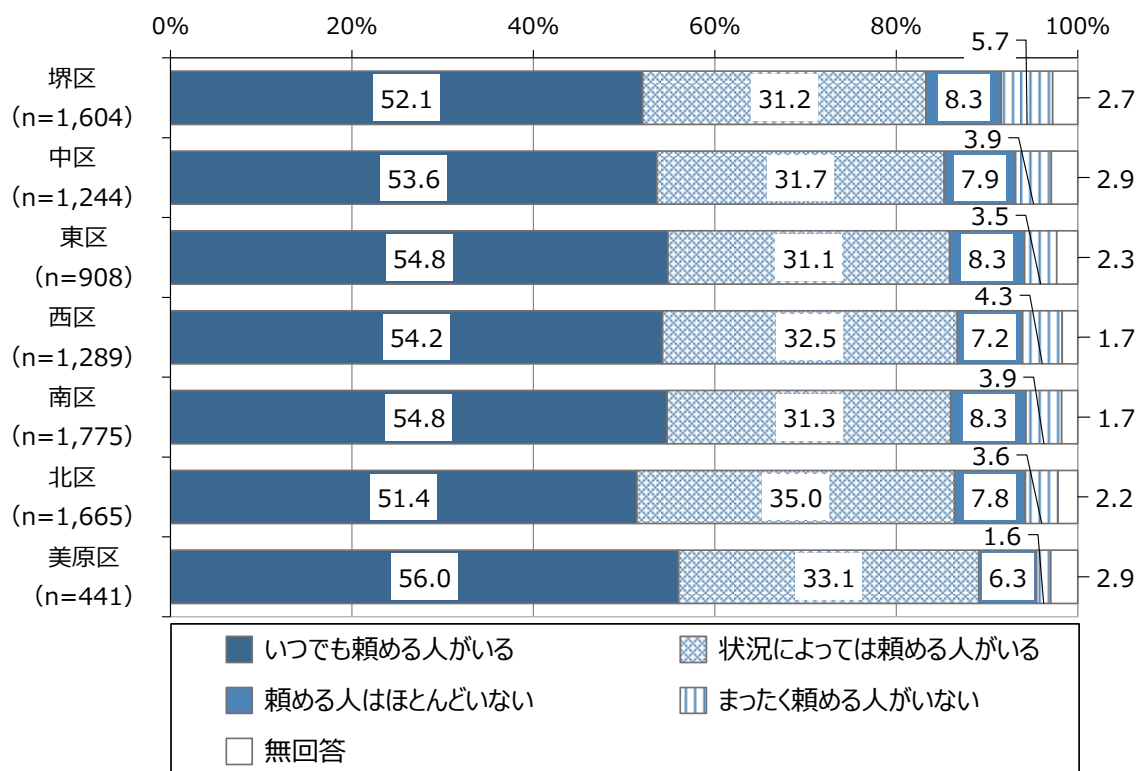
年齢階級別でみると、『頼める人がいない』では、80～84歳が 13.6%で最も高い状況です。

図表 2-7-17 入院・療養が必要になった場合、身の回りのことを頼める人がいるか 年齢階級別



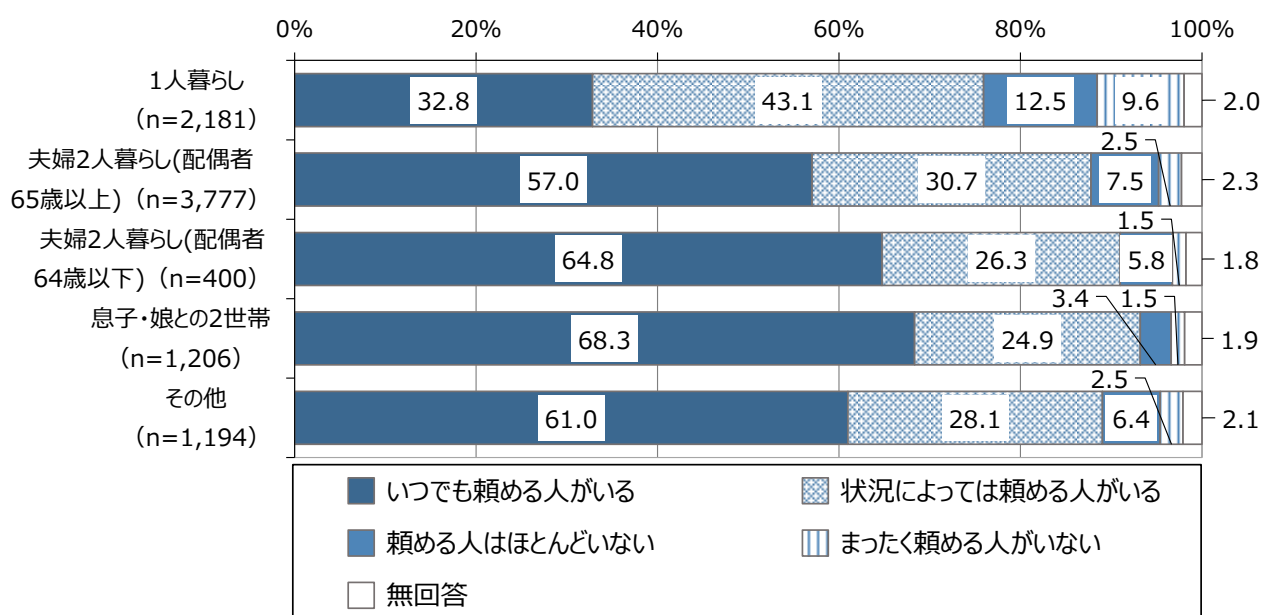
区域別でみると、『頼める人がいない』では、堺区が 14.0%で最も高い状況です。

図表 2-7-18 入院・療養が必要になった場合、身の回りのことを頼める人がいるか 区域別



家族構成別でみると、『頼める人がいない』では、「1人暮らし」が 22.1%で最も高い状況です。

図表 2-7-19 入院・療養が必要になった場合、身の回りのことを頼める人がいるか 家族構成別

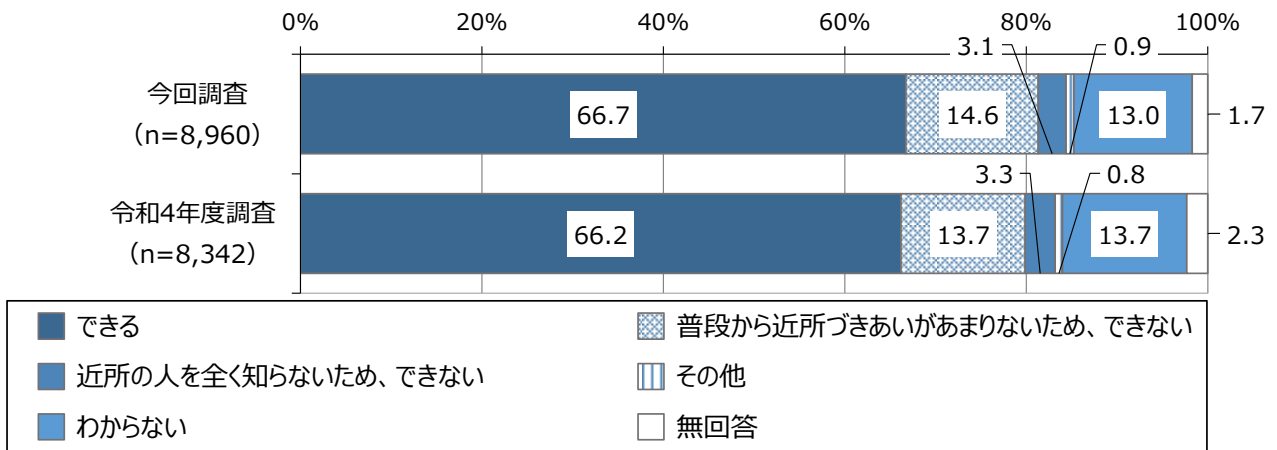


(7) 災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができるか

問 6 (7)	災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができますか (○はひとつ)
------------	--

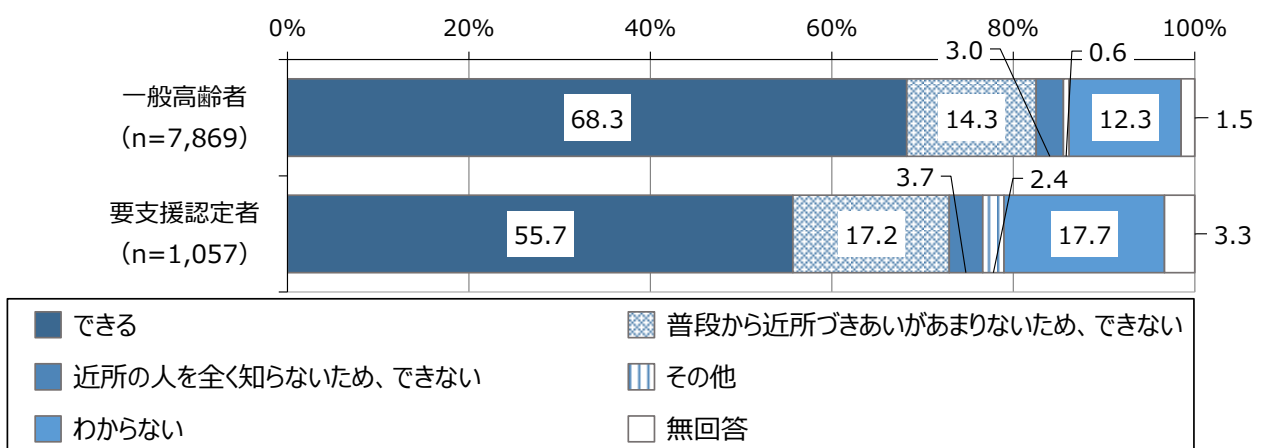
災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができるかについては、「できる」が 66.7%で最も高く、次いで「普段から近所づきあいがあまりないため、できない」が 14.6%、「わからない」が 13.0%と続いています。令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-7-20 災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができるか



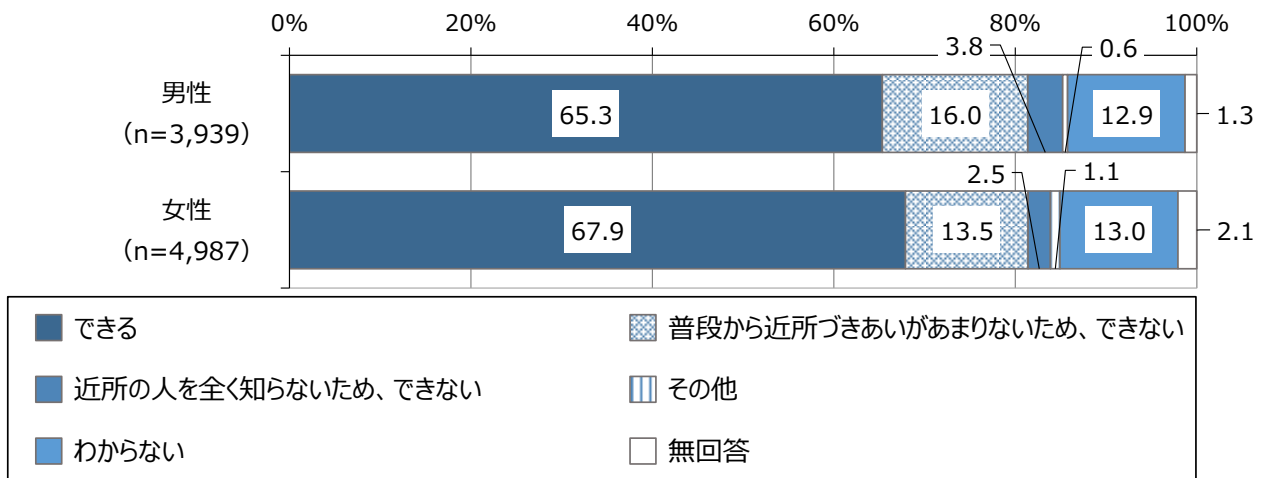
認定状況別でみると、「できる」では、一般高齢者が 68.3%で、要支援認定者（55.7%）より 12.6 ポイント高い状況です。

図表 2-7-21 災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができるか 認定状況別



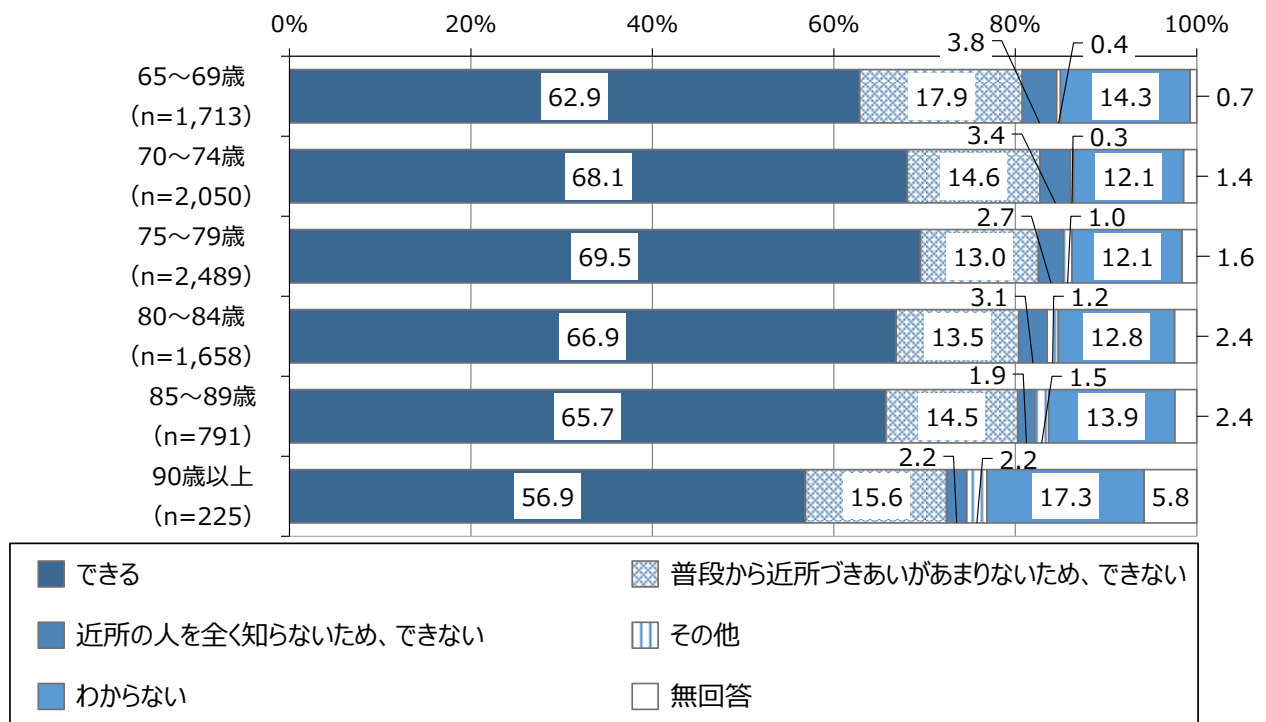
性別でみると、『できない』（「普段から近所づきあいがあまりないため、できない」と「近所の人を全く知らないため、できない」の合計）では、男性が19.8%で、女性（16.0%）より3.8ポイント高い状況です。

図表 2-7-22 災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができるか 性別



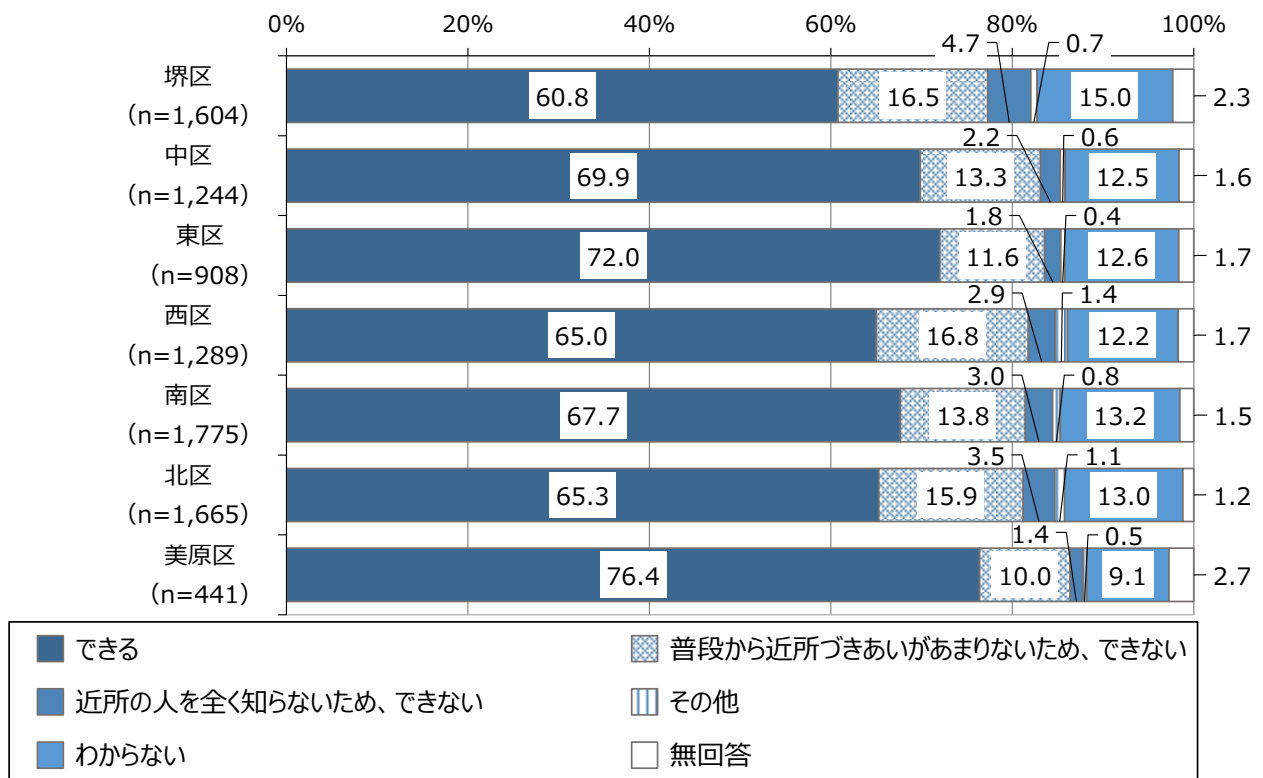
年齢階級別でみると、『できない』では、65～69歳が21.7%で最も高い状況です。

図表 2-7-23 災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができるか 年齢階級別



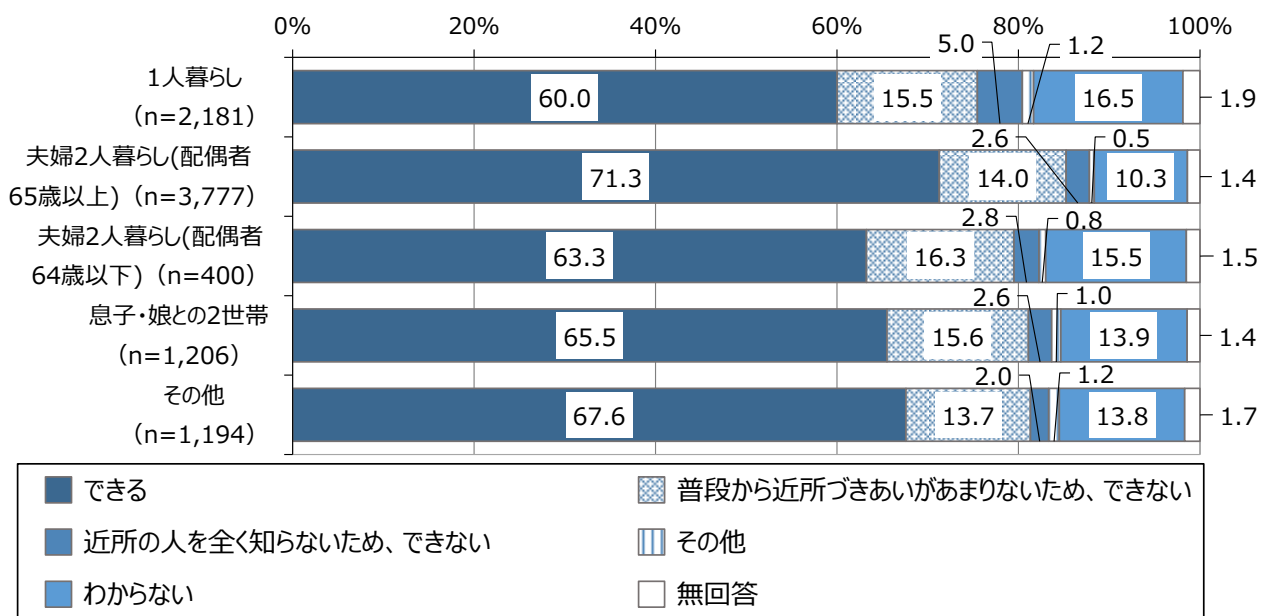
区域別でみると、『できない』では、堺区が 21.2%で最も高い状況です。

図表 2-7-24 災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができるか 区域別



家族構成別でみると、『できない』では、「1人暮らし」が 20.5%で最も高い状況です。

図表 2-7-25 災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができるか 家族構成別



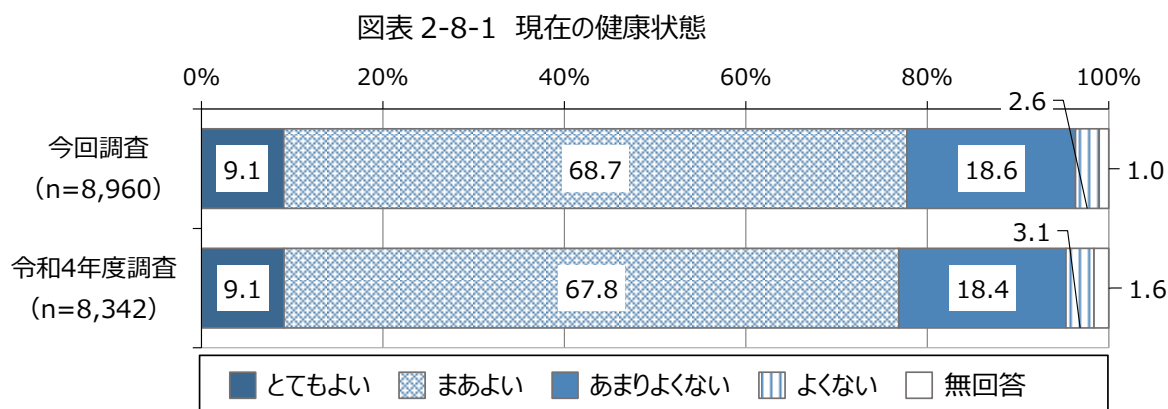
8 健康について

(1) 現在の健康状態

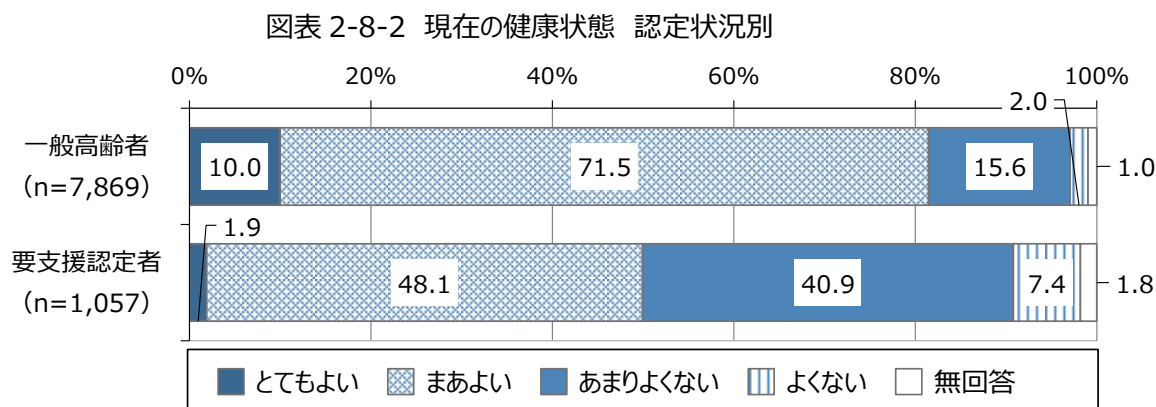
問7 (1)	現在のあなたの健康状態はいかがですか（○はひとつ）
-----------	---------------------------

現在の健康状態については、「まあよい」が 68.7%で最も高く、次いで「あまりよくない」が 18.6%、「とてもよい」が 9.1%と続いています。

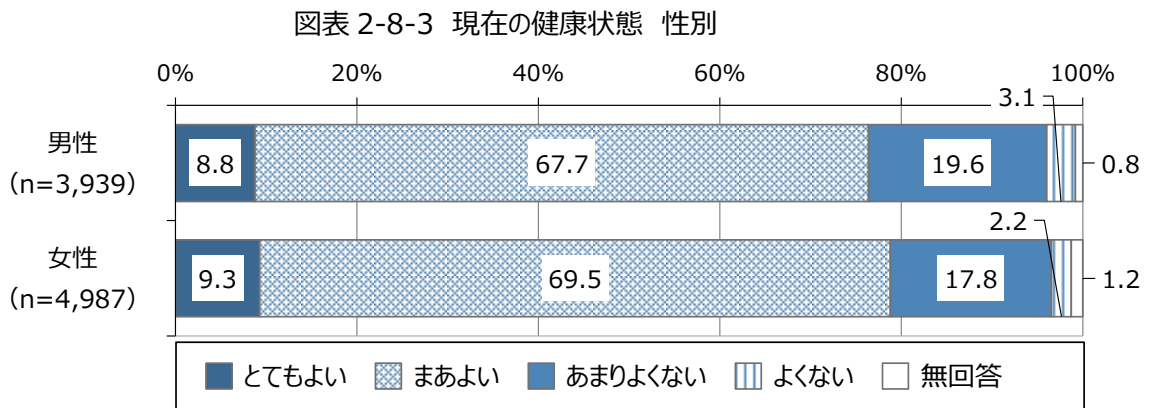
令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。



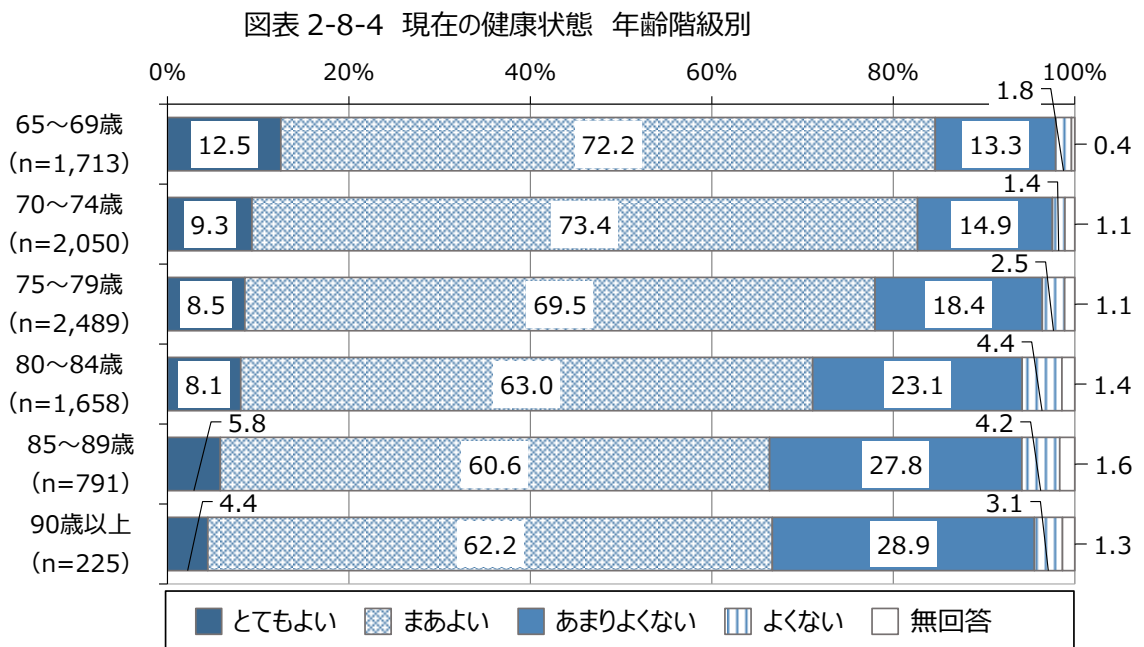
認定状況別でみると、『よくない』（「あまりよくない」と「よくない」の合計）では、要支援認定者が 48.3%で、一般高齢者（17.6%）より 30.7 ポイント高い状況です。



性別でみると、『よくない』では、男性が 22.7%、女性が 20.0%です。

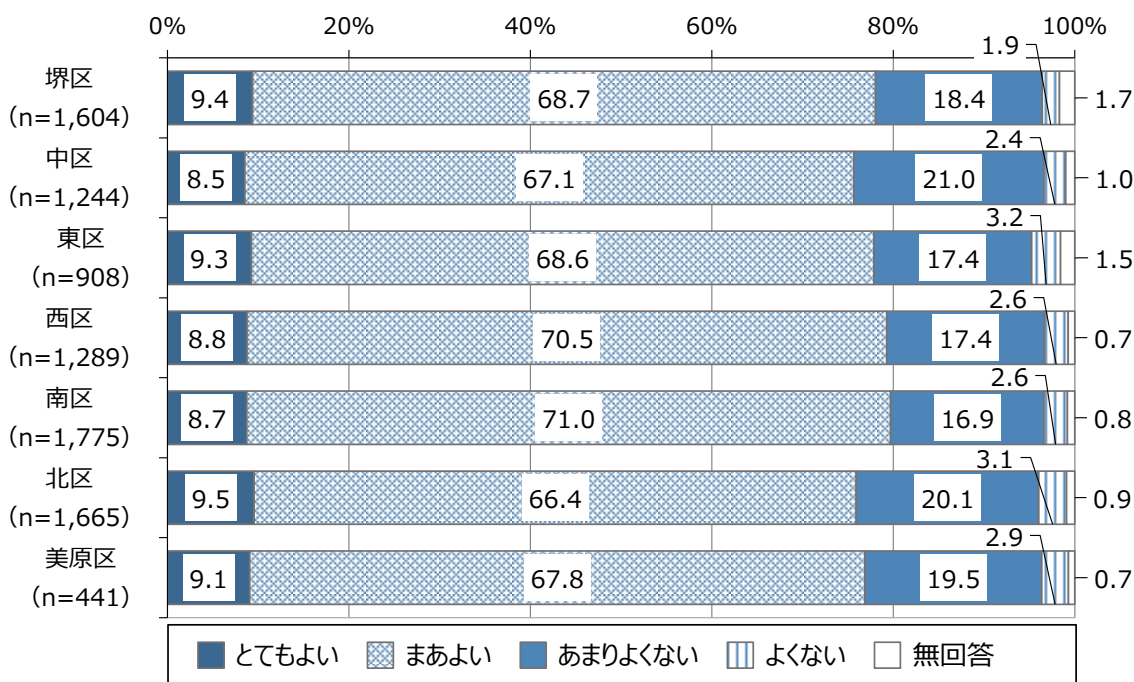


年齢階級別でみると、『よくない』では、年齢階級が上がるにつれて概ね割合が増加しており、85～89 歳、90 歳以上がいずれも 32.0%で最も高い状況です。



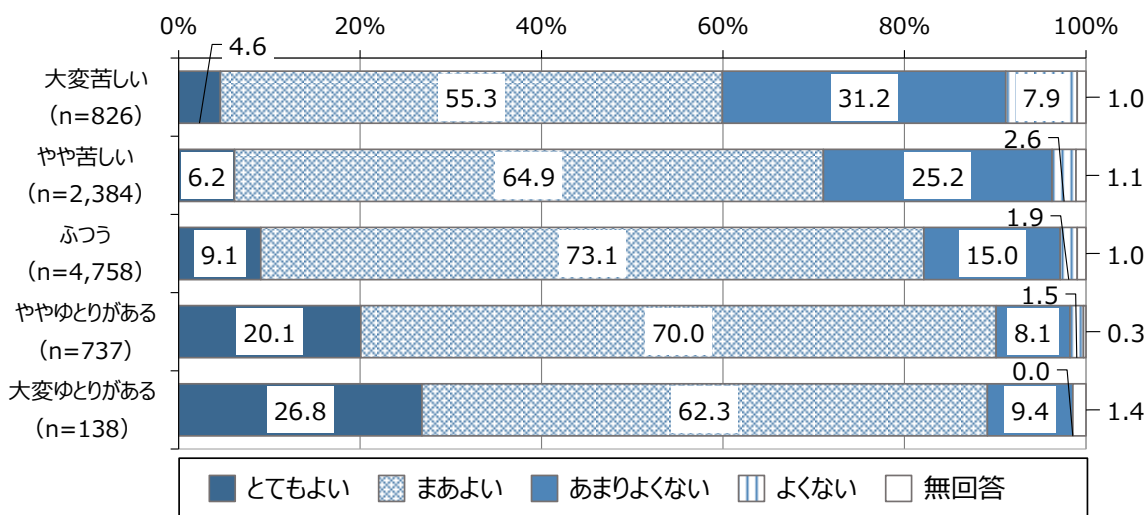
区域別でみると、『よくない』では、中区が23.4%で最も高い状況です。

図表 2-8-5 現在の健康状態 区域別



現在の暮らしの経済的状況別でみると、「とてもよい」では、ゆとりがあると感じる度合いが強くなるにつれて割合が増加しており、「大変ゆとりがある」が26.8%で最も高い状況です。

図表 2-8-6 現在の健康状態 現在の暮らしの経済的状況別



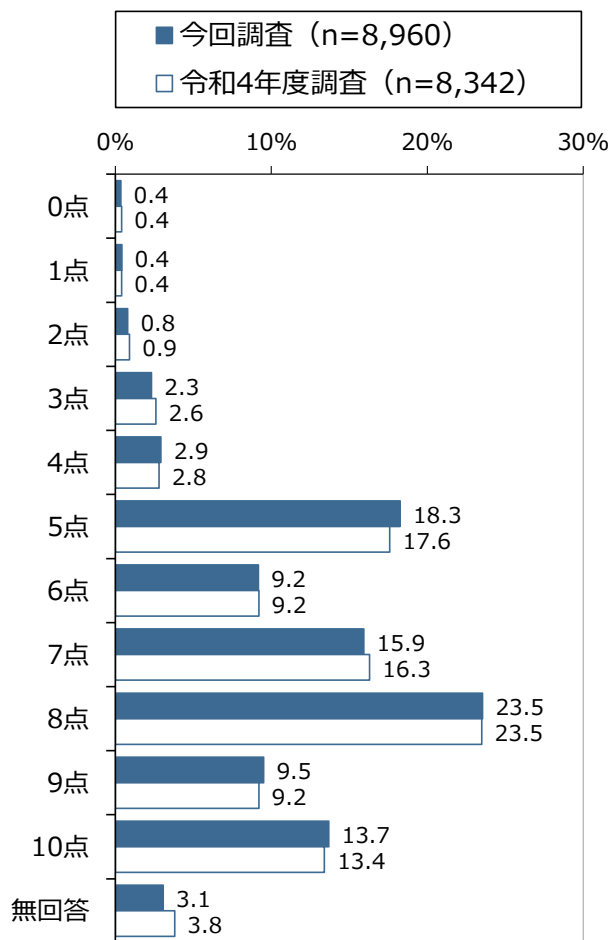
(2) 現在の程度幸せか

問 7 (2)	あなたは、現在の程度幸せですか (「とても不幸」を 0 点、「とても幸せ」を 10 点として、ご記入ください)
------------	--

現在の程度幸せかについては、「8 点」が 23.5%で最も高く、次いで「5 点」が 18.3%、「7 点」が 15.9%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-8-7 現在の程度幸せか



認定状況別で見ると、平均点では、一般高齢者が7.2点、要支援認定者が6.6点です。
 性別で見ると、平均点では、男性が6.9点、女性が7.3点です。
 年齢階級別で見ると、平均点では、90歳以上が7.4点で最も高い状況です。
 区域別で見ると、平均点では、北区が7.0点で最も低い状況です。

図表 2-8-8 現在どの程度幸せか 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）、点数（点）

		合計	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	平均点
全体		8,960	0.4	0.4	0.8	2.3	2.9	18.3	9.2	15.9	23.5	9.5	13.7	3.1	7.1
認定別	一般高齢者	7,869	0.3	0.4	0.7	2.1	2.7	17.4	9.3	16.3	24.4	9.9	13.8	2.8	7.2
	要支援認定者	1,057	0.9	0.8	1.4	4.2	4.7	25.0	8.5	13.3	17.0	6.4	12.5	5.3	6.6
性別	男性	3,939	0.4	0.6	1.0	3.0	3.2	20.3	10.5	17.6	21.9	7.5	11.4	2.4	6.9
	女性	4,987	0.3	0.2	0.6	1.8	2.7	16.7	8.1	14.6	24.8	11.1	15.5	3.5	7.3
年齢階級別	65～69歳	1,713	0.4	0.8	0.9	2.8	2.5	15.6	10.0	14.9	28.3	10.6	12.1	1.2	7.1
	70～74歳	2,050	0.3	0.3	0.8	2.4	2.9	16.9	9.1	16.2	25.4	9.9	13.3	2.4	7.2
	75～79歳	2,489	0.2	0.3	1.0	2.4	2.7	18.8	9.6	17.5	23.3	9.2	11.9	3.1	7.0
	80～84歳	1,658	0.4	0.2	0.4	2.1	3.7	21.5	8.9	14.6	20.4	8.4	15.1	4.2	7.1
	85～89歳	791	0.3	0.4	0.9	1.8	3.2	20.0	7.8	15.9	16.6	9.1	19.0	5.2	7.2
	90歳以上	225	0.9	0.9	0.4	0.9	3.6	15.1	5.8	14.2	22.2	10.2	18.7	7.1	7.4
区域別	堺区	1,604	0.5	0.4	1.0	2.2	2.9	19.0	9.3	15.1	20.8	9.4	15.1	4.2	7.1
	中区	1,244	0.2	0.2	0.6	2.3	3.1	19.8	9.4	16.9	21.9	10.2	12.5	2.9	7.1
	東区	908	0.2	0.6	0.4	2.3	3.4	17.2	10.0	15.4	23.2	8.9	15.5	2.8	7.2
	西区	1,289	0.4	0.6	0.8	2.6	3.2	17.9	8.5	15.4	24.7	8.8	13.7	3.4	7.1
	南区	1,775	0.2	0.3	0.8	2.1	1.9	17.4	9.2	15.9	26.4	10.0	13.1	2.6	7.2
	北区	1,665	0.5	0.5	1.0	2.3	3.6	18.8	8.9	16.3	23.2	8.9	13.2	2.6	7.0
	美原区	441	0.2	0.2	0.7	2.5	2.5	16.3	9.3	17.5	25.4	11.1	11.8	2.5	7.2

※網掛け■は最も割合が高いもの

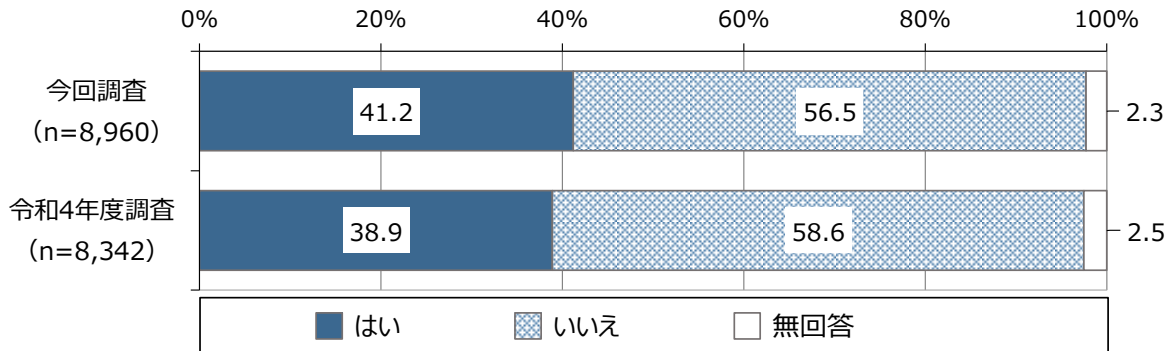
(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか

問7 (3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか（○はひとつ）
-----------	--

この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかについては、「はい」が41.2%、「いいえ」が56.5%です。

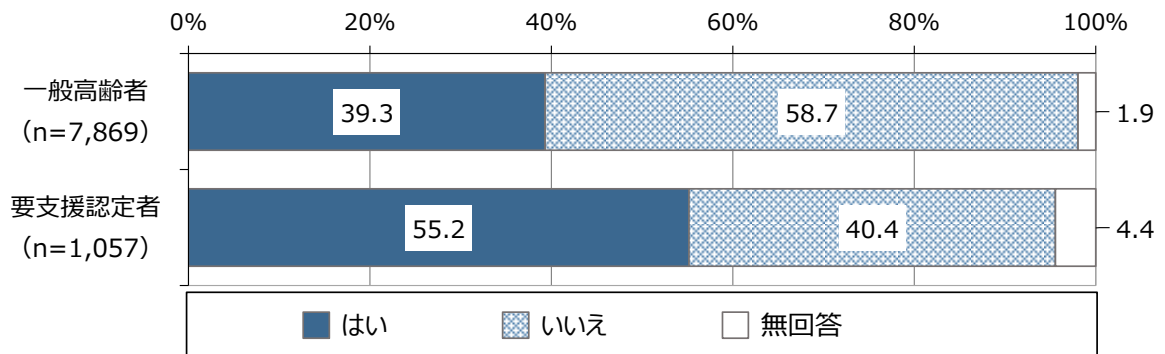
令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-8-9 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか



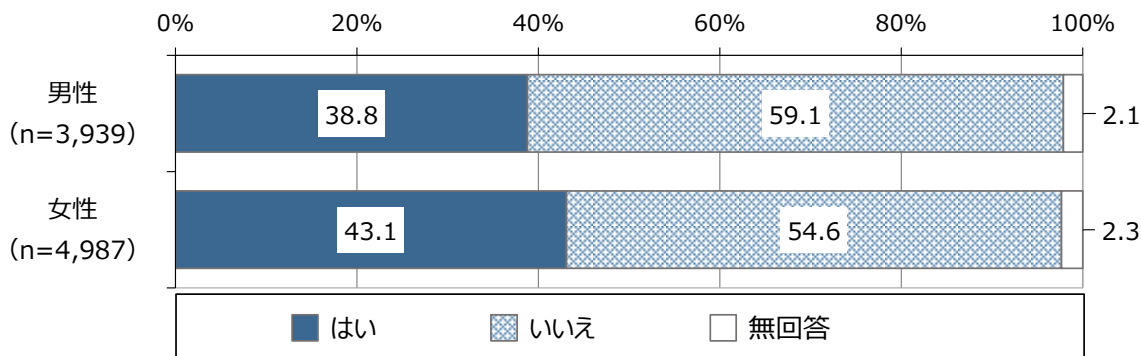
認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が55.2%で、一般高齢者（39.3%）より15.9ポイント高い状況です。

図表 2-8-10 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか 認定状況別



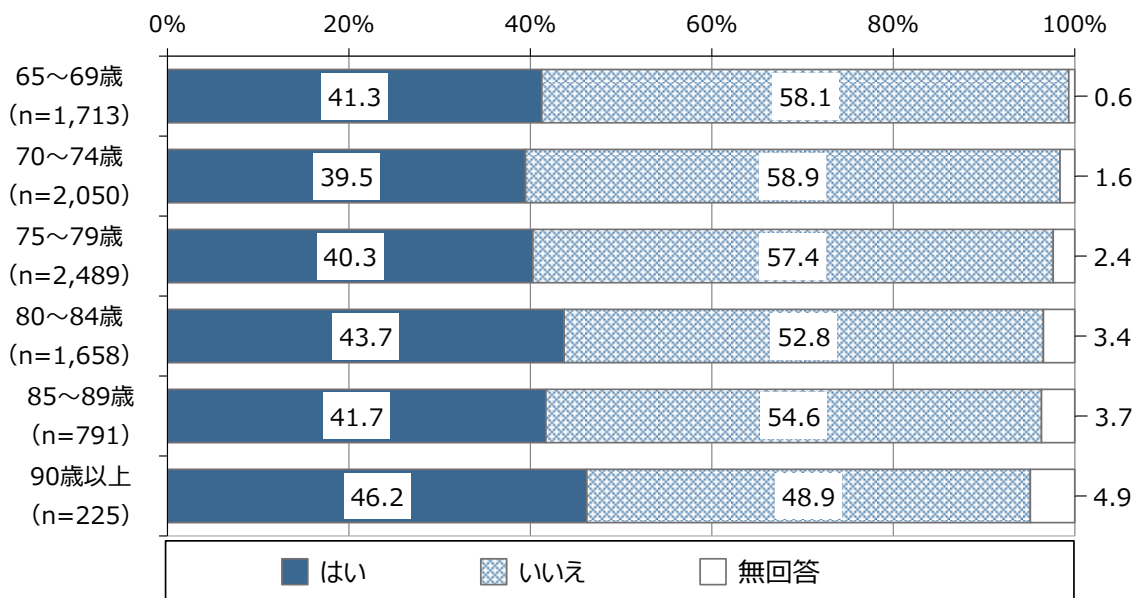
性別でみると、「はい」では、女性が43.1%で、男性（38.8%）より4.3ポイント高い状況です。

図表 2-8-11 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか 性別



年齢階級別でみると、「はい」では、90歳以上が46.2%で最も高い状況です。

図表 2-8-12 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか 年齢階級別



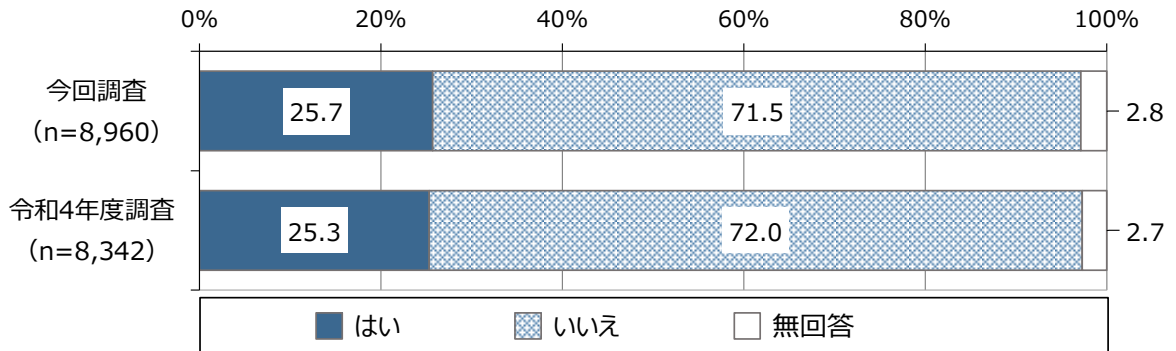
(4) この1か月間、物事に対して興味がわかない、心から楽しめない感じがよくあったか

問7 (4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか（○はひとつ）
-----------	--

この1か月間、物事に対して興味がわかない、心から楽しめない感じがよくあったかについては、「はい」が25.7%、「いいえ」が71.5%です。

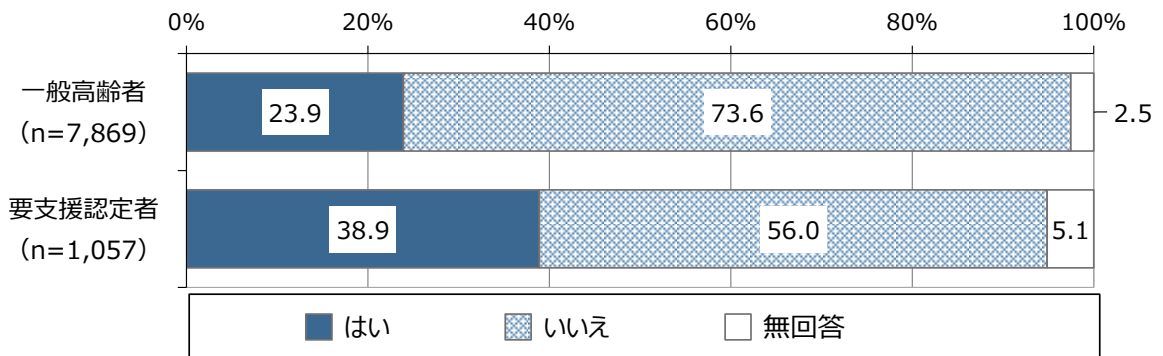
令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-8-13 この1か月間、物事に対して興味がわかない、心から楽しめない感じがよくあったか



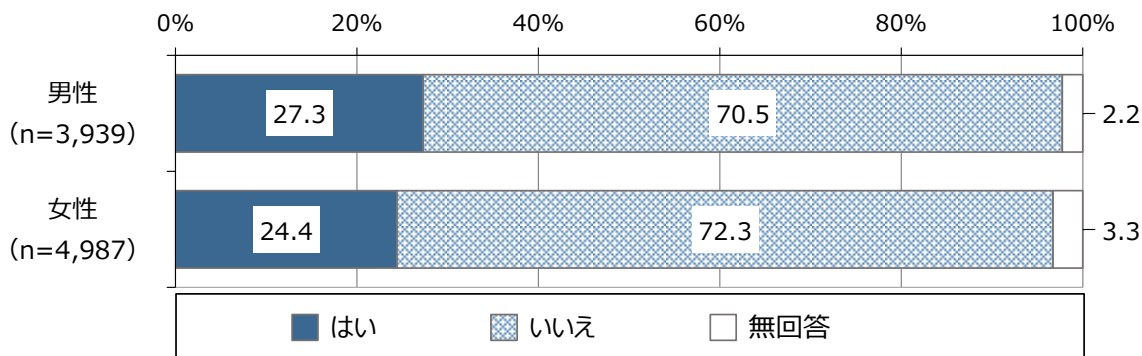
認定状況別で見ると、要支援認定者が38.9%で、一般高齢者（23.9%）より15.0ポイント高い状況です。

図表 2-8-14 この1か月間、物事に対して興味がわかない、心から楽しめない感じがよくあったか 認定状況別



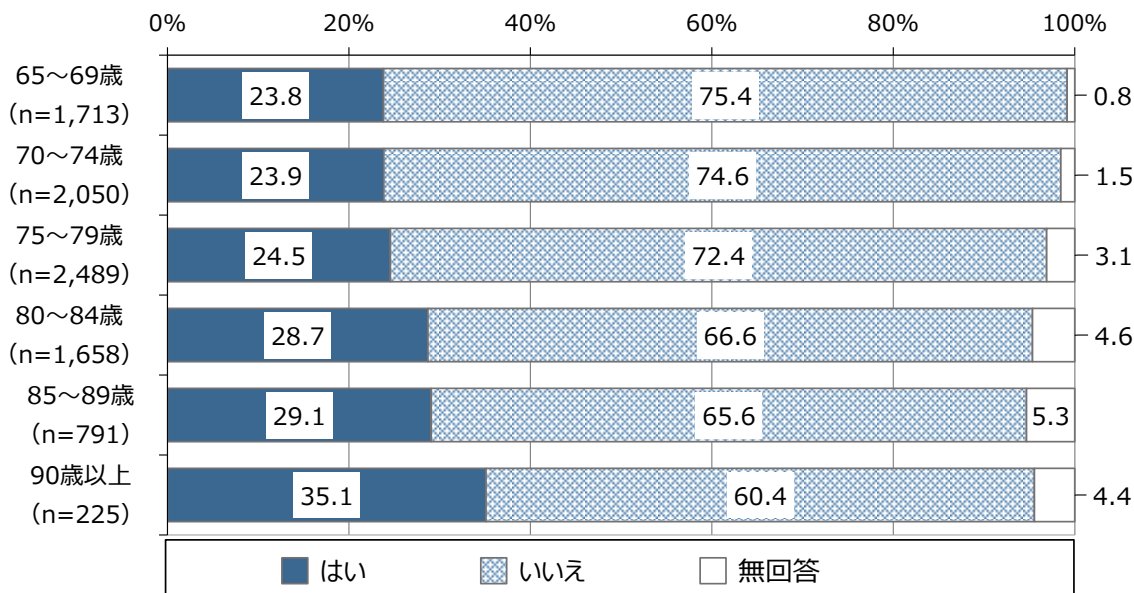
性別でみると、「はい」では、男性が 27.3%、女性が 24.4%です。

図表 2-8-15 この 1 か月間、物事に対して興味がわからない、心から楽しめない感じがよくあったか 性別



年齢階級別でみると、「はい」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90 歳以上が 35.1%で最も高い状況です。

図表 2-8-16 この 1 か月間、物事に対して興味がわからない、心から楽しめない感じがよくあったか 年齢階級別



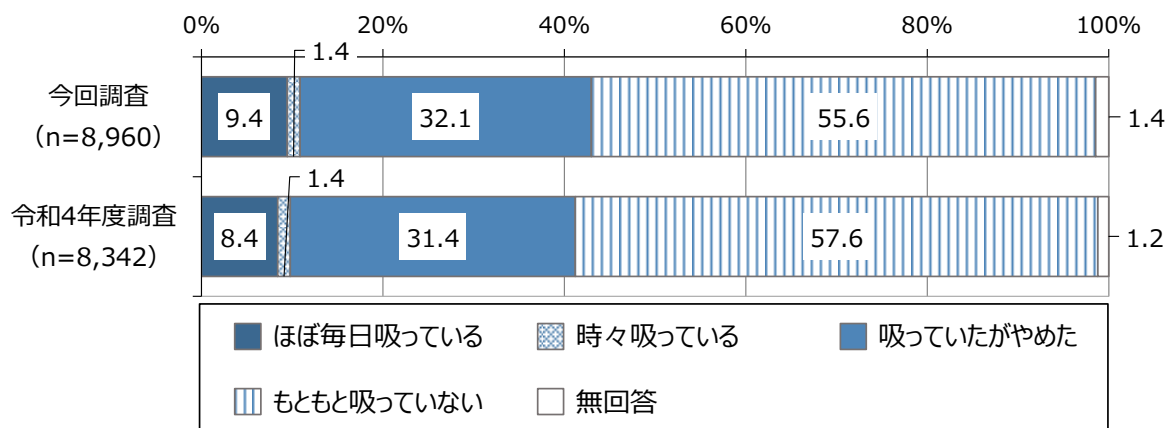
(5) 喫煙状況

問7 (5)	タバコは吸っていますか（○はひとつ）
-----------	--------------------

喫煙状況については、「もともと吸っていない」が 55.6%で最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が 32.1%、「ほぼ毎日吸っている」が 9.4%と続いています。

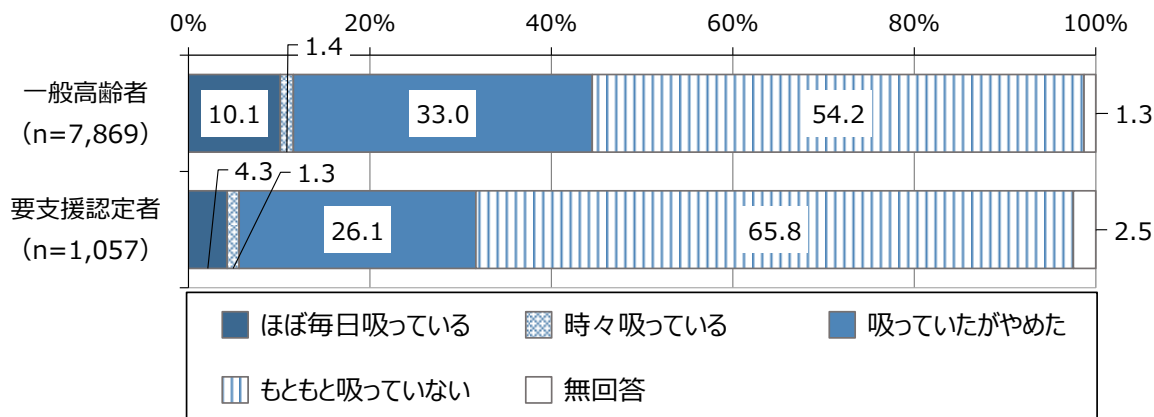
令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-8-17 喫煙状況



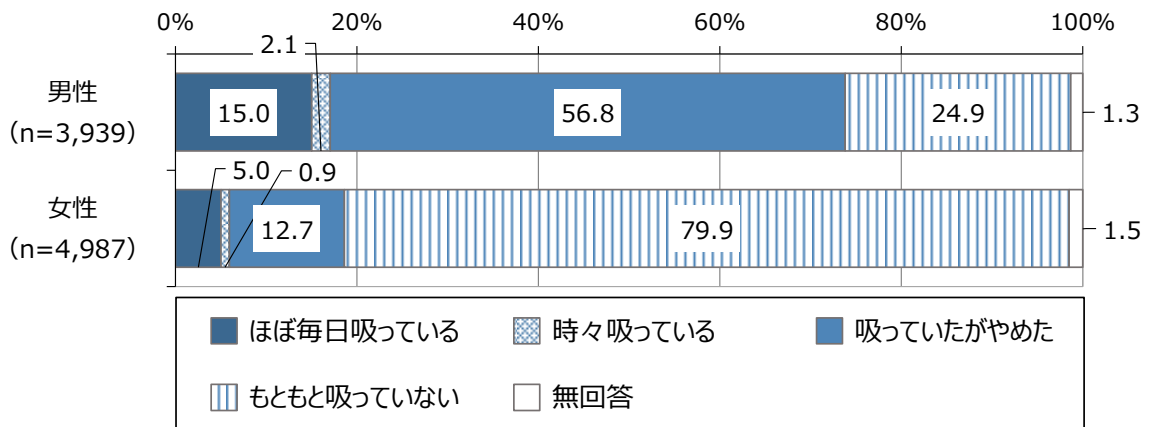
認定状況別でみると、『吸っている』では、一般高齢者が 11.5%、要支援認定者が 5.6%です。

図表 2-8-18 喫煙状況 認定状況別



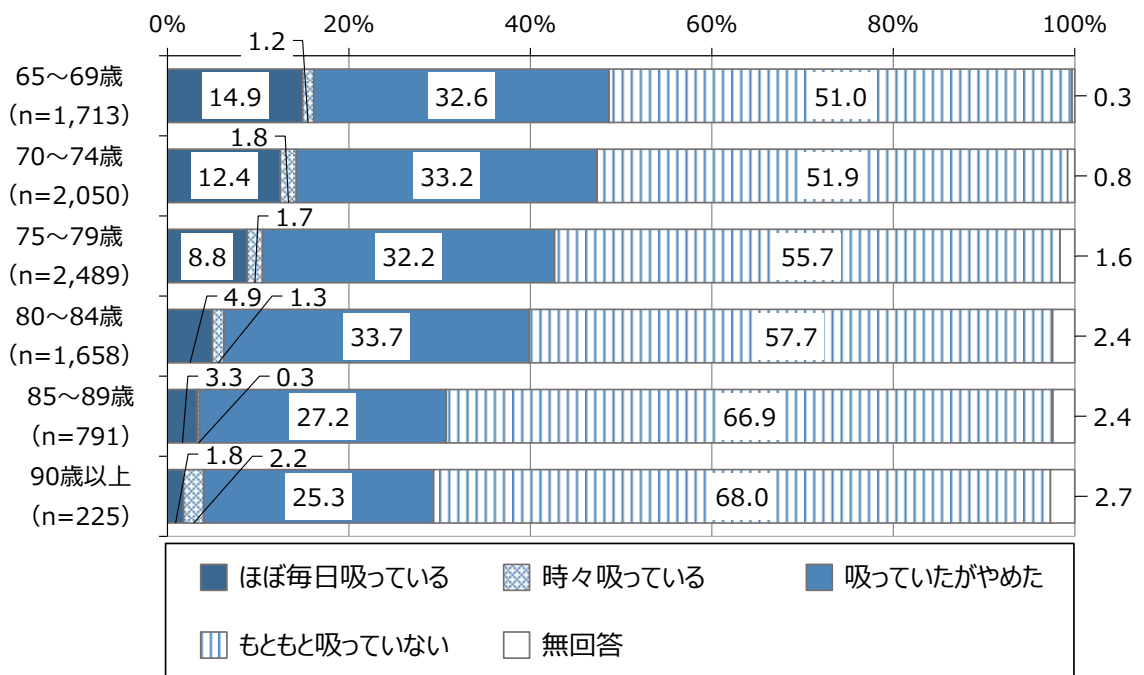
性別でみると、『吸っている』では、男性が17.1%、女性が5.9%です。

図表 2-8-19 喫煙状況 性別



年齢階級別でみると、『吸っている』では、65～69歳が16.1%で最も高い状況です。

図表 2-8-20 喫煙状況 年齢階級別



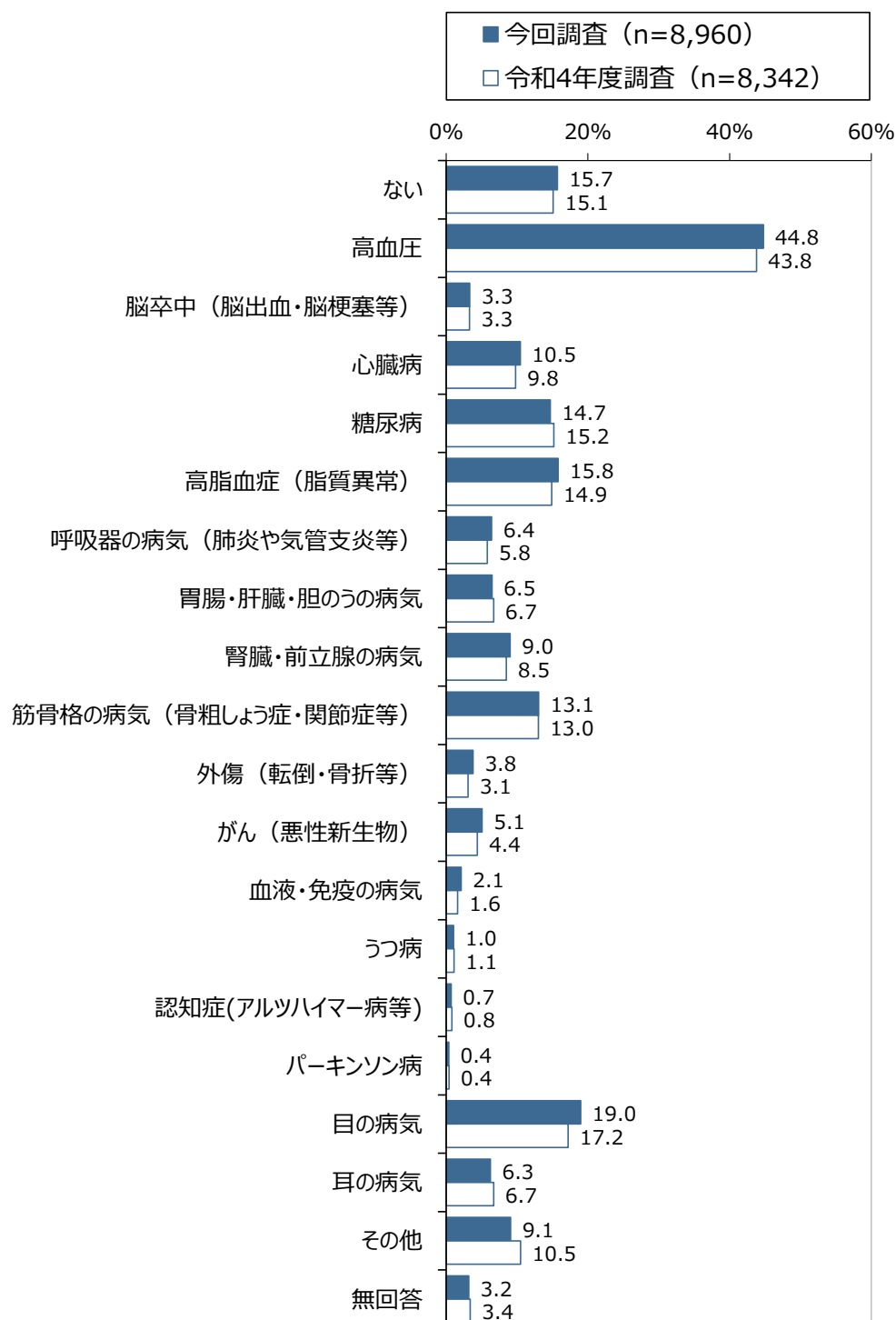
(6) 現在治療中、または後遺症のある病気はあるか

問 7 (6)	現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (○はいくつでも)
------------	-----------------------------------

現在治療中、または後遺症のある病気はあるかについては、「高血圧」が 44.8%で最も高く、次いで「目の病気」が 19.0%、「高脂血症（脂質異常）」が 15.8%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-8-21 現在治療中、または後遺症のある病気はあるか



認定状況別でみると、一般高齢者、要支援認定者いずれも「高血圧」の割合が最も高い状況です。

性別でみると、男性、女性いずれも「高血圧」の割合が最も高い状況です。

年齢階級別でみると、「腎臓・前立腺の病気」、「筋骨格の病気（骨粗しょう症・関節症等）」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しています。

区域別でみると、「外傷（転倒・骨折等）」では、美原区が5.2%で最も高い状況です。

図表 2-8-22 現在治療中、または後遺症のある病気はあるか 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計	ない	高血圧	脳梗塞等（脳出血・脳卒中）	心臓病	糖尿病	常高脂血症（脂質異常）	呼吸器の病気（肺炎等）	胃腸の病気（肝臓・胆のう）	腎臓・前立腺の病気	粗しょう症・関節症	筋骨格の病気（関節炎等）
全体	8,960	15.7	44.8	3.3	10.5	14.7	15.8	6.4	6.5	9.0	13.1	13.1
認定別	一般高齢者	7,869	17.4	43.9	2.9	9.5	14.5	16.1	5.8	6.1	8.6	11.2
	要支援認定者	1,057	3.0	51.1	6.7	18.2	16.2	13.2	10.8	9.5	12.3	27.2
性別	男性	3,939	13.9	47.6	4.9	14.1	20.3	13.9	7.3	6.8	17.8	5.1
	女性	4,987	17.1	42.6	2.1	7.6	10.3	17.3	5.7	6.2	2.1	19.3
年齢階級別	65～69歳	1,713	23.4	38.1	2.4	5.1	12.2	21.2	6.1	5.1	5.3	9.2
	70～74歳	2,050	19.5	41.1	2.7	9.0	14.0	16.9	5.3	5.8	6.7	10.8
	75～79歳	2,489	13.6	48.0	3.7	10.6	16.0	15.2	6.5	6.4	8.6	13.1
	80～84歳	1,658	9.7	48.3	4.8	15.3	16.7	13.1	8.1	8.3	13.1	15.9
	85～89歳	791	9.9	50.9	2.8	14.5	14.7	10.4	6.4	7.7	13.9	19.1
	90歳以上	225	9.8	47.1	3.1	14.7	11.1	9.3	5.8	6.7	15.6	19.6
区域別	堺区	1,604	16.3	45.1	3.9	10.7	15.0	16.1	6.5	7.4	9.4	13.2
	中区	1,244	14.8	48.6	2.7	11.1	15.6	14.6	5.5	5.9	8.3	12.6
	東区	908	15.7	43.4	3.3	10.9	15.1	15.3	6.6	7.2	9.9	12.9
	西区	1,289	15.7	42.5	3.4	8.8	14.4	15.5	6.7	6.7	8.6	12.6
	南区	1,775	15.0	45.6	3.5	11.0	13.9	17.3	6.9	5.9	9.6	13.0
	北区	1,665	16.2	43.1	3.2	9.9	13.3	15.4	6.5	6.1	8.7	13.1
	美原区	441	16.1	45.1	2.7	12.5	20.2	15.0	5.4	6.3	8.4	15.4
全体	8,960	3.8	5.1	2.1	1.0	0.7	0.4	19.0	6.3	9.1	3.2	
認定別	一般高齢者	7,869	2.9	4.7	1.9	1.0	0.6	0.2	17.8	5.5	8.8	3.1
	要支援認定者	1,057	10.2	7.9	3.6	1.5	1.2	1.4	27.3	11.5	11.4	3.9
性別	男性	3,939	2.5	6.4	1.8	1.1	0.7	0.5	18.7	6.3	8.5	2.5
	女性	4,987	4.8	4.0	2.3	1.0	0.8	0.2	19.2	6.2	9.6	3.8
年齢階級別	65～69歳	1,713	2.9	4.3	2.0	2.0	0.1	0.1	13.3	3.2	9.7	2.7
	70～74歳	2,050	3.0	5.3	2.1	0.8	0.4	0.6	15.8	4.5	10.5	2.3
	75～79歳	2,489	3.8	4.9	2.0	0.8	0.8	0.2	19.8	5.3	8.6	3.5
	80～84歳	1,658	3.9	5.8	1.9	1.0	0.9	0.6	24.8	10.1	8.0	3.9
	85～89歳	791	6.4	5.1	2.4	0.6	1.3	0.3	22.9	9.9	9.5	4.2
	90歳以上	225	8.0	4.9	3.1	0.0	4.0	0.0	24.0	14.7	4.0	4.9
区域別	堺区	1,604	4.0	5.0	2.0	1.1	0.5	0.2	19.1	5.0	8.4	3.3
	中区	1,244	3.8	4.7	1.9	1.0	0.9	0.4	18.2	5.9	8.8	2.8
	東区	908	3.9	5.2	2.6	1.2	0.3	0.1	19.9	5.4	9.9	2.6
	西区	1,289	3.9	4.8	1.9	1.0	0.5	0.5	20.3	7.2	8.5	3.7
	南区	1,775	3.0	5.5	2.6	1.0	0.7	0.5	18.2	6.6	10.6	2.7
	北区	1,665	4.1	5.3	1.6	1.1	1.1	0.5	19.4	6.7	8.8	3.8
	美原区	441	5.2	4.1	1.4	0.7	1.4	0.0	15.9	7.3	7.5	3.6

※網掛け■は最も割合が高いもの

9 耳の状態について

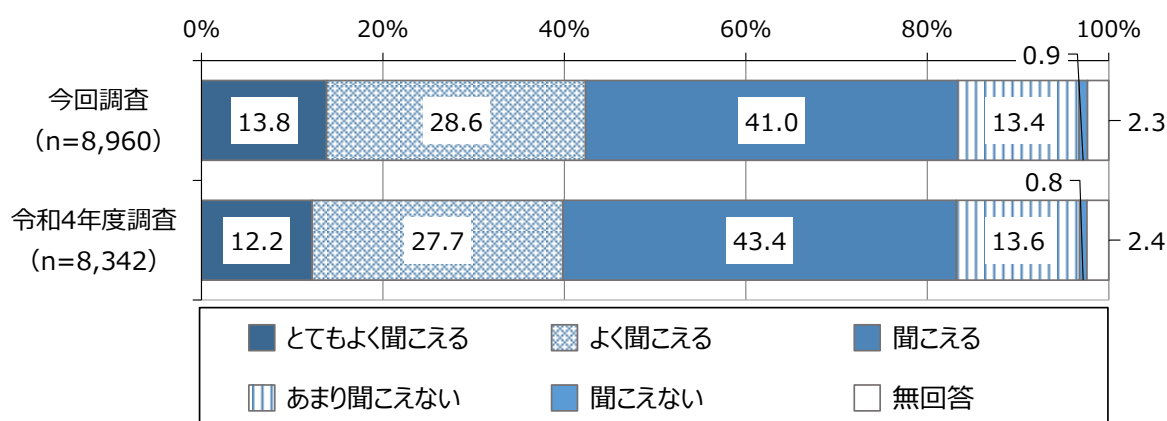
(1) 耳がよく聞こえるか

問 8 (1)	あなたは耳がよく聞こえますか。補聴器を使っている人は、使っている状態を教えてください（○はひとつ）
------------	---

耳がよく聞こえるかについては、「聞こえる」が 41.0%で最も高く、次いで「よく聞こえる」が 28.6%、「とてもよく聞こえる」が 13.8%と続いています。

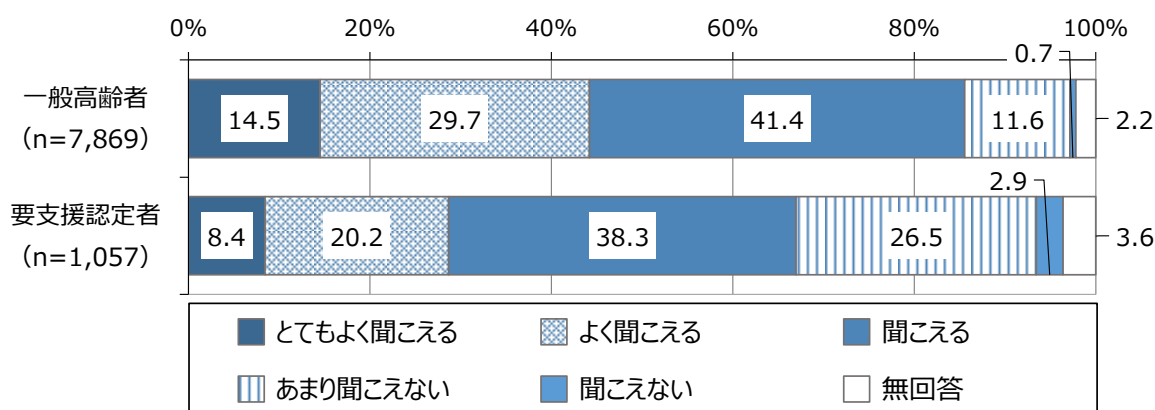
令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-9-1 耳がよく聞こえるか



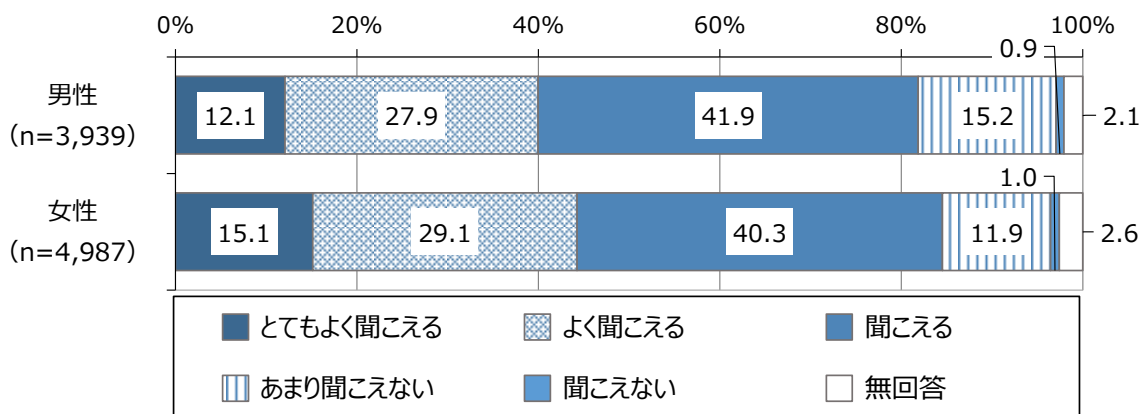
認定状況別でみると、『聞こえない』（「あまり聞こえない」と「聞こえない」の合計）では、要支援認定者が 29.4%で、一般高齢者（12.3%）より 17.1 ポイント高い状況です。

図表 2-9-2 耳がよく聞こえるか 認定状況別



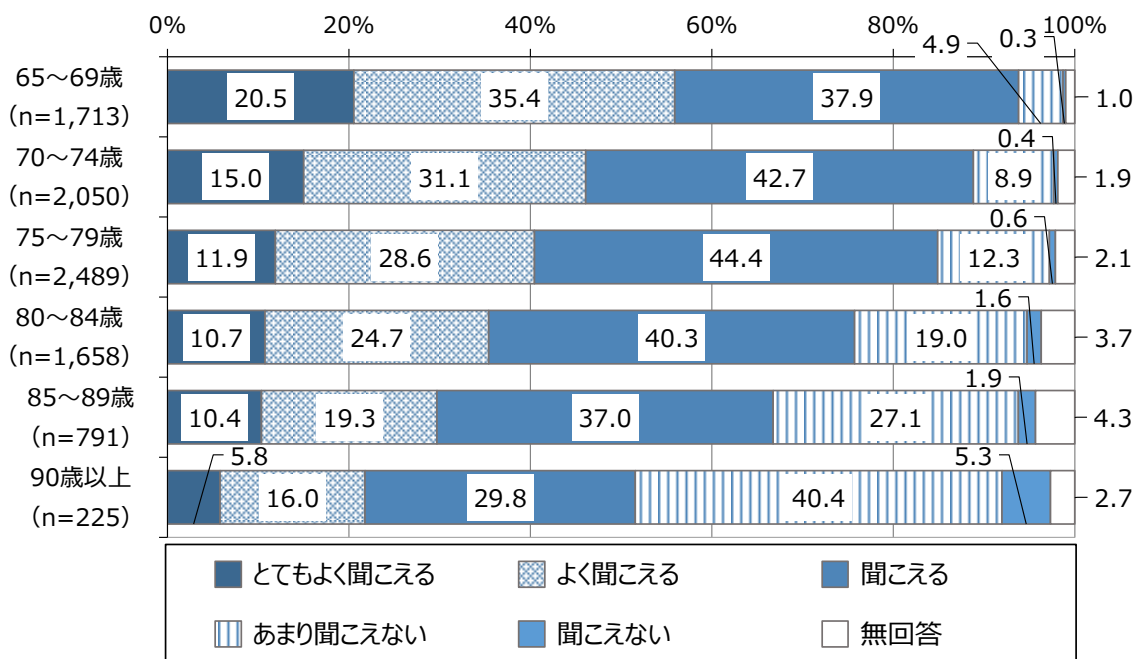
性別でみると、『聞こえない』では、男性が16.1%で、女性（12.9%）より3.2ポイント高い状況です。

図表 2-9-3 耳がよく聞こえるか 性別



年齢階級別でみると、『聞こえない』では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が45.7%で最も高い状況です。

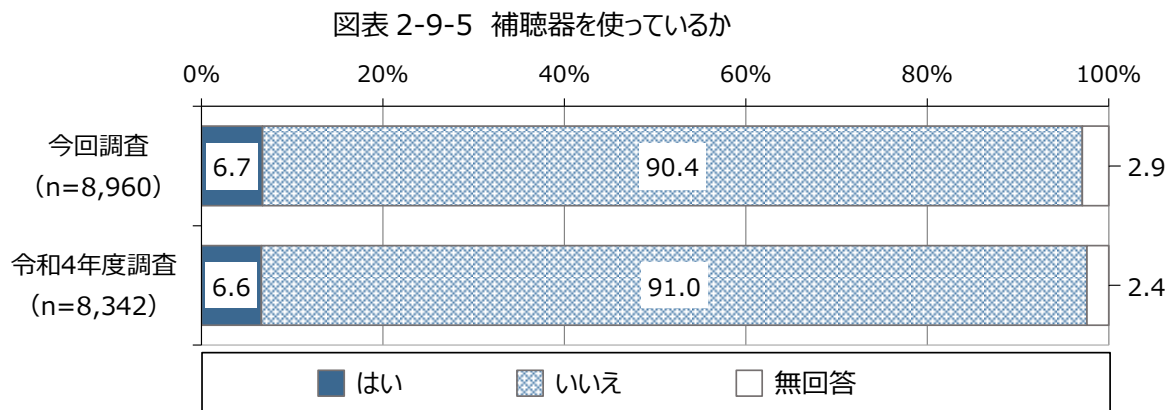
図表 2-9-4 耳がよく聞こえるか 年齢階級別



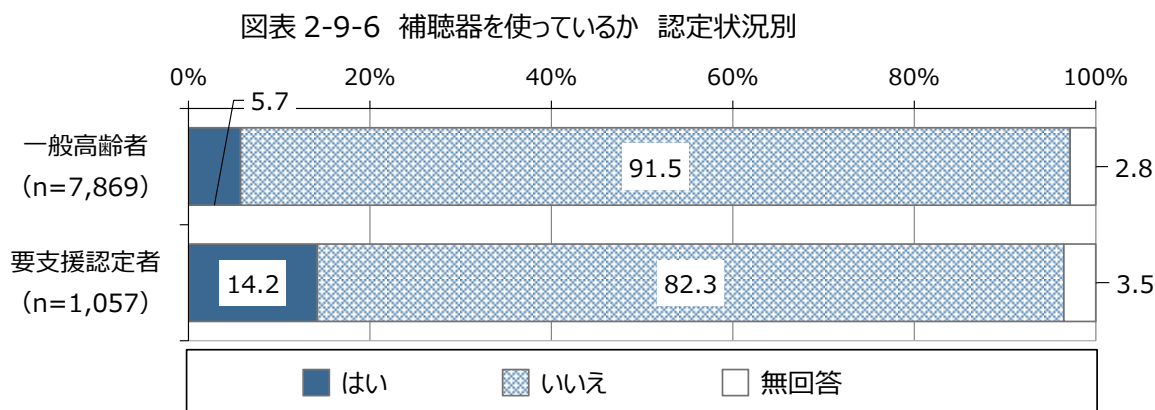
(2) 補聴器を使っているか

問 8 (2)	あなたは補聴器を使っていますか (○はひとつ)
------------	-------------------------

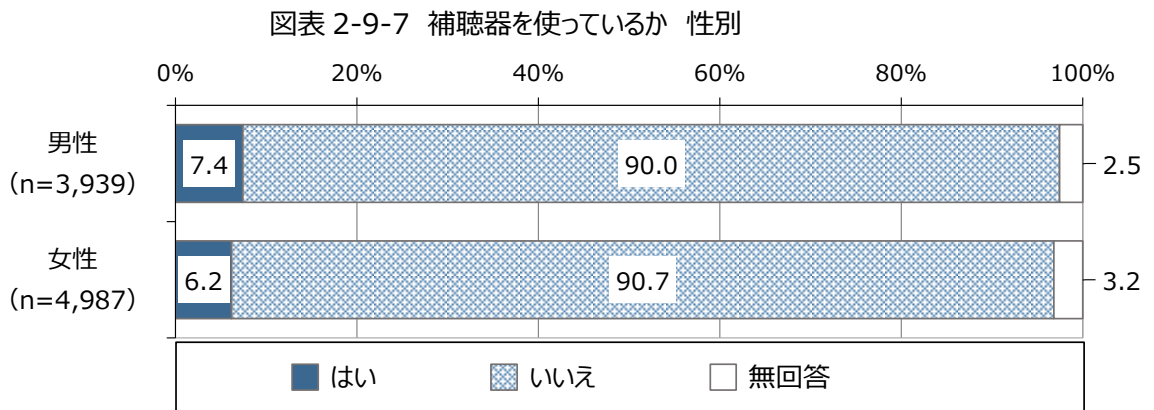
補聴器を使っているかについては、「はい」が 6.7%、「いいえ」が 90.4%です。
令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。



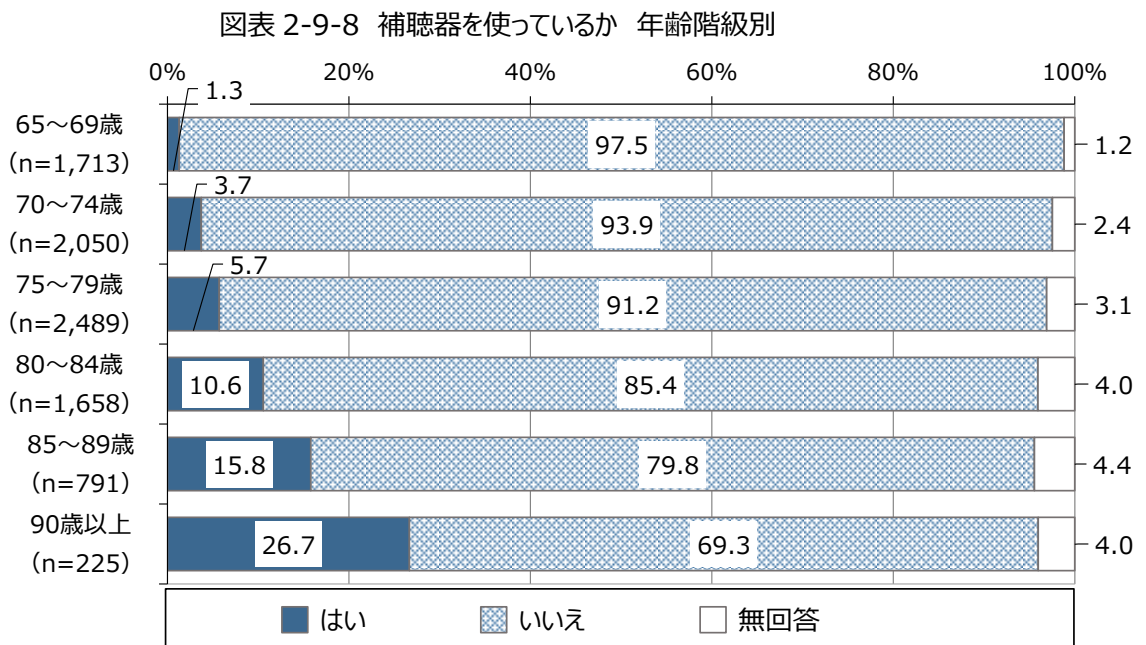
認定状況別でみると、「はい」では、一般高齢者が 5.7%、要支援認定者が 14.2%です。



性別でみると、「はい」では、男性が7.4%、女性が6.2%です。



年齢階級別でみると、「はい」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が26.7%で最も高い状況です。



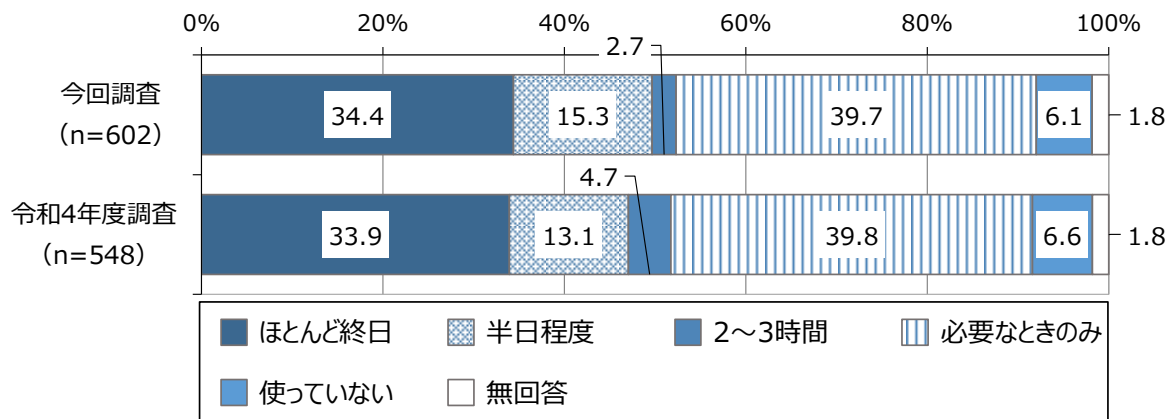
(3) 補聴器使用者の使用時間

問 8 (3)	補聴器を使っている人にお聞きします。使っている場合は補聴器を付けている時間はどのくらいですか (○はひとつ)
------------	---

補聴器使用者の使用時間については、「必要なときのみ」が 39.7%で最も高く、次いで「ほとんど終日」が 34.4%、「半日程度」が 15.3%と続いています。

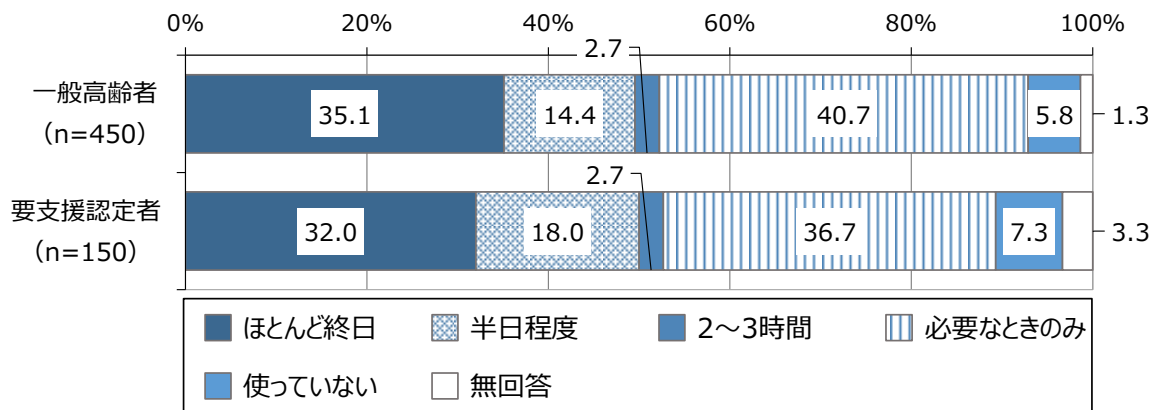
令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 2-9-9 補聴器使用者の使用時間



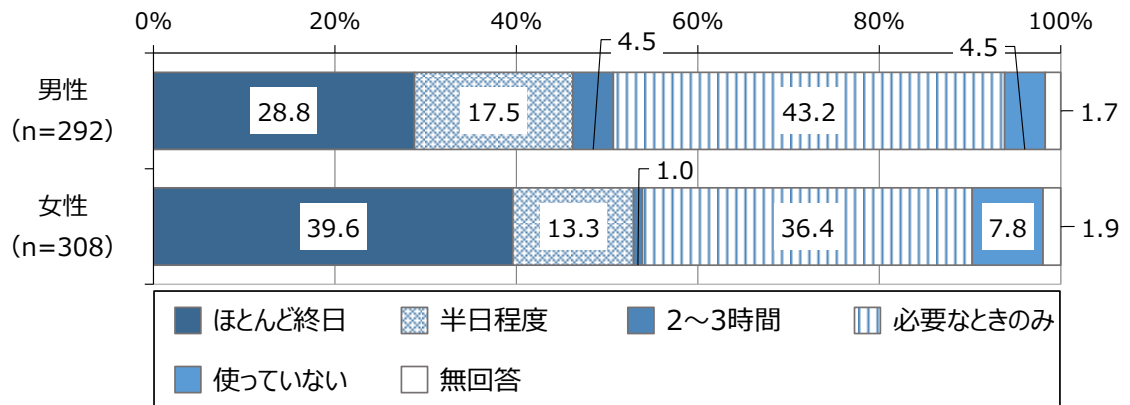
認定状況別でみると、一般高齢者、要支援認定者いずれも「必要なときのみ」の割合が最も高い状況です。

図表 2-9-10 補聴器使用者の使用時間 認定状況別



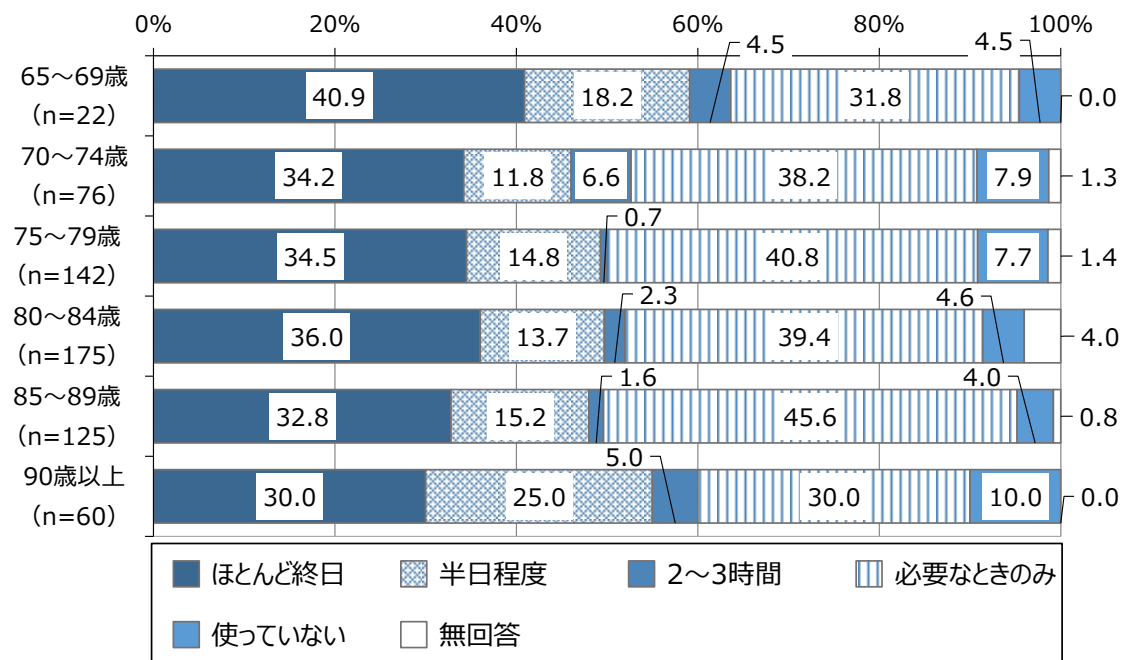
性別でみると、男性では「必要なときのみ」が43.2%で最も高く、女性では「ほとんど終日」が39.6%で最も高い割合を占めています。

図表 2-9-11 補聴器使用者の使用時間 性別



年齢階級別でみると、「ほとんど終日」では、65～69歳が40.9%で最も高く、「必要なときのみ」では、85～89歳が45.6%で最も高い状況です。

図表 2-9-12 補聴器使用者の使用時間 年齢階級別

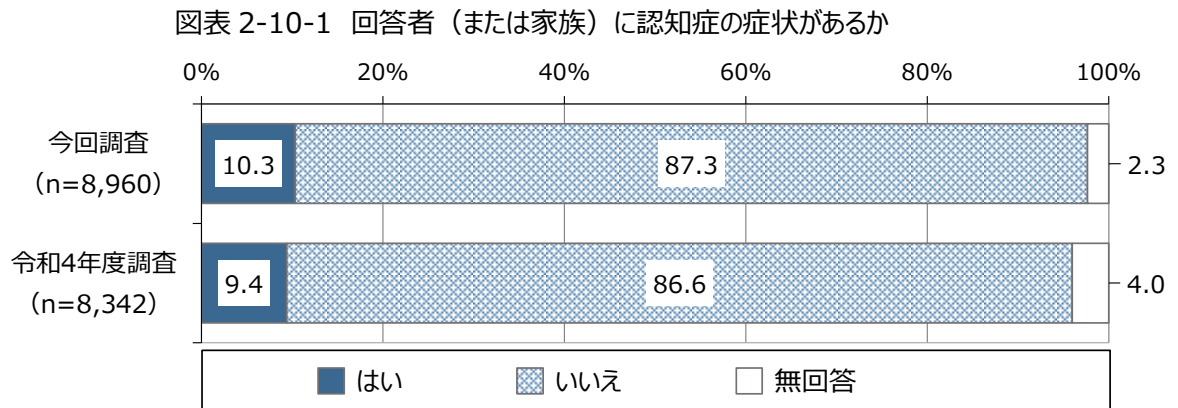


10 認知症について

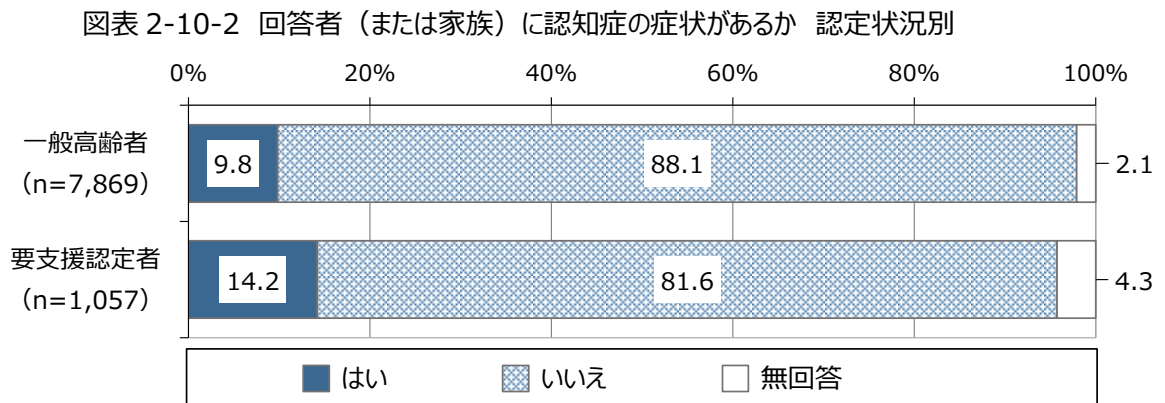
(1) 回答者（または家族）に認知症の症状があるか

問9 (1)	認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか（○はひとつ）
-----------	--------------------------------------

回答者（または家族）に認知症の症状があるかについては、「はい」が10.3%、「いいえ」が87.3%です。令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

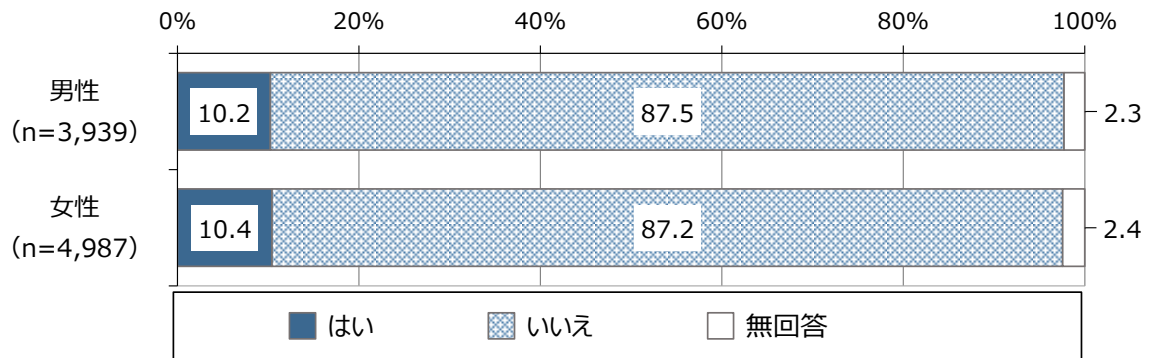


認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が14.2%で、一般高齢者（9.8%）より4.4ポイント高い状況です。



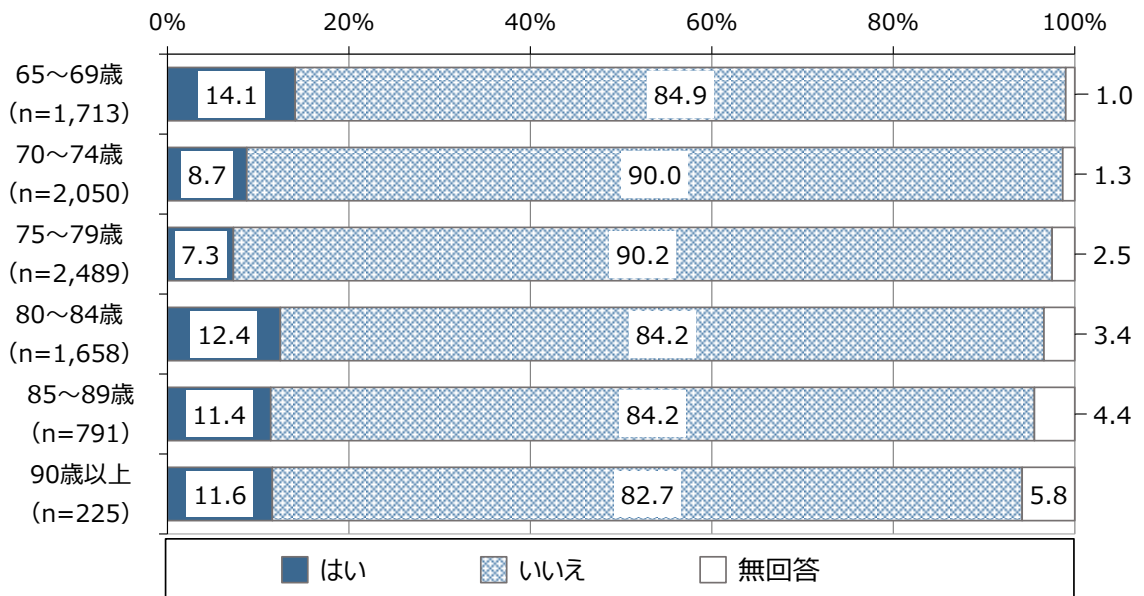
性別でみると、「はい」では、男性が 10.2%、女性が 10.4%です。

図表 2-10-3 回答者（または家族）に認知症の症状があるか 性別



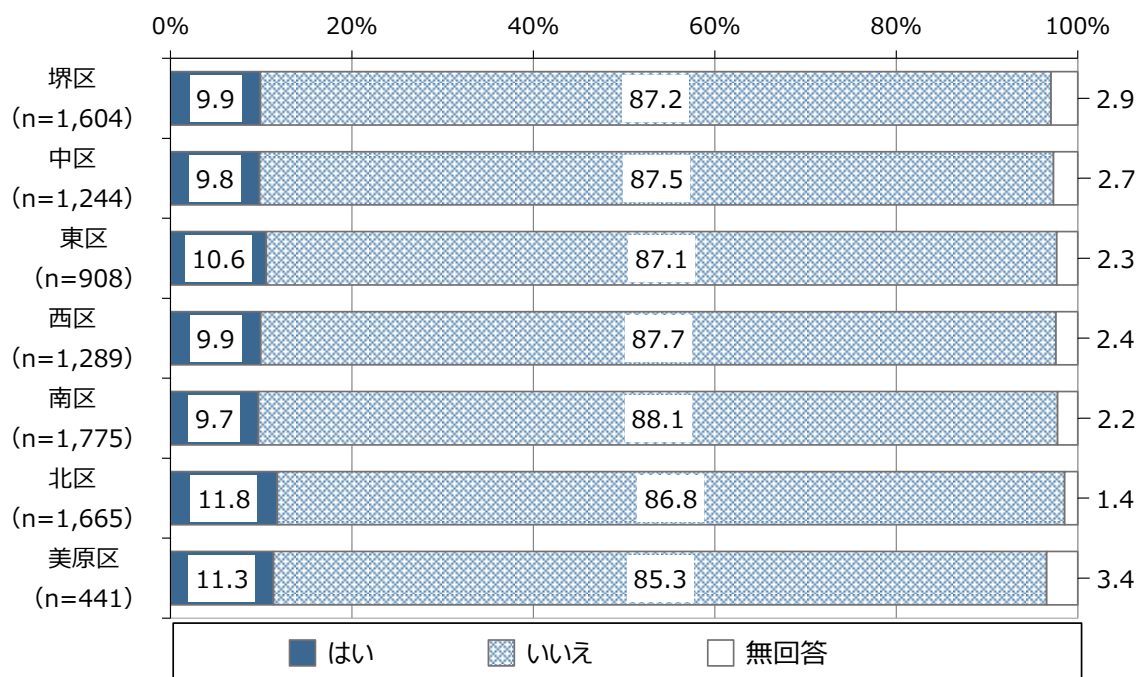
年齢階級別でみると、「はい」では、65～69 歳が 14.1%で最も高い状況です。

図表 2-10-4 回答者（または家族）に認知症の症状があるか 年齢階級別



区域別でみると、「はい」では、北区が11.8%で最も高い状況です。

図表 2-10-5 回答者（または家族）に認知症の症状があるか 区域別

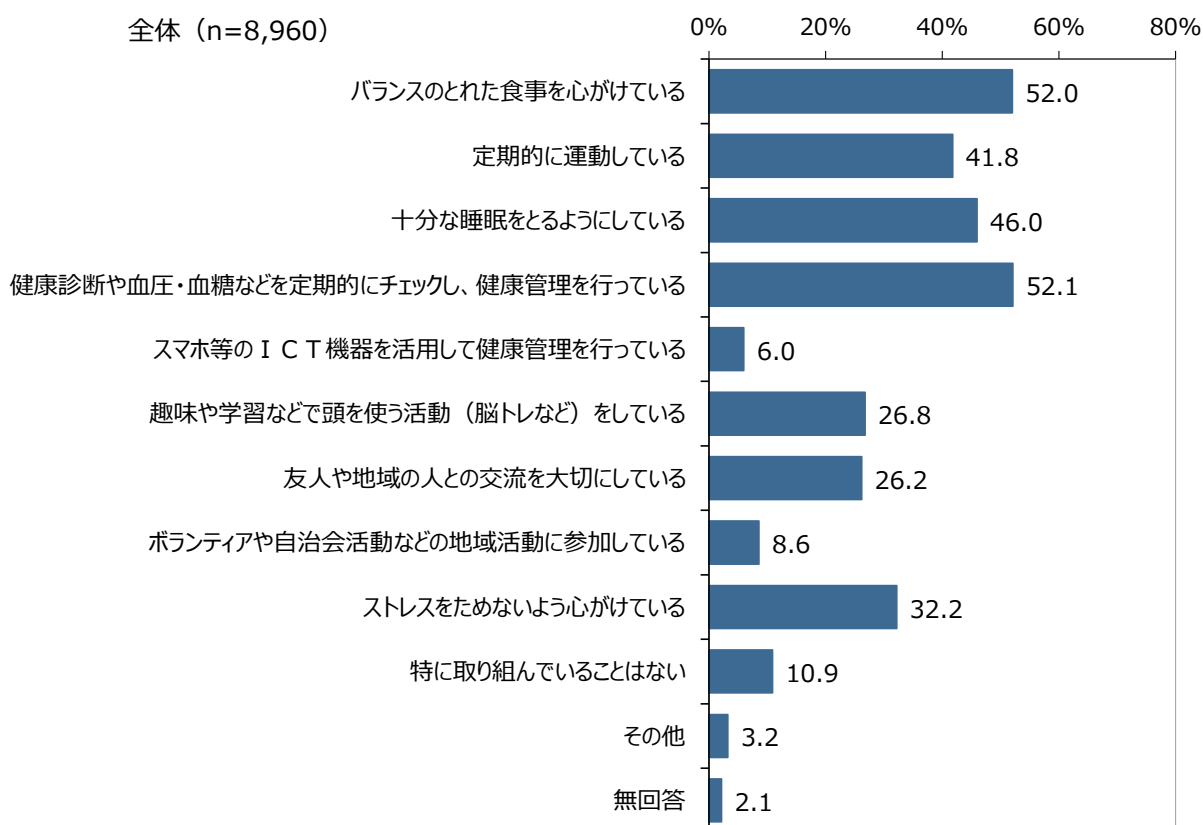


(2) 認知症予防や健康を保つために取り組んでいること

問 9 (2)	認知症予防や健康を保つために、何か取り組んでいることはありますか (○はいくつでも)
------------	---

認知症予防や健康を保つために取り組んでいることについては、「健康診断や血圧・血糖などを定期的にチェックし、健康管理を行っている」が 52.1%で最も高く、次いで「バランスのとれた食事を心がけている」が 52.0%、「十分な睡眠をとるようにしている」が 46.0%と続いているほか、「趣味や学習などで頭を使う活動（脳トレなど）をしている」が 26.8%です。

図表 2-10-6 認知症予防や健康を保つために取り組んでいること



認定状況別で見ると、一般高齢者では「バランスのとれた食事を心がけている」が 52.2%で最も高く、要支援認定者では「健康診断や血圧・血糖などを定期的にチェックし、健康管理を行っている」が 55.3%で最も高い割合を占めています。

性別で見ると、男性では「健康診断や血圧・血糖などを定期的にチェックし、健康管理を行っている」が 52.9%で最も高く、女性では「バランスのとれた食事を心がけている」が 56.4%で最も高い割合を占めています。

年齢階級別で見ると、79歳以下では「バランスのとれた食事を心がけている」の割合が最も高く、80歳以上では「健康診断や血圧・血糖などを定期的にチェックし、健康管理を行っている」の割合が最も高い状況です。

図表 2-10-7 認知症予防や健康を保つために取り組んでいること 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

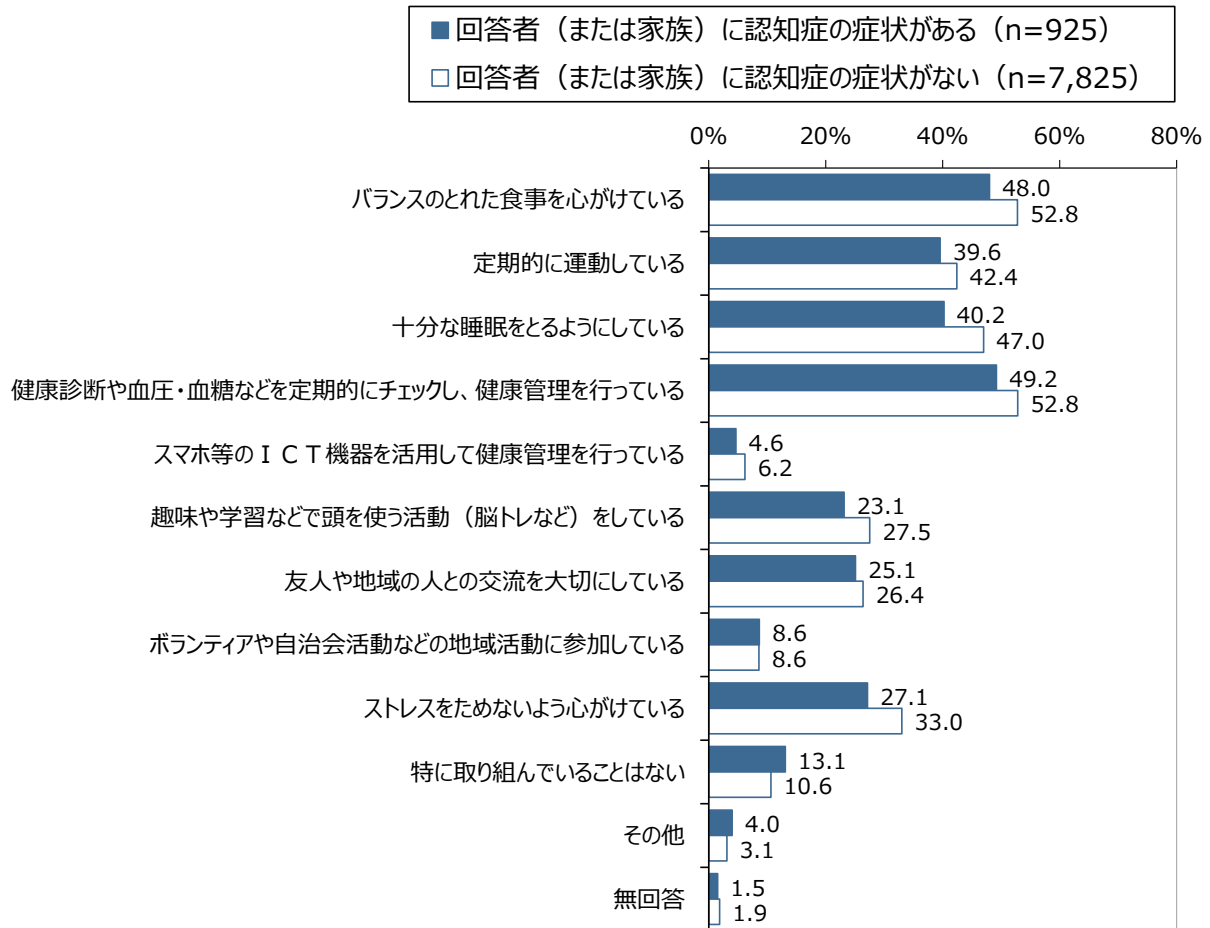
	合計	が バラ ン ス の と れ た 食 事 を 心 が け て い る	定 期 的 に 運 動 し て い る	十 分 な 睡 眠 を と る よ う に し	健 康 定 期 的 に 血 圧 ・ 血 糖 な ど を チ ェ ッ ク し 健 常 な と い う 状 況 に い る	ス マ ホ の 健 常 な と い う 状 況 に い る	活 動 や 学 習 な ど で 頭 を 使 う	大 切 に 地 域 の 人 と の 交 流 を	い な ど の 地 域 活 動 に 参 加 し て	が ス ト レ ッ ス を た め に い よ う 心	特 に 取 り 組 ん で い る こ と は	
												合 計
全体	8,960	52.0	41.8	46.0	52.1	6.0	26.8	26.2	8.6	32.2	10.9	
認 定 別	一般高齢者	7,869	52.2	42.4	46.0	51.6	6.3	26.8	25.7	8.7	32.0	11.1
	要支援認定者	1,057	50.3	36.9	46.1	55.3	3.4	26.8	29.8	7.4	33.0	9.7
性 別	男性	3,939	46.3	42.0	45.6	52.9	6.2	23.1	17.1	7.8	30.1	13.2
	女性	4,987	56.4	41.5	46.3	51.4	5.8	29.6	33.4	9.1	33.8	9.1
年 齢 階 級 別	65～69歳	1,713	47.6	42.3	41.2	45.4	9.2	23.1	19.7	6.5	28.4	14.7
	70～74歳	2,050	49.6	40.9	42.9	48.5	7.0	25.9	25.4	8.7	33.0	11.7
	75～79歳	2,489	54.0	43.1	46.4	53.3	4.9	28.4	28.1	9.1	32.4	10.4
	80～84歳	1,658	55.6	43.1	50.1	57.5	4.6	29.4	28.6	10.9	33.9	8.1
	85～89歳	791	53.4	37.9	52.6	57.6	3.0	26.4	30.7	7.3	33.5	8.6
	90歳以上	225	52.0	34.2	52.9	60.9	4.0	26.2	27.1	3.6	32.9	9.3
全体	8,960	3.2	2.1									
認 定 別	一般高齢者	7,869	3.2	1.9								
	要支援認定者	1,057	3.8	3.6								
性 別	男性	3,939	2.7	2.1								
	女性	4,987	3.6	2.2								
年 齢 階 級 別	65～69歳	1,713	3.0	0.5								
	70～74歳	2,050	3.0	1.8								
	75～79歳	2,489	3.1	2.4								
	80～84歳	1,658	3.9	3.1								
	85～89歳	791	2.8	2.8								
	90歳以上	225	5.3	5.8								

※網掛け■は最も割合が高いもの

回答者（または家族）に認知症の症状があるかどうかでみると、回答者（または家族）に認知症の症状がない人では、回答者（または家族）に認知症の症状がある人に比べて、「ボランティアや自治会活動などの地域活動に参加している」、「特に取り組んでいることはない」、「その他」を除くすべての項目で割合が高い状況です。

図表 2-10-8 認知症予防や健康を保つために取り組んでいること

回答者（または家族）に認知症の症状があるか別

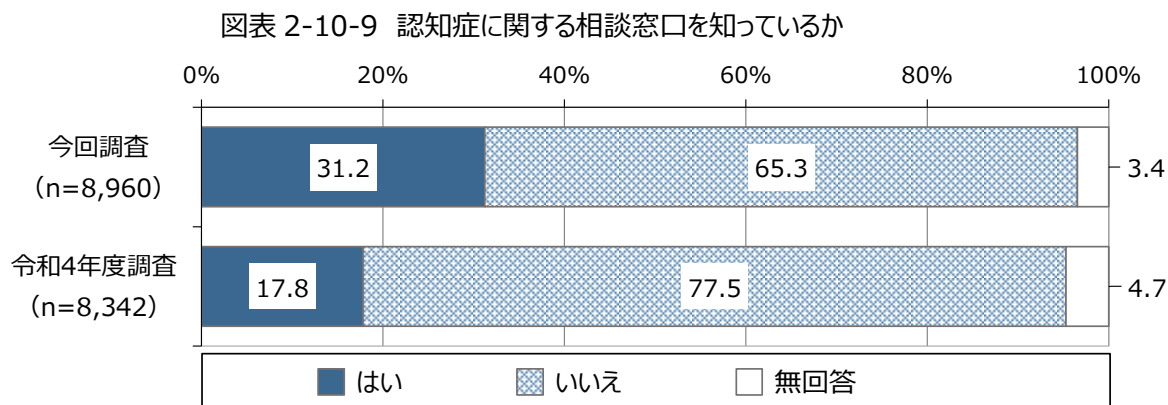


(3) 認知症に関する相談窓口を知っているか

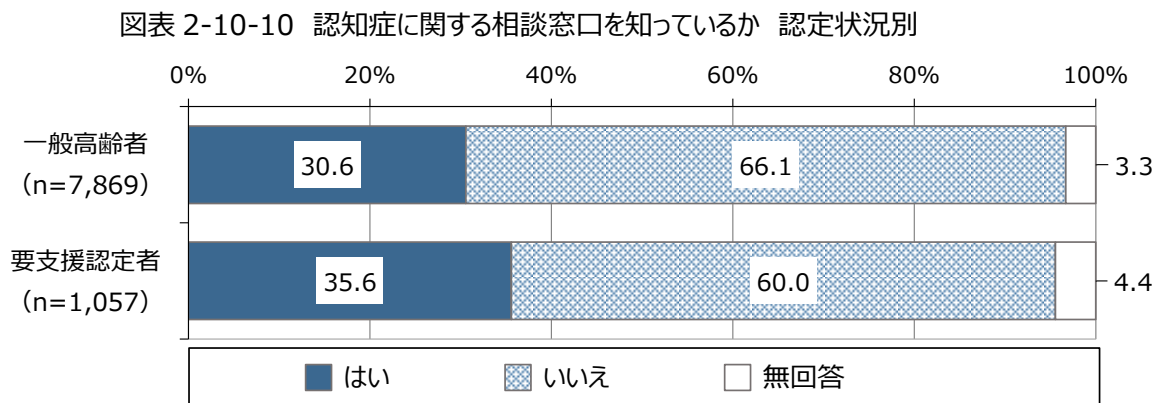
問 9 (3)	認知症に関する相談窓口を知っていますか (○はひとつ)
------------	-----------------------------

認知症に関する相談窓口を知っているかについては、「はい」が 31.2%、「いいえ」が 65.3%です。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「はい」（31.2%）では、令和 4（2022）年度調査（17.8%）より 13.4 ポイント増加しています。

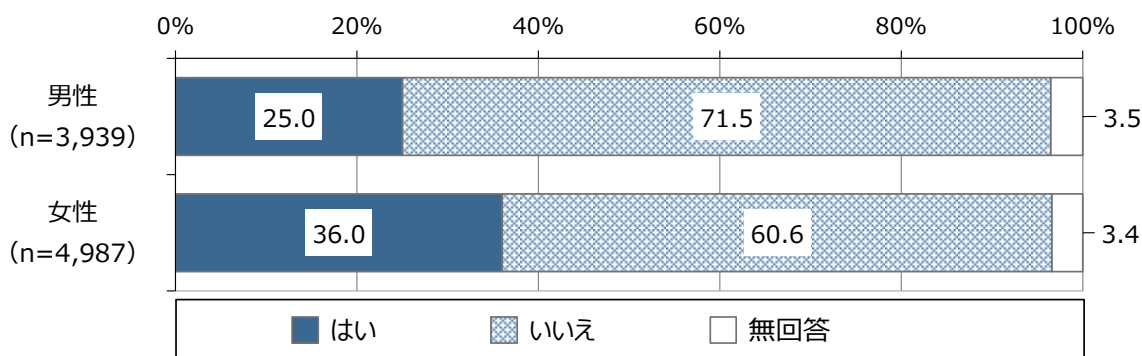


認定状況別でみると、「はい」では、要支援認定者が 35.6%で、一般高齢者（30.6%）より 5.0 ポイント高い状況です。



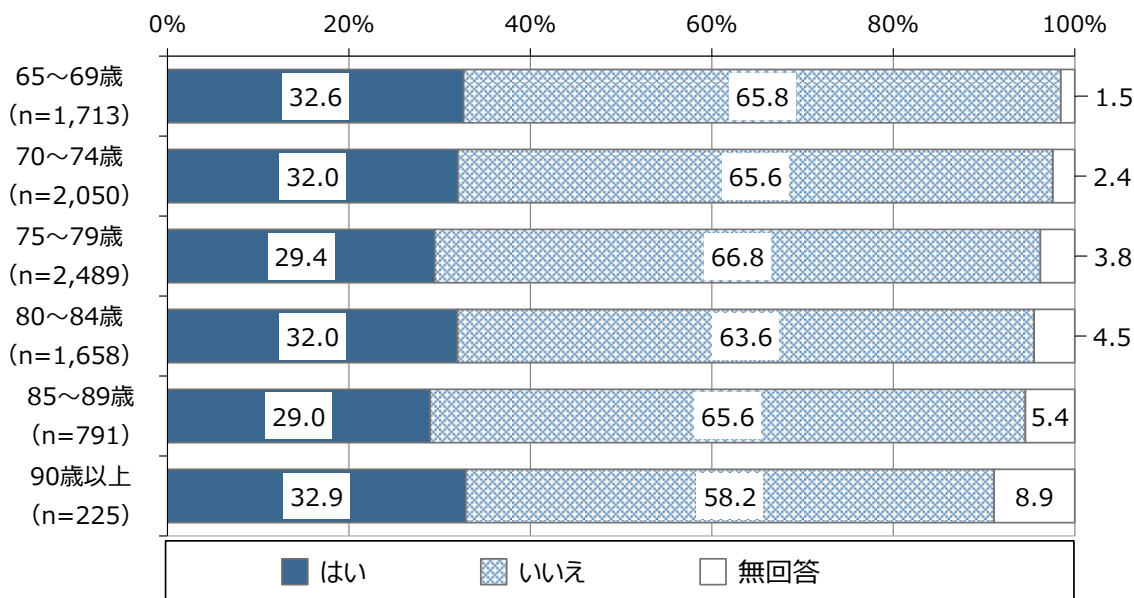
性別でみると、「はい」では、女性が 36.0%で、男性（25.0%）より 11.0 ポイント高い状況です。

図表 2-10-11 認知症に関する相談窓口を知っているか 性別



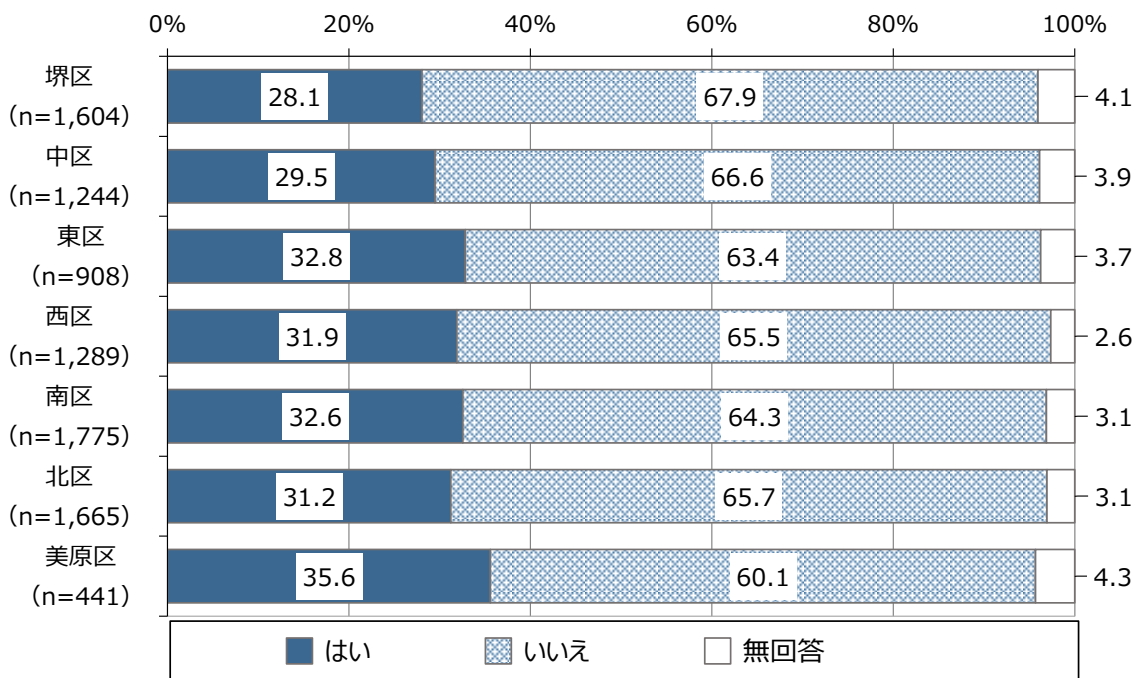
年齢階級別でみると、「はい」では、90歳以上が 32.9%で最も高い状況です。

図表 2-10-12 認知症に関する相談窓口を知っているか 年齢階級別



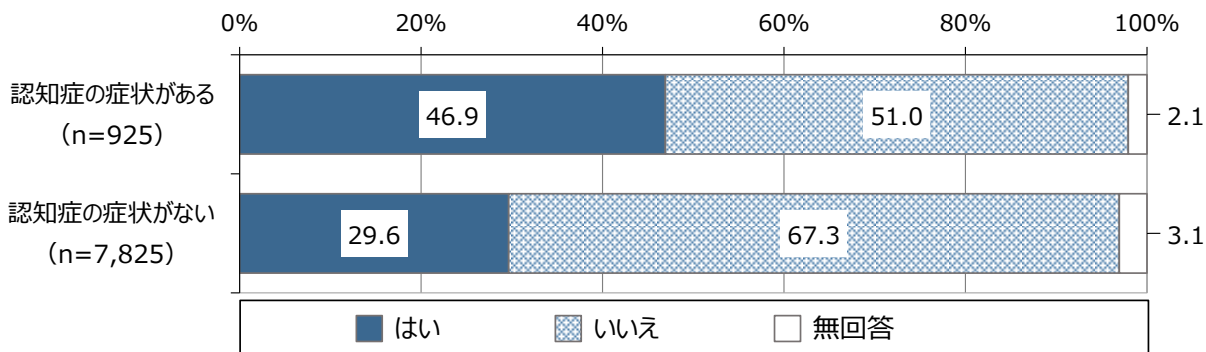
区域別でみると、「はい」では、美原区が 35.6%で最も高い状況です。

図表 2-10-13 認知症に関する相談窓口を知っているか 区域別



回答者（または家族）に認知症の症状があるかどうかでみると、回答者（または家族）に認知症の症状がある人で、認知症に関する相談窓口を知らない人は 51.0%です。

図表 2-10-14 認知症に関する相談窓口を知っているか 回答者（または家族）に認知症の症状があるか別



11 仕事について

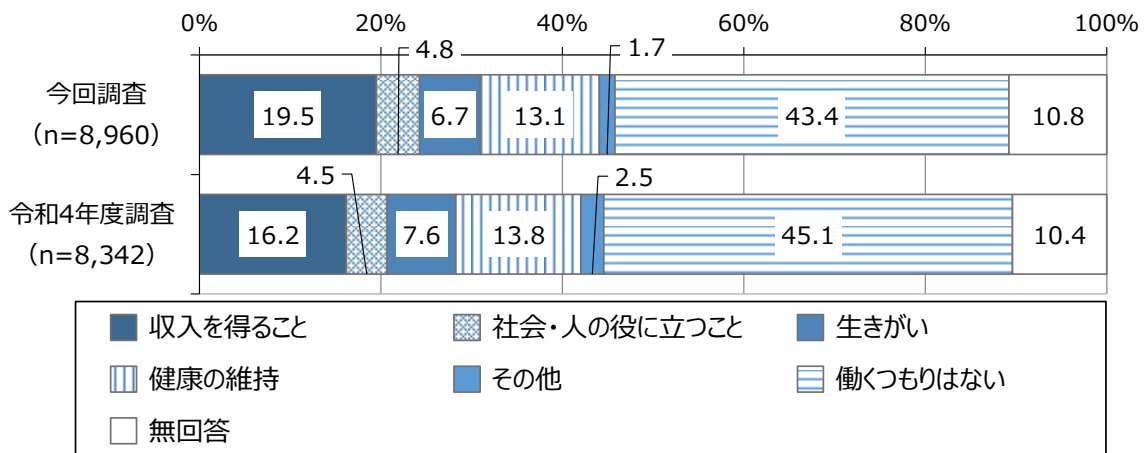
(1) これから働き始めようとする（働き続ける）場合、仕事に一番求めるもの

問 10 (1)	これから働き始めようとする（または引き続き働き続ける）場合に、あなたが仕事に一番求めるものは何ですか（○はひとつ）
-------------	---

これから働き始めようとする（働き続ける）場合、仕事に一番求めるものについては、「働くつもりはない」が43.4%で最も高く、次いで「収入を得ること」が19.5%、「健康の維持」が13.1%と続いています。

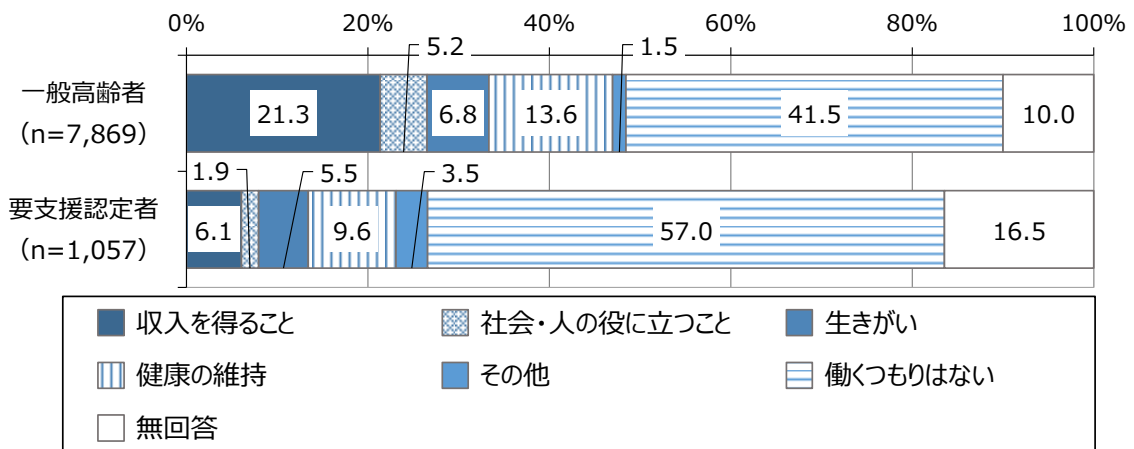
令和4（2022）年度調査と比較すると、「収入を得ること」（19.5%）では、令和4（2022）年度調査（16.2%）より3.3ポイント増加しています。

図表 2-11-1 これから働き始めようとする（働き続ける）場合、仕事に一番求めるもの



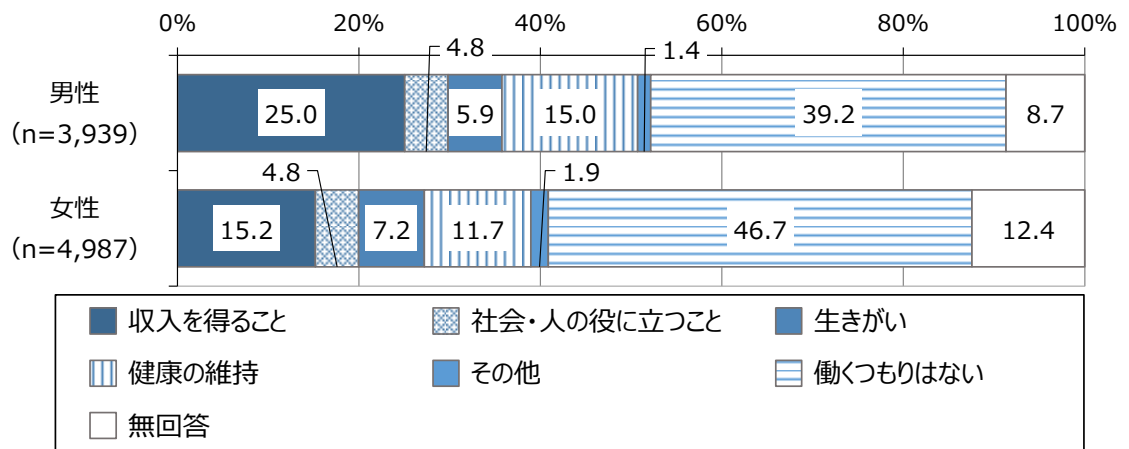
認定状況別でみると、一般高齢者、要支援認定者いずれも「働くつもりはない」の割合が最も高く、一般高齢者では次いで「収入を得ること」が、要支援認定者では次いで「健康の維持」が高い状況です。

図表 2-11-2 これから働き始めようとする（働き続ける）場合、仕事に一番求めるもの 認定状況別



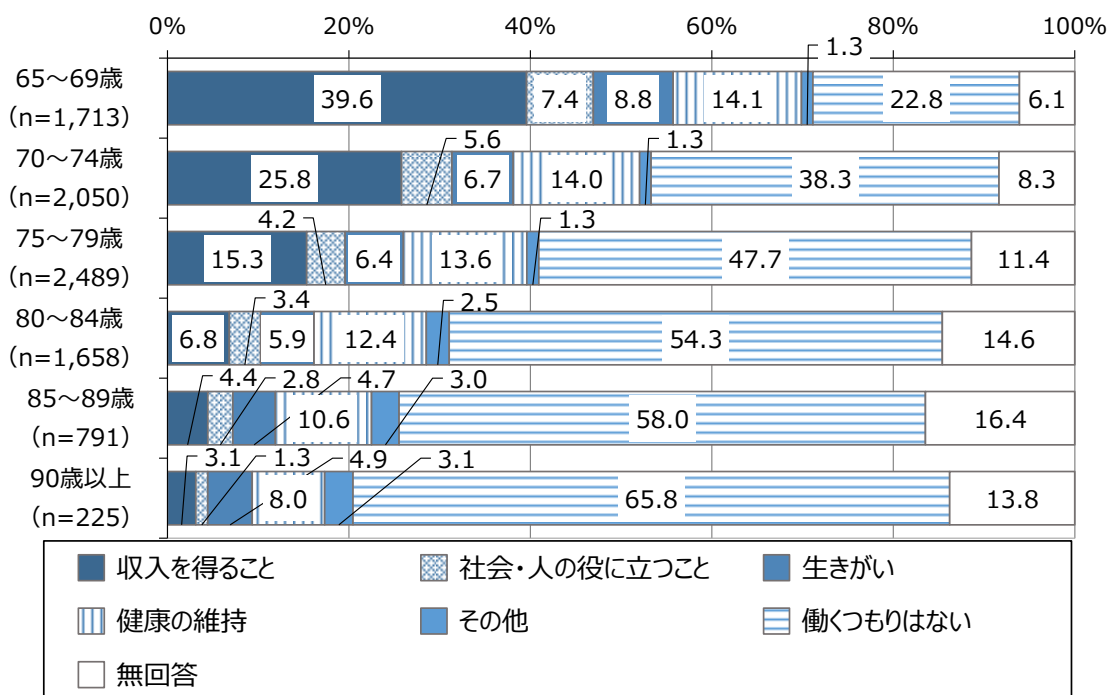
性別でみると、男性、女性いずれも「働くつもりはない」の割合が最も高く、次いで「収入を得ること」、「健康の維持」と続いています。

図表 2-11-3 これから働き始めようとする（働き続ける）場合、仕事に一番求めるもの 性別



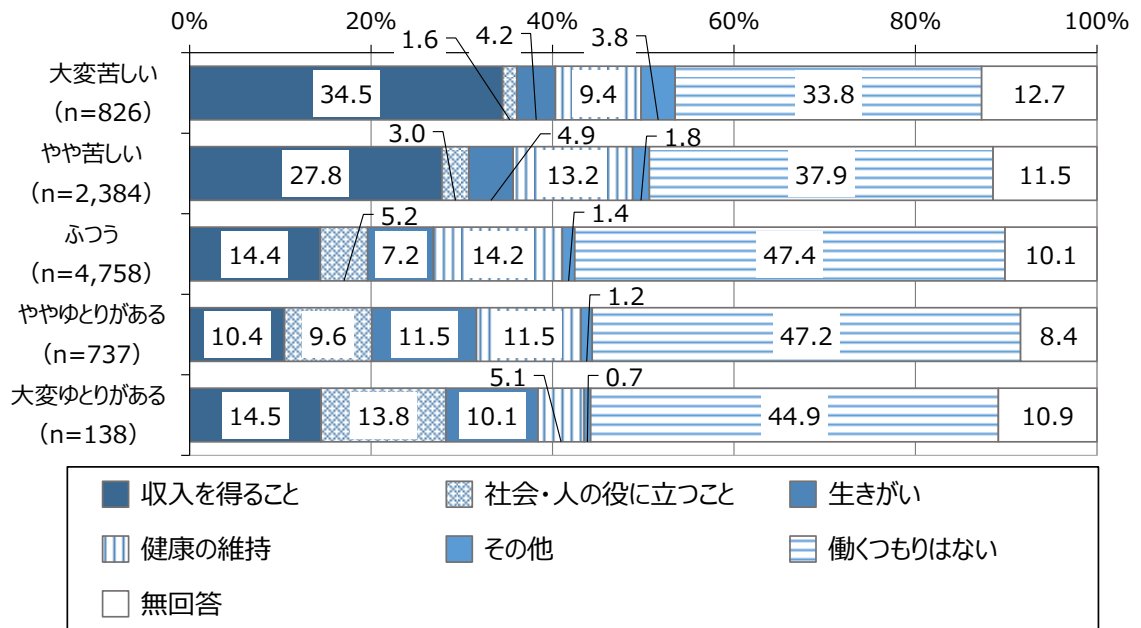
年齢階級別でみると、「働くつもりはない」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が65.8%で最も高い状況です。

図表 2-11-4 これから働き始めようとする（働き続ける）場合、仕事に一番求めるもの 年齢階級別



現在の暮らしの経済的状況別でみると、「社会・人の役に立つこと」では、ゆとりがあると感じる度合いが強くなるにつれて割合が増加しており、「大変ゆとりがある」が13.8%で最も高い状況です。

図表 2-11-5 これから働き始めようとする（働き続ける）場合、仕事に一番求めるもの
現在の暮らしの経済的状況別



12 介護について

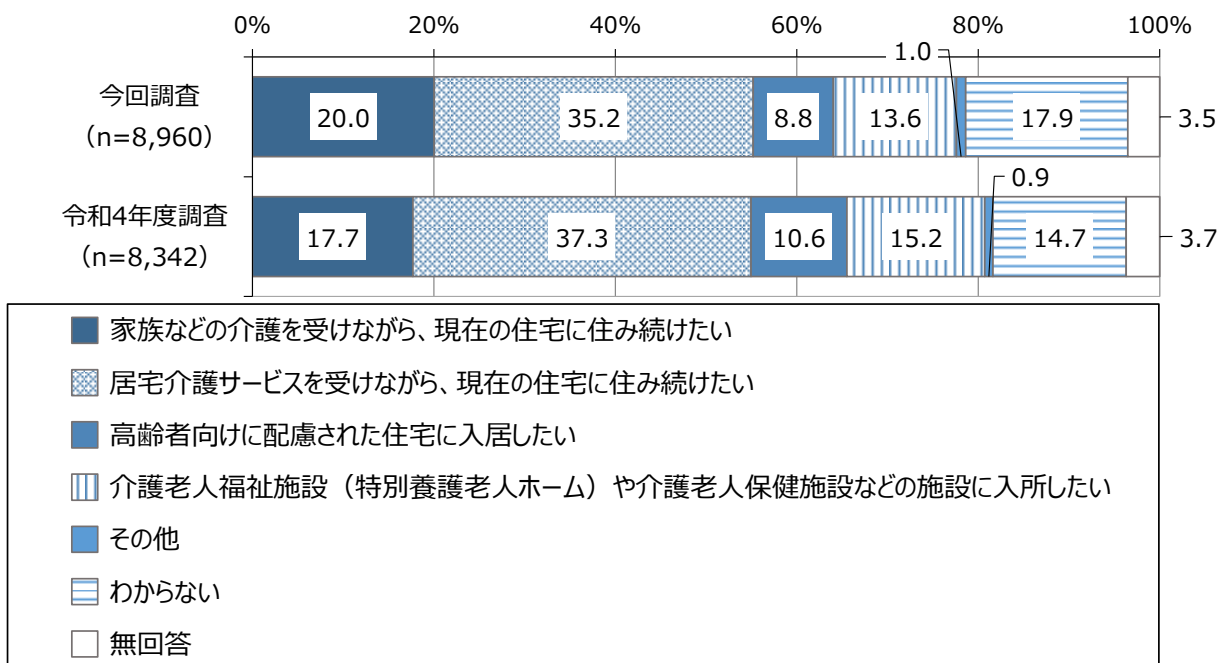
(1) 介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいと思うか

問 11 (1)	介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいと思いますか（○はひとつ）
-------------	--

介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいと思うかについては、「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」が 35.2%で最も高く、次いで「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」が 20.0%、「わからない」が 17.9%と続いています。

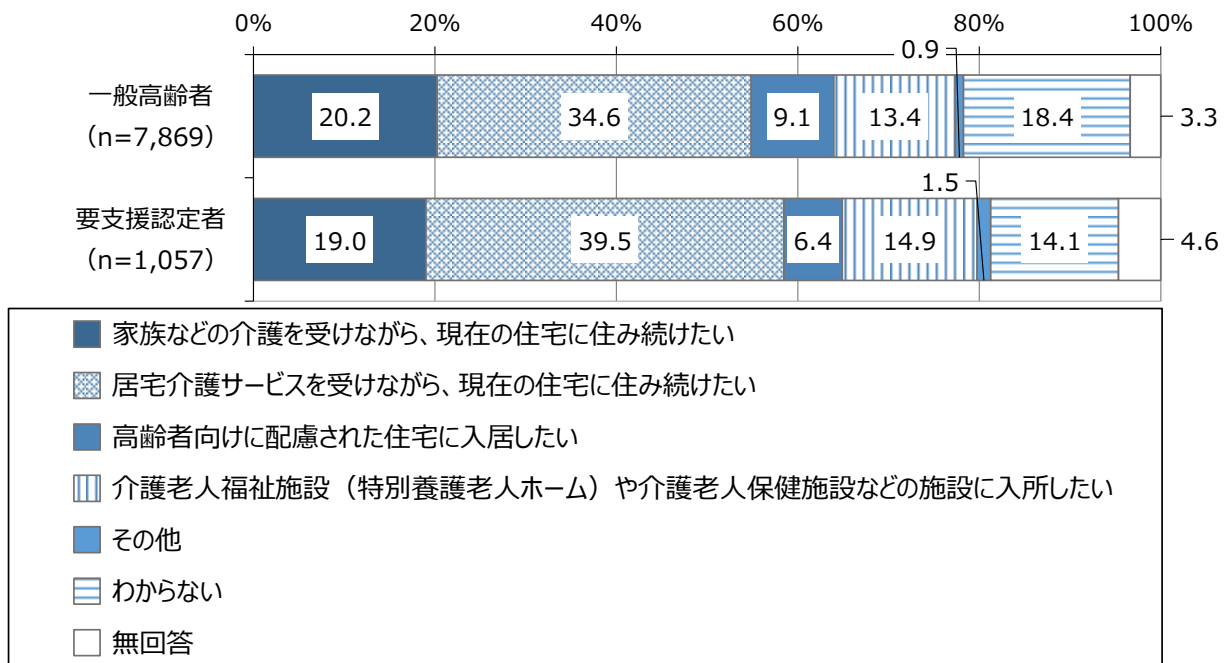
令和 4（2022）年度調査と比較すると、『現在の住宅に住み続けたい』（「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」と「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の合計）（55.2%）では、令和 4（2022）年度調査（55.0%）と大きな差はみられません。

図表 2-12-1 介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいと思うか



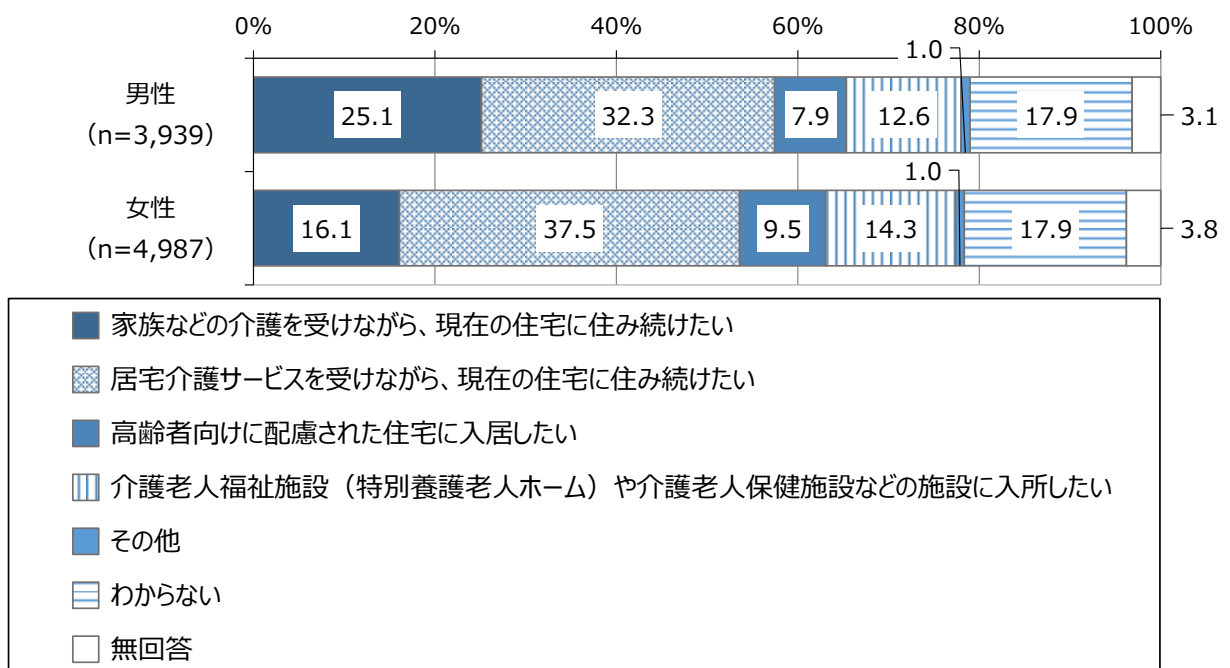
認定状況別でみると、「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」では、要支援認定者が39.5%で、一般高齢者（34.6%）より4.9ポイント高い状況です。

図表 2-12-2 介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいと思うか 認定状況別



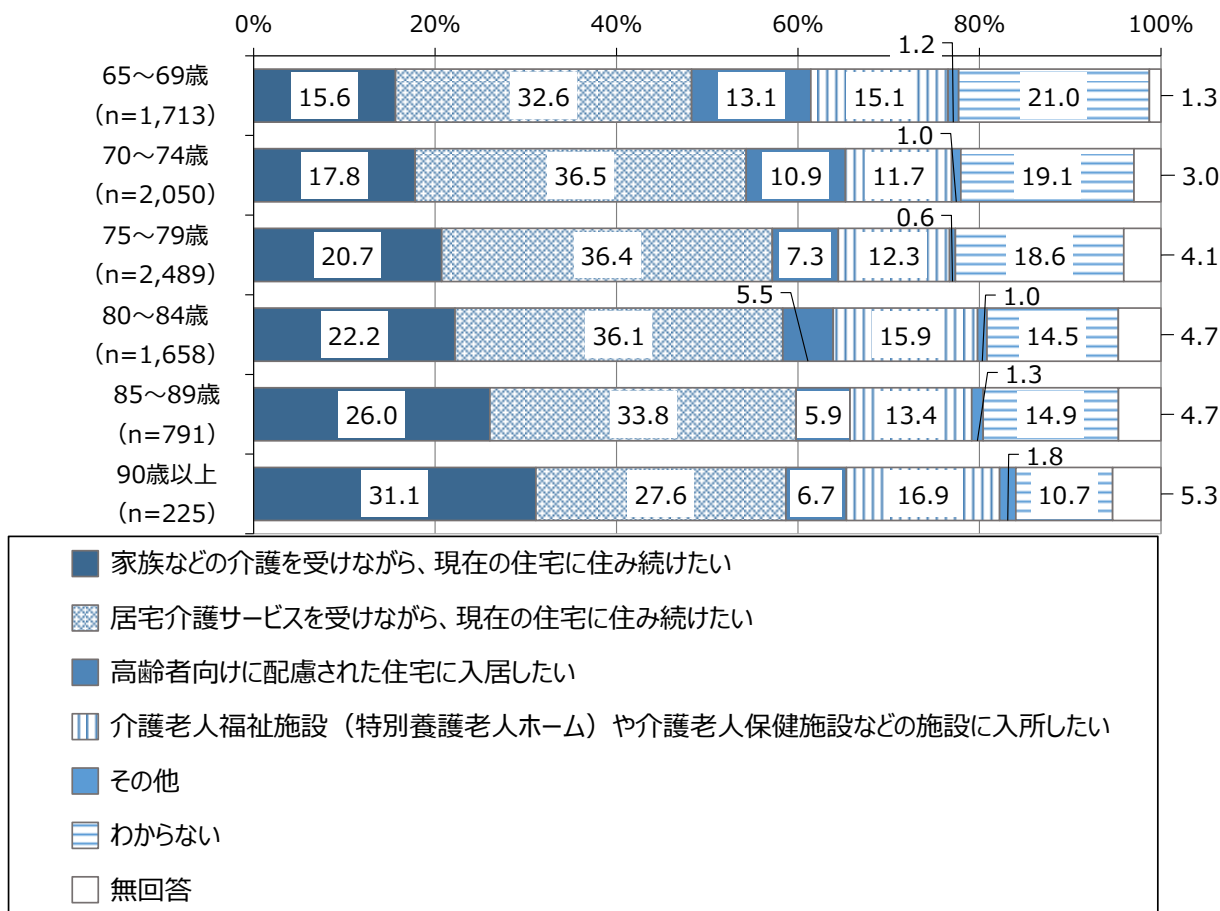
性別でみると、男性、女性いずれも「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」が最も高い割合を占めています。

図表 2-12-3 介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいと思うか 性別



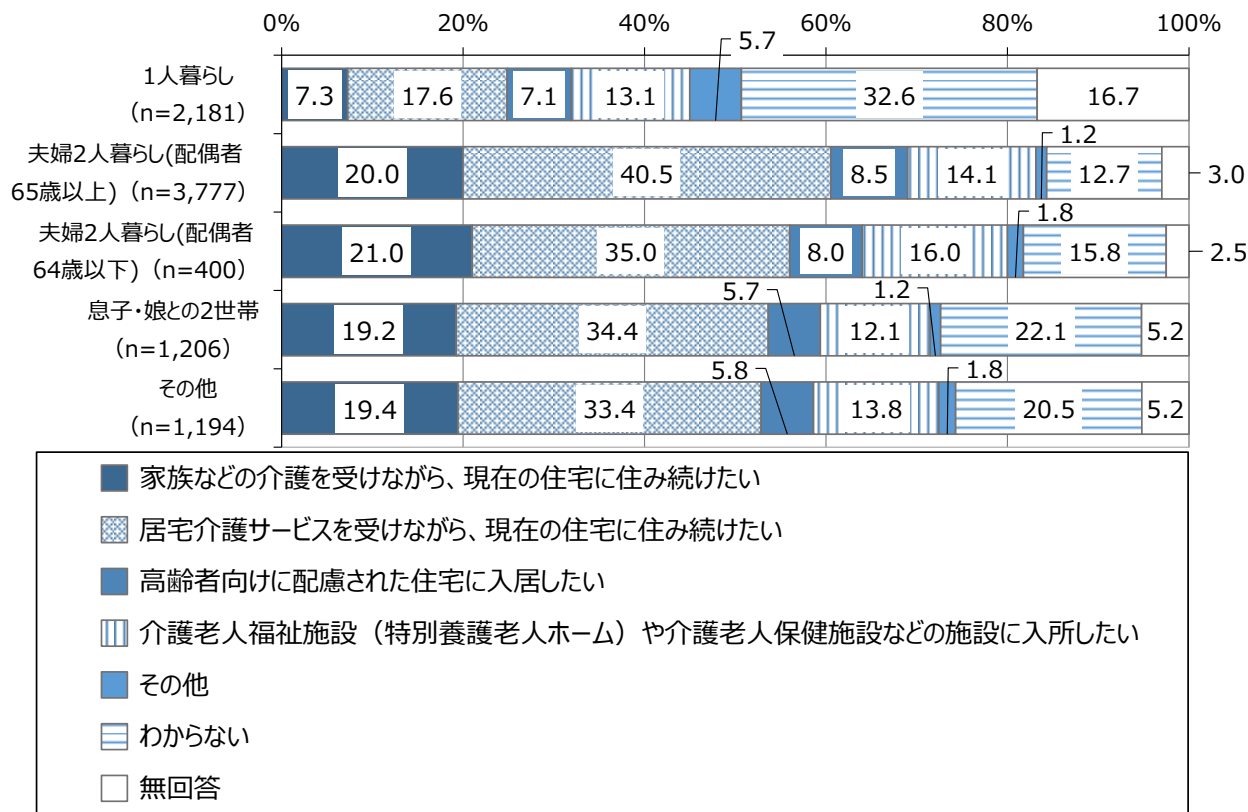
年齢階級別でみると、「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」では、年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90歳以上が31.1%で最も高い状況です。

図表 2-12-4 介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいと思うか 年齢階級別



家族構成別でみると、「1人暮らし」では、「わからない」の割合が最も高く、それ以外の家族構成では「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の割合が最も高い状況です。

図表 2-12-5 介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいと思うか 家族構成別



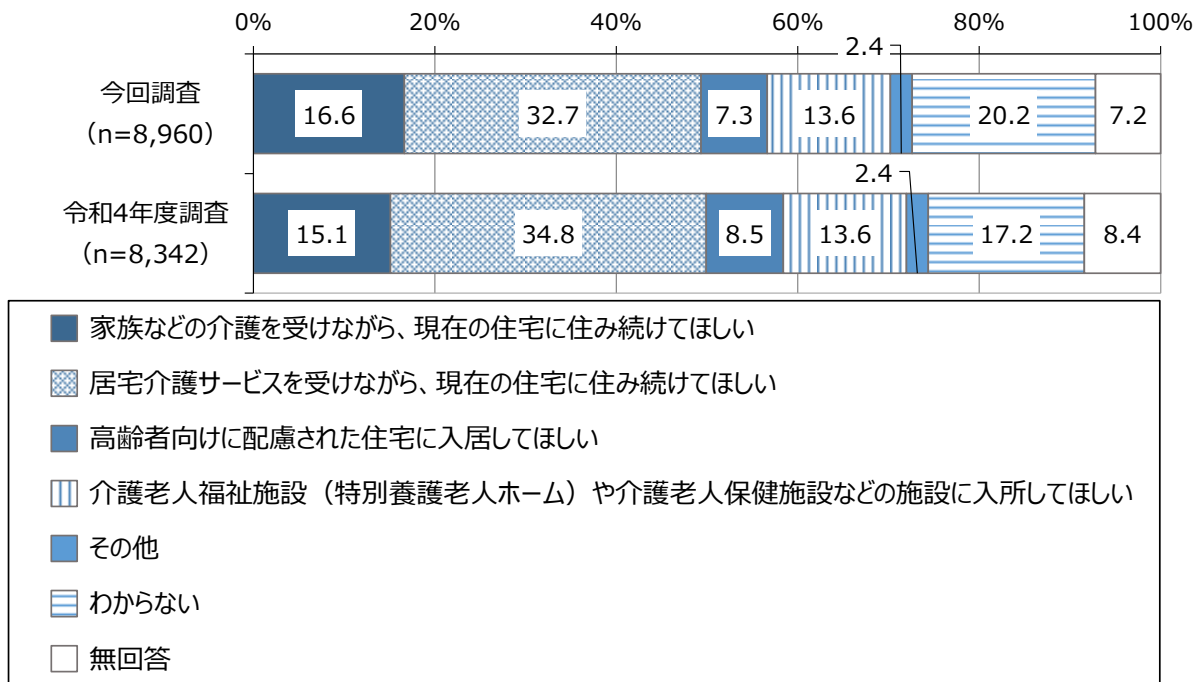
(2) 家族に介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしてほしいと思うか

問 11 (2)	家族に介護が必要になったら、どのような暮らし方をしてほしいと思いますか (○はひとつ)
-------------	--

家族に介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしてほしいと思うかについては、「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けてほしい」が 32.7%で最も高く、次いで「わからない」が 20.2%、「家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けてほしい」が 16.6%と続いています。

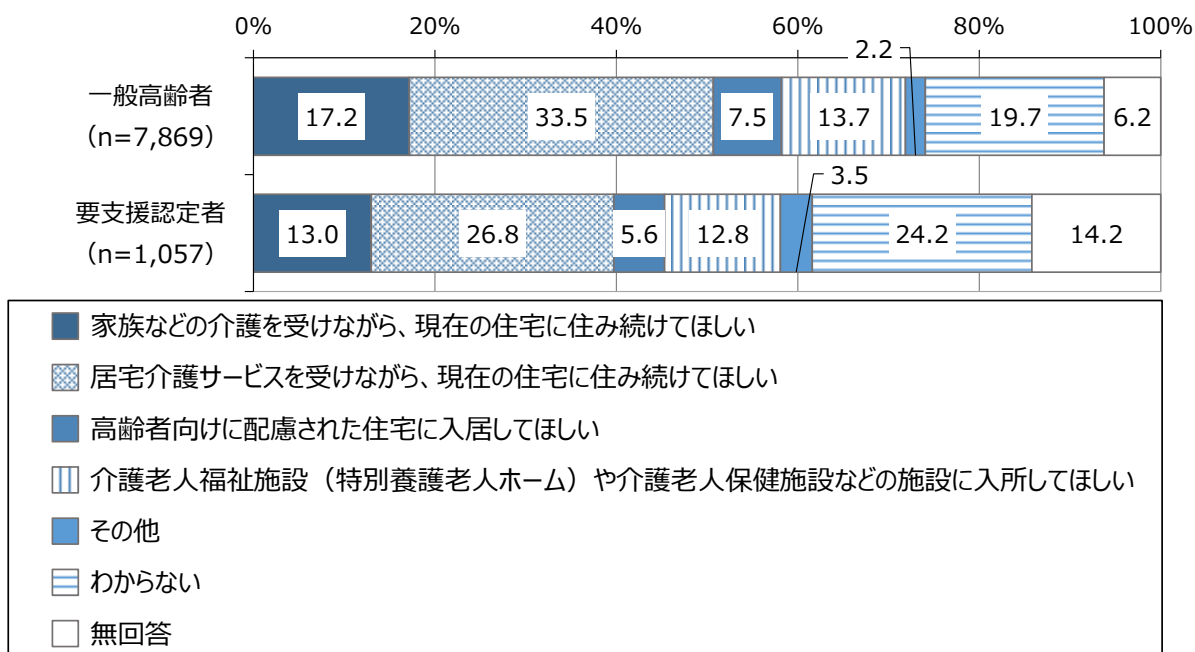
令和 4（2022）年度調査と比較すると、「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けてほしい」（32.7%）では、令和 4（2022）年度調査（34.8%）と同様、最も高い割合を占めています。

図表 2-12-6 家族に介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしてほしいと思うか



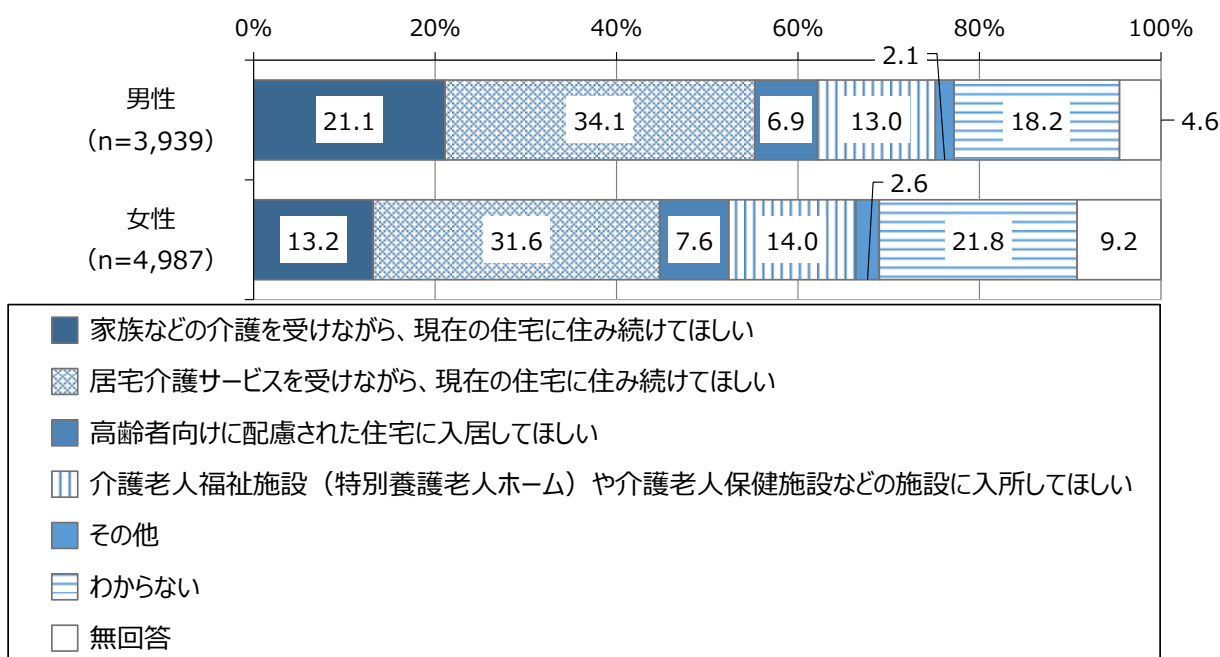
認定状況別で見ると、一般高齢者、要支援認定者いずれも「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けてほしい」が最も高い割合を占めています。

図表 2-12-7 家族に介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしてほしいと思うか 認定状況別



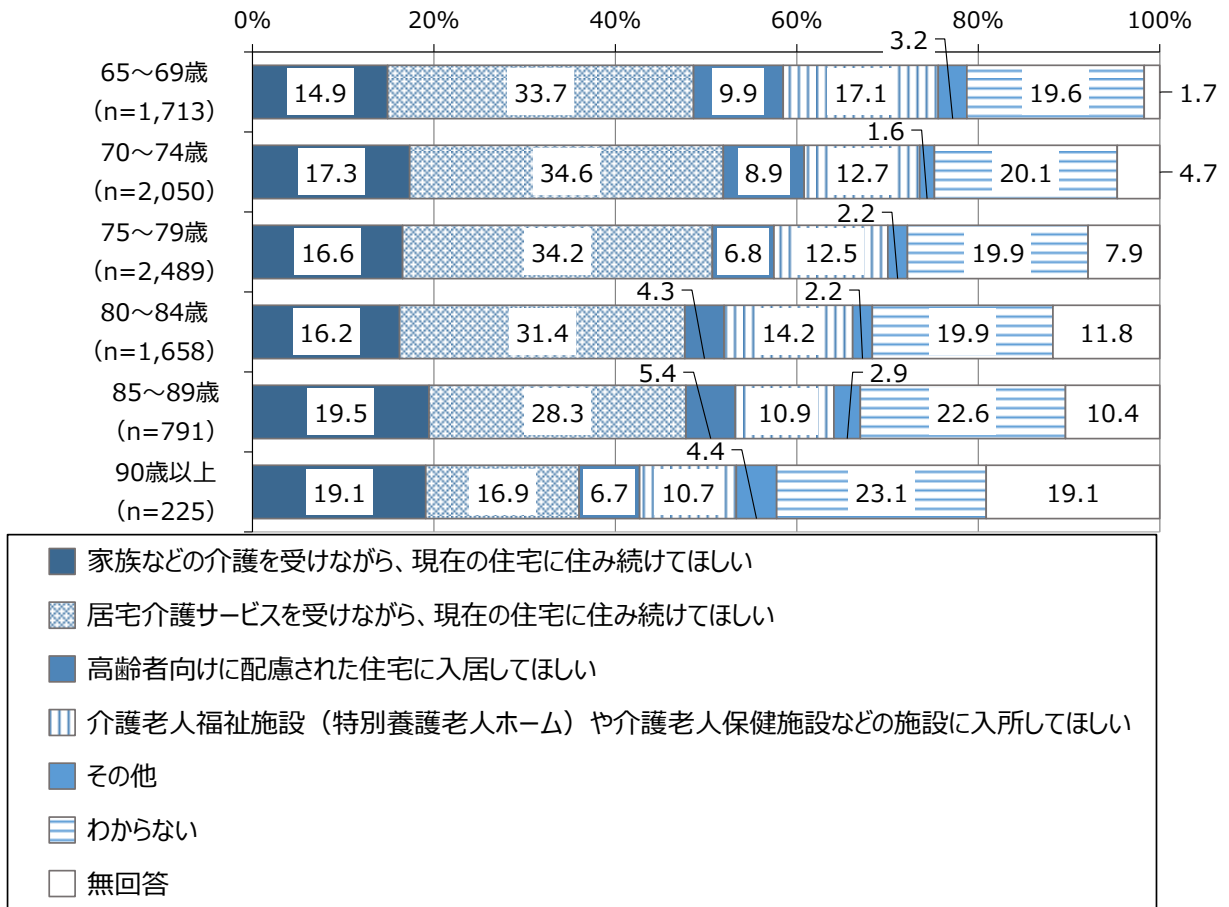
性別で見ると、男性、女性いずれも「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けてほしい」が最も高い割合を占めています。

図表 2-12-8 家族に介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしてほしいと思うか 性別



年齢階級別でみると、89歳以下では「居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けてほしい」の割合が最も高く、90歳以上では「わからない」が最も高い割合を占めています。

図表 2-12-9 家族に介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしてほしいと思うか 年齢階級別



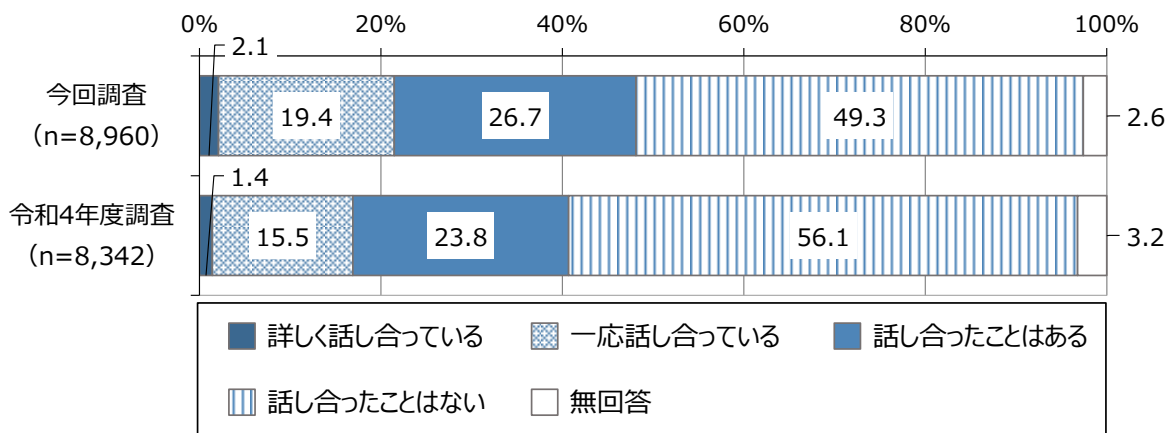
(3) 人生の最終段階における医療・介護について話し合っているか

問 11 (3)	人生の最終段階における医療や介護について、あなた自身の希望を、家族等や医療介護関係者と話し合っていますか（○はひとつ）
-------------	---

人生の最終段階における医療・介護について話し合っているかについては、「話し合ったことはない」が 49.3% で最も高く、次いで「話し合ったことはある」が 26.7%、「一応話し合っている」が 19.4%と続いています。

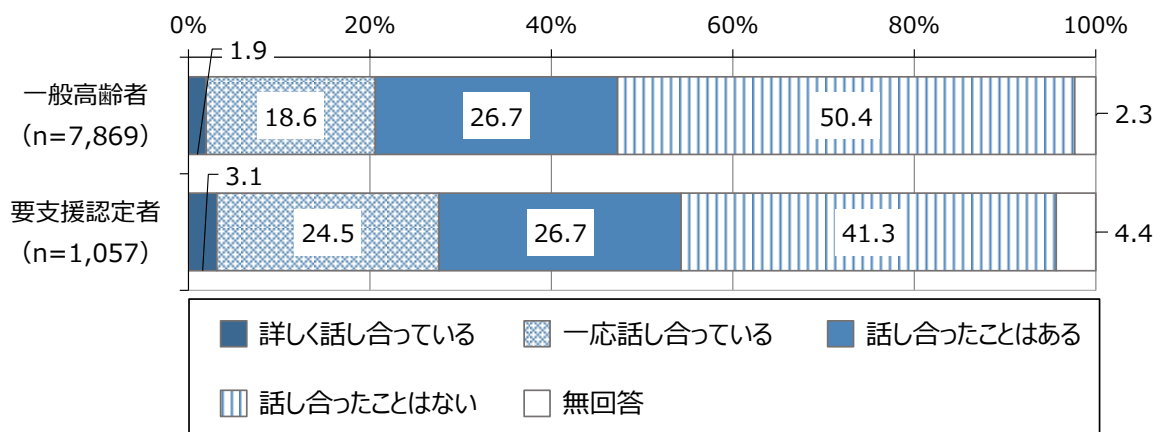
令和 4（2022）年度調査と比較すると、『話し合っている』（「詳しく話し合っている」と「一応話し合っている」の合計）（21.5%）では、令和 4（2022）年度調査（16.9%）より 4.6 ポイント増加しています。

図表 2-12-10 人生の最終段階における医療・介護について話し合っているか



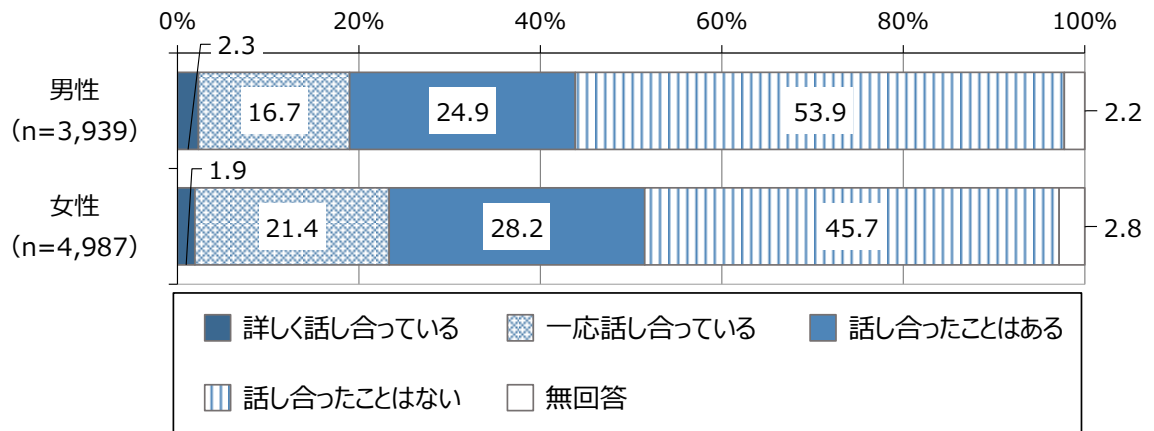
認定状況別でみると、一般高齢者、要支援認定者いずれも「話し合ったことはない」の割合が最も高い状況です。

図表 2-12-11 人生の最終段階における医療・介護について話し合っているか 認定状況別



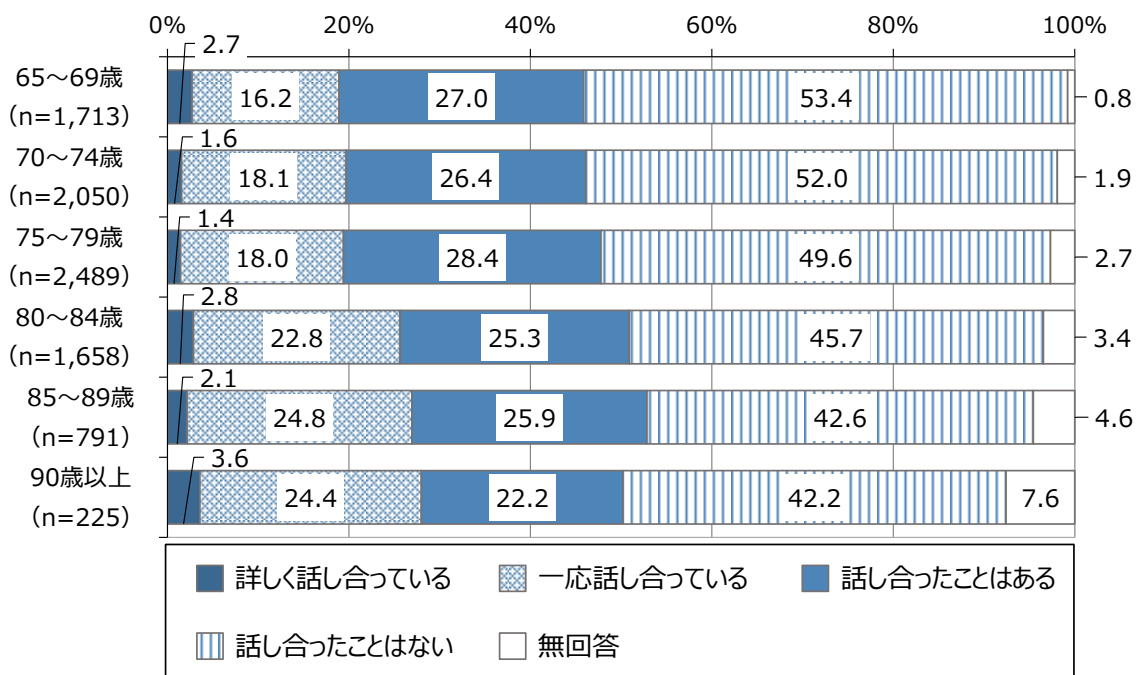
性別でみると、「話し合ったことはない」では、男性が 53.9%で、女性（45.7%）より 8.2 ポイント高い状況です。

図表 2-12-12 人生の最終段階における医療・介護について話し合っているか 性別



年齢階級別でみると、すべての年齢階級で「話し合ったことはない」が最も高い割合を占めています。

図表 2-12-13 人生の最終段階における医療・介護について話し合っているか 年齢階級別

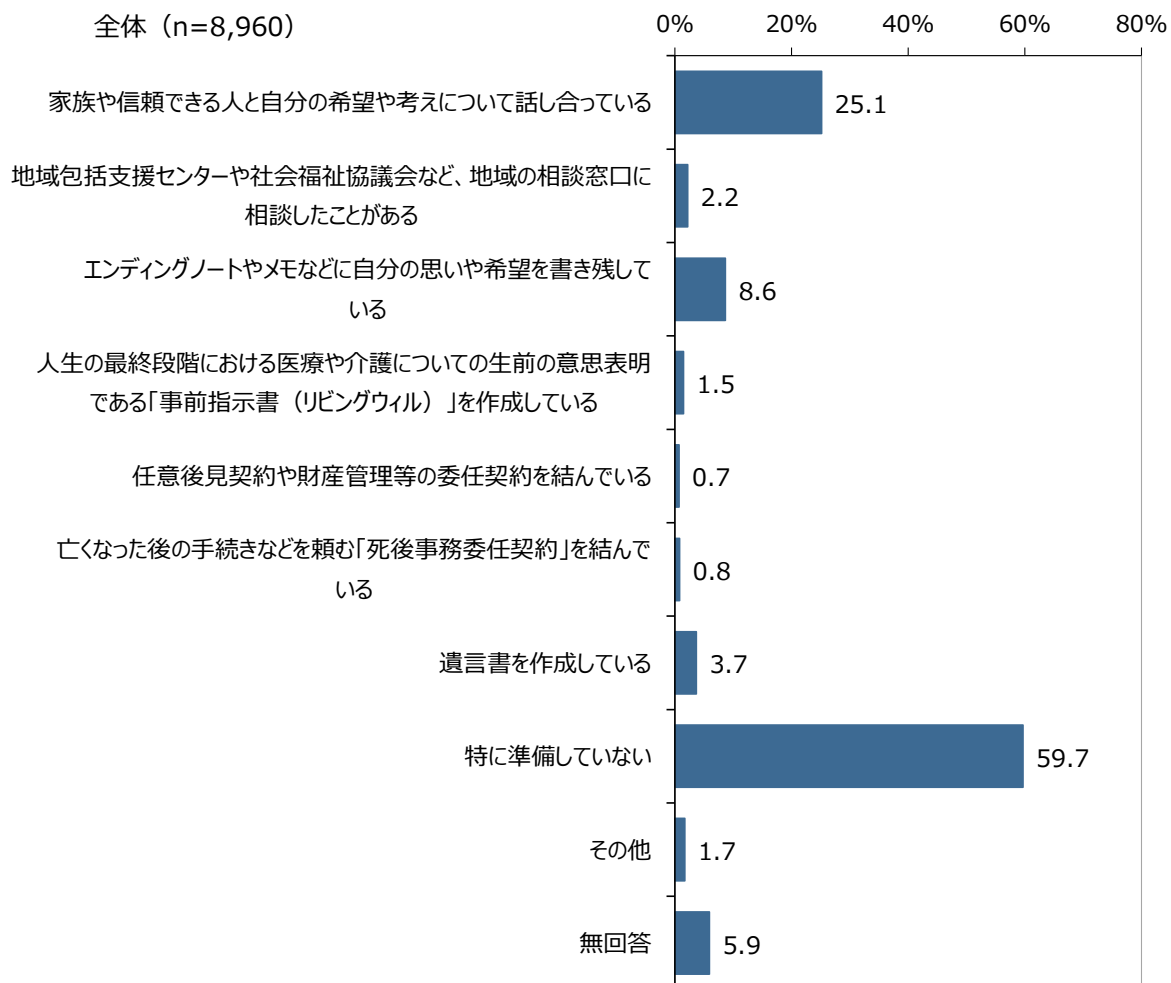


(4) 判断能力の低下や人生の最終段階に備えて準備していること

問 11 (4)	将来の判断能力の低下や人生の最終段階に備えて、どのような準備をしていますか (○はいくつでも)
-------------	--

判断能力の低下や人生の最終段階に備えて準備していることについては、「特に準備していない」が 59.7%で最も高く、次いで「家族や信頼できる人と自分の希望や考えについて話し合っている」が 25.1%、「エンディングノートやメモなどに自分の思いや希望を書き残している」が 8.6%と続いています。

図表 2-12-14 判断能力の低下や人生の最終段階に備えて準備していること



認定状況別で見ると、一般高齢者、要支援認定者いずれも「特に準備していない」の割合が最も高い状況です。

性別で見ると、「特に準備していない」では、男性が64.7%で、女性（55.8%）より8.9ポイント高い状況です。

年齢階級別で見ると、「特に準備していない」では、年齢階級が上がるにつれて割合が減少しており、65～69歳が69.0%で最も高い状況です。

図表 2-12-15 判断能力の低下や人生の最終段階に備えて準備していること 属性別

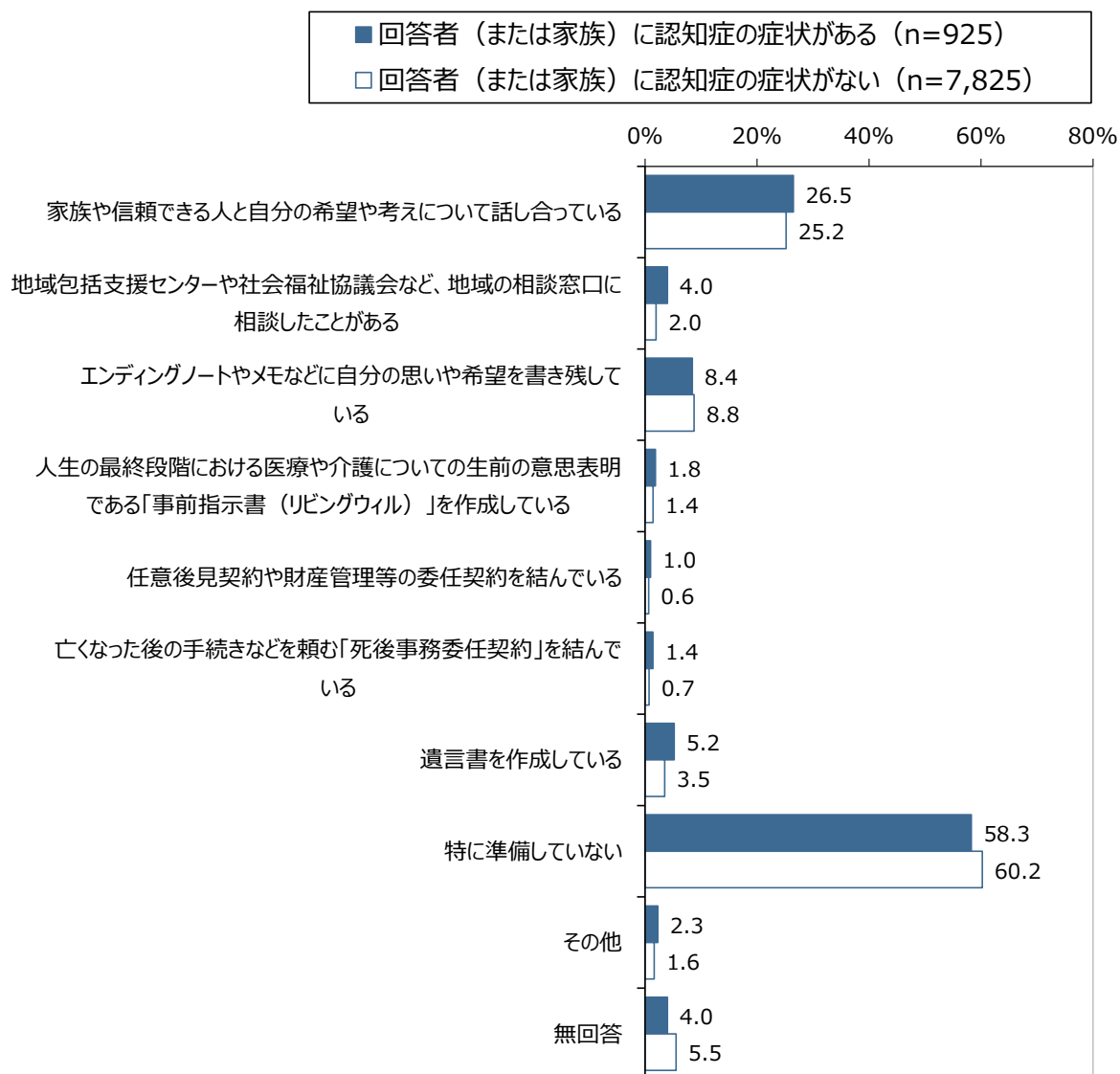
単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	い家族や話し合っている人と自分の希望や考えにつ	ど地域包括支援センターや社会福祉協議会な	やエンディングノートやメモなどに自分の思い	の生前の意思表明で作成している事前指示書（リビ	で任意後見契約や財産管理等の委任契約を結ん	委任になった後の手続きなどを頼む「死後事務	遺言書を作成している	特に準備していない	その他	無回答	
全体	8,960	25.1	2.2	8.6	1.5	0.7	0.8	3.7	59.7	1.7	5.9	
認定別	一般高齢者	7,869	25.0	1.3	8.4	1.3	0.6	0.7	3.3	61.2	1.6	5.5
	要支援認定者	1,057	25.8	8.8	10.2	3.0	1.5	1.7	5.9	48.5	2.7	9.3
性別	男性	3,939	21.7	1.8	6.9	1.0	0.6	0.6	3.8	64.7	1.2	5.3
	女性	4,987	27.8	2.5	10.0	1.8	0.7	1.0	3.4	55.8	2.0	6.4
年齢階級別	65～69歳	1,713	21.4	1.0	7.1	0.9	0.6	0.6	1.6	69.0	1.6	2.5
	70～74歳	2,050	24.7	0.9	8.6	1.0	0.4	0.2	2.6	63.0	1.5	4.5
	75～79歳	2,489	25.2	2.0	8.8	1.3	0.6	0.6	3.4	59.6	1.5	6.4
	80～84歳	1,658	27.2	4.1	9.7	2.4	1.0	1.4	4.8	52.7	1.9	8.6
	85～89歳	791	28.1	3.8	9.4	1.9	1.1	1.6	7.5	49.7	2.5	8.3
90歳以上	225	29.3	4.9	8.0	3.1	0.9	1.8	8.9	47.1	2.2	11.6	

※網掛け□は最も割合が高いもの

回答者（または家族）に認知症の症状があるかどうかでみると、回答者（または家族）に認知症の症状がある人と、回答者（または家族）に認知症の症状がない人と比較して、大きな差はみられません。

図表 2-12-16 判断能力の低下や人生の最終段階に備えて準備していること 属性別



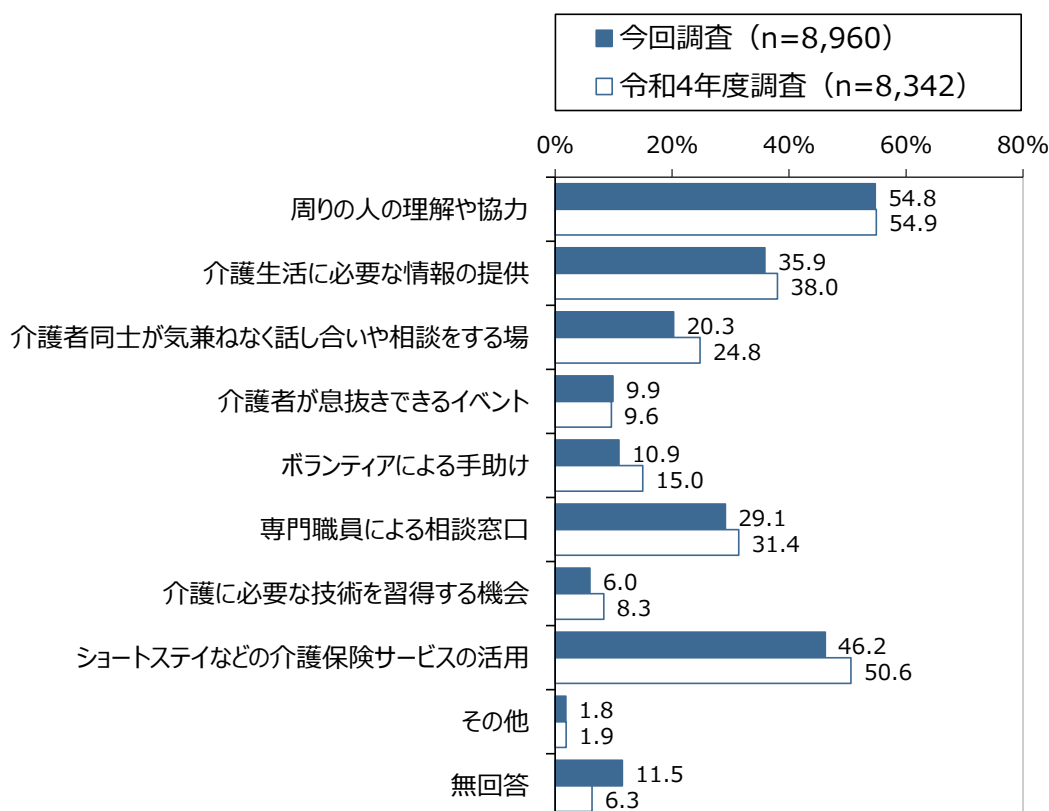
(5) 介護する人の介護疲れやストレスケアのために必要だと思うこと

問 11 (5)	家族を介護する人の介護疲れやストレスのケアをするためには、何が必要だと思いますか (○は3つまで)
-------------	--

介護する人の介護疲れやストレスケアのために必要だと思うことについては、「周りの人の理解や協力」が54.8%で最も高く、次いで「ショートステイなどの介護保険サービスの活用」が46.2%、「介護生活に必要な情報の提供」が35.9%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「介護者同士が気兼ねなく話し合いや相談をする場」（20.3%）では、令和4（2022）年度調査（24.8%）より4.5ポイント減少しています。

図表 2-12-17 介護する人の介護疲れやストレスケアのために必要だと思うこと



認定状況別で見ると、一般高齢者、要支援認定者いずれも「周りの人の理解や協力」が最も高い割合を占めています。

性別で見ると、男性、女性いずれも「周りの人の理解や協力」が最も高い割合を占めています。

年齢階級別で見ると、すべての年齢階級で「周りの人の理解や協力」が最も高い割合を占めており、65～69歳が59.4%で最も高い状況です。

図表 2-12-18 介護する人の介護疲れやストレスケアのために必要だと思うこと 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	周りの人の理解や協力	介護生活に必要な情報の提供	介護者同士が気兼ねなく話し合いや相談をする場	介護者が息抜きできるイベント	ボランティアによる手助け	専門職員による相談窓口	介護に必要な技術を習得する機会	シヤトビスイなどの活用	その他	無回答	
全体	8,960	54.8	35.9	20.3	9.9	10.9	29.1	6.0	46.2	1.8	11.5	
認定別	一般高齢者	7,869	55.8	36.9	20.4	10.0	10.9	29.6	6.3	46.8	1.7	10.7
	要支援認定者	1,057	47.5	28.0	19.3	9.1	11.0	25.3	3.5	41.0	2.9	18.0
性別	男性	3,939	55.0	37.6	19.0	10.5	11.0	30.4	6.7	39.0	2.1	10.7
	女性	4,987	54.6	34.5	21.4	9.5	10.9	28.1	5.4	51.7	1.6	12.2
年齢階級別	65～69歳	1,713	59.4	39.7	19.8	11.6	13.8	33.6	5.6	55.3	2.0	5.3
	70～74歳	2,050	58.0	38.9	18.4	10.8	11.0	30.5	6.7	50.7	1.8	8.4
	75～79歳	2,489	53.4	36.2	21.0	9.7	9.7	29.0	6.2	45.1	1.5	12.1
	80～84歳	1,658	50.8	32.2	21.0	8.6	10.4	25.8	6.1	40.0	1.3	16.8
	85～89歳	791	51.7	30.0	22.8	8.1	9.2	23.3	3.8	34.8	2.8	18.2
90歳以上	225	46.7	22.2	20.0	7.1	11.1	27.6	4.9	31.1	4.0	19.6	

※網掛け■は最も割合が高いもの

13 住み慣れた地域で暮らし続けることについて

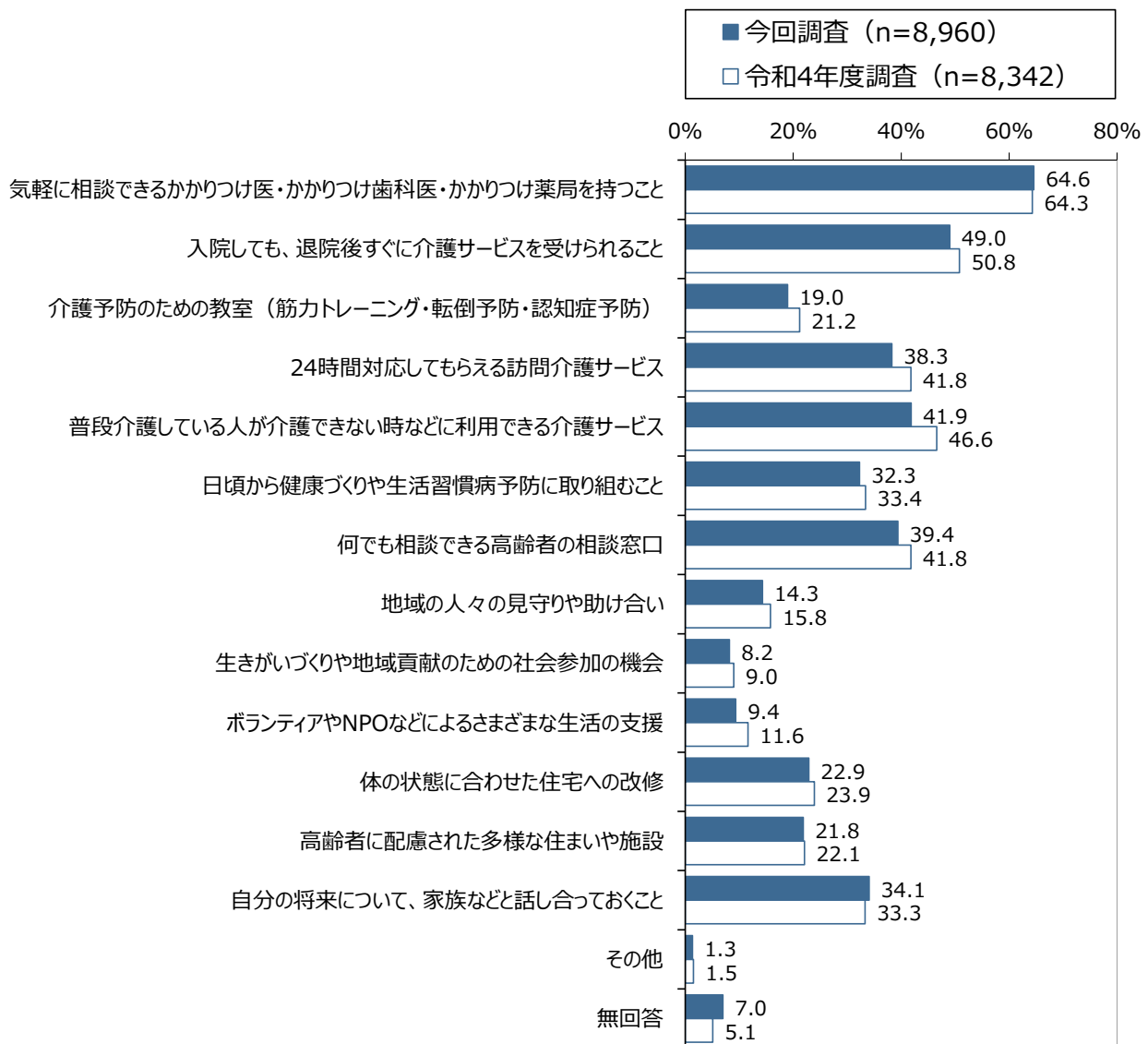
(1) 自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために必要だと思うこと

問 12 (1)	高齢者ができる限り自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために、どのようなことが必要だと思いますか（〇はいくつでも）
-------------	--

自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために必要だと思うことについては、「気軽に相談できるかかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局を持つこと」が 64.6%で最も高く、次いで「入院しても、退院後すぐに介護サービスを受けられること」が 49.0%、「普段介護している人が介護できない時などに利用できる介護サービス」が 41.9%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「自分の将来について、家族などと話し合っておくこと」（34.1%）では、令和 4（2022）年度調査（33.3%）より 0.8 ポイント増加しています。

図表 2-13-1 自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために必要だと思うこと



認定状況別で見ると、一般高齢者、要支援認定者いずれも「気軽に相談できるかかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局を持つこと」が最も高い割合を占めています。

性別で見ると、「普段介護している人が介護できない時などに利用できる介護サービス」では、女性が 46.1% で、男性（36.4%）より 9.7 ポイント高い状況です。

年齢階級別で見ると、すべての年齢階級で「気軽に相談できるかかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局を持つこと」が最も高い割合を占めており、90 歳以上が 68.9% で最も高い状況です。

図表 2-13-2 自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために必要だと思うこと 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	か	け	こ	介	防	力	介	訪	2	る	で	普	習	日	相	何	合	の	援
		け	気	こ	介	防	力	介	訪	2	る	で	普	習	日	相	何	合	の	援
全体	8,960	64.6	49.0	19.0	38.3	41.9	32.3	39.4	14.3	8.2	9.4									
認定別	一般高齢者	7,869	64.4	48.6	18.6	38.4	42.8	33.3	39.7	14.1	8.6	9.5								
	要支援認定者	1,057	65.8	51.4	21.3	36.4	34.5	23.9	37.1	15.8	5.4	8.4								
性別	男性	3,939	65.5	43.5	17.1	37.1	36.4	31.8	38.0	12.9	7.6	8.9								
	女性	4,987	63.8	53.2	20.3	39.0	46.1	32.6	40.5	15.5	8.6	9.7								
年齢階級別	65～69歳	1,713	63.5	51.7	22.0	45.0	49.8	35.4	40.5	15.2	11.5	10.8								
	70～74歳	2,050	64.0	49.0	20.0	39.9	44.2	35.0	40.8	14.0	9.0	10.6								
	75～79歳	2,489	65.0	48.6	18.6	36.4	41.3	32.1	38.8	14.1	7.5	8.8								
	80～84歳	1,658	64.4	47.2	18.2	34.2	36.1	29.4	39.0	14.4	6.8	8.4								
	85～89歳	791	65.9	48.7	13.5	34.9	34.9	27.2	36.3	13.4	5.4	7.7								
	90歳以上	225	68.9	45.8	13.8	32.0	30.2	22.7	38.2	15.6	3.1	6.2								
	合計		の	住	高	な	自	そ	無											
			体	ま	齢	ど	分	の	回											
			改	い	者	話	の	他	答											
			修	や	に	施	配													
			状	に	施	設	慮													
			態	合	わ	せ	た													
			に	わ	せ	た	住													
			合	わ	せ	た	宅													
			わ	せ	た	宅	へ													
全体	8,960	22.9	21.8	34.1	1.3	7.0														
認定別	一般高齢者	7,869	23.2	22.0	34.1	1.2	6.5													
	要支援認定者	1,057	20.6	20.1	33.6	1.7	10.6													
性別	男性	3,939	21.8	21.1	31.1	1.3	7.1													
	女性	4,987	23.8	22.4	36.3	1.3	6.9													
年齢階級別	65～69歳	1,713	27.8	29.0	33.6	1.3	3.3													
	70～74歳	2,050	25.6	23.7	34.0	1.0	5.6													
	75～79歳	2,489	20.7	19.7	32.9	1.2	7.3													
	80～84歳	1,658	19.4	18.6	35.5	1.7	10.0													
	85～89歳	791	19.7	15.0	35.5	1.4	10.4													
	90歳以上	225	20.9	20.9	34.2	1.8	11.6													

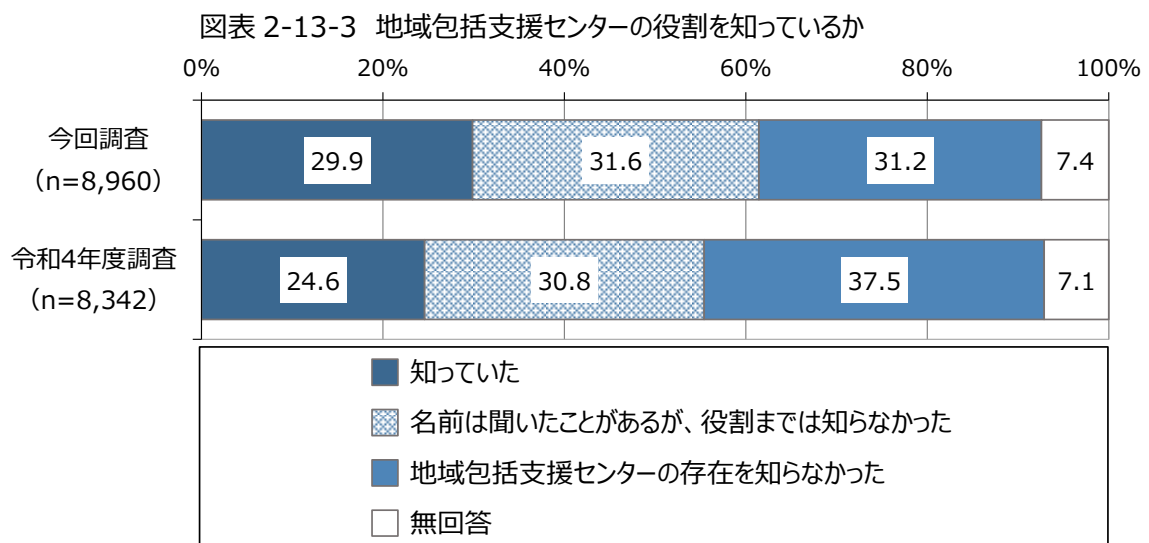
※網掛け■は最も割合が高いもの

(2) 地域包括支援センターの役割を知っているか

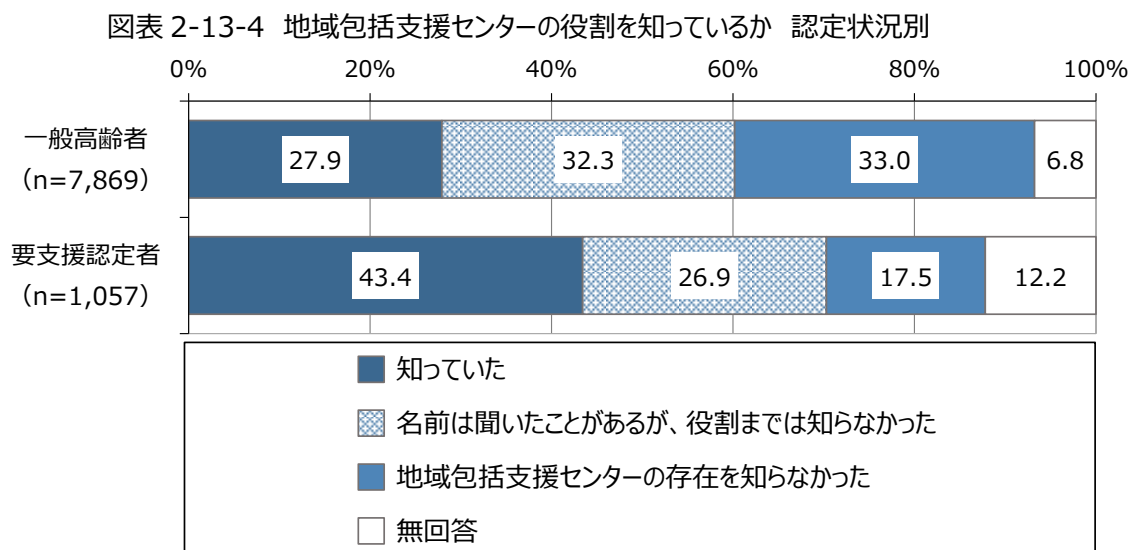
問 12 (2)	地域包括支援センターは、高齢者の方々が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、介護・福祉・健康などさまざまな面から総合的に相談や支援を行う役割を担っていますが、この役割を知っていましたか（○はひとつ）
-------------	--

地域包括支援センターの役割を知っているかについては、「名前は聞いたことがあるが、役割までは知らなかった」が 31.6%で最も高く、次いで「地域包括支援センターの存在を知らなかった」が 31.2%、「知っていた」が 29.9%です。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「知っていた」（29.9%）では、令和 4（2022）年度調査（24.6%）より 5.3 ポイント増加しています。

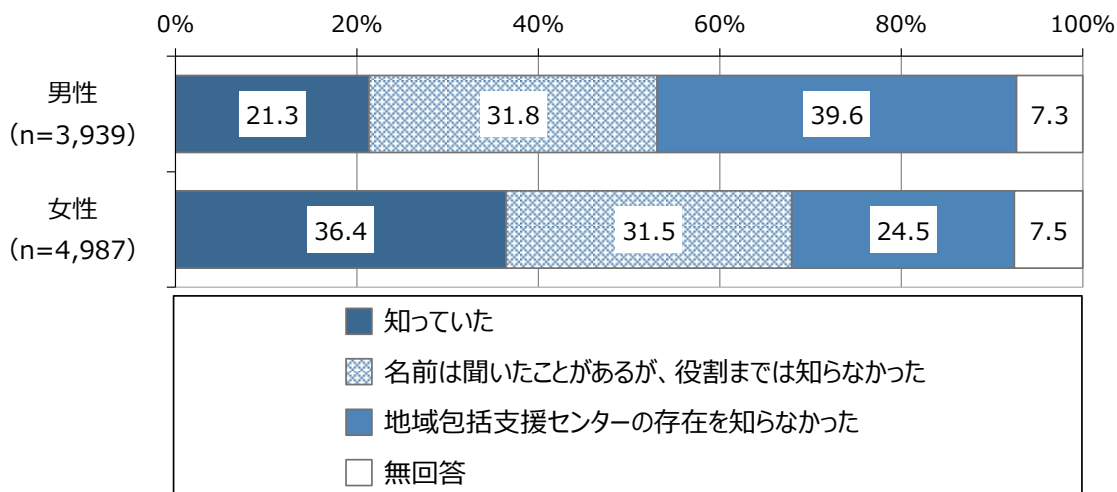


認定状況別でみると、「知っていた」では、要支援認定者が 43.4%で、一般高齢者（27.9%）より 15.5 ポイント高い状況です。



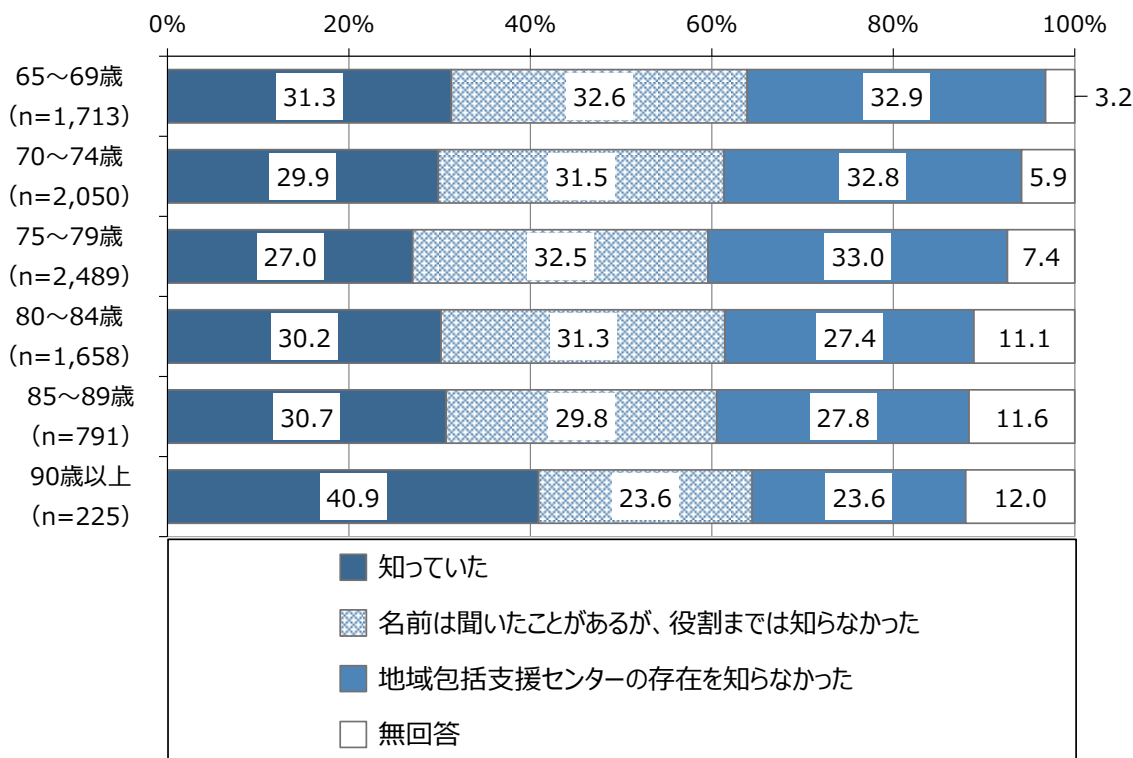
性別でみると、「知っていた」では、女性が36.4%で、男性（21.3%）より15.1ポイント高い状況です。

図表 2-13-5 地域包括支援センターの役割を知っているか 性別



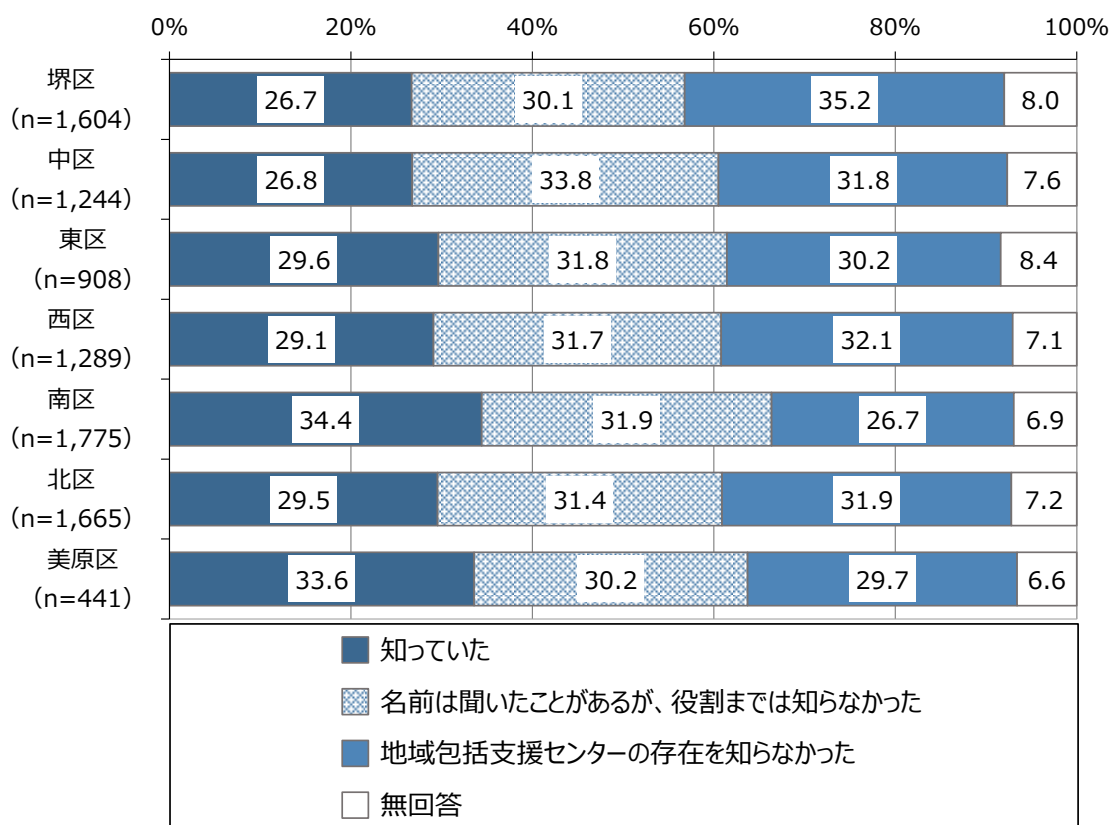
年齢階級別でみると、「知っていた」では、90歳以上が40.9%で最も高い状況です。

図表 2-13-6 地域包括支援センターの役割を知っているか 年齢階級別



区域別でみると、「知っていた」では、南区が34.4%で最も高い状況です。

図表 2-13-7 地域包括支援センターの役割を知っているか 区域別



14 スマートフォン、タブレット、パソコン等の使用状況について

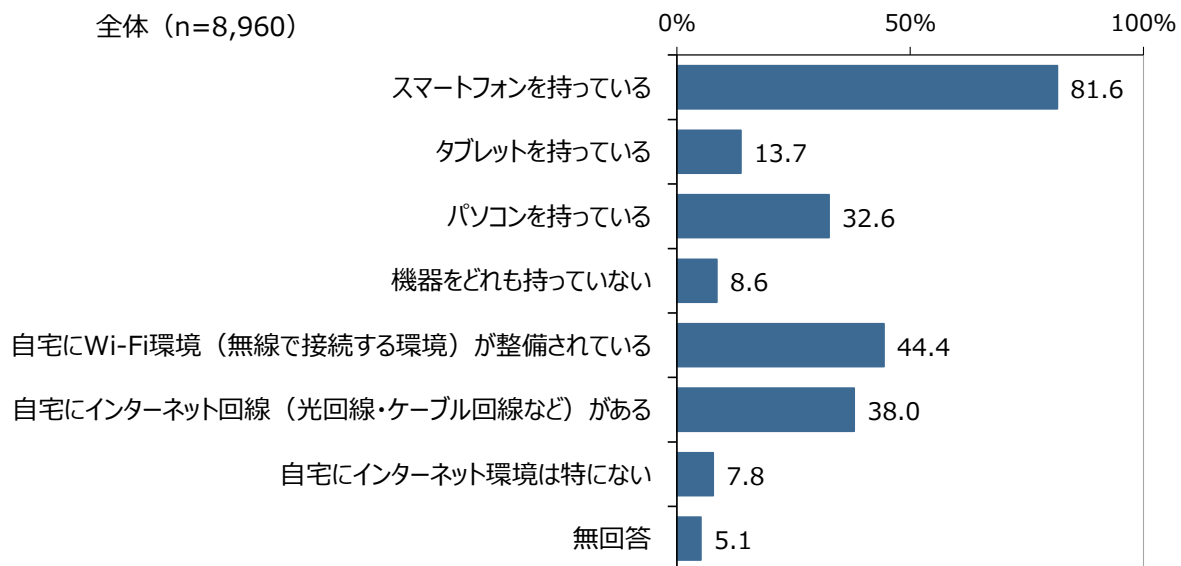
(1) 情報通信機器の保有状況と通信環境

問 13 (1)	お持ちの通信機器と通信環境について、当てはまる番号に○をしてください。 (○はいくつでも)
-------------	--

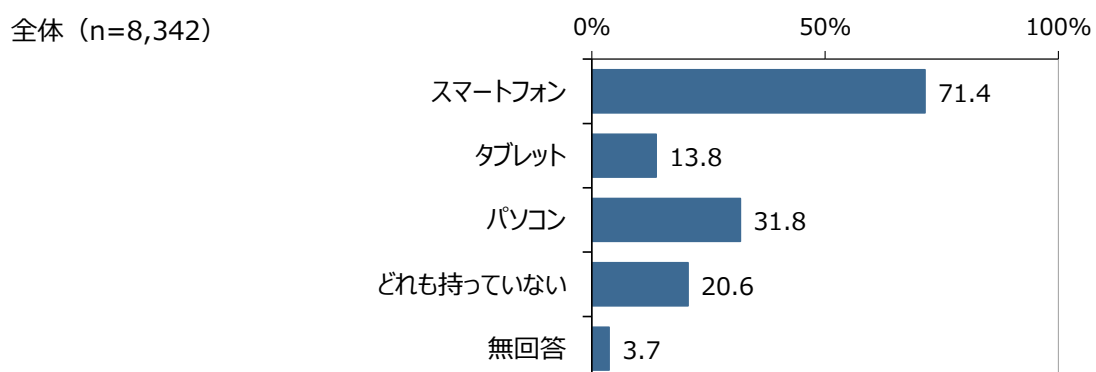
情報通信機器の保有状況と通信環境については、「スマートフォンを持っている」が 81.6%で最も高く、次いで「自宅に Wi-Fi 環境（無線で接続する環境）が整備されている」が 44.4%、「自宅にインターネット回線（光回線・ケーブル回線など）がある」が 38.0%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較できる項目で比較すると、「スマートフォンを持っている」（81.6%）では、令和 4（2022）年度調査（71.4%）より 10.2 ポイント増加しています。

図表 2-14-1 情報通信機器の保有状況と通信環境



図表 2-14-2 情報通信機器の保有状況 令和 4（2022）年度調査



認定状況別でみると、「スマートフォンを持っている」では、一般高齢者が 83.9%、要支援認定者が 64.0%です。

性別でみると、「スマートフォンを持っている」では、男性が 82.4%、女性が 80.9%です。

年齢階級別でみると、「スマートフォンを持っている」では、年齢階級が上がるにつれて割合が減少しており、65～69歳が 95.9%で最も高く、90歳以上が 44.0%で最も低い状況です。

図表 2-14-3 情報通信機器の保有状況と通信環境 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	スマートフォンを持っている	タブレットを持っている	パソコンを持っている	機器をどれも持っていない	いつでも接続する環境が整備（無線）	自宅にWi-Fi環境（無線）	（光）回線・インターネット回線	自宅にインターネット環境は	無回答
全体	8,960	81.6	13.7	32.6	8.6	44.4	38.0	7.8	5.1	
認定別	一般高齢者	7,869	83.9	14.5	35.0	7.4	47.0	40.2	7.2	4.4
	要支援認定者	1,057	64.0	8.0	14.2	16.9	24.9	21.3	12.3	10.8
性別	男性	3,939	82.4	16.0	46.9	8.1	48.2	42.0	7.1	3.8
	女性	4,987	80.9	11.9	21.3	8.9	41.4	34.8	8.3	6.2
年齢階級別	65～69歳	1,713	95.9	21.9	50.4	2.0	67.6	51.5	3.3	0.9
	70～74歳	2,050	91.8	16.8	37.9	3.6	54.9	45.9	5.2	2.2
	75～79歳	2,489	81.9	12.6	30.1	8.2	40.8	36.6	8.8	4.9
	80～84歳	1,658	71.1	7.8	21.8	12.2	28.2	27.0	10.4	9.4
	85～89歳	791	55.1	6.7	15.8	23.6	19.3	21.6	13.7	11.0
	90歳以上	225	44.0	2.7	14.2	28.9	17.8	16.4	13.8	15.1

※網掛け■は最も割合が高いもの

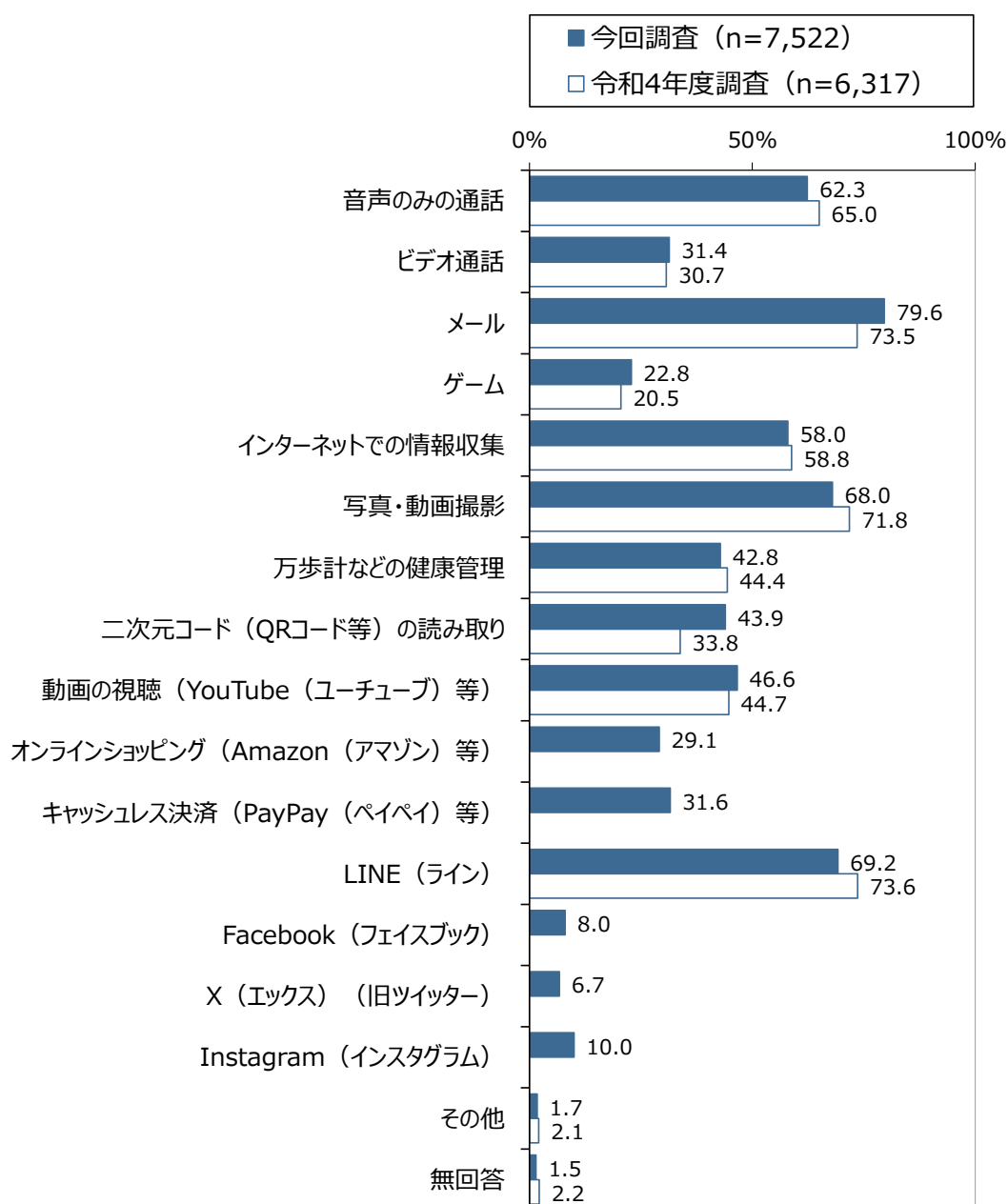
(2) 情報通信機器でどのような機能を使用したことがあるか

問 13	【(1) で「1」～「3」を回答した方におうかがいします。】
(2)	どのような機能を使用したことがありますか (○はいくつでも)

情報通信機器でどのような機能を使用したことがあるかについては、「メール」が 79.6%で最も高く、次いで「LINE (ライン)」が 69.2%、「写真・動画撮影」が 68.0%と続いています。

令和 4 (2022) 年度調査と比較できる項目で比較すると、「二次元コード (QR コード等) の読み取り」(43.9%) では、令和 4 (2022) 年度調査 (33.8%) より 10.1 ポイント増加しています。

図表 2-14-4 情報通信機器でどのような機能を使用したことがあるか



※「オンラインショッピング (AMAZON (アマゾン) 等)」、「キャッシュレス決済 (PAY PAY (ペイペイ) 等)」、「FACEBOOK (フェイスブック)」、「X (エックス) (旧ツイッター)」、「INSTAGRAM (インスタグラム)」は今回調査からの選択肢

認定状況別で見ると、一般高齢者、要支援認定者いずれも「メール」が最も高い割合を占めています。

性別で見ると、男性、女性いずれも「メール」が最も高い割合を占めています。

年齢階級別で見ると、89歳以下では「メール」の割合が最も高く、90歳以上では「音声のみの通話」が最も高い割合を占めています。

図表 2-14-5 情報通信機器でどのような機能を使用したことがあるか 属性別

単位：実数（人）、構成比（％）

	合計	音声のみの通話	ビデオ通話	メール	ゲーム	インターネットでの情報収集	写真・動画撮影	万歩計などの健康管理	二次元の読み取り（QRコード等）	チューブ（YouTube等）	動画の視聴（動画配信等）	オンラインセッション（アプリ、マンガ）	その他	
													無回答	その他
全体	7,522	62.3	31.4	79.6	22.8	58.0	68.0	42.8	43.9	46.6	29.1			
認定別	一般高齢者	6,780	62.5	32.7	80.9	23.8	60.6	69.8	43.6	46.4	48.7	30.8		
	要支援認定者	710	60.4	18.3	67.2	13.5	31.5	50.7	35.6	20.0	26.3	12.5		
性別	男性	3,381	62.7	26.8	76.8	22.2	65.6	63.3	40.3	44.6	50.0	34.4		
	女性	4,109	62.0	35.2	81.9	23.4	51.5	71.8	45.0	43.4	43.8	24.8		
年齢階級別	65～69歳	1,657	67.0	47.7	89.6	36.4	82.0	80.0	45.4	69.6	70.8	55.0		
	70～74歳	1,909	63.2	36.1	84.3	26.6	67.1	73.6	42.7	53.5	54.3	34.3		
	75～79歳	2,106	61.6	26.7	78.2	17.9	50.9	66.0	42.0	37.2	39.8	19.8		
	80～84歳	1,241	58.1	19.1	70.7	13.1	36.6	57.3	43.4	20.9	27.4	12.0		
	85～89歳	472	57.2	12.9	61.7	10.4	29.0	46.4	40.9	13.6	18.2	7.6		
	90歳以上	105	59.0	8.6	49.5	11.4	28.6	38.1	26.7	8.6	17.1	12.4		
合計	7,522	31.6	69.2	8.0	6.7	10.0	1.7	1.5						
認定別	一般高齢者	6,780	33.2	71.0	8.6	7.2	10.7	1.7	1.3					
	要支援認定者	710	16.2	51.5	3.1	2.0	3.5	1.8	2.8					
性別	男性	3,381	33.2	64.9	10.6	8.2	9.5	1.4	1.2					
	女性	4,109	30.3	72.7	6.0	5.5	10.5	1.9	1.7					
年齢別	65～69歳	1,657	52.7	86.8	16.0	15.9	23.1	2.2	0.5					
	70～74歳	1,909	36.5	76.1	9.1	7.5	11.1	1.3	0.7					
	75～79歳	2,106	25.0	67.1	5.6	3.2	5.7	1.6	1.4					
	80～84歳	1,241	16.8	52.6	3.0	1.9	2.3	1.6	2.9					
	85～89歳	472	12.1	41.1	1.9	1.1	2.1	1.7	3.8					
	90歳以上	105	5.7	28.6	1.0	0.0	0.0	4.8	4.8					

※網掛け■は最も割合が高いもの

15 リスク判定

一般高齢者・要支援認定者調査では、地域の課題や必要なサービス等を把握するため、調査項目を使用し、各リスクの判定をしています。

(1) 運動器機能の低下

下記の 5 設問について、3 項目以上に該当する人を運動器機能の低下している高齢者として判定しました。

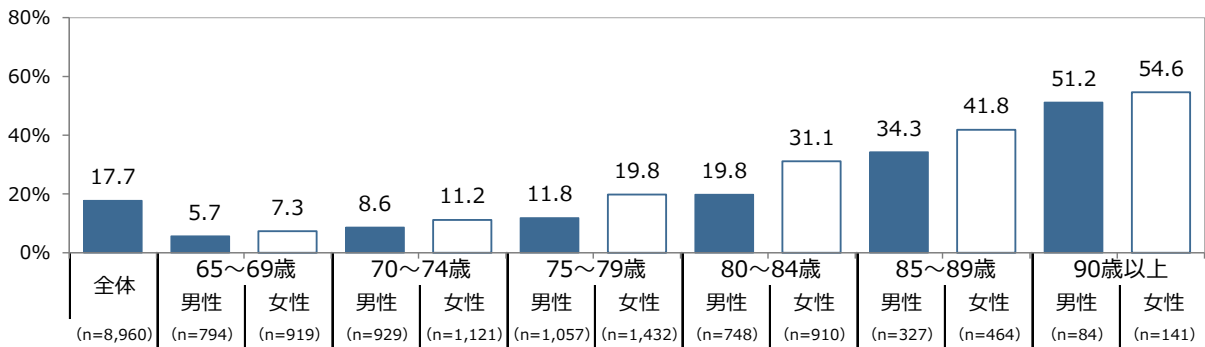
図表 2-15-1 運動器機能の低下 判定方法

設問番号	設問	該当する選択肢
問 2 (1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	3. できない
問 2 (2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	3. できない
問 2 (3)	15 分位続けて歩いていますか。	3. できない
問 2 (4)	過去 1 年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1 度ある
問 2 (5)	転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である

運動器機能の低下している高齢者の割合は、全体で 17.7%です。

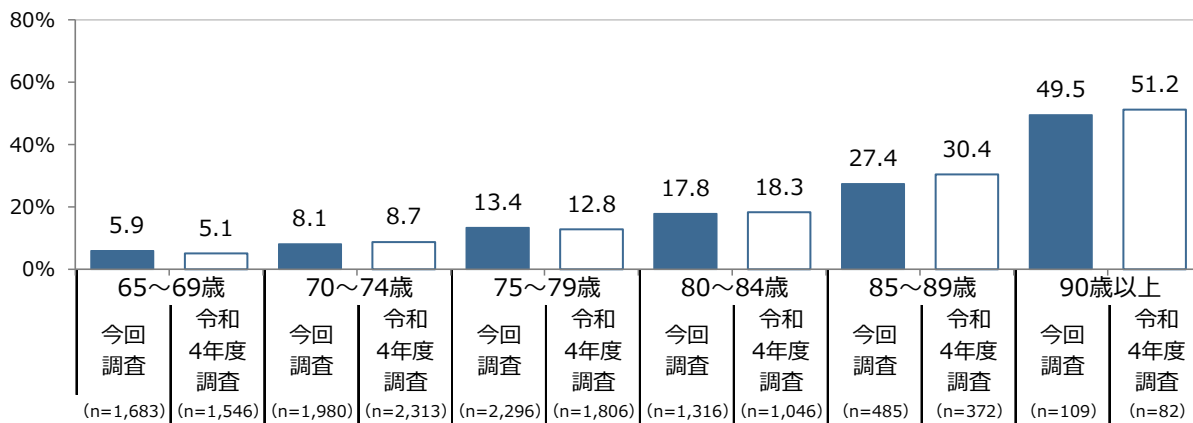
性別・年齢階級別にみると、男性、女性いずれも年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90 歳以上の割合が最も高い状況です。

図表 2-15-2 運動器機能の低下 性別・年齢階級別

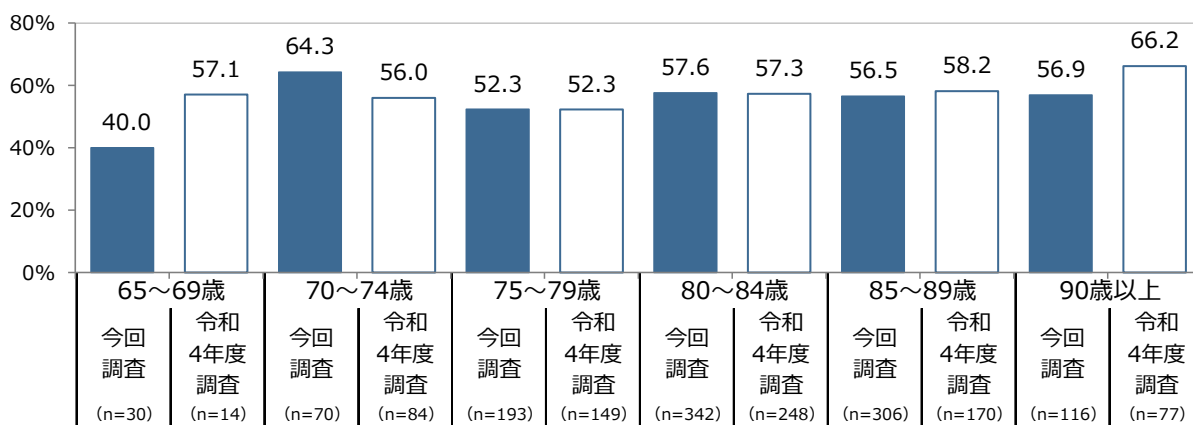


認定状況別・年齢階級別に令和 4（2022）年度調査と比較すると、一般高齢者では、70～74 歳、80 歳以上で令和 4（2022）年度調査より割合が減少しています。

図表 2-15-3 運動器機能の低下 認定状況別・年齢階級別
【一般高齢者】

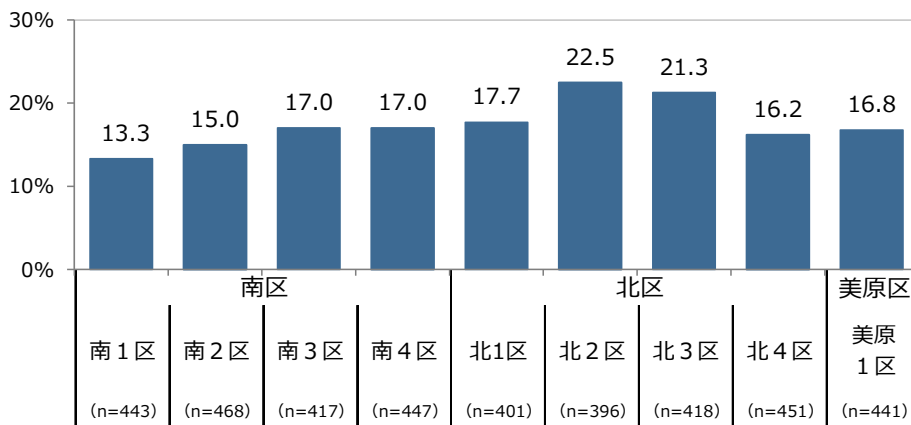
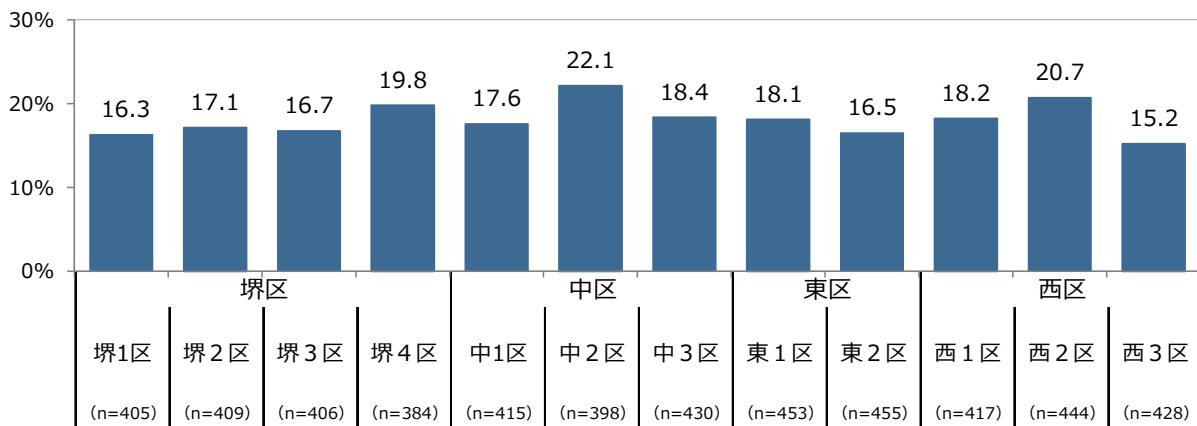


【要支援認定者】



圏域別にみると、北2区が22.5%で最も高い状況です。

図表 2-15-4 運動器機能の低下 圏域別



(2) 転倒リスク

下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、転倒リスクのある高齢者として判定しました。

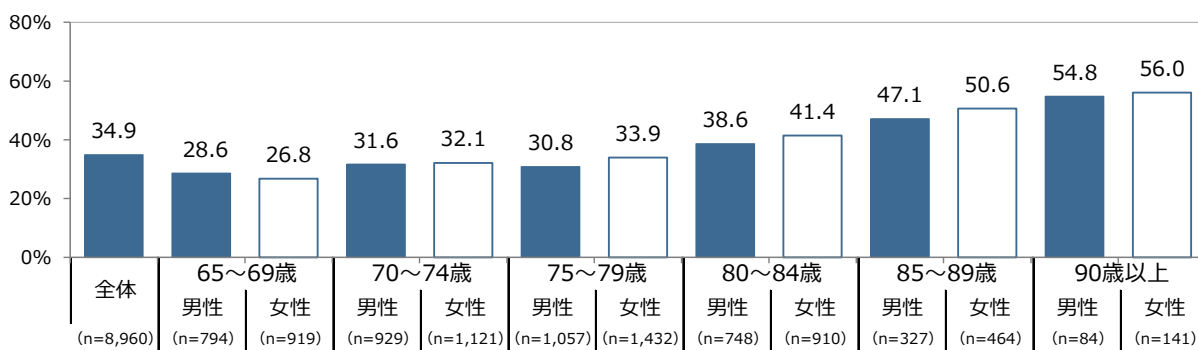
図表 2-15-5 転倒リスク 判定方法

設問番号	設問	該当する選択肢
問 2 (4)	過去 1 年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1 度ある

転倒リスクのある高齢者の割合は、全体で 34.9%です。

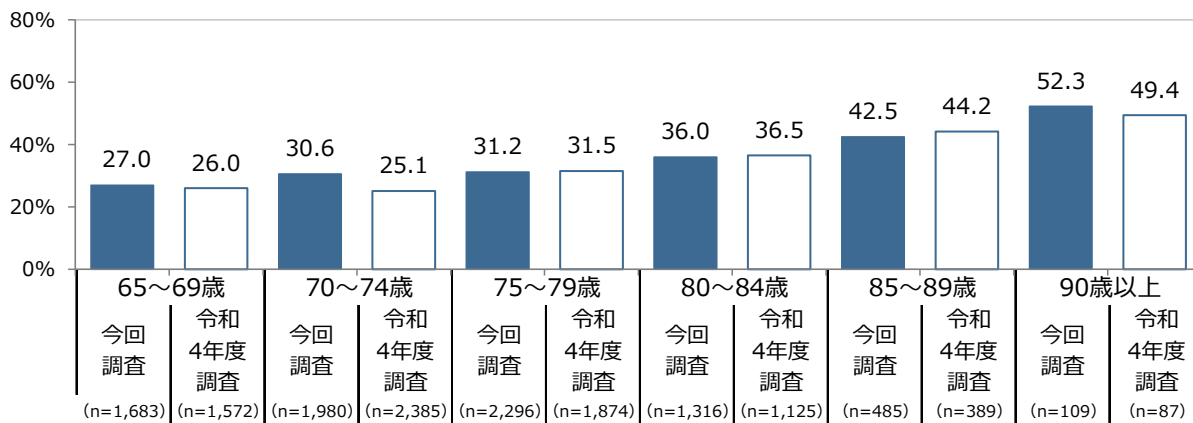
性別・年齢階級別にみると、男性、女性いずれも年齢階級が上がるにつれて概ね割合が増加しており、90 歳以上の割合が最も高い状況です。

図表 2-15-6 転倒リスク 性別・年齢階級別

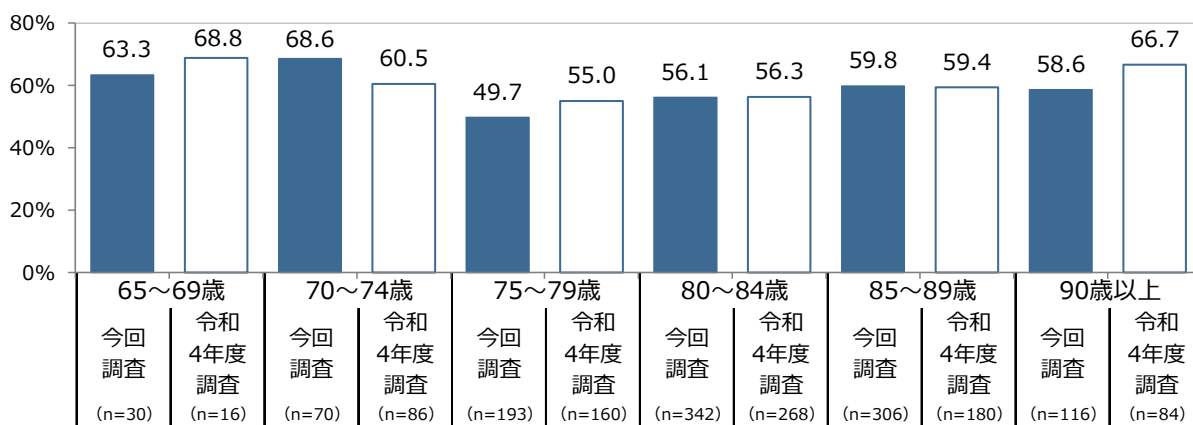


認定状況別・年齢階級別に令和 4（2022）年度調査と比較すると、一般高齢者では、74 歳以下、90 歳以上で令和 4（2022）年度調査より割合が増加しています。

図表 2-15-7 転倒リスク 認定状況別・年齢階級別
【一般高齢者】

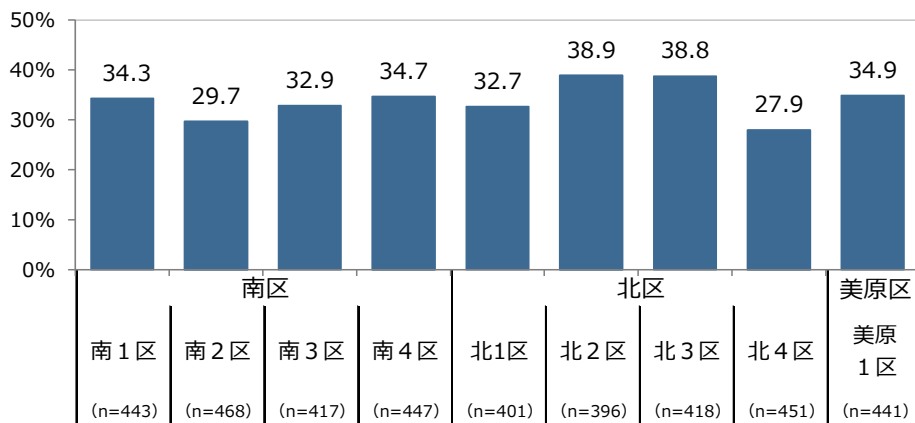
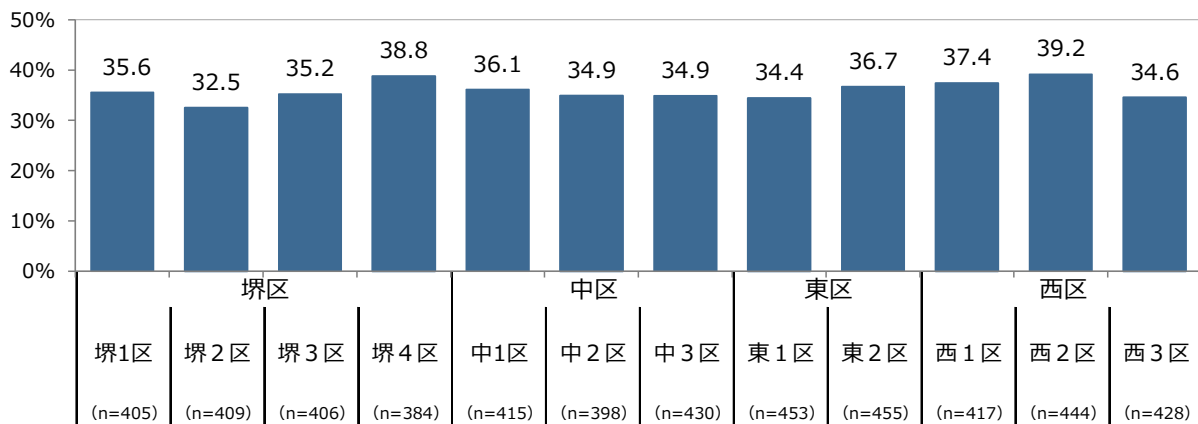


【要支援認定者】



圏域別にみると、西 2 区が 39.2%で最も高い状況です。

図表 2-15-8 転倒リスク 圏域別



(3) 閉じこもり傾向

下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、閉じこもり傾向の高齢者として判定しました。

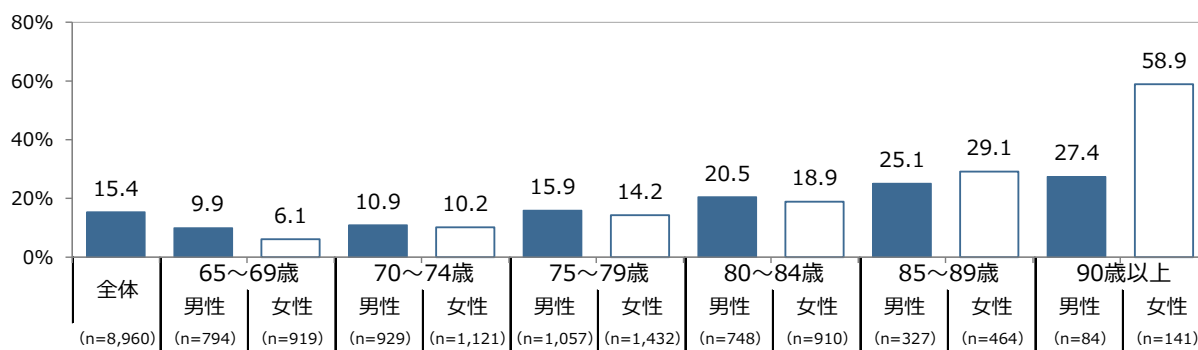
図表 2-15-9 閉じこもり傾向 判定方法

設問番号	設問	該当する選択肢
問 2 (6)	週に 1 回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週 1 回

閉じこもり傾向の高齢者の割合は、全体で 15.4%です。

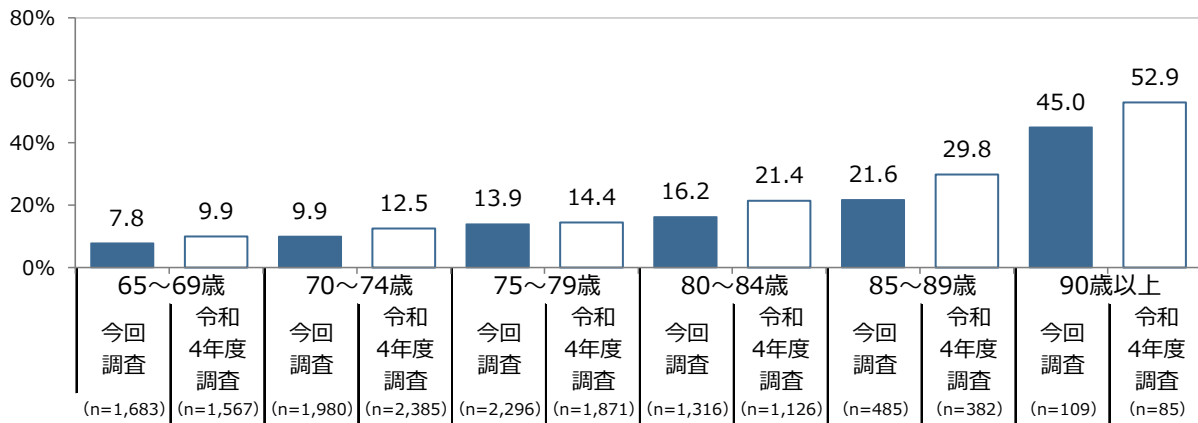
性別・年齢階級別にみると、女性・90 歳以上が 58.9%で最も高い状況です。ただし、90 歳以上は他の年齢階級と比べて回答者数が少ないことから、割合の変動が大きくなりやすい傾向があることに留意が必要です。

図表 2-15-10 閉じこもり傾向 性別・年齢階級別

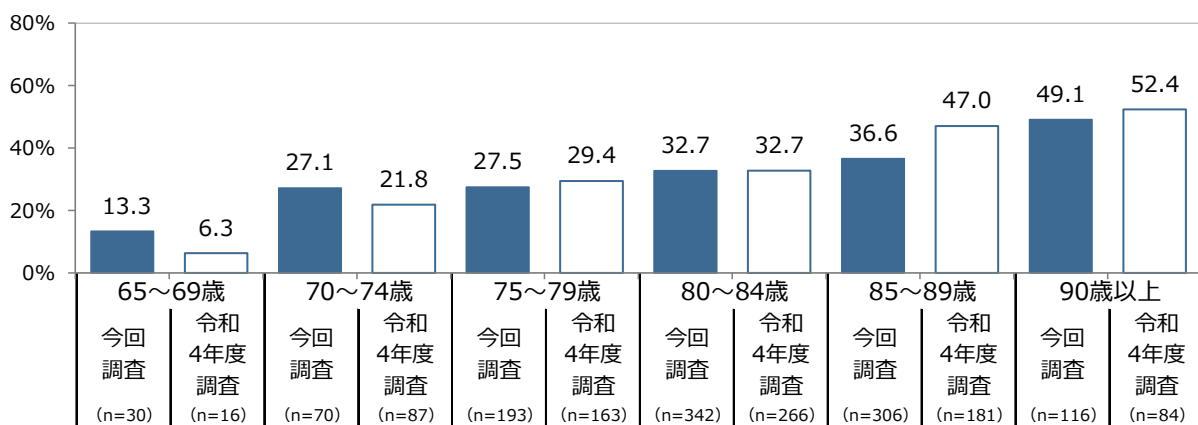


認定状況別・年齢階級別に令和4（2022）年度調査と比較すると、一般高齢者では、すべての年齢階級で令和4（2022）年度調査より割合が減少しています。

図表 2-15-11 閉じこもり傾向 認定状況別・年齢階級別
【一般高齢者】

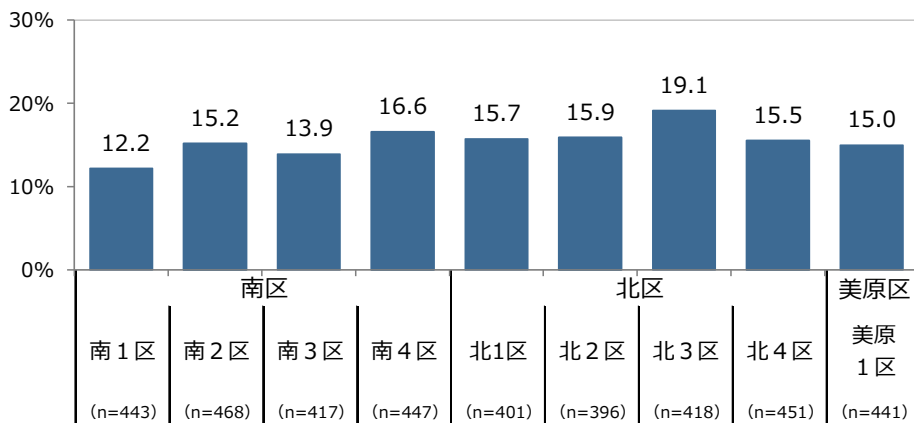
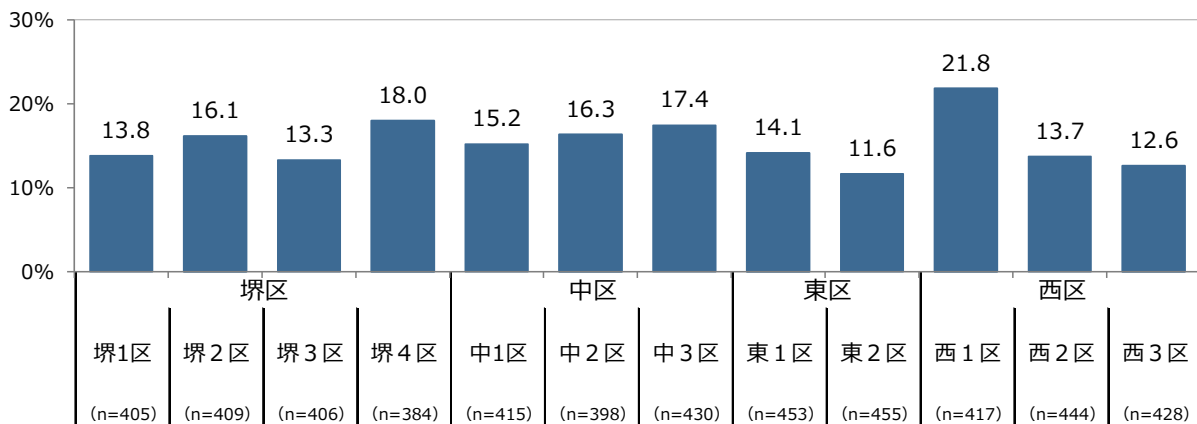


【要支援認定者】



圏域別にみると、西 1 区が 21.8%で最も高い状況です。

図表 2-15-12 閉じこもり傾向 圏域別



(4) 低栄養の傾向

下記の設問について、該当する場合、低栄養傾向の高齢者として判定しました。

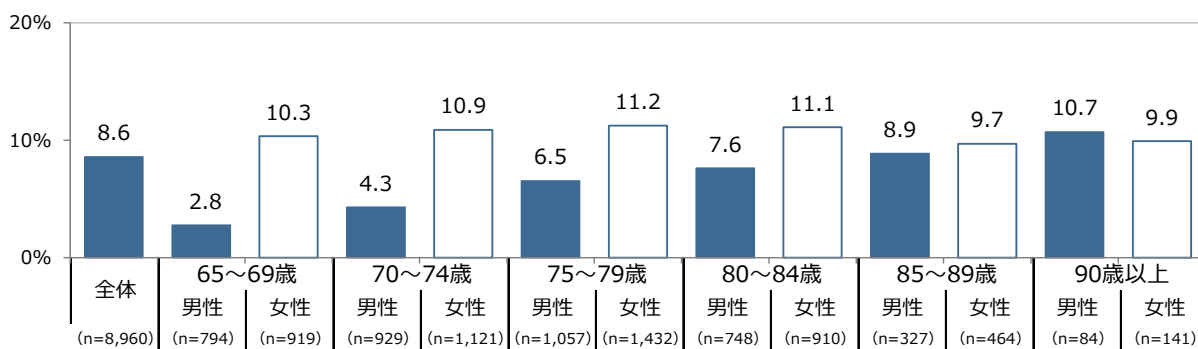
図表 2-15-13 低栄養の傾向 判定方法

設問番号	設問	該当する選択肢
問 3 (1)	身長・体重	身長・体重から算出される BMI (体重 (kg) ÷ {身長 (m) × 身長 (m)}) が 18.5 以下

低栄養傾向の高齢者の割合は、全体で 8.6%です。

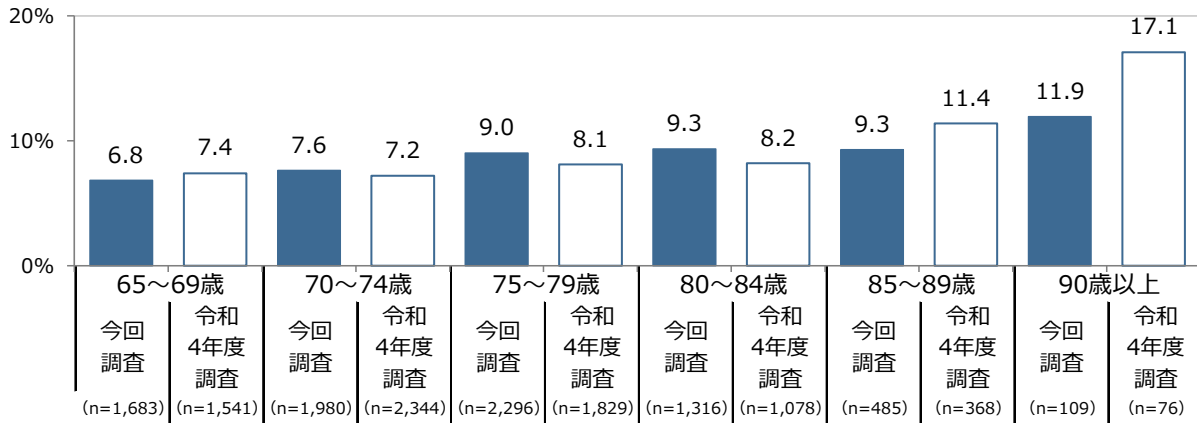
性別・年齢階級別にみると、女性・75～79 歳が 11.2%で最も高い状況です。

図表 2-15-14 低栄養の傾向 性別・年齢階級別

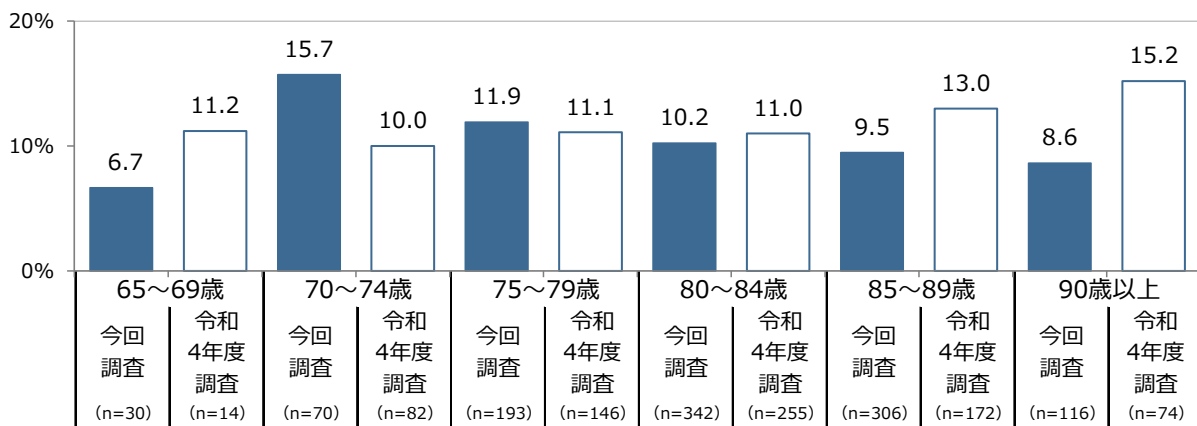


認定状況別・年齢階級別に令和 4（2022）年度調査と比較すると、一般高齢者では、70～84 歳で令和 4（2022）年度調査より割合が増加しています。

図表 2-15-15 低栄養の傾向 認定状況別・年齢階級別
【一般高齢者】

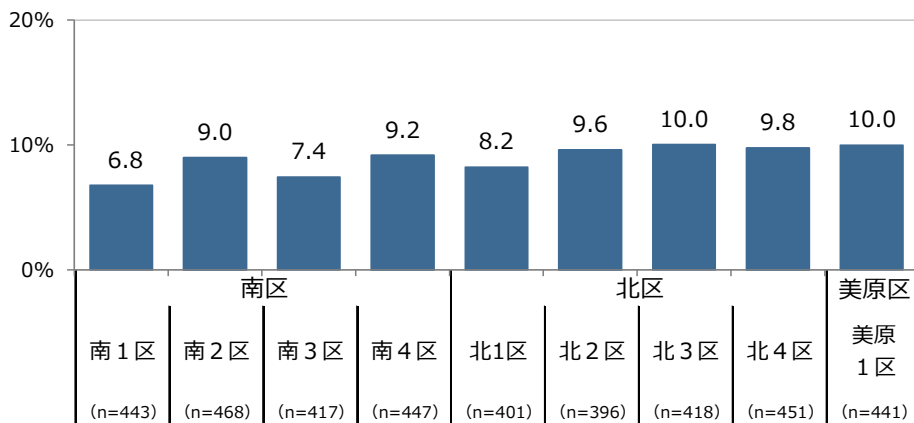
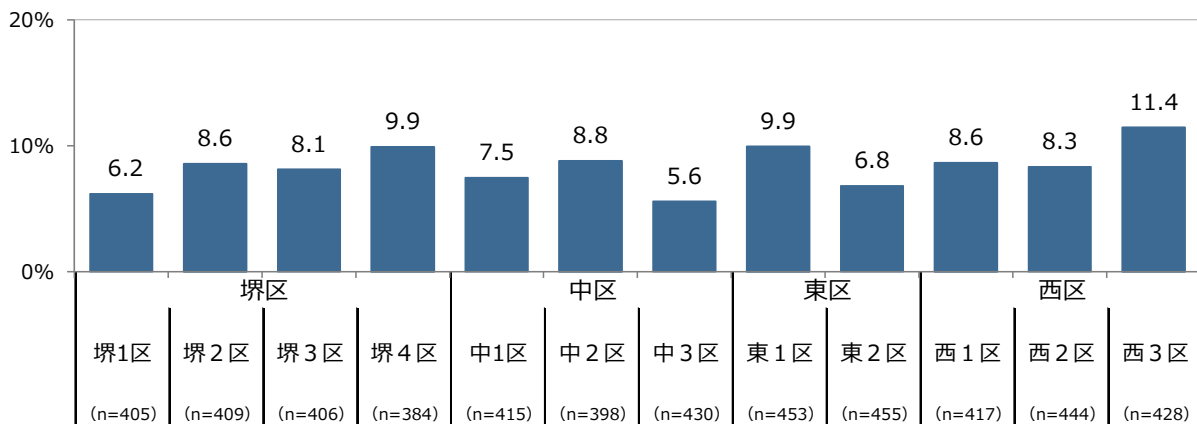


【要支援認定者】



圏域別にみると、西 3 区が 11.4%で最も高い状況です。

図表 2-15-16 低栄養の傾向 圏域別



(5) 咀嚼機能の低下

下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、咀嚼機能の低下している高齢者として判定しました。

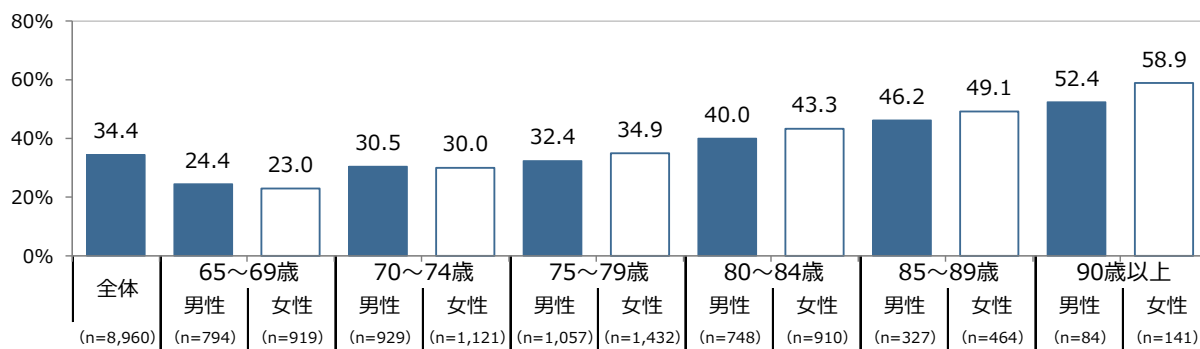
図表 2-15-17 咀嚼機能の低下 判定方法

設問番号	設問	該当する選択肢
問 3 (2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい

咀嚼機能の低下している高齢者の割合は、全体で 34.4%です。

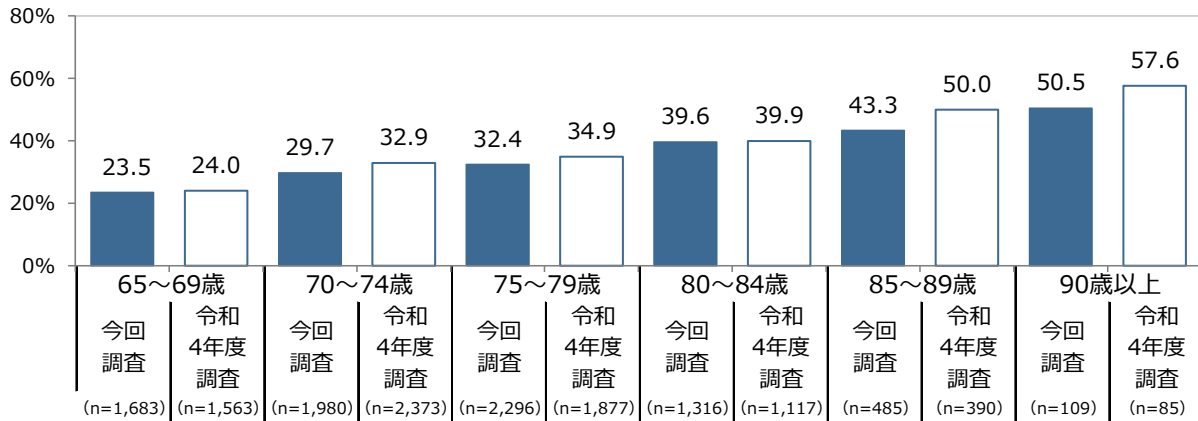
性別・年齢階級別にみると、男性、女性いずれも年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90 歳以上の割合が最も高い状況です。

図表 2-15-18 咀嚼機能の低下 性別・年齢階級別

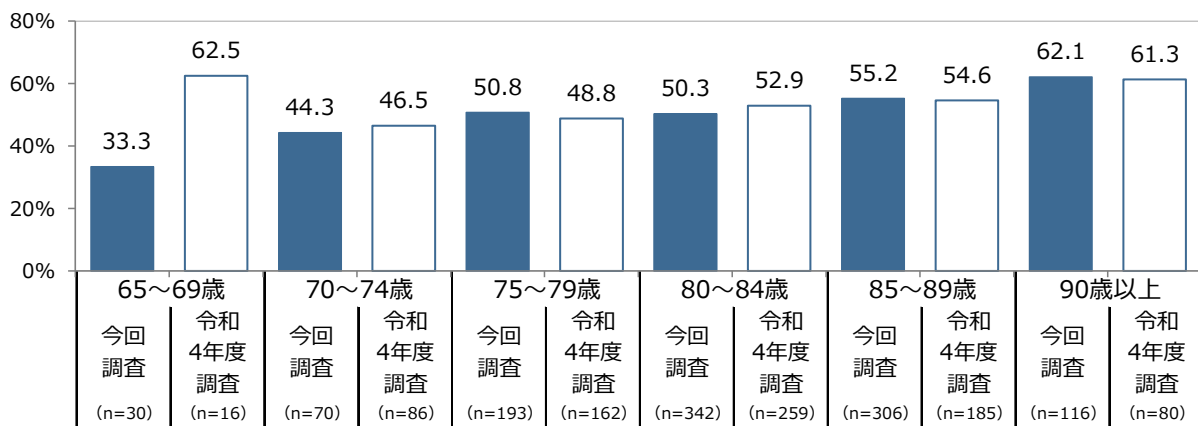


認定状況別・年齢階級別に令和4（2022）年度調査と比較すると、一般高齢者では、すべての年齢階級で令和4（2022）年度調査より割合が減少しています。

図表 2-15-19 咀嚼機能の低下 認定状況別・年齢階級別
【一般高齢者】

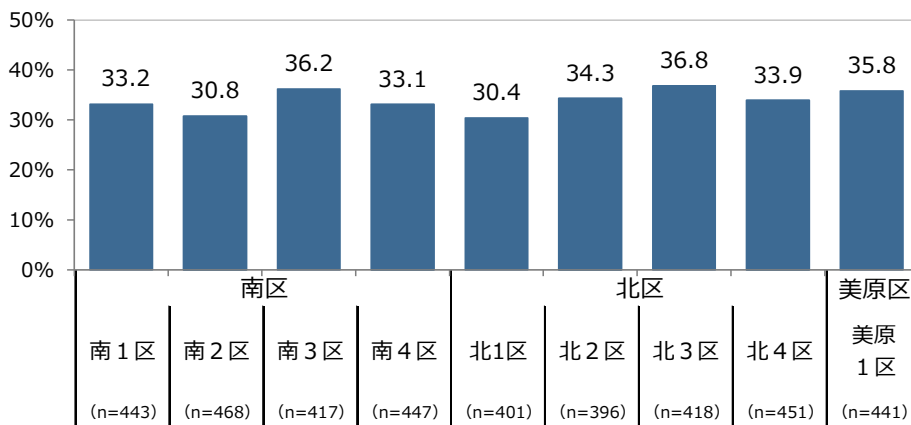
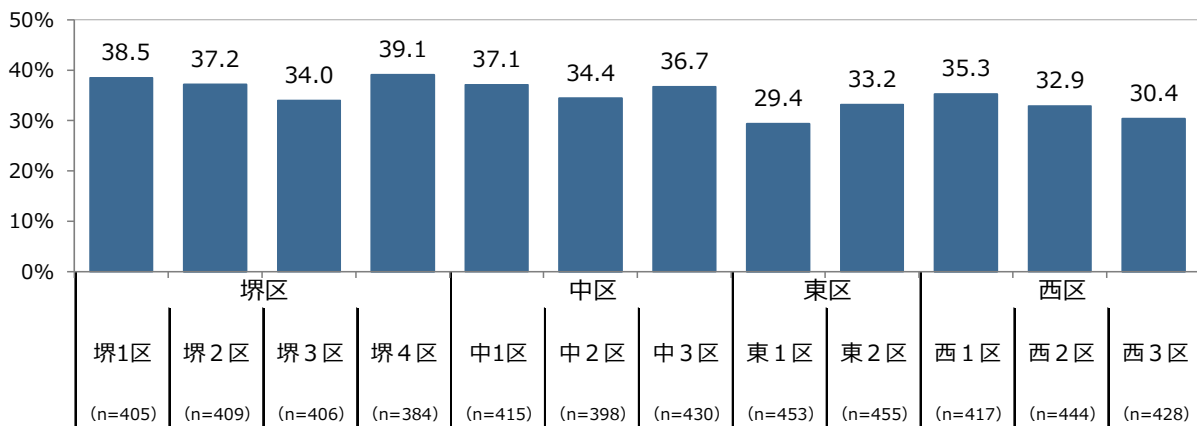


【要支援認定者】



圏域別にみると、堺4区が39.1%で最も高い状況です。

図表 2-15-20 咀嚼機能の低下 圏域別



(6) 認知機能の低下

下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、認知機能の低下している高齢者として判定しました。

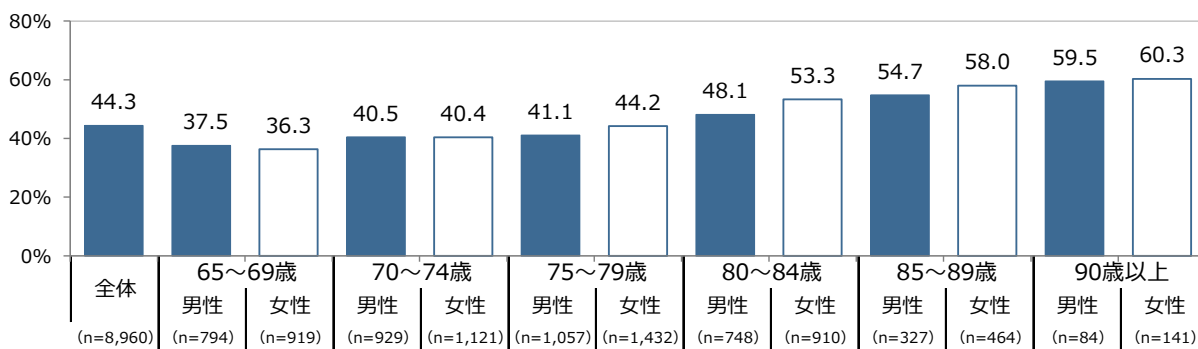
図表 2-15-21 認知機能の低下 判定方法

設問番号	設問	該当する選択肢
問 4 (1)	物忘れが多いと感じますか。	1. はい

認知機能の低下している高齢者の割合は、全体で 44.3%です。

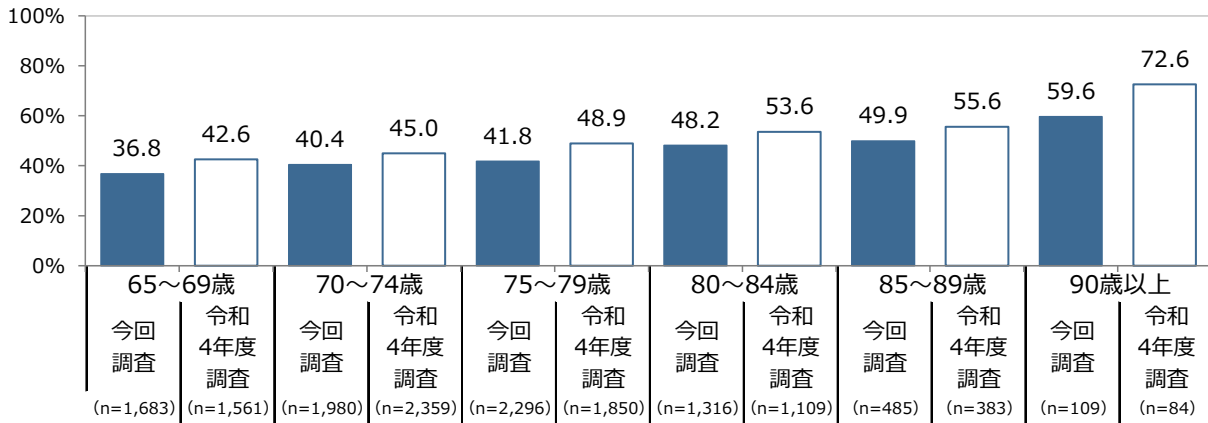
性別・年齢階級別にみると、男性、女性いずれも年齢階級が上がるにつれて概ね割合が増加しており、90 歳以上の割合が最も高い状況です。

図表 2-15-22 認知機能の低下 性別・年齢階級別

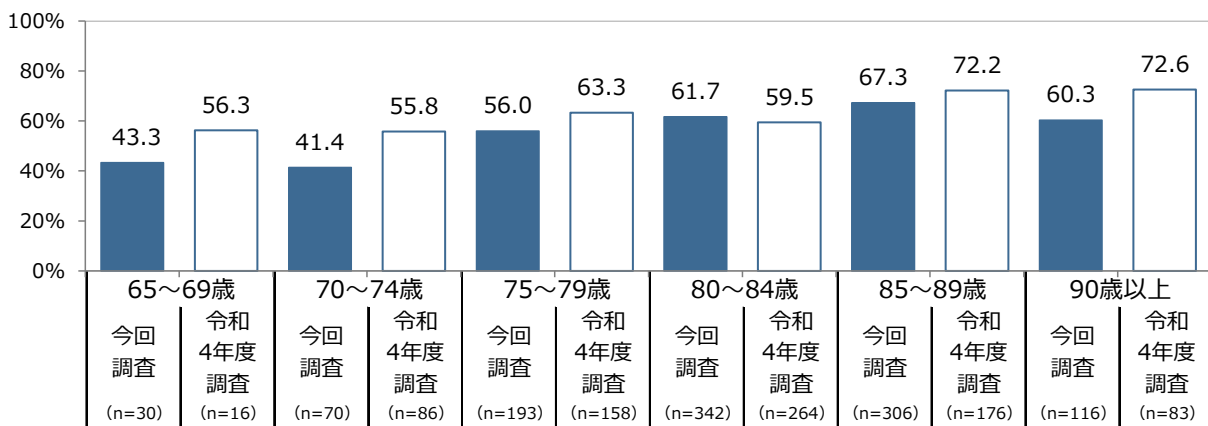


認定状況別・年齢階級別に令和 4（2022）年度調査と比較すると、一般高齢者ではすべての年齢階級で令和 4（2022）年度調査より割合が減少しています。

図表 2-15-23 認知機能の低下 認定状況別・年齢階級別
【一般高齢者】

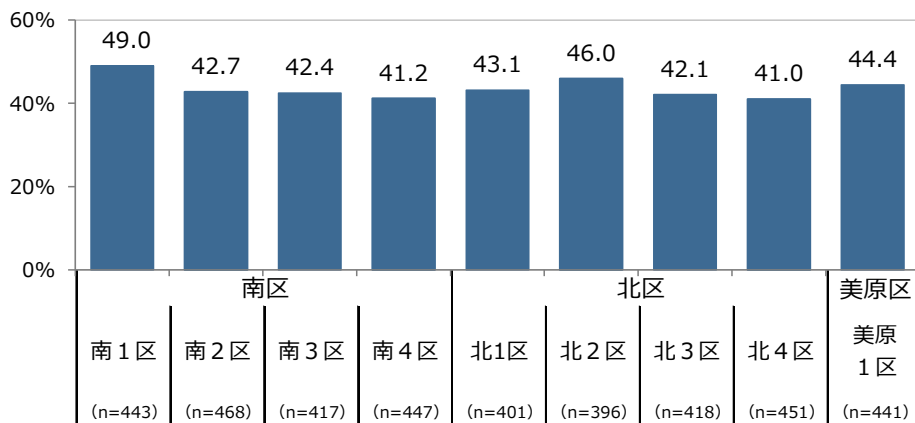
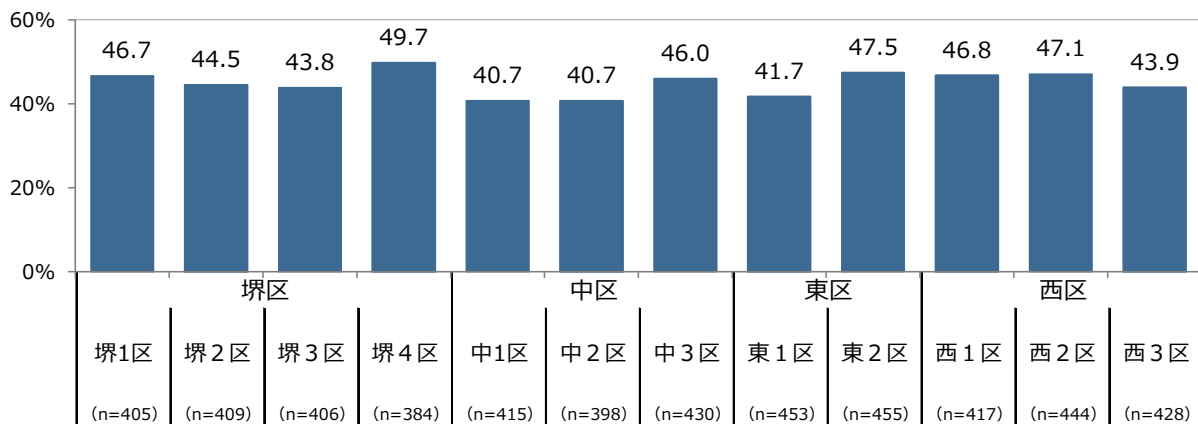


【要支援認定者】



圏域別にみると、堺4区が49.7%で最も高い状況です。

図表 2-15-24 認知機能の低下 圏域別



(7) IADL（手段的自立度）の低下

老研式活動能力指標に基づき、下記の 5 設問について、各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を 1 点として、5 点満点で評価し、4 点以下の場合、IADL が低下している高齢者として判定しました。

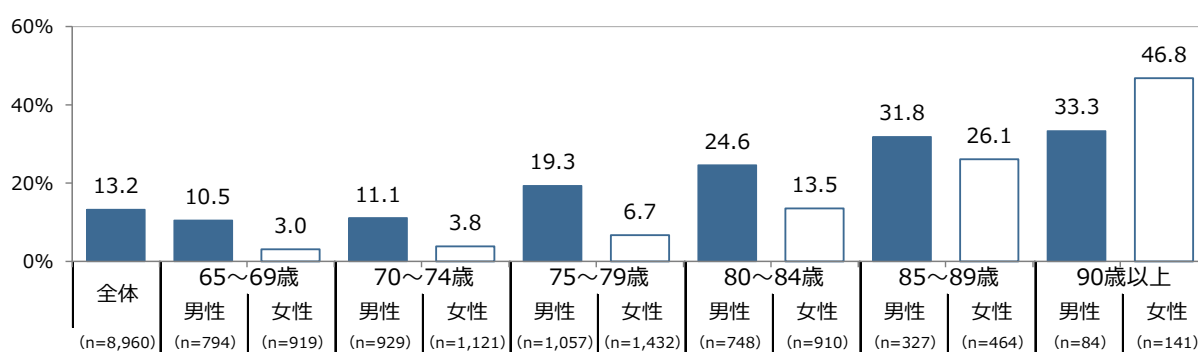
図表 2-15-25 IADL（手段的自立度）の低下 判定方法

設問番号	設問	該当する選択肢
問 4 (2)	バスや電車を使って 1 人で外出していますか。	1. できるし、している：1 点 2. できるけどしていない：1 点
問 4 (3)	自分で食品・日用品の買物をしていますか。	1. できるし、している：1 点 2. できるけどしていない：1 点
問 4 (4)	自分で食事の用意をしていますか。	1. できるし、している：1 点 2. できるけどしていない：1 点
問 4 (5)	自分で請求書の支払いをしていますか。	1. できるし、している：1 点 2. できるけどしていない：1 点
問 4 (6)	自分で預貯金のおし入れをしていますか。	1. できるし、している：1 点 2. できるけどしていない：1 点

IADL が低下している高齢者の割合は、全体で 13.2%です。

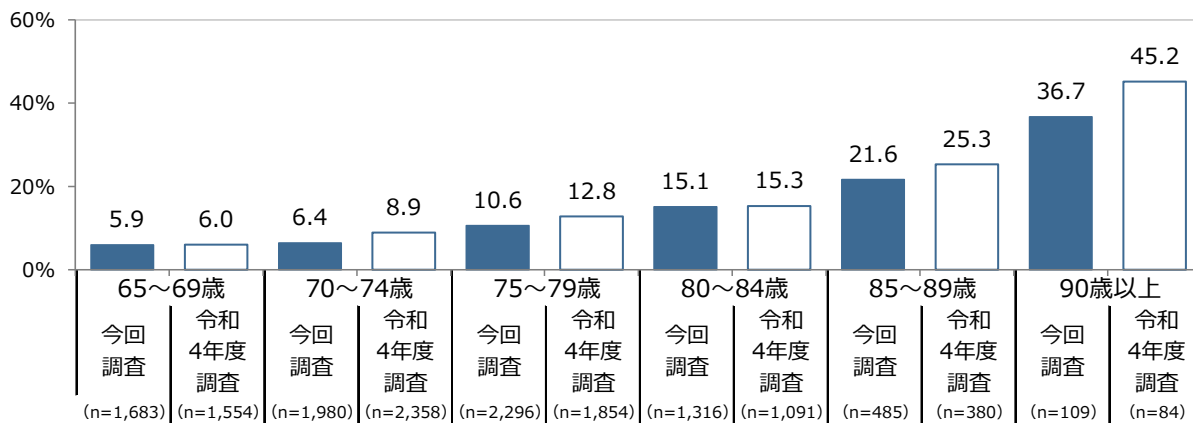
性別・年齢階級別にみると、男性、女性いずれも年齢階級が上がるにつれて割合が増加しており、90 歳以上の割合が最も高い状況です。

図表 2-15-26 IADL（手段的自立度）の低下 性別・年齢階級別

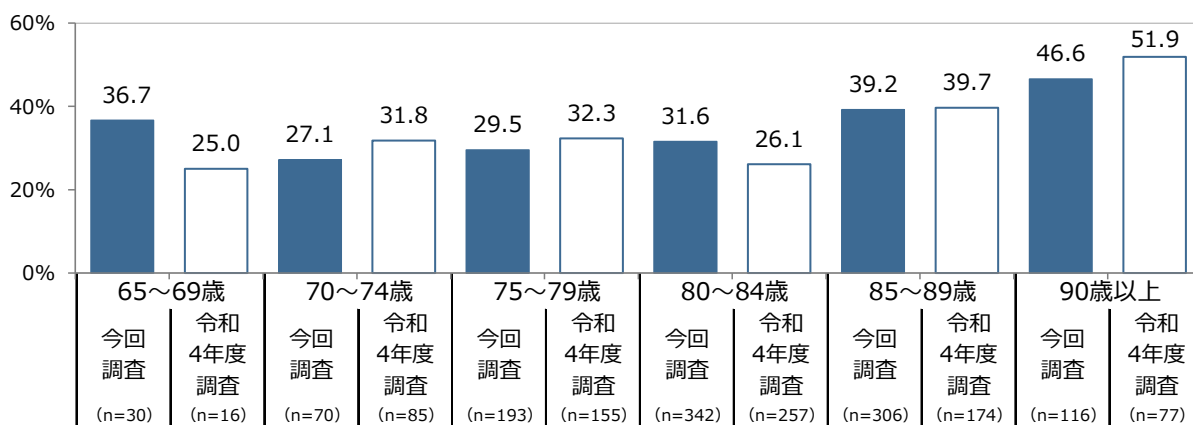


認定状況別・年齢階級別に令和4（2022）年度調査と比較すると、一般高齢者では、すべての年齢階級で令和4（2022）年度調査より割合が減少しています。

図表 2-15-27 IADL（手段的自立度）の低下 認定状況別・年齢階級別
【一般高齢者】

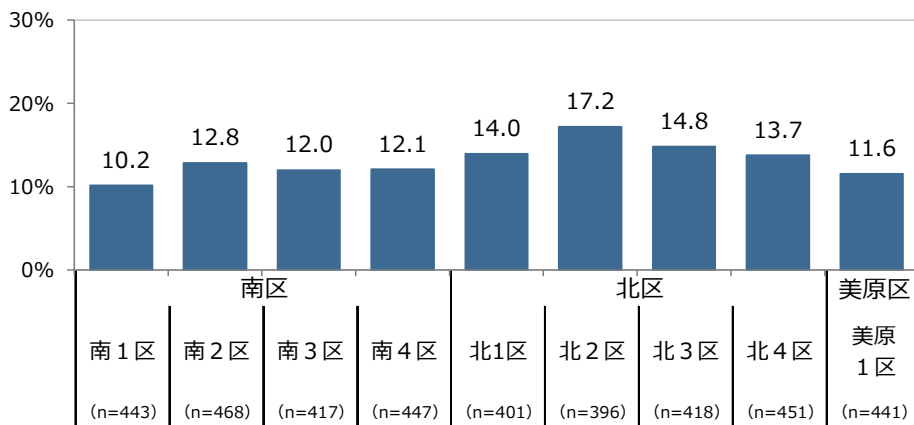
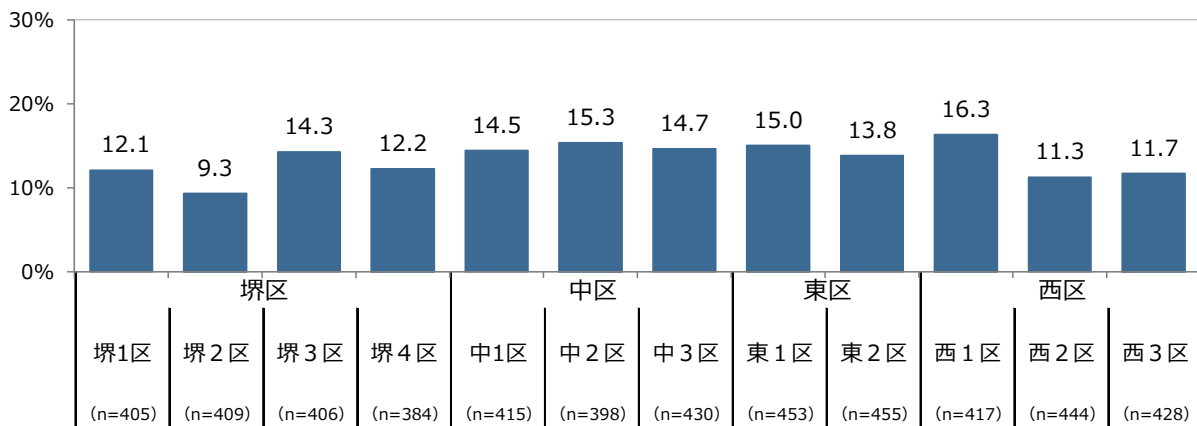


【要支援認定者】



圏域別にみると、北2区が17.2%で最も高い状況です。

図表 2-15-28 IADL（手段的自立度）の低下 圏域別



(8) うつ傾向

下記の 2 設問について、いずれか 1 つでも該当する選択肢が回答された場合、うつ傾向の高齢者として判定しました。

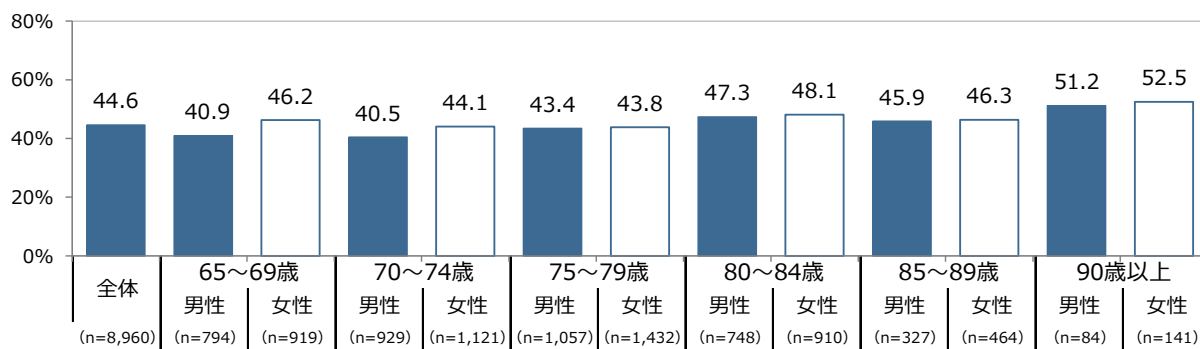
図表 2-15-29 うつ傾向 判定方法

設問番号	設問	該当する選択肢
問 7 (3)	この 1 か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい
問 7 (4)	この 1 か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい

うつ傾向の高齢者の割合は、全体で 44.6%です。

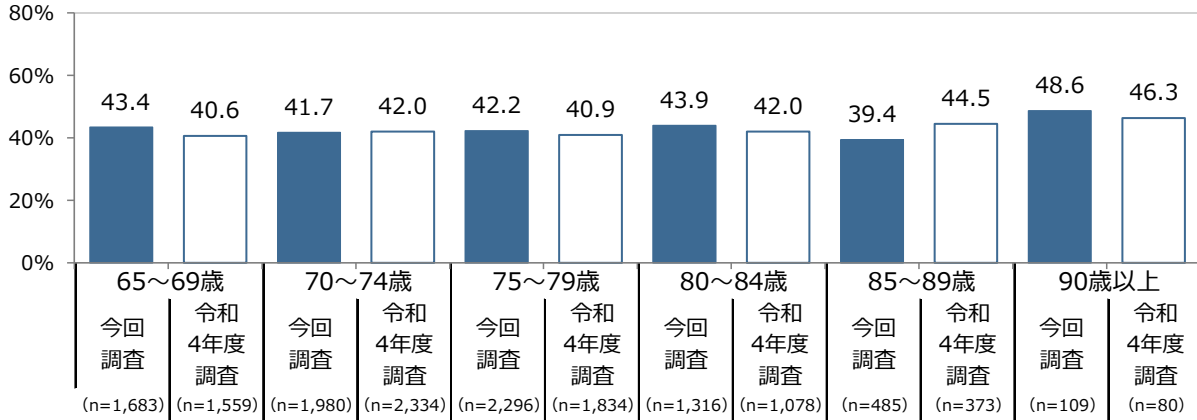
性別・年齢階級別にみると、女性・90歳以上が 52.5%で最も高い状況です。

図表 2-15-30 うつ傾向 性別・年齢階級別

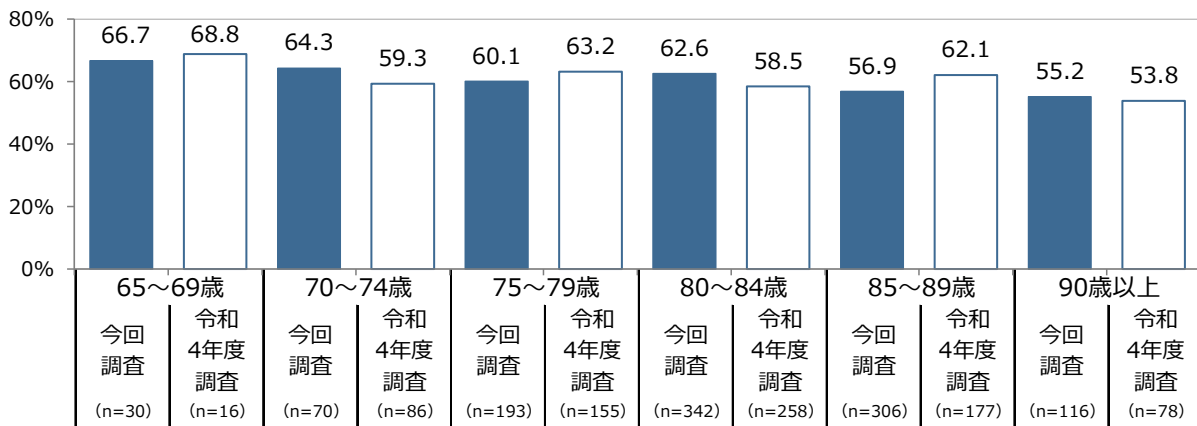


認定状況別・年齢階級別に令和 4（2022）年度調査と比較すると、一般高齢者では、70～74 歳、85～89 歳では令和 4（2022）年度調査より割合が減少しています。

図表 2-15-31 うつ傾向 認定状況別・年齢階級別
【一般高齢者】

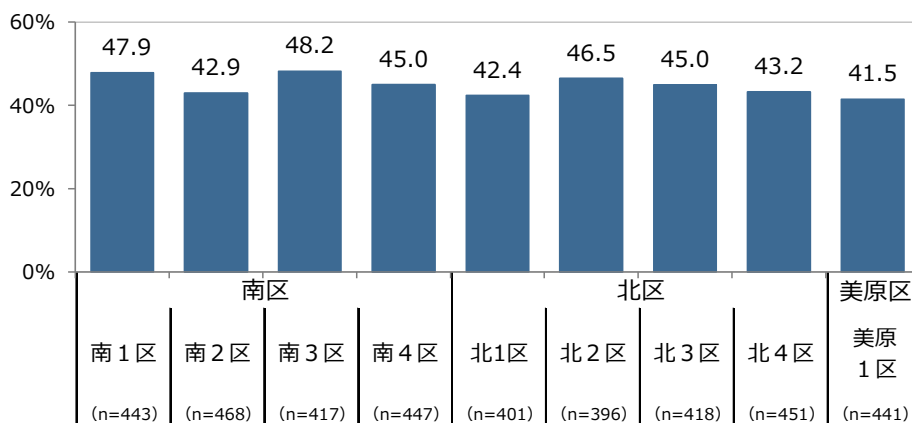
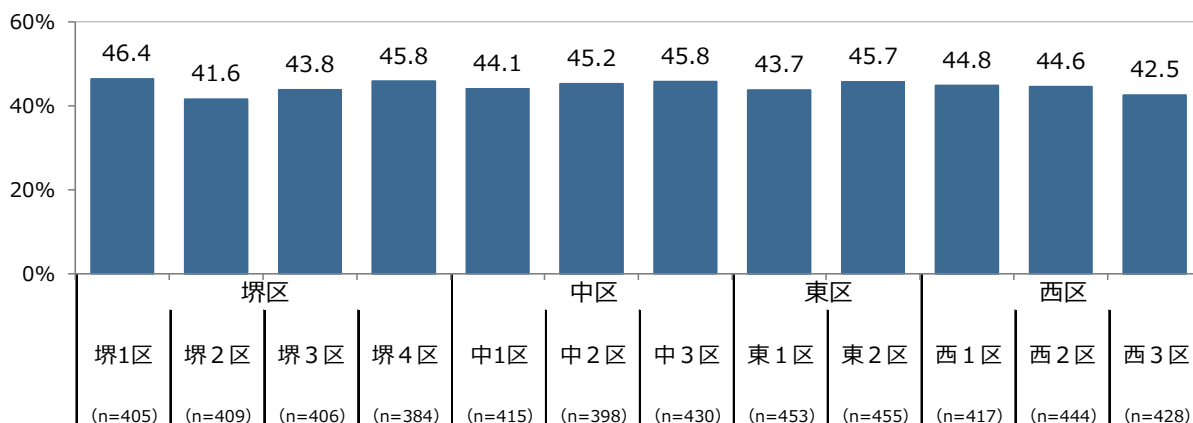


【要支援認定者】



圏域別にみると、南 3 区が 48.2%で最も高い状況です。

図表 2-15-32 うつ傾向 圏域別



16 地域の社会資源等の把握

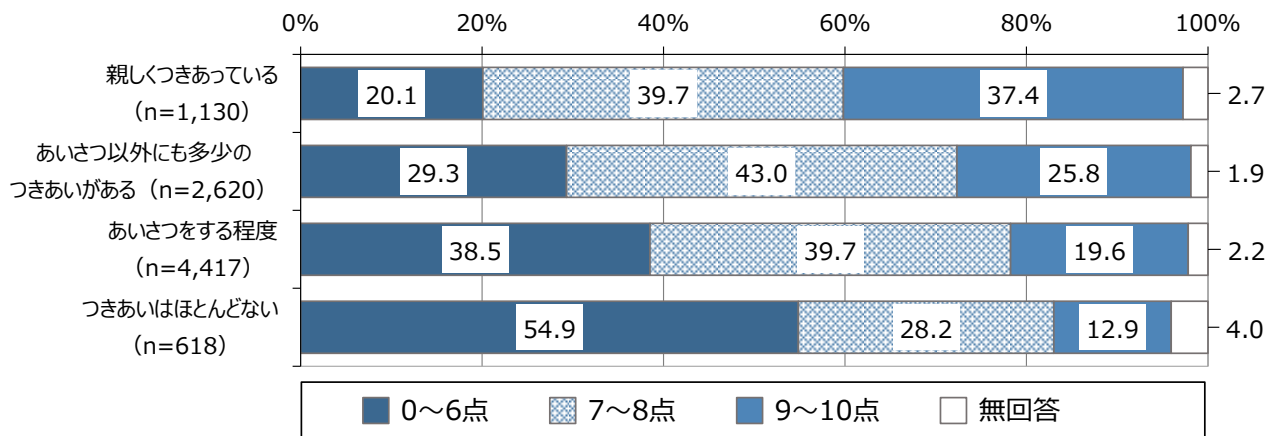
この節では、社会資源等を把握する観点から、近所の人との付き合いの程度や社会参加活動の状況による主観的幸福感、主観的健康観、うつ傾向、ボランティアのグループへの参加状況、就労の状況、地域住民のグループ活動への参加意向、災害発生時のたすけあいの状況などを分析しています。

(1) 近所の人との付き合いの程度による分析

① 近所の人との付き合いの程度×現在どの程度幸せか（主観的幸福感）

現在どの程度幸せかについては、近所の人との付き合いの程度が深まるにつれて、「9～10点」の割合が増加しています。

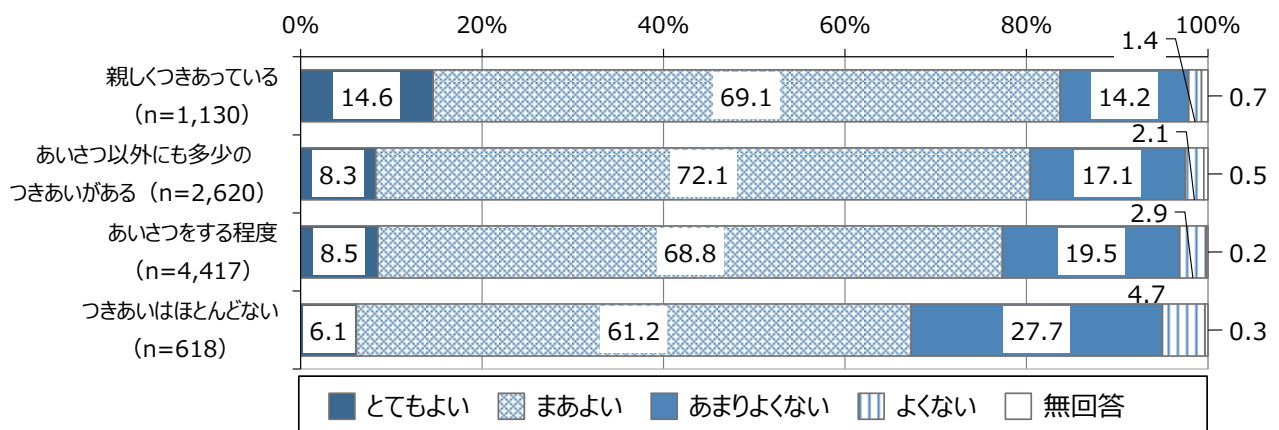
図表 2-16-1 近所の人との付き合いの程度×現在どの程度幸せか（主観的幸福感）



② 近所の人との付き合いの程度×現在の健康状態（主観的健康感）

現在の健康状態については、近所の人との付き合いの程度が深まるにつれて、『よい』（「とてもよい」と「まあよい」の合計）の割合が増加しています。

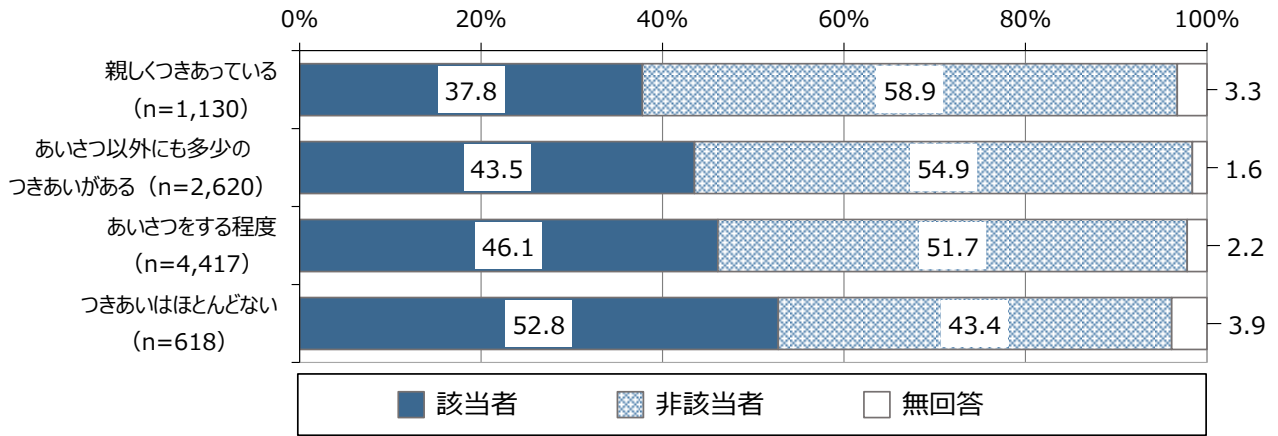
図表 2-16-2 近所の人との付き合いの程度×現在の健康状態（主観的健康感）



③ 近所の人との付き合いの程度×うつ傾向

うつ傾向については、近所の人との付き合いの程度が深まるにつれて、該当者の割合が減少しています。

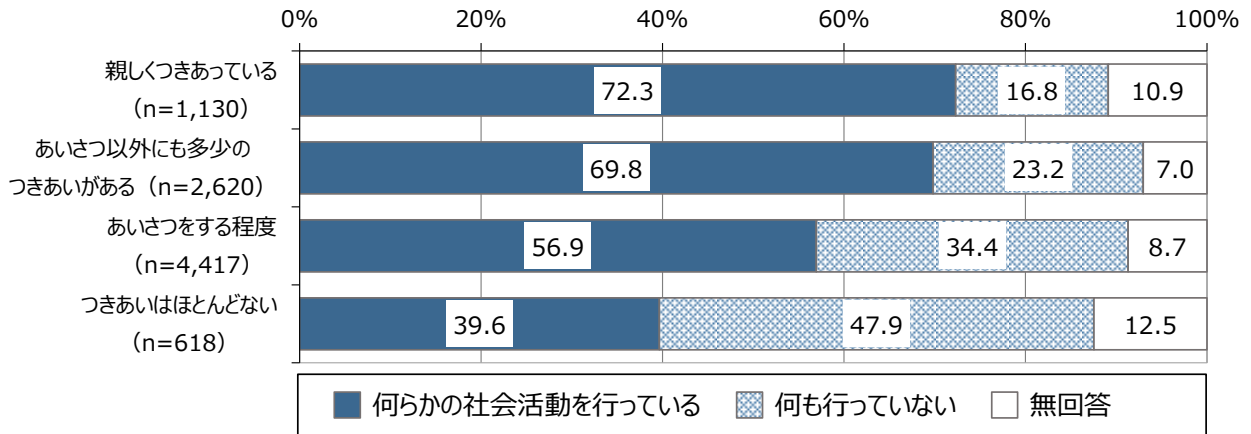
図表 2-16-3 近所の人との付き合いの程度×うつ傾向



④ 近所の人との付き合いの程度×社会参加活動の状況

社会参加活動の状況については、近所の人との付き合いの程度が深まるにつれて、何らかの社会活動を行っている人の割合が増加しています。

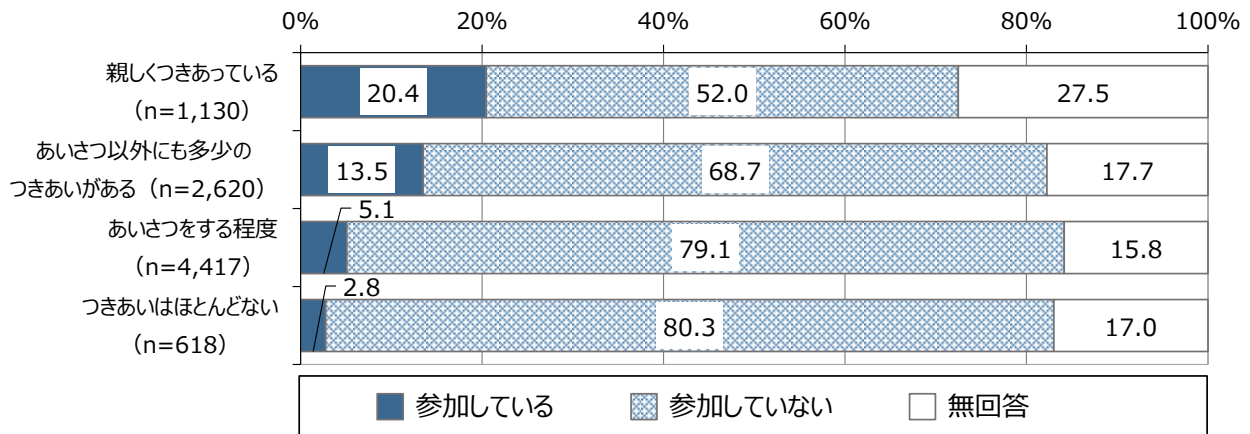
図表 2-16-4 近所の人との付き合いの程度×社会参加活動の状況



⑤ 近所の人との付き合いの程度×ボランティアのグループへの参加状況

ボランティアのグループへの参加状況については、近所の人との付き合いの程度が深まるにつれて、ボランティアのグループへ参加している人の割合が増加しています。

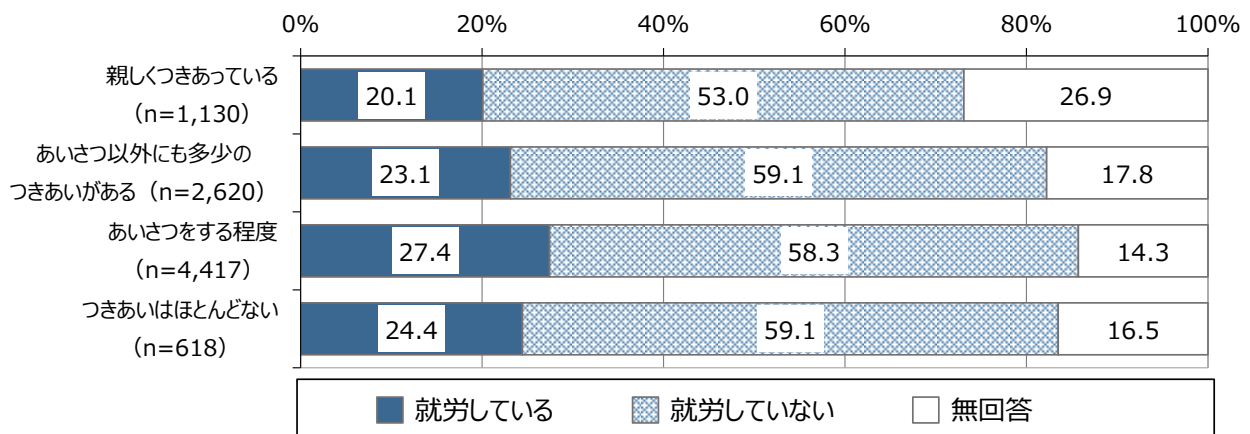
図表 2-16-5 近所の人との付き合いの程度×ボランティアのグループへの参加状況



⑥ 近所の人との付き合いの程度×就労の状況

就労の状況について、就労している人の割合はすべての項目で 20%台です。

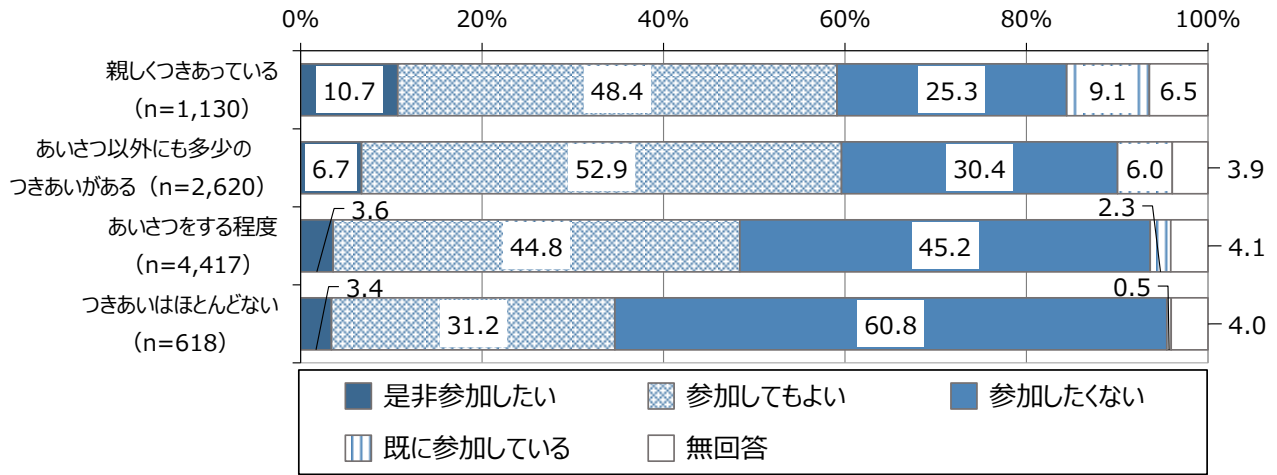
図表 2-16-6 近所の人との付き合いの程度×就労の状況



⑦ 近所の人との付き合いの程度×地域住民のグループ活動に参加者として参加したいか（参加意向）

地域住民のグループ活動に参加者として参加したいかについては、近所の人との付き合いの程度が深まるにつれて、「是非参加したい」、「既に参加している」人の割合が増加しています。

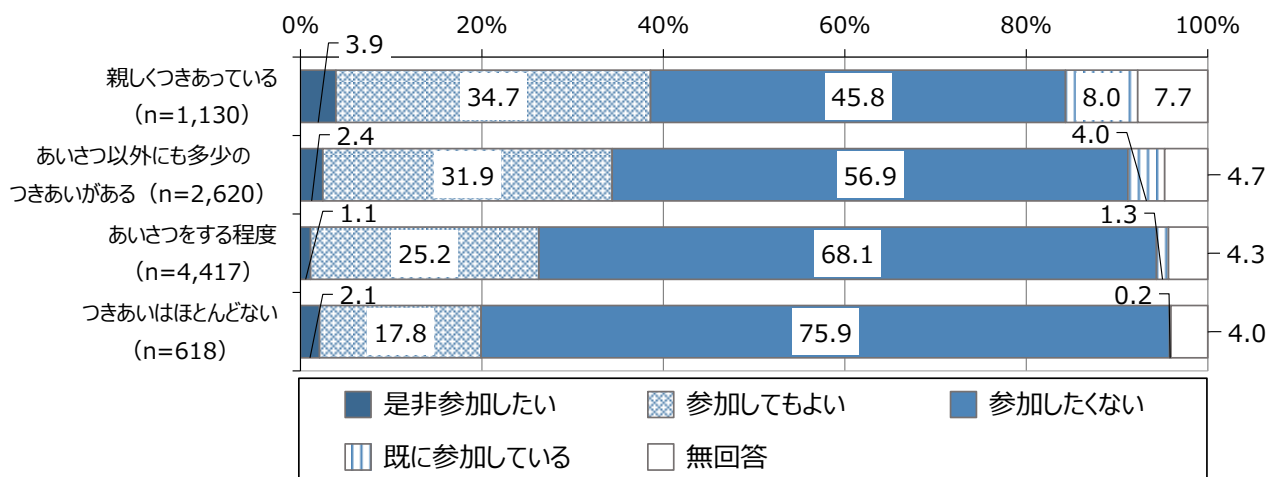
図表 2-16-7 近所の人との付き合いの程度×地域住民のグループ活動に参加者として参加したいか（参加意向）



⑧ 近所の人との付き合いの程度×地域住民のグループ活動に企画・運営（世話役）として参加したいか（参加意向）

地域住民のグループ活動に企画・運営（世話役）として参加したいかについては、近所の人との付き合いの程度が深まるにつれて、「参加してもよい」、「既に参加している」人の割合が増加しています。

図表 2-16-8 近所の人との付き合いの程度×地域住民のグループ活動に企画・運営（世話役）として参加したいか（参加意向）



⑨ 近所の人との付き合いの程度×今後、参加（活動）したいと思うもの（参加意向）

今後、参加（活動）したいと思うものについては、近所の人との付き合いの程度が深まるにつれて、「特にない」の割合が減少しています。

図表 2-16-9 近所の人との付き合いの程度×今後、参加（活動）したいと思うもの（参加意向）

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	体健康 操増進 教室の ための	の認 脳知 ト症 レ予 教防 室の ため	な教 等養 の講 生座 涯や 学英 習会 話	料理 教室	活文 動化 系の サー クル	活運 動動 系の サー クル	プ自 治会 のや 地老 域人 活ク ラ	ポ ラ ン テ ィ ア 活 動	そ の 他	特 に な い	無 回 答
親しくつきあっている	1,130	32.9	23.1	8.8	8.2	10.3	11.7	21.7	12.7	3.0	29.0	4.9
あいさつ以外にも多少のつきあいがある	2,620	34.4	25.4	10.3	7.3	10.0	13.2	11.7	9.0	2.6	35.9	3.0
あいさつをする程度	4,417	26.7	19.9	9.9	6.3	8.3	11.2	5.1	6.4	2.1	48.4	2.9
つきあいはほとんどない	618	18.1	14.2	8.6	5.8	6.0	7.3	3.1	5.8	1.6	60.8	2.4

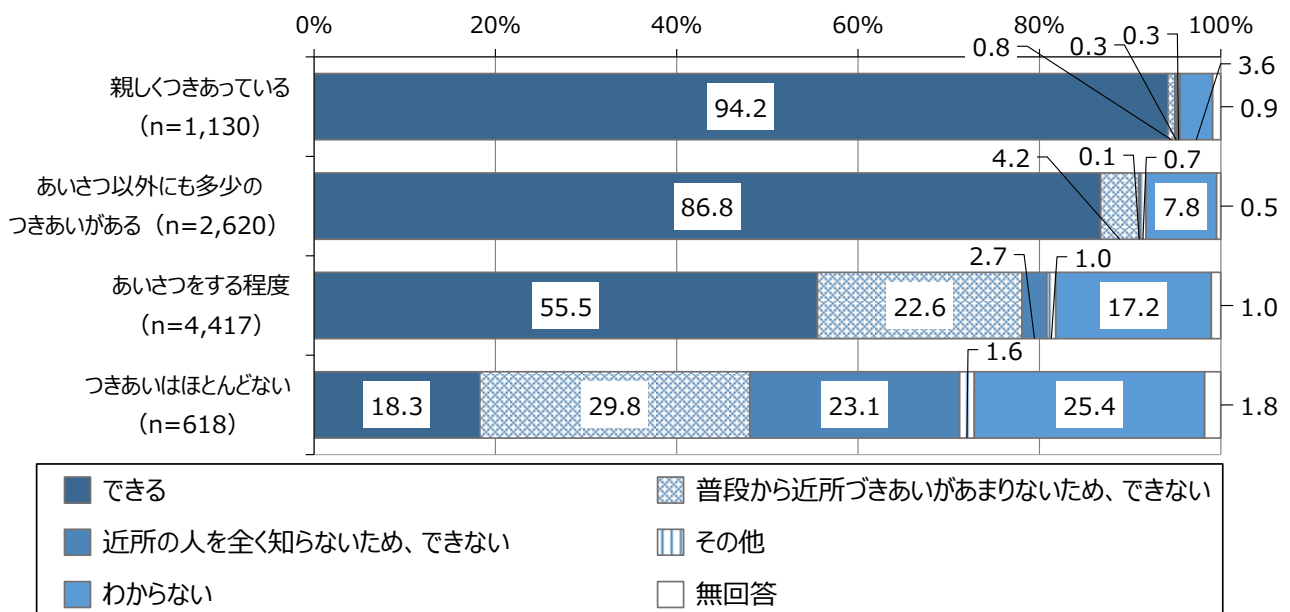
※網掛け■は最も割合が高いもの

⑩ 近所の人との付き合いの程度×災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができるか（災害発生時のたすけあいの状況）

災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができるかについては、近所の人との付き合いの程度が深まるにつれて、「できる」の割合が増加しています。

図表 2-16-10 近所の人との付き合いの程度×

災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができるか（災害発生時のたすけあいの状況）

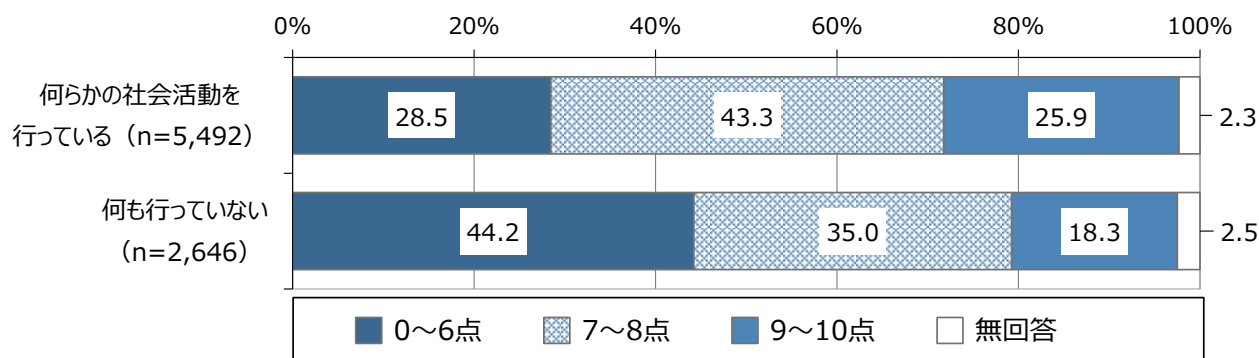


(2) 社会参加活動の状況による分析

① 社会参加活動の状況×現在どの程度幸せか（主観的幸福感）

現在どの程度幸せかについては、何らかの社会活動を行っている人では、何も行っていない人と比較して「9～10点」の割合が高い状況です。

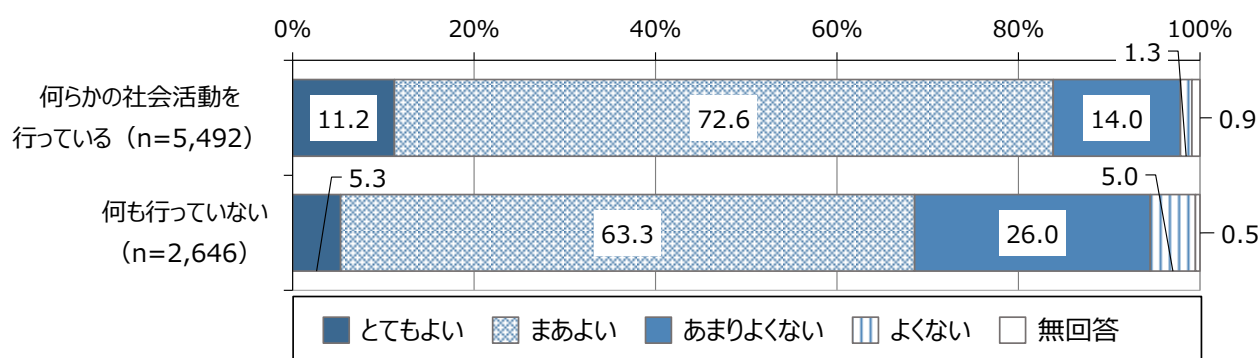
図表 2-16-11 社会参加活動の状況×現在どの程度幸せか（主観的幸福感）



② 社会参加活動の状況×現在の健康状態（主観的健康感）

現在の健康状態については、何らかの社会活動を行っている人では、何も行っていない人と比較して『よい』（「とてもよい」と「まあよい」の合計）の割合が高い状況です。

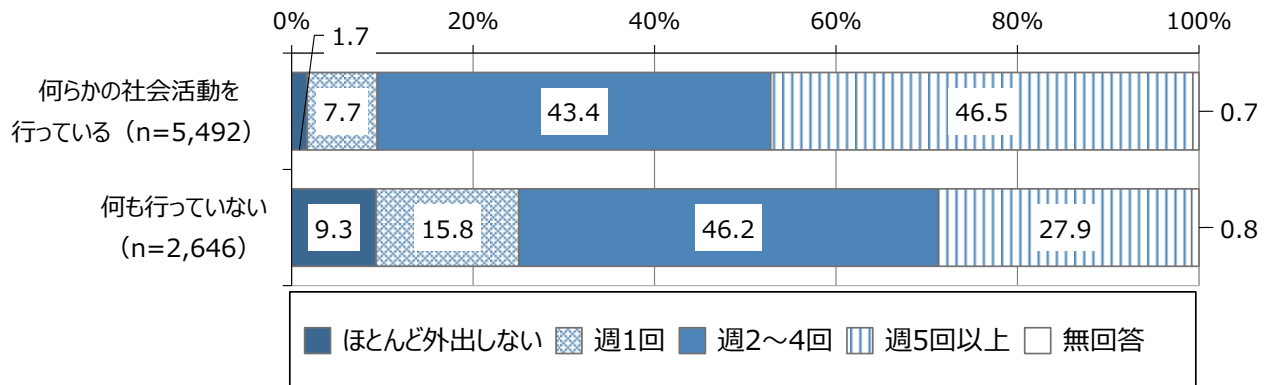
図表 2-16-12 社会参加活動の状況×現在の健康状態（主観的健康感）



③ 社会参加活動の状況×週に1回以上は外出しているか

週に1回以上は外出しているかについては、何らかの社会活動を行っている人では、何も行ってない人と比較して「週5回以上」の割合が高い状況です。

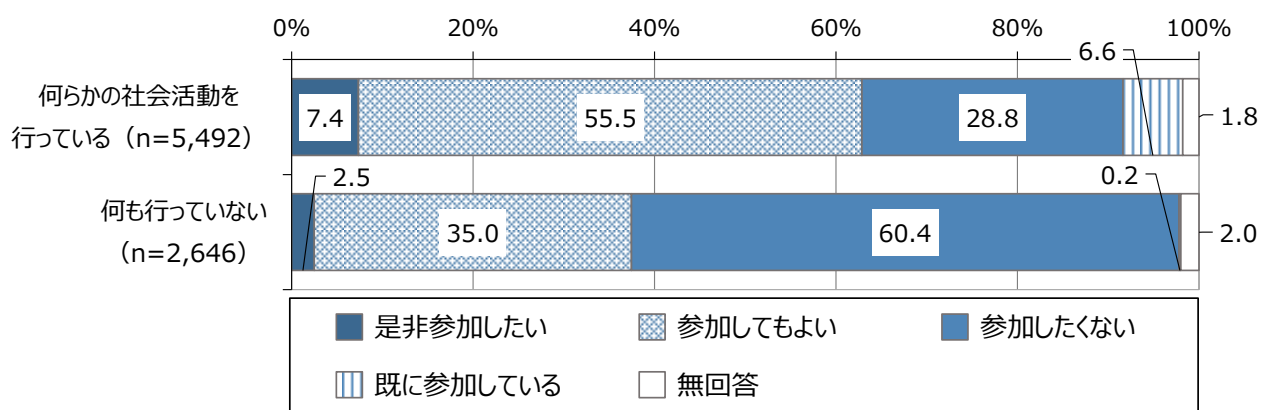
図表 2-16-13 社会参加活動の状況×週に1回以上は外出しているか



④ 社会参加活動の状況×地域住民のグループ活動に参加者として参加したいか（参加意向）

地域住民のグループ活動に参加者として参加したいかについては、何らかの社会活動を行っている人では、何も行ってない人と比較して『参加意向がある』（「是非参加したい」と「参加してもよい」、「既に参加している」の合計）の割合が高い状況です。

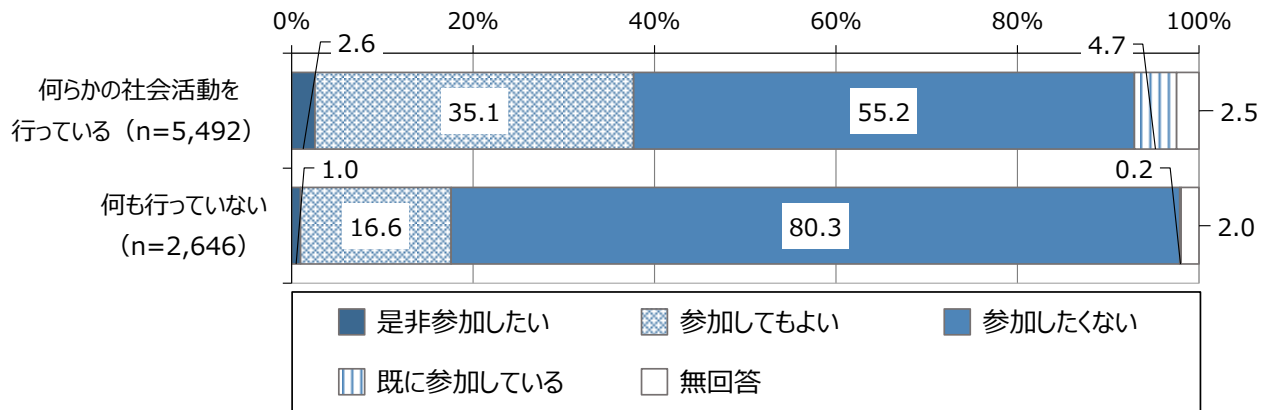
図表 2-16-14 社会参加活動の状況×地域住民のグループ活動に参加者として参加したいか（参加意向）



⑤ 社会参加活動の状況×地域住民のグループ活動に企画・運営（世話役）として参加したいか（参加意向）

地域住民のグループ活動に企画・運営（世話役）として参加したいかについては、何らかの社会活動を行っている人では、何も行ってない人と比較して『参加意向がある』（「是非参加したい」と「参加してもよい」、「既に参加している」の合計）の割合が高い状況です。

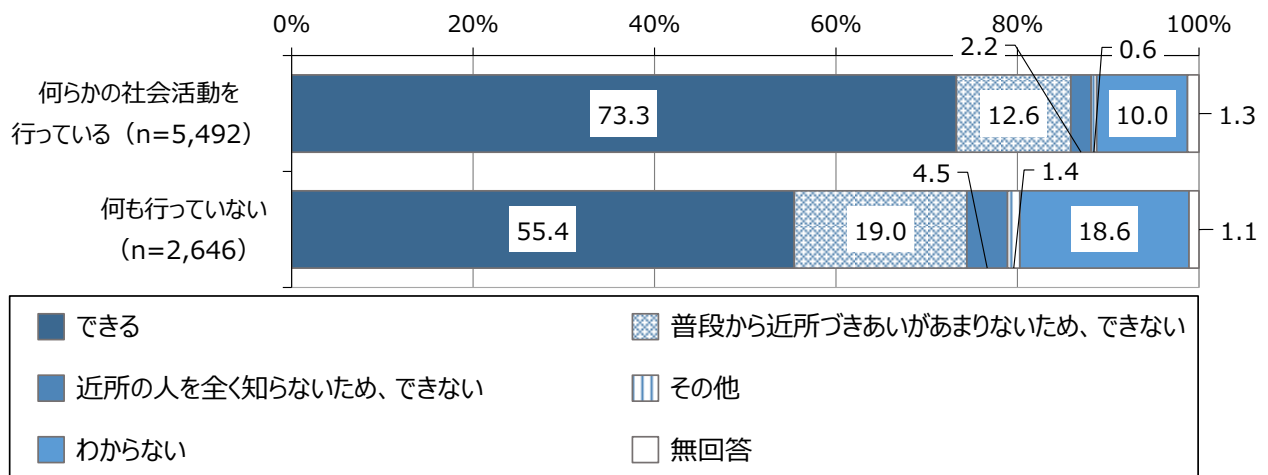
図表 2-16-15 社会参加活動の状況×
地域住民のグループ活動に企画・運営（世話役）として参加したいか（参加意向）



⑥ 社会参加活動の状況×災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができるか（災害発生時のたすけあいの状況）

災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができるかについては、何らかの社会活動を行っている人では、何も行ってない人と比較して「できる」の割合が高い状況です。

図表 2-16-16 社会参加活動の状況×
災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができるか（災害発生時のたすけあいの状況）

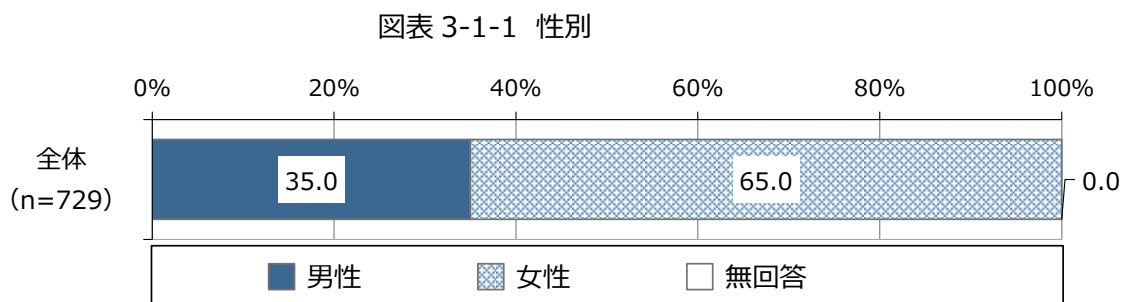


第3章 在宅介護実態調査結果

1 回答者の属性

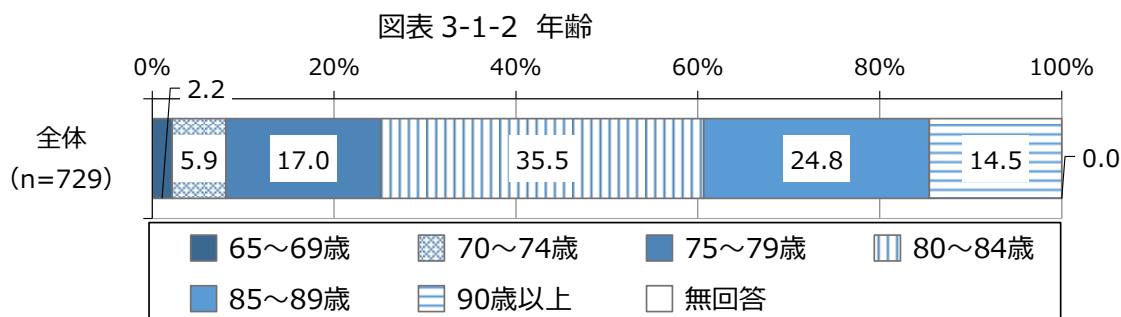
(1) 性別

性別については、「男性」が35.0%、「女性」が65.0%です。



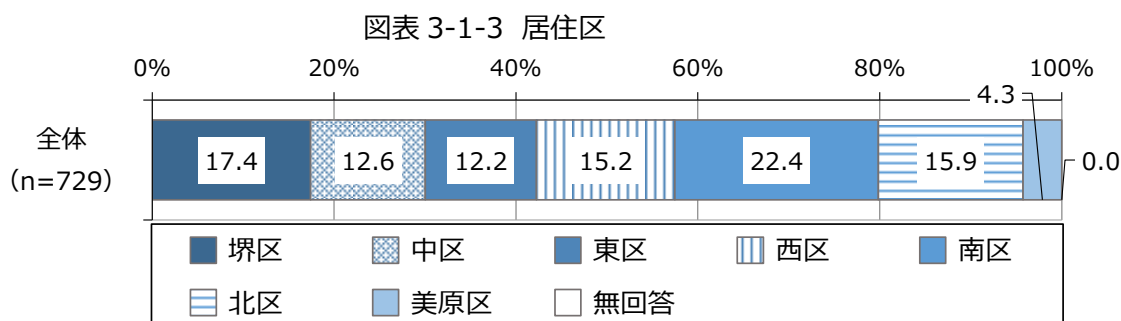
(2) 年齢

年齢については、「80～84 歳」が 35.5%で最も高く、次いで「85～89 歳」が 24.8%、「75～79 歳」が 17.0%と続いています。



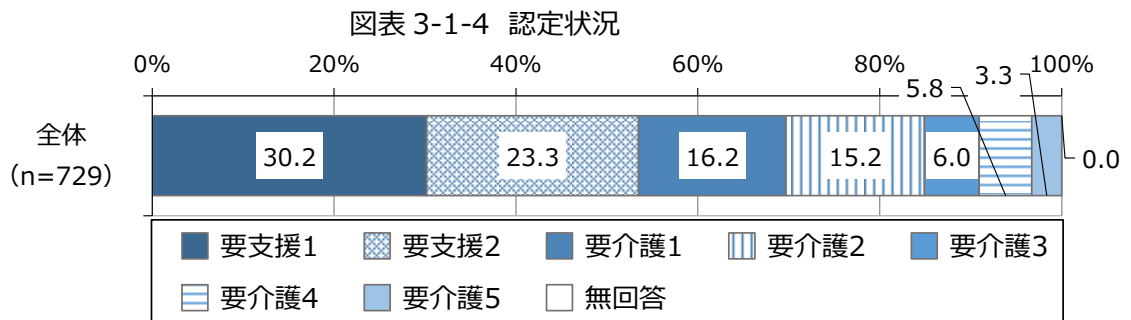
(3) 居住区

居住区については、「南区」が 22.4%で最も高く、次いで「堺区」が 17.4%、「北区」が 15.9%と続いています。



(4) 認定状況

認定状況については、「要支援 1」が 30.2%で最も高く、次いで「要支援 2」が 23.3%、「要介護 1」が 16.2%と続いています。



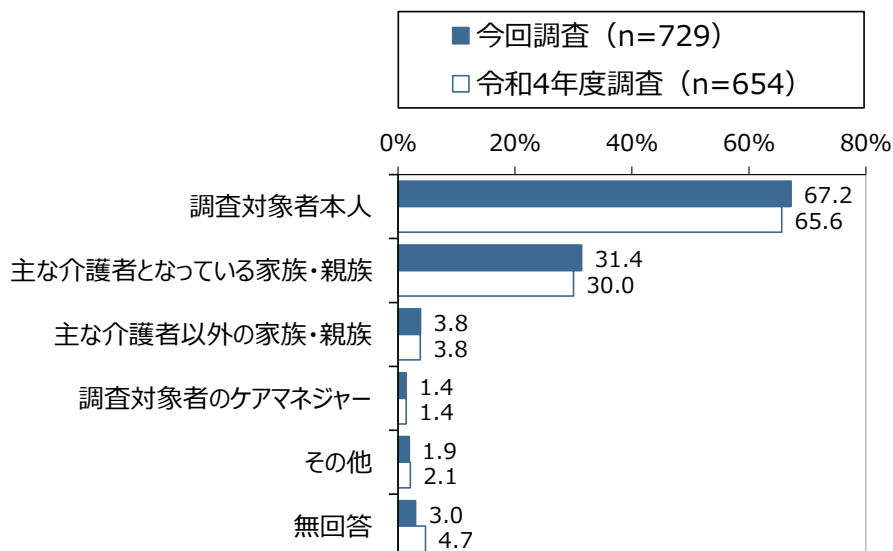
2 調査対象者について

(1) 調査回答者

問	この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか。(〇はいくつでも)
---	------------------------------------

調査回答者については、「調査対象者本人」が 67.2%で最も高く、次いで「主な介護者となっている家族・親族」が 31.4%、「主な介護者以外の家族・親族」が 3.8%と続いています。

図表 3-2-1 調査回答者



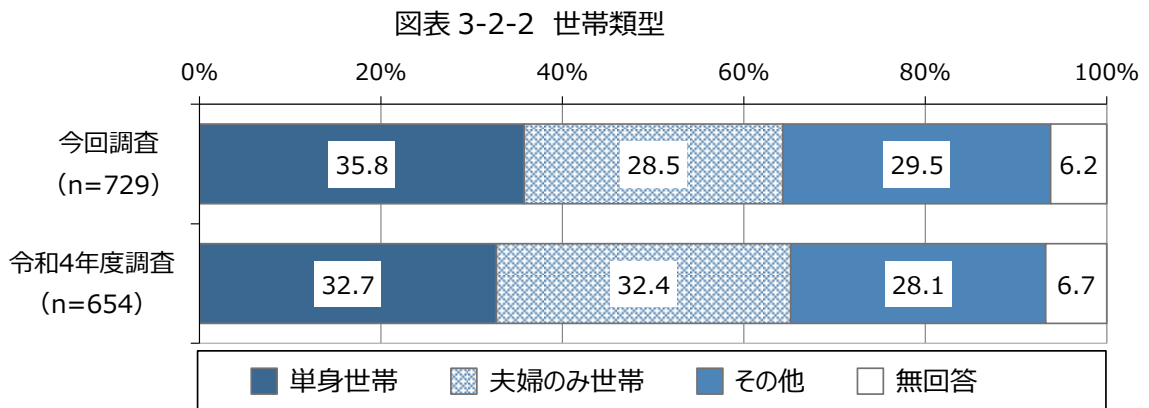
※在宅介護実態調査では、調査対象者ご本人に対する設問は「設問 A」、主な介護者に対する設問は「設問 B」としており、以降それぞれ「A-問」、「B-問」と記載しています。

(2) 世帯類型

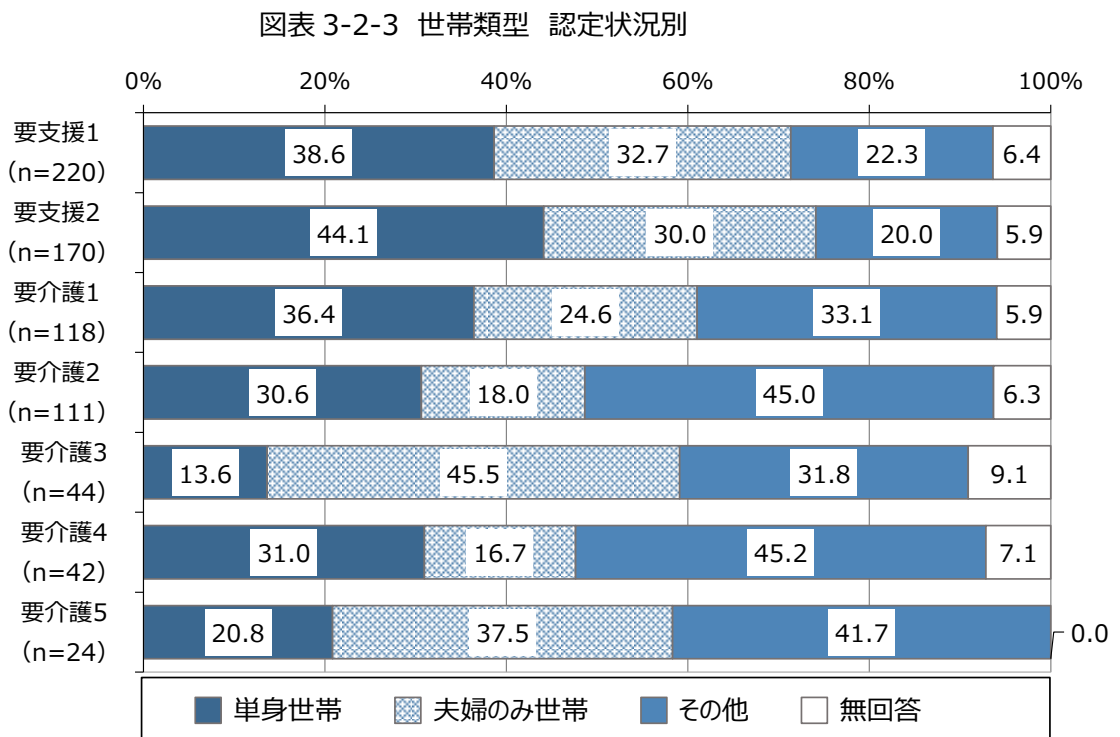
A-問 1	世帯類型について、お教えてください。(○はひとつ)
-------	---------------------------

世帯類型については、「単身世帯」が 35.8%で最も高く、次いで「その他」が 29.5%、「夫婦のみ世帯」が 28.5%です。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「単身世帯」（35.8%）では、令和 4（2022）年度調査（32.7%）より 3.1 ポイント増加しています。



認定状況別でみると、「単身世帯」では、要支援 2 が 44.1%で最も高い状況です。



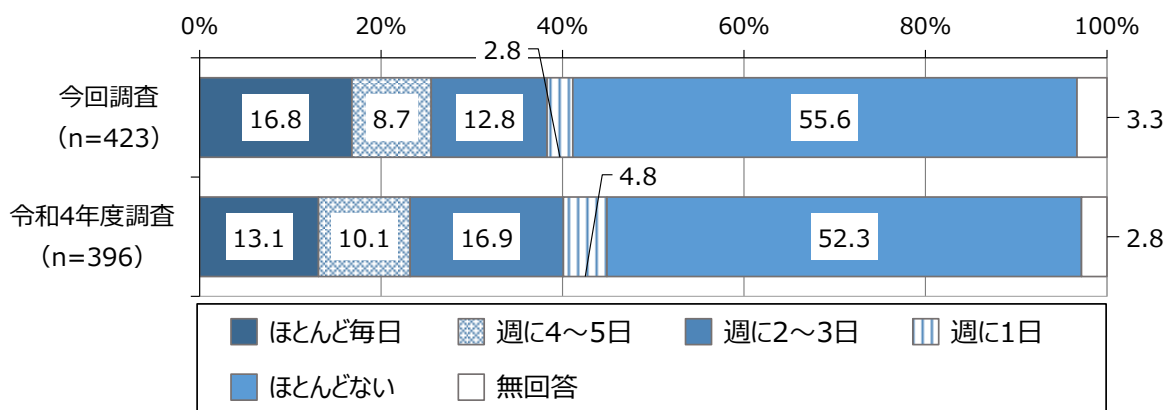
(3) 日中に一人になることがあるか

A-問 2	問 1 で「2.夫婦のみ世帯」「3.その他」と回答した方（ご家族などと同居されている方）におうかがいします。 日中、あなた（ご本人）は一人になることがありますか。（○はひとつ）
-------	---

日中に一人になることがあるかについては、「ほとんどない」が 55.6%で最も高く、次いで「ほとんど毎日」が 16.8%、「週に 2～3 日」が 12.8%と続いています。

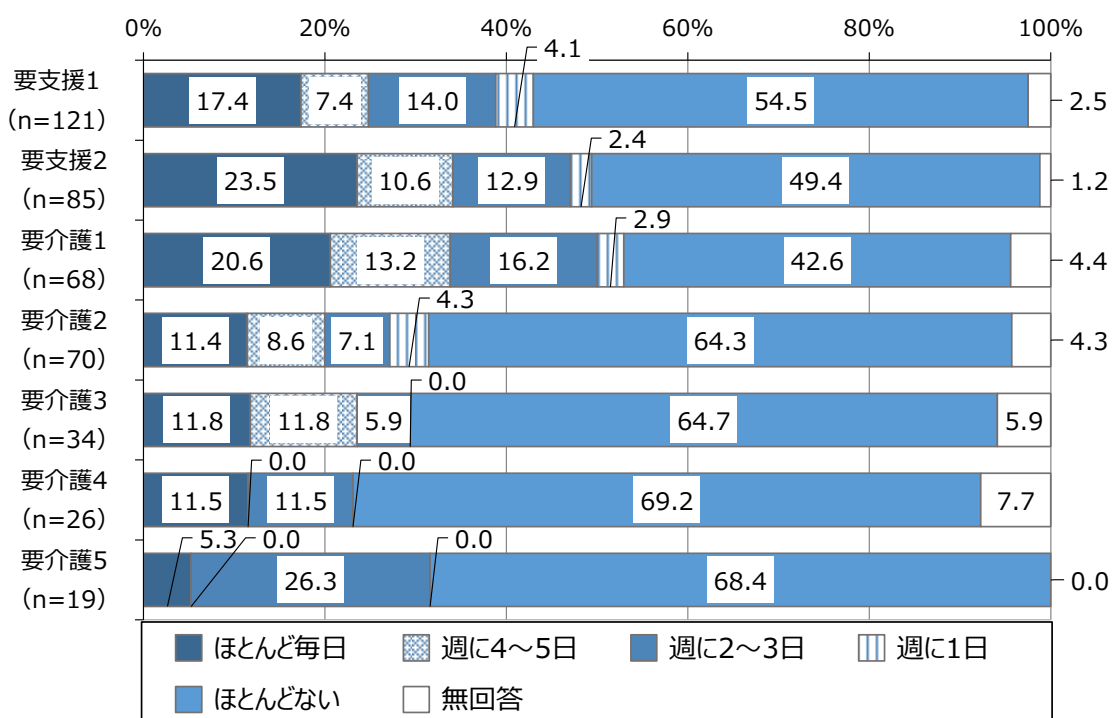
令和 4（2022）年度調査と比較すると、「ほとんど毎日」（16.8%）では、令和 4（2022）年度調査（13.1%）より 3.7 ポイント増加しています。

図表 3-2-4 日中に一人になることがあるか



認定状況別でみると、「ほとんど毎日」では、要支援 2 が 23.5%で最も高い状況です。

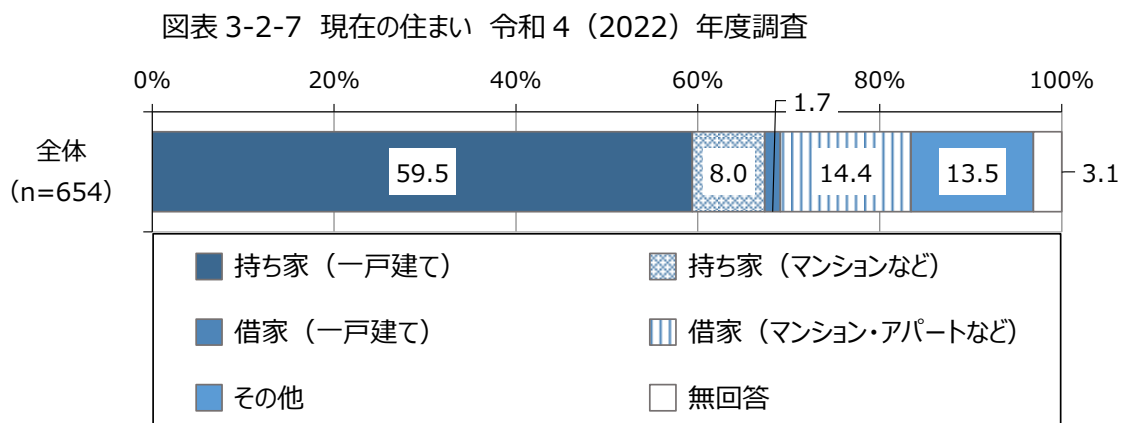
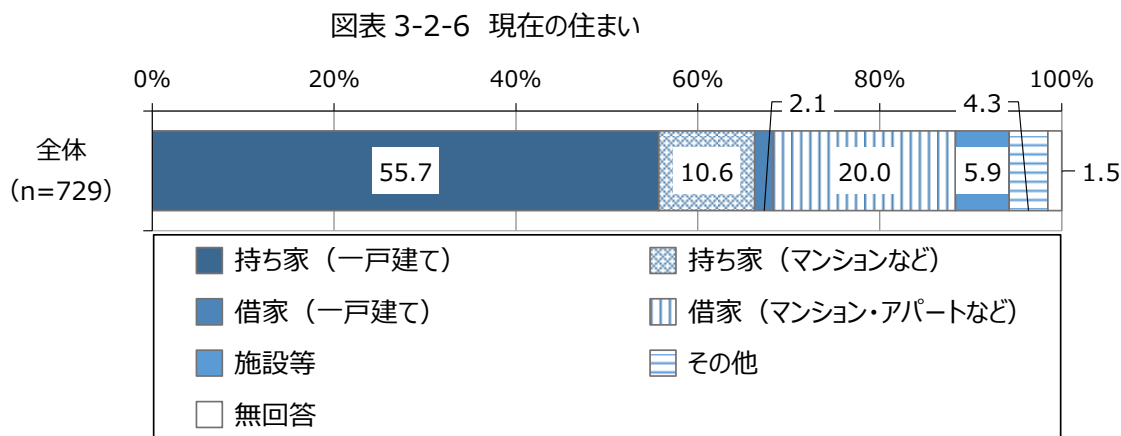
図表 3-2-5 日中に一人になることがあるか 認定状況別



(4) 現在の住まい

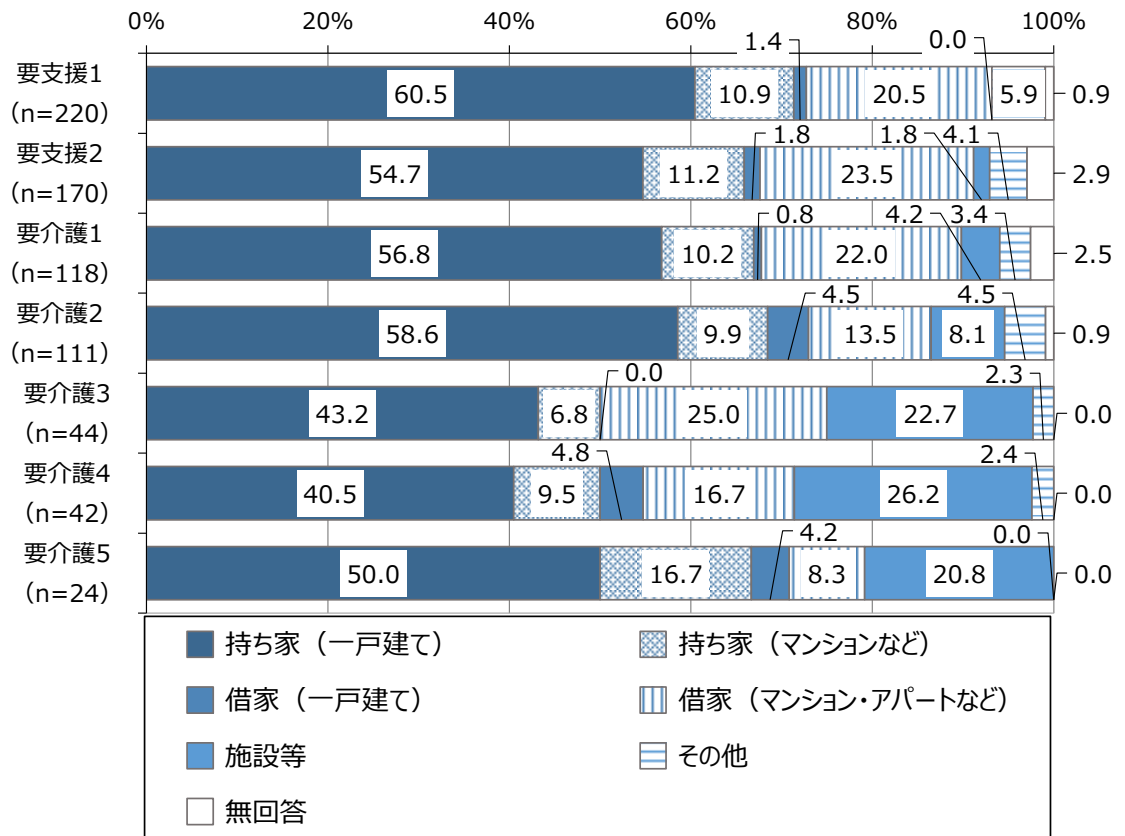
A-問3 現在のお住まいをお教えてください。(〇はひとつ)

現在の住まいについては、「持ち家（一戸建て）」が55.7%で最も高く、次いで「借家（マンション・アパートなど）」が20.0%、「持ち家（マンションなど）」が10.6%と続いています。



認定状況別でみると、すべての要介護度で「持ち家（一戸建て）」が最も高い割合を占めています。

図表 3-2-8 現在の住まい 認定状況別



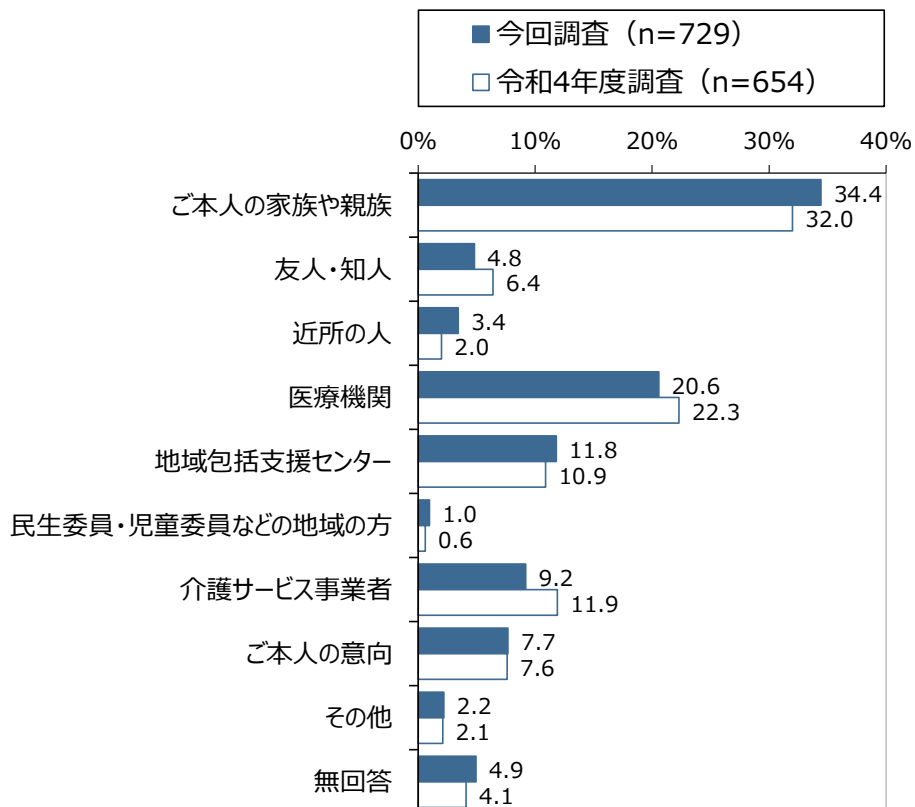
(5) 初めての認定申請の際、誰から申請を勧められたか

A-問 4	初めて要支援・要介護認定を申請した際、どなたから申請を勧められましたか。 (○はひとつ)
-------	---

初めての認定申請の際、誰から申請を勧められたかについては、「ご本人の家族や親族」が 34.4%で最も高く、次いで「医療機関」が 20.6%、「地域包括支援センター」が 11.8%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-2-9 初めての認定申請の際、誰から申請を勧められたか



認定状況別でみると、「ご本人の家族や親族」では、要介護3が47.7%で最も高く、「医療機関」では、要介護4が38.1%で最も高い状況です。

区域別でみると、「地域包括支援センター」では、南区が15.3%で最も高い状況です。

図表 3-2-10 初めての認定申請の際、誰から申請を勧められたか 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	ご本人の家族や親族	友人・知人	近所の人	医療機関	地域包括支援センター	民生委員・児童委員などの地域の方	介護サービス事業者	ご本人の意向	その他	無回答
全体		729	34.4	4.8	3.4	20.6	11.8	1.0	9.2	7.7	2.2	4.9
認定状況別	要支援1	220	29.1	9.5	3.6	14.1	12.7	2.3	6.8	13.6	1.4	6.8
	要支援2	170	32.4	5.3	4.1	22.4	10.0	1.2	8.8	8.8	1.8	5.3
	要介護1	118	40.7	0.8	2.5	16.1	12.7	0.0	13.6	5.1	2.5	5.9
	要介護2	111	36.0	2.7	4.5	22.5	13.5	0.0	11.7	2.7	2.7	3.6
	要介護3	44	47.7	0.0	2.3	27.3	9.1	0.0	9.1	2.3	2.3	0.0
	要介護4	42	38.1	2.4	2.4	38.1	9.5	0.0	4.8	0.0	4.8	0.0
	要介護5	24	29.2	0.0	0.0	37.5	12.5	0.0	8.3	4.2	4.2	4.2
区域別	堺区	127	29.9	6.3	3.1	13.4	13.4	0.0	15.7	11.0	1.6	5.5
	中区	92	41.3	2.2	2.2	22.8	13.0	2.2	3.3	5.4	3.3	4.3
	東区	89	31.5	11.2	0.0	23.6	9.0	2.2	7.9	6.7	4.5	3.4
	西区	111	36.0	5.4	2.7	19.8	8.1	0.0	9.0	10.8	0.9	7.2
	南区	163	33.1	3.7	3.7	19.6	15.3	0.0	9.8	8.0	3.1	3.7
	北区	116	38.8	1.7	6.9	25.0	9.5	0.9	6.0	5.2	0.9	5.2
	美原区	31	25.8	3.2	6.5	25.8	12.9	6.5	12.9	0.0	0.0	6.5

※網掛け■は最も割合が高いもの

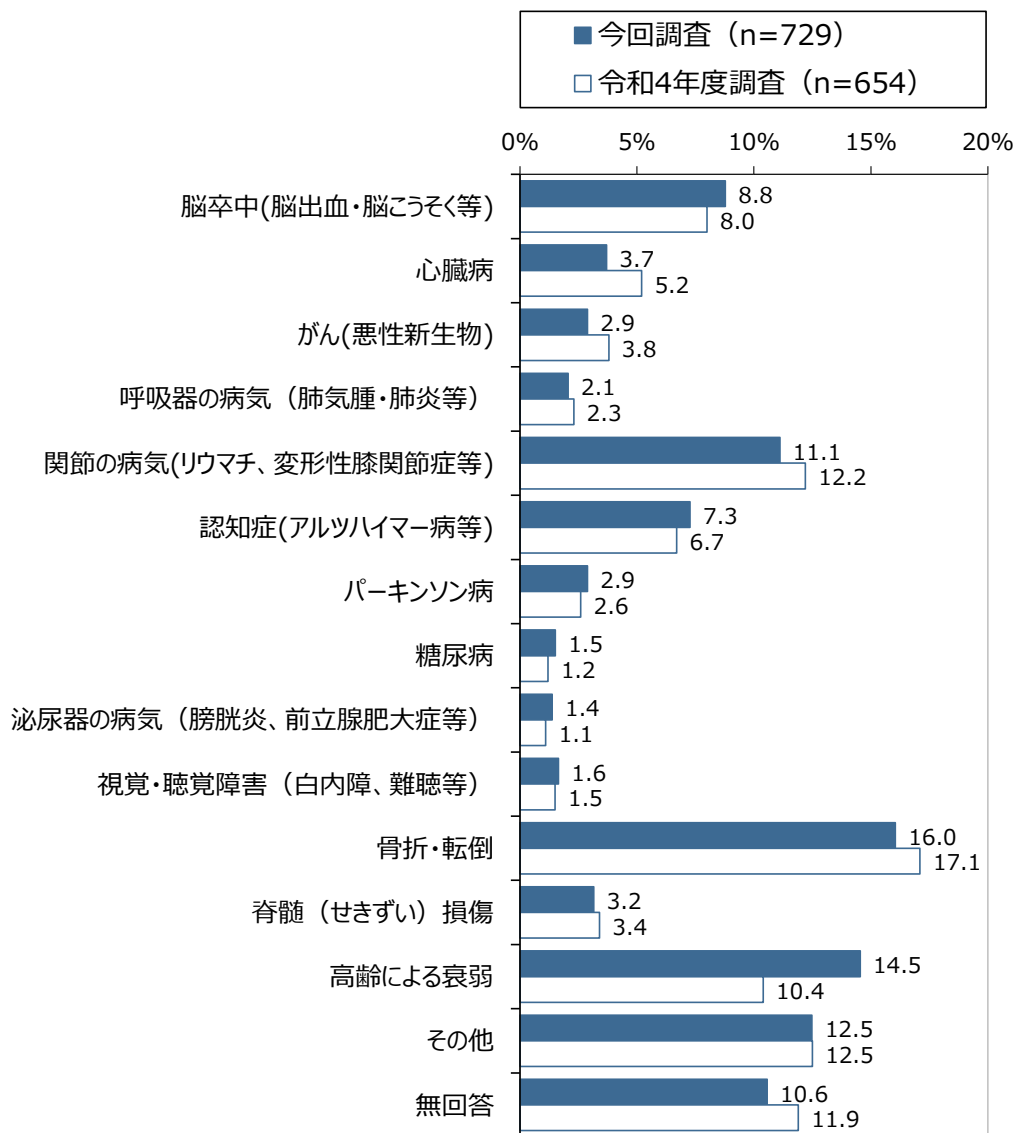
(6) 初めて要支援・要介護認定が必要になった主な原因

A-問 5	あなた（ご本人）が初めて要支援・要介護認定が必要になった主な原因は何ですか。 （○はひとつ）
-------	---

初めて要支援・要介護認定が必要になった主な原因については、「骨折・転倒」が 16.0%で最も高く、次いで「高齢による衰弱」が 14.5%、「その他」が 12.5%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「高齢による衰弱」（14.5%）では、令和 4（2022）年度調査（10.4%）より 4.1 ポイント増加しています。

図表 3-2-11 初めて要支援・要介護認定が必要になった主な原因



認定状況別でみると、「骨折・転倒」では、要介護 4 が 23.8%で最も高く、「高齢による衰弱」では、要支援 1 が 21.8%で最も高い状況です。

図表 3-2-12 初めて要支援・要介護認定が必要になった主な原因 認定状況別

単位：実数（人）、構成比（%）

認定状況別	合計	そ 脳 卒 中	心 臓 病	が ん	肺 呼 吸 器	変 関 節	病 認 知 症	パ ー キ ン ソ ン 病	糖 尿 病	前 泌 尿 器	障 視	
		（ 脳 出 血 ・ 脳 こ う ）		（ 悪 性 新 生 物 ）	（ 肺 気 腫 ・ ）	の 病 気 （ リ ウ マ チ 、 ）	（ ア ル ツ ハ イ マ ー ）			の 病 気 （ 膀 胱 炎 、 ）	（ 難 ・ 聴 等 ）	障 害 （ 白 内 ）
全体	729	8.8	3.7	2.9	2.1	11.1	7.3	2.9	1.5	1.4	1.6	
認定状況別	要支援1	220	5.5	3.6	3.6	2.3	15.0	0.5	0.9	0.5	0.5	1.4
	要支援2	170	10.0	2.9	2.4	0.0	14.1	0.0	1.8	2.4	2.4	3.5
	要介護1	118	7.6	4.2	1.7	2.5	3.4	22.9	0.8	0.8	1.7	0.8
	要介護2	111	9.0	3.6	3.6	3.6	9.0	13.5	5.4	0.0	1.8	0.0
	要介護3	44	13.6	2.3	2.3	4.5	6.8	4.5	11.4	6.8	2.3	4.5
	要介護4	42	14.3	7.1	2.4	0.0	11.9	4.8	4.8	4.8	0.0	0.0
要介護5	24	16.7	4.2	4.2	4.2	8.3	25.0	8.3	0.0	0.0	0.0	
全体	729	16.0	3.2	14.5	12.5	10.6						
認定状況別	要支援1	220	12.7	2.7	21.8	15.0	14.1					
	要支援2	170	24.1	4.1	8.2	13.5	10.6					
	要介護1	118	12.7	0.0	18.6	8.5	13.6					
	要介護2	111	14.4	4.5	11.7	14.4	5.4					
	要介護3	44	13.6	2.3	4.5	11.4	9.1					
	要介護4	42	23.8	7.1	9.5	7.1	2.4					
要介護5	24	4.2	4.2	12.5	4.2	4.2						

※網掛け■は最も割合が高いもの

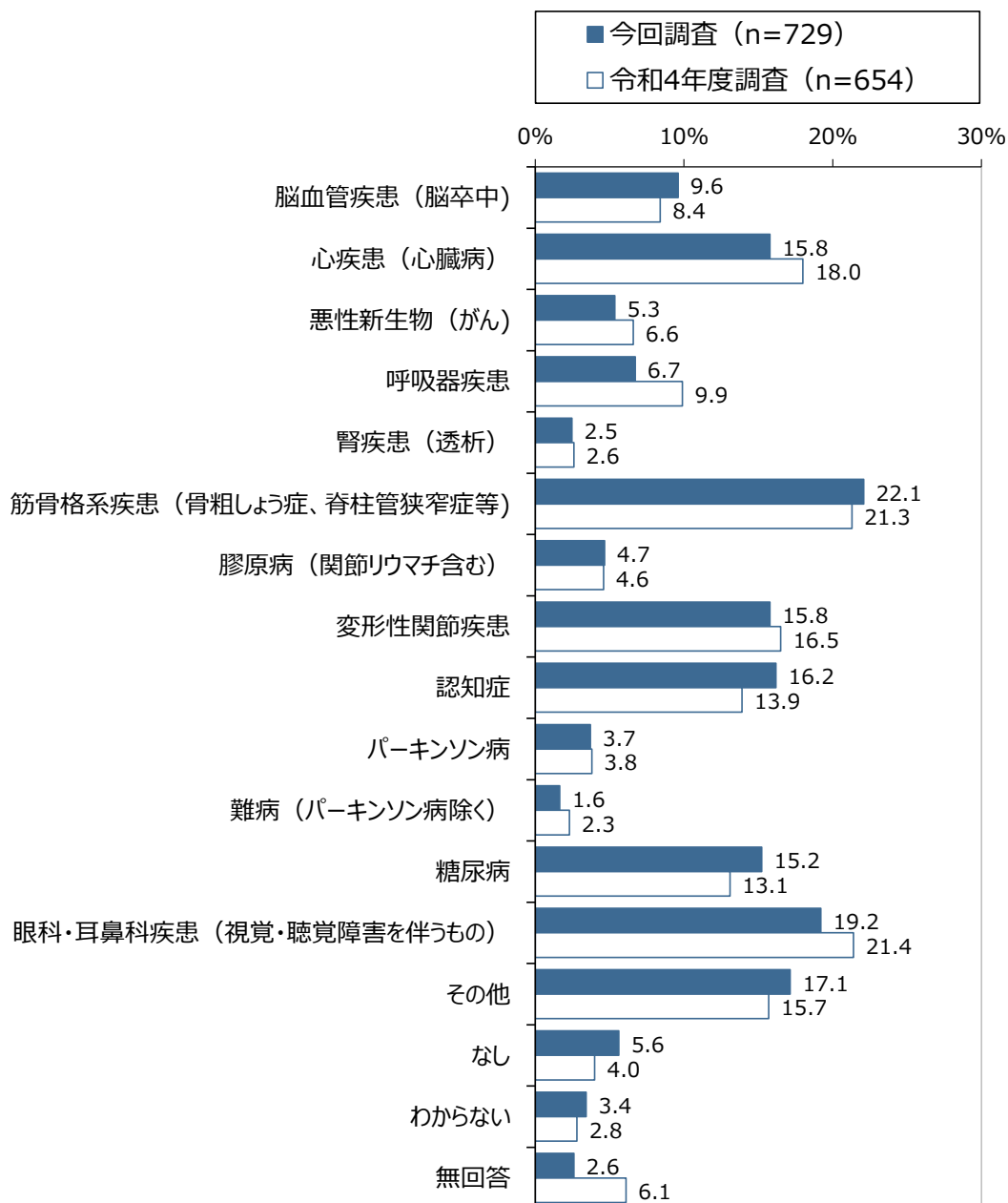
(7) 現在抱えている傷病

A-問 6 あなた（ご本人）が、現在抱えている傷病について教えてください。（○はいくつでも）

現在抱えている傷病については、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が22.1%で最も高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が19.2%、「その他」が17.1%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「呼吸器疾患」（6.7%）では、令和 4（2022）年度調査（9.9%）より3.2ポイント減少しています。

図表 3-2-13 現在抱えている傷病



性別でみると、男性では「糖尿病」が 19.2%で最も高く、女性では「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が 28.5%で最も高い状況です。

認定状況別でみると、「認知症」では、要介護 5 が 58.3%で最も高い状況です。

図表 3-2-14 現在抱えている傷病 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	脳血管疾患 (脳卒中)	心疾患 (心臓病)	悪性新生物 (がん)	呼吸器疾患	腎疾患 (透析)	う 筋 骨 格 系 疾 患 症、脊 柱 管 狭 窄 症 等	む 膠 原 病 (関節リウマチ含)	変形性 関節疾患	認 知 症	パ ー キ ン ソ ン 病
全体		729	9.6	15.8	5.3	6.7	2.5	22.1	4.7	15.8	16.2	3.7
性別	男性	255	15.7	18.4	9.8	9.4	3.9	10.2	3.5	7.8	16.5	5.5
	女性	474	6.3	14.3	3.0	5.3	1.7	28.5	5.3	20.0	16.0	2.7
認定 状況 別	要支援1	220	6.4	11.8	5.5	5.9	0.5	22.3	4.1	19.5	5.9	1.4
	要支援2	170	11.8	18.8	6.5	8.8	4.7	31.2	4.7	15.3	2.9	1.8
	要介護1	118	5.9	13.6	3.4	4.2	1.7	13.6	6.8	9.3	30.5	1.7
	要介護2	111	9.9	22.5	5.4	9.0	1.8	28.8	2.7	19.8	22.5	5.4
	要介護3	44	9.1	15.9	6.8	11.4	4.5	9.1	9.1	11.4	25.0	15.9
	要介護4	42	19.0	14.3	4.8	0.0	4.8	16.7	4.8	14.3	33.3	9.5
	要介護5	24	25.0	12.5	4.2	4.2	4.2	0.0	0.0	8.3	58.3	8.3
合計		729	1.6	15.2	19.2	17.1	5.6	3.4	2.6			
性別	男性	255	2.4	19.2	13.7	15.7	7.1	3.5	2.4			
	女性	474	1.3	13.1	22.2	17.9	4.9	3.4	2.7			
認定 状況 別	要支援1	220	1.4	13.2	20.9	15.9	8.6	3.2	3.6			
	要支援2	170	0.0	17.1	21.8	17.1	4.1	1.2	3.5			
	要介護1	118	0.0	12.7	19.5	17.8	6.8	7.6	4.2			
	要介護2	111	5.4	16.2	18.9	15.3	3.6	2.7	0.0			
	要介護3	44	6.8	25.0	18.2	22.7	2.3	0.0	0.0			
	要介護4	42	0.0	16.7	9.5	23.8	4.8	7.1	0.0			
	要介護5	24	0.0	8.3	4.2	12.5	0.0	4.2	0.0			

※網掛け■は最も割合が高いもの

3 調査対象者の生活状況や健康について

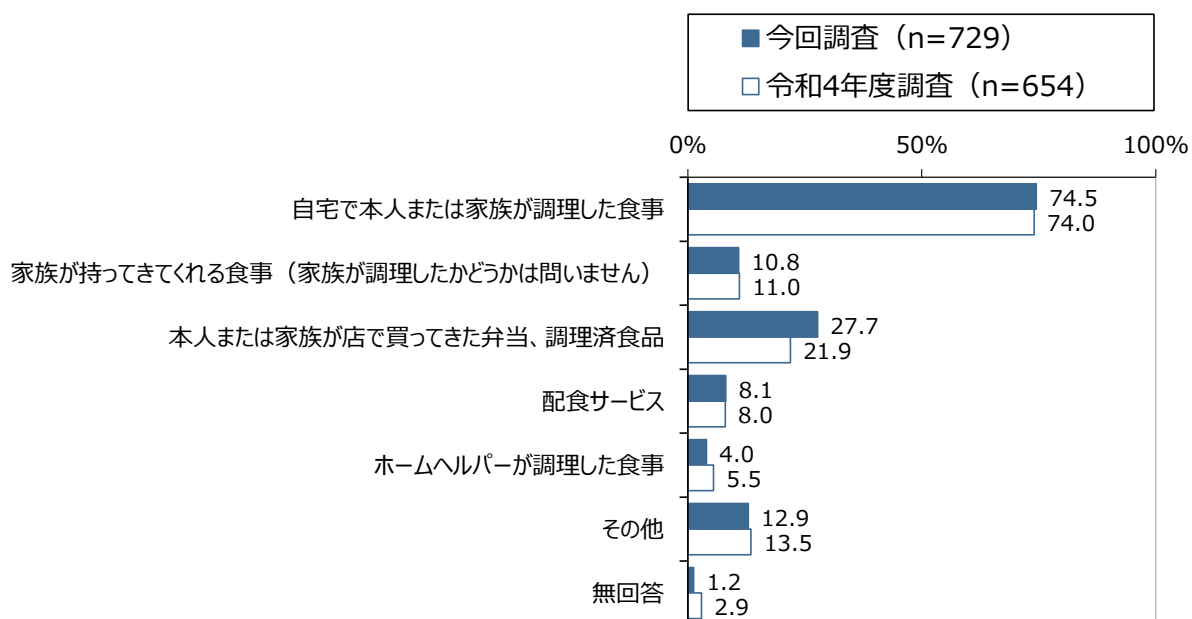
(1) 普段どのような食事をとっているか

A-問 7 あなた（ご本人）は普段どのような食事をとっていますか。（○はいくつでも）

普段どのような食事をとっているかについては、「自宅で本人または家族が調理した食事」が 74.5%で最も高く、次いで「本人または家族が店で買ってきた弁当、調理済食品」が 27.7%、「その他」が 12.9%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「本人または家族が店で買ってきた弁当、調理済食品」（27.7%）では、令和 4（2022）年度調査（21.9%）より 5.8 ポイント増加しています。

図表 3-3-1 普段どのような食事をとっているか



※ 今回調査の「本人または家族が店で買ってきた弁当、調理済食品」は、令和 4（2022）年度調査では「店で売っている弁当、調理済食品」

認定状況別でみると、「自宅で本人または家族が調理した食事」では、要介護度が上がるにつれて割合が減少しており、要支援1が82.3%で最も高く、要介護5が33.3%で最も低い状況です。

世帯類型別でみると、「自宅で本人または家族が調理した食事」の割合は単身世帯が最も低く、その他のすべて項目では、単身世帯の割合が高い状況です。

図表 3-3-2 普段どのような食事をとっているか 認定状況別・世帯類型別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	自宅で本人または家族が調理した食事	かは（家族が調理したか）	事（家族が調理したか）	家族が調理したか	て本人または家族が調理したか	配食サービス	ホームヘルパーが調理した	その他	無回答
全体		729	74.5	10.8	27.7	8.1	4.0	12.9	1.2		
認定状況別	要支援1	220	82.3	5.9	26.8	4.5	0.9	10.5	2.3		
	要支援2	170	78.2	10.0	30.0	10.6	2.4	7.1	1.2		
	要介護1	118	78.0	10.2	27.1	11.0	9.3	8.5	1.7		
	要介護2	111	73.0	17.1	32.4	8.1	5.4	15.3	0.0		
	要介護3	44	59.1	15.9	25.0	4.5	4.5	27.3	0.0		
	要介護4	42	52.4	9.5	21.4	4.8	7.1	31.0	0.0		
要介護5	24	33.3	29.2	16.7	20.8	4.2	29.2	0.0			
世帯類型別	単身世帯	261	62.1	11.9	29.1	12.3	7.3	19.2	1.1		
	夫婦のみ世帯	208	84.6	10.1	27.4	5.8	2.4	6.7	1.4		
	その他	215	82.8	10.2	27.0	4.2	2.3	8.8	0.0		

※網掛け■は最も割合が高いもの

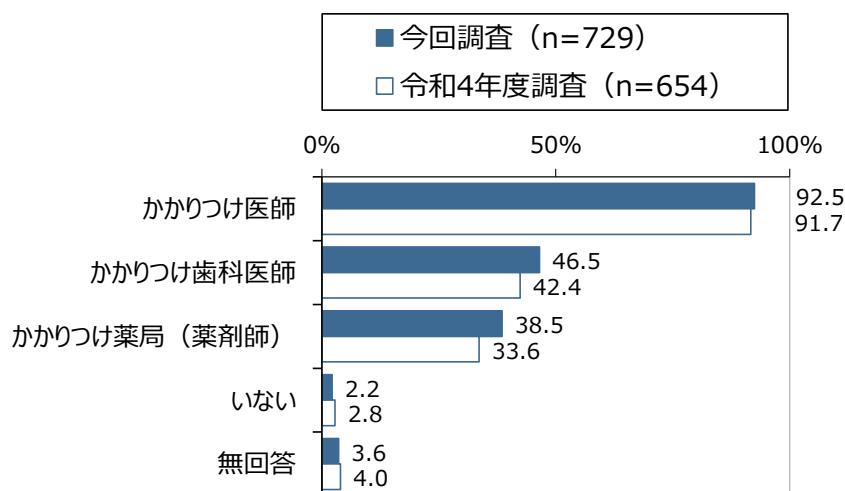
(2) かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師がいるか

A-問 8	定期的に通っていたり、必要な時に診療や相談しようと思う、かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいますか。(〇はいくつでも)
-------	--

かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師がいるかについては、「かかりつけ医師」が 92.5%で最も高く、次いで「かかりつけ歯科医師」が 46.5%、「かかりつけ薬局（薬剤師）」が 38.5%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、『かかりつけがある』がすべての項目で令和 4（2022）年度調査より割合が増加しており、「かかりつけ薬局（薬剤師）」（38.5%）では、令和 4（2022）年度調査（33.6%）より 4.9 ポイント増加しています。

図表 3-3-3 かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師がいるか



認定状況別で見ると、「いない」では、要介護1が3.4%で最も高い状況です。
 区域別で見ると、「いない」では、北区が5.2%で最も高い状況です。

図表 3-3-4 かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師がいるか 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	かかりつけ医師	かかりつけ歯科医師	薬剤師（かかりつけ薬局）	いない	無回答	
全体	729	92.5	46.5	38.5	2.2	3.6	
認定状況別	要支援1	220	89.5	48.2	32.3	3.2	5.0
	要支援2	170	92.4	44.7	37.6	1.8	2.9
	要介護1	118	89.8	44.1	34.7	3.4	5.1
	要介護2	111	98.2	50.5	51.4	0.9	0.0
	要介護3	44	95.5	47.7	29.5	0.0	4.5
	要介護4	42	97.6	42.9	57.1	2.4	0.0
	要介護5	24	91.7	41.7	45.8	0.0	8.3
区域別	堺区	127	95.3	47.2	45.7	0.8	3.1
	中区	92	92.4	46.7	43.5	3.3	3.3
	東区	89	94.4	51.7	36.0	1.1	3.4
	西区	111	91.0	51.4	42.3	0.9	4.5
	南区	163	89.6	42.3	25.8	2.5	5.5
	北区	116	91.4	40.5	44.0	5.2	1.7
	美原区	31	100.0	54.8	35.5	0.0	0.0

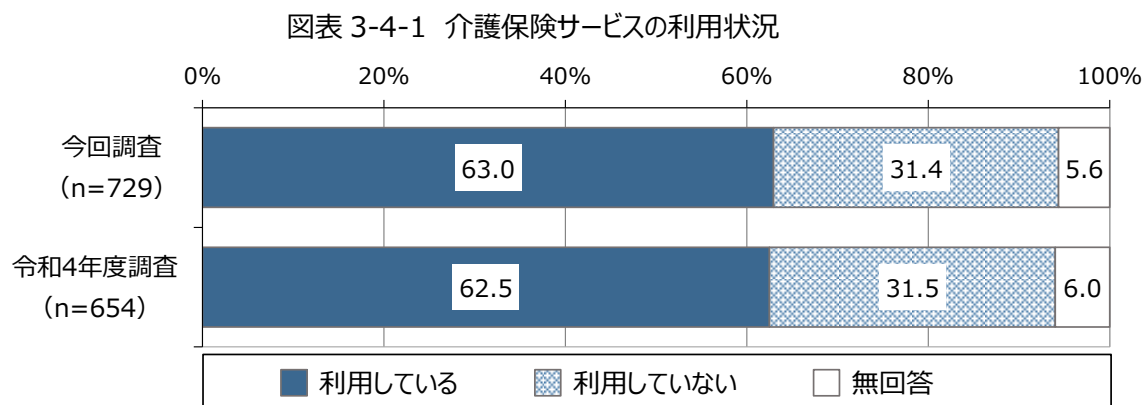
※網掛け■は最も割合が高いもの

4 サービスの利用状況について

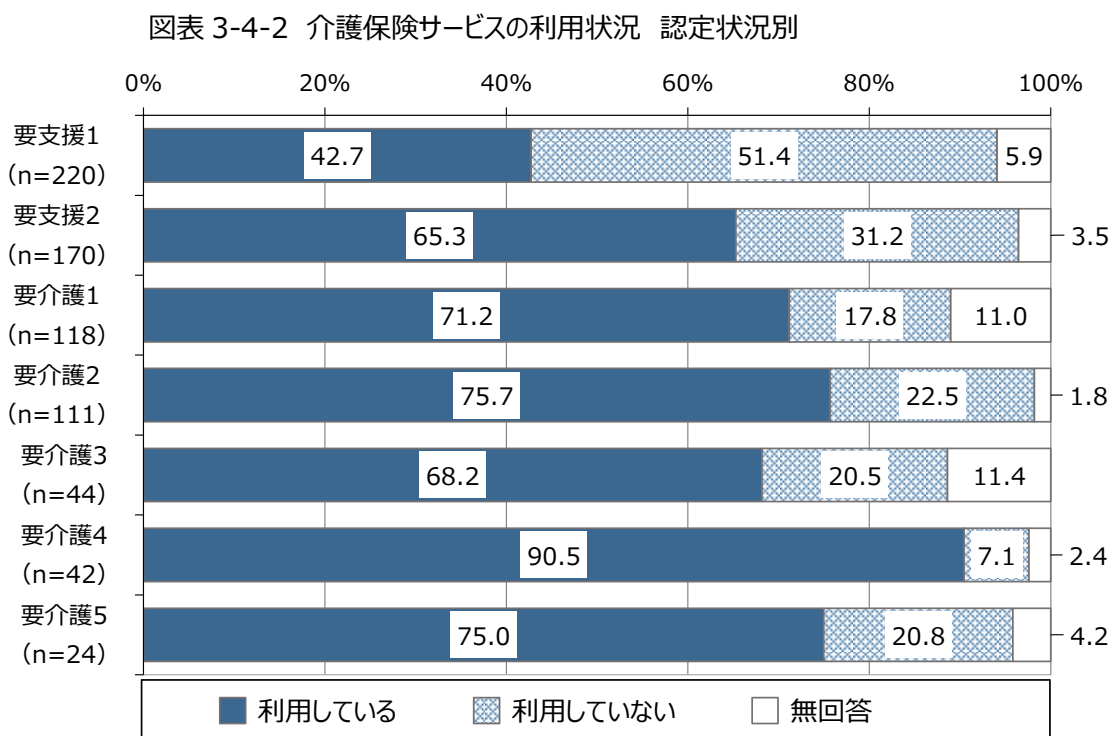
(1) 介護保険サービスの利用状況

A-問 9	令和7年12月1日現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか。（○はひとつ）
-------	--

介護保険サービスの利用状況については、「利用している」が63.0%、「利用していない」が31.4%です。令和4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。



認定状況別でみると、「利用している」では、要介護4が90.5%で最も高い状況です。



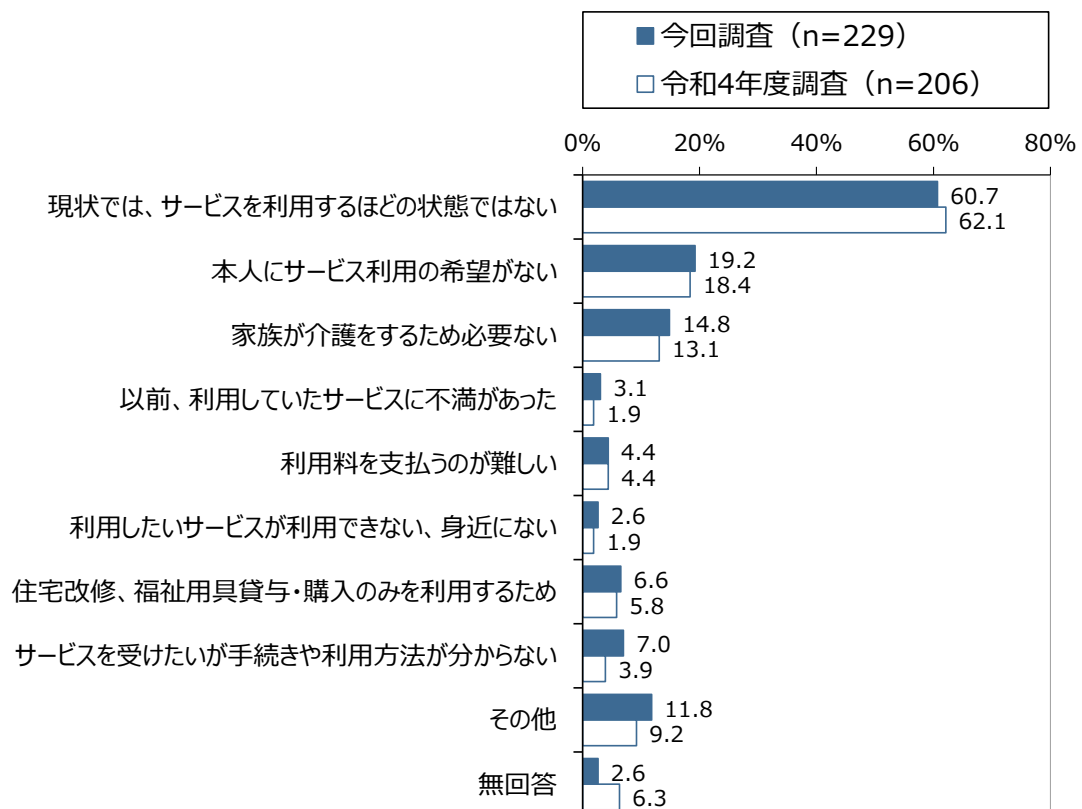
(2) 介護保険サービスを利用していない理由

A-問 10	A-問 9 で「2. 利用していない」と回答した方におうかがいします。 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。（○はいくつでも）
--------	--

介護保険サービスを利用していない理由については、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 60.7%で最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 19.2%、「家族が介護をするため必要ない」が 14.8%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」（7.0%）では、令和 4（2022）年度調査（3.9%）より 3.1 ポイント増加しています。

図表 3-4-3 介護保険サービスを利用していない理由



認定状況別でみると、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」では、要支援2が13.2%で最も高い状況です。

区域別でみると、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」では、堺区が6.1%で最も高い状況です。

図表 3-4-4 介護保険サービスを利用していない理由 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	現在の状態ではサービスは利用	本人にサービス利用の希望がない	家族が介護をするため必要ない	以前、利用していたサービスに不満があった	利用料を支払うのが難しい	利用したくない、身近にない	住宅の改修、福祉用具と購入のみを利用するため	サービスを受けたいが手続きが分からない	その他	無回答	
全体	229	60.7	19.2	14.8	3.1	4.4	2.6	6.6	7.0	11.8	2.6	
認定状況別	要支援1	113	68.1	18.6	8.8	5.3	5.3	1.8	3.5	7.1	12.4	0.0
	要支援2	53	62.3	17.0	13.2	1.9	5.7	3.8	7.5	13.2	7.5	5.7
	要介護1	21	61.9	14.3	14.3	0.0	0.0	4.8	9.5	0.0	9.5	4.8
	要介護2	25	44.0	36.0	40.0	0.0	4.0	4.0	16.0	4.0	4.0	4.0
	要介護3	9	44.4	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	22.2	11.1
	要介護4	3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
要介護5	5	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	
区域別	堺区	33	54.5	24.2	12.1	0.0	3.0	6.1	9.1	3.0	9.1	6.1
	中区	30	60.0	6.7	10.0	3.3	3.3	0.0	6.7	10.0	16.7	6.7
	東区	29	58.6	17.2	31.0	3.4	6.9	0.0	6.9	13.8	6.9	0.0
	西区	38	55.3	18.4	15.8	5.3	2.6	5.3	5.3	2.6	10.5	0.0
	南区	57	66.7	22.8	8.8	3.5	1.8	1.8	5.3	7.0	14.0	3.5
	北区	34	61.8	17.6	14.7	2.9	5.9	2.9	5.9	8.8	11.8	0.0
	美原区	8	75.0	37.5	25.0	0.0	25.0	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

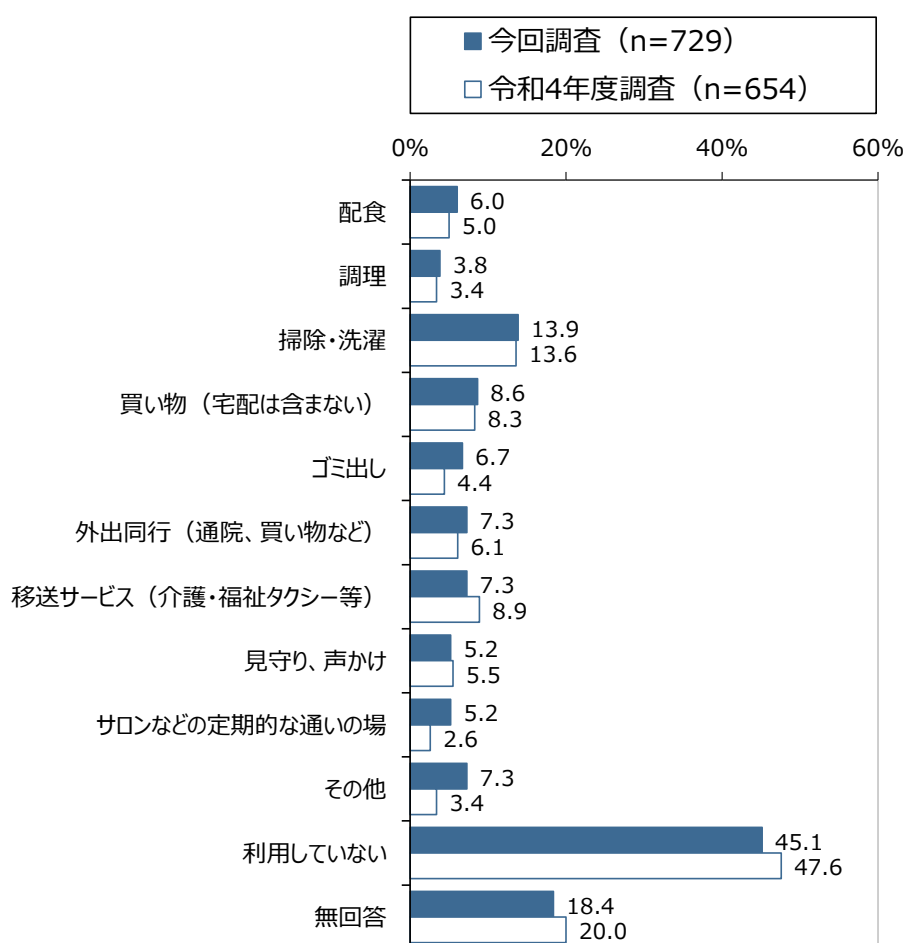
(3) 現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス

A-問 11	現在、あなた（ご本人）が利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、お教えください。（○はいくつでも）
--------	---

現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービスについては、「利用していない」が 45.1%で最も高く、次いで「掃除・洗濯」が 13.9%、「買い物（宅配は含まない）」が 8.6%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」、「利用していない」を除くすべての項目で令和 4（2022）年度調査より割合が増加しています。

図表 3-4-5 現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス



認定状況別でみると、「利用していない」では、要介護4、要介護5がいずれも50.0%で最も高い状況です。
 区域別でみると、「利用していない」では、美原区が64.5%で最も高い状況です。

世帯類型別でみると、単身世帯では、「利用していない」を除くと、「掃除・洗濯」が23.8%で最も高く、次いで「買い物（宅配は含まない）」が16.1%と続いています。

図表 3-4-6 現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス 属性別・世帯類型別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配食	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含 まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、 買い物など）	等護移 ・送サ 社一 タブ クス シ一 介	見守り、 声かけ	的サ な通 いの 場 の 定 期	その 他
全体		729	6.0	3.8	13.9	8.6	6.7	7.3	7.3	5.2	5.2	7.3
認定 状況 別	要支援1	220	1.4	1.4	10.5	6.4	4.1	3.2	2.7	2.7	6.4	8.2
	要支援2	170	5.3	2.4	12.9	10.0	3.5	8.2	5.9	4.1	4.1	7.6
	要介護1	118	11.9	9.3	23.7	12.7	12.7	10.2	10.2	5.9	6.8	4.2
	要介護2	111	9.9	1.8	12.6	10.8	8.1	9.9	8.1	11.7	2.7	9.0
	要介護3	44	9.1	4.5	13.6	4.5	11.4	15.9	4.5	0.0	6.8	6.8
	要介護4	42	2.4	7.1	11.9	2.4	4.8	0.0	21.4	9.5	7.1	7.1
	要介護5	24	8.3	12.5	12.5	8.3	12.5	8.3	20.8	4.2	0.0	4.2
区域 別	堺区	127	5.5	5.5	20.5	13.4	14.2	11.0	13.4	5.5	8.7	7.9
	中区	92	8.7	4.3	12.0	7.6	8.7	7.6	4.3	7.6	3.3	9.8
	東区	89	4.5	6.7	10.1	5.6	2.2	2.2	6.7	4.5	5.6	7.9
	西区	111	6.3	2.7	18.0	9.0	5.4	9.9	6.3	4.5	5.4	7.2
	南区	163	7.4	1.8	9.8	6.7	6.1	6.1	8.6	6.1	6.1	8.0
	北区	116	4.3	3.4	15.5	9.5	4.3	5.2	2.6	1.7	1.7	3.4
	美原区	31	3.2	3.2	3.2	6.5	0.0	9.7	6.5	9.7	3.2	6.5
世帯 類型 別	単身世帯	261	7.7	5.7	23.8	16.1	11.5	9.6	7.3	7.7	4.6	8.0
	夫婦のみ世帯	208	6.7	2.9	9.6	4.3	3.4	5.8	7.7	2.9	4.8	6.7
	その他	215	3.7	2.8	6.0	2.8	2.8	3.7	4.7	3.7	6.5	6.5
		合計	利用 してい ない	無 回 答								
全体		729	45.1	18.4								
認定 状況 別	要支援1	220	45.5	23.6								
	要支援2	170	43.5	19.4								
	要介護1	118	42.4	14.4								
	要介護2	111	47.7	17.1								
	要介護3	44	43.2	13.6								
	要介護4	42	50.0	7.1								
	要介護5	24	50.0	16.7								
区域 別	堺区	127	36.2	20.5								
	中区	92	48.9	16.3								
	東区	89	49.4	20.2								
	西区	111	40.5	18.0								
	南区	163	41.1	20.2								
	北区	116	53.4	17.2								
	美原区	31	64.5	6.5								
世帯 類型 別	単身世帯	261	35.6	14.9								
	夫婦のみ世帯	208	49.5	21.2								
	その他	215	54.9	18.6								

※網掛け■は最も割合が高いもの

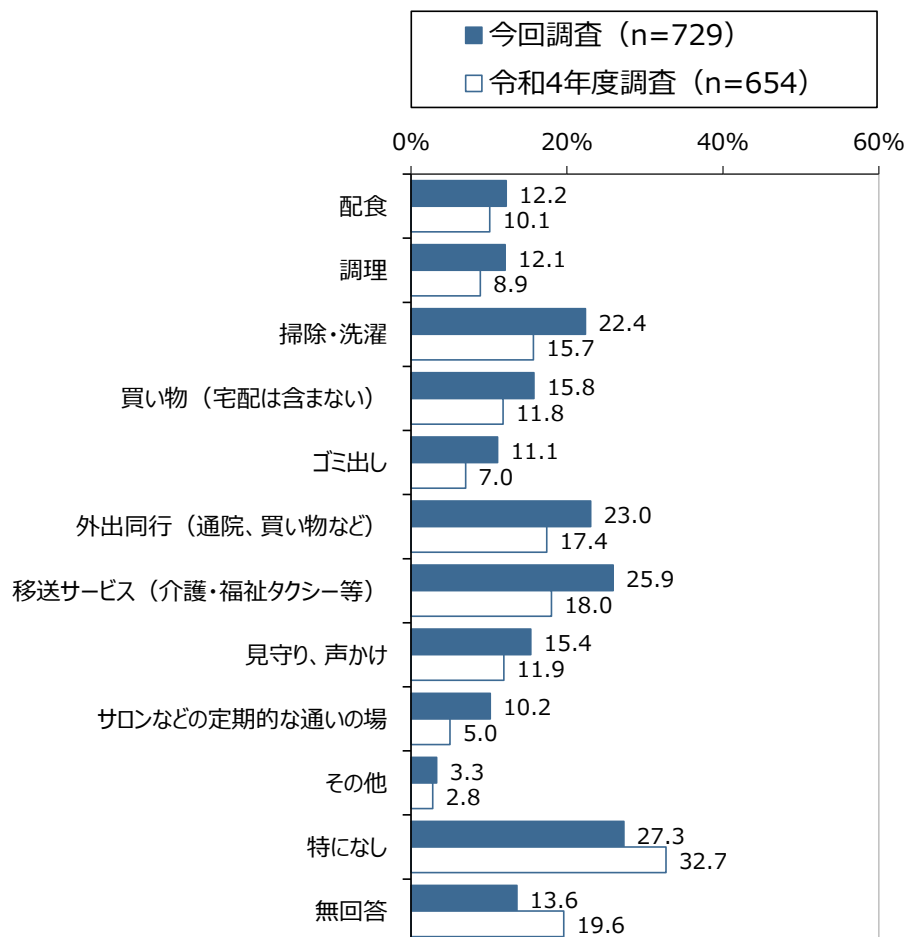
(4) 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

A-問 12	今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、お教えてください。（○はいくつでも）
--------	--

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについては、「特になし」が 27.3%で最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 25.9%、「外出同行（通院、買い物など）」が 23.0%、「掃除・洗濯」が 22.4%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「特になし」を除くすべての項目で令和 4（2022）年度調査より割合が増加しており、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（25.9%）は、令和 4（2022）年度調査（18.0%）より 7.9 ポイント、「外出同行（通院、買い物など）」（23.0%）は、令和 4（2022）年度調査（17.4%）より 5.6 ポイント、「掃除・洗濯」（22.4%）は、令和 4（2022）年度調査（15.7%）より 6.7 ポイント増加しています。

図表 3-4-7 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



認定状況別でみると、「特になし」では、要介護5が41.7%で最も高い状況です。

区域別でみると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」では、堺区が35.4%で最も高い状況です。

世帯類型別でみると、単身世帯では、「掃除・洗濯」が33.7%で最も高い状況です。

図表 3-4-8 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス 属性別・世帯類型別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	配食	調理	掃除・洗濯	買ない物（宅配は含）	ゴミ出し	買外出同行（通院、）	等護移（）	見守り、声かけ	的サロンの定期	その他
全体		729	12.2	12.1	22.4	15.8	11.1	23.0	25.9	15.4	10.2	3.3
認定状況別	要支援1	220	7.7	7.7	20.5	14.1	10.5	15.5	21.8	11.4	8.6	2.3
	要支援2	170	13.5	13.5	31.2	22.4	15.9	28.8	29.4	19.4	11.2	2.9
	要介護1	118	12.7	13.6	18.6	19.5	9.3	27.1	28.0	14.4	16.1	2.5
	要介護2	111	15.3	17.1	24.3	14.4	10.8	30.6	27.0	20.7	9.0	2.7
	要介護3	44	15.9	6.8	9.1	2.3	4.5	20.5	22.7	6.8	9.1	11.4
	要介護4	42	21.4	21.4	23.8	11.9	9.5	19.0	33.3	19.0	7.1	4.8
	要介護5	24	4.2	4.2	8.3	4.2	8.3	8.3	16.7	12.5	0.0	4.2
区域別	堺区	127	11.8	15.0	26.8	18.9	10.2	29.1	35.4	19.7	12.6	3.1
	中区	92	8.7	13.0	17.4	12.0	4.3	20.7	17.4	16.3	6.5	2.2
	東区	89	6.7	14.6	20.2	21.3	9.0	27.0	25.8	15.7	4.5	5.6
	西区	111	11.7	7.2	19.8	11.7	9.9	15.3	26.1	10.8	7.2	0.9
	南区	163	17.2	10.4	24.5	16.6	15.3	22.1	25.2	13.5	11.7	2.5
	北区	116	12.9	12.9	21.6	16.4	13.8	21.6	22.4	14.7	13.8	3.4
	美原区	31	12.9	12.9	25.8	6.5	12.9	32.3	29.0	22.6	16.1	12.9
世帯類型別	単身世帯	261	14.2	15.3	33.7	25.3	19.5	26.4	22.6	22.6	10.0	3.8
	夫婦のみ世帯	208	14.4	13.0	17.3	13.9	8.7	19.2	27.9	9.6	11.1	2.4
	その他	215	7.0	5.6	14.0	7.0	4.2	21.9	26.5	12.6	9.8	2.8
		合計	特になし	無回答								
全体		729	27.3	13.6								
認定状況別	要支援1	220	27.7	15.0								
	要支援2	170	20.0	12.4								
	要介護1	118	28.8	13.6								
	要介護2	111	27.9	12.6								
	要介護3	44	27.3	18.2								
	要介護4	42	40.5	4.8								
	要介護5	24	41.7	20.8								
区域別	堺区	127	19.7	15.0								
	中区	92	30.4	15.2								
	東区	89	24.7	12.4								
	西区	111	35.1	12.6								
	南区	163	25.8	14.1								
	北区	116	31.0	14.7								
	美原区	31	22.6	3.2								
世帯類型別	単身世帯	261	21.1	11.9								
	夫婦のみ世帯	208	28.8	15.9								
	その他	215	36.3	11.6								

※網掛け■は最も割合が高いもの

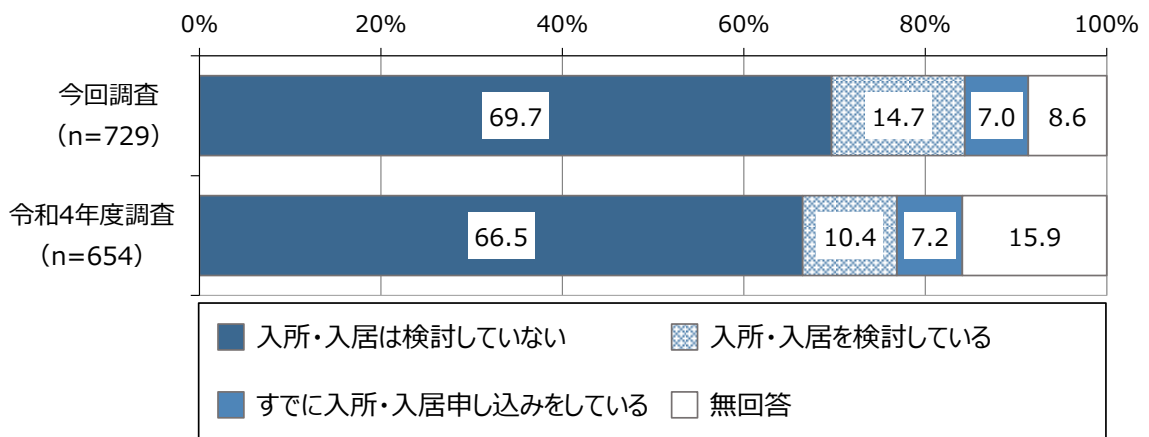
(5) 施設等への入所・入居の検討状況

A-問 13	現時点での、あなた（ご本人）の施設等への入所・入居の検討状況について、お教えてください（○はひとつ）
--------	--

施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居は検討していない」が 69.7%で最も高く、次いで「入所・入居を検討している」が 14.7%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 7.0%です。

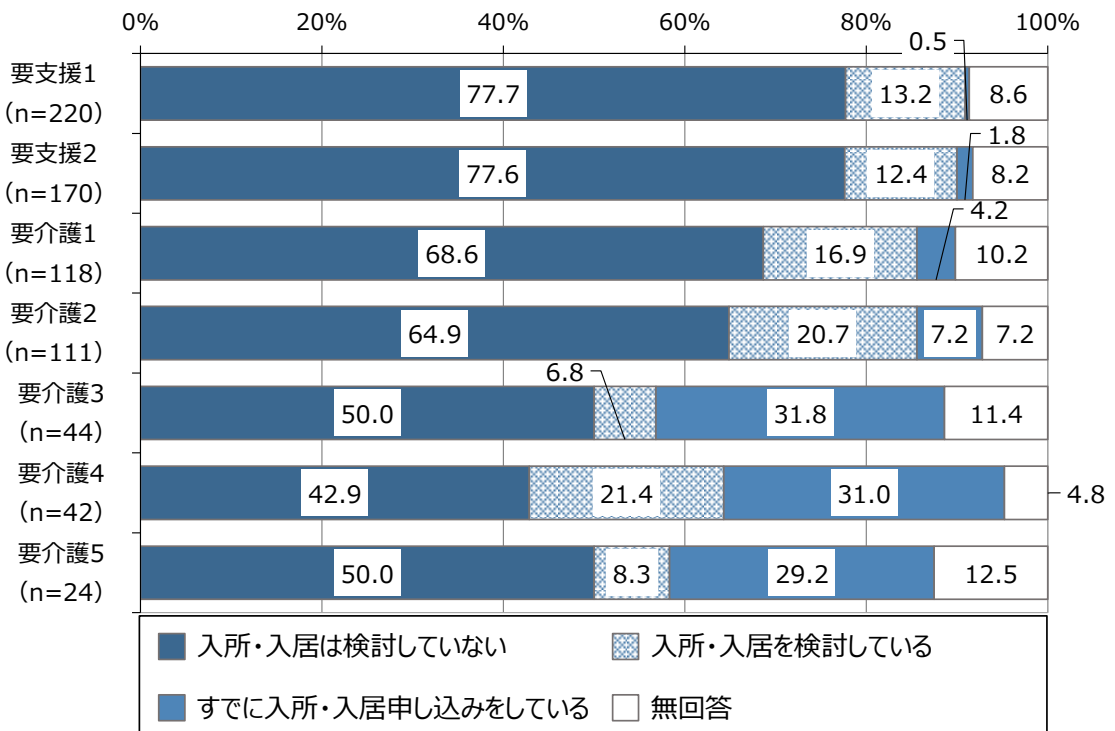
令和 4（2022）年度調査と比較すると、「入所・入居を検討している」（14.7%）では、令和 4（2022）年度調査（10.4%）より 4.3 ポイント増加しています。

図表 3-4-9 施設等への入所・入居の検討状況



認定状況別でみると、「すでに入所・入居申し込みをしている」では、要介護 3 が 31.8%で最も高い状況です。

図表 3-4-10 施設等への入所・入居の検討状況 認定状況別

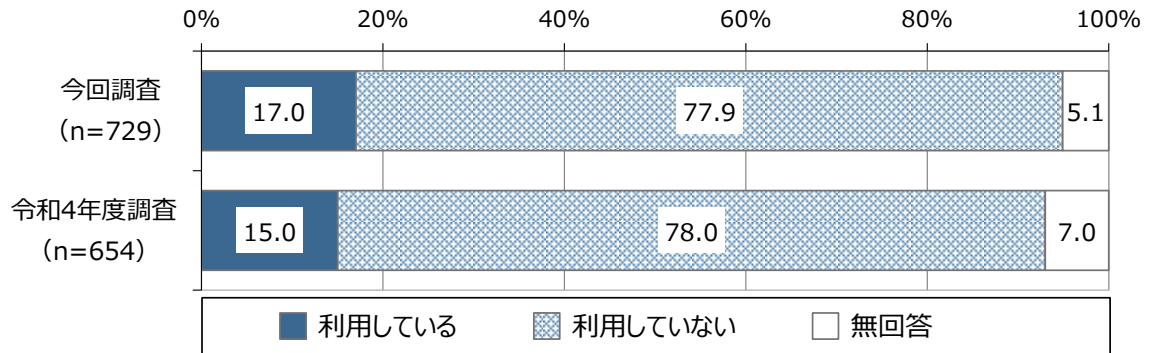


(6) 訪問診療の利用状況

A-問 14 あなた（ご本人）は、現在、訪問診療を利用していますか。（○はひとつ）

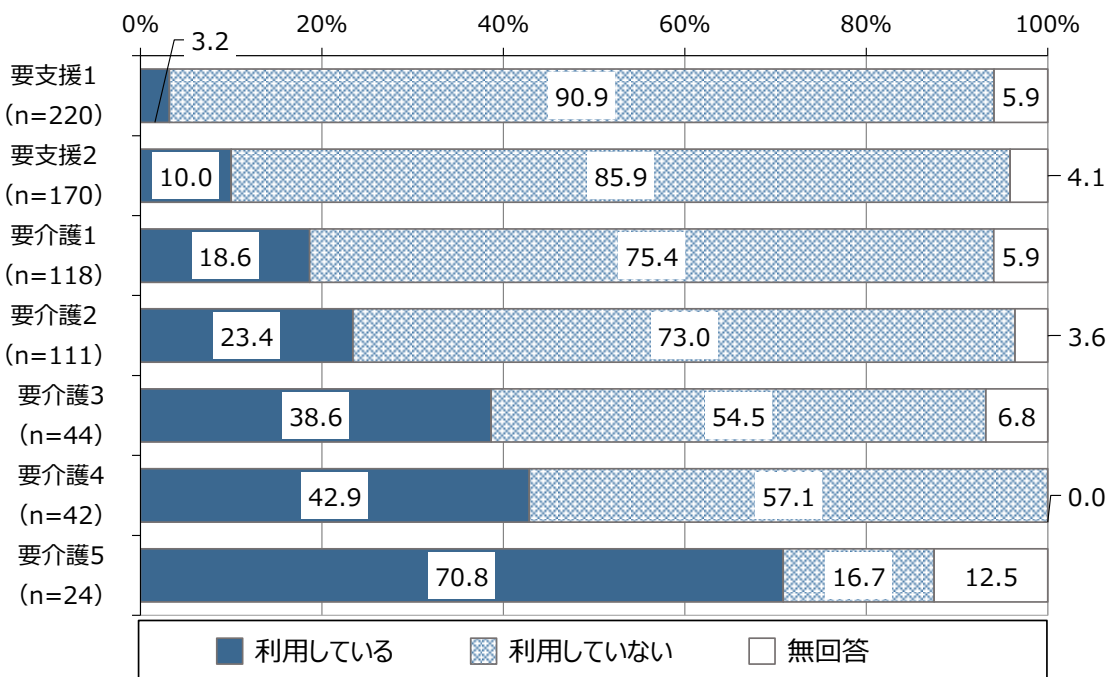
訪問診療の利用状況については、「利用している」が 17.0%、「利用していない」が 77.9%です。
 令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-4-11 訪問診療の利用状況



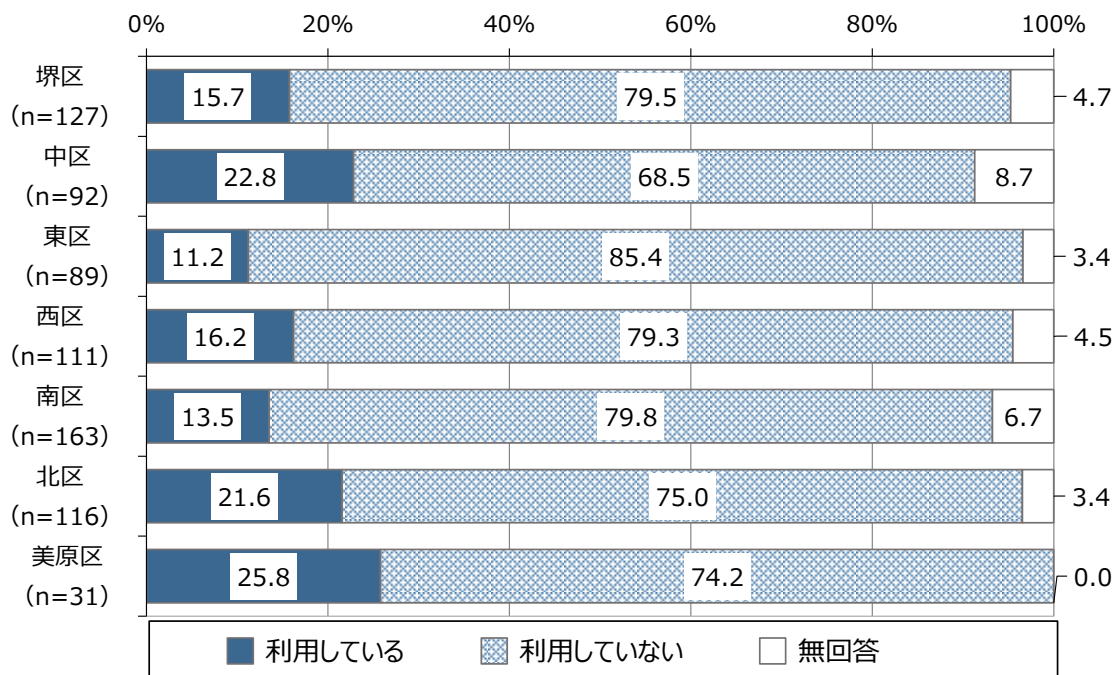
認定状況別でみると、「利用している」では、要介護度が上がるにつれて割合が増加しており、要介護 5 が 70.8%で最も高い状況です。

図表 3-4-12 訪問診療の利用状況 認定状況別



区域別でみると、「利用している」では、美原区が25.8%で最も高い状況です。

図表 3-4-13 訪問診療の利用状況 区域別



5 住み慣れた地域で暮らし続けることについて

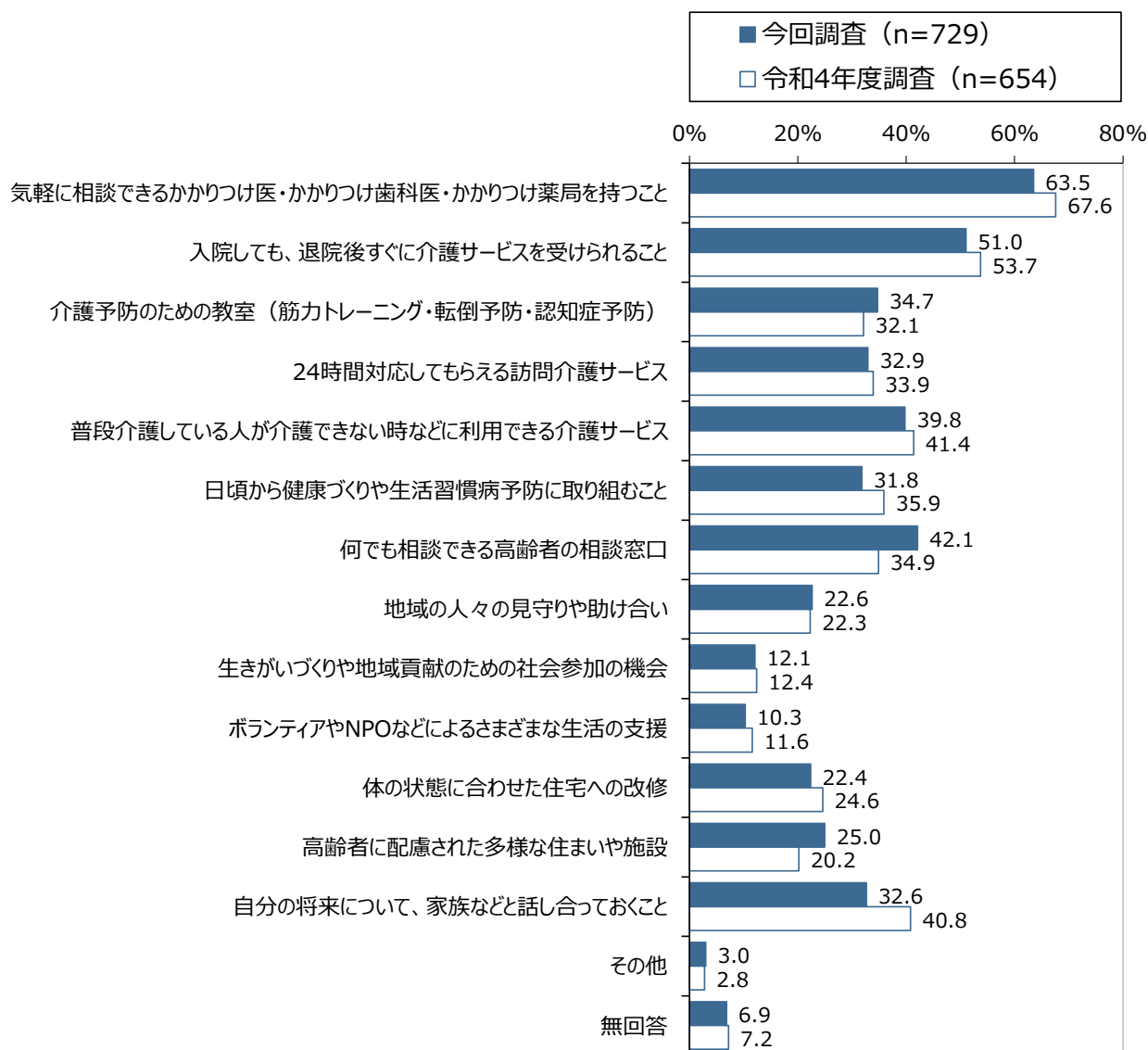
(1) 自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために必要だと思うこと

A-問 15	高齢者ができる限り自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)
--------	---

自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために必要だと思うことについては、「気軽に相談できるかかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局を持つこと」が 63.5%で最も高く、次いで「入院しても、退院後すぐに介護サービスを受けられること」が 51.0%、「何でも相談できる高齢者の相談窓口」が 42.1%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「何でも相談できる高齢者の相談窓口」（42.1%）では、令和 4（2022）年度調査（34.9%）より 7.2 ポイント増加しています。

図表 3-5-1 自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために必要だと思うこと



※ 今回調査の「気軽に相談できるかかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局を持つこと」は、令和 4（2022）年度調査では「気軽に相談できるかかりつけ医を持つこと」

認定状況別でみると、要支援1～要介護2では「気軽に相談できるかかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局を持つこと」の割合が最も高く、要介護3では「気軽に相談できるかかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局を持つこと」と「入院しても、退院後すぐに介護サービスを受けられること」が同率で最も高く、要介護4では「24時間対応してもらえる訪問介護サービス」の割合が最も高く、要介護5では「普段介護している人が介護できない時などに利用できる介護サービス」の割合が最も高い状況です。

区域別でみると、「何でも相談できる高齢者の相談窓口」では、堺区が52.0%で最も高い状況です。

図表 3-5-2 自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために必要だと思うこと 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	かけ気こ介入防カ介訪2るで普習日相何合地の生の援に	か医軽と護院・ト護問4介き段慣頃相何い域のたきがの生	か医軽と護院・ト護問4介き段慣頃相何い域のたきがの生	か医軽と護院・ト護問4介き段慣頃相何い域のたきがの生	か医軽と護院・ト護問4介き段慣頃相何い域のたきがの生	か医軽と護院・ト護問4介き段慣頃相何い域のたきがの生	か医軽と護院・ト護問4介き段慣頃相何い域のたきがの生	か医軽と護院・ト護問4介き段慣頃相何い域のたきがの生	か医軽と護院・ト護問4介き段慣頃相何い域のたきがの生	か医軽と護院・ト護問4介き段慣頃相何い域のたきがの生	
		かけ気こ介入防カ介訪2るで普習日相何合地の生の援に	か医軽と護院・ト護問4介き段慣頃相何い域のたきがの生	か医軽と護院・ト護問4介き段慣頃相何い域のたきがの生	か医軽と護院・ト護問4介き段慣頃相何い域のたきがの生	か医軽と護院・ト護問4介き段慣頃相何い域のたきがの生	か医軽と護院・ト護問4介き段慣頃相何い域のたきがの生	か医軽と護院・ト護問4介き段慣頃相何い域のたきがの生	か医軽と護院・ト護問4介き段慣頃相何い域のたきがの生	か医軽と護院・ト護問4介き段慣頃相何い域のたきがの生	か医軽と護院・ト護問4介き段慣頃相何い域のたきがの生	か医軽と護院・ト護問4介き段慣頃相何い域のたきがの生
全体	729	63.5	51.0	34.7	32.9	39.8	31.8	42.1	22.6	12.1	10.3	
認定状況別	要支援1	220	67.3	45.5	37.7	25.5	28.2	34.5	39.1	25.0	12.7	10.0
	要支援2	170	62.4	54.7	34.7	26.5	37.1	32.9	47.6	24.7	14.7	10.6
	要介護1	118	61.0	48.3	36.4	31.4	44.1	34.7	40.7	18.6	11.9	11.0
	要介護2	111	67.6	54.1	33.3	43.2	55.0	26.1	41.4	21.6	8.1	13.5
	要介護3	44	65.9	65.9	34.1	47.7	43.2	29.5	43.2	29.5	9.1	2.3
	要介護4	42	52.4	50.0	31.0	54.8	47.6	33.3	38.1	16.7	14.3	7.1
要介護5	24	45.8	50.0	12.5	41.7	54.2	12.5	45.8	8.3	8.3	12.5	
区域別	堺区	127	73.2	56.7	40.9	39.4	44.1	36.2	52.0	29.9	18.9	8.7
	中区	92	60.9	47.8	23.9	28.3	35.9	25.0	27.2	17.4	8.7	7.6
	東区	89	65.2	50.6	46.1	40.4	49.4	32.6	51.7	29.2	12.4	13.5
	西区	111	63.1	46.8	31.5	34.2	31.5	35.1	35.1	14.4	9.0	11.7
	南区	163	61.3	54.6	33.7	28.2	37.4	31.9	42.3	21.5	12.9	12.3
	北区	116	60.3	50.0	32.8	30.2	40.5	29.3	43.1	24.1	9.5	8.6
	美原区	31	51.6	38.7	32.3	29.0	45.2	29.0	38.7	19.4	9.7	6.5
	合計		の体改修の状況に合わせた住宅へ	住高ま年齢者に施設された多様な	な自などの話将来についておく、ご家族	その他	無回答					
全体	729	22.4	25.0	32.6	3.0	6.9						
認定状況別	要支援1	220	15.5	19.5	33.6	2.7	7.7					
	要支援2	170	20.6	27.1	35.9	2.4	5.3					
	要介護1	118	22.9	32.2	32.2	3.4	8.5					
	要介護2	111	35.1	24.3	34.2	3.6	8.1					
	要介護3	44	29.5	25.0	27.3	2.3	4.5					
	要介護4	42	28.6	28.6	26.2	4.8	2.4					
要介護5	24	12.5	20.8	16.7	4.2	8.3						
区域別	堺区	127	28.3	34.6	31.5	4.7	3.9					
	中区	92	20.7	26.1	25.0	2.2	5.4					
	東区	89	21.3	25.8	36.0	3.4	4.5					
	西区	111	20.7	21.6	38.7	0.9	9.9					
	南区	163	19.6	22.1	31.3	3.1	8.0					
	北区	116	24.1	21.6	32.8	3.4	9.5					
	美原区	31	19.4	19.4	35.5	3.2	3.2					

※網掛け■は最も割合が高いもの

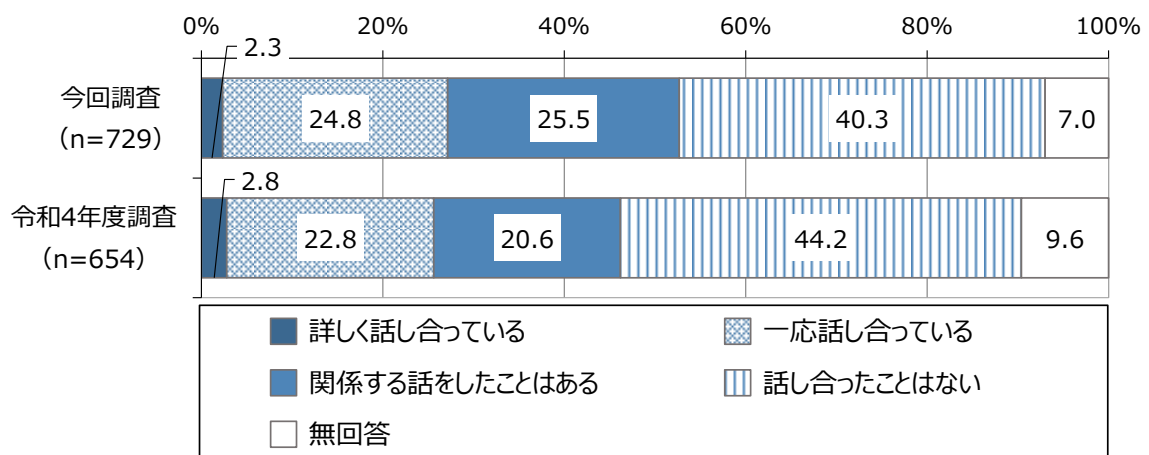
(2) 災害発生時に避難できるよう普段から話し合っているか

A-問 16	災害発生時に、誰かの助けを借りたりしながら避難できるよう、普段から話し合っていますか。 (○はひとつ)
--------	--

災害発生時に避難できるよう普段から話し合っているかについては、「話し合ったことはない」が 40.3%で最も高く、次いで「関係する話をしたことはある」が 25.5%、「一応話し合っている」が 24.8%と続いています。

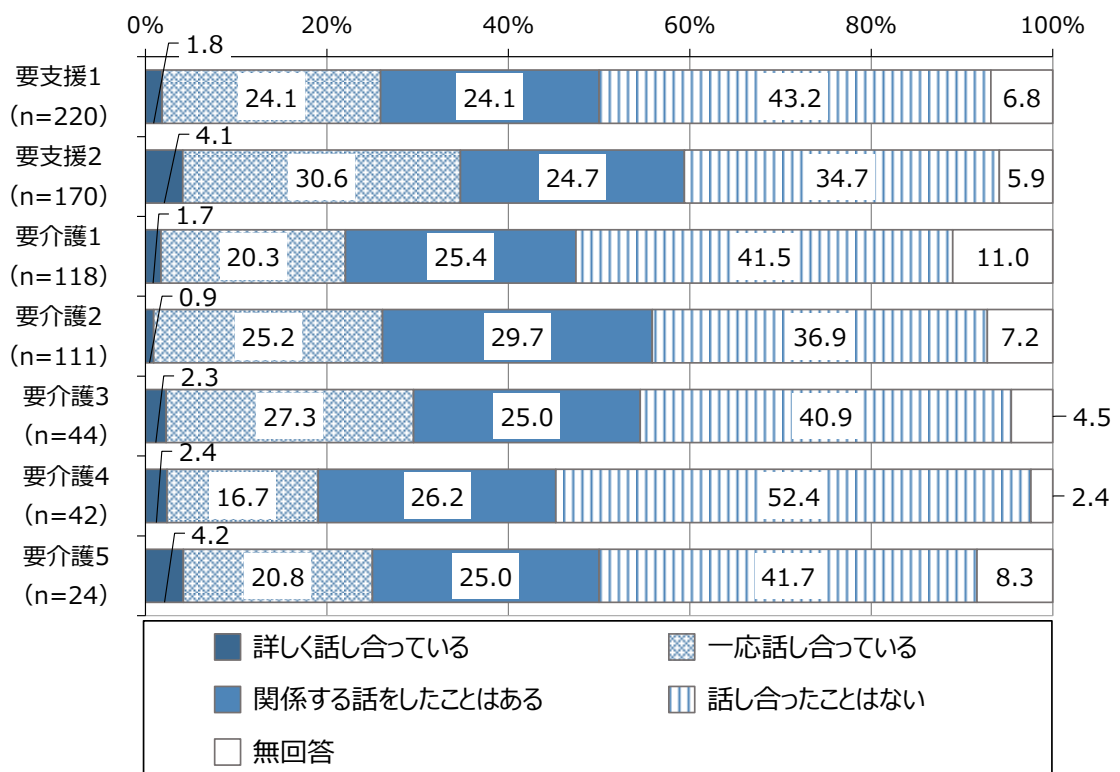
令和 4（2022）年度調査と比較すると、「話し合ったことはない」（40.3%）では、令和 4（2022）年度調査（44.2%）より 3.9 ポイント減少しています。

図表 3-5-3 災害発生時に避難できるよう普段から話し合っているか



認定状況別でみると、「詳しく話し合っている」では、要介護 5 が 4.2%で最も高い状況です。

図表 3-5-4 災害発生時に避難できるよう普段から話し合っているか 認定状況別



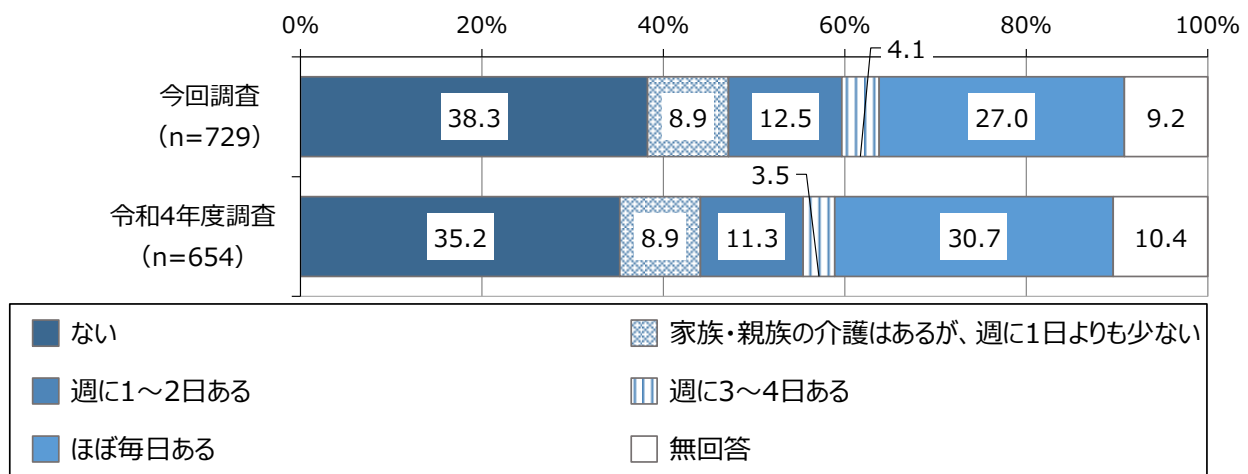
(3) 家族や親族からの介護は週にどのくらいあるか

A-問 17	ご家族やご親族の方からあなた（ご本人）への介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）。（○はひとつ）
--------	---

家族や親族からの介護は週にどのくらいあるかについては、「ない」が 38.3%で最も高く、次いで「ほぼ毎日ある」が 27.0%、「週に 1～2 日ある」が 12.5%と続いています。

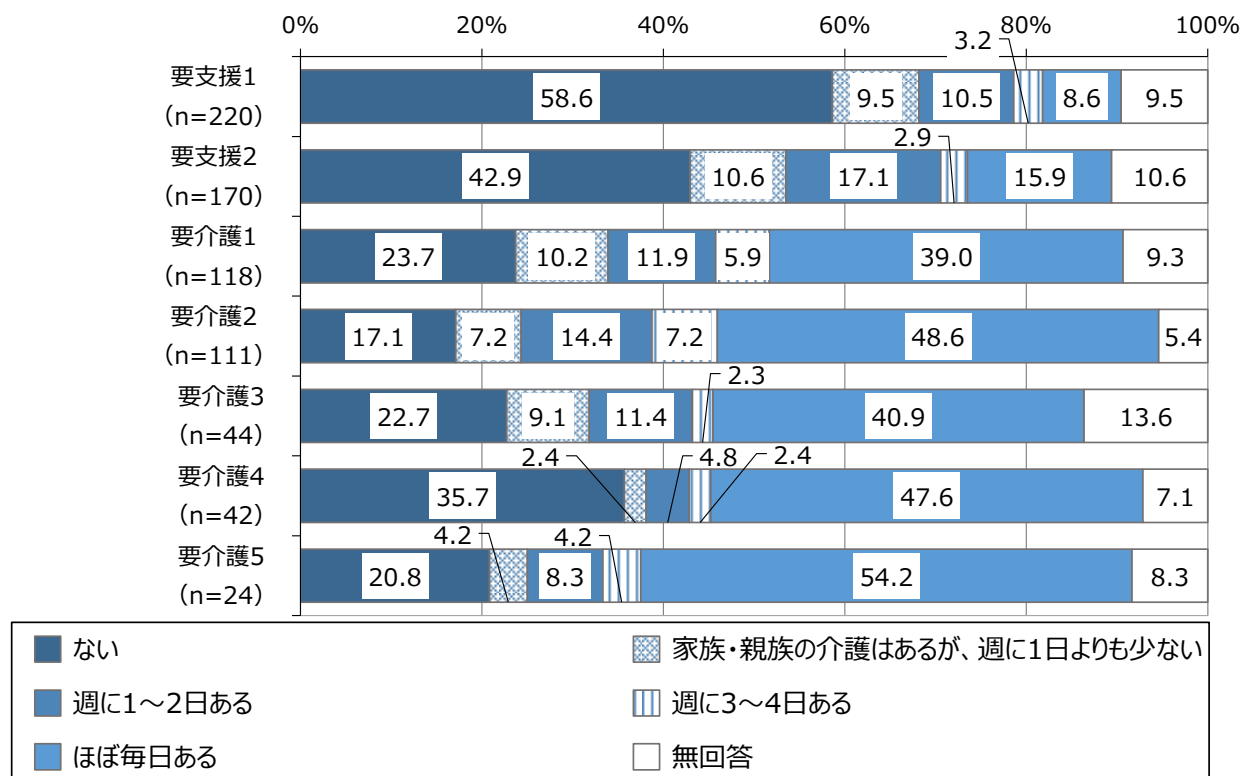
令和 4（2022）年度調査と比較すると、「ない」（38.3%）では、令和 4（2022）年度調査（35.2%）より 3.1 ポイント増加しています。

図表 3-5-5 家族や親族からの介護は週にどのくらいあるか



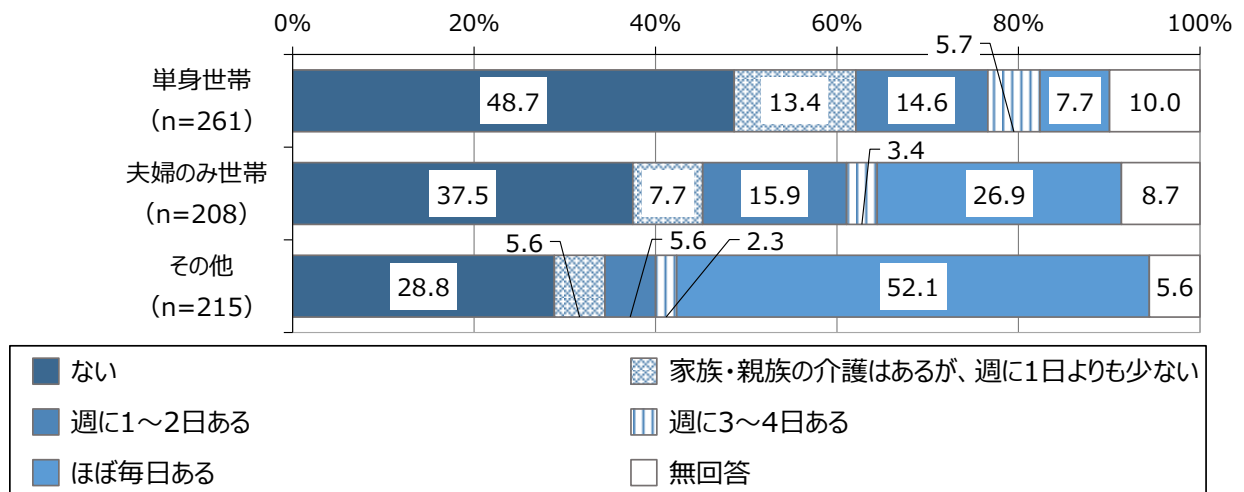
認定状況別でみると、「ほぼ毎日ある」では、要介護 5 が 54.2%で最も高い状況です。

図表 3-5-6 家族や親族からの介護は週にどのくらいあるか 認定状況別



世帯類型別でみると、単身世帯では、「ない」が48.7%で最も高い状況です。

図表 3-5-7 家族や親族からの介護は週にどのくらいあるか 世帯類型別



6 主な介護者の方について

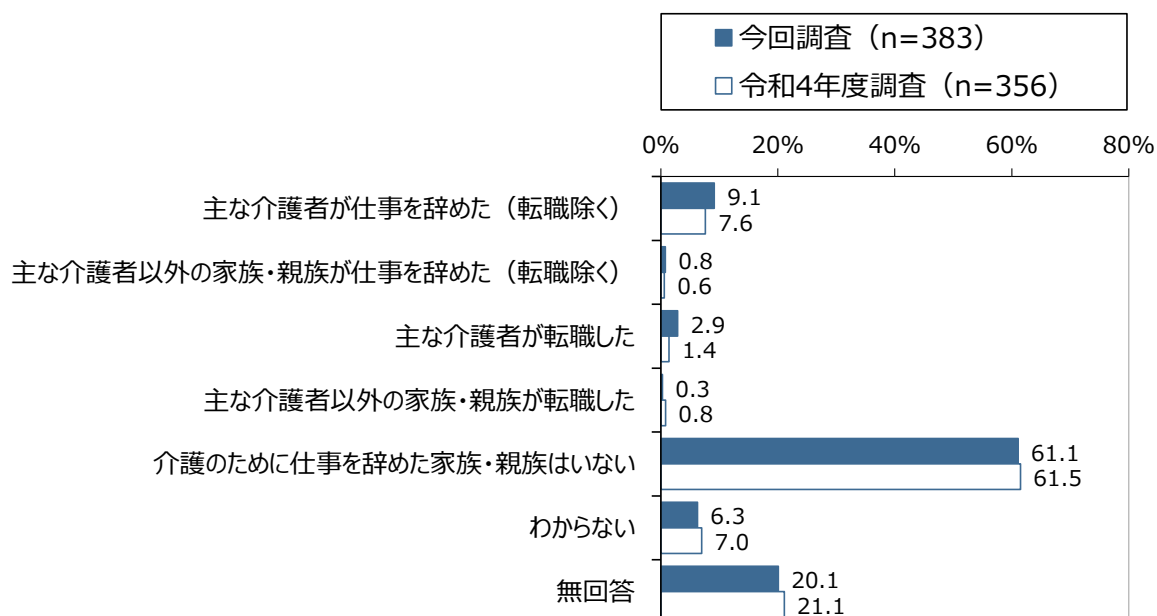
(1) 家族や親族で介護を主な理由として、過去 1 年の間に仕事を辞めた人はいるか

B-問 1	ご家族やご親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去 1 年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）。 （○はいくつでも）
-------	---

家族や親族で介護を主な理由として、過去 1 年の間に仕事を辞めた人はいるかについては、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 61.1%で最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が 9.1%、「わからない」が 6.3%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、大きな差はみられません。

図表 3-6-1 家族や親族で介護を主な理由として、過去 1 年の間に仕事を辞めた人はいるか



認定状況別でみると、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」では、要介護 5 が 23.5%で最も高い状況です。

図表 3-6-2 家族や親族で介護を主な理由として、過去 1 年の間に仕事を辞めた人はいるか 認定状況別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	た 主 な 介 護 者 が 仕 事 を 辞 め た （ 転 職 除 く ）	職 除 く ）	親 族 が 仕 事 を 辞 め た （ 転 ・	主 な 介 護 者 以 外 の 家 族 ・	主 な 介 護 者 が 転 職 し た	親 族 が 介 護 者 以 外 の 家 族 ・	主 な 介 護 者 が 転 職 し た	た 介 護 の た め に 親 族 に 仕 事 を 辞 め た	わ か ら な い	無 回 答
全体	383	9.1	0.8	2.9	0.3	61.1	6.3	20.1			
認 定 状 況 別	要支援1	70	2.9	0.0	1.4	0.0	65.7	10.0	20.0		
	要支援2	79	6.3	1.3	0.0	0.0	64.6	6.3	22.8		
	要介護1	79	10.1	1.3	3.8	0.0	57.0	5.1	22.8		
	要介護2	86	10.5	0.0	8.1	1.2	54.7	5.8	20.9		
	要介護3	28	14.3	3.6	0.0	0.0	71.4	3.6	7.1		
	要介護4	24	12.5	0.0	0.0	0.0	70.8	0.0	16.7		
	要介護5	17	23.5	0.0	0.0	0.0	47.1	11.8	17.6		

※網掛け ■ は最も割合が高いもの

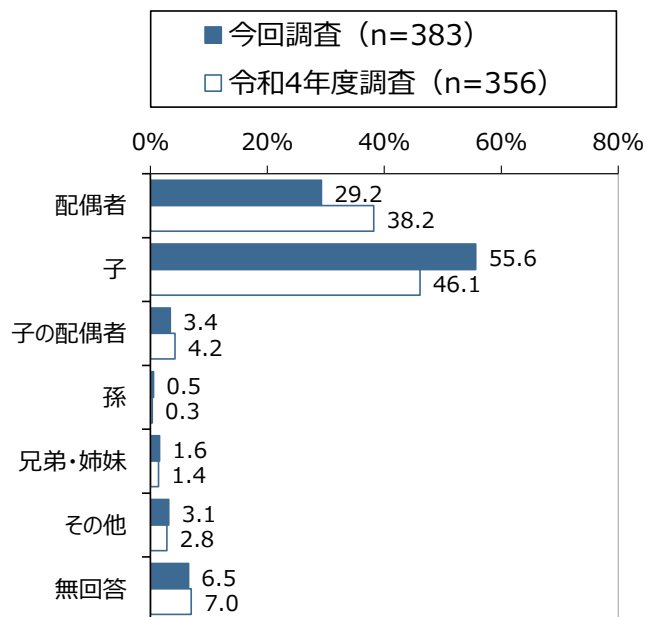
(2) 主な介護者は誰か

B-問 2 主な介護者の方は、どなたですか。(○はひとつ)

主な介護者は誰かについては、「子」が 55.6%で最も高く、次いで「配偶者」が 29.2%、「子の配偶者」が 3.4%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「子」（55.6%）では、令和4（2022）年度調査（46.1%）より9.5ポイント増加しています。

図表 3-6-3 主な介護者は誰か



調査対象者の年齢階級別でみると、79歳以下では「配偶者」の割合が最も高く、80歳以上では「子」の割合が最も高い状況です。

図表 3-6-4 主な介護者は誰か 調査対象者の年齢階級別

単位：実数（人）、構成比（%）

年齢階級別	年齢	合計	配偶者	子	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	その他	無回答
			構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
全体		383	29.2	55.6	3.4	0.5	1.6	3.1	6.5
年齢階級別	65～69歳	8	87.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
	70～74歳	17	88.2	5.9	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0
	75～79歳	57	52.6	36.8	1.8	1.8	1.8	3.5	1.8
	80～84歳	125	31.2	52.0	1.6	0.8	2.4	3.2	8.8
	85～89歳	106	17.9	66.0	2.8	0.0	0.9	3.8	8.5
	90歳以上	70	2.9	80.0	10.0	0.0	0.0	2.9	4.3

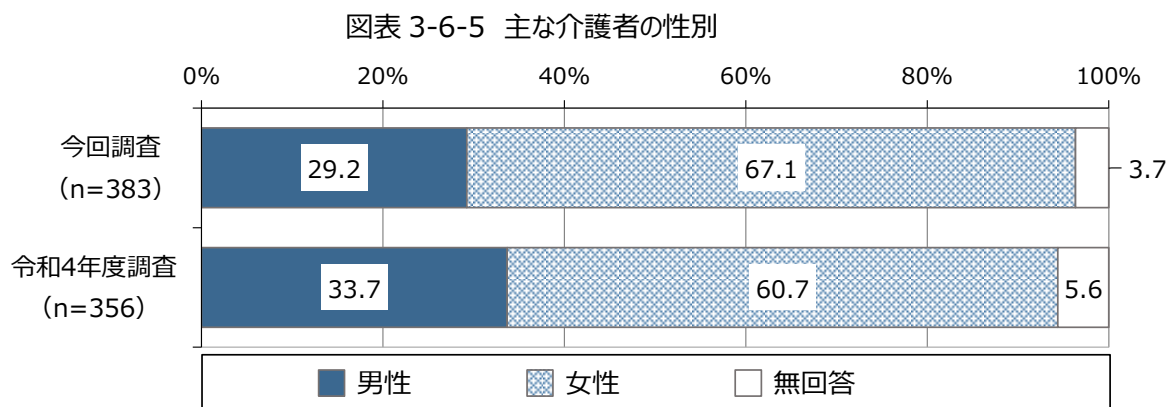
※網掛け ■ は最も割合が高いもの

(3) 主な介護者の性別

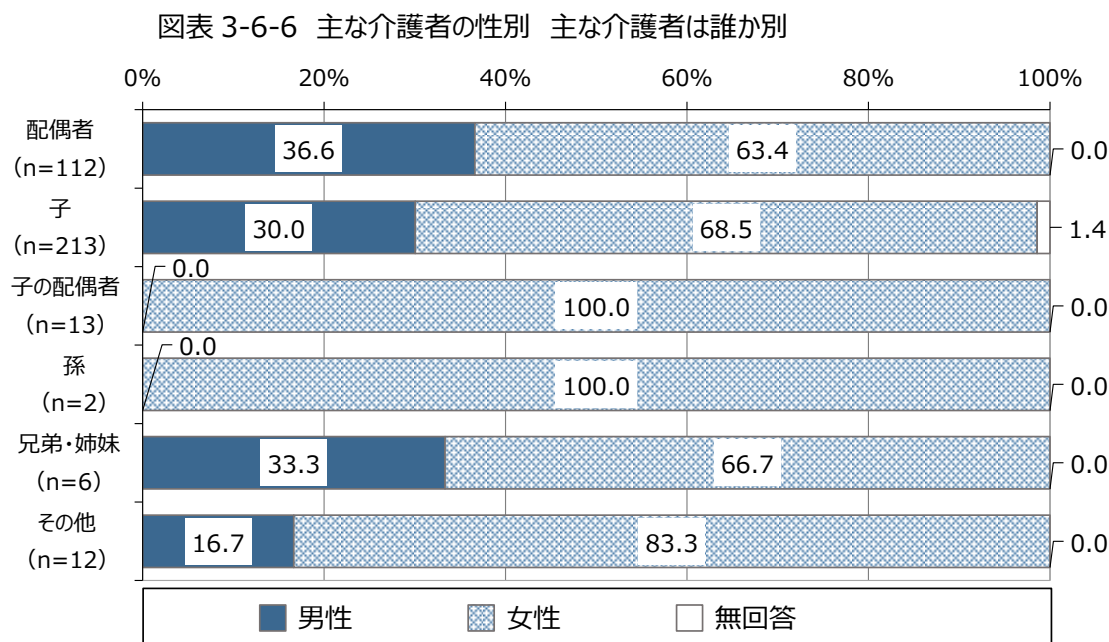
B-問 3 主な介護者の方の性別について、お教えてください。(○はひとつ)

主な介護者の性別については、「男性」が 29.2%、「女性」が 67.1%です。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「女性」（67.1%）では、令和4（2022）年度調査（60.7%）より 6.4 ポイント増加しています。



主な介護者は誰か別でみると、すべての項目で「女性」が最も高い割合を占めています。



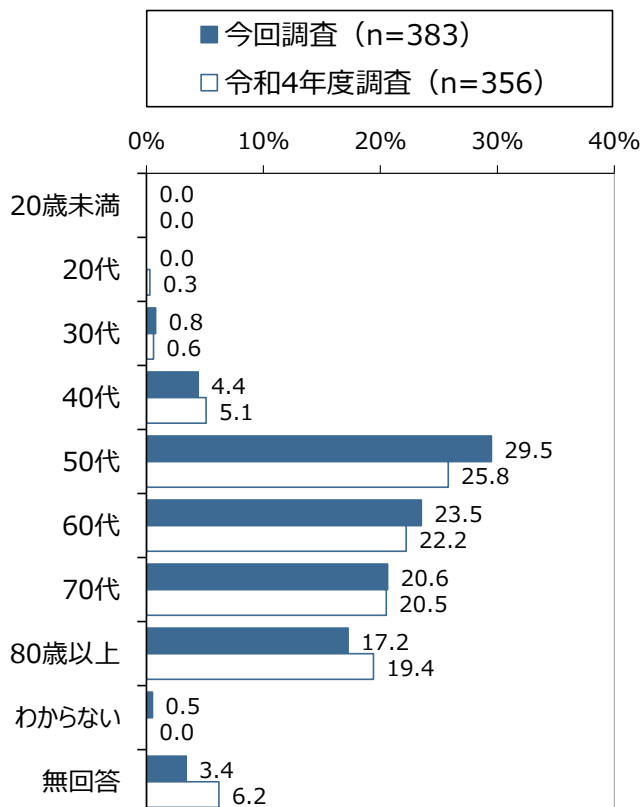
(4) 主な介護者の年齢

B-問 4 主な介護者の方の年齢について、お教えてください。(○はひとつ)

主な介護者の年齢については、「50代」が29.5%で最も高く、次いで「60代」が23.5%、「70代」が20.6%と続いています。

令和4(2022)年度調査と比較すると、「50代」(29.5%)では、令和4(2022)年度調査(25.8%)より3.7ポイント増加しています。

図表 3-6-7 主な介護者の年齢



調査対象者の年齢階級別で見ると、65～69歳では「60代」の割合が最も高く、70～79歳では「70代」の割合が最も高く、80～89歳では「50代」の割合が最も高く、90歳以上では「60代」の割合が最も高い状況です。

図表 3-6-8 主な介護者の年齢 調査対象者の年齢階級別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	わからない	無回答
全体		383	0.0	0.0	0.8	4.4	29.5	23.5	20.6	17.2	0.5	3.4
年齢階級別	65～69歳	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	62.5	25.0	0.0	0.0	12.5
	70～74歳	17	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	17.6	70.6	5.9	0.0	0.0
	75～79歳	57	0.0	0.0	1.8	21.1	19.3	0.0	38.6	17.5	0.0	1.8
	80～84歳	125	0.0	0.0	1.6	3.2	43.2	9.6	16.0	21.6	0.8	4.0
	85～89歳	106	0.0	0.0	0.0	0.9	34.0	31.1	2.8	24.5	0.9	5.7
	90歳以上	70	0.0	0.0	0.0	0.0	15.7	52.9	28.6	2.9	0.0	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

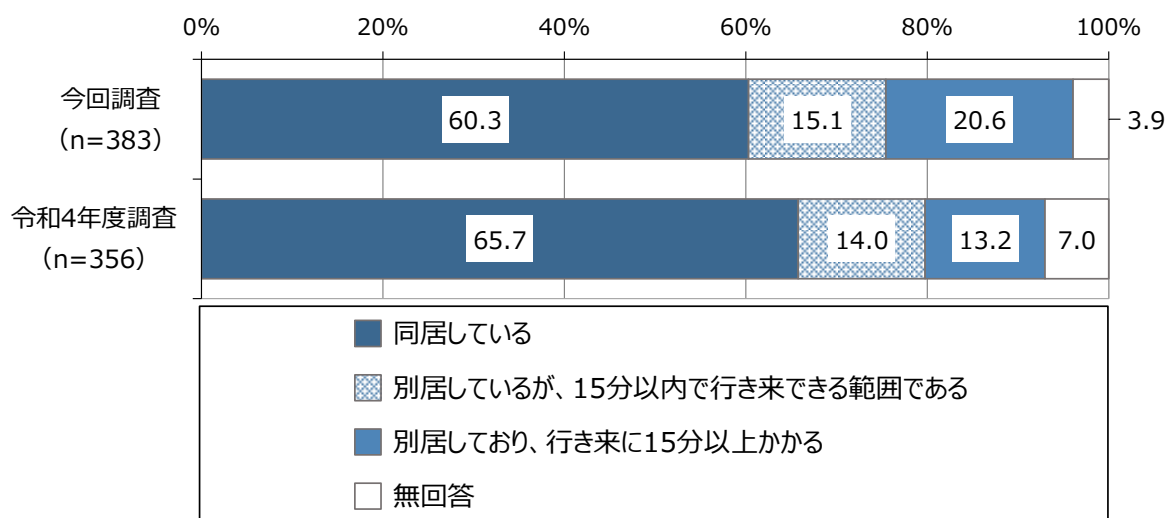
(5) 調査対象者との同居状況

B-問5 主な介護者の方と要介護者との同居状況について、お教えてください。（○はひとつ）

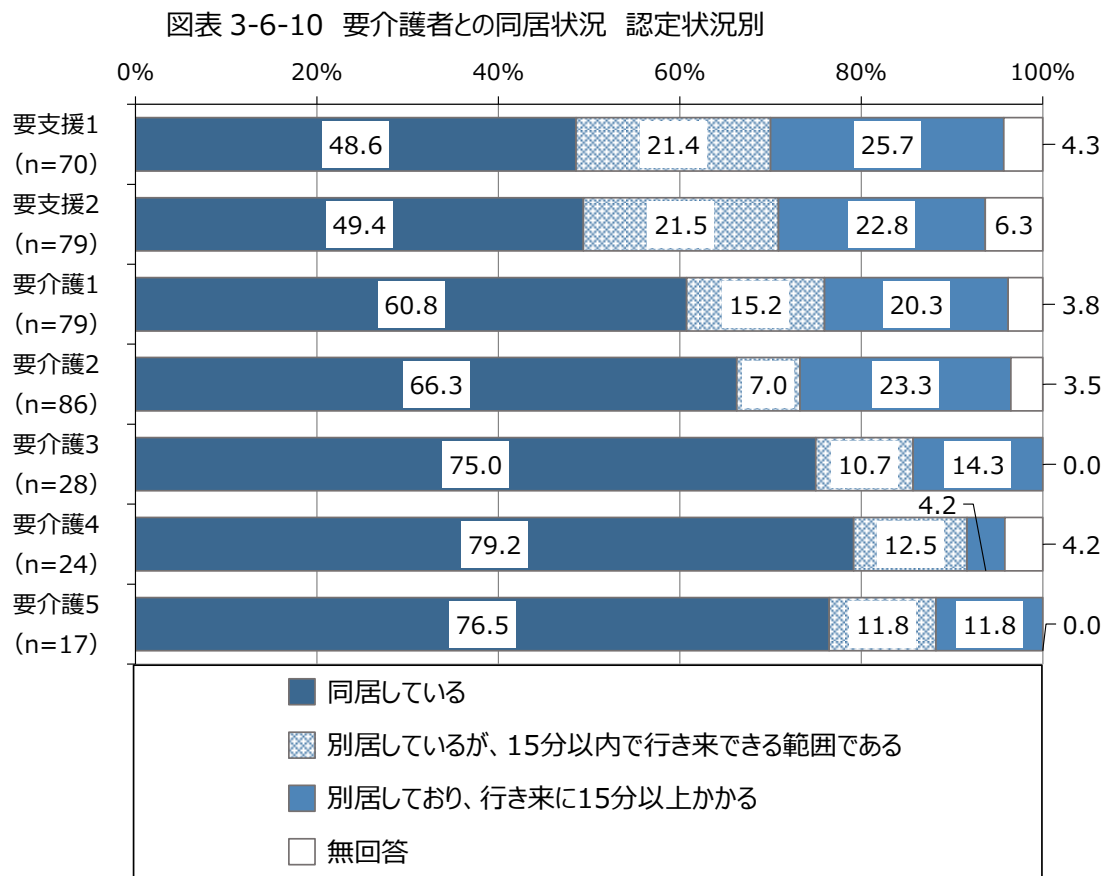
要介護者との同居状況については、「同居している」が60.3%で最も高く、次いで「別居しており、行き来に15分以上かかる」が20.6%、「別居しているが、15分以内で行き来できる範囲である」が15.1%です。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「別居しており、行き来に15分以上かかる」（20.6%）では、令和4（2022）年度調査（13.2%）より7.4ポイント増加しています。

図表 3-6-9 要介護者との同居状況



認定状況別でみると、「同居している」では、要介護 4 以下で要介護度が上がるにつれて割合が増加しており、要介護 4 が 79.2%で最も高い状況です。



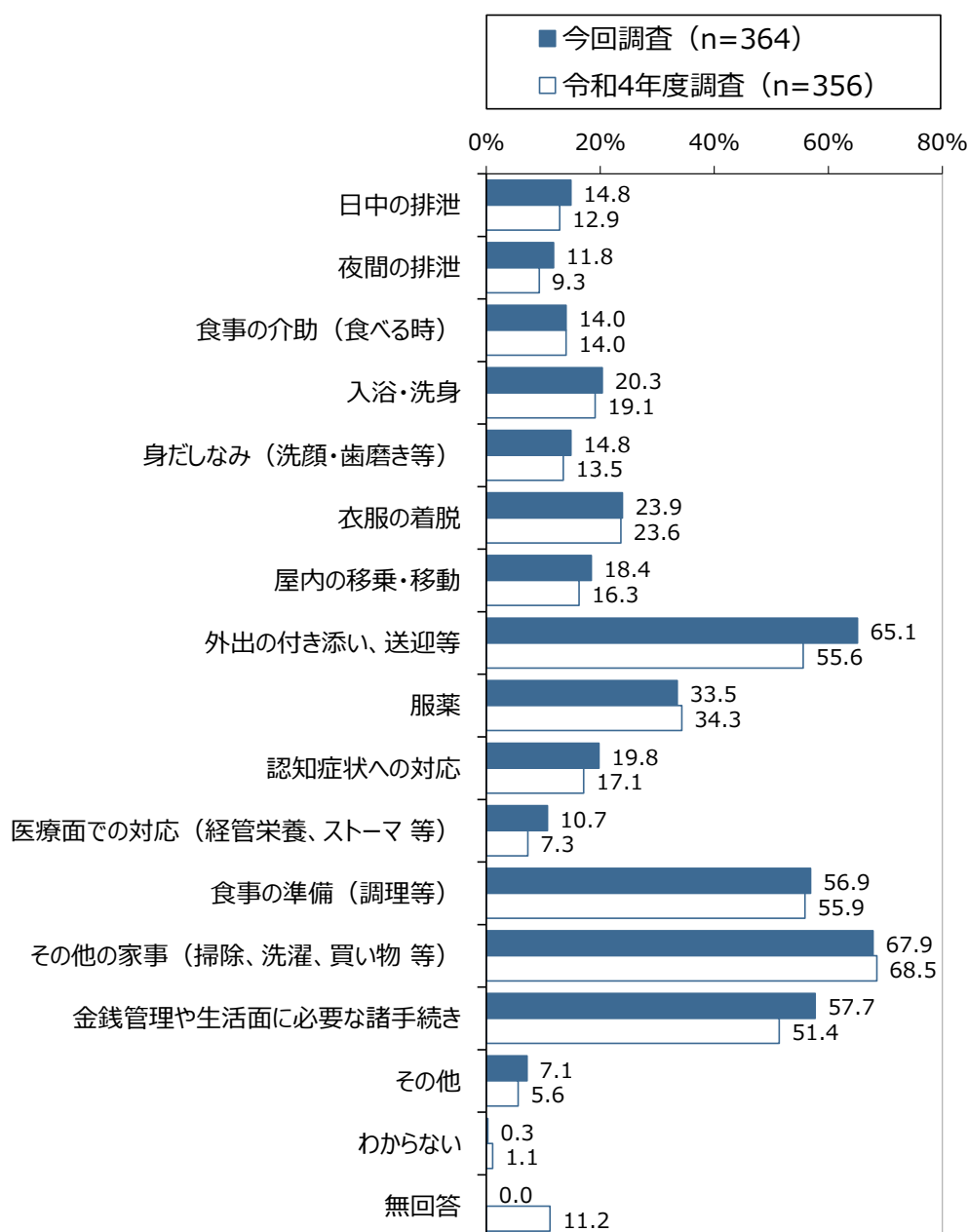
(6) 主な介護者が行っている介護

B-問 6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、お教えてください。（○はいくつでも）

主な介護者が行っている介護については、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 67.9%で最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 65.1%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 57.7%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「外出の付き添い、送迎等」（65.1%）では、令和 4（2022）年度調査（55.6%）より 9.5 ポイント増加しています。

図表 3-6-11 主な介護者が行っている介護



認定状況別でみると、「外出の付き添い、送迎等」では、要介護3が82.1%で最も高い状況です。

図表 3-6-12 主な介護者が行っている介護 認定状況別

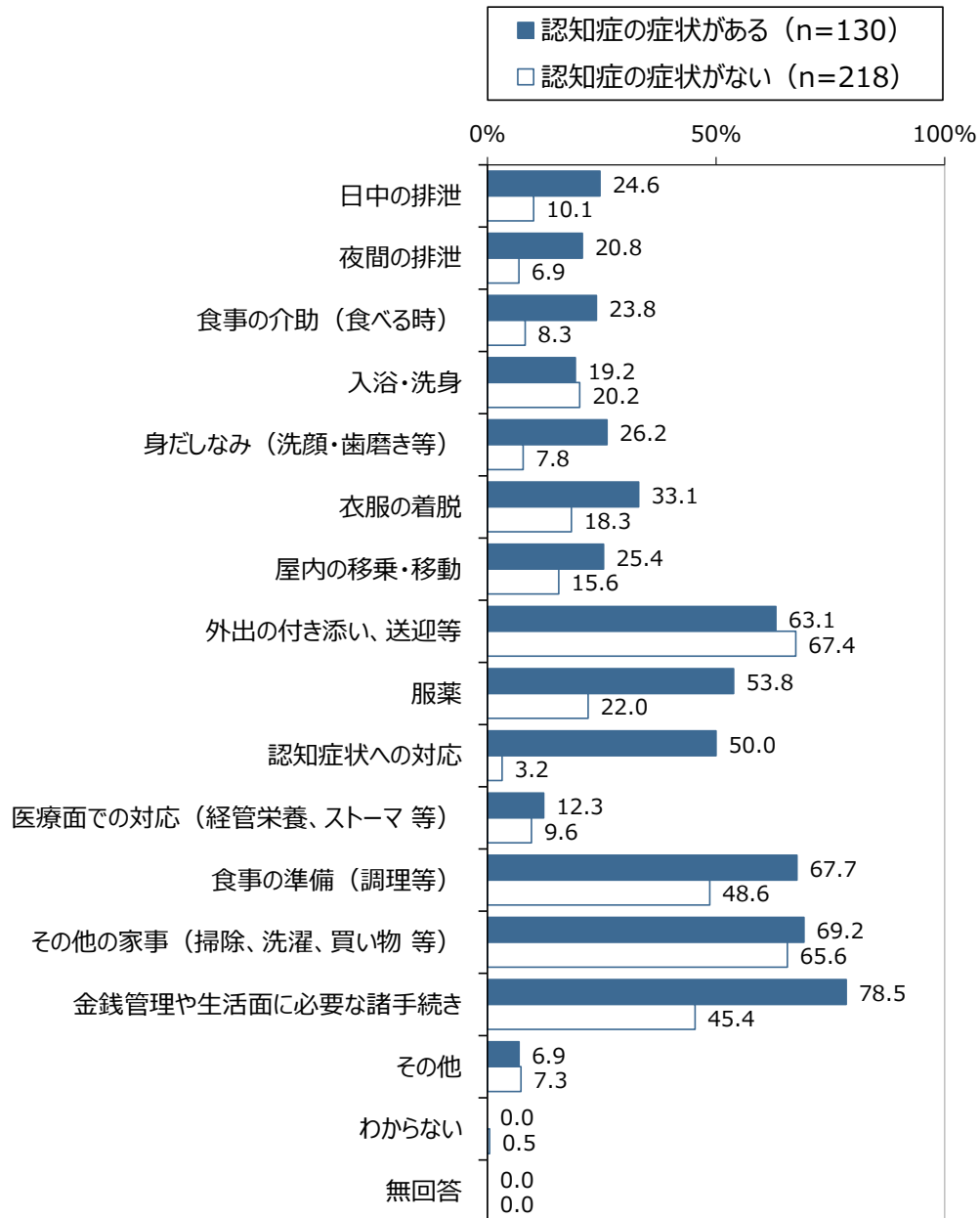
単位：実数（人）、構成比（%）

認定状況別	合計	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	等 外出の付き添い、送迎	服薬	認知症状への対応	
		全体	364	14.8	11.8	14.0	20.3	14.8	23.9	18.4	65.1	33.5
認定状況別	要支援1	64	1.6	3.1	4.7	7.8	3.1	3.1	7.8	57.8	17.2	10.9
	要支援2	70	2.9	2.9	7.1	11.4	10.0	10.0	10.0	65.7	14.3	2.9
	要介護1	78	2.6	3.8	6.4	19.2	6.4	15.4	10.3	62.8	38.5	29.5
	要介護2	84	21.4	16.7	17.9	34.5	14.3	34.5	21.4	71.4	40.5	22.6
	要介護3	28	42.9	25.0	25.0	35.7	32.1	46.4	32.1	82.1	46.4	25.0
	要介護4	23	39.1	30.4	30.4	21.7	39.1	65.2	56.5	69.6	56.5	26.1
要介護5	17	58.8	47.1	52.9	11.8	58.8	52.9	41.2	35.3	64.7	47.1	
	合計		栄養・医療、面での対応（経管等）	食事の準備（調理等）	洗濯、他の家事（掃除、等）	その他の家事（掃除、等）	要金銭管理や生活面に必要な手続き	その他	わからない	無回答		
全体	364	10.7	56.9	67.9	57.7	7.1	0.3	0.0				
認定状況別	要支援1	64	7.8	32.8	60.9	26.6	14.1	1.6	0.0			
	要支援2	70	8.6	52.9	60.0	47.1	7.1	0.0	0.0			
	要介護1	78	10.3	59.0	66.7	67.9	1.3	0.0	0.0			
	要介護2	84	10.7	70.2	79.8	66.7	7.1	0.0	0.0			
	要介護3	28	14.3	60.7	57.1	67.9	10.7	0.0	0.0			
	要介護4	23	8.7	69.6	69.6	69.6	8.7	0.0	0.0			
要介護5	17	29.4	64.7	88.2	94.1	0.0	0.0	0.0				

※網掛け■は最も割合が高いもの

認知症の症状の有無別でみると、認知症の症状がある人では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が78.5%で最も高い状況です。

図表 3-6-13 主な介護者が行っている介護 認知症の症状の有無別

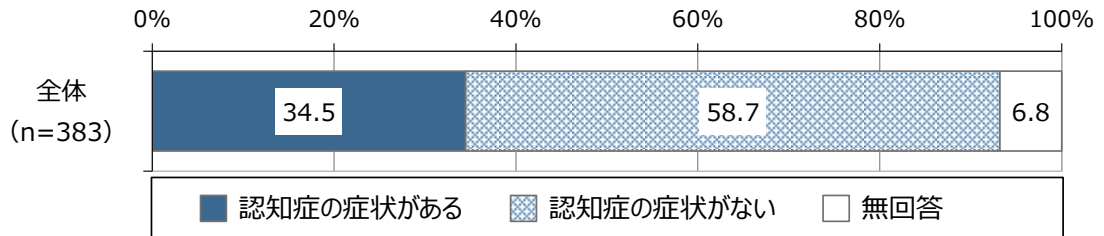


(7) 調査対象者に認知症の症状があるか

B-問 7 ご本人に認知症の症状がありますか。(○はひとつ)

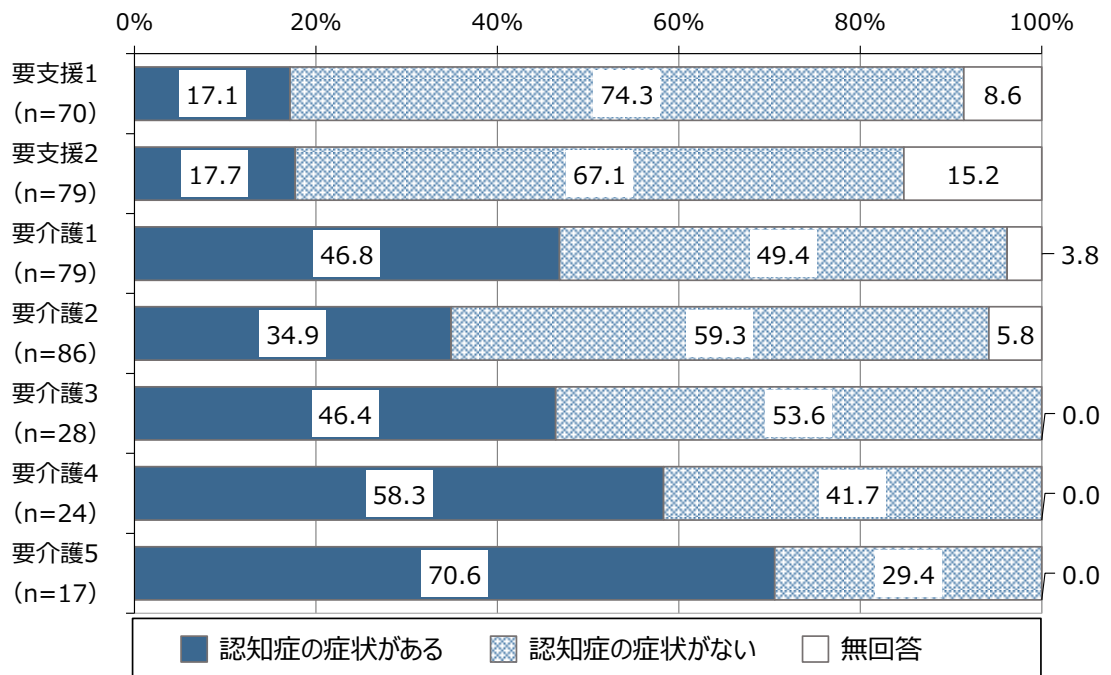
調査対象者に認知症の症状があるかについては、「認知症の症状がある」が 34.5%、「認知症の症状がない」が 58.7%です。

図表 3-6-14 調査対象者に認知症の症状があるか



認定状況別でみると、「認知症の症状がある」では、要介護 5 が 70.6%で最も高い状況です。

図表 3-6-15 調査対象者に認知症の症状があるか 認定状況別

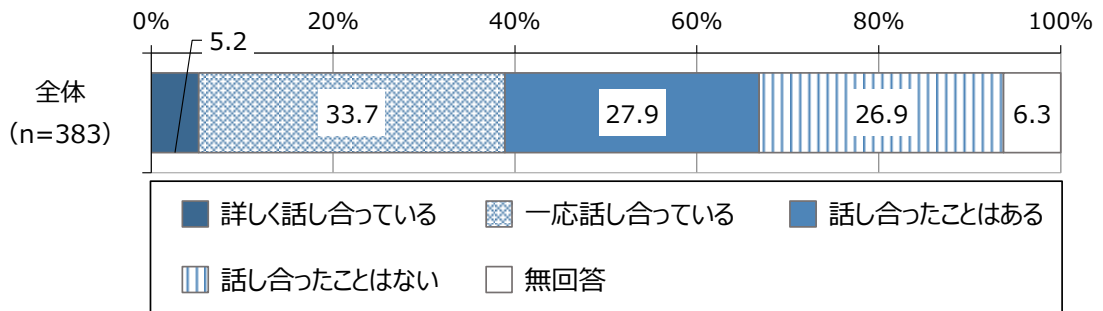


(8) 人生の最終段階における医療・介護について話し合っているか

B-問 8	人生の最終段階における医療や介護について、ご本人自身の希望を、家族等や医療介護関係者と話し合っていますか。(○はひとつ)
-------	--

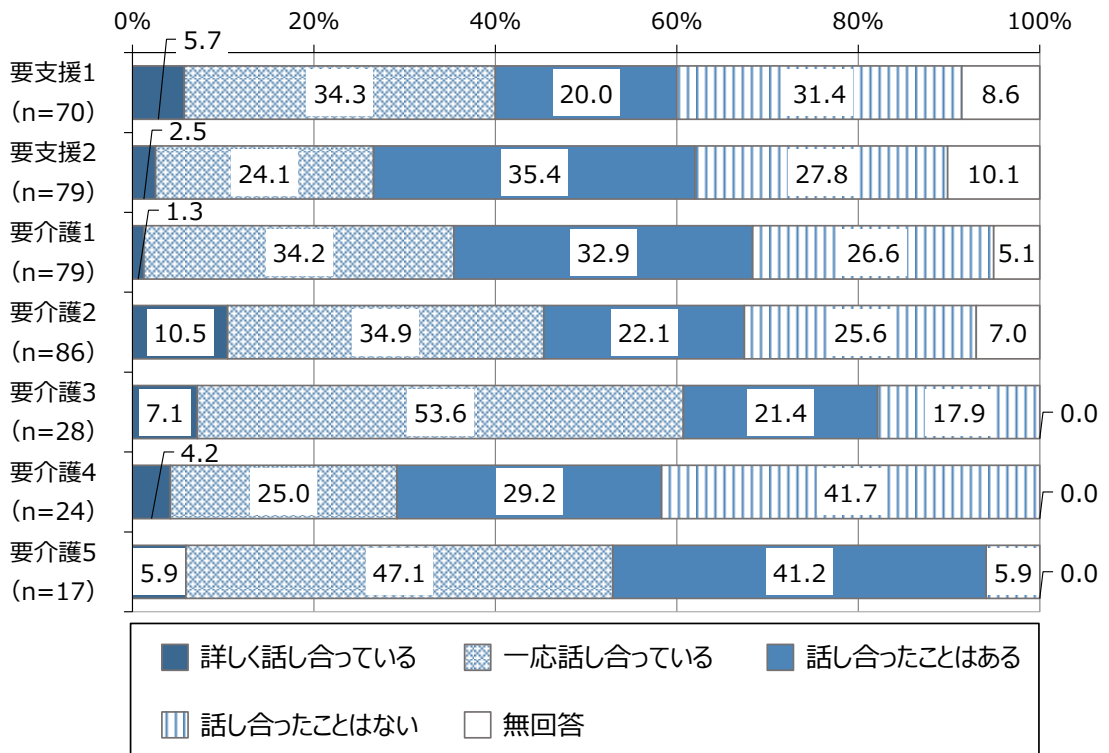
人生の最終段階における医療・介護について話し合っているかについては、「一応話し合っている」が 33.7%で最も高く、次いで「話し合ったことはある」が 27.9%、「話し合ったことはない」が 26.9%と続いています。

図表 3-6-16 人生の最終段階における医療・介護について話し合っているか



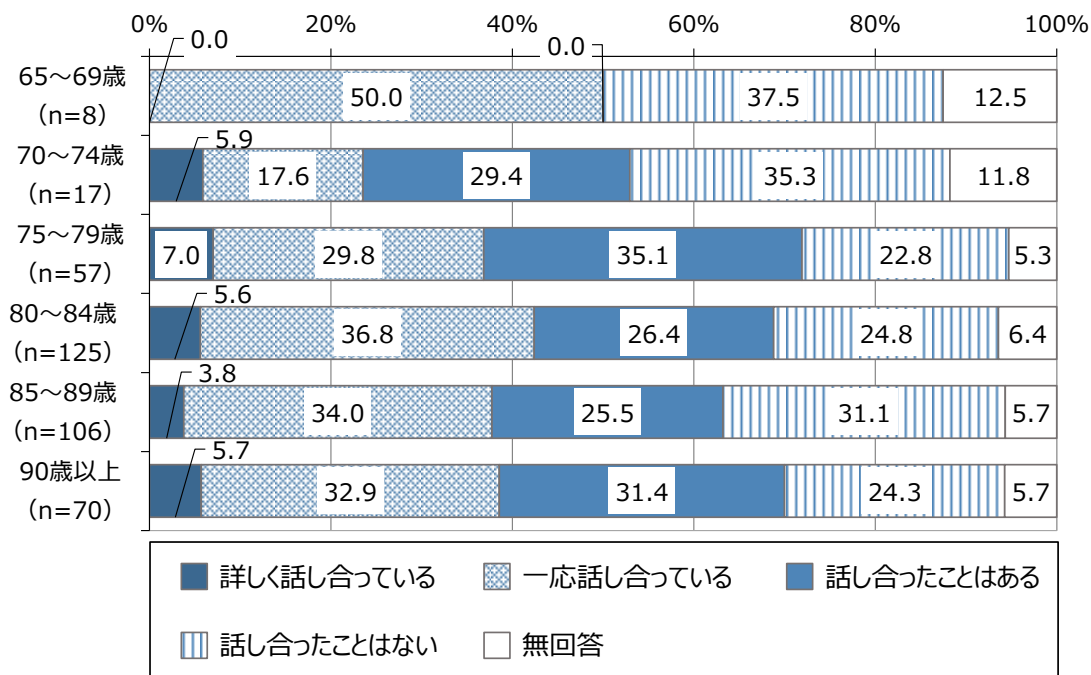
認定状況別でみると、「話し合ったことはない」では、要介護 4 が 41.7%で最も高い状況です。

図表 3-6-17 人生の最終段階における医療・介護について話し合っているか 認定状況別



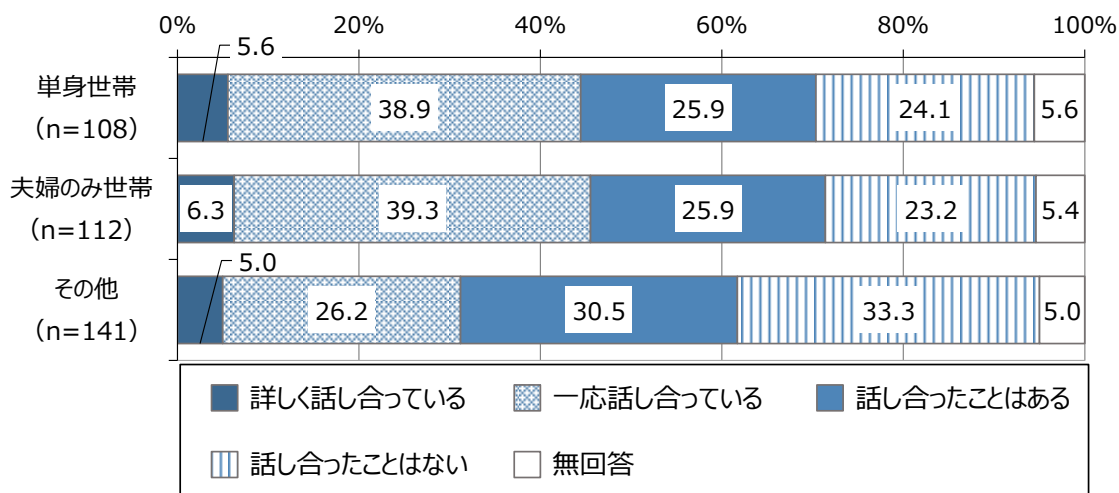
調査対象者の年齢階級別でみると、「詳しく話し合っている」では、75～79歳が7.0%で最も高い状況です。

図表 3-6-18 人生の最終段階における医療・介護について話し合っているか 調査対象者の年齢階級別



世帯類型別でみると、単身世帯、夫婦のみ世帯では「一応話し合っている」の割合が最も高く、その他世帯では「話し合ったことはない」の割合が最も高い状況です。

図表 3-6-19 人生の最終段階における医療・介護について話し合っているか 世帯類型別

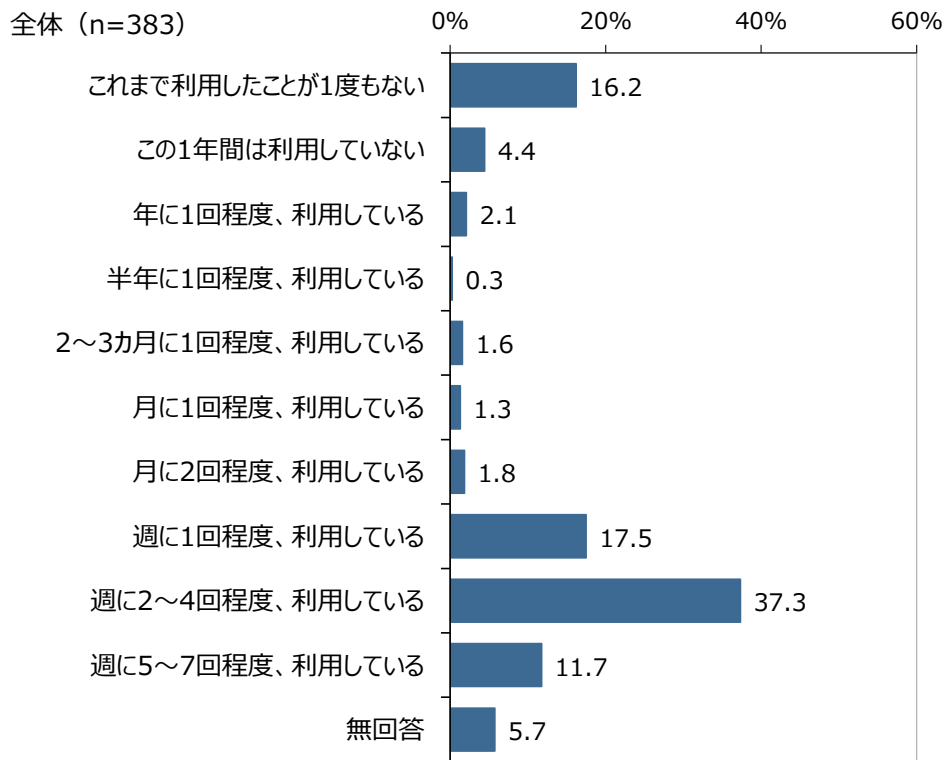


(9) 介護サービスの利用頻度

B-問9 この1年間のご本人の介護サービスの利用頻度を教えてください。(○はひとつ)

介護サービスの利用頻度については、「週に2～4回程度、利用している」が37.3%で最も高く、次いで「週に1回程度、利用している」が17.5%、「これまで利用したことが1度もない」が16.2%と続いています。

図表 3-6-20 介護サービスの利用頻度



認定状況別でみると、「週に5～7回程度、利用している」では、要介護度が上がるにつれて割合が増加しており、要介護5が76.5%で最も高い状況です。

図表 3-6-21 介護サービスの利用頻度 認定状況別

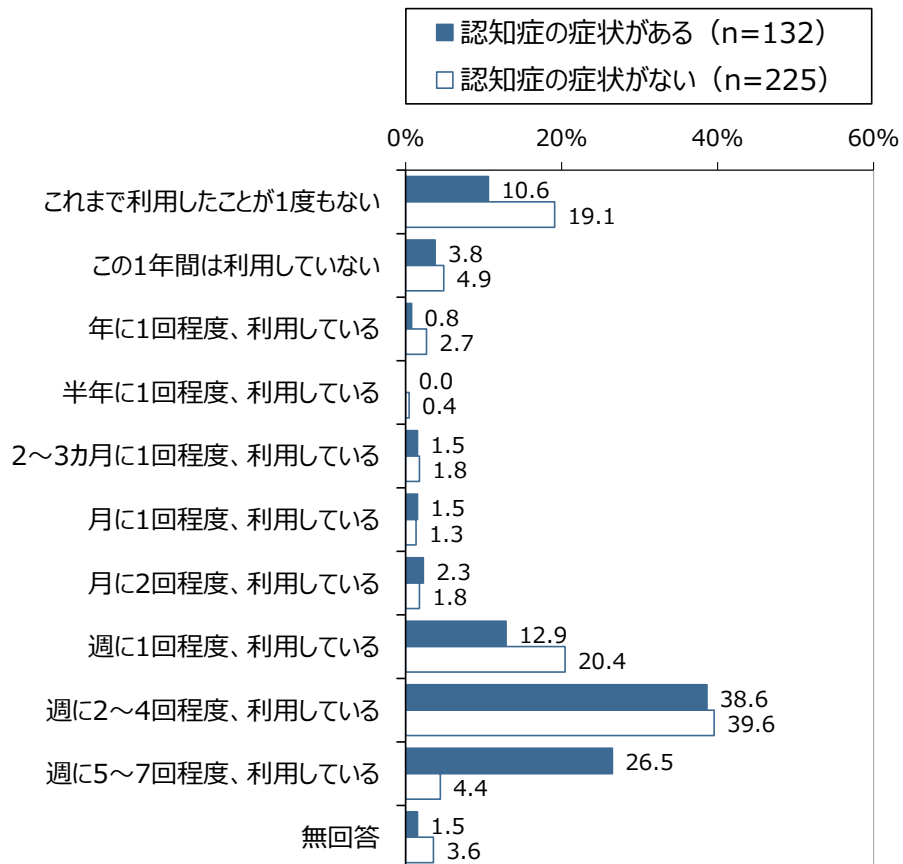
単位：実数（人）、構成比（%）

認定状況別	合計	利用頻度											
		これまで1度も利用したことがない年間は利用し	この1年間は利用していない	年に1回程度、利用している	半年に1回程度、利用している	2～3カ月に1回程度、利用している	月に1回程度、利用している	月に2回程度、利用している	週に1回程度、利用している	週に2～4回程度、利用している	週に5～7回程度、利用している	無回答	
全体	383	16.2	4.4	2.1	0.3	1.6	1.3	1.8	17.5	37.3	11.7	5.7	
認定状況別	要支援1	70	40.0	7.1	4.3	1.4	1.4	1.4	28.6	7.1	1.4	5.7	
	要支援2	79	17.7	3.8	2.5	0.0	2.5	1.3	22.8	34.2	1.3	12.7	
	要介護1	79	13.9	6.3	0.0	0.0	1.3	2.5	3.8	19.0	44.3	6.3	2.5
	要介護2	86	7.0	2.3	2.3	0.0	1.2	1.2	2.3	12.8	54.7	11.6	4.7
	要介護3	28	7.1	0.0	3.6	0.0	3.6	0.0	0.0	3.6	46.4	32.1	3.6
	要介護4	24	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	58.3	25.0	0.0
要介護5	17	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	76.5	5.9	

※網掛け■は最も割合が高いもの

認知症の症状の有無別で見ると、認知症の症状がある人では「週に2～4回程度、利用している」が38.6%で最も高い状況です。

図表 3-6-22 介護サービスの利用頻度 認知症の症状の有無



7 主な介護者の方の介護に要する時間等について

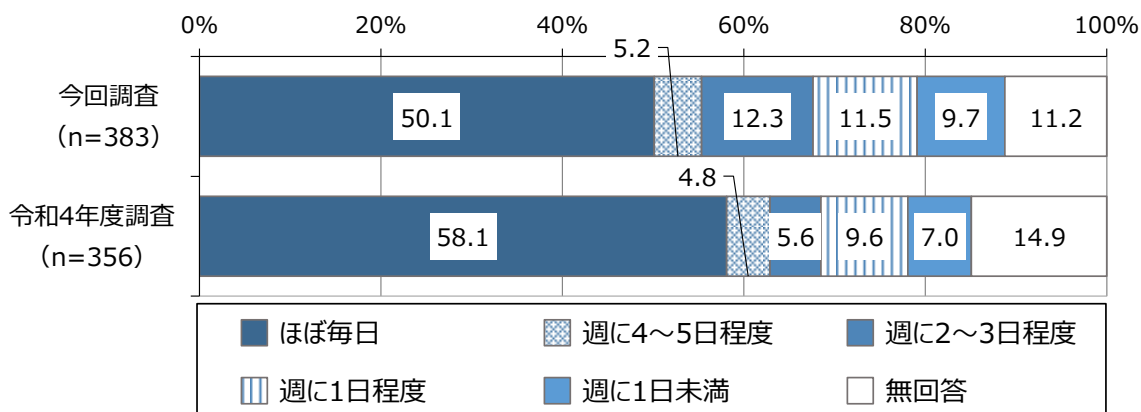
(1) 介護の日数

B-問 10 介護の日数について、お教えてください。（○はひとつ）

介護の日数については、「ほぼ毎日」が 50.1%で最も高く、次いで「週に 2～3 日程度」が 12.3%、「週に 1 日程度」が 11.5%と続いています。

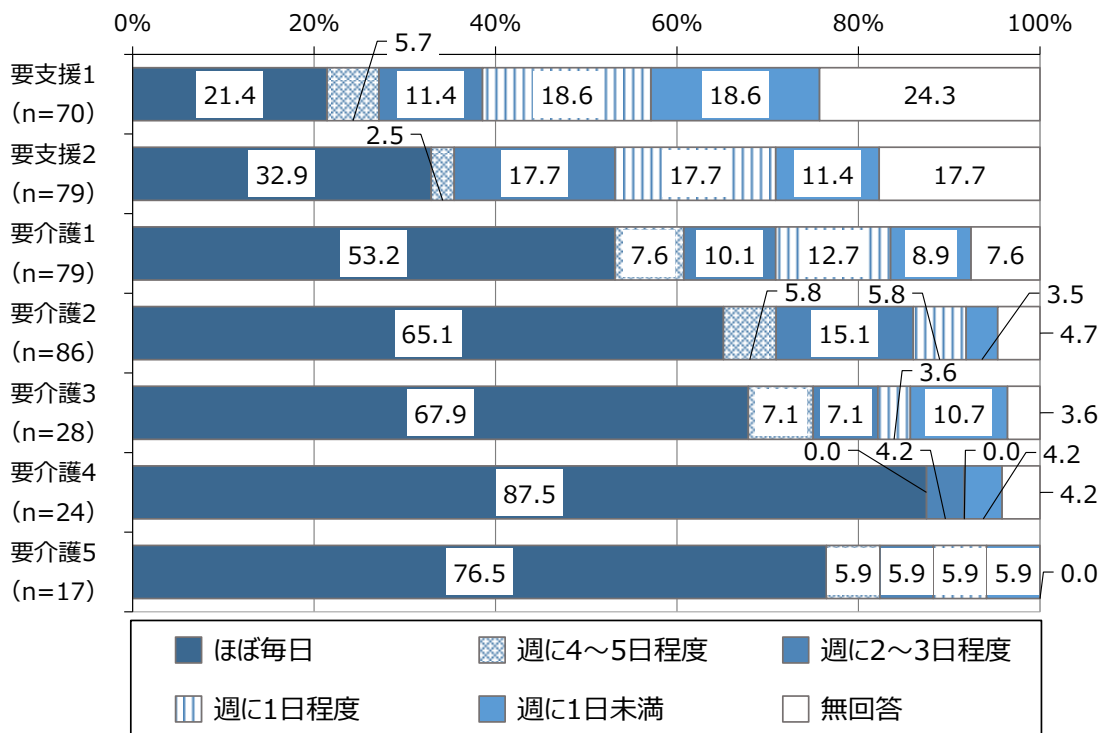
令和 4（2022）年度調査と比較すると、「ほぼ毎日」（50.1%）では、令和 4（2022）年度調査（58.1%）より 8.0 ポイント減少しています。

図表 3-7-1 介護の日数



認定状況別でみると、「ほぼ毎日」では、要介護 4 が 87.5%で最も高い状況です。

図表 3-7-2 介護の日数 認定状況別



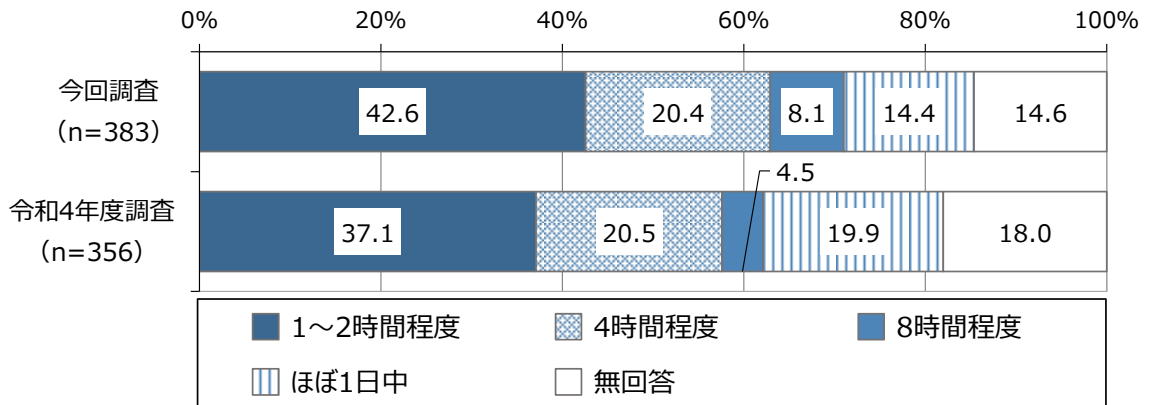
(2) 1日あたりの介護の時間

B-問 11 1日あたりの介護の時間について、お教えてください。(○はひとつ)

1日あたりの介護の時間については、「1～2時間程度」が42.6%で最も高く、次いで「4時間程度」が20.4%、「ほぼ1日中」が14.4%と続いています。

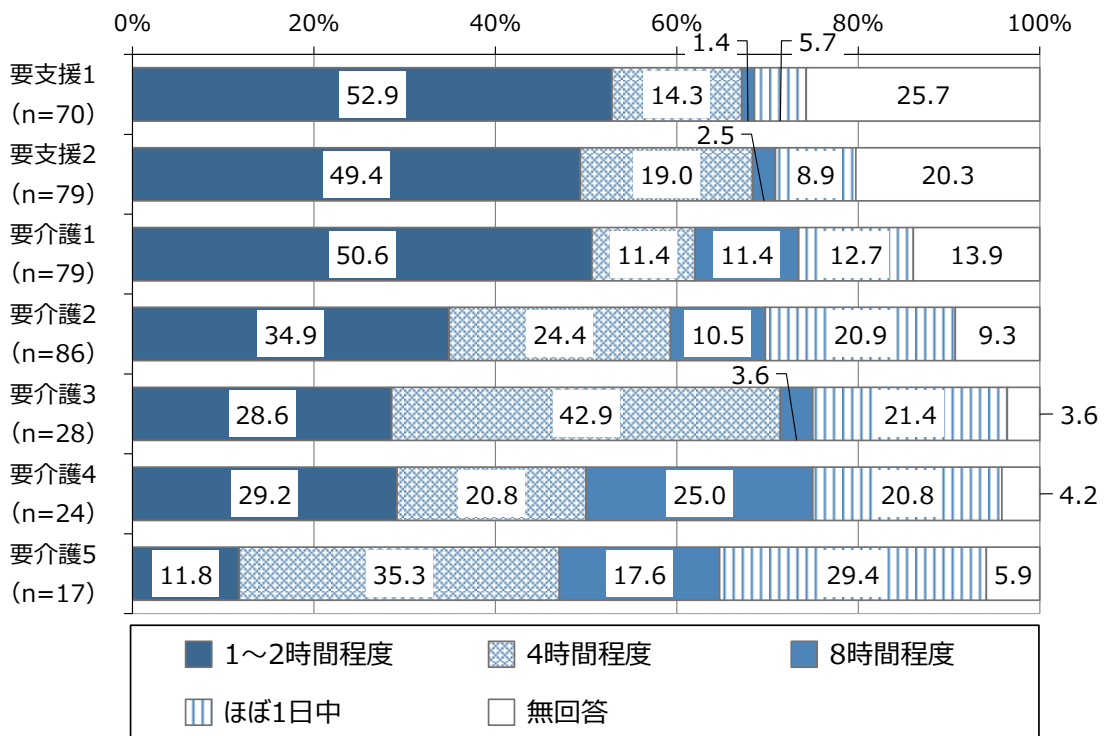
令和4(2022)年度調査と比較すると、「ほぼ1日中」(14.4%)では、令和4(2022)年度調査(19.9%)より5.5ポイント減少しています。

図表 3-7-3 1日あたりの介護の時間



認定状況別でみると、「ほぼ1日中」では、要介護5が29.4%で最も高い状況です。

図表 3-7-4 1日あたりの介護の時間 認定状況別



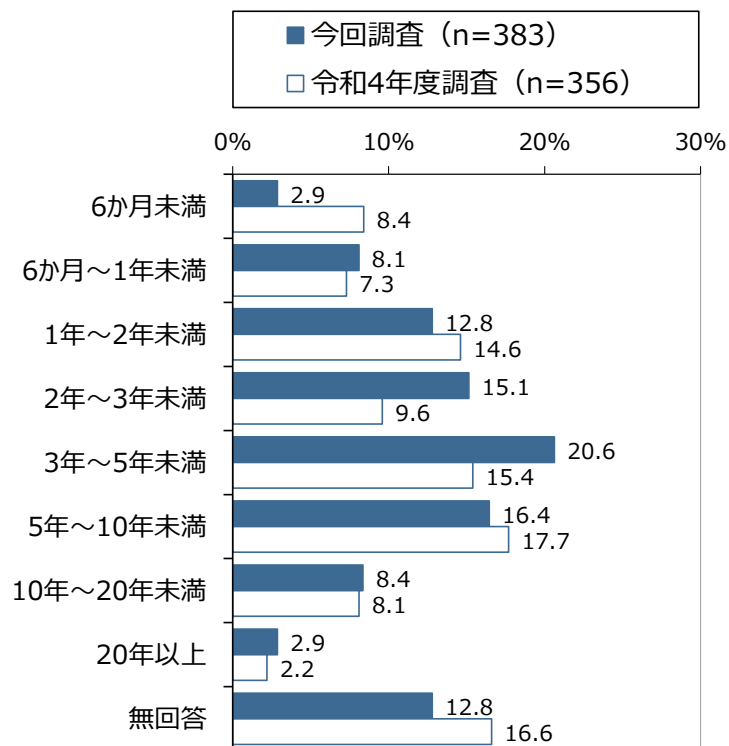
(3) 介護期間

B-問 12 主な介護者の方の介護期間について、お教えてください。(○はひとつ)

介護期間については、「3年～5年未満」が20.6%で最も高く、次いで「5年～10年未満」が16.4%、「2年～3年未満」が15.1%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「2年～3年未満」（15.1%）では、令和4（2022）年度調査（9.6%）より5.5ポイント増加しています。

図表 3-7-5 介護期間



認定状況別でみると、『10年以上』では、要介護5が29.4%で最も高い状況です。

図表 3-7-6 介護期間 認定状況別

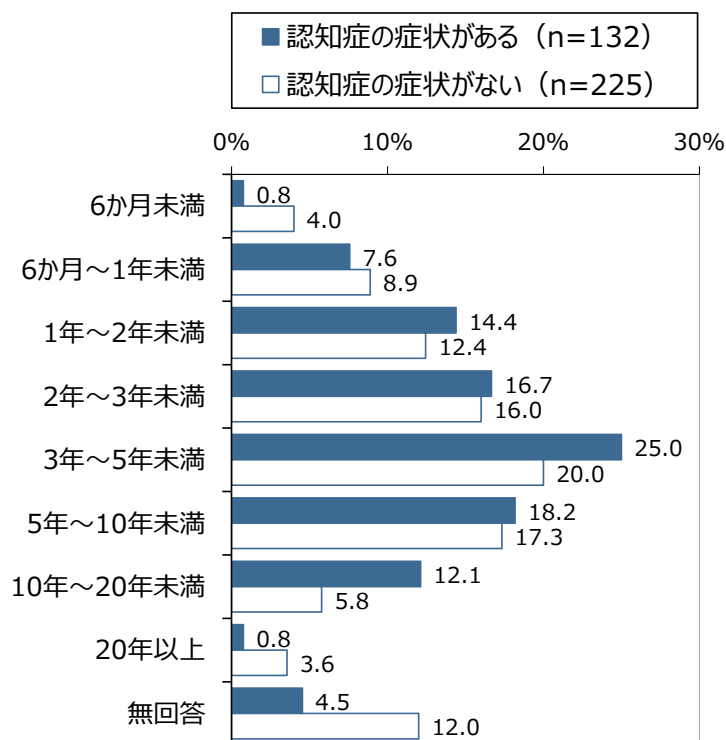
単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	6 か 月 未 満	6 か 月 ～ 1 年 未 満	1 年 ～ 2 年 未 満	2 年 ～ 3 年 未 満	3 年 ～ 5 年 未 満	5 年 ～ 1 0 年 未 満	1 0 年 ～ 2 0 年 未 満	2 0 年 以 上	無 回 答
全体		383	2.9	8.1	12.8	15.1	20.6	16.4	8.4	2.9	12.8
認 定 状 況 別	要支援1	70	5.7	8.6	21.4	12.9	10.0	8.6	2.9	2.9	27.1
	要支援2	79	2.5	7.6	7.6	20.3	17.7	16.5	5.1	2.5	20.3
	要介護1	79	3.8	7.6	16.5	16.5	29.1	7.6	10.1	1.3	7.6
	要介護2	86	1.2	7.0	11.6	9.3	23.3	24.4	8.1	5.8	9.3
	要介護3	28	3.6	14.3	7.1	14.3	17.9	28.6	10.7	3.6	0.0
	要介護4	24	0.0	8.3	8.3	25.0	20.8	25.0	12.5	0.0	0.0
要介護5	17	0.0	5.9	5.9	11.8	29.4	17.6	29.4	0.0	0.0	

※網掛け■は最も割合が高いもの

認知症の症状の有無別でみると、認知症の症状がある人では「3年～5年未満」が25.0%で最も高い状況です。

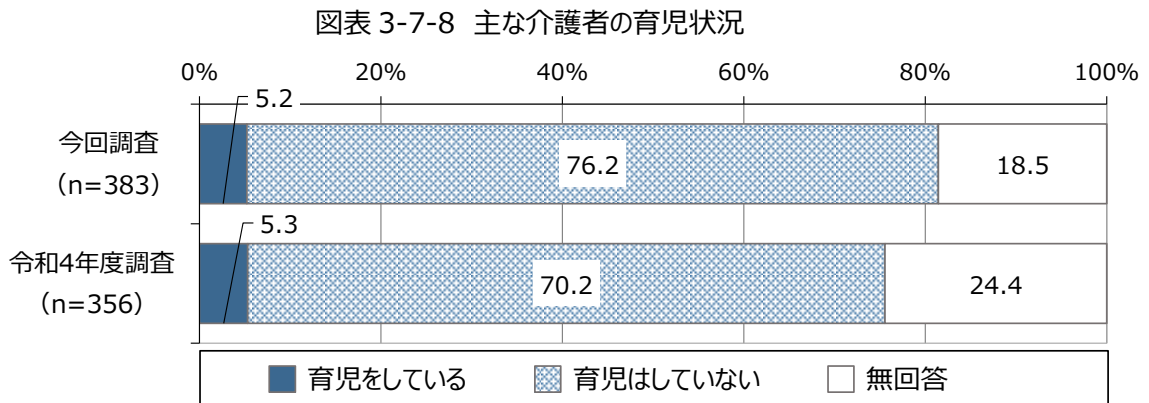
図表 3-7-7 介護期間 認知症の症状の有無別



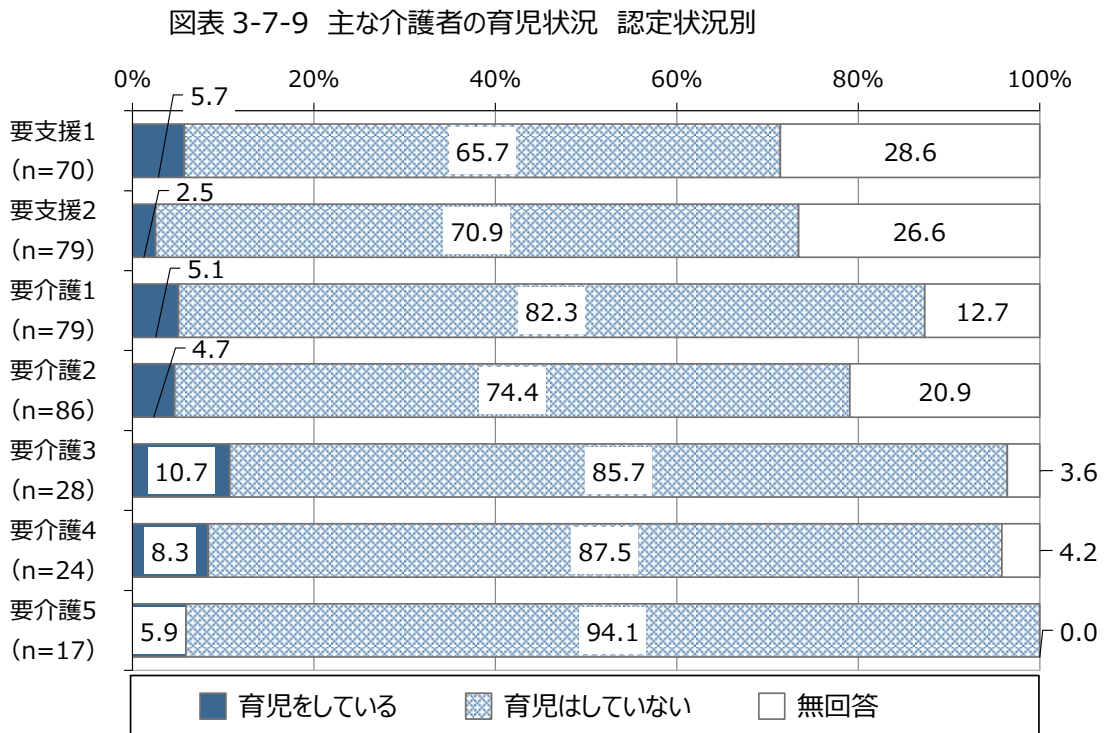
(4) 主な介護者の育児状況

B-問 13	主な介護者の方の育児状況について、お教えてください。（〇はひとつ） ※「1. 育児をしている」を選んだ方は子どもの人数・未子の年齢を（ ）内に数字で記入してください。
--------	--

主な介護者の育児状況については、「育児をしている」が5.2%、「育児はしていない」が76.2%です。令和4（2022）年度調査と比較すると、「育児をしている」（5.2%）では、令和4（2022）年度調査（5.3%）と大きな差はみられません。

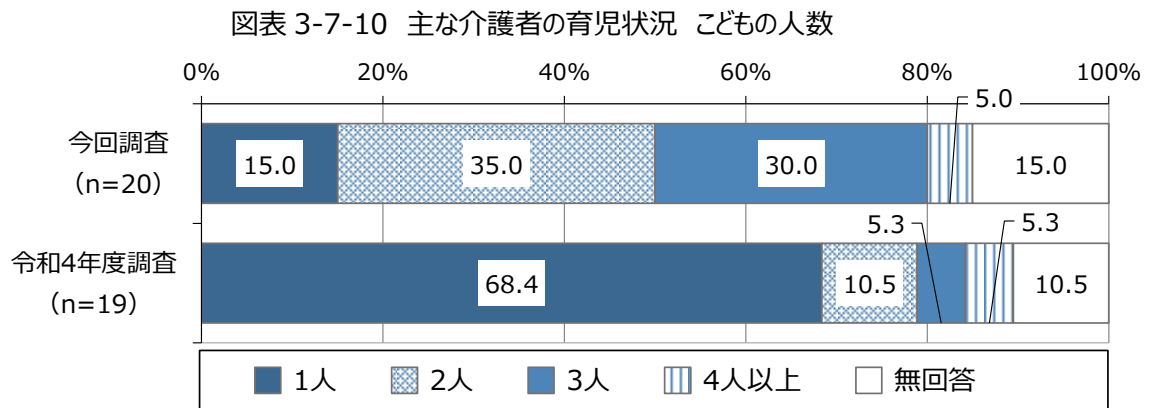


認定状況別でみると、「育児をしている」では、要介護3が10.7%で最も高い状況です。



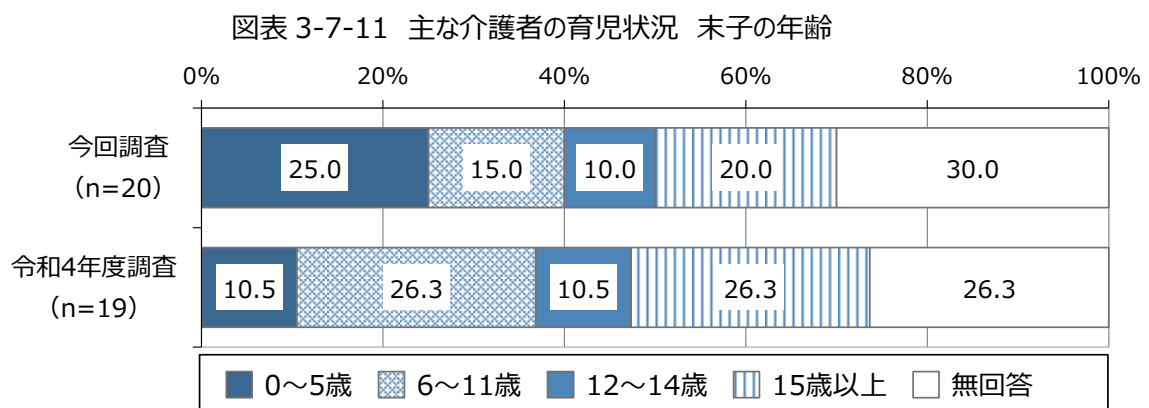
こどもの人数については、「2人」が35.0%で最も高く、次いで「3人」が30.0%、「1人」が15.0%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「3人」（30.0%）では、令和4（2022）年度調査（5.3%）より24.7ポイント増加しています。



末子の年齢については、「0～5歳」が25.0%で最も高く、次いで「15歳以上」が20.0%、「6～11歳」が15.0%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「0～5歳」（25.0%）では、令和4（2022）年度調査（10.5%）より14.5ポイント増加しています。



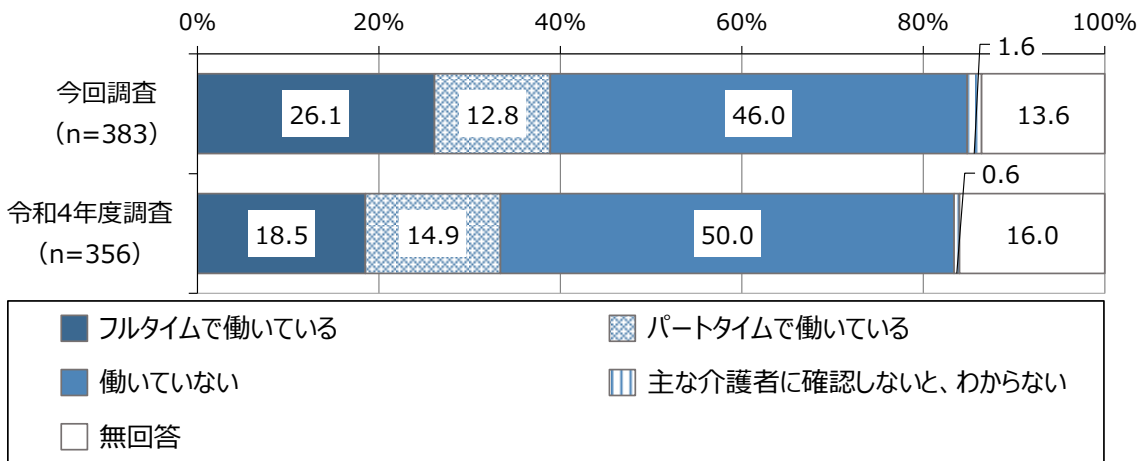
(5) 主な介護者の勤務形態

B-問 14 主な介護者の方の現在の勤務形態について、お教えてください。(〇はひとつ)

主な介護者の勤務形態については、「働いていない」が 46.0%で最も高く、次いで「フルタイムで働いている」が 26.1%、「パートタイムで働いている」が 12.8%と続いています。

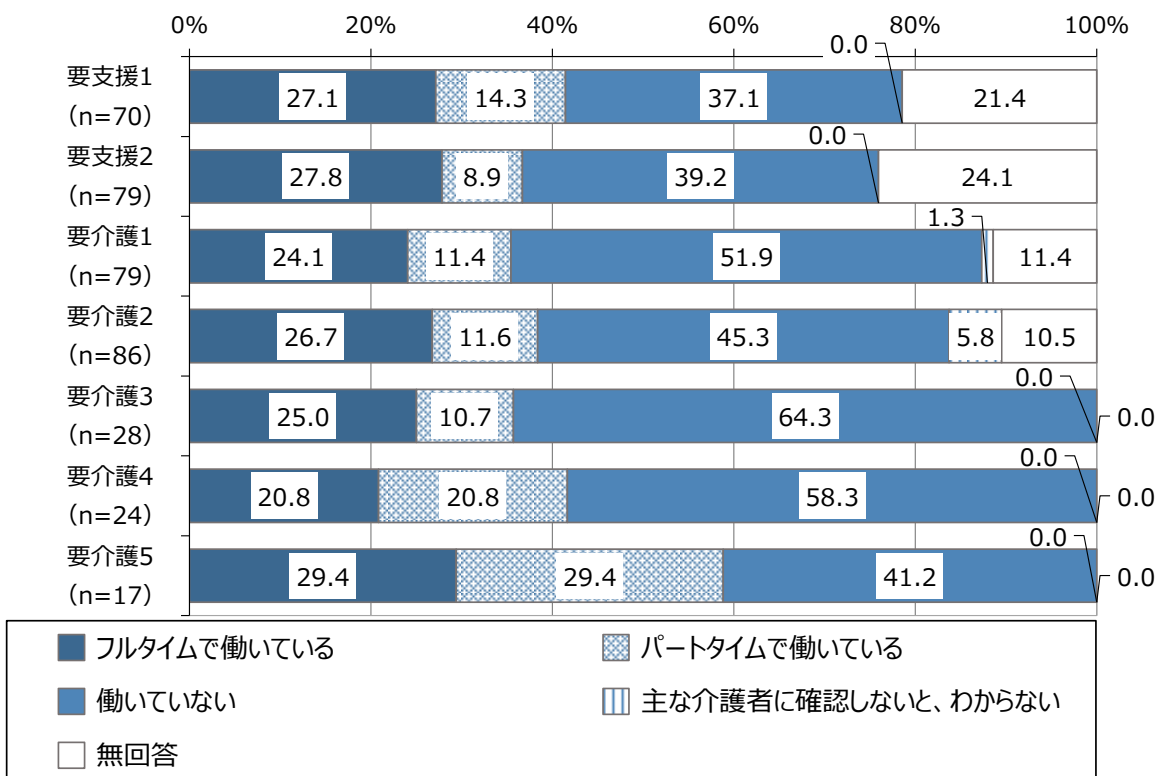
令和 4（2022）年度調査と比較すると、「フルタイムで働いている」（26.1%）では、令和 4（2022）年度調査（18.5%）より 7.6 ポイント増加しています。

図表 3-7-12 主な介護者の勤務形態



認定状況別でみると、「フルタイムで働いている」では、要介護 5 が 29.4%で最も高い状況です。

図表 3-7-13 主な介護者の勤務形態 認定状況別



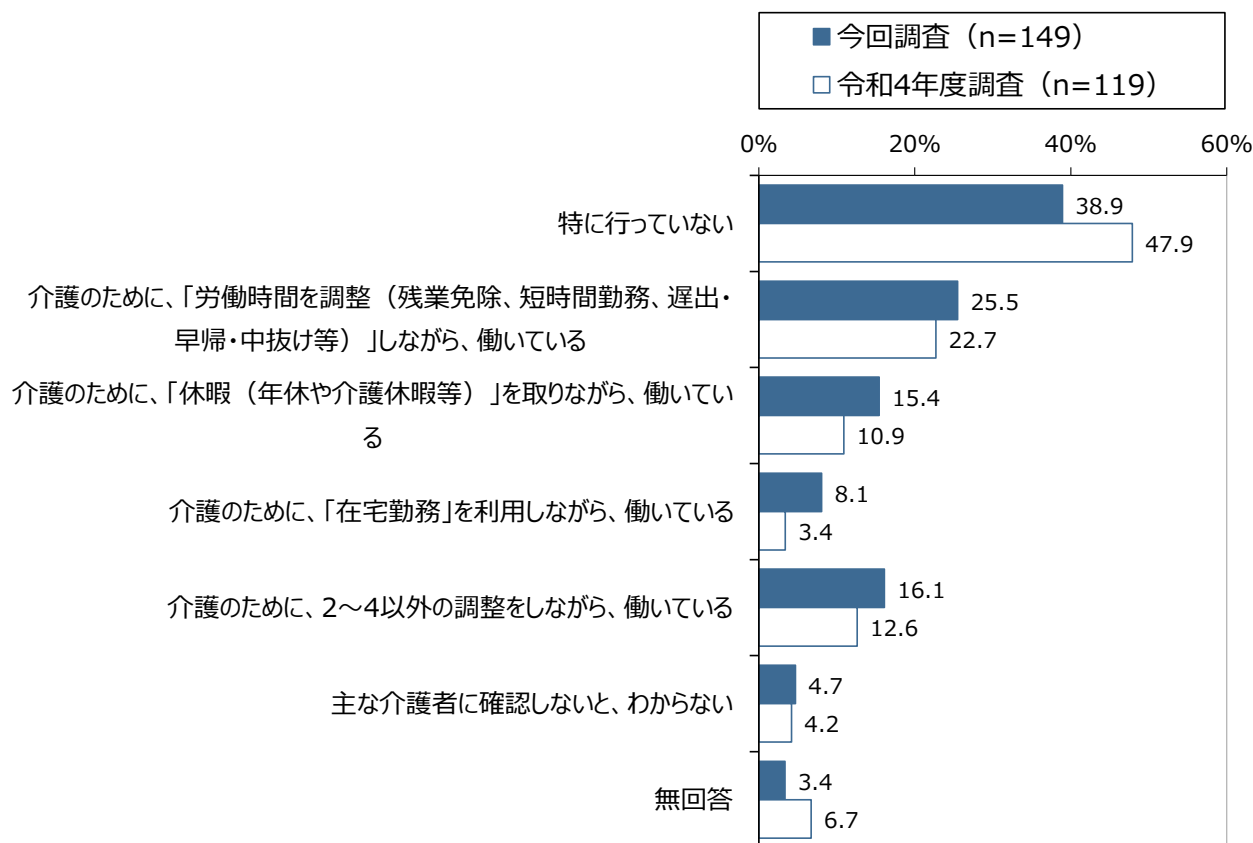
(6) 介護をするにあたって働き方の調整等をしているか

B-問 15	B-問 14 で「1.フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方におうかがいします。 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。（○はいくつでも）
--------	--

介護をするにあたって働き方の調整等をしているかについては、「特に行っていない」が 38.9%で最も高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 25.5%、「介護のために、2～4 以外の調整をしながら、働いている」が 16.1%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている」（8.1%）では、令和 4（2022）年度調査（3.4%）より 4.7 ポイント増加しています。

図表 3-7-14 介護をするにあたって働き方の調整等をしているか



認定状況別でみると、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」では、要介護3が60.0%で最も高い状況です。

図表 3-7-15 介護をするにあたって働き方の調整等をしているか 認定状況別

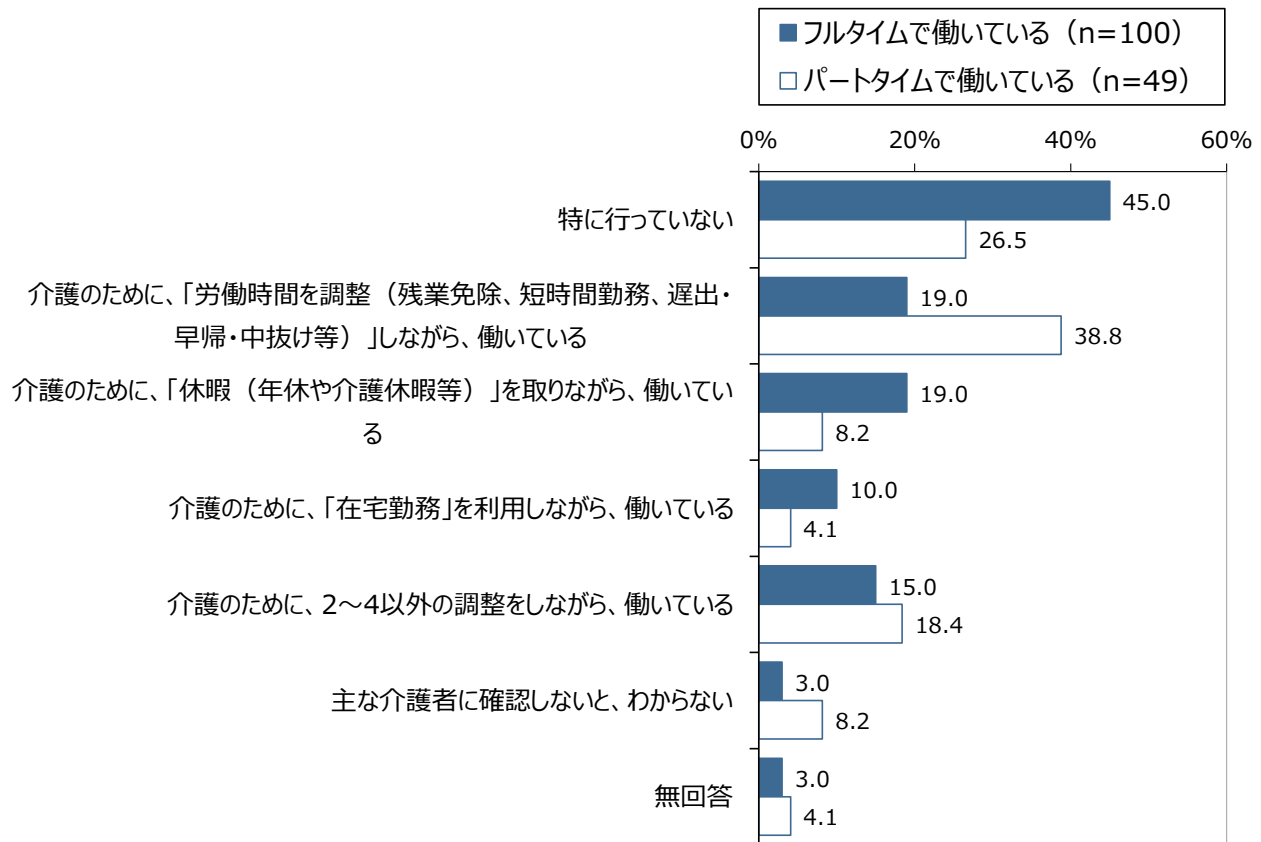
単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	特に行っていない	抜け等（短時間勤務、遅出・早帰・中残）	介護免除のため	介護の「ため」を取りながら（年間休業や介護休暇）	介護のため、「在宅勤務」を利用している	介護のため、「在宅勤務」以外の調整をしている	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全体	149	38.9	25.5	15.4	8.1	16.1	4.7	3.4	
認定状況別	要支援1	29	51.7	27.6	13.8	0.0	6.9	3.4	0.0
	要支援2	29	37.9	13.8	20.7	6.9	17.2	6.9	3.4
	要介護1	28	42.9	25.0	17.9	7.1	17.9	3.6	7.1
	要介護2	33	39.4	18.2	15.2	12.1	15.2	3.0	6.1
	要介護3	10	20.0	60.0	10.0	20.0	10.0	10.0	0.0
	要介護4	10	30.0	30.0	10.0	20.0	30.0	0.0	0.0
要介護5	10	20.0	40.0	10.0	0.0	30.0	10.0	0.0	

※網掛け■は最も割合が高いもの

就労状況別でみると、「フルタイムで働いている」では、「特に行っていない」が 45.0%で最も高く、「パートタイムで働いている」では、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 38.8%で最も高い状況です。

図表 3-7-16 介護をするにあたって働き方の調整等をしているか 就労状況別



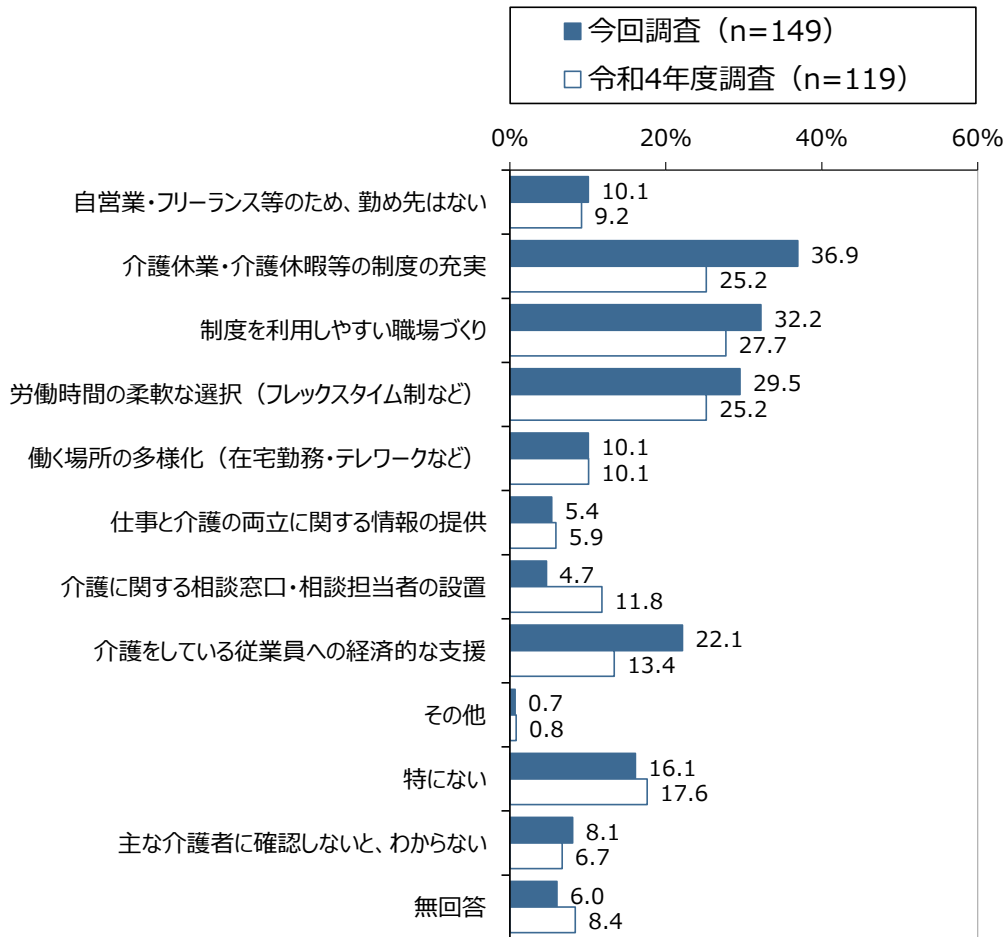
(7) 勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思うか

B-問 16	B-問 14 で「1.フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方におかがいします。 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。（○は3つまで）
--------	--

勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思うかについては、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 36.9%で最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が 32.2%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 29.5%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」（36.9%）では、令和 4（2022）年度調査（25.2%）より 11.7 ポイント増加しています。

図表 3-7-17 勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思うか



認定状況別で見ると、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」では、要介護3が50.0%で最も高い状況です。

図表 3-7-18 勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思うか 認定状況別

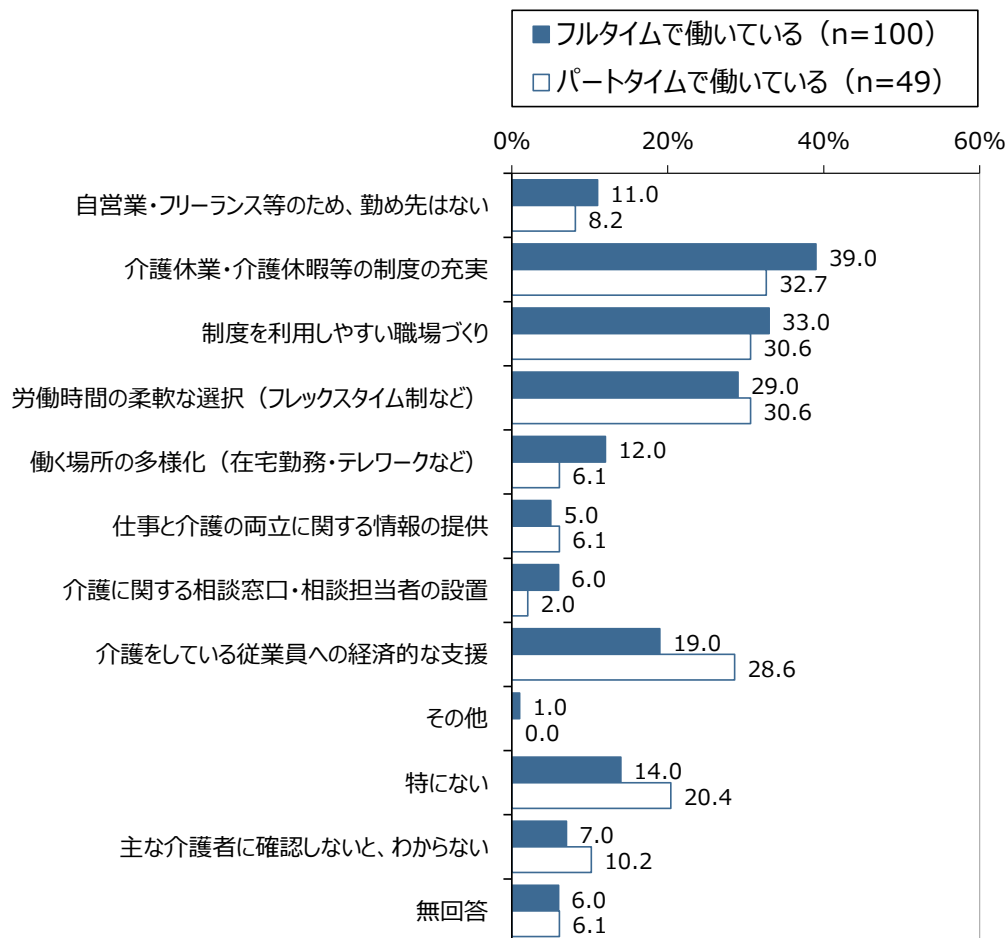
単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	ため、営業・勤め先は ない	度介護休業・介護 休暇等の制	く制度を利用し やすい職場	レ労働時間の柔軟な 選択（フレックスタイム 制など）	務働く場所の多様化 （在宅勤務）	情仕事と介護の両立に 関する	談介護に関する相談 窓口・相	経介護をしてい る従業員への	そ 他	特 に ない
全体		149	10.1	36.9	32.2	29.5	10.1	5.4	4.7	22.1	0.7	16.1
認定 状況 別	要支援1	29	6.9	31.0	24.1	34.5	6.9	0.0	6.9	20.7	0.0	20.7
	要支援2	29	6.9	37.9	31.0	13.8	3.4	3.4	3.4	20.7	0.0	27.6
	要介護1	28	7.1	42.9	35.7	35.7	7.1	7.1	3.6	32.1	0.0	10.7
	要介護2	33	9.1	39.4	45.5	39.4	12.1	9.1	9.1	12.1	0.0	6.1
	要介護3	10	10.0	50.0	30.0	20.0	20.0	10.0	0.0	30.0	10.0	0.0
	要介護4	10	20.0	40.0	30.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0
要介護5	10	30.0	10.0	10.0	30.0	20.0	10.0	0.0	30.0	0.0	10.0	
全体		149	8.1	6.0								
認定 状況 別	要支援1	29	6.9	6.9								
	要支援2	29	13.8	0.0								
	要介護1	28	7.1	3.6								
	要介護2	33	9.1	9.1								
	要介護3	10	10.0	10.0								
	要介護4	10	0.0	0.0								
要介護5	10	0.0	20.0									

※網掛け■は最も割合が高いもの

就労状況別でみると、「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」いずれも「介護休業・介護休暇等の制度の充実」の割合が最も高い状況です。

図表 3-7-19 勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思うか 就労状況別



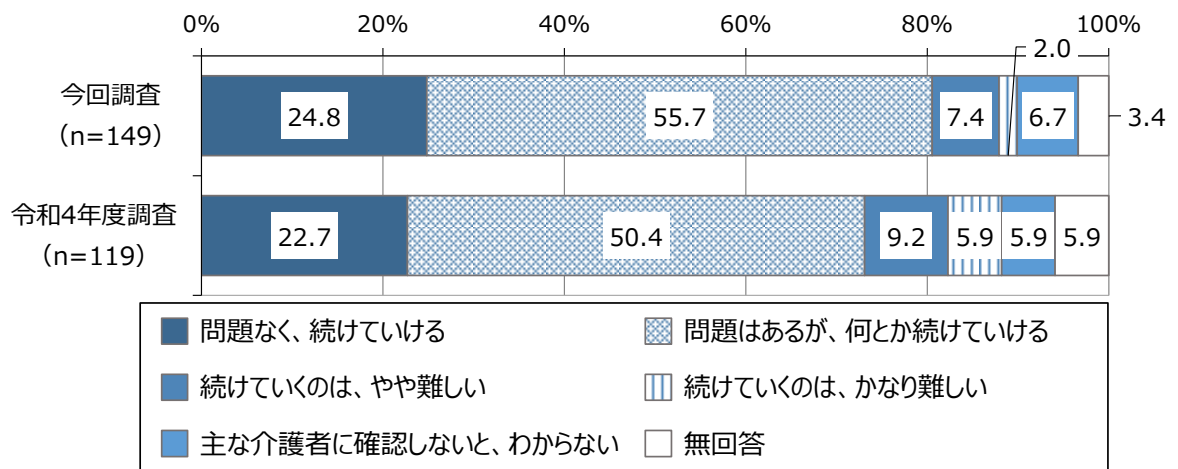
(8) 今後も働きながら介護を続けていけそうか

B-問 17	B-問 14 で「1.フルタイムで働いている」「2. パートタイムで働いている」と回答した方におうかがいします。 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(○はひとつ)
--------	--

今後も働きながら介護を続けていけそうかについては、「問題はあるが、何とか続けていける」が 55.7%で最も高く、次いで「問題なく、続けていける」が 24.8%、「続けていくのは、やや難しい」が 7.4%と続いています。

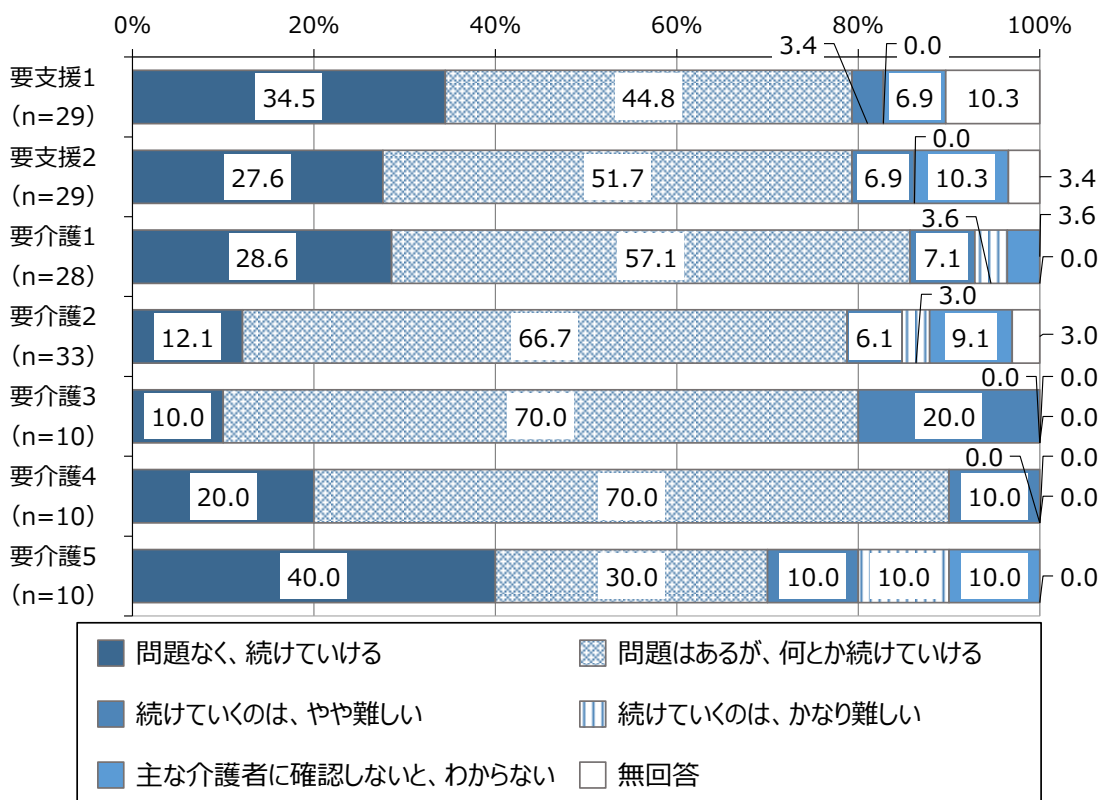
令和 4（2022）年度調査と比較すると、「問題はあるが、何とか続けていける」（55.7%）では、令和 4（2022）年度調査（50.4%）より 5.3 ポイント増加しています。

図表 3-7-20 今後も働きながら介護を続けていけそうか



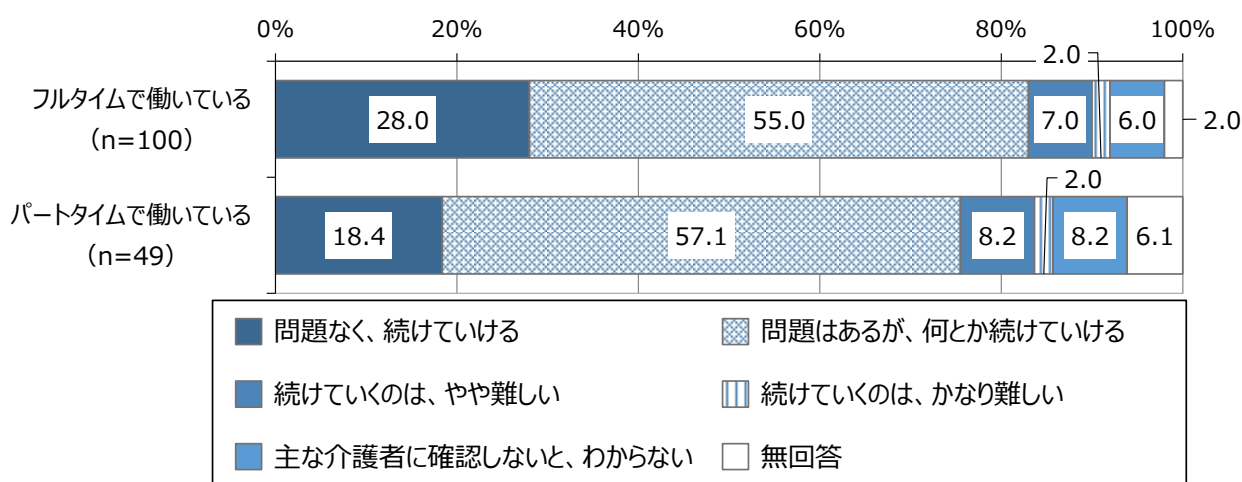
認定状況別でみると、『続けていくのは難しい』（「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」の合計）では、要介護3、要介護5 いずれも20.0%で最も高い状況です。

図表 3-7-21 今後も働きながら介護を続けていけそうか 認定状況別



就労状況別でみると、『続けていくのは難しい』では、「フルタイムで働いている」が9.0%、「パートタイムで働いている」が10.2%です。

図表 3-7-22 今後も働きながら介護を続けていけそうか 就労状況別



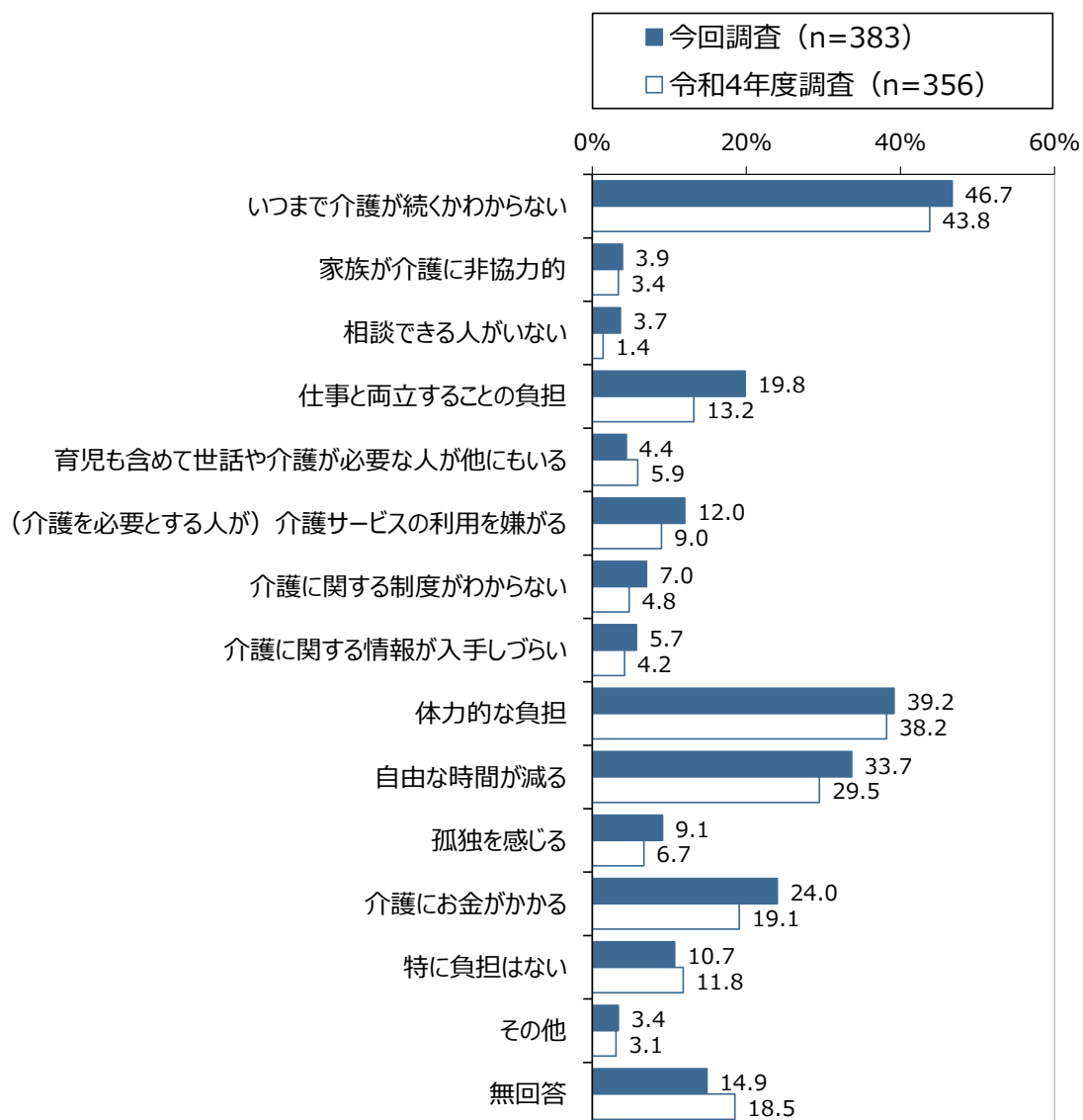
(9) 介護に対して負担に感じること

B-問 18 介護に対して負担に感じることは何ですか。(〇はいくつでも)

介護に対して負担に感じることについては、「いつまで介護が続くかわからない」が 46.7%で最も高く、次いで「体力的な負担」が 39.2%、「自由な時間が減る」が 33.7%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「仕事と両立することの負担」（19.8%）では、令和 4（2022）年度調査（13.2%）より 6.6 ポイント増加しています。

図表 3-7-23 介護に対して負担に感じること



認定状況別でみると、要介護1では「体力的な負担」の割合が最も高く、それ以外の要介護度では「いつまで介護が続くかわからない」の割合が最も高い状況です。

図表 3-7-24 介護に対して負担に感じる事 認定状況別

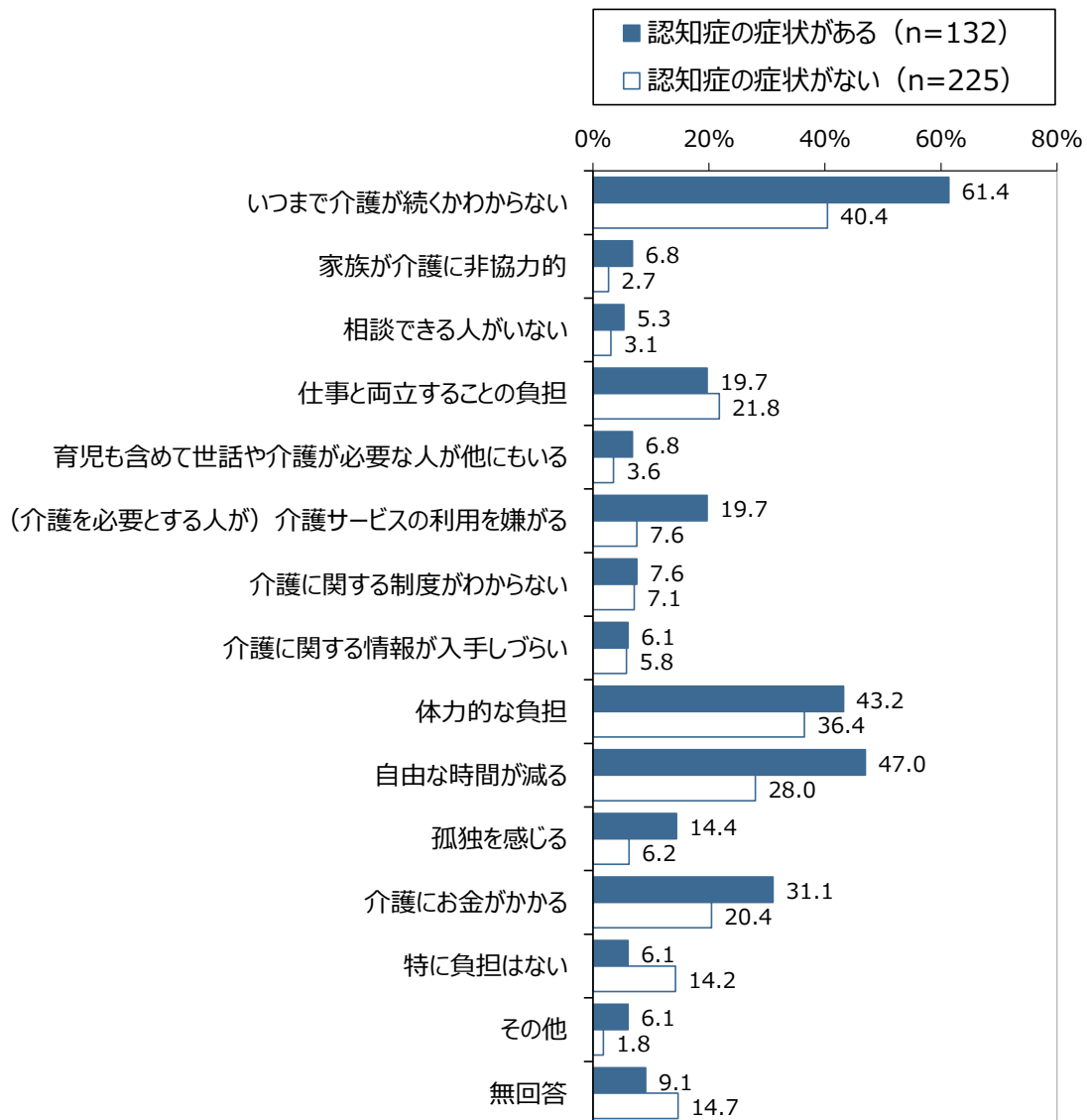
単位：実数（人）、構成比（%）

認定状況別	合計	かいつまでも介護が続くかわ	家族が介護に非協力的	相談できる人がいない	担仕事と両立することの負	が育児も含めて世話や介護	を嫌が（介護を必要とする利用	ら介にないに関する制度がわか	し介にづらに関する情報が入手	体力的な負担	自由な時間が減る	
		全体	383	46.7	3.9	3.7	19.8	4.4	12.0	7.0	5.7	39.2
認定状況別	要支援1	70	30.0	1.4	4.3	21.4	4.3	10.0	5.7	2.9	22.9	25.7
	要支援2	79	43.0	2.5	2.5	16.5	2.5	8.9	7.6	3.8	38.0	22.8
	要介護1	79	43.0	5.1	5.1	16.5	6.3	25.3	8.9	7.6	44.3	30.4
	要介護2	86	51.2	5.8	2.3	20.9	3.5	5.8	4.7	8.1	40.7	41.9
	要介護3	28	64.3	3.6	0.0	28.6	10.7	7.1	10.7	0.0	57.1	35.7
	要介護4	24	70.8	4.2	8.3	25.0	4.2	16.7	8.3	8.3	50.0	62.5
要介護5	17	64.7	5.9	5.9	17.6	0.0	5.9	5.9	11.8	35.3	47.1	
	合計	孤独を感じる	介護にお金がかかる	特に負担はない	その他	無回答						
全体	383	9.1	24.0	10.7	3.4	14.9						
認定状況別	要支援1	70	5.7	12.9	14.3	4.3	22.9					
	要支援2	79	6.3	20.3	16.5	3.8	20.3					
	要介護1	79	7.6	17.7	11.4	3.8	12.7					
	要介護2	86	8.1	26.7	5.8	2.3	15.1					
	要介護3	28	10.7	42.9	3.6	3.6	3.6					
	要介護4	24	29.2	37.5	4.2	0.0	4.2					
要介護5	17	17.6	52.9	11.8	5.9	0.0						

※網掛け■は最も割合が高いもの

認知症の症状の有無別でみると、「いつまで介護が続かわからない」では、認知症の症状がある人が 61.4%で、認知症の症状がない人（40.4%）より 21.0 ポイント高い状況です。

図表 3-7-25 介護に対して負担に感じる事 認知症の症状の有無別

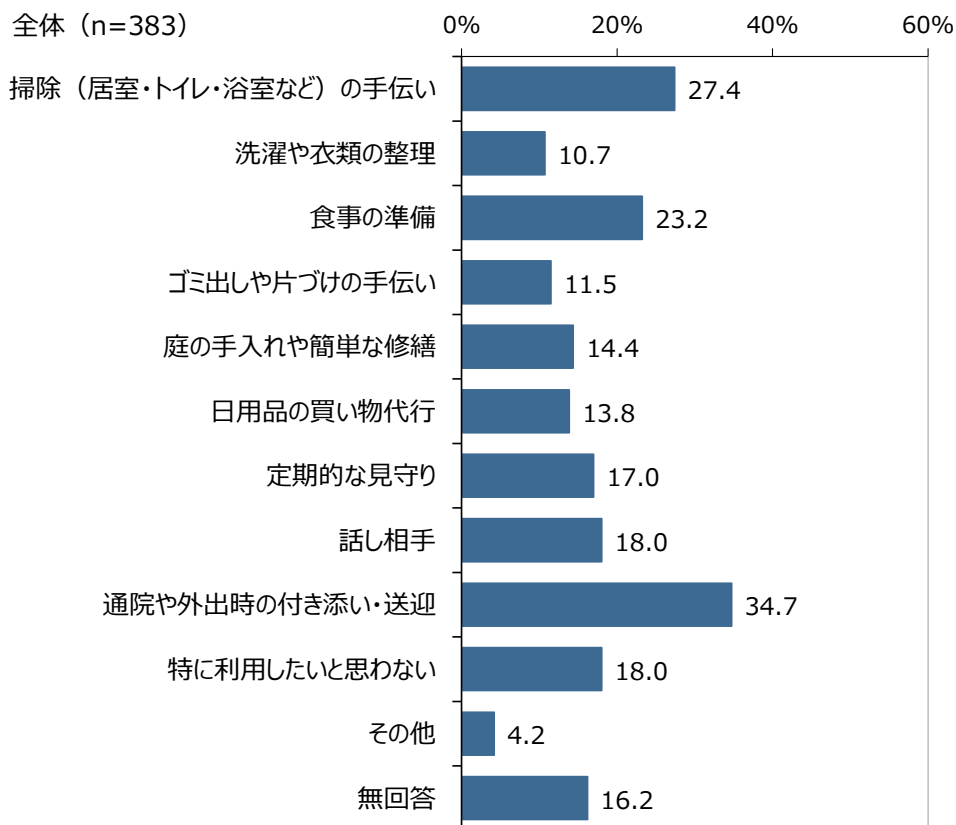


(10) 介護を続ける上で利用したい家事援助サービス

B-問 19	介護を続ける上で、日常生活の負担を軽減するために、どのような家事援助サービスを利用したいと思いますか。（○はいくつでも）
--------	--

介護を続ける上で利用したい家事援助サービスについては、「通院や外出時の付き添い・送迎」が 34.7%で最も高く、次いで「掃除（居室・トイレ・浴室など）の手伝い」が 27.4%、「食事の準備」が 23.2%と続いています。

図表 3-7-26 介護を続ける上で利用したい家事援助サービス



認定状況別でみると、要介護5では、「食事の準備」、「通院や外出時の付き添い・送迎」がいずれも35.3%で最も高い状況です。

区域別でみると、「通院や外出時の付き添い・送迎」では、東区が40.9%で最も高い状況です。

図表 3-7-27 介護を続ける上で利用したい家事援助サービス 属性別

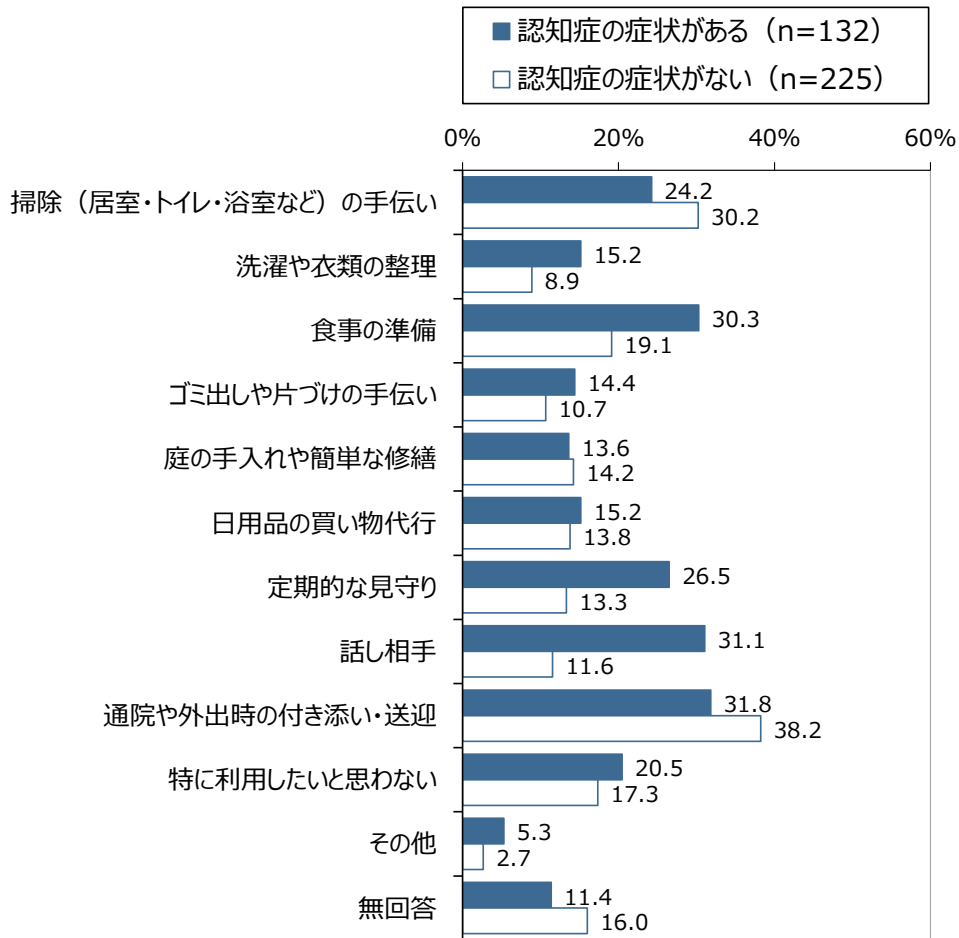
単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	手レ掃	洗濯	食事	のゴミ	な庭	行日	定期	話し	き通	思特	
		伝・除	や衣	の準	手伝	修の	行日	的	し相	添院	わに	
		い浴	や衣	の準	い出	繕手	用品	な見	手	いや	な利	
		（居	類の	備	いし	入れ	の買	守り		外	用し	
		室な	の整		や片	や簡	い物			出	いた	
		ど・ト	理		づけ	単	代			時	いと	
		のイ								の付		
全体	383	27.4	10.7	23.2	11.5	14.4	13.8	17.0	18.0	34.7	18.0	
認定 状況 別	要支援1	70	24.3	8.6	17.1	2.9	14.3	10.0	12.9	15.7	34.3	15.7
	要支援2	79	31.6	13.9	24.1	12.7	15.2	15.2	15.2	12.7	36.7	17.7
	要介護1	79	26.6	8.9	20.3	13.9	15.2	13.9	19.0	25.3	27.8	19.0
	要介護2	86	26.7	11.6	26.7	18.6	17.4	17.4	17.4	12.8	44.2	16.3
	要介護3	28	32.1	10.7	28.6	3.6	7.1	17.9	21.4	25.0	32.1	17.9
	要介護4	24	25.0	8.3	20.8	8.3	4.2	4.2	16.7	16.7	33.3	29.2
	要介護5	17	23.5	11.8	35.3	11.8	17.6	11.8	23.5	35.3	17.6	17.6
区 域 別	堺区	71	35.2	16.9	23.9	16.9	14.1	14.1	18.3	19.7	39.4	19.7
	中区	42	21.4	7.1	28.6	7.1	14.3	11.9	14.3	19.0	26.2	23.8
	東区	44	38.6	11.4	31.8	11.4	20.5	13.6	18.2	20.5	40.9	13.6
	西区	57	21.1	7.0	21.1	10.5	22.8	14.0	12.3	15.8	38.6	21.1
	南区	80	23.8	8.8	16.3	12.5	15.0	11.3	12.5	16.3	28.8	15.0
	北区	69	29.0	11.6	26.1	8.7	5.8	18.8	23.2	20.3	36.2	17.4
	美原区	20	15.0	10.0	15.0	10.0	5.0	10.0	25.0	10.0	30.0	15.0
	合計		そ の 他	無 回 答								
全体	383		4.2	16.2								
認定 状況 別	要支援1	70	10.0	20.0								
	要支援2	79	2.5	21.5								
	要介護1	79	2.5	17.7								
	要介護2	86	3.5	17.4								
	要介護3	28	7.1	3.6								
	要介護4	24	0.0	4.2								
	要介護5	17	0.0	0.0								
区 域 別	堺区	71	5.6	11.3								
	中区	42	4.8	16.7								
	東区	44	2.3	11.4								
	西区	57	5.3	15.8								
	南区	80	2.5	25.0								
	北区	69	4.3	13.0								
	美原区	20	5.0	20.0								

※網掛け■は最も割合が高いもの

認知症の症状の有無別でみると、「話し相手」では、認知症の症状がある人が31.1%で、認知症の症状がない人（11.6%）より19.5ポイント高い状況です。

図表 3-7-28 介護を続ける上で利用したい家事援助サービス 認知症の症状の有無別

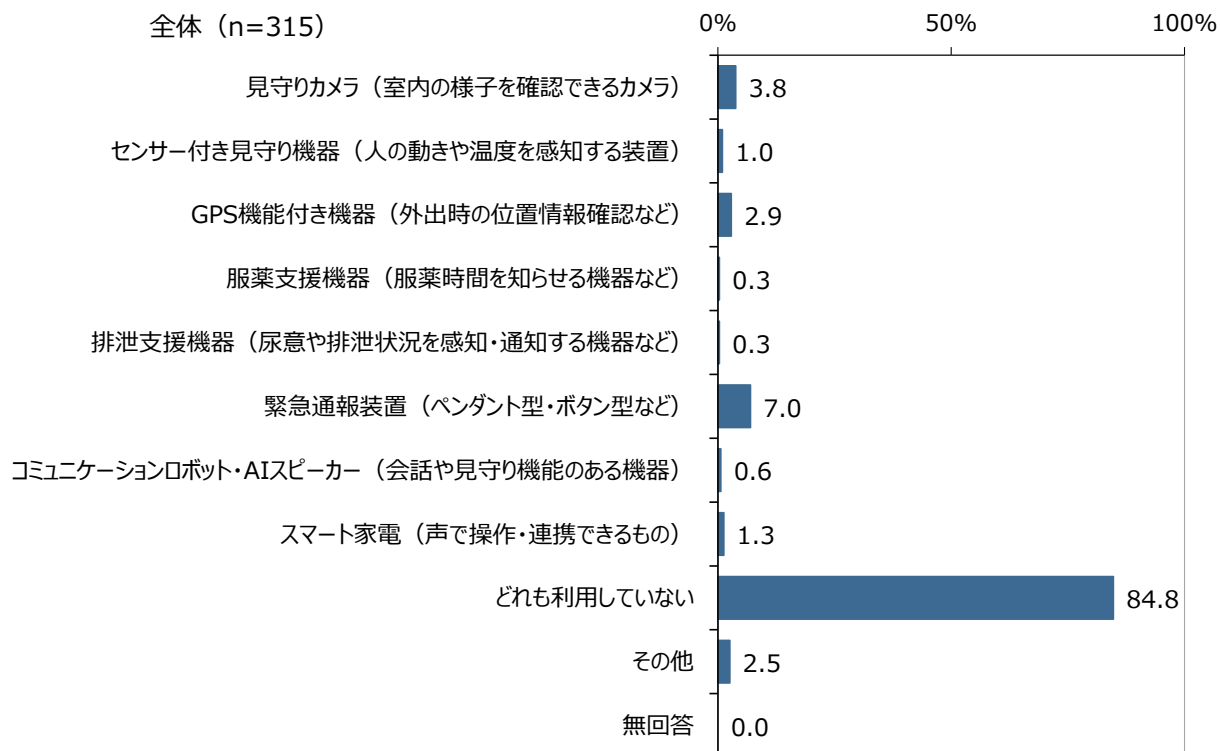


(11) 介護の際に利用している ICT・IoT 機器やサービス

B-問 20	現在、介護の際に利用している ICT・IoT 機器やサービスについて、お教えてください。 (○はいくつでも)
--------	---

介護の際に利用している ICT・IoT 機器やサービスについては、「どれも利用していない」が 84.8%で最も高く、次いで「緊急通報装置（ペンダント型・ボタン型など）」が 7.0%、「見守りカメラ（室内の様子を確認できるカメラ）」が 3.8%と続いています。

図表 3-7-29 介護の際に利用している ICT・IoT 機器やサービス



認定状況別で見ると、すべての要介護度で「どれも利用していない」の割合が最も高い状況です。

世帯類型別で見ると、単身世帯では、「どれも利用していない」を除くと、「緊急通報装置（ペンダント型・ボタン型など）」が 17.0%で最も高い状況です。

図表 3-7-30 介護の際に利用している ICT・IoT 機器やサービス 認定状況別・世帯類型別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	見守りカメラ（室内の様子を確認できるカメラ）	センサー付き見守り機器（人の動きや温度を感知する装置）	GPS機能付き機器（外出時の位置情報確認など）	服薬支援機器（服薬時間を知らせる機器など）	排泄支援機器（尿意や機器排泄状況を感知・通知する機器）	緊急通報装置（ペンダント型・ボタン型など）	や見守り機能のある機器（会話）	コミュニケーション（パソコン・タブレット）	スマートフォン（声で操作・連携できるもの）	どれも利用していない	その他	無回答
全体		315	3.8	1.0	2.9	0.3	0.3	7.0	0.6	1.3	84.8	2.5	0.0	
認定状況別	要支援1	53	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	5.7	1.9	0.0	86.8	5.7	0.0	
	要支援2	61	3.3	0.0	1.6	0.0	0.0	6.6	0.0	0.0	90.2	0.0	0.0	
	要介護1	65	4.6	1.5	6.2	0.0	0.0	12.3	0.0	1.5	72.3	4.6	0.0	
	要介護2	74	5.4	1.4	4.1	1.4	1.4	4.1	0.0	1.4	86.5	1.4	0.0	
	要介護3	25	8.0	4.0	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	8.0	88.0	0.0	0.0	
	要介護4	23	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
世帯類型別	単身世帯	88	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	17.0	0.0	0.0	78.4	2.3	0.0	
	夫婦のみ世帯	90	2.2	1.1	2.2	0.0	0.0	3.3	1.1	0.0	92.2	1.1	0.0	
	その他	119	5.0	1.7	5.0	0.8	0.0	3.4	0.8	3.4	84.0	3.4	0.0	

※網掛け■は最も割合が高いもの

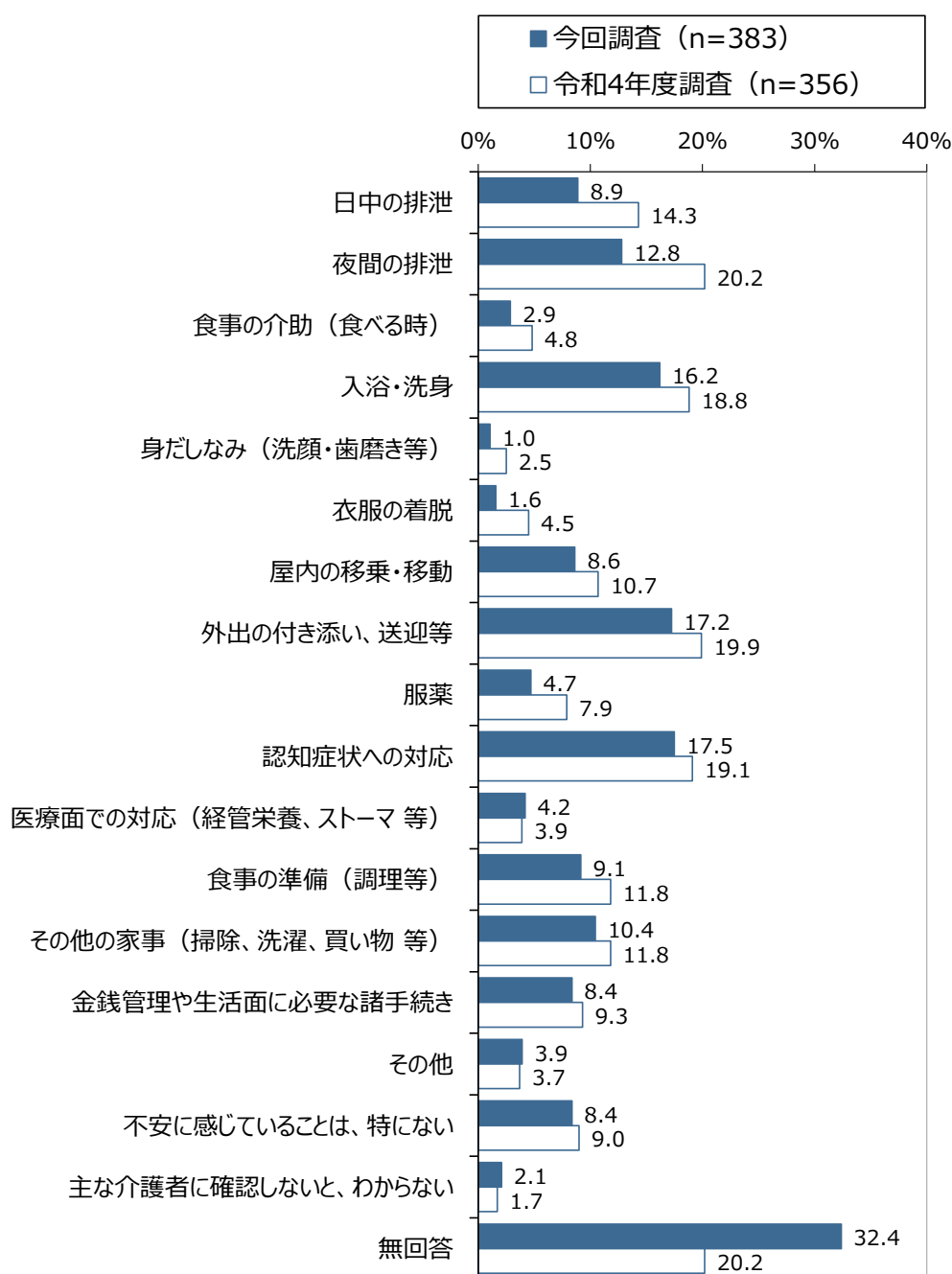
(12) 現在の生活を継続するにあたり主な介護者が不安を感じる介護

B-問 21	現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、お教えください（現状で行っているか否かは問いません）。（○は3つまで）
--------	---

現在の生活を継続するにあたり主な介護者が不安を感じる介護については、「認知症状への対応」が17.5%で最も高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が17.2%、「入浴・洗身」が16.2%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「夜間の排泄」（12.8%）では、令和4（2022）年度調査（20.2%）より7.4ポイント減少しています。

図表 3-7-31 現在の生活を継続するにあたり主な介護者が不安を感じる介護



認定状況別でみると、「認知症状への対応」では、要介護4が33.3%で最も高い状況です。

図表 3-7-32 現在の生活を継続するに当たり主な介護者が不安に感じる介護 認定状況別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	顔身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	送迎等の付き添い、	服薬	認知症状への対応
全体		383	8.9	12.8	2.9	16.2	1.0	1.6	8.6	17.2	4.7	17.5
認定状況別	要支援1	70	2.9	5.7	1.4	7.1	0.0	0.0	5.7	22.9	4.3	10.0
	要支援2	79	6.3	6.3	0.0	13.9	0.0	1.3	12.7	17.7	5.1	7.6
	要介護1	79	7.6	16.5	2.5	20.3	1.3	2.5	5.1	21.5	5.1	30.4
	要介護2	86	10.5	18.6	2.3	20.9	2.3	2.3	8.1	14.0	7.0	10.5
	要介護3	28	21.4	14.3	3.6	21.4	3.6	0.0	17.9	10.7	3.6	32.1
	要介護4	24	12.5	25.0	8.3	20.8	0.0	4.2	8.3	16.7	0.0	33.3
	要介護5	17	17.6	5.9	17.6	5.9	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	23.5
		合計	ト（経管栄養等）	医療面での対応	食事の準備（調理等）	除、洗濯、買い物	その他	金銭管理や生活面	不安に感じている	なし	主な介護者に確認	無回答
全体		383	4.2	9.1	10.4	8.4	3.9	8.4	2.1	32.4		
認定状況別	要支援1	70	4.3	11.4	11.4	5.7	2.9	8.6	7.1	41.4		
	要支援2	79	3.8	7.6	11.4	12.7	1.3	10.1	1.3	39.2		
	要介護1	79	1.3	7.6	12.7	5.1	5.1	6.3	0.0	27.8		
	要介護2	86	4.7	10.5	10.5	7.0	3.5	8.1	1.2	30.2		
	要介護3	28	7.1	7.1	7.1	10.7	3.6	7.1	0.0	25.0		
	要介護4	24	4.2	8.3	8.3	8.3	8.3	4.2	0.0	20.8		
	要介護5	17	11.8	11.8	0.0	17.6	11.8	17.6	5.9	23.5		

※網掛け■は最も割合が高いもの

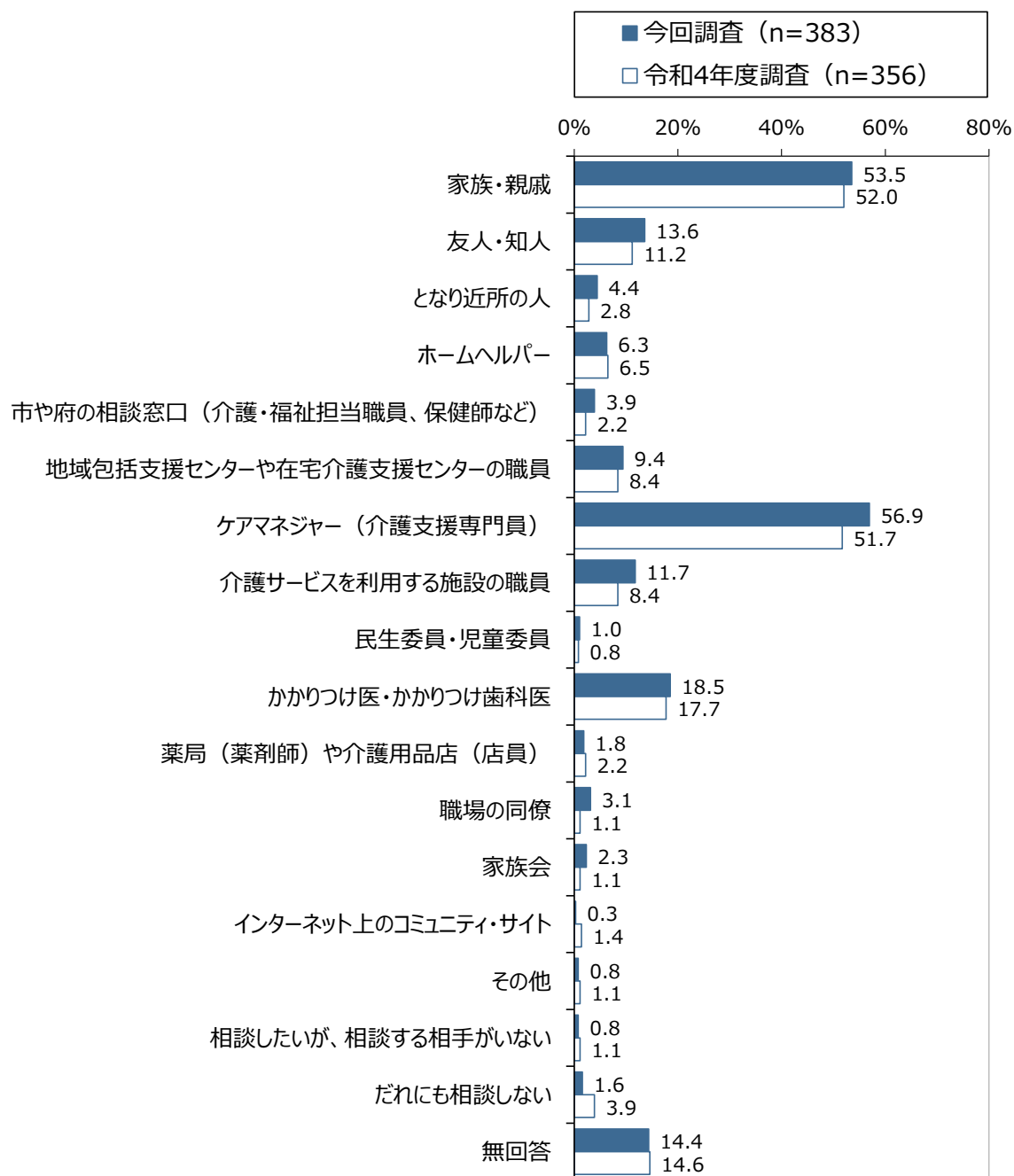
(13) 介護に困ったときの相談相手

B-問 22 介護に困ったときだれに相談していますか。(〇はいくつでも)

介護に困ったときの相談相手については、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」が 56.9%で最も高く、次いで「家族・親戚」が 53.5%、「かかりつけ医・かかりつけ歯科医」が 18.5%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「ケアマネジャー（介護支援専門員）」（56.9%）では、令和 4（2022）年度調査（51.7%）より 5.2 ポイント増加しています。

図表 3-7-33 介護に困ったときの相談相手



認定状況別で見ると、要支援1、要支援2では「家族・親戚」の割合が最も高く、要介護1～要介護5では「ケアマネジャー（介護支援専門員）」の割合が最も高い状況です。

区域別で見ると、「地域包括支援センターや在宅介護支援センターの職員」では、南区が11.3%で最も高い状況です。

図表 3-7-34 介護に困ったときの相談相手 属性別

単位：実数（人）、構成比（%）

認定状況別	合計	家族・親戚	友人・知人	となり近所の人	ホームヘルパー	員（介護士・保健師など）	市や府の相談窓口	センターや在宅介護支援	地域包括支援センター	ケアマネジャー（介護支援専門員）	介護施設の利用	民生委員・児童委員	かかりつけ医・かかりつけ歯科医
		全体	383	53.5	13.6	4.4	6.3	3.9	9.4	56.9	11.7	1.0	18.5
認定状況別	要支援1	70	51.4	12.9	4.3	4.3	4.3	14.3	42.9	5.7	1.4	15.7	
	要支援2	79	54.4	13.9	1.3	7.6	3.8	8.9	45.6	8.9	1.3	20.3	
	要介護1	79	58.2	17.7	7.6	2.5	5.1	7.6	59.5	7.6	1.3	16.5	
	要介護2	86	50.0	11.6	5.8	5.8	3.5	9.3	61.6	14.0	1.2	19.8	
	要介護3	28	60.7	14.3	3.6	10.7	7.1	10.7	78.6	21.4	0.0	10.7	
	要介護4	24	50.0	8.3	4.2	4.2	0.0	0.0	79.2	20.8	0.0	16.7	
区域別	堺区	71	52.1	18.3	4.2	5.6	2.8	9.9	59.2	9.9	0.0	22.5	
	中区	42	42.9	7.1	2.4	7.1	0.0	7.1	45.2	21.4	0.0	9.5	
	東区	44	63.6	25.0	6.8	4.5	6.8	9.1	68.2	6.8	2.3	13.6	
	西区	57	49.1	12.3	5.3	10.5	3.5	10.5	59.6	12.3	1.8	22.8	
	南区	80	51.3	10.0	3.8	6.3	6.3	11.3	56.3	8.8	0.0	16.3	
	北区	69	65.2	10.1	5.8	4.3	2.9	7.2	53.6	13.0	1.4	18.8	
	美原区	20	40.0	15.0	0.0	5.0	5.0	10.0	55.0	15.0	5.0	30.0	
	合計	介護用品（薬剤師）や介護局（店員）	職場の同僚	家族会	コミュニティネットの	その他	相談したいが、相談	だれにも相談しない	無回答				
全体	383	1.8	3.1	2.3	0.3	0.8	0.8	1.6	14.4				
認定状況別	要支援1	70	1.4	1.4	2.9	0.0	1.4	2.9	0.0	18.6			
	要支援2	79	1.3	5.1	2.5	0.0	1.3	0.0	1.3	20.3			
	要介護1	79	1.3	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0	3.8	12.7			
	要介護2	86	2.3	1.2	1.2	1.2	0.0	0.0	2.3	12.8			
	要介護3	28	3.6	3.6	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1			
	要介護4	24	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	4.2	0.0	4.2			
区域別	堺区	71	2.8	2.8	4.2	0.0	0.0	0.0	1.4	12.7			
	中区	42	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	2.4	2.4	16.7			
	東区	44	2.3	4.5	0.0	0.0	2.3	2.3	0.0	9.1			
	西区	57	1.8	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	15.8			
	南区	80	2.5	2.5	3.8	0.0	1.3	1.3	1.3	15.0			
	北区	69	0.0	7.2	2.9	1.4	1.4	0.0	2.9	14.5			
	美原区	20	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0			

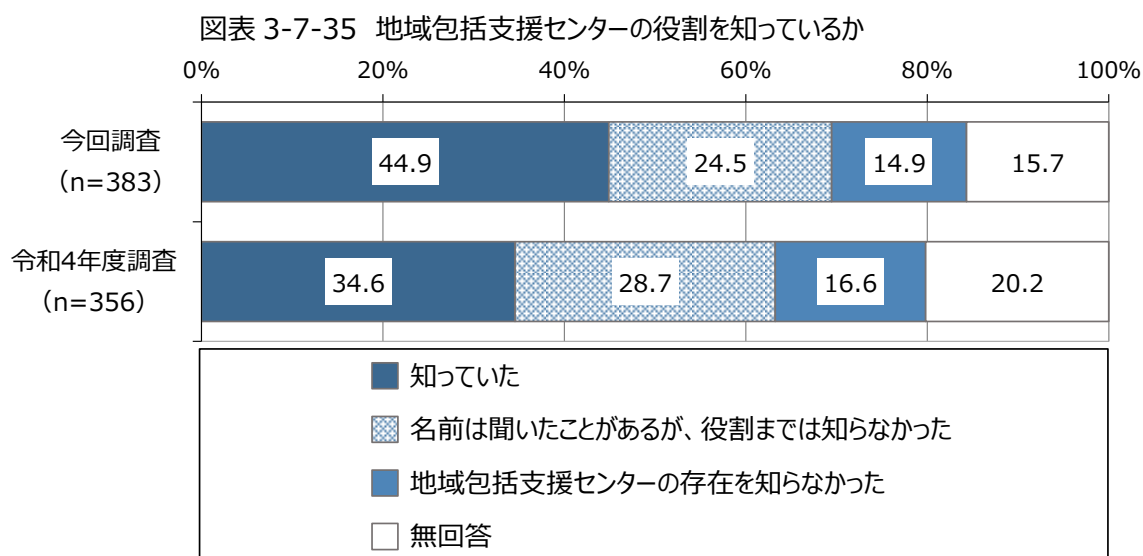
※網掛け■は最も割合が高いもの

(14) 地域包括支援センターの役割を知っているか

B-問 23	地域包括支援センターは、高齢者の方々が住みなれた地域で安心して暮らしていけるよう、介護・福祉・健康など、さまざまな面から総合的に相談や支援を行う役割を担っていますが、この役割を知っていましたか。（○はひとつ）
--------	--

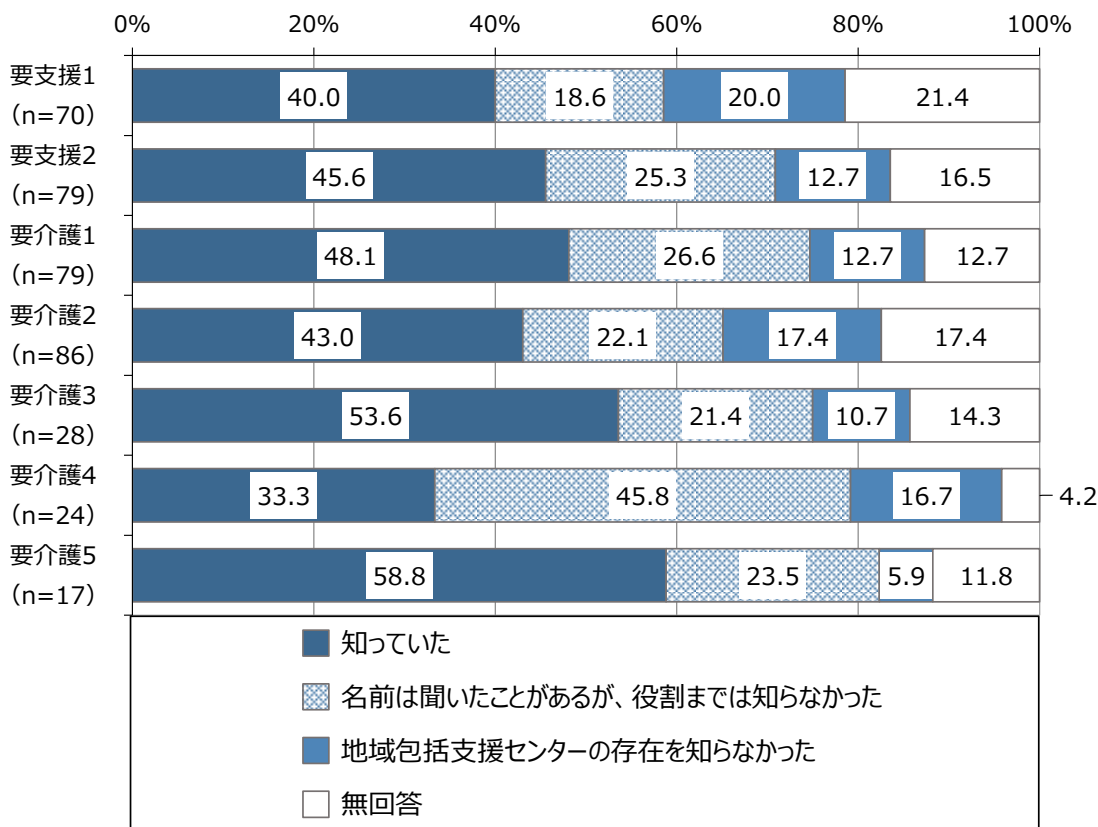
地域包括支援センターの役割を知っているかについては、「知っていた」が 44.9%で最も高く、次いで「名前は聞いたことがあるが、役割までは知らなかった」が 24.5%、「地域包括支援センターの存在を知らなかった」が 14.9%です。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「知っていた」（44.9%）では、令和 4（2022）年度調査（34.6%）より 10.3 ポイント増加しています。



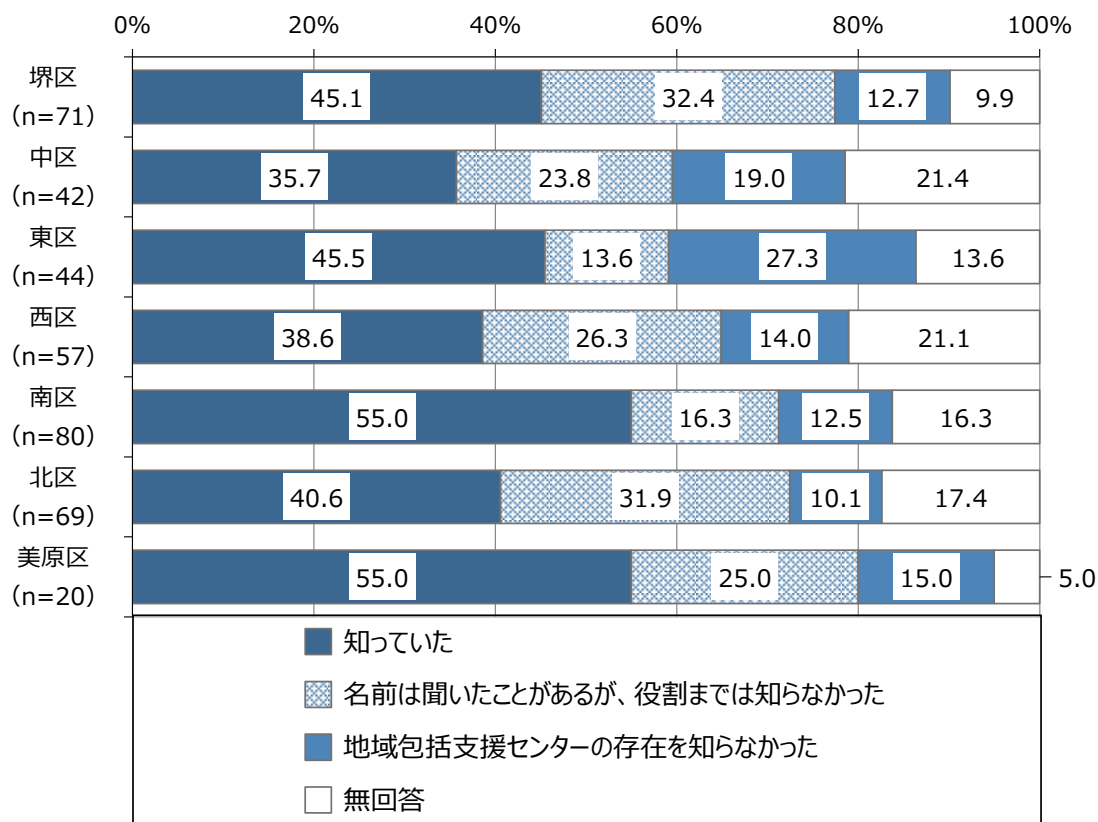
認定状況別でみると、「知っていた」では、要介護5が58.8%で最も高い状況です。

図表 3-7-36 地域包括支援センターの役割を知っているか 認定状況別



区域別でみると、「知っていた」では、南区、美原区がいずれも55.0%で最も高い状況です。

図表 3-7-37 地域包括支援センターの役割を知っているか 区域別



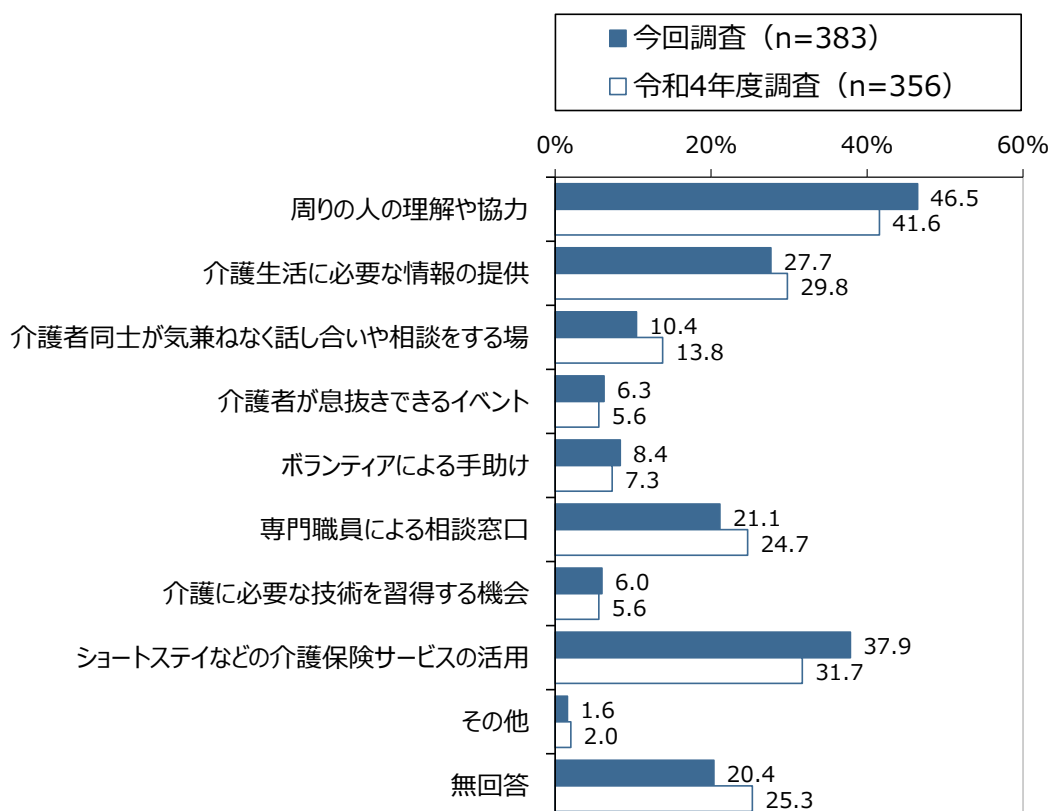
(15) 介護する人の介護疲れやストレスケアのために必要だと思うこと

B-問 24	家族を介護する人の介護疲れやストレスのケアをするためには、何が必要だと思いますか。 (○は3つまで)
--------	---

介護する人の介護疲れやストレスケアのために必要だと思うことについては、「周りの人の理解や協力」が46.5%で最も高く、次いで「ショートステイなどの介護保険サービスの活用」が37.9%、「介護生活に必要な情報の提供」が27.7%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「周りの人の理解や協力」（46.5%）では、令和4（2022）年度調査（41.6%）より4.9ポイント増加しています。

図表 3-7-38 介護する人の介護疲れやストレスケアのために必要だと思うこと



※ 今回調査の「ショートステイなどの介護保険サービスの活用」は、令和4（2022）年度調査では「ショートステイ」

認定状況別で見ると、要支援 1～要介護 3 では「周りの人の理解や協力」の割合が最も高く、要介護 4 では「ショートステイなどの介護保険サービスの活用」の割合が最も高く、要介護 5 では「介護生活に必要な情報の提供」の割合が最も高い状況です。

図表 3-7-39 介護する人の介護疲れやストレスケアのために必要だと思うこと 認定状況別

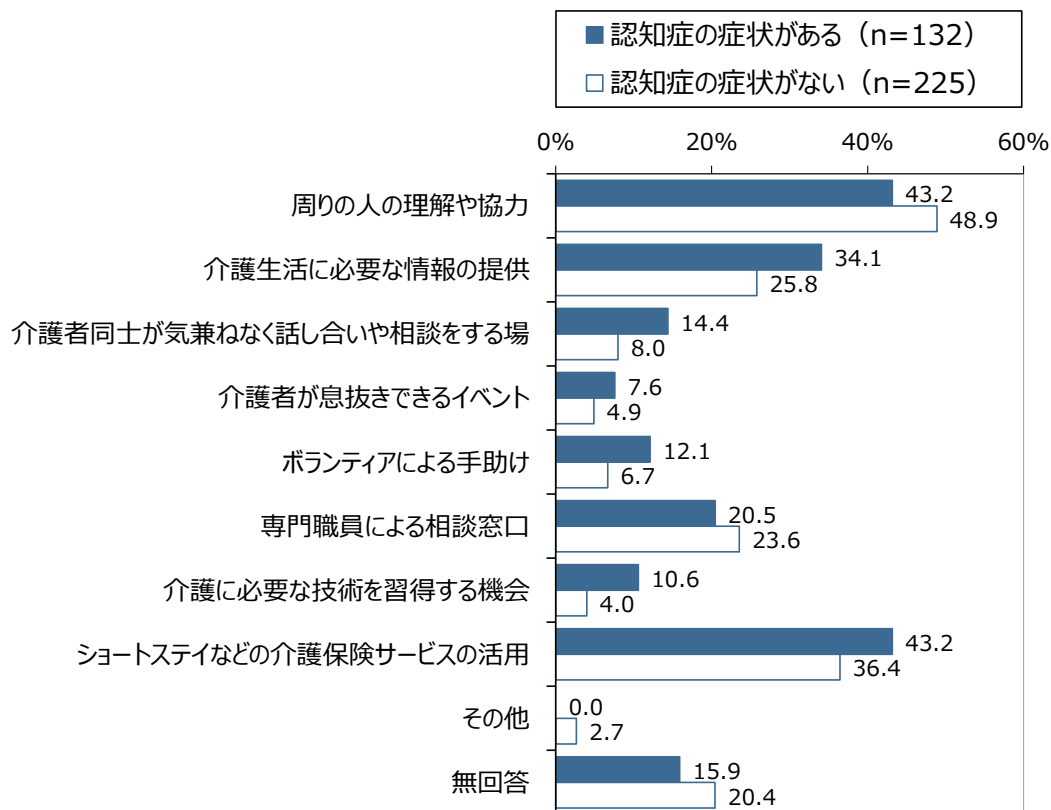
単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	周りの人の理解や協力	介護生活に必要な情報の提供	介護者同士が気兼ねなく話し合いや相談をする場	介護者が息抜きできるイベント	ボランティアによる手助け	専門職員による相談窓口	介護に必要な技術を習得する機会	ショートステイなどの介護保険サービスの活用	その他	無回答	
全体	383	46.5	27.7	10.4	6.3	8.4	21.1	6.0	37.9	1.6	20.4	
認定状況別	要支援1	70	45.7	21.4	10.0	7.1	4.3	18.6	4.3	37.1	1.4	28.6
	要支援2	79	46.8	27.8	7.6	5.1	5.1	20.3	3.8	24.1	0.0	27.8
	要介護1	79	49.4	29.1	12.7	5.1	10.1	17.7	6.3	36.7	0.0	20.3
	要介護2	86	48.8	26.7	10.5	8.1	10.5	22.1	5.8	46.5	3.5	15.1
	要介護3	28	42.9	35.7	7.1	0.0	10.7	35.7	14.3	39.3	0.0	7.1
	要介護4	24	37.5	16.7	8.3	8.3	8.3	20.8	4.2	54.2	4.2	12.5
要介護5	17	41.2	52.9	23.5	11.8	17.6	23.5	11.8	41.2	5.9	11.8	

※網掛け■は最も割合が高いもの

認知症の症状の有無別で見ると、認知症の症状がある人では「周りの人の理解や協力」、「ショートステイなどの介護保険サービスの活用」がいずれも43.2%で最も高い状況です。

図表 3-7-40 介護する人の介護疲れやストレスケアのために必要だと思うこと 認知症の症状の有無別



第4章 介護事業者調査結果

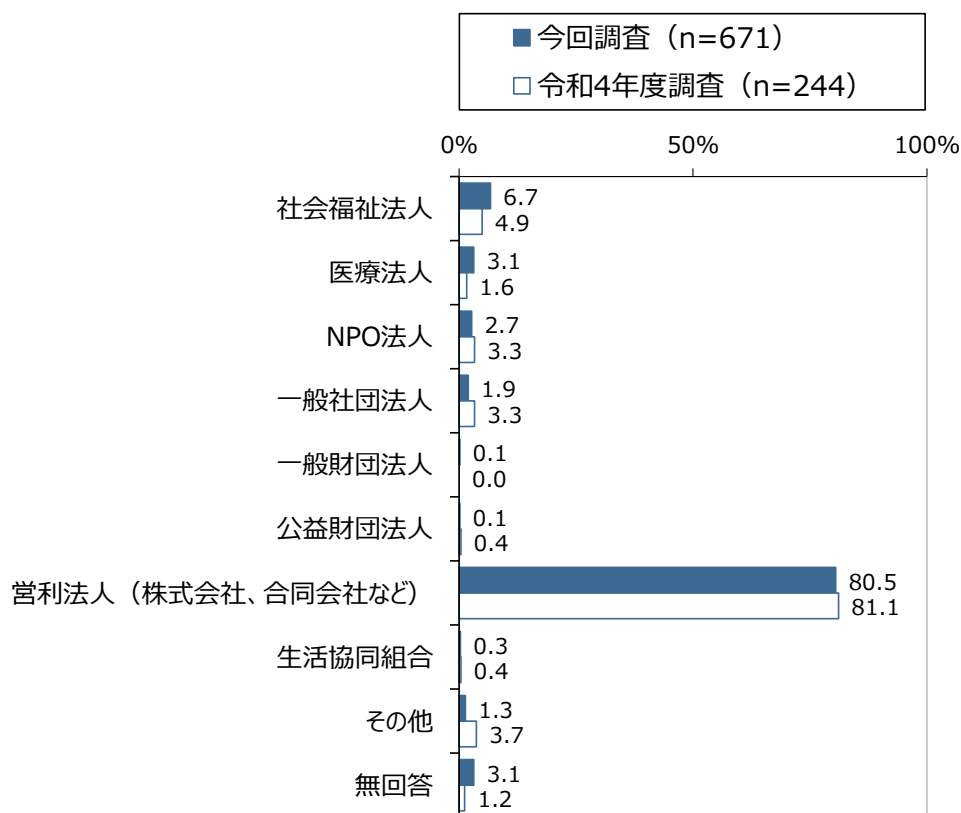
1 回答事業者の状況や実施事業について

(1) 法人の種類

問1	法人の種類をお教えてください。(○はひとつ)
----	------------------------

法人の種類については、「営利法人（株式会社、合同会社など）」が80.5%で最も高く、次いで「社会福祉法人」が6.7%、「医療法人」が3.1%と続いています。

図表 4-1-1 法人の種類



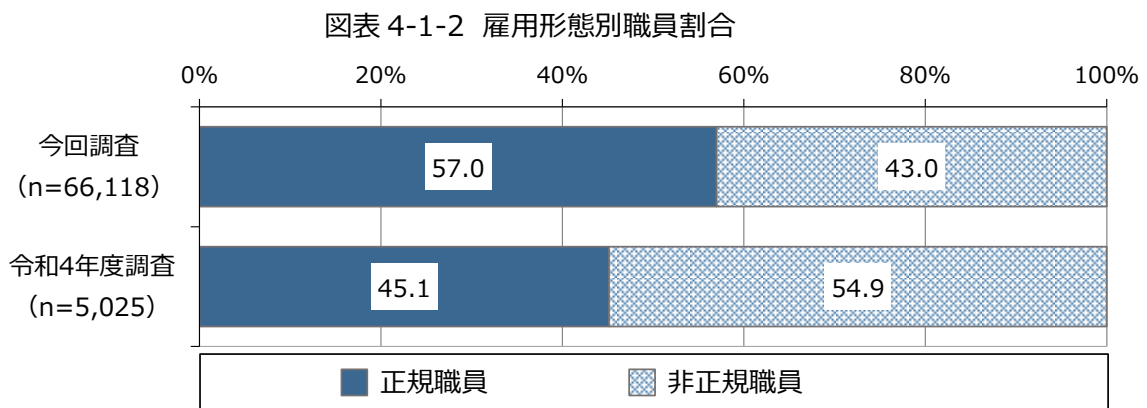
(2) 職員の状況

問 2	貴法人の職員状況について、勤続年数別及び年齢別に職員数を記入してください。 ※職員数については、令和7年4月1日現在の人数を記入してください。
-----	--

① 雇用形態別職員割合

雇用形態別職員割合については、「正規職員」が57.0%、「非正規職員」が43.0%です。

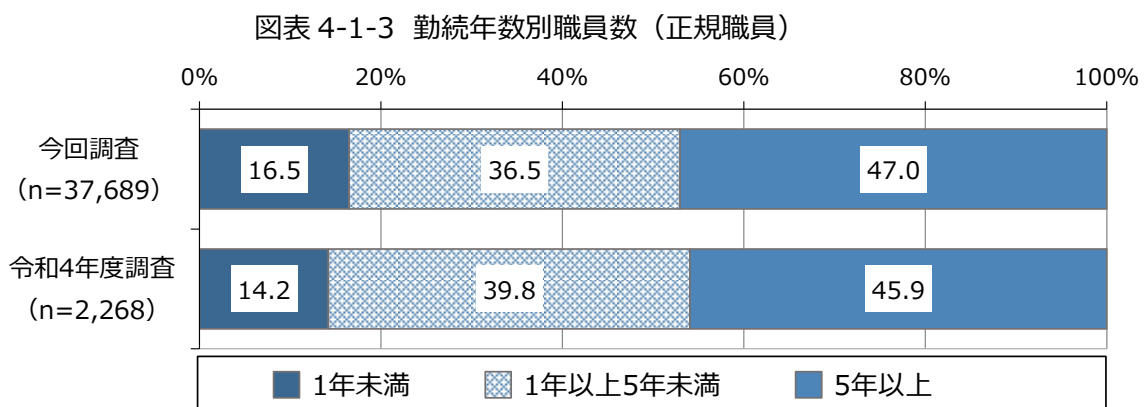
令和4（2022）年度調査と比較すると、「正規職員」（57.0%）では、令和4（2022）年度調査（45.1%）より11.9ポイント増加しています。



② 勤続年数別職員数（正規職員）

勤続年数別職員数（正規職員）については、「5年以上」が47.0%で最も高く、次いで「1年以上5年未満」が36.5%、「1年未満」が16.5%です。

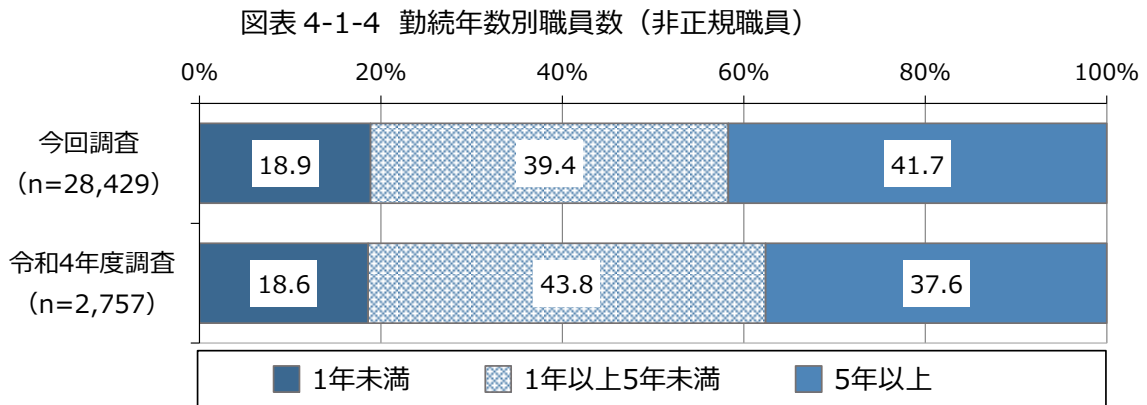
令和4（2022）年度調査と比較すると、「1年以上5年未満」（36.5%）では、令和4（2022）年度調査（39.8%）より3.3ポイント減少しています。



③ 勤続年数別職員数（非正規職員）

勤続年数別職員数（非正規職員）については、「5年以上」が41.7%で最も高く、次いで「1年以上5年未満」が39.4%、「1年未満」が18.9%です。

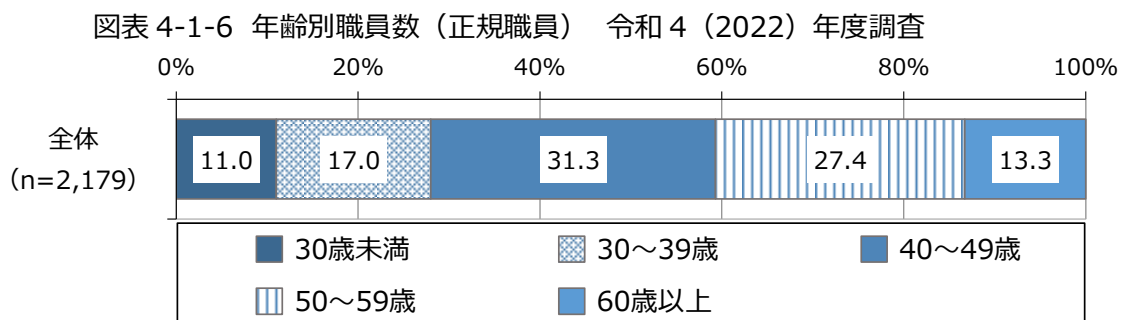
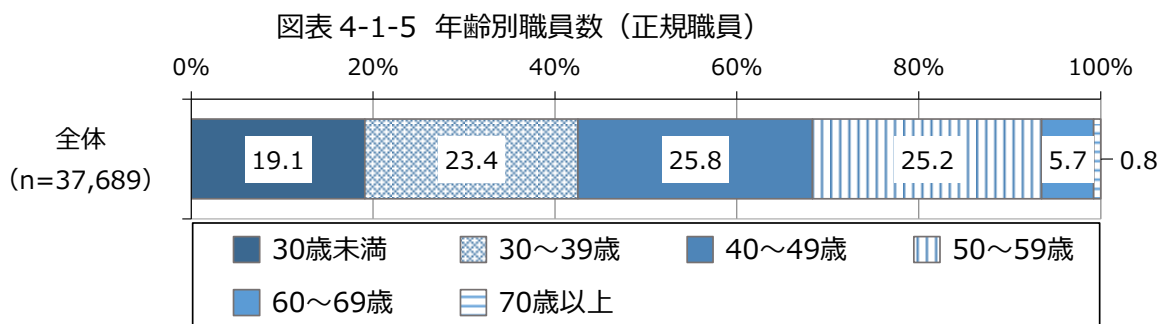
令和4（2022）年度調査と比較すると、「5年以上」（41.7%）では、令和4（2022）年度調査（37.6%）より4.1ポイント増加しています。



④ 年齢別職員数（正規職員）

年齢別職員数（正規職員）については、「40～49歳」が25.8%で最も高く、次いで「50～59歳」が25.2%、「30～39歳」が23.4%と続いています。

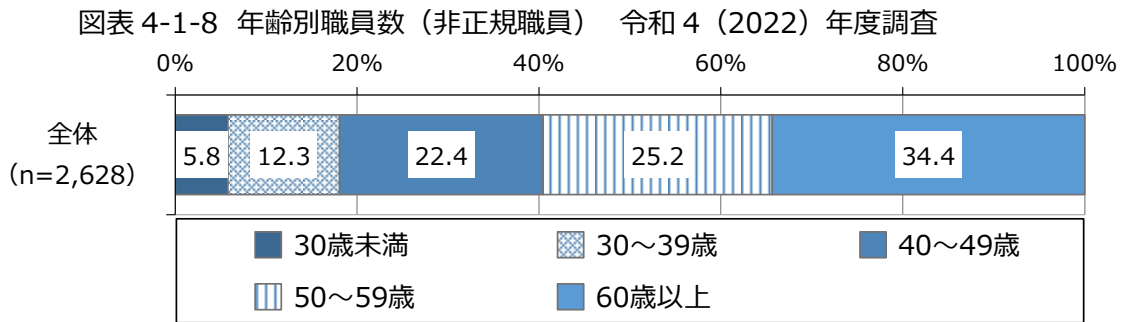
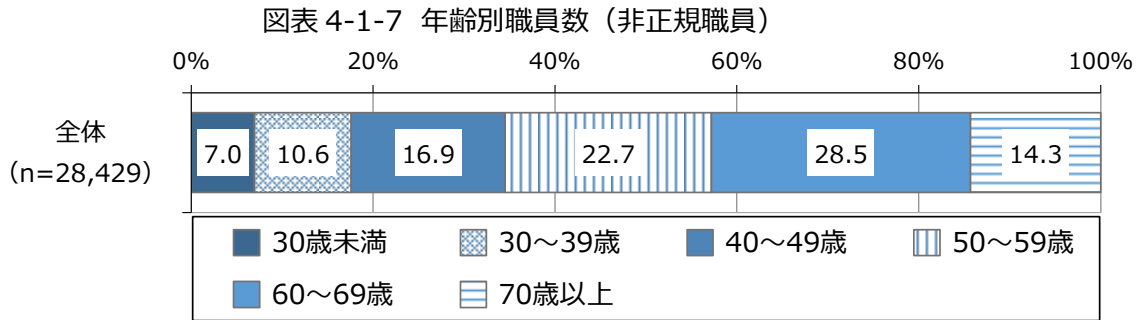
令和4（2022）年度調査と比較すると、「30歳未満」（19.1%）では、令和4（2022）年度調査（11.0%）より8.1ポイント増加しています。



⑤ 年齢別職員数（非正規職員）

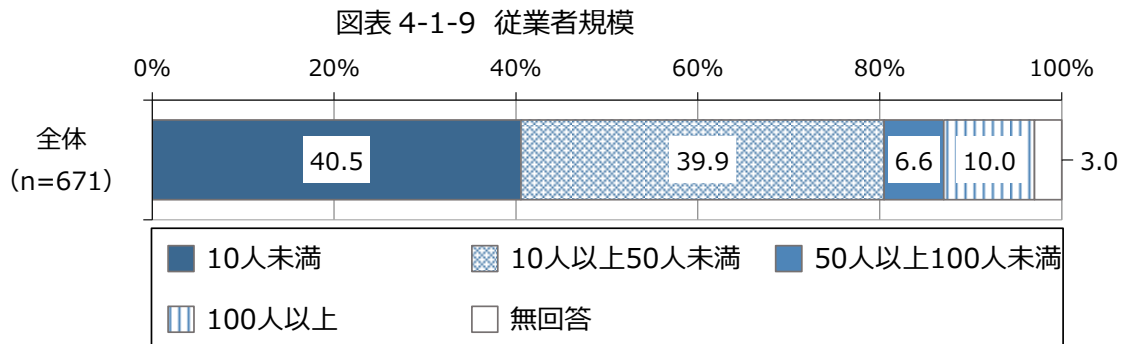
年齢別職員数（非正規職員）については、「60～69 歳」が 28.5%で最も高く、次いで「50～59 歳」が 22.7%、「40～49 歳」が 16.9%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、『60 歳以上』（42.8%）では、令和 4（2022）年度調査（34.4%）より 8.4 ポイント増加しています。



⑥ 従業者規模

従業者規模については、「10 人未満」が 40.5%で最も高く、次いで「10 人以上 50 人未満」が 39.9%、「100 人以上」が 10.0%と続いています。



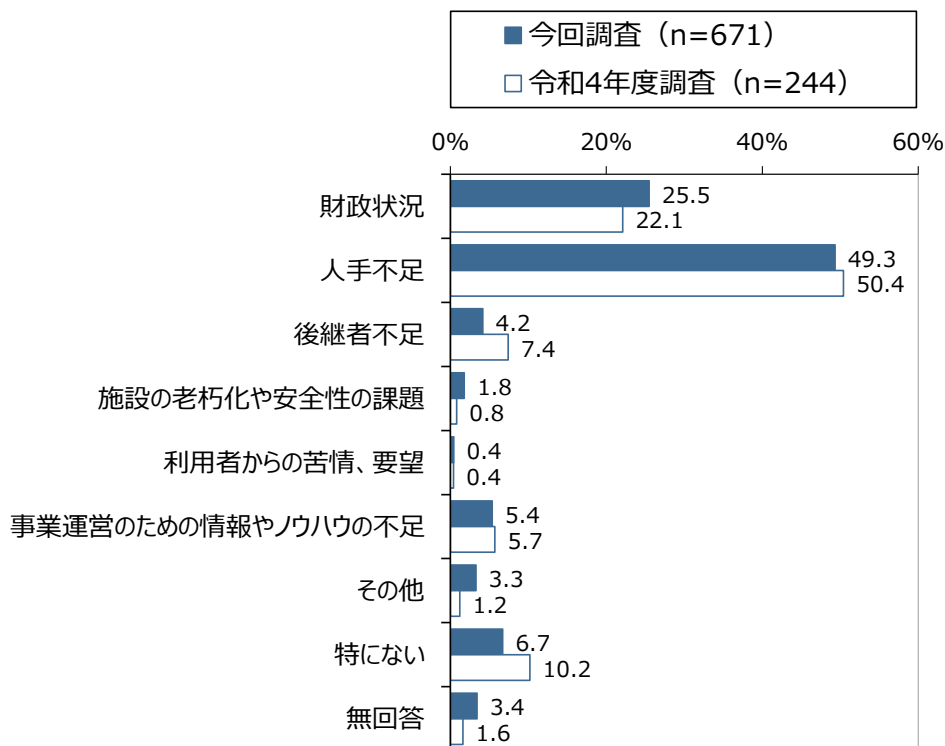
(3) 事業運営している中で最も課題に感じていること

問 3	現在、事業運営している中で、最も課題に感じていることは何ですか。(〇はひとつ)
-----	---

事業運営している中で最も課題に感じていることについては、「人手不足」が 49.3%で最も高く、次いで「財政状況」が 25.5%、「特にない」が 6.7%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「財政状況」（25.5%）では、令和 4（2022）年度調査（22.1%）より 3.4 ポイント増加しています。

図表 4-1-10 事業運営している中で最も課題に感じていること



法人の種類別でみると、「財政状況」では、医療法人が 38.1%で最も高く、「事業運営のための情報やノウハウの不足」では、NPO法人が 16.7%で最も高い状況です。

従業者規模別でみると、「人手不足」では、従業者の規模が大きくなるにつれて割合が増加しており、100人以上の事業者が 65.7%で最も高い状況です。

図表 4-1-11 事業運営している中で最も課題に感じていること 法人の種類別・従業者規模別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	財政状況	人手不足	後継者不足	全施性の設の老朽化や安	情利用、要者からの苦	不情事その特に無	足報業運のたに回	足報業運のたに回	足報業運のたに回
全体		671	25.5	49.3	4.2	1.8	0.4	5.4	3.3	6.7	3.4
法人の種類別	社会福祉法人	45	31.1	48.9	2.2	15.6	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0
	医療法人	21	38.1	38.1	9.5	9.5	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0
	NPO法人	18	11.1	55.6	5.6	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	11.1
	営利法人	540	25.7	49.3	3.7	0.4	0.6	5.6	3.9	7.6	3.3
	その他	26	19.2	61.5	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	3.8	0.0
従業者規模別	10人未満	272	28.7	37.5	4.8	0.4	1.1	11.4	4.0	8.8	3.3
	10人以上50人未満	268	25.7	55.2	4.1	0.7	0.0	1.1	2.2	6.7	4.1
	50人以上100人未満	44	20.5	59.1	2.3	9.1	0.0	0.0	2.3	2.3	4.5
	100人以上	67	14.9	65.7	3.0	7.5	0.0	1.5	4.5	3.0	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

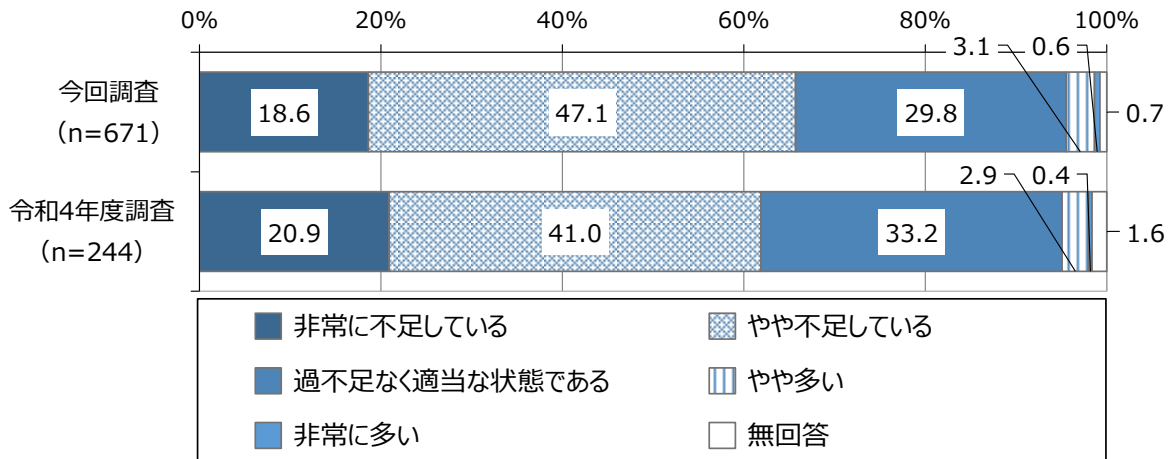
(4) サービス提供状況からみて職員数の過不足はあるか

問 4	現在のサービス提供状況からみて、職員数の過不足はありますか。(○はひとつ)
-----	---------------------------------------

サービス提供状況からみて職員数の過不足はあるかについては、「やや不足している」が47.1%で最も高く、次いで「過不足なく適当な状態である」が29.8%、「非常に不足している」が18.6%と続いています。

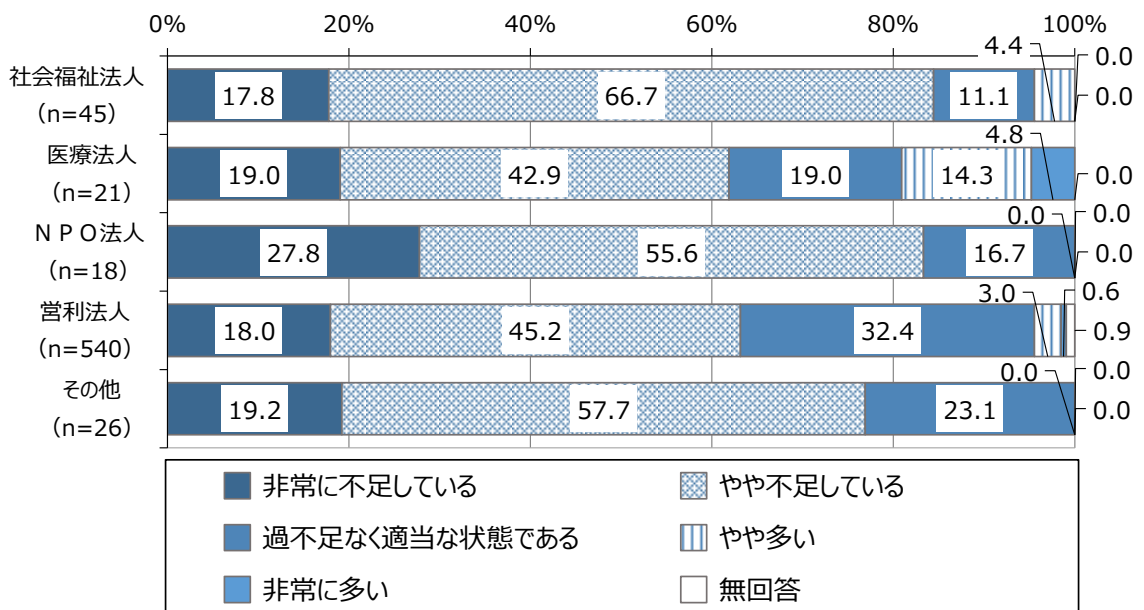
令和4（2022）年度調査と比較すると、『不足している』（「非常に不足している」と「やや不足している」の合計）（65.7%）では、令和4（2022）年度調査（61.9%）より3.8ポイント増加しています。

図表 4-1-12 サービス提供状況からみて職員数の過不足はあるか

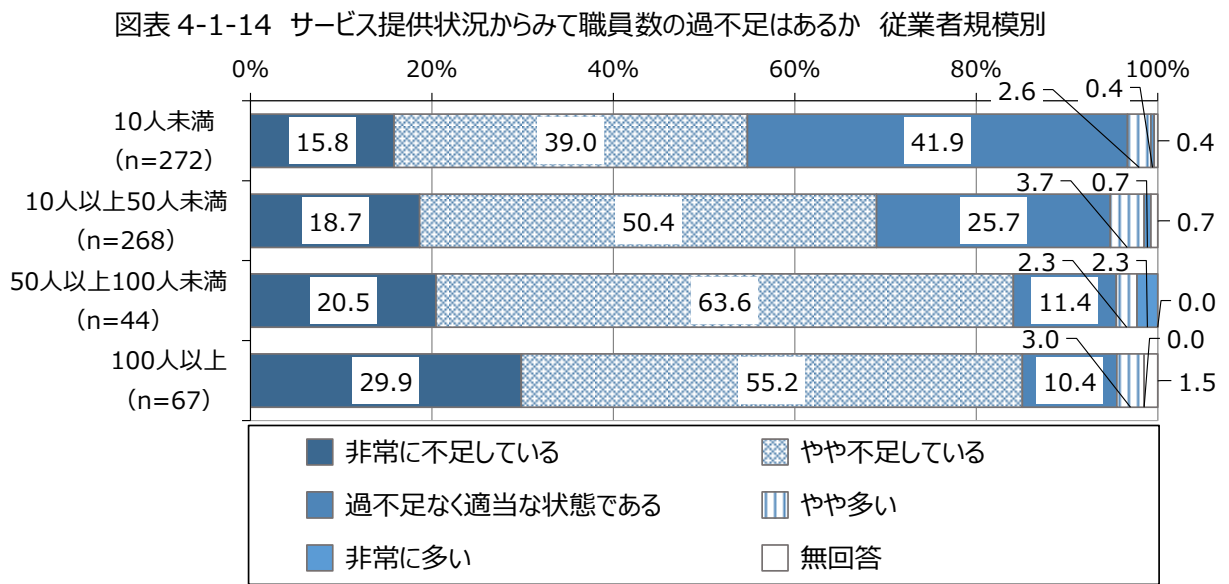


法人の種類別でみると、『不足している』では、社会福祉法人が84.5%で最も高い状況です。

図表 4-1-13 サービス提供状況からみて職員数の過不足はあるか 法人の種類別



従業者規模別でみると、『不足している』では、従業者の規模が大きくなるにつれて割合が増加しており、100人以上の事業者が85.1%で最も高い状況です。

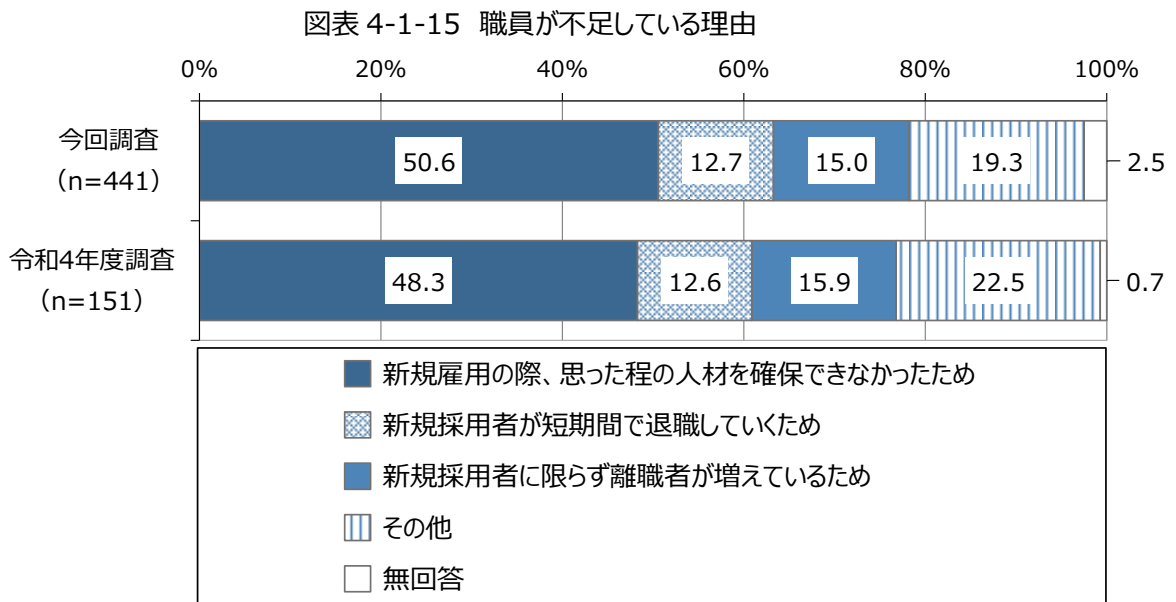


(5) 職員が不足している理由

問 4-1	問 4 で「1. 非常に不足している」「2. やや不足している」と回答した法人にお伺いします。 職員数が不足している主な理由は何ですか。（○はひとつ）
-------	--

職員が不足している理由については、「新規雇用の際、思った程の人材を確保できなかったため」が 50.6%で最も高く、次いで「その他」（「そもそも応募がない」、「財務・人件費制約」、「利用者増加・需要超過」など）が 19.3%、「新規採用者に限らず離職者が増えているため」が 15.0%と続いています。

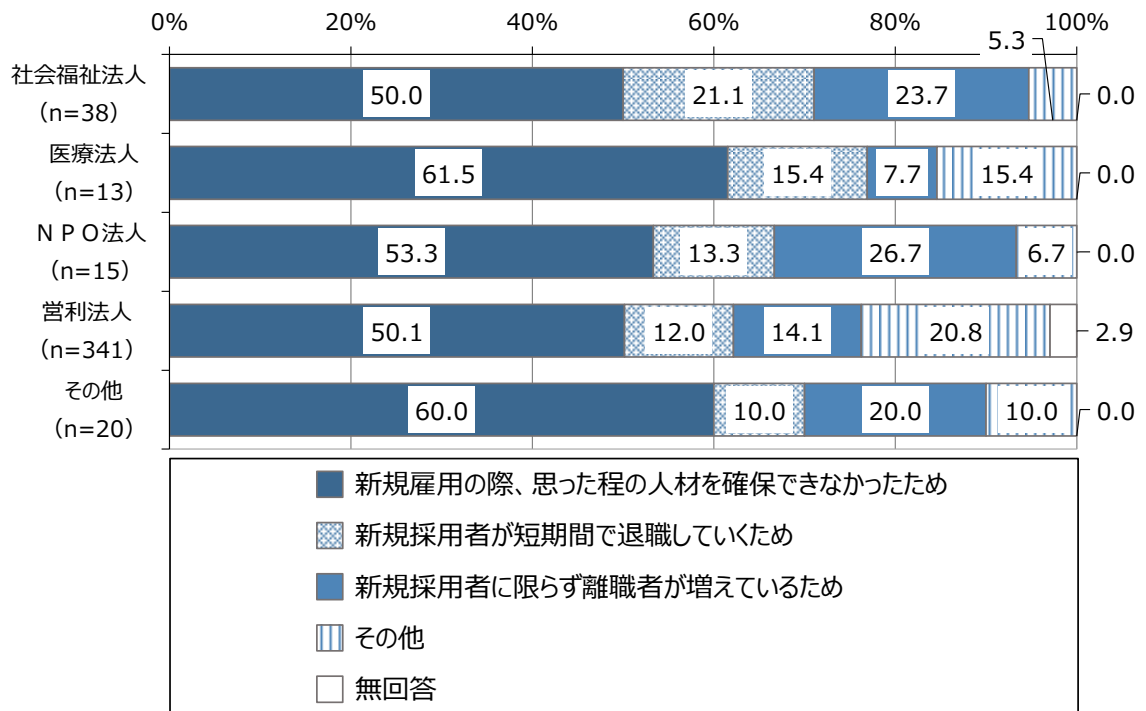
令和 4（2022）年度調査と比較すると、「その他」（19.3%）では、令和 4（2022）年度調査（22.5%）より 3.2 ポイント減少しています。



※ 「その他」の主な内容…「そもそも応募がない」56 件、「財務・人件費制約」12 件、「利用者増加・需要超過」9 件

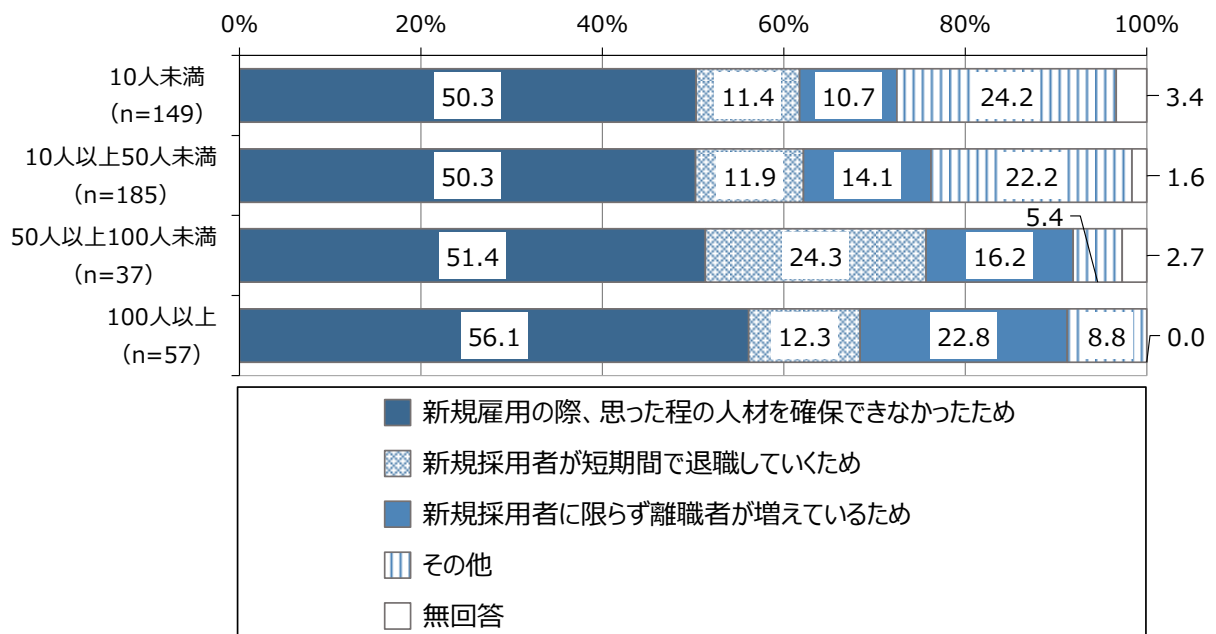
法人の種類別でみると、すべての法人の種類で「新規雇用の際、思った程の人材を確保できなかったため」の割合が最も高い状況です。

図表 4-1-16 職員が不足している理由 法人の種類別



従業者規模別でみると、「新規採用者に限らず離職者が増えているため」では、従業者の規模が大きくなるにつれて割合が増加しており、100人以上の事業者が22.8%で最も高い状況です。

図表 4-1-17 職員が不足している理由 従業者規模別



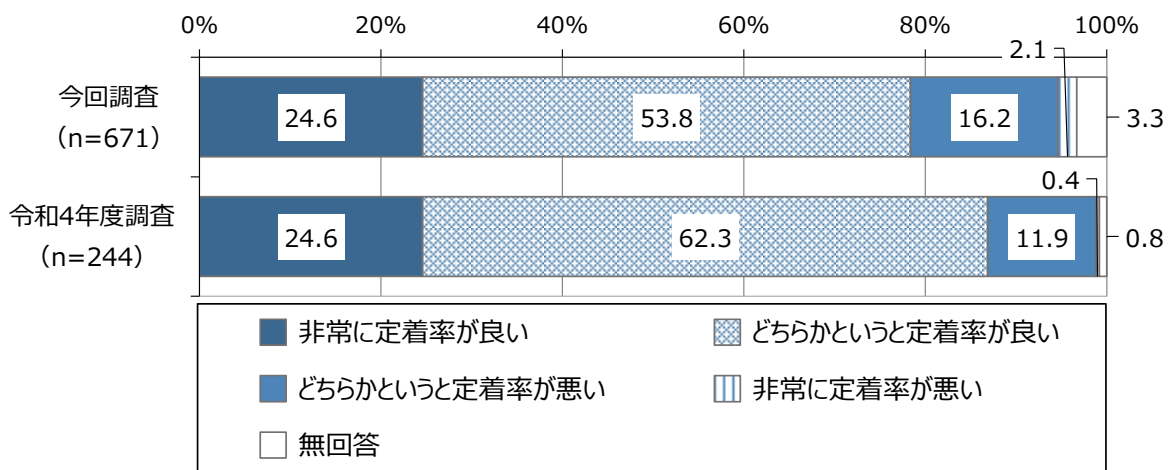
(6) 職員の定着率をどう感じているか

問 5 貴法人の職員の定着率をどう感じていますか。(〇はひとつ)

職員の定着率をどう感じているかについては、「どちらかという而定着率が良い」が 53.8%で最も高く、次いで「非常に定着率が良い」が 24.6%、「どちらかという而定着率が悪い」が 16.2%と続いています。

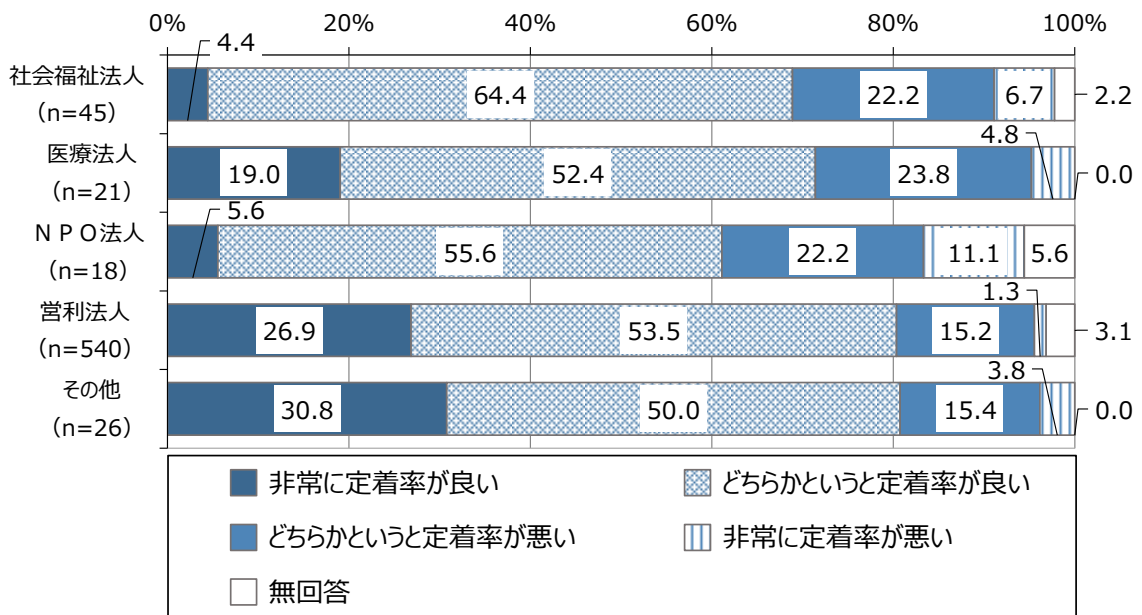
令和 4（2022）年度調査と比較すると、『定着率が悪い』（「どちらかという而定着率が悪い」と「非常に定着率が悪い」の合計）（18.3%）では、令和 4（2022）年度調査（12.3%）より 6.0 ポイント増加しています。

図表 4-1-18 職員の定着率をどう感じているか



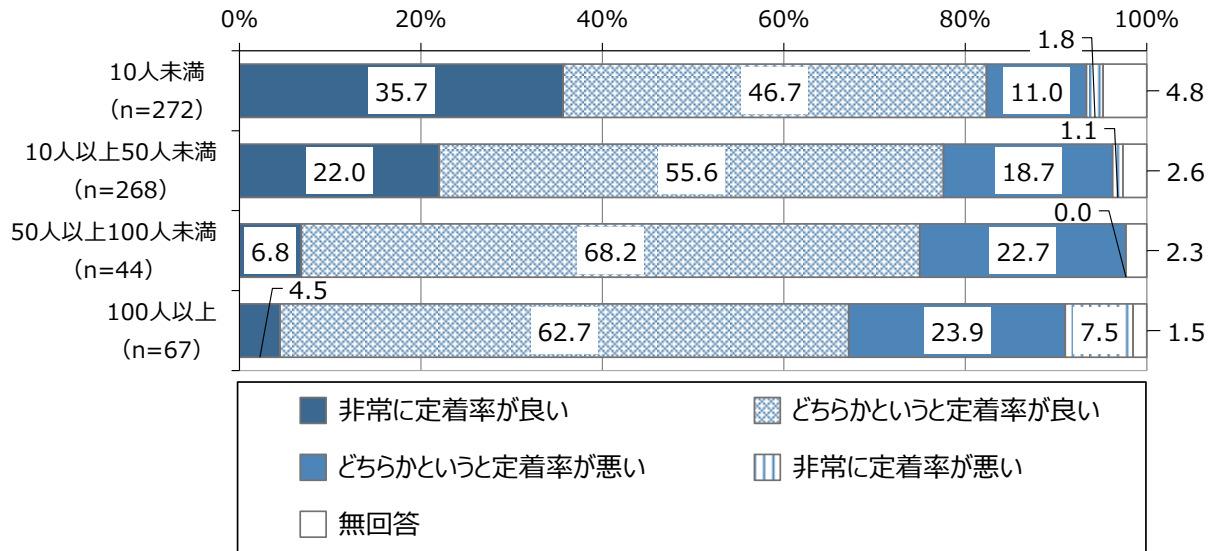
法人の種類別でみると、『定着率が悪い』では、NPO法人が 33.3%で最も高い状況です。

図表 4-1-19 職員の定着率をどう感じているか 法人の種類別



従業員規模別でみると、『定着率が悪い』では、従業員の規模が大きくなるにつれて割合が増加しており、100人以上の事業者が31.4%で最も高い状況です。

図表 4-1-20 職員の定着率をどう感じているか 従業員規模別

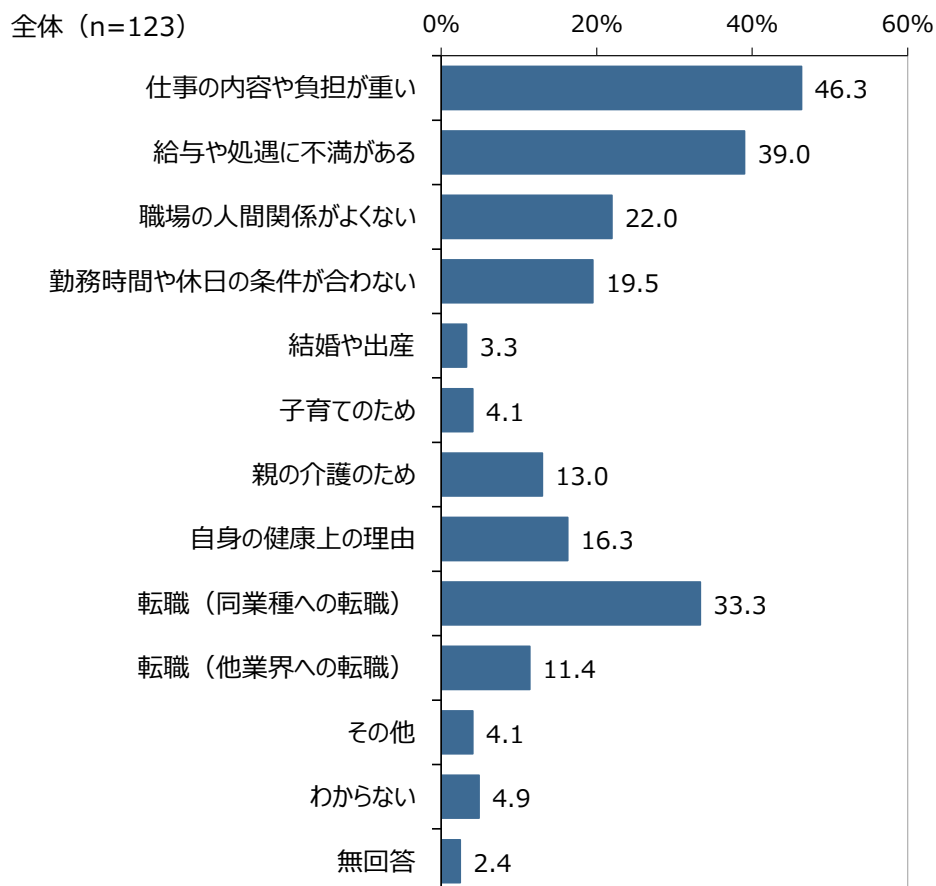


(7) 職員の離職理由で多いもの

問 5-1	問 5 で「3. どちらかというと定着率が悪い」「4. 非常に定着率が悪い」と回答した法人にお伺いします。 職員の離職理由で多いものは何だと思えますか。(自己都合は除く) (〇は3つまで)
-------	---

職員の離職理由で多いものについては、「仕事の内容や負担が重い」が 46.3%で最も高く、次いで「給与や処遇に不満がある」が 39.0%、「転職（同業種への転職）」が 33.3%と続いています。

図表 4-1-21 職員の離職理由で多いもの



法人の種類別で見ると、営利法人では「仕事の内容や負担が重い」が46.1%で最も高い状況です。

従業員規模別で見ると、「仕事の内容や負担が重い」では、100人以上の事業者が66.7%で最も高い状況です。

図表 4-1-22 職員の離職理由で多いもの 法人の種類別・従業員規模別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	が仕事の内容や負担	が給与や処遇に不満	よ職場の人間関係が	勤務時間が合わない	結婚や出産	子育てのため	親の介護のため	由自身の健康上の理	転職（同業種への	転職（他業界への
全体		123	46.3	39.0	22.0	19.5	3.3	4.1	13.0	16.3	33.3	11.4
法人の種類別	社会福祉法人	13	38.5	38.5	53.8	7.7	0.0	0.0	7.7	15.4	30.8	15.4
	医療法人	6	50.0	66.7	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	66.7	0.0
	NPO法人	6	83.3	50.0	16.7	50.0	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7
	営利法人	89	46.1	37.1	16.9	19.1	3.4	5.6	14.6	16.9	30.3	12.4
	その他	5	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0
従業員規模別	10人未満	35	34.3	37.1	5.7	22.9	5.7	5.7	17.1	5.7	14.3	28.6
	10人以上50人未満	53	47.2	34.0	28.3	18.9	3.8	5.7	15.1	24.5	39.6	1.9
	50人以上100人未満	10	40.0	30.0	10.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	50.0	10.0
	100人以上	21	66.7	57.1	42.9	19.0	0.0	0.0	0.0	9.5	33.3	9.5
		合計	その他	わからない	無回答							
全体		123	4.1	4.9	2.4							
法人の種類別	社会福祉法人	13	0.0	7.7	15.4							
	医療法人	6	0.0	0.0	0.0							
	NPO法人	6	0.0	0.0	0.0							
	営利法人	89	5.6	5.6	0.0							
	その他	5	0.0	0.0	20.0							
従業員規模別	10人未満	35	8.6	8.6	0.0							
	10人以上50人未満	53	1.9	5.7	1.9							
	50人以上100人未満	10	0.0	0.0	10.0							
	100人以上	21	0.0	0.0	4.8							

※網掛け■は最も割合が高いもの

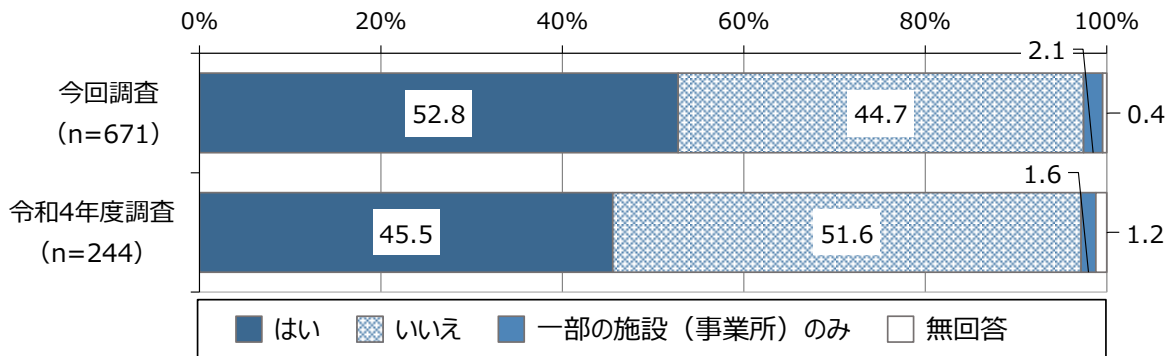
(8) 介護職員等処遇改善加算（区分Ⅱ以上）を取得しているか

問 6	介護職員等処遇改善加算（区分Ⅱ以上）を取得していますか。（○はひとつ）
-----	-------------------------------------

介護職員等処遇改善加算（区分Ⅱ以上）を取得しているかについては、「はい」が52.8%で最も高く、次いで「いいえ」が44.7%、「一部の施設（事業所）のみ」が2.1%です。

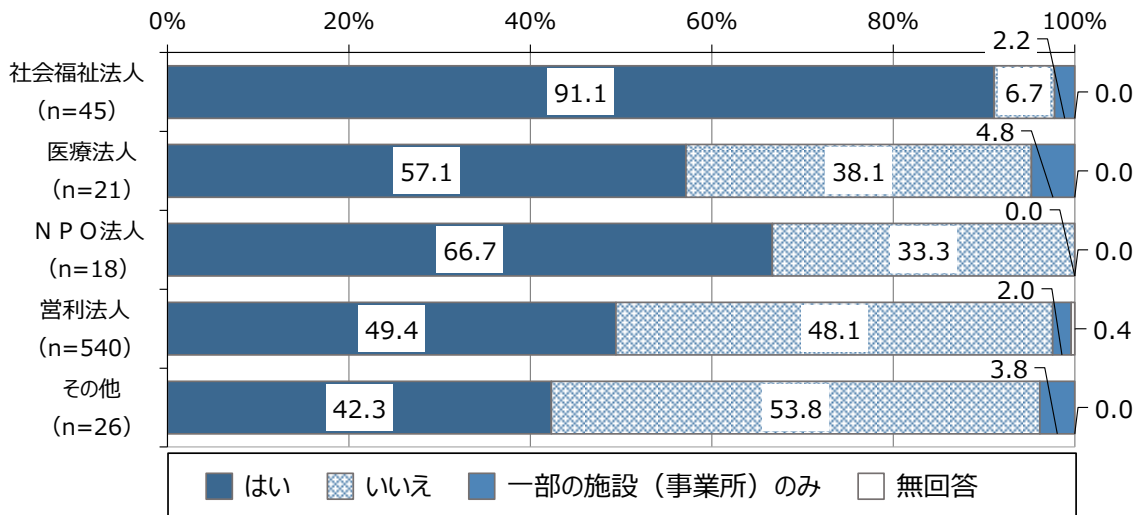
令和4（2022）年度調査と比較すると、「はい」（52.8%）では、令和4（2022）年度調査（45.5%）より7.3ポイント増加しています。

図表 4-1-23 介護職員等処遇改善加算（区分Ⅱ以上）を取得しているか



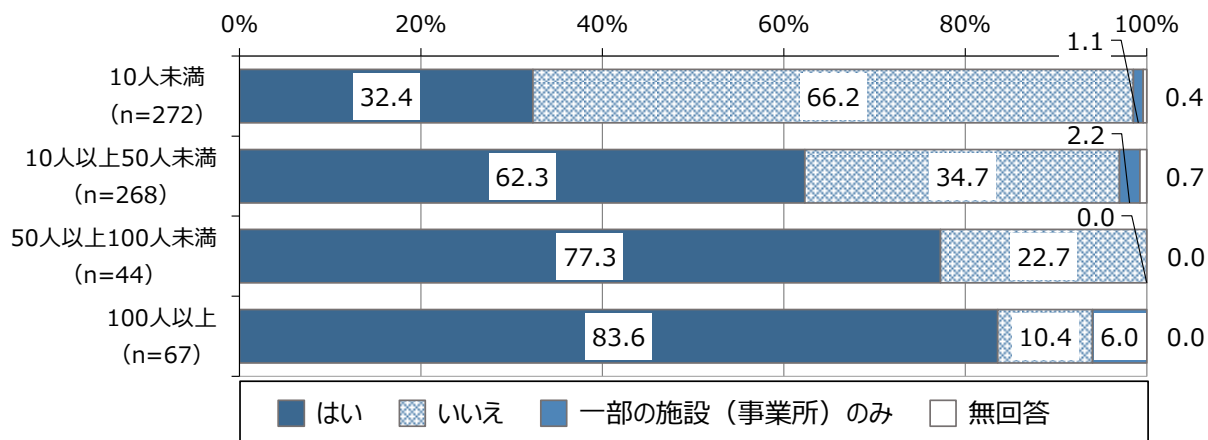
法人の種類別でみると、「はい」では、社会福祉法人が91.1%で最も高い状況です。

図表 4-1-24 介護職員等処遇改善加算（区分Ⅱ以上）を取得しているか 法人の種類別



従業者規模別で見ると、「はい」では、従業者の規模が大きくなるにつれて割合が増加しており、100人以上の事業者が83.6%で最も高い状況です。

図表 4-1-25 介護職員等処遇改善加算（区分Ⅱ以上）を取得しているか 従業者規模別

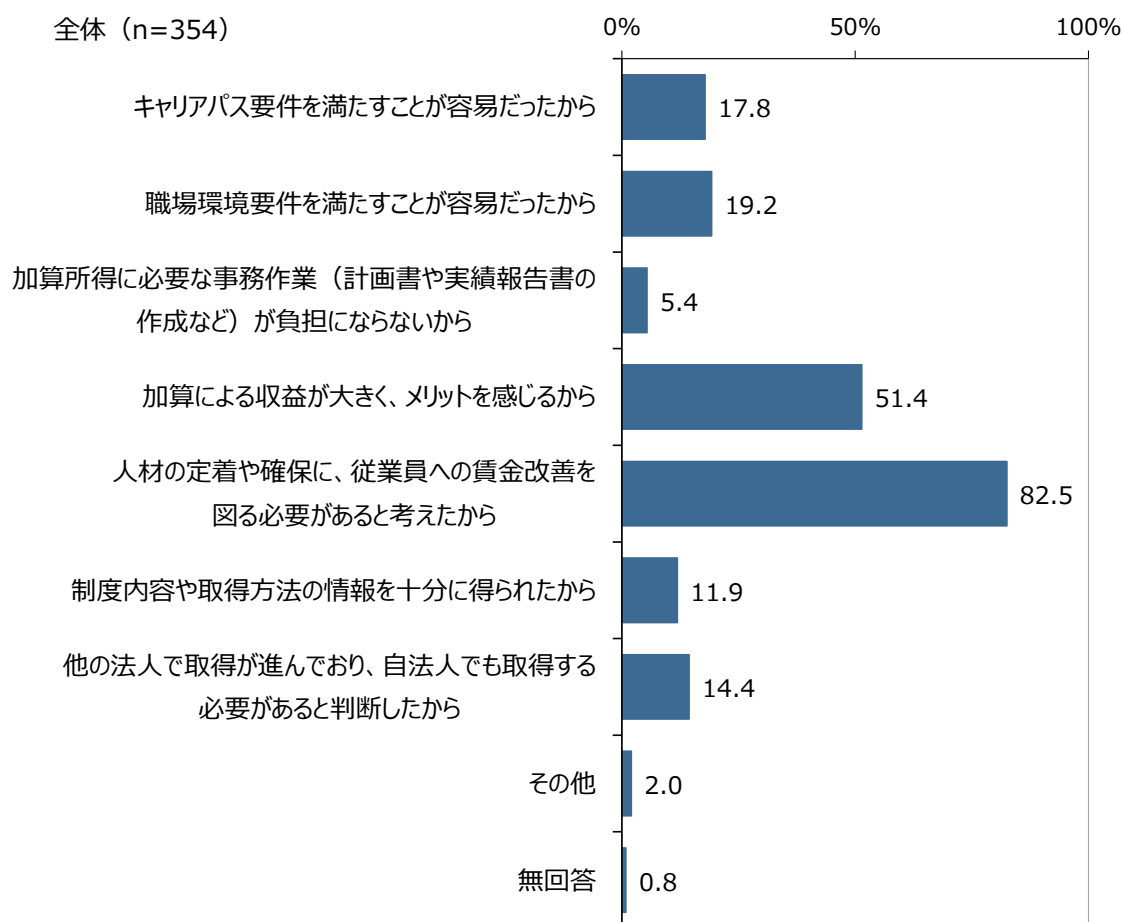


(9) 介護職員等処遇改善加算（区分Ⅱ以上）を取得した理由

問 6-1	問 6 で「1. はい」と回答した法人にお伺いします。 取得した主な理由は何ですか。（〇は 3 つまで）
-------	---

介護職員等処遇改善加算（区分Ⅱ以上）を取得した理由については、「人材の定着や確保に、従業員への賃金改善を図る必要があると考えたから」が 82.5%で最も高く、次いで「加算による収益が大きく、メリットを感じるから」が 51.4%、「職場環境要件を満たすことが容易だったから」が 19.2%と続いています。

図表 4-1-26 介護職員等処遇改善加算（区分Ⅱ以上）を取得した理由



法人の種類別で見ると、すべての法人の種類で「人材の定着や確保に、従業員への賃金改善を図る必要があると考えたから」の割合が最も高い状況です。

従業者規模別で見ると、「人材の定着や確保に、従業員への賃金改善を図る必要があると考えたから」では、従業者の規模が大きくなるにつれて割合が増加しており、100人以上の事業者が91.1%で最も高い状況です。

図表 4-1-27 介護職員等処遇改善加算（区分Ⅱ以上）を取得した理由 法人の種類別・従業者規模別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	とキ が容 易だ った から を満 たす こ	容 易だ った から を満 たす こ が	職 場環 境要 件を 満た すこ とが	な ど（ 計 画 ） が 負 担 に な ら な い の 作 業 成	加 算 所 得 に 必 要 な 報 告 書 の 作 業	リ 加 算 に よ る 収 益 が 大 き く 、 メ	と の 考 え た か ら の 必 要 が あ る	人 材 の 定 着 や 確 保 に 、 従 業 員	十 分 に 得 ら れ た か ら の 情 報 を	が あ る と 判 断 し た か ら の 必 要	他 の 法 人 で 取 得 し て お く る 必 要	そ の 他	無 回 答
全体	354	17.8	19.2	5.4	51.4	82.5	11.9	14.4	2.0	0.8				
法 人 の 種 類	社会福祉法人	41	7.3	14.6	2.4	53.7	90.2	4.9	19.5	2.4	0.0			
	医療法人	12	16.7	25.0	8.3	33.3	75.0	8.3	16.7	0.0	0.0			
	NPO法人	12	8.3	16.7	8.3	58.3	100.0	25.0	16.7	0.0	0.0			
	営利法人	267	19.9	19.5	5.2	51.3	81.3	12.4	13.1	1.9	1.1			
	その他	11	18.2	9.1	9.1	63.6	81.8	18.2	9.1	0.0	0.0			
規 模 別	10人未満	88	19.3	20.5	8.0	51.1	78.4	15.9	9.1	3.4	0.0			
	10人以上50人未満	167	15.6	16.8	5.4	46.1	81.4	12.6	13.8	1.8	1.2			
	50人以上100人未満	34	20.6	29.4	0.0	61.8	85.3	8.8	11.8	0.0	2.9			
	100人以上	56	19.6	14.3	5.4	58.9	91.1	7.1	23.2	1.8	0.0			

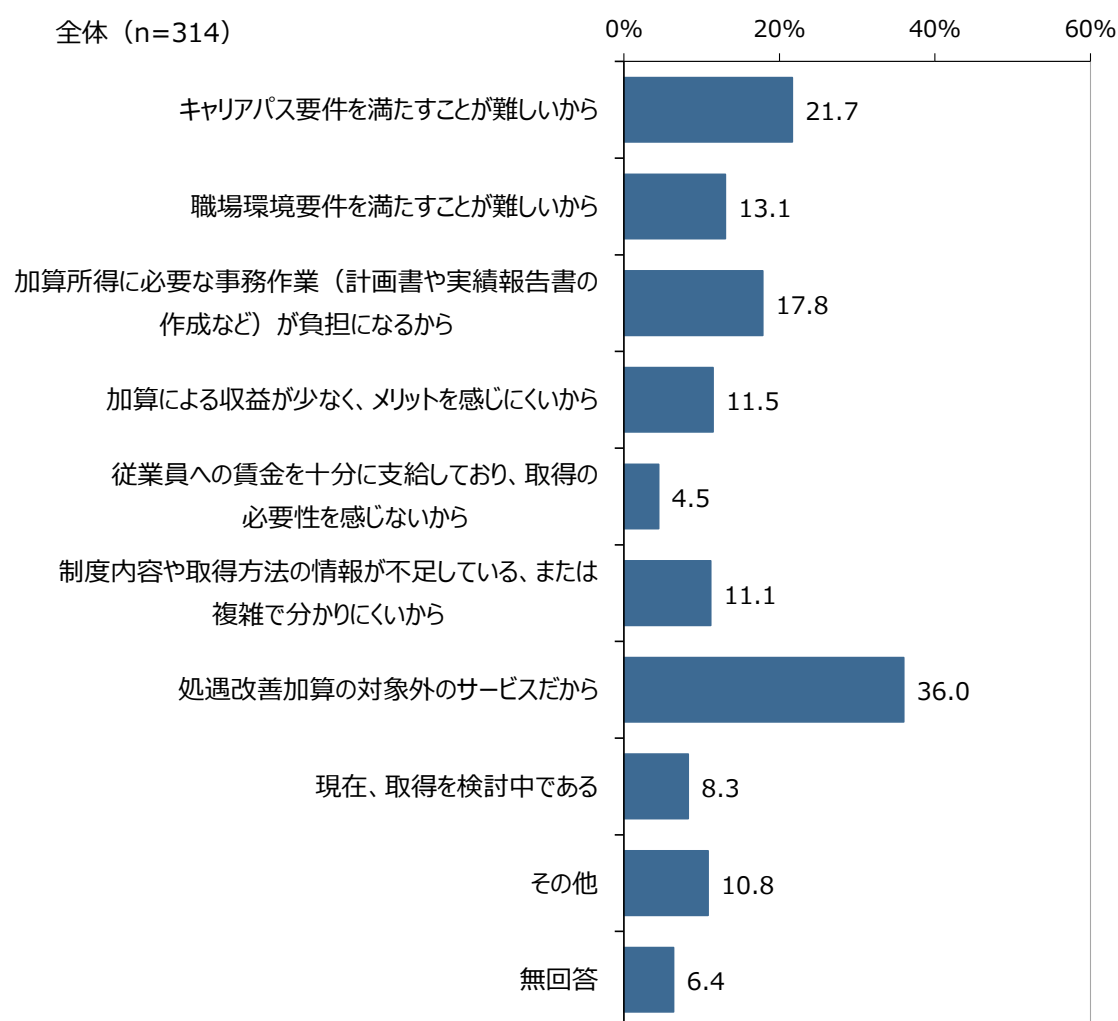
※網掛け■は最も割合が高いもの

(10) 介護職員等処遇改善加算（区分Ⅱ以上）を取得しない理由

問 6-2	問 6 で「2. いいえ」「3. 一部の施設（事業所）のみ」と回答した法人にお伺いします。 取得しない主な理由は何ですか。（○は 3 つまで）
-------	--

介護職員等処遇改善加算（区分Ⅱ以上）を取得しない理由については、「処遇改善加算の対象外のサービスだから」が 36.0%で最も高く、次いで「キャリアパス要件を満たすことが難しいから」が 21.7%、「加算所得に必要な事務作業（計画書や実績報告書の作成など）が負担になるから」が 17.8%と続いています。

図表 4-1-28 介護職員等処遇改善加算（区分Ⅱ以上）を取得しない理由



法人の種類別でみると、営利法人では「処遇改善加算の対象外のサービスだから」が 37.3%で最も高い状況です。

従業員規模別でみると、「職場環境要件を満たすことが難しいから」では、従業員の規模が大きくなるにつれて割合が増加しており、100人以上の事業者が 36.4%で最も高い状況です。

図表 4-1-29 介護職員等処遇改善加算（区分Ⅱ以上）を取得しない理由
法人の種類別・従業員規模別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	と キ が 難 し い パ ス か ら 要 件 を 満 た す こ と	難 し い 環 境 要 件 を 満 た す こ と	職 場 環 境 要 件 を 満 た す こ と	な ど （ 計 画 書 に 必 要 な 報 告 書 の 作 業 成 績 が 不 良 な り 等 ）	加 算 の 取 得 に 必 要 な 報 告 書 の 作 業 成 績 が 不 良 な り 等 ）	リ 加 算 に よ る 収 益 が 少 な い こ と	じ な お お か ら 、 取 得 金 を 必 要 に 支 給 し な い こ と	従 業 員 へ の 賃 金 を 必 要 に 支 給 し な い こ と	分 か り に い る か ら ま た は 複 雑 な 情 報 が 不 足 し て い る こ と	制 度 内 容 や 取 得 方 法 の 情 報 が 不 足 し て い る こ と	ビ ス ネ ス 改 善 加 算 の 対 象 外 の サ ー ビ ス だ か ら	現 在 、 取 得 を 検 討 中 で あ る	そ の 他	無 回 答
全体	314	21.7	13.1	17.8	11.5	4.5	11.1	36.0	8.3	10.8	6.4				
法 人 別 の 種 類	社会福祉法人	4	75.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0				
	医療法人	9	22.2	33.3	11.1	0.0	0.0	11.1	55.6	0.0	0.0				
	NPO法人	6	33.3	50.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7				
	営利法人	271	20.3	11.4	17.0	12.2	4.4	11.1	37.3	8.9	10.7				
	その他	15	26.7	13.3	33.3	6.7	6.7	6.7	26.7	6.7	6.7				
規 模 別	10人未満	183	18.0	9.8	15.3	12.0	2.7	10.4	38.3	8.7	12.6				
	10人以上50人未満	99	30.3	17.2	23.2	13.1	6.1	14.1	30.3	10.1	8.1				
	50人以上100人未満	10	20.0	10.0	30.0	0.0	10.0	0.0	40.0	0.0	10.0				
	100人以上	11	27.3	36.4	9.1	9.1	9.1	9.1	45.5	0.0	9.1				

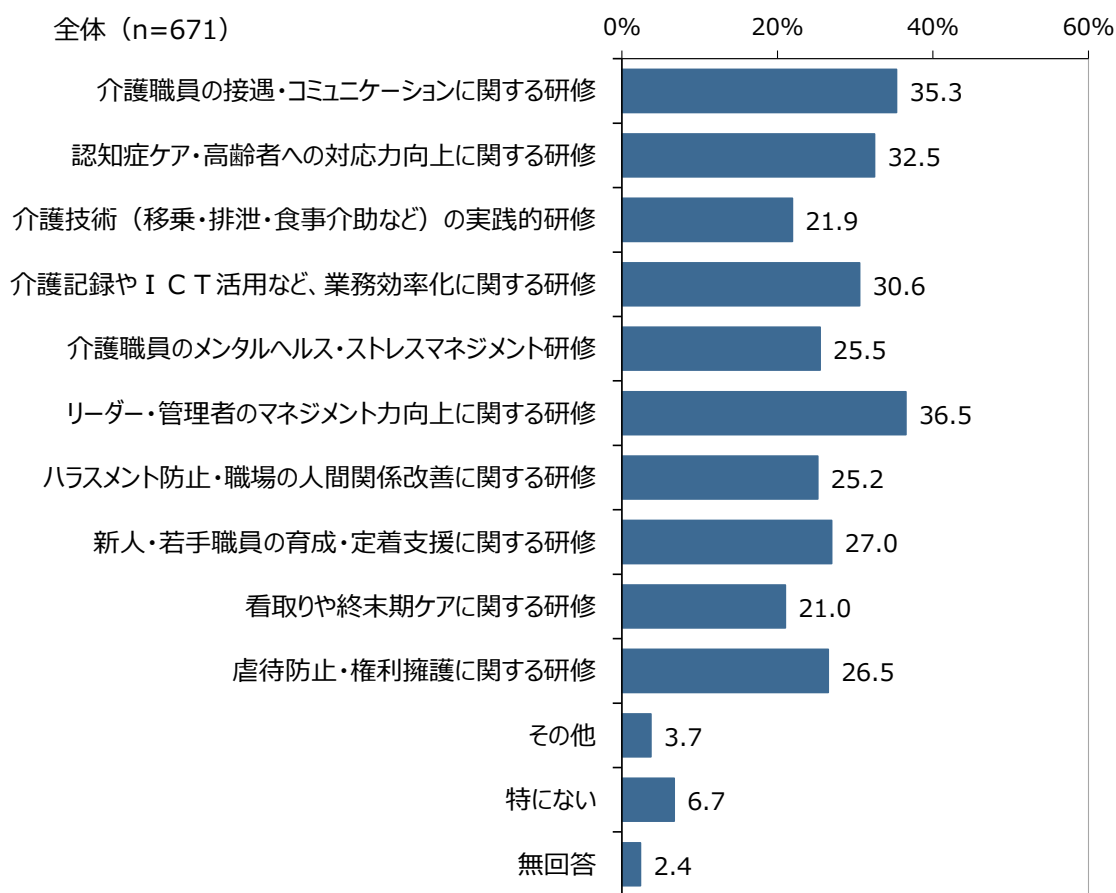
※網掛け■は最も割合が高いもの

(11) 介護事業所向けに実施する研修であれば良いと思うテーマ

問 7	堺市では、職員のスキルアップや人材育成を目的として階層別研修を実施しています。今後、介護事業所向けに実施する研修として、どのようなテーマの研修があれば良いと思いますか。 (〇はいくつでも)
-----	---

介護事業所向けに実施する研修であれば良いと思うテーマについては、「リーダー・管理者のマネジメント力向上に関する研修」が 36.5%で最も高く、次いで「介護職員の接遇・コミュニケーションに関する研修」が 35.3%、「認知症ケア・高齢者への対応力向上に関する研修」が 32.5%と続いています。

図表 4-1-30 介護事業所向けに実施する研修であれば良いと思うテーマ



法人の種類別でみると、社会福祉法人、医療法人、NPO 法人では「リーダー・管理者のマネジメント力向上に関する研修」の割合が最も高く、営利法人では「介護職員の接遇・コミュニケーションに関する研修」の割合が最も高く、その他の法人では「介護職員のメンタルヘルス・ストレスマネジメント研修」の割合が最も高い状況です。

従業員規模別でみると、「リーダー・管理者のマネジメント力向上に関する研修」では、従業員の規模が大きくなるにつれて割合が増加しており、100人以上の事業者が67.2%で最も高い状況です。

図表 4-1-31 介護事業所向けに実施する研修であれば良いと思うテーマ 法人の種類別・従業員規模別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	介護職員の接遇に関する研修	介護職員の接遇に関する研修	介護技術（移乗・排泄・食事）の研修	介護記録の活用など、業務効率化に関する研修	介護職員のメンタルヘルス研修	リーダー向上に関する研修	関係改善に関する研修	支援人に関する研修	研修の取り組みや終末期ケアに関する	虐待防止・権利擁護に関する	
		35.3	32.5	21.9	30.6	25.5	36.5	25.2	27.0	21.0	26.5	
全体	671	35.3	32.5	21.9	30.6	25.5	36.5	25.2	27.0	21.0	26.5	
法人の種類別	社会福祉法人	45	46.7	35.6	40.0	46.7	33.3	62.2	22.2	40.0	24.4	44.4
	医療法人	21	42.9	14.3	19.0	28.6	28.6	52.4	33.3	38.1	9.5	23.8
	NPO法人	18	44.4	22.2	22.2	27.8	44.4	50.0	27.8	27.8	11.1	27.8
	営利法人	540	35.4	33.5	20.6	30.0	23.9	34.3	24.6	25.6	21.9	25.2
	その他	26	23.1	30.8	26.9	26.9	38.5	23.1	26.9	26.9	15.4	30.8
従業員規模別	10人未満	272	30.9	36.0	15.1	28.3	18.8	26.1	22.1	19.9	23.2	29.4
	10人以上50人未満	268	36.2	31.7	23.9	28.4	29.5	36.2	26.1	25.7	19.8	22.4
	50人以上100人未満	44	47.7	22.7	34.1	34.1	29.5	56.8	25.0	43.2	20.5	27.3
	100人以上	67	40.3	29.9	34.3	47.8	37.3	67.2	37.3	47.8	20.9	34.3
	合計	その他	特にない	無回答								
全体	671	3.7	6.7	2.4								
法人の種類別	社会福祉法人	45	0.0	4.4	0.0							
	医療法人	21	0.0	9.5	0.0							
	NPO法人	18	0.0	5.6	11.1							
	営利法人	540	4.1	6.7	2.4							
	その他	26	7.7	7.7	0.0							
従業員規模別	10人未満	272	5.5	7.4	2.9							
	10人以上50人未満	268	2.2	5.2	3.0							
	50人以上100人未満	44	2.3	13.6	0.0							
	100人以上	67	3.0	6.0	0.0							

※網掛け■は最も割合が高いもの

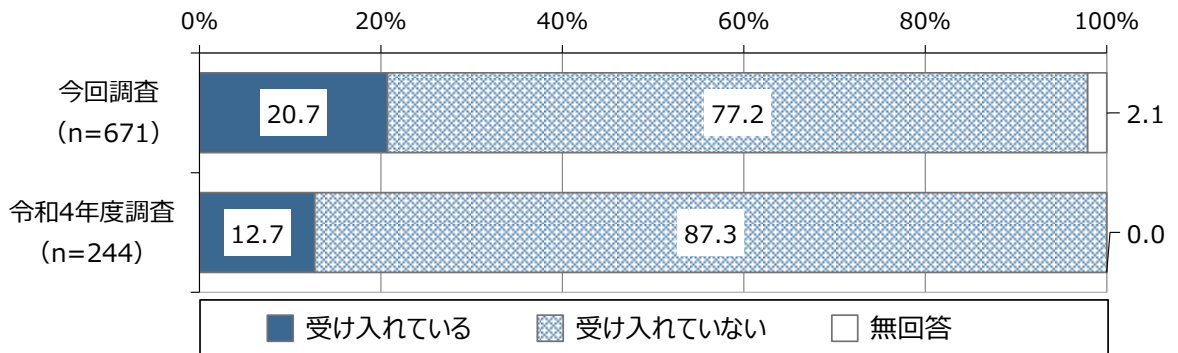
(12) 介護の仕事に携わる外国人労働者を受け入れているか

問 8 介護の仕事に携わる外国人労働者を受け入れていますか。(○はひとつ)

介護の仕事に携わる外国人労働者を受け入れているかについては、「受け入れている」が 20.7%、「受け入れていない」が 77.2%です。

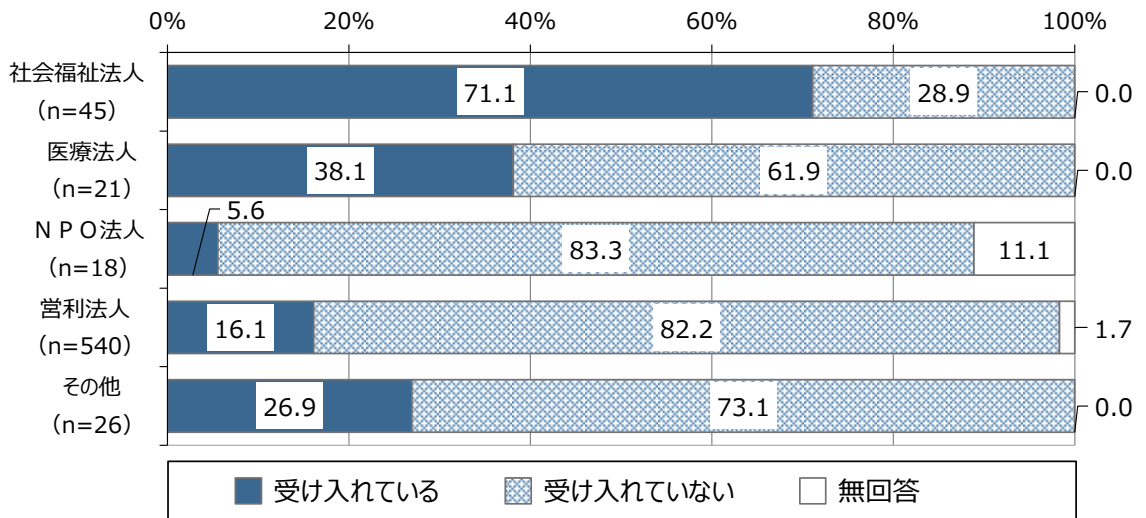
令和 4（2022）年度調査と比較すると、「受け入れている」（20.7%）では、令和 4（2022）年度調査（12.7%）より 8.0 ポイント増加しています。

図表 4-1-32 介護の仕事に携わる外国人労働者を受け入れているか



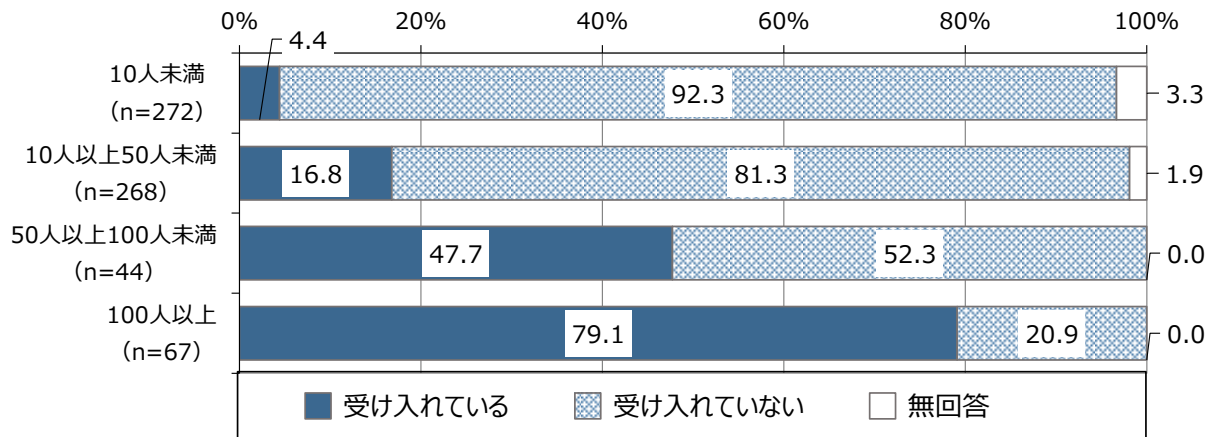
法人の種類別でみると、「受け入れている」では、社会福祉法人が 71.1%で最も高い状況です。

図表 4-1-33 介護の仕事に携わる外国人労働者を受け入れているか 法人の種類別



従業者規模別でみると、「受け入れている」では、従業者の規模が大きくなるにつれて割合が増加しており、100人以上の事業者が79.1%で最も高い状況です。

図表 4-1-34 介護の仕事に携わる外国人労働者を受け入れているか 従業者規模別



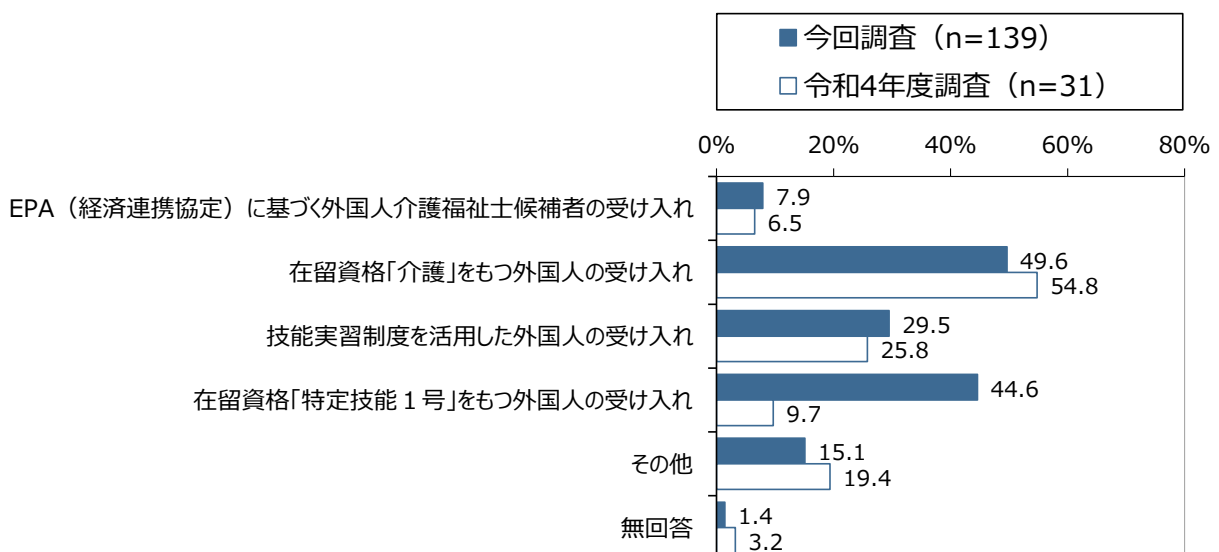
(13) どの制度に基づいて外国人労働者を受け入れたか

問 8-1	問 8 で「1. 受け入れている」と回答した法人にお伺いします。 どの制度に基づいて外国人労働者を受け入れているのかお教えてください。(○はいくつでも)
-------	---

どの制度に基づいて外国人労働者を受け入れたかについては、「在留資格「介護」をもつ外国人の受け入れ」が49.6%で最も高く、次いで「在留資格「特定技能1号」をもつ外国人の受け入れ」が44.6%、「技能実習制度を活用した外国人の受け入れ」が29.5%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「在留資格「特定技能1号」をもつ外国人の受け入れ」（44.6%）では、令和4（2022）年度調査（9.7%）より34.9ポイント増加しています。

図表 4-1-35 どの制度に基づいて外国人労働者を受け入れたか



法人の種類別で見ると、社会福祉法人では「在留資格「特定技能1号」をもつ外国人の受け入れ」が78.1%で最も高く、営利法人では「在留資格「介護」をもつ外国人の受け入れ」が51.7%で最も高い状況です。

従業者規模別で見ると、「在留資格「特定技能1号」をもつ外国人の受け入れ」では、従業者の規模が大きくなるにつれて割合が増加しており、100人以上の事業者が67.9%で最も高い状況です。

図表 4-1-36 どの制度に基づいて外国人労働者を受け入れたか 法人の種類別・従業者規模別

単位：実数（人）、構成比（%）

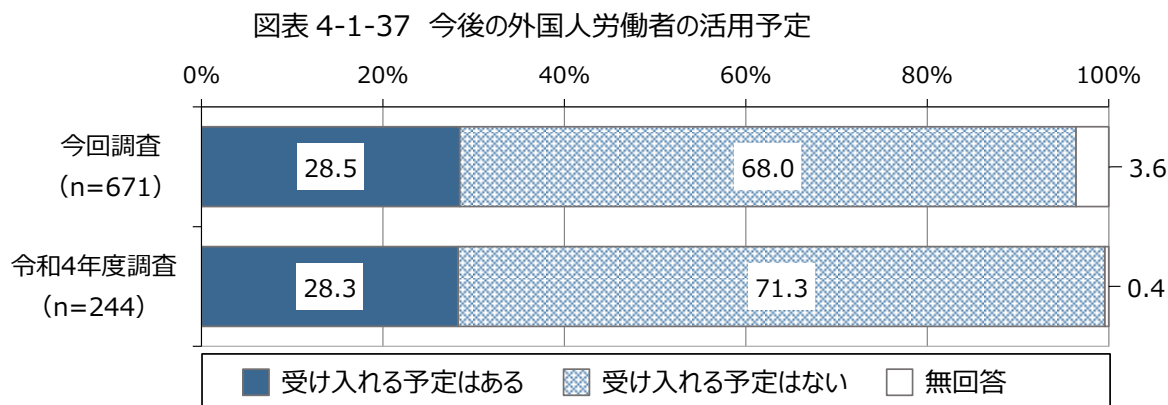
		合計	士にE 候基P 補づA 者く（ の外経 受国済 入人連 れ介携 護協 社福 定社）	外在 国留 人資 の格 受「 け介 入護 れ」 をも つ	外技 国能 人実 の習 受制 け度 入を れ活 用し た	入号在 れ「在 を留 も資 つ「格 外特 国定 人技 の能 受1 け	そ の 他	無 回 答
全体		139	7.9	49.6	29.5	44.6	15.1	1.4
法 人 の 種 類	社会福祉法人	32	12.5	46.9	40.6	78.1	9.4	0.0
	医療法人	8	12.5	37.5	50.0	50.0	0.0	0.0
	NPO法人	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	営利法人	87	6.9	51.7	23.0	35.6	17.2	2.3
	その他	7	0.0	42.9	42.9	0.0	28.6	0.0
規 従 業 者 別	10人未満	12	0.0	75.0	0.0	8.3	25.0	0.0
	10人以上50人未満	45	4.4	48.9	15.6	28.9	26.7	2.2
	50人以上100人未満	21	4.8	23.8	38.1	47.6	4.8	0.0
	100人以上	53	11.3	54.7	41.5	67.9	5.7	1.9

※網掛け■は最も割合が高いもの

(14) 今後の外国人労働者の活用予定

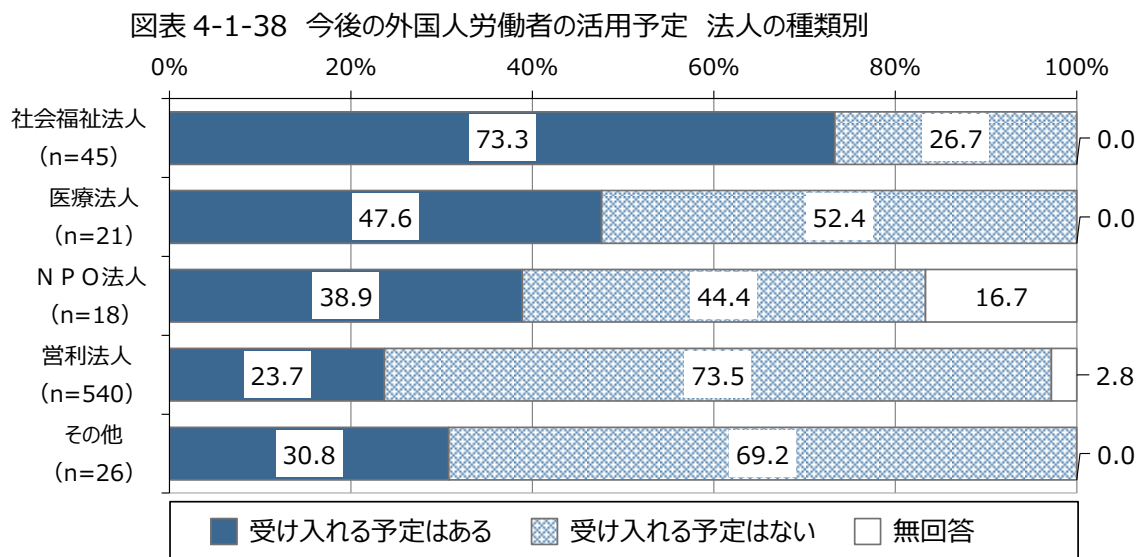
問 9	今後（または引き続き）、外国人労働者を受け入れる予定はありますか。（○はひとつ）
-----	--

今後の外国人労働者の活用予定については、「受け入れる予定はある」が 28.5%、「受け入れる予定はない」が 68.0%です。



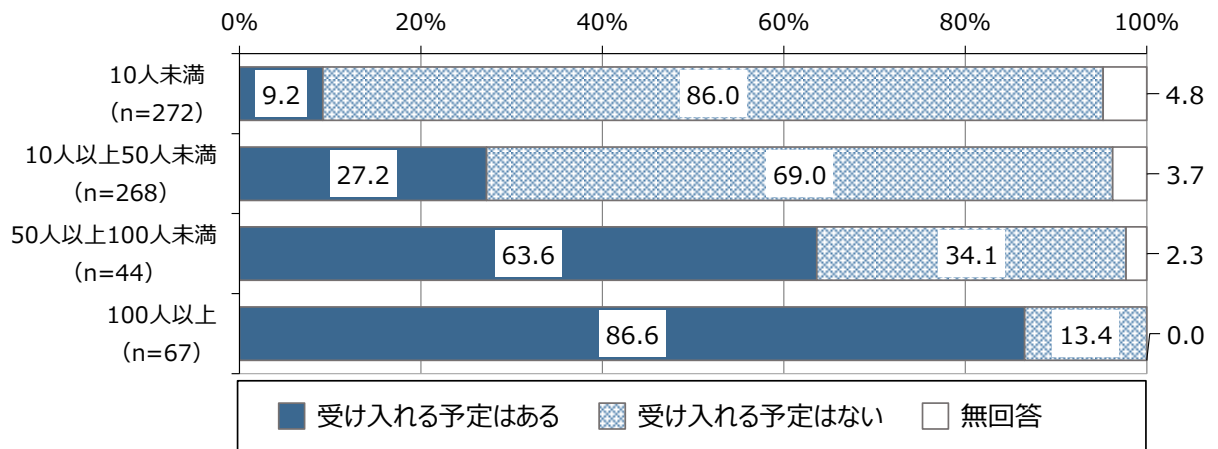
※ 令和 4（2022）年度調査の設問文は「今後（または引き続き）、外国人労働者を活用する予定はありますか。」

法人の種類別でみると、「受け入れる予定はある」では、社会福祉法人が 73.3%で最も高い状況です。



従業員規模別で見ると、「受け入れる予定はある」では、従業員の規模が大きくなるにつれて割合が増加しており、100人以上の事業者が86.6%で最も高い状況です。

図表 4-1-39 今後の外国人労働者の活用予定 従業員規模別

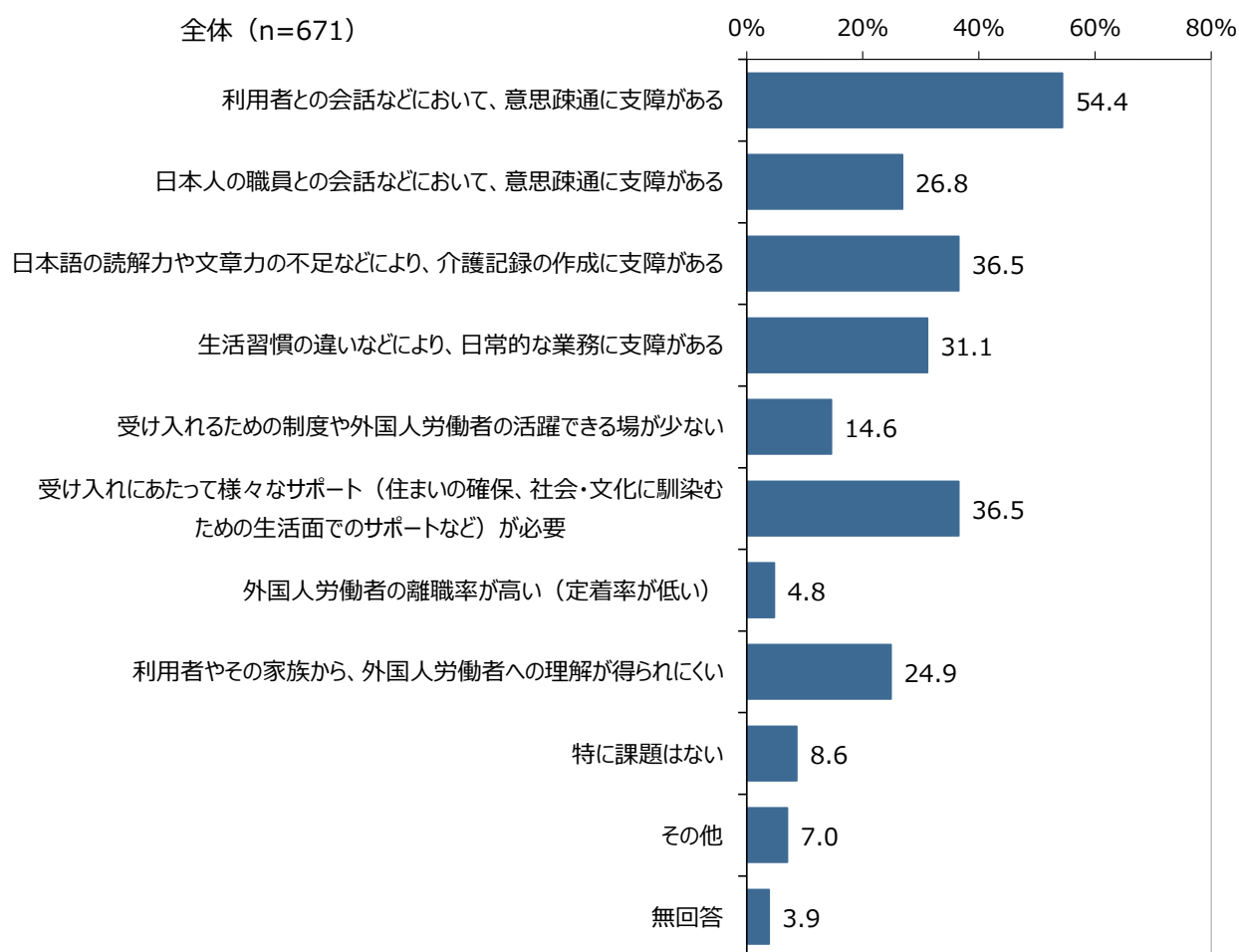


(15) 今後、外国人労働者を活用するうえでの課題

問 10	今後（または引き続き）、外国人労働者を受け入れるうえでの課題は何ですか。 （〇はいくつでも）
------	---

今後、外国人労働者を活用するうえでの課題については、「利用者との会話などにおいて、意思疎通に支障がある」が 54.4%で最も高く、次いで「日本語の読解力や文章力の不足などにより、介護記録の作成に支障がある」、「受け入れにあたって様々なサポート（住まいの確保、社会・文化に馴染むための生活面でのサポートなど）が必要」がいずれも 36.5%と続いています。

図表 4-1-40 今後、外国人労働者を活用するうえでの課題



法人の種類別で見ると、医療法人では「受け入れにあたって様々なサポート（住まいの確保、社会・文化に馴染むための生活面でのサポートなど）が必要」の割合が最も高く、NPO法人、営利法人では「利用者との会話などにおいて、意思疎通に支障がある」の割合が最も高く、社会福祉法人、その他の法人では「日本語の読解力や文章力の不足などにより、介護記録の作成に支障がある」の割合が最も高い状況です。

従業者規模別で見ると、100人未満では「利用者との会話などにおいて、意思疎通に支障がある」の割合が最も高く、100人以上では「日本語の読解力や文章力の不足などにより、介護記録の作成に支障がある」の割合が最も高い状況です。

図表 4-1-41 今後、外国人労働者を活用するうえでの課題 法人の種類別・従業者規模別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	利用者との会話などにおいて、意思疎通に支障がある	日本人の職員との会話などにおいて、意思疎通に支障がある	日本語の読解力や文章力の不足などにより、介護記録の作成に支障がある	生活習慣の違いなどにより、日常的な業務に支障がある	受け入れられるための制度や外国人労働者の活躍できる場が少ない	住まいの確保、社会・文化に馴染むためのサポートが必要	外国人労働者の離職率が高い（定着率が低い）	利用者がその家族から、外国人労働者への理解が得られない	特に課題はない	その他	無回答	
全体	671	54.4	26.8	36.5	31.1	14.6	36.5	4.8	24.9	8.6	7.0	3.9	
法人の種類別	社会福祉法人	45	40.0	44.4	64.4	15.6	4.4	44.4	11.1	4.4	2.2	11.1	2.2
	医療法人	21	47.6	38.1	33.3	23.8	9.5	52.4	4.8	14.3	14.3	9.5	0.0
	NPO法人	18	72.2	50.0	44.4	38.9	22.2	27.8	11.1	22.2	0.0	5.6	16.7
	営利法人	540	55.9	24.4	33.7	33.0	15.2	35.4	3.7	27.0	9.4	6.5	2.8
その他	26	46.2	23.1	50.0	34.6	23.1	38.5	11.5	34.6	7.7	7.7	3.8	
従業者規模別	10人未満	272	55.9	20.6	26.5	28.3	15.1	28.3	2.9	28.7	11.8	5.9	8.1
	10人以上50人未満	268	59.0	30.6	40.7	35.4	15.7	39.6	4.9	29.9	6.3	6.7	0.7
	50人以上100人未満	44	47.7	27.3	36.4	29.5	6.8	38.6	4.5	2.3	9.1	15.9	2.3
	100人以上	67	40.3	32.8	61.2	22.4	9.0	53.7	11.9	7.5	6.0	6.0	0.0

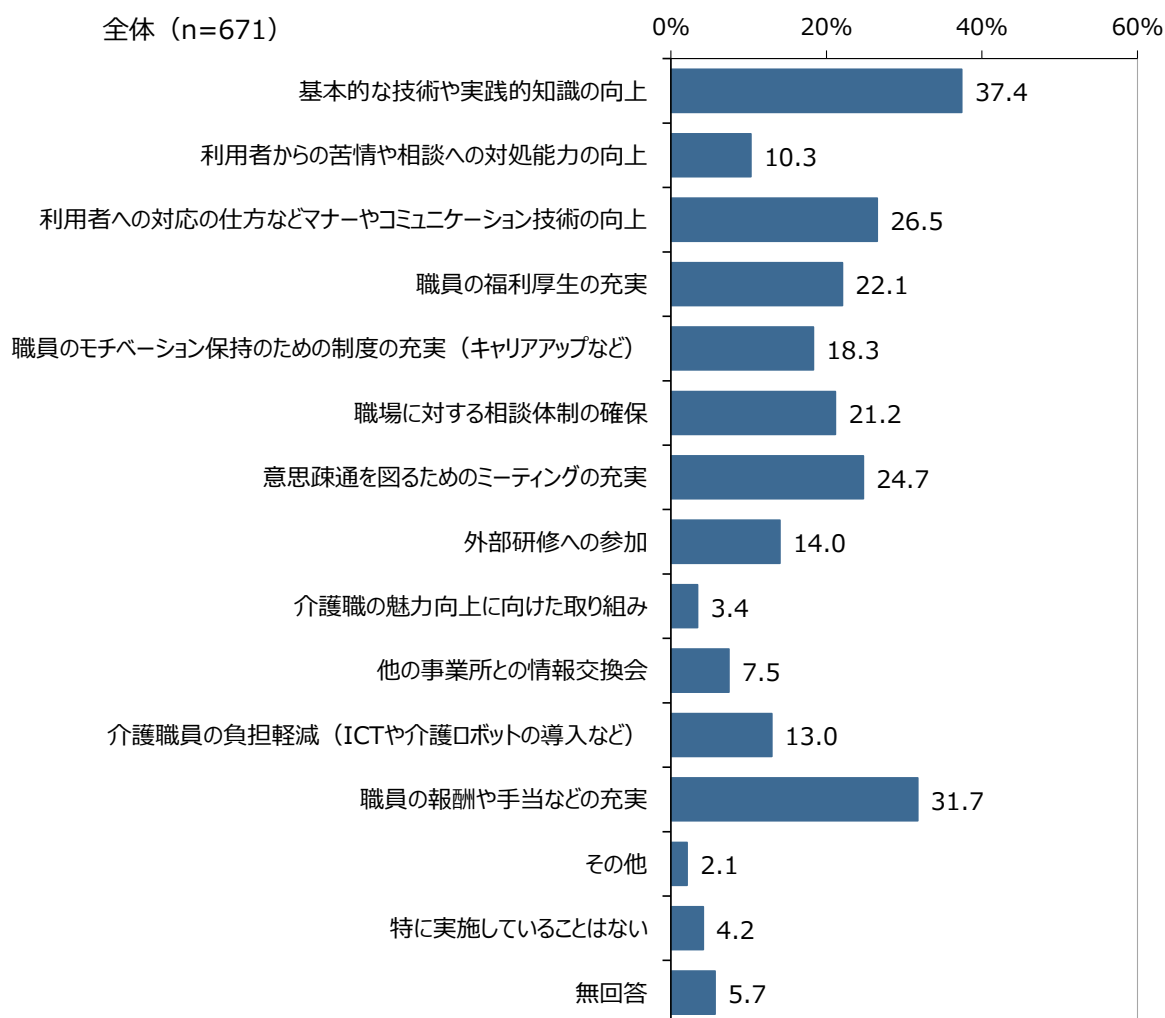
※網掛け■は最も割合が高いもの

(16) 職員の確保や質の向上を図るために実施している取組

問 11	職員の確保や質の向上を図るために、現在どのような取組を実施していますか。 (○は3つまで)
------	--

職員の確保や質の向上を図るために実施している取組については、「基本的な技術や実践的知識の向上」が37.4%で最も高く、次いで「職員の報酬や手当などの充実」が31.7%、「利用者への対応の仕方などマナーやコミュニケーション技術の向上」が26.5%と続いています。

図表 4-1-42 職員の確保や質の向上を図るために実施している取組



法人の種類別でみると、「基本的な技術や実践的知識の向上」では、社会福祉法人が 48.9%で最も高く、「職員の報酬や手当などの充実」では、営利法人が 33.1%で最も高い状況です。

従業者規模別でみると、「介護職員の負担軽減（ICT や介護ロボットの導入など）」では、従業者の規模が大きくなるにつれて割合が増加しており、100 人以上の事業者が 34.3%で最も高い状況です。

図表 4-1-43 職員の確保や質の向上を図るために実施している取組 法人の種類別・従業者規模別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	識基 の本 向的 上な 技術 や実 践的 知	への 利用 者 処 理 の 苦 情 や 相 談	シド ヨ ン マ 用 者 技 術 の 向 上	利 用 者 の 対 応 の 仕 方 な	職 員 の 福 利 厚 生 の 充 実	持 職 員 の 福 利 厚 生 の 充 実 （ キ ャ リ ア ア ツ プ な ど ）	確 職 場 に 対 す る 相 談 体 制 の	ミ 意 思 疎 通 を 図 る た め の 充 実	外 部 研 修 へ の 参 加	た 介 護 職 の 魅 力 向 上 に 向 け た 取 組 み	会 他 の 事 業 所 と の 情 報 交 換
全体	671	37.4	10.3	26.5	22.1	18.3	21.2	24.7	14.0	3.4	7.5	
法 人 別 の 種 類	社会福祉法人	45	48.9	2.2	22.2	33.3	11.1	33.3	11.1	26.7	2.2	4.4
	医療法人	21	33.3	4.8	33.3	23.8	28.6	19.0	28.6	19.0	0.0	4.8
	NPO法人	18	27.8	22.2	27.8	11.1	27.8	22.2	22.2	16.7	0.0	0.0
	営利法人	540	37.8	10.4	26.7	22.2	18.7	21.1	26.1	13.0	3.9	8.3
	その他	26	26.9	19.2	30.8	7.7	15.4	15.4	30.8	11.5	3.8	3.8
規 従 業 者 別	10人未満	272	38.2	12.9	28.3	17.3	11.8	18.0	22.1	16.5	1.8	12.1
	10人以上50人未満	268	36.9	9.0	27.2	23.5	21.6	22.4	28.0	10.8	4.1	3.0
	50人以上100人未満	44	45.5	6.8	13.6	29.5	18.2	15.9	25.0	18.2	2.3	6.8
	100人以上	67	31.3	4.5	23.9	29.9	31.3	28.4	22.4	14.9	7.5	4.5
全体	671	13.0	31.7	2.1	4.2	5.7						
法 人 別 の 種 類	社会福祉法人	45	44.4	28.9	2.2	0.0	0.0					
	医療法人	21	9.5	28.6	0.0	9.5	0.0					
	NPO法人	18	11.1	16.7	0.0	5.6	11.1					
	営利法人	540	11.1	33.1	2.0	3.9	5.2					
	その他	26	0.0	30.8	0.0	7.7	11.5					
規 従 業 者 別	10人未満	272	6.3	26.8	2.6	7.7	7.7					
	10人以上50人未満	268	12.7	36.6	1.1	1.5	5.6					
	50人以上100人未満	44	27.3	29.5	2.3	2.3	2.3					
	100人以上	67	34.3	35.8	3.0	1.5	1.5					

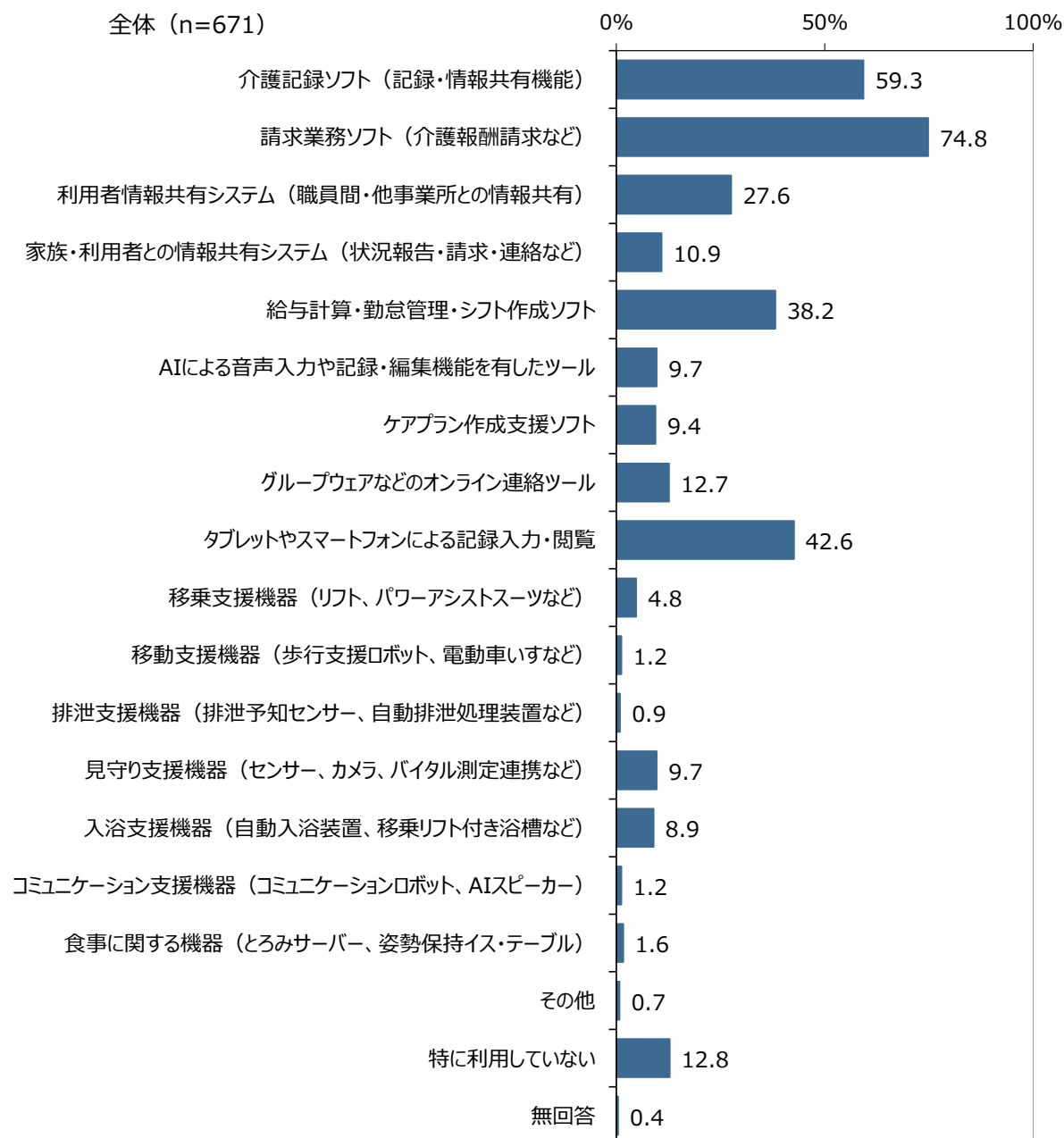
※網掛け■は最も割合が高いもの

(17) ICT や介護ロボット等の導入・利用状況

問 12	ICT や介護ロボット等について、現在どのようなものを導入・利用していますか。 (○はいくつでも)
------	--

ICT や介護ロボット等の導入・利用状況については、「請求業務ソフト（介護報酬請求など）」が 74.8%で最も高く、次いで「介護記録ソフト（記録・情報共有機能）」が 59.3%、「タブレットやスマートフォンによる記録入力・閲覧」が 42.6%と続いています。「特に利用していない」は 12.8%です。

図表 4-1-44 ICT や介護ロボット等の導入・利用状況



法人の種類別で見ると、「特に利用していない」では、その他の法人が 23.1%で最も高い状況です。

従業員規模別で見ると、「特に利用していない」では、10 人未満の事業者が 15.8%で最も高い状況です。

図表 4-1-45 ICT や介護ロボット等の導入・利用状況 法人の種類別・従業員規模別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	報介	請請	報（	利	求シ	家	ト	給	ル	録	A	ケ	ラ	ン	タ	ワ				
		護護	求求	職員	用者	スス	族族	作与	与	録	I	ア	グ	に	ブ	ブ	乗				
		共有	業務	共有	者情	・テ	・利	成ソ	計	・編	による	による	ア	グ	に	ブ	乗				
		機能	ソフト	他事	共有	・状	者との	算・勤	算・勤	集能	音声	有し	た	ツ	ア	な	の				
		（	（	業所	シテ	況報	情情	急管	理・シ	を有	入力	た	ツ	ア	な	の	の				
		記	録	業所	シテ	況報	情情	急管	理・シ	を有	入力	た	ツ	ア	な	の	の				
		録	情	業所	シテ	況報	情情	急管	理・シ	を有	入力	た	ツ	ア	な	の	の				
		情	情	業所	シテ	況報	情情	急管	理・シ	を有	入力	た	ツ	ア	な	の	の				
		情	情	業所	シテ	況報	情情	急管	理・シ	を有	入力	た	ツ	ア	な	の	の				
全体	671	59.3	74.8	27.6	10.9	38.2	9.7	9.4	12.7	42.6	4.8										
法人の種類別	社会福祉法人	45	75.6	80.0	40.0	20.0	68.9	15.6	15.6	15.6	60.0	31.1									
	医療法人	21	57.1	81.0	28.6	14.3	47.6	9.5	19.0	14.3	52.4	0.0									
	NPO法人	18	50.0	72.2	11.1	5.6	50.0	0.0	38.9	5.6	27.8	5.6									
	営利法人	540	59.4	74.8	28.1	10.2	35.7	9.8	7.8	13.1	42.6	2.8									
その他	26	53.8	61.5	11.5	7.7	30.8	3.8	11.5	0.0	19.2	7.7										
従業員規模別	10人未満	272	50.7	73.2	24.3	9.6	28.3	6.3	9.2	8.8	31.3	1.1									
	10人以上50人未満	268	57.8	71.3	26.5	10.8	34.3	9.3	7.5	9.7	42.2	3.0									
	50人以上100人未満	44	81.8	84.1	34.1	11.4	63.6	20.5	15.9	20.5	68.2	18.2									
	100人以上	67	80.6	85.1	40.3	16.4	70.1	19.4	14.9	32.8	68.7	17.9									
	合計	ポ	移	な	ン	排	定	サ	見	ど	置	入	ボ	器	コ	テ	サ	食	そ	特	無
		ット	動	な	ン	排	定	サ	見	ど	置	入	ボ	器	コ	テ	サ	食	そ	特	無
		支	支	な	ン	排	定	サ	見	ど	置	入	ボ	器	コ	テ	サ	食	そ	特	無
		援	援	な	ン	排	定	サ	見	ど	置	入	ボ	器	コ	テ	サ	食	そ	特	無
		機	機	な	ン	排	定	サ	見	ど	置	入	ボ	器	コ	テ	サ	食	そ	特	無
		器	器	な	ン	排	定	サ	見	ど	置	入	ボ	器	コ	テ	サ	食	そ	特	無
		車	車	な	ン	排	定	サ	見	ど	置	入	ボ	器	コ	テ	サ	食	そ	特	無
		（	（	な	ン	排	定	サ	見	ど	置	入	ボ	器	コ	テ	サ	食	そ	特	無
		歩	歩	な	ン	排	定	サ	見	ど	置	入	ボ	器	コ	テ	サ	食	そ	特	無
		行	行	な	ン	排	定	サ	見	ど	置	入	ボ	器	コ	テ	サ	食	そ	特	無
		支	支	な	ン	排	定	サ	見	ど	置	入	ボ	器	コ	テ	サ	食	そ	特	無
		援	援	な	ン	排	定	サ	見	ど	置	入	ボ	器	コ	テ	サ	食	そ	特	無
		口	口	な	ン	排	定	サ	見	ど	置	入	ボ	器	コ	テ	サ	食	そ	特	無
全体	671	1.2	0.9	9.7	8.9	1.2	1.6	0.7	12.8	0.4											
法人の種類別	社会福祉法人	45	4.4	4.4	66.7	33.3	4.4	13.3	2.2	8.9	0.0										
	医療法人	21	0.0	0.0	9.5	14.3	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0										
	NPO法人	18	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	5.6	5.6	0.0										
	営利法人	540	0.9	0.7	5.9	7.0	0.9	0.9	0.6	13.0	0.6										
その他	26	0.0	0.0	0.0	11.5	3.8	0.0	0.0	23.1	0.0											
従業員規模別	10人未満	272	0.4	0.0	1.8	1.1	0.7	0.0	0.7	15.8	0.4										
	10人以上50人未満	268	0.4	0.7	6.0	9.0	0.7	0.7	0.4	14.2	0.7										
	50人以上100人未満	44	0.0	0.0	34.1	29.5	0.0	4.5	2.3	2.3	0.0										
	100人以上	67	7.5	6.0	41.8	28.4	6.0	10.4	1.5	3.0	0.0										

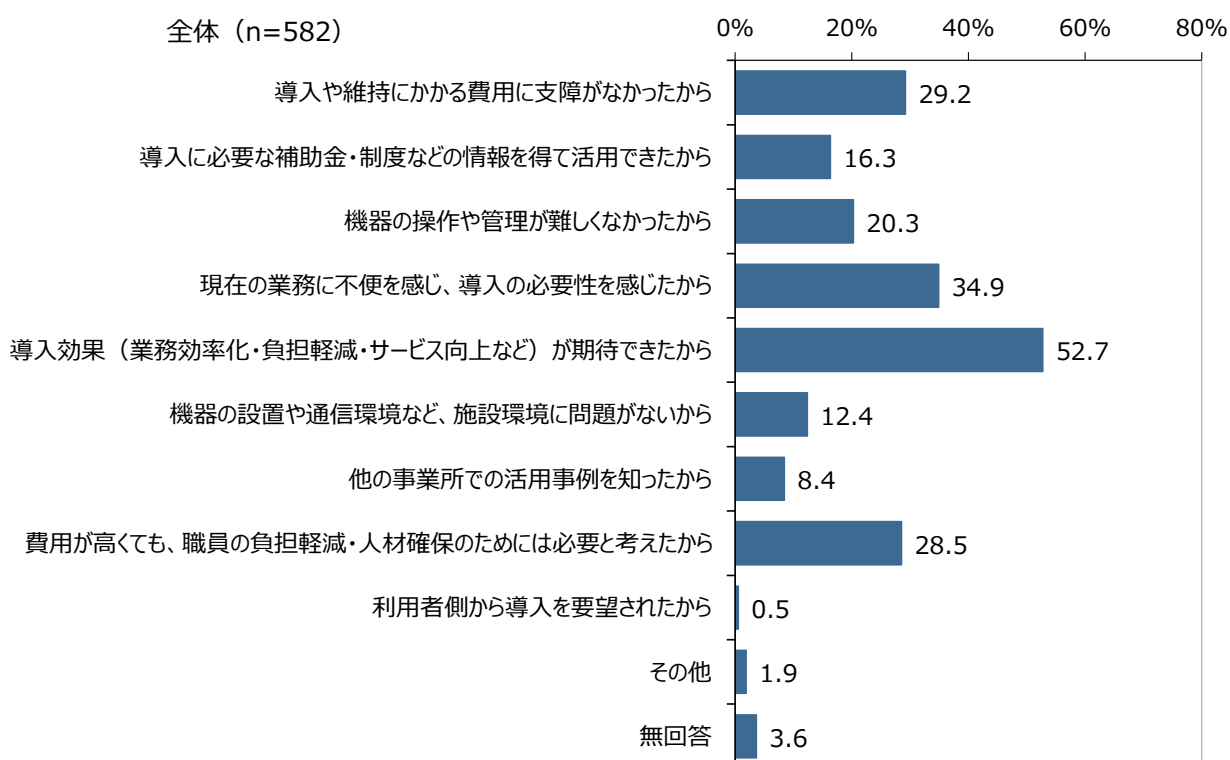
※網掛け■は最も割合が高いもの

(18) ICT や介護ロボット等を導入・利用している理由

問 12-1	問 12 で「1. 介護記録ソフト（記録・情報共有機能）」～「17. その他」と回答した法人にお伺いします。 導入・利用している理由は何ですか。（○はいくつでも）
--------	--

ICT や介護ロボット等を導入・利用している理由については、「導入効果（業務効率化・負担軽減・サービス向上など）が期待できたから」が 52.7%で最も高く、次いで「現在の業務に不便を感じ、導入の必要性を感じたから」が 34.9%、「導入や維持にかかる費用に支障がなかったから」が 29.2%と続いています。

図表 4-1-46 ICT や介護ロボット等を導入・利用している理由



法人の種類別で見ると、「導入効果（業務効率化・負担軽減・サービス向上など）が期待できたから」では、医療法人が85.0%で最も高い状況です。

従業員規模別で見ると、「導入効果（業務効率化・負担軽減・サービス向上など）が期待できたから」では、従業員の規模が大きくなるにつれて割合が増加しており、100人以上の事業者が86.2%で最も高い状況です。

図表 4-1-47 ICTや介護ロボット等を導入・利用している理由 法人の種類別・従業員規模別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	支障が なかつた から	導入の 必要を 得て 活用 でき た	導入の 必要を 得て 活用 でき ない	機器の 操作や 管理が 難しく ない	現在の 業務に 不便を 感じ ない	導入が 期待 できる	導入が 効果 的	導入が 業務 効率 化に 効果 的	導入が 業務 効率 化に 効果 的 でない	他の 事業 所 での 活用 事例 を 知 る	必要と 考え た ため に	費用が 高く ない	利用者 側から 導入を 要 望 さ る	その他	無 回 答
全体	582	29.2	16.3	20.3	34.9	52.7	12.4	8.4	28.5	0.5	1.9	3.6				
法人 別 の 種 類	社会福祉法人	41	7.3	48.8	19.5	48.8	73.2	12.2	17.1	63.4	0.0	2.4	2.4			
	医療法人	20	20.0	5.0	10.0	40.0	85.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0			
	NPO法人	17	29.4	23.5	11.8	35.3	41.2	11.8	0.0	17.6	0.0	0.0	11.8			
	営利法人	467	31.0	14.3	21.4	33.6	51.0	12.8	8.4	27.0	0.6	2.1	3.6			
	その他	20	40.0	10.0	15.0	40.0	40.0	5.0	5.0	20.0	0.0	0.0	0.0			
規 模 別 の 従 業 者	10人未満	228	39.9	9.6	22.4	23.2	43.4	10.1	11.4	18.0	0.9	1.8	3.5			
	10人以上50人未満	228	27.2	16.7	20.2	38.2	47.8	14.9	5.3	30.3	0.4	2.6	5.3			
	50人以上100人未満	43	20.9	23.3	20.9	48.8	69.8	14.0	7.0	37.2	0.0	2.3	0.0			
	100人以上	65	7.7	35.4	12.3	52.3	86.2	10.8	10.8	53.8	0.0	0.0	0.0			

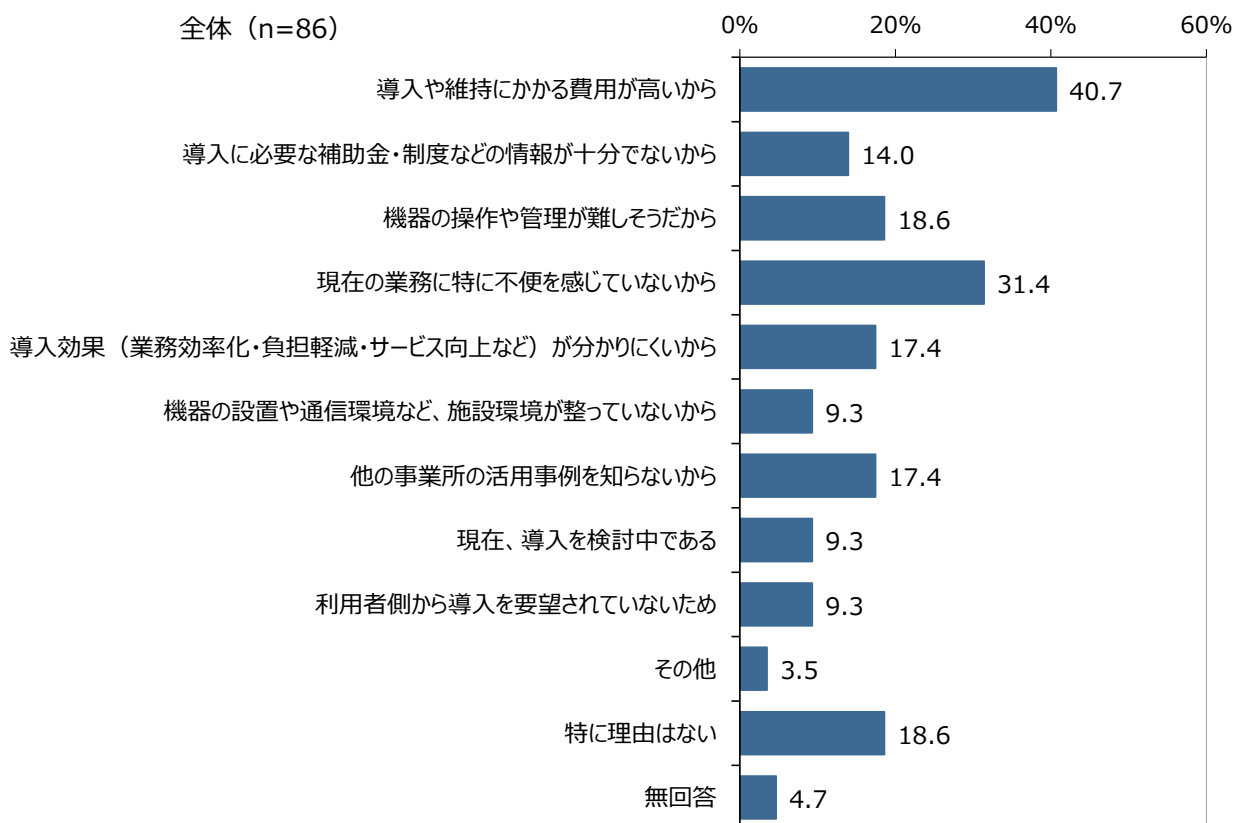
※網掛け■は最も割合が高いもの

(19) ICT や介護ロボット等を導入・利用していない理由

問 12-2	問 12 で「18. 特に利用していない」と回答した法人にお伺いします。 導入・利用していない理由は何ですか。（〇はいくつでも）
--------	---

ICT や介護ロボット等を導入・利用していない理由については、「導入や維持にかかる費用が高いから」が40.7%で最も高く、次いで「現在の業務に特に不便を感じていないから」が31.4%、「機器の操作や管理が難しそうだから」、「特に理由はない」がいずれも18.6%と続いています。

図表 4-1-48 ICT や介護ロボット等を導入・利用していない理由



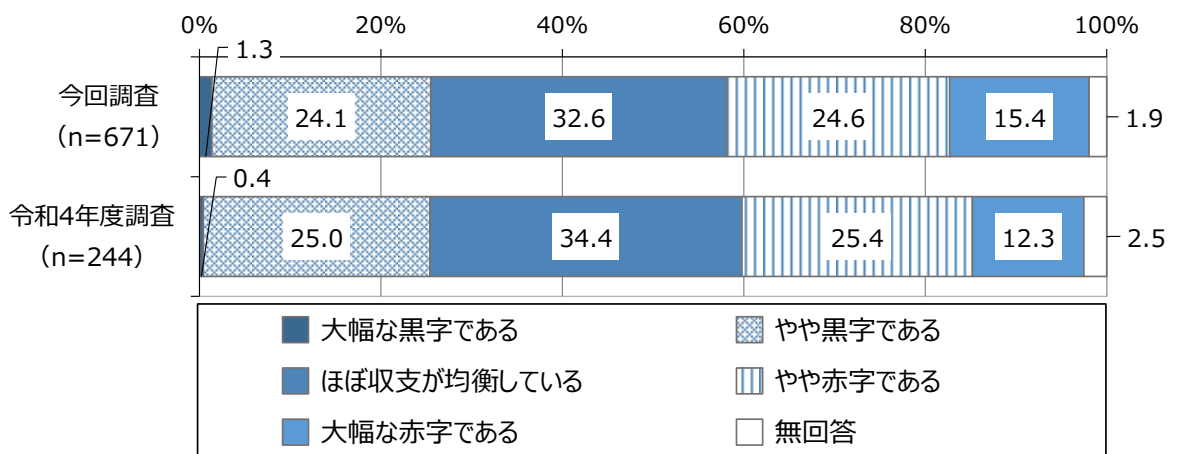
(20) 介護事業収支の状況

問 13	令和 6 年度の貴法人の介護事業会計についてお伺いします。介護事業収支は、どのような状況ですか。(○はひとつ)
------	---

介護事業収支の状況については、「ほぼ収支が均衡している」が 32.6%で最も高く、次いで「やや赤字である」が 24.6%、「やや黒字である」が 24.1%と続いています。

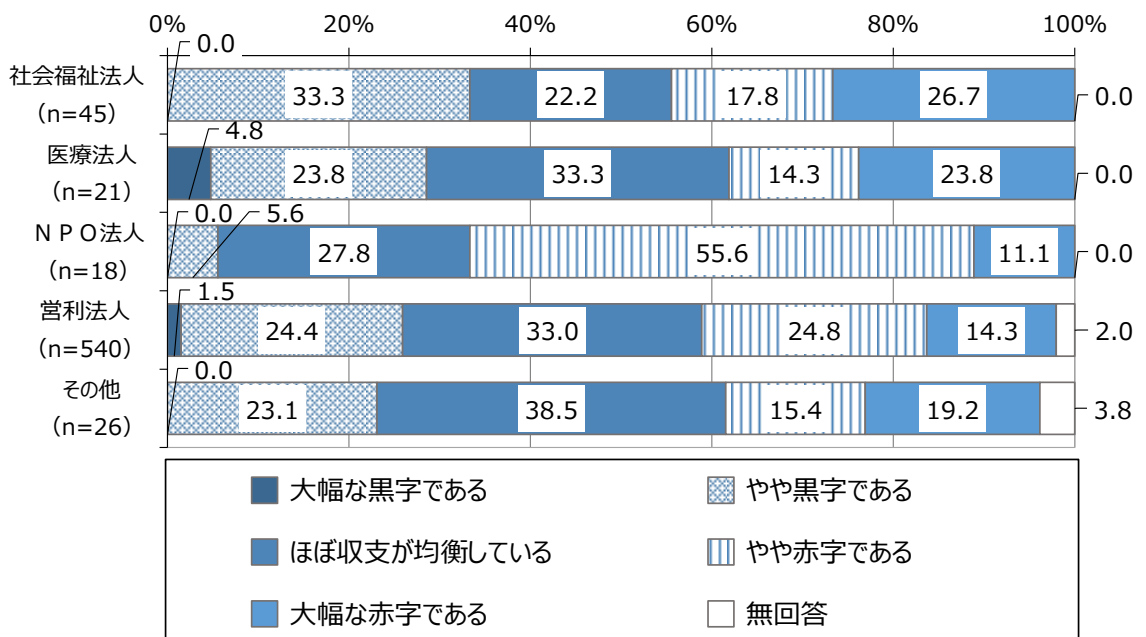
令和 4 (2022) 年度調査と比較すると、「大幅な赤字である」(15.4%)では、令和 4 (2022) 年度調査(12.3%)より 3.1 ポイント増加しています。

図表 4-1-49 介護事業収支の状況

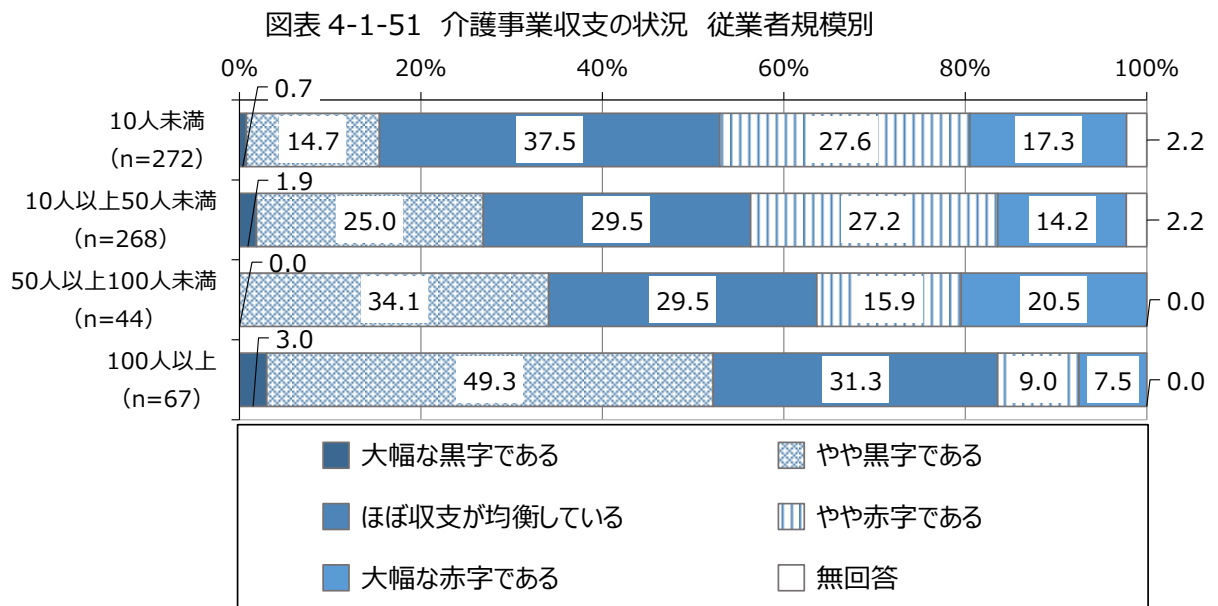


法人の種類別でみると、『赤字である』（「やや赤字である」と「大幅な赤字である」の合計）では、NPO 法人が 66.7%で最も高い状況です。

図表 4-1-50 介護事業収支の状況 法人の種類別



従業員規模別でみると、『黒字である』（「大幅な黒字である」と「やや黒字である」の合計）では、従業員の規模が大きくなるにつれて割合が増加しており、100人以上の事業者が52.3%で最も高い状況です。



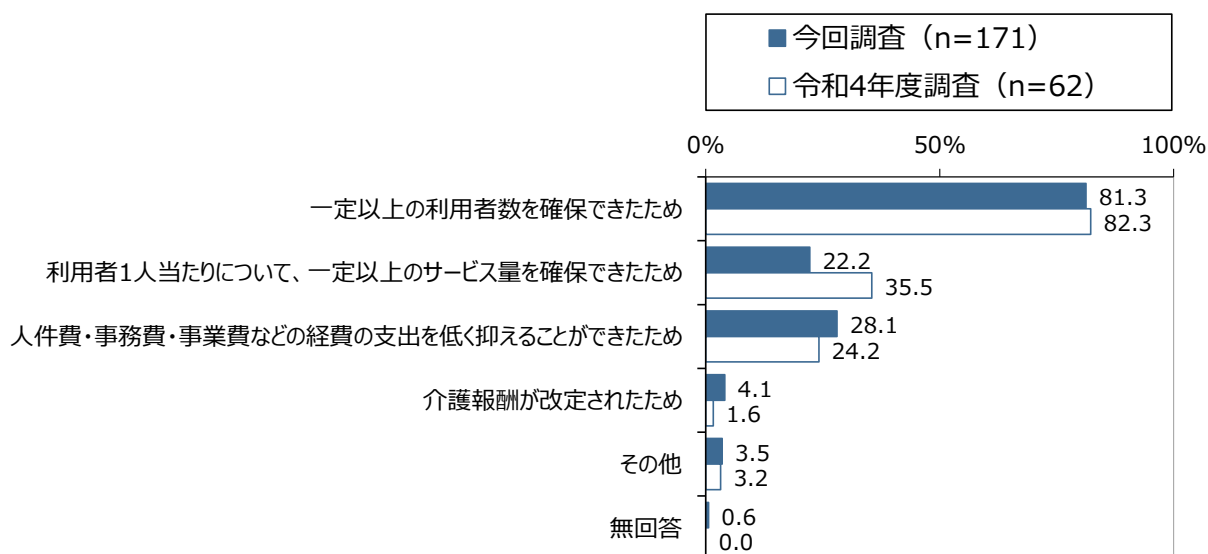
(21) 黒字である主な理由

問 13-1	問 13 で「1. 大幅な黒字である」「2. やや黒字である」を選んだ法人にお伺いします。 その主な理由は何だと思えますか。（〇は 2 つまで）
--------	---

黒字である主な理由については、「一定以上の利用者数を確保できたため」が 81.3%で最も高く、次いで「人件費・事務費・事業費などの経費の支出を低く抑えることができたため」が 28.1%、「利用者 1 人当たりについて、一定以上のサービス量を確保できたため」が 22.2%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「利用者 1 人当たりについて、一定以上のサービス量を確保できたため」（22.2%）では、令和 4（2022）年度調査（35.5%）より 13.3 ポイント減少しています。

図表 4-1-52 黒字である主な理由



法人の種類別で見ると、営利法人では「一定以上の利用者数を確保できたため」が 82.1%で最も高い状況です。

従業者規模別で見ると、「一定以上の利用者数を確保できたため」では、100 人以上の事業者が 91.4%で最も高い状況です。

図表 4-1-53 黒字である主な理由 法人の種類別・従業者規模別

単位：実数（人）、構成比（%）

		合計	保一定以上のため利用者数を確保	量て、利用者確保以上のため	抑え、利用者確保以上のため	な件費・経費の出た低め	介護報酬が改定された	その他	無回答
全体		171	81.3	22.2	28.1	4.1	3.5	0.6	
法人の種類別	社会福祉法人	15	93.3	26.7	13.3	6.7	6.7	0.0	
	医療法人	6	83.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	
	NPO法人	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	営利法人	140	82.1	22.9	30.7	2.1	3.6	0.7	
	その他	6	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	
従業者規模別	10人未満	42	73.8	9.5	42.9	0.0	2.4	2.4	
	10人以上50人未満	72	81.9	23.6	25.0	2.8	2.8	0.0	
	50人以上100人未満	15	73.3	26.7	26.7	26.7	0.0	0.0	
	100人以上	35	91.4	31.4	17.1	2.9	5.7	0.0	

※網掛け■は最も割合が高いもの

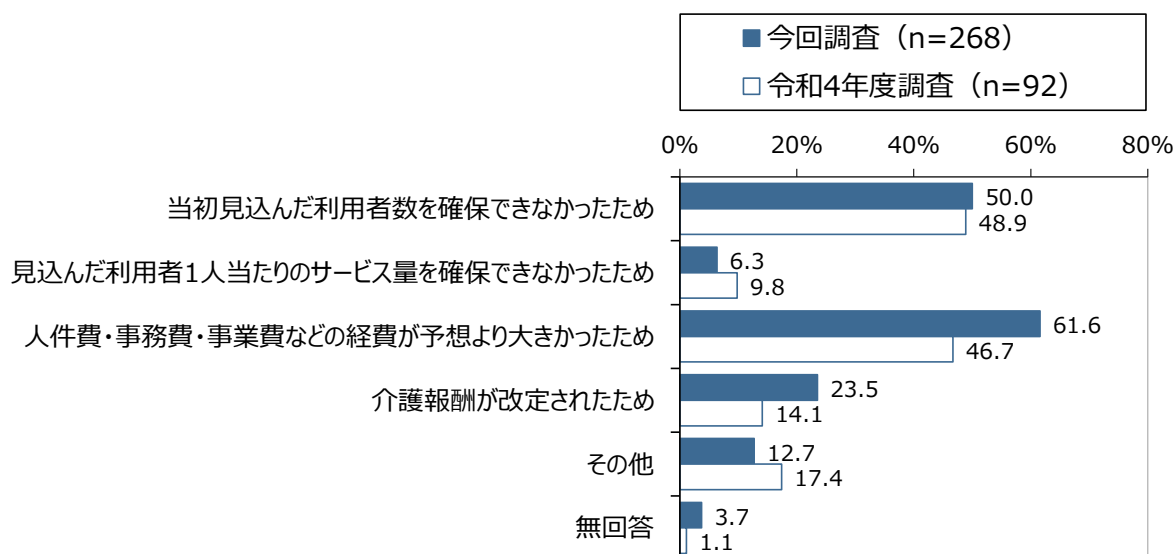
(22) 赤字である主な理由

問 13-2	問 13 で「4. やや赤字である」「5. 大幅な赤字である」を選んだ法人にお伺いします。 その主な理由は何だと思えますか。（○は 2 つまで）
--------	---

赤字である主な理由については、「人件費・事務費・事業費などの経費が予想より大きかったため」が 61.6% で最も高く、次いで「当初見込んだ利用者数を確保できなかったため」が 50.0%、「介護報酬が改定されたため」が 23.5%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「人件費・事務費・事業費などの経費が予想より大きかったため」（61.6%）では、令和 4（2022）年度調査（46.7%）より 14.9 ポイント増加しています。

図表 4-1-54 赤字である主な理由



法人の種類別で見ると、営利法人では「人件費・事務費・事業費などの経費が予想より大きかったため」が60.7%で最も高い状況です。

従業者規模別で見ると、50人以上100人未満の事業者では「当初見込んだ利用者数を確保できなかったため」の割合が最も高く、それ以外の事業者では「人件費・事務費・事業費などの経費が予想より大きかったため」の割合が最も高い状況です。

図表 4-1-55 赤字である主な理由 法人の種類別・従業者規模別

単位：実数（人）、構成比（%）

	合計	確保初 で見込 きな かだ った 利用 者数 を	きり 見 か ん だ た ス 用 者 を 1 人 保 当 で た	き な の 経 費 が 予 想 よ り 業 大 費	人 件 費 ・ 事 務 費 ・ 事 業 費	め 介 護 報 酬 が 改 定 さ れ た	そ の 他	無 回 答
全体	268	50.0	6.3	61.6	23.5	12.7	3.7	
法 人 の 種 類	社会福祉法人	20	70.0	5.0	80.0	20.0	5.0	0.0
	医療法人	8	75.0	25.0	50.0	12.5	0.0	0.0
	NPO法人	12	66.7	8.3	50.0	25.0	25.0	0.0
	営利法人	211	46.9	5.7	60.7	25.1	12.8	4.3
	その他	9	55.6	11.1	55.6	22.2	11.1	11.1
規 模 別 の 従 業 者	10人未満	122	52.5	7.4	55.7	13.9	15.6	2.5
	10人以上50人未満	111	42.3	6.3	63.1	36.0	10.8	5.4
	50人以上100人未満	16	93.8	0.0	68.8	6.3	6.3	0.0
	100人以上	11	54.5	9.1	81.8	18.2	18.2	0.0

※網掛け■は最も割合が高いもの

(23) 今後堺市で事業運営を行いたいサービス

問 14	<p>今後、堺市内で事業運営を行いたいサービスはありますか。</p> <p>ある場合はその理由について、それぞれサービス種別ごとに 10 ページの (1) 「今後事業運営を行いたい理由」から該当するものを選び、その番号を記入してください (番号は 3 つまで)。また、それぞれ予定している地域があれば 10 ページの (2) 「日常生活圏域」から該当する地域の番号を記入してください。</p>
------	--

① 今後堺市で事業運営を行いたいサービスの理由

今後、堺市内で事業運営を行いたいサービスについては、「居宅介護支援」が 67 法人で最も多く、次いで「訪問介護」が 52 法人、「訪問看護」が 36 法人と続いています。

また、今後堺市で事業運営を行いたいサービスの理由については、多くのサービスで「利用者から他の介護サービスの要望があったため」の割合が高い状況です。

図表 4-1-56 今後堺市で事業運営を行いたいサービスの理由

		単位：実数 (法人)、構成比 (%)											
		合計	土地・建物の確保ができた (でき	利用者確保の見込みがあった (あ	建築などの整備に当たり資金の確保	事業経営に見合った介護報酬が得	市で既に他の介護サービスを行っ	事業経営が安定しており余力があ	職員確保の見込みがあった (あ	特になし	望利用者から他の介護サービスの要	その他	無回答
居宅介護支援		67	13.4	0.0	29.9	11.9	20.9	6.0	6.0	16.4	25.4	10.4	1.5
居宅サービス	訪問介護	52	3.8	1.9	28.8	11.5	26.9	11.5	7.7	19.2	21.2	11.5	0.0
	訪問入浴介護	15	0.0	0.0	33.3	6.7	6.7	0.0	0.0	13.3	60.0	6.7	0.0
	訪問看護	36	5.6	0.0	33.3	8.3	16.7	11.1	5.6	8.3	13.9	16.7	8.3
	訪問リハビリテーション	16	12.5	0.0	50.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	37.5	6.3	0.0
	居宅療養管理指導	11	0.0	0.0	36.4	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	45.5	18.2	0.0
	通所介護	22	22.7	4.5	27.3	9.1	27.3	18.2	4.5	9.1	31.8	4.5	0.0
	通所リハビリテーション	8	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	87.5	0.0	0.0
	短期入所生活介護	8	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	75.0	0.0	0.0
	短期入所療養介護	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	特定施設入居者生活介護	13	15.4	7.7	15.4	7.7	23.1	0.0	15.4	15.4	46.2	7.7	0.0
福祉用具貸与	13	7.7	0.0	30.8	0.0	23.1	0.0	0.0	0.0	38.5	23.1	7.7	
特定福祉用具販売	9	11.1	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	55.6	11.1	11.1	
地域密着型サービス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	8	25.0	0.0	0.0	12.5	25.0	12.5	0.0	0.0	62.5	0.0	0.0
	夜間対応型訪問介護	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	71.4	14.3	14.3
	認知症対応型通所介護	7	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	71.4	14.3	0.0
	小規模多機能型居宅介護	9	11.1	11.1	11.1	0.0	33.3	0.0	0.0	22.2	44.4	11.1	0.0
	地域密着型通所介護	13	15.4	15.4	15.4	15.4	30.8	15.4	0.0	23.1	38.5	0.0	0.0
	認知症対応型共同生活介護	8	12.5	12.5	0.0	12.5	25.0	0.0	0.0	25.0	50.0	12.5	0.0
	地域密着型特定施設入居者生活介護	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	6	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	66.7	0.0	0.0
看護小規模多機能型居宅介護	7	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	42.9	42.9	14.3	0.0	
サービス施設	介護老人福祉施設	7	0.0	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	57.1	14.3	0.0
	介護老人保健施設	7	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	42.9	14.3	0.0
	介護医療院	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	

※網掛け ■ は最も割合が高いもの

② 今後堺市で事業運営を行いたいサービスの予定地域

図表 4-1-57 今後堺市で事業運営を行いたいサービスの予定地域①

単位：実数（法人）、実数（件）

	合計	堺 1 区	堺 2 区	堺 3 区	堺 4 区	中 1 区	中 2 区	中 3 区	東 1 区	東 2 区	西 1 区	西 2 区	
居宅介護支援	67	8	10	12	12	9	9	8	5	2	8	10	
居宅 サ ー ビ ス	訪問介護	52	5	6	7	7	6	8	6	4	2	6	6
	訪問入浴介護	15	3	3	3	5	5	4	2	2	2	2	3
	訪問看護	36	7	8	8	7	9	7	5	2	3	4	8
	訪問リハビリテーション	16	3	3	3	5	1	0	0	0	2	1	2
	居宅療養管理指導	11	2	2	2	4	1	0	0	0	0	0	1
	通所介護	22	3	4	3	5	2	1	0	1	0	0	5
	通所リハビリテーション	8	2	2	2	4	1	0	0	0	0	0	1
	短期入所生活介護	8	2	2	2	4	1	0	0	1	0	0	0
	短期入所療養介護	6	1	1	1	3	1	0	0	0	0	0	0
	特定施設入居者生活介護	13	1	1	1	3	3	4	2	0	0	1	2
	福祉用具貸与	13	3	3	3	5	5	4	3	2	2	2	2
	特定福祉用具販売	9	2	2	2	3	4	2	2	1	1	1	1
地 域 密 着 型 サ ー ビ ス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	8	1	1	2	2	1	0	1	1	0	0	0
	夜間対応型訪問介護	7	1	1	1	2	1	1	0	0	0	0	0
	認知症対応型通所介護	7	2	2	2	3	2	1	1	0	0	1	1
	小規模多機能型居宅介護	9	1	1	1	2	1	3	1	0	0	1	1
	地域密着型通所介護	13	3	4	3	4	2	1	1	0	0	0	0
	認知症対応型共同生活介護	8	1	1	1	2	0	1	1	0	1	1	2
	地域密着型特定施設入居者生活介護	4	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	6	1	1	1	2	1	0	0	0	0	2	2
サ ー 施 ビ 設 ス	看護小規模多機能型居宅介護	7	1	1	2	2	1	0	0	0	0	1	1
	介護老人福祉施設	7	1	1	1	2	1	0	0	0	1	1	2
	介護老人保健施設	7	1	1	1	3	1	0	0	0	0	1	2
介護医療院	3	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	

図表 4-1-58 今後堺市で事業運営を行いたいサービスの予定地域②

単位：実数（法人）、実数（件）

		合計	西 3 区	南 1 区	南 2 区	南 3 区	南 4 区	北 1 区	北 2 区	北 3 区	北 4 区	美 原 1 区	無 回 答
居宅介護支援		67	7	6	8	4	5	7	6	6	12	1	4
居宅 サ ー ビ ス	訪問介護	52	4	5	6	5	5	7	5	5	9	0	8
	訪問入浴介護	15	2	2	4	3	3	2	1	1	3	1	0
	訪問看護	36	4	6	6	5	7	8	5	5	10	3	2
	訪問リハビリテーション	16	1	1	2	1	1	1	0	1	3	1	0
	居宅療養管理指導	11	0	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1
	通所介護	22	2	2	4	4	3	2	3	2	4	1	1
	通所リハビリテーション	8	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0
	短期入所生活介護	8	0	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0
	短期入所療養介護	6	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0
	特定施設入居者生活介護	13	2	1	1	2	1	1	0	0	1	0	0
	福祉用具貸与	13	2	4	5	4	4	3	2	3	2	2	0
	特定福祉用具販売	9	1	3	3	3	3	2	1	2	1	1	0
地 域 密 着 型 サ ー ビ ス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	8	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0
	夜間対応型訪問介護	7	0	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0
	認知症対応型通所介護	7	1	1	2	1	1	1	0	0	0	0	0
	小規模多機能型居宅介護	9	1	2	1	1	2	1	0	1	1	0	0
	地域密着型通所介護	13	0	2	4	2	2	1	2	1	1	0	1
	認知症対応型共同生活介護	8	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0
	地域密着型特定施設入居者生活介護	4	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	6	2	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0
サ ー ビ ス	看護小規模多機能型居宅介護	7	1	1	1	1	1	0	0	2	1	1	0
	介護老人福祉施設	7	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	1
	介護老人保健施設	7	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	1
	介護医療院	3	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0

2 災害時の対策について

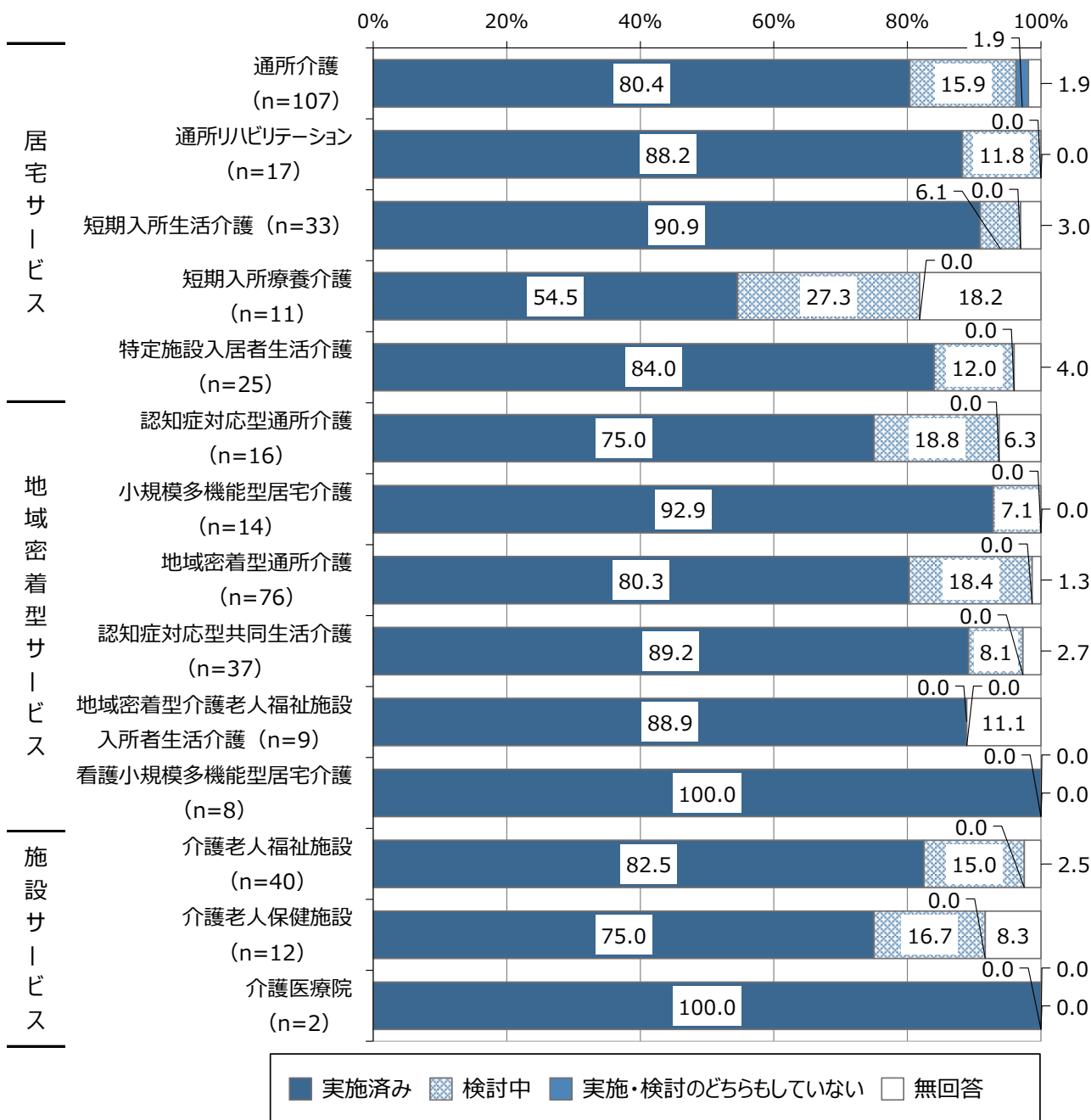
(1) 災害に対する対策の実施状況

問 15	貴法人の災害に対する対策の実施状況について、それぞれサービス種別ごとに該当する番号に○をつけてください。
------	--

① 地震・津波対策

地震・津波対策について、「実施・検討のどちらもしていない」では、通所介護が 1.9%で最も高い状況です。

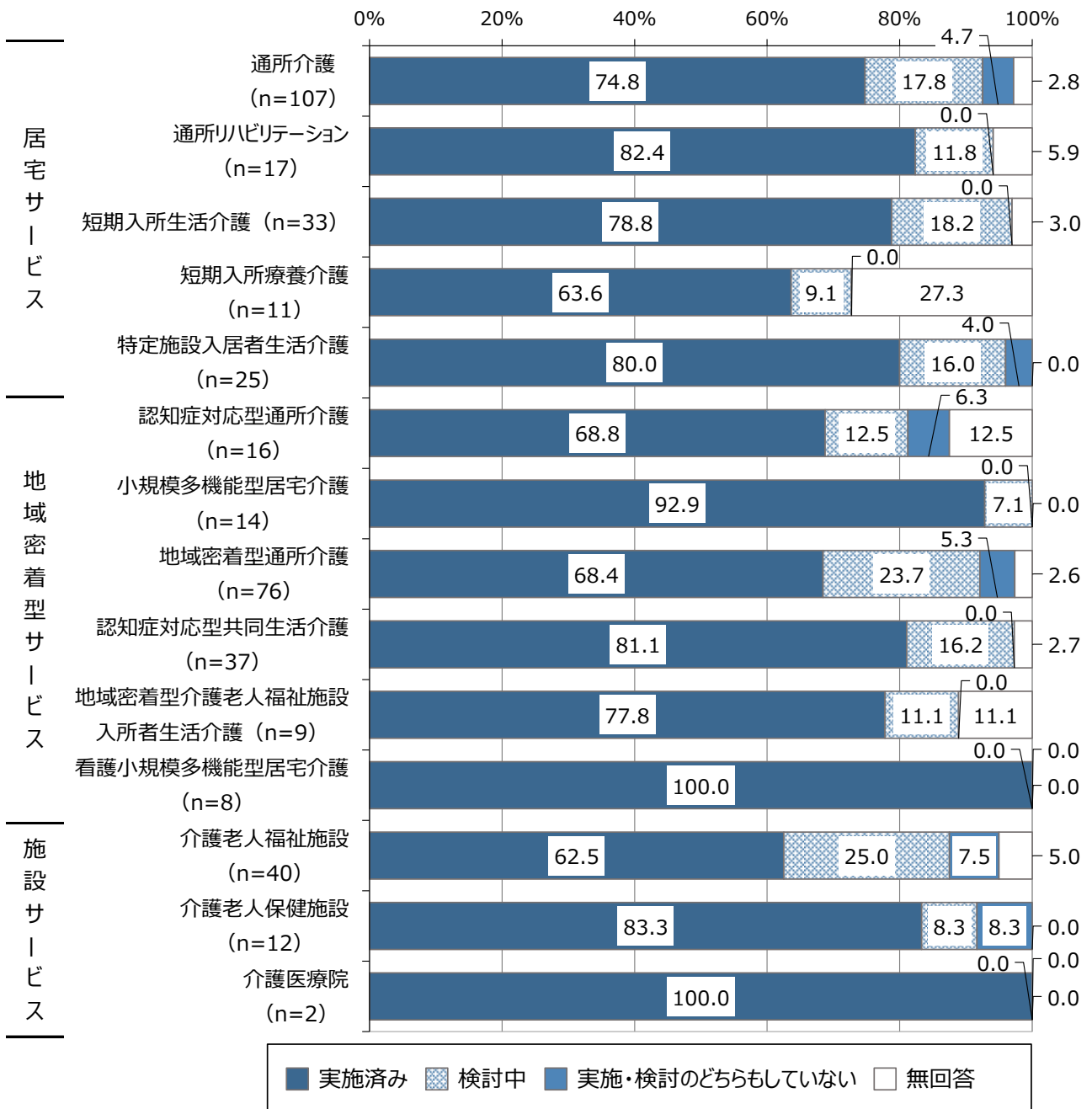
図表 4-2-1 地震・津波対策



② 風水害対策（土砂災害は除く）

風水害対策（土砂災害は除く）について、「実施・検討のどちらもしていない」では、介護老人保健施設が8.3%で最も高い状況です。

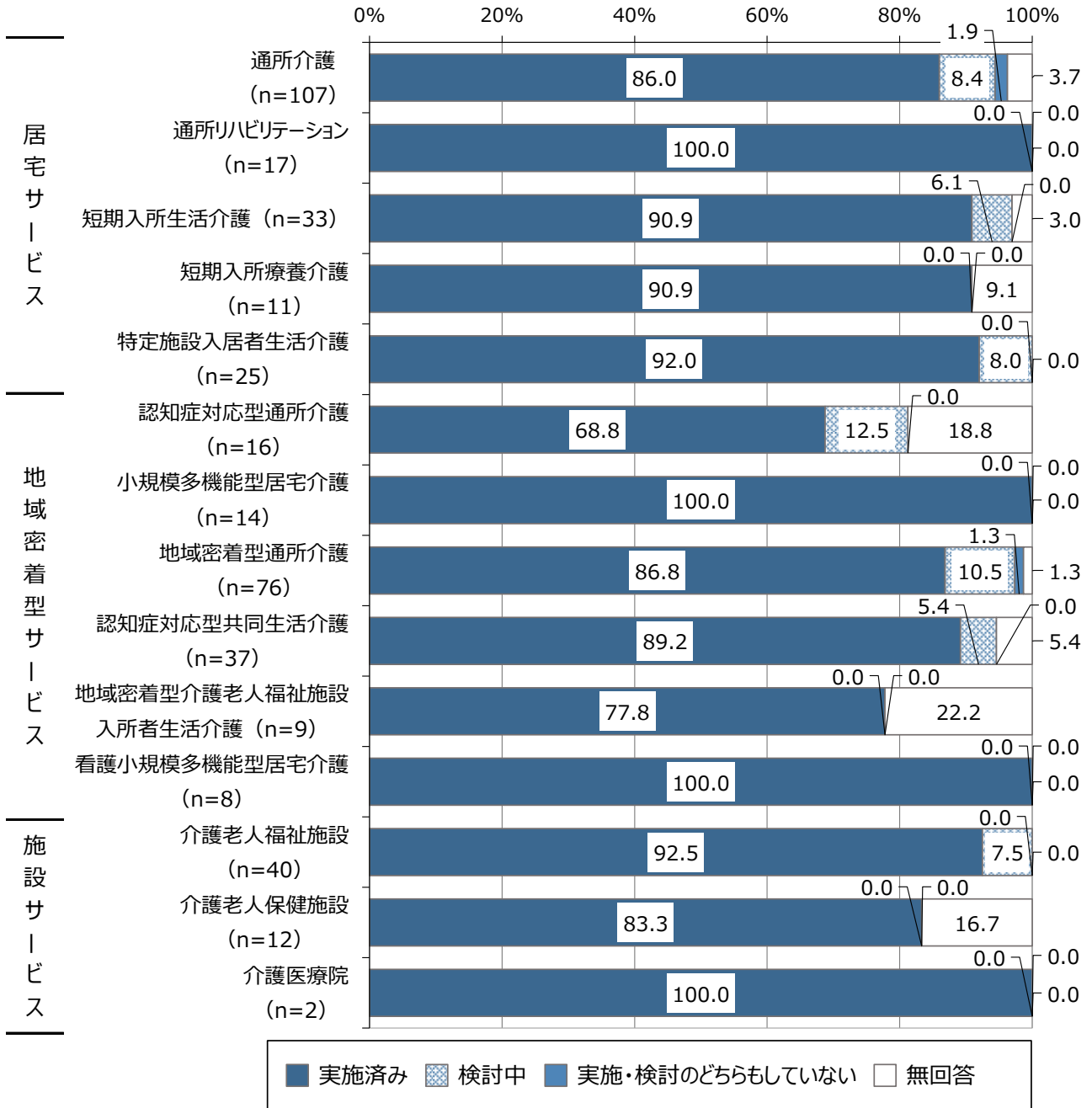
図表 4-2-2 風水害対策（土砂災害は除く）



③ 火災対策

火災対策について、「実施・検討のどちらもしていない」では、通所介護が 1.9%で最も高い状況です。

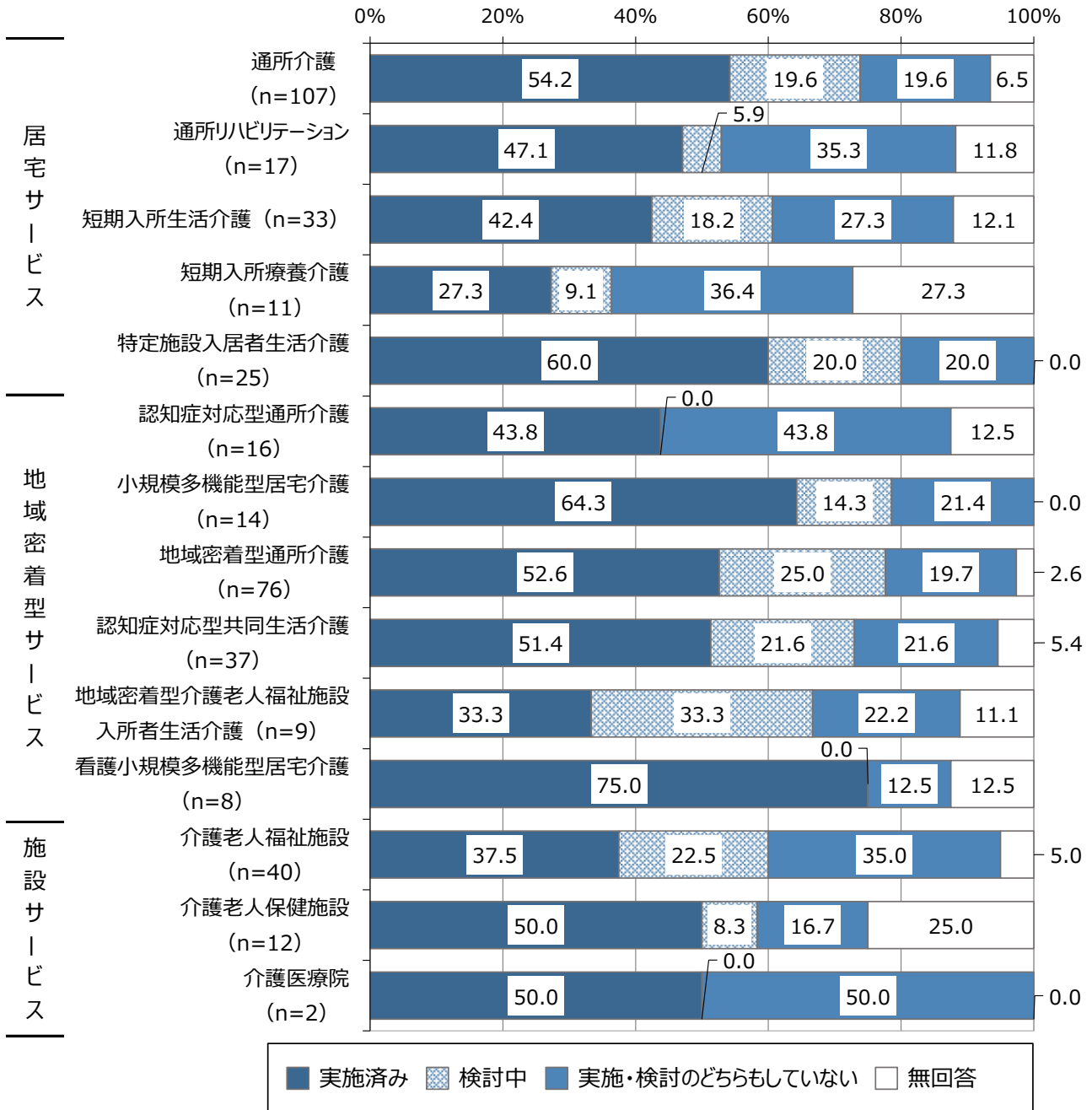
図表 4-2-3 火災対策



④ 土砂災害対策

土砂災害対策については、「実施済み」では、看護小規模多機能型居宅介護が 75.0%で最も高い状況です。

図表 4-2-4 土砂災害対策

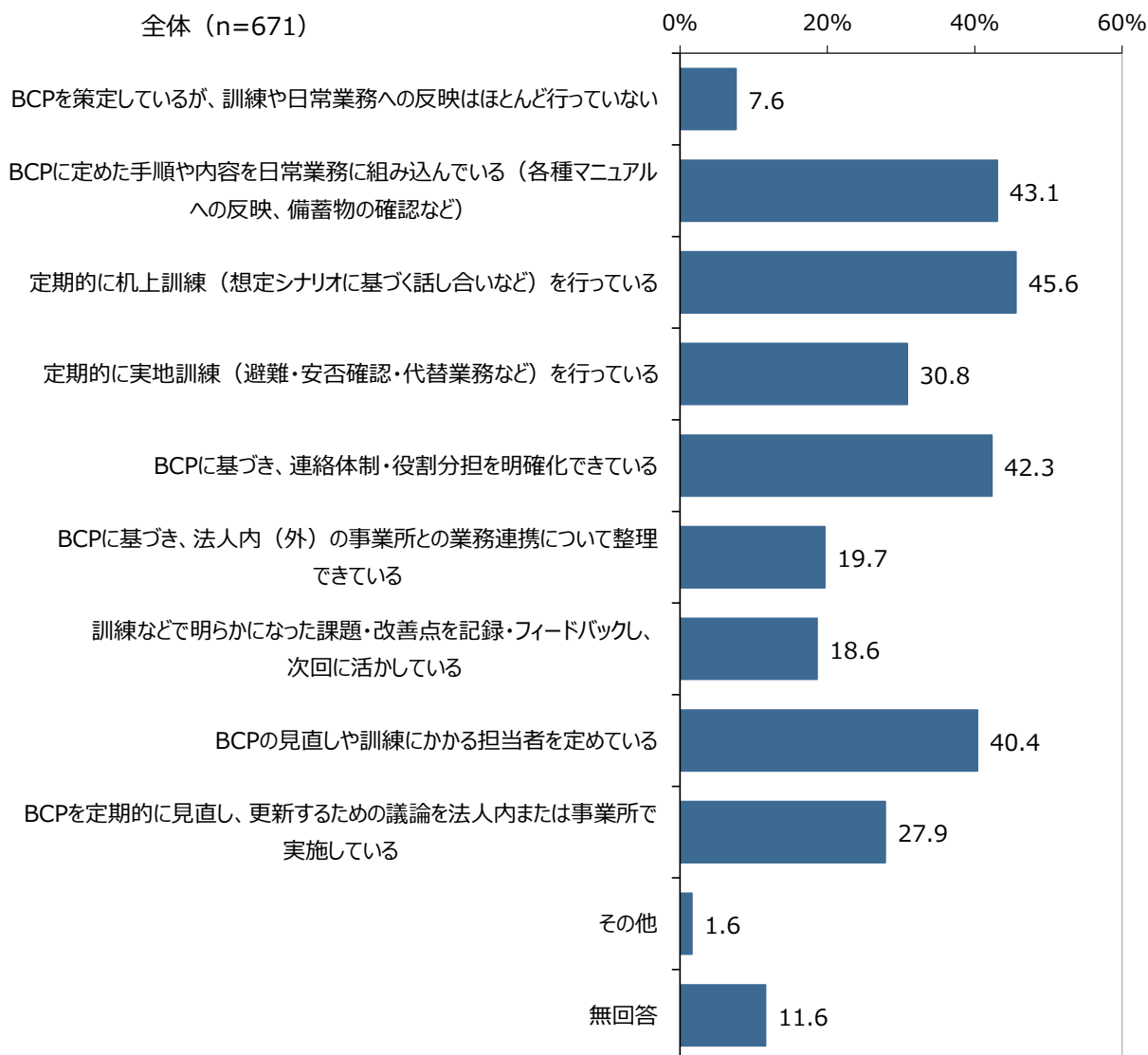


(2) 業務継続計画（BCP）の運用状況

問 16 業務継続計画（BCP）の運用状況は、どのような状況ですか。（○はいくつでも）

業務継続計画（BCP）の運用状況については、「定期的に机上訓練（想定シナリオに基づく話し合いなど）を行っている」が 45.6%で最も高く、次いで「BCP に定めた手順や内容を日常業務に組み込んでいる（各種マニュアルへの反映、備蓄物の確認など）」が 43.1%、「BCP に基づき、連絡体制・役割分担を明確化できている」が 42.3%と続いています。

図表 4-2-5 業務継続計画（BCP）の運用状況



3 居宅介護支援事業所

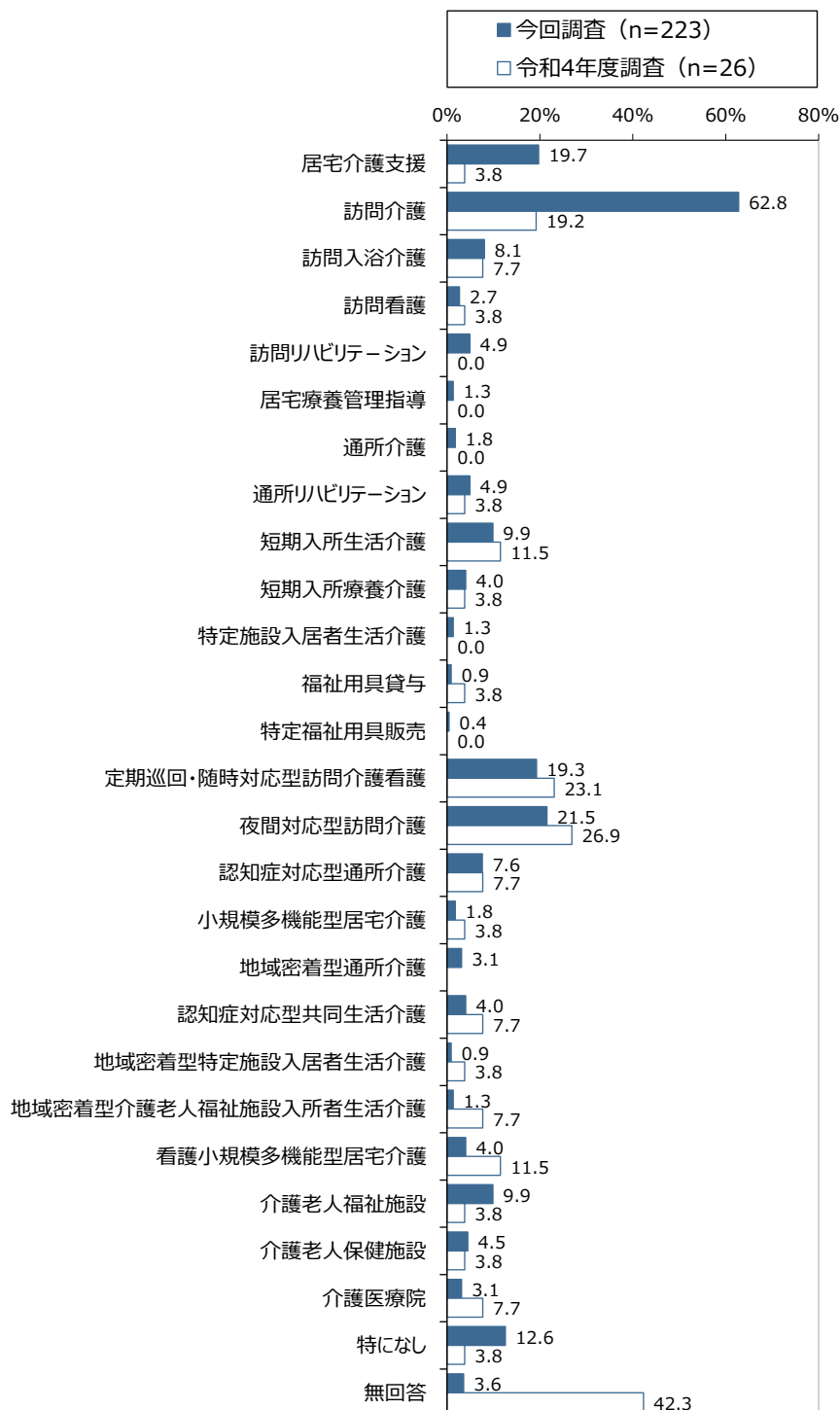
(1) 堺市の要介護者にとって不足していると感じるサービス

問 17	貴法人から見て、堺市の要介護者（要介護 1～5）にとって不足していると感じるサービスは何ですか。（○はいくつでも）
------	---

堺市の要介護者にとって不足していると感じるサービスについては、「訪問介護」が 62.8%で最も高く、次いで「夜間対応型訪問介護」が 21.5%、「居宅介護支援」が 19.7%と続いています。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「訪問介護」（62.8%）では、令和 4（2022）年度調査（19.2%）より 43.6 ポイント増加しています。

図表 4-3-1 堺市の要介護者にとって不足していると感じるサービス

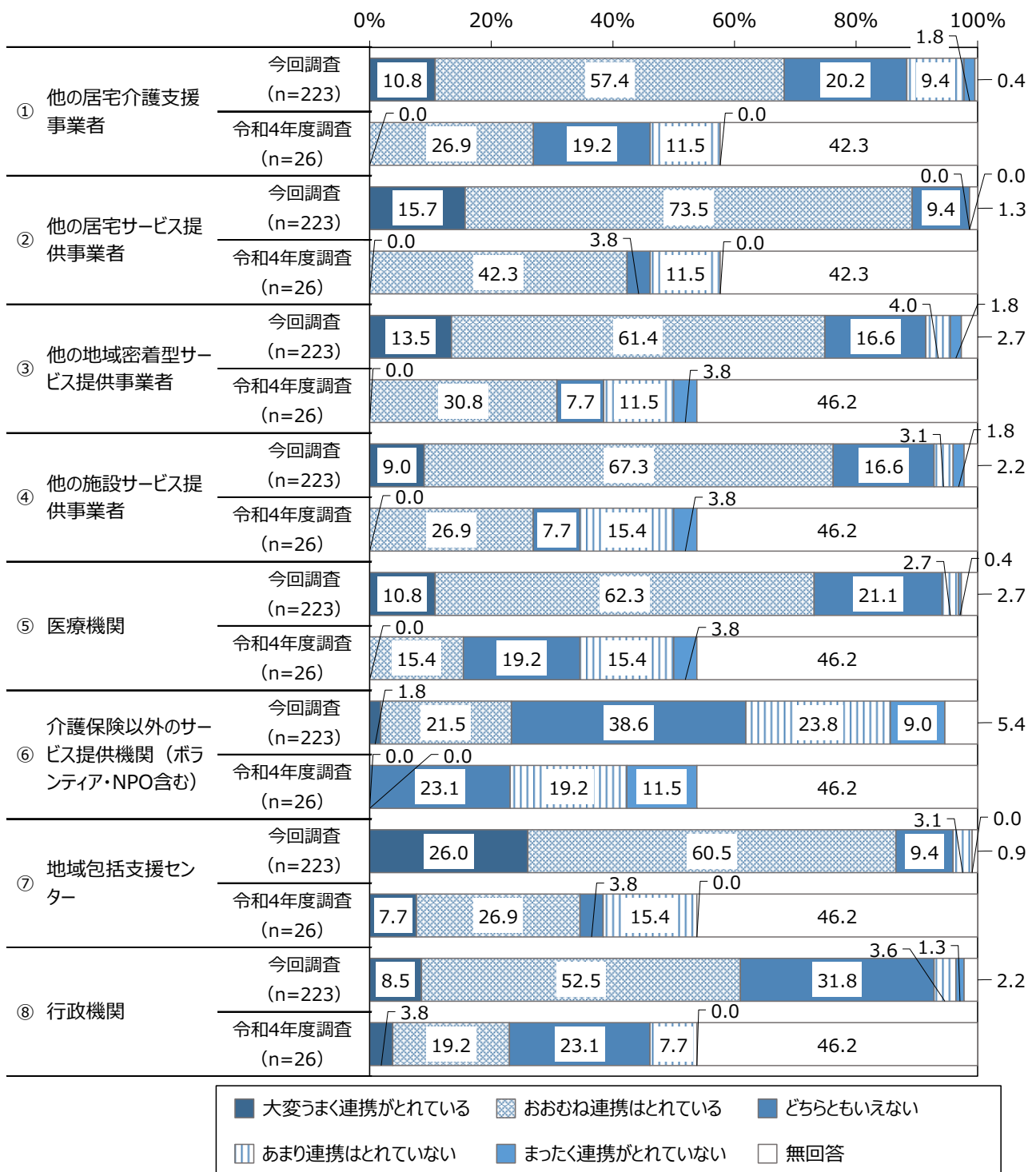


(2) 外部の諸機関との連携状況

問 18	サービスを実施するにあたって、他の事業所や機関等との連携はどの程度とれていますか。下記の①～⑧の項目ごとに、あてはまるものを選択してください。（それぞれ○はひとつ）
------	--

外部の諸機関との連携状況について、『連携がとれている』（「大変うまく連携がとれている」と「おおむね連携はとれている」の合計）では、「② 他の居宅サービス提供事業者」が 89.2%で最も高く、『連携はとれていない』（「あまり連携はとれていない」と「まったく連携がとれていない」の合計）では、「⑥ 介護保険以外のサービス提供機関（ボランティア・NPO 含む）」が 32.8%で最も高い状況です。

図表 4-3-2 外部の諸機関との連携状況



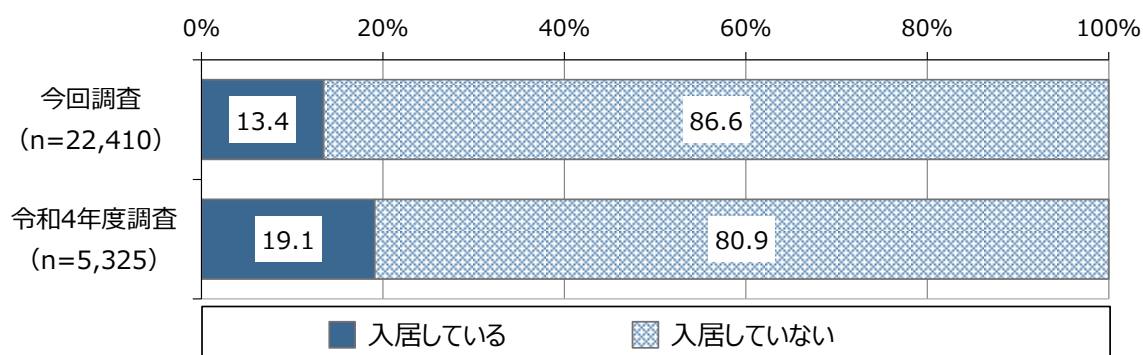
(3) 居宅介護支援事業所の担当件数のうち、有料老人ホーム又はサービス付き高齢者向け住宅に入居されている人の割合

問 19	現在（令和 8 年 1 月 1 日）の居宅介護支援事業所の利用者数（担当件数）を記入してください。そのうち、有料老人ホーム又はサービス付き高齢者向け住宅に入居されている方の人数を記入してください。
------	--

居宅介護支援事業所の担当件数のうち、有料老人ホーム又はサービス付き高齢者向け住宅に入居されている人の割合については、「入居している」が 13.4%、「入居していない」が 86.6%です。

令和 4（2022）年度調査と比較すると、「入居している」（13.4%）では、令和 4（2022）年度調査（19.1%）より 5.7 ポイント減少しています。

図表 4-3-3 居宅介護支援事業所の担当件数のうち、有料老人ホーム又はサービス付き高齢者向け住宅に入居されている人の割合

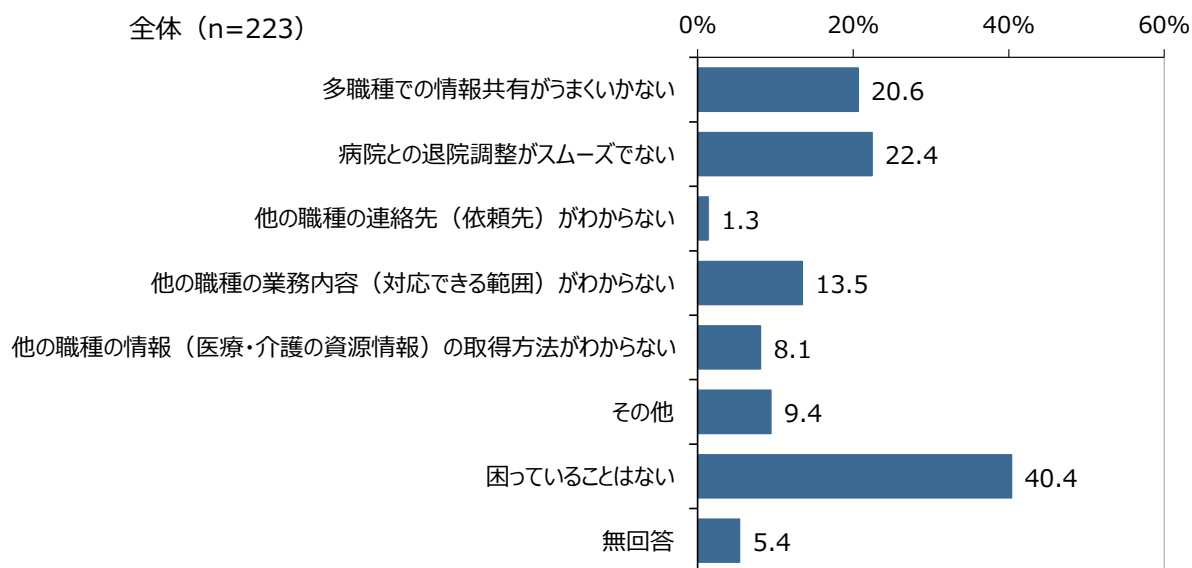


(4) 多職種での連携において、業務上困っていること

問 20	利用者の自立支援と生活の質向上のために多職種での連携は重要ですが、連携にあたって業務上困っていることは何ですか。（○はいくつでも）
------	---

多職種での連携において、業務上困っていることについては、「困っていることはない」が 40.4%で最も高く、次いで「病院との退院調整がスムーズでない」が 22.4%、「多職種での情報共有がうまくいかない」が 20.6%と続いています。

図表 4-3-4 多職種での連携において、業務上困っていること

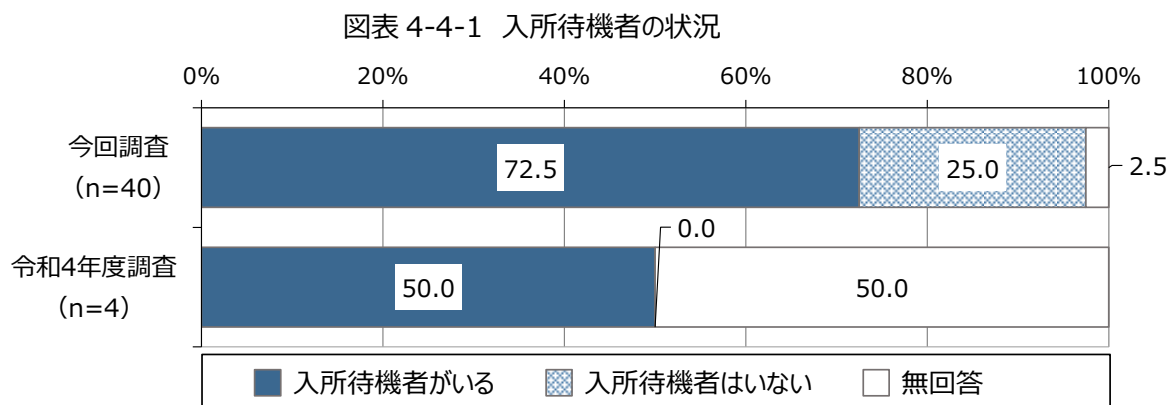


4 施設サービス

(1) 入所待機者の状況

問 21	施設に入所待機者はいますか。(○はひとつ)
------	-----------------------

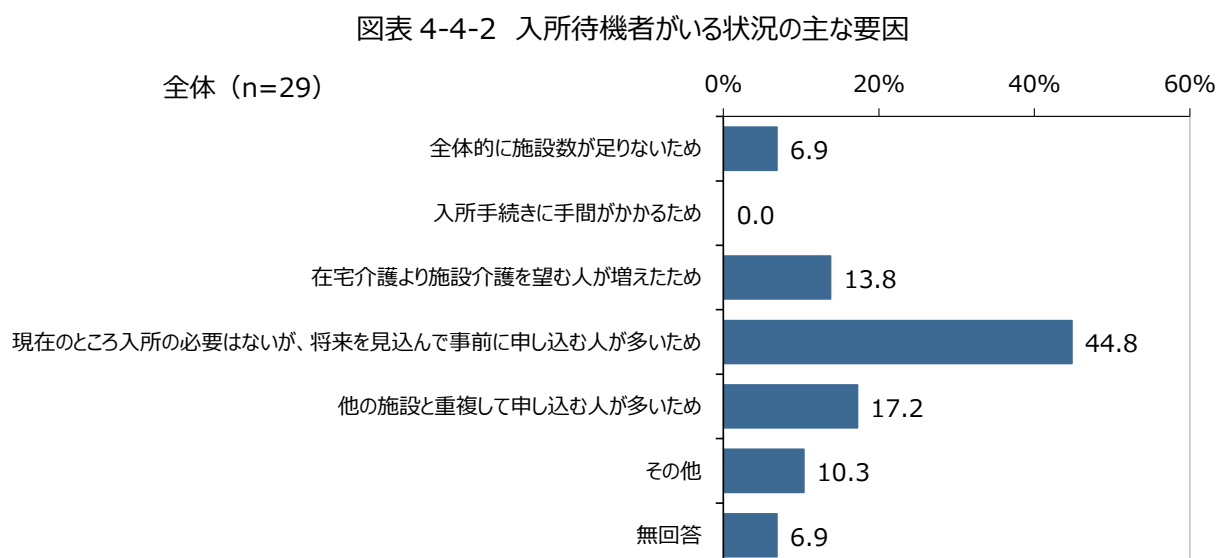
入所待機者の状況については、「入所待機者がいる」が 72.5%、「入所待機者はいない」が 25.0%です。
令和 4（2022）年度調査と比較すると、「入所待機者がいる」（72.5%）では、令和 4（2022）年度調査（50.0%）より 22.5 ポイント増加しています。



(2) 入所待機者がいる状況の主な要因

問 21-1	問 21 で「1. 入所待機者がいる」と回答した法人にお伺いします。 施設に入所待機者がいる状況について、考えられる主な要因は何だと思えますか。 (○はひとつ)
--------	--

入所待機者がいる状況の主な要因については、「現在のところ入所の必要はないが、将来を見込んで事前に申し込む人が多いため」が 44.8%で最も高く、次いで「他の施設と重複して申し込む人が多いため」が 17.2%、「在宅介護より施設介護を望む人が増えたため」が 13.8%と続いています。



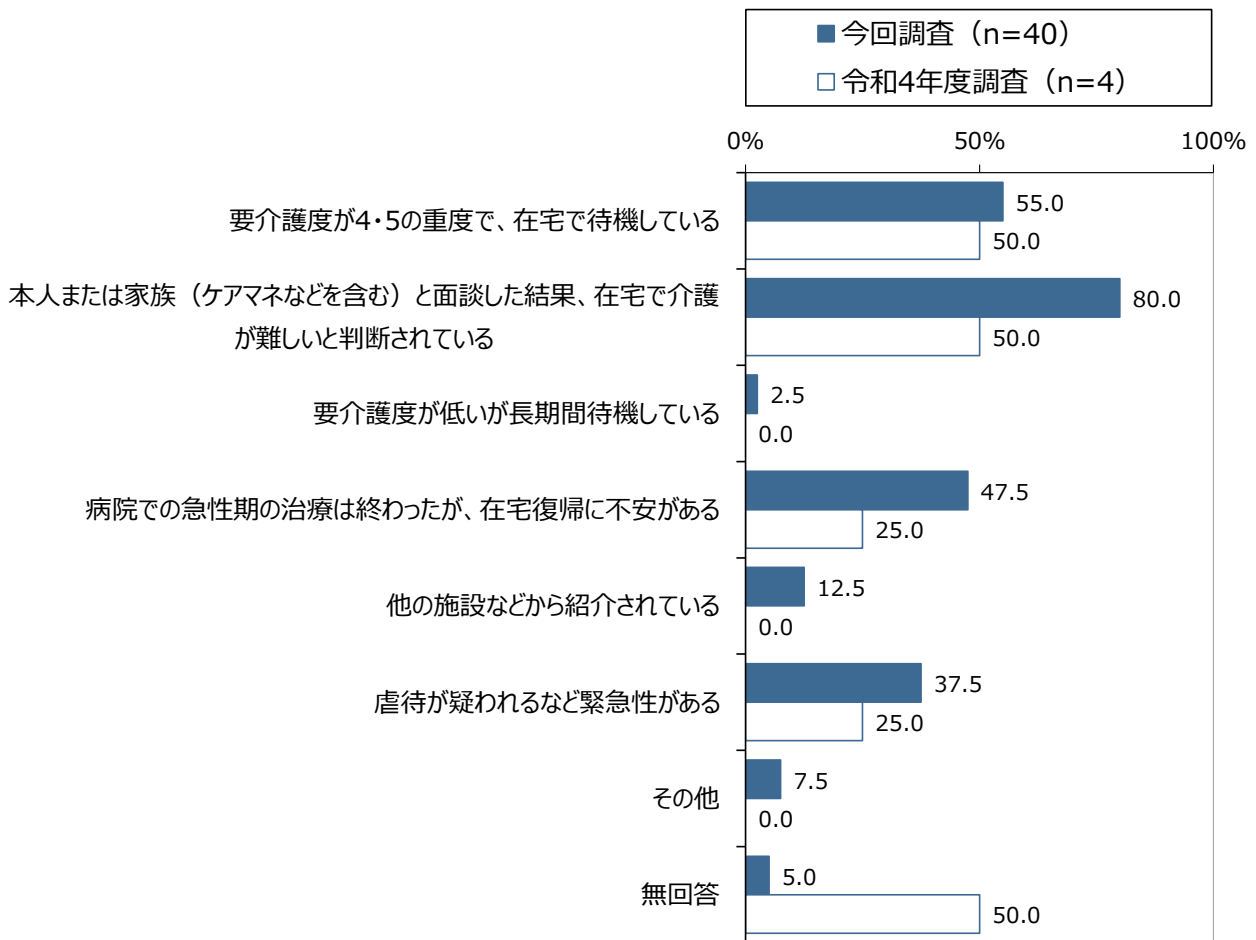
(3) 入所決定にあたり、入所判定委員会等で重点をおいていること

問 22	施設への入所を決定するにあたり、特に入所判定委員会等で重点をおいていることは何ですか。(〇は3つまで)
------	---

入所決定にあたり、入所判定委員会等で重点をおいていることについては、「本人または家族（ケアマネなどを含む）と面談した結果、在宅で介護が難しいと判断されている」が80.0%で最も高く、次いで「要介護度が4・5の重度で、在宅で待機している」が55.0%、「病院での急性期の治療は終わったが、在宅復帰に不安がある」が47.5%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「本人または家族（ケアマネなどを含む）と面談した結果、在宅で介護が難しいと判断されている」（80.0%）では、令和4（2022）年度調査（50.0%）より30.0ポイント増加しています。

図表 4-4-3 入所決定にあたり、入所判定委員会等で重点をおいていること



第5章 調査結果から見た高齢者の実態と課題

1 高齢化の進行とひとり暮らし高齢者の増加

本市の高齢化率（総人口に占める 65 歳以上人口の割合）は、令和 7（2025）年 12 月末現在で 28.3%で、前回調査時（令和 4（2022）年 12 月末時点）（28.3%）と同水準で推移しています（図表 1-5-1）。

一方、75 歳以上人口の割合は 17.8%で、前回調査時（15.9%）より 1.9 ポイント増加しています。圏域別では、すべての圏域で 75 歳以上人口の割合が増加しており、全市的に後期高齢者の割合が高まっています（図表 1-5-2）。

また、65 歳以上人口に占めるひとり暮らし高齢者の割合は 34.3%で、前回調査時（32.4%）より 1.9 ポイント増加しています。圏域別では、堺 4 区を除くすべての圏域で増加しています（図表 1-5-3）。

今後、団塊ジュニア世代が高齢者となる 2040 年に向けて、後期高齢者やひとり暮らし高齢者の増加に伴い、支援ニーズの拡大が想定されます。

2 認知症の予防と認知機能低下への備え

認知機能の低下している高齢者の割合は、全体で 44.3%です（図表 2-15-22）。

また、認知症予防や健康を保つための取組については、「健康診断や血圧・血糖などを定期的にチェックし、健康管理を行っている」が 52.1%、「バランスのとれた食事を心がけている」が 52.0%、「十分な睡眠をとるようにしている」が 46.0%と続いているほか、「趣味や学習などで頭を使う活動（脳トレなど）をしている」が 26.8%となっており、多くの高齢者が認知症予防や健康維持に対する意識を持ち、日常生活の中で一定の取組を行っています（図表 2-10-6）。

一方で、判断能力の低下や人生の最終段階への備えについては、「特に準備していない」が 59.7%で最も高く、「家族や信頼できる人と自分の希望や考えについて話し合っている」は 25.1%にとどまっています。また、「エンディングノートやメモなどに自分の思いや希望を書き残している」は 8.6%で、一定数が話し合いは行っているものの、具体的な行動としての備えにまで至っていない人が多い状況がうかがえます（図表 2-12-14）。

このほか、認知症に関する相談窓口を知っているかについては、「はい」が 31.2%で、前回調査時（17.8%）より 13.4 ポイント増加しています。認知症に関する相談窓口を認識していない人も依然として多いものの、前回調査から認知度が上昇しており、相談窓口の周知が着実に進展している状況がうかがえます（図表 2-10-9）。

3 高齢者の社会参加・地域活動に関する実態と意識

ボランティアや趣味活動、収入のある仕事など、「何らかの社会活動を行っている」高齢者は 61.3%で、前回調査時（58.4%）より 2.9 ポイント増加しています（図表 2-6-9）。

社会参加活動の状況を年齢階級別にみると、年齢階級が上がるにつれて参加している人の割合が減少しています（図表 2-6-12）。また、経済的にゆとりがあると感じている人ほど、社会参加活動への参加割合が増加する傾向が確認されます（図表 2-6-14）。

今後、参加（活動）したいと思うものについては、「特にない」が 42.8%を占めています。一方で、「健康増進のための体操教室」は 29.2%、「認知症予防のための脳トレ教室」は 21.6%で、健康増進や認知症予防に関する活動への参加意向がみられます（図表 2-5-31）。

社会参加活動への参加意向を性別でみると、「今後参加したい活動は特にない」と回答した割合は、男性が 50.4%、女性が 36.8%で、女性の方が相対的に参加意向が高いことが確認されます（図表 2-5-32）。

また、収入のある仕事に就いている高齢者の割合は 24.8%で、特に 65～69 歳では 50.8%と高い割合を示しています。このことから、年齢階級によって社会との関わり方の形が異なっている状況がうかがえます（図表 2-6-8）。

これらの結果から、社会参加活動の状況は前回調査と概ね同水準で推移している一方で、年齢、性別、経済状況などの違いによって、参加状況や参加意向に差がみられることが確認されます。

4 在宅での生活を続けるための支援ニーズと介護負担の状況

一般高齢者・要支援認定者調査では、介護が必要になった場合の暮らし方について、「居宅介護サービスを受けながら現在の住宅に住み続けたい」が 35.2%、「家族などの介護を受けながら現在の住宅に住み続けたい」が 20.0%で、半数以上の高齢者が在宅での生活を望んでいる状況がうかがえます（図表 2-12-1）。

一方、在宅介護実態調査では、主な介護者の介護に対する負担については、「いつまで介護が続かわからない」が 46.7%、「体力的な不安」が 39.2%、「自由な時間が減る」が 33.7%と続いています。また、「仕事と両立することの負担」は 19.8%で、前回調査時（13.2%）より 6.6 ポイント増加しており、介護と就労の両立に関して負担を感じている人もみられるなど、在宅介護を担う家族には身体的・精神的な負担が生じている状況がうかがえます（図表 3-7-23）。

また、今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについては、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 25.9%、「外出同行（通院、買い物など）」が 23.0%、「掃除・洗濯」が 22.4%で、日常生活に関する多様な支援ニーズが確認されます（図表 3-4-7）。

このほか、介護者の介護疲れやストレスケアのために必要なことについては、「周りの人の理解や協力」が 46.5%で最も高く、次いで「ショートステイなどの介護保険サービスの活用」が 37.9%、「介護生活に必要な情報の提供」が 27.7%と続いています（図表 3-7-38）。

これらの結果から、在宅での生活を続けたいと考える高齢者が多数である一方で、在宅介護を担う家族等には負担が生じており、在宅生活の継続を支えるためには、様々な支援ニーズに対応した生活援助サービスや介護保険サービスが必要であると考えられます。

5 介護サービスを支える人材と事業所の状況

介護事業者調査によると、介護事業者が認識している事業運営の課題については、「人手不足」が 49.3%で最も高く、次いで「財政状況」が 25.5%と続いています（図表 4-1-10）。また、サービス提供状況からみて職員が不足していると感じている介護事業者は 65.7%に上っており、前回調査時（61.9%）より 3.8 ポイント増加しています（図表 4-1-12）。職員が不足している理由としては、「新規雇用の際、思った程の人材を確保できなかったため」が 50.6%で最も高く、次いで「その他」（「そもそも応募がない」、「財務・人件費制約」、「利用者増加・需要超過」など）が 19.3%、「新規採用者に限らず離職者が増えているため」が 15.0%と続いています（図表 4-1-15）。

職員の離職理由では、「仕事の内容や負担が重い」が 46.3%、「給与や処遇に不満がある」が 39.0%で、業務負担や給与・処遇面が離職の一因となっている状況がうかがえます（図表 4-1-21）。

外国人労働者の受入状況については、「受け入れている」と回答した介護事業者は 20.7%で、前回調査時（12.7%）より 8.0 ポイント増加しています（図表 4-1-32）。また、従業者の規模が大きくなるにつれて「受け入れている」の割合が高くなる傾向がみられ、従業者 100 人以上の事業者では 79.1%が外国人労働者を受け入れているなど、事業規模によって受入状況に差が生じていることが確認されます（図表 4-1-34）。

介護事業所における ICT や介護ロボット等の導入・利用状況を見ると、「請求業務ソフト（介護報酬請求など）」が 74.8%で最も高く、次いで「介護記録ソフト（記録・情報共有機能）」が 59.3%、「タブレットやスマートフォンによる記録入力・閲覧」が 42.6%と続いている一方で、「特に利用していない」が 12.8%を占めています。また、従業者規模別でみると、「特に利用していない」では、10 人未満の事業者が 15.8%で最も高い状況となっており、介護事業所において、業務の効率化や負担軽減に向けた取組は進められているものの、ICT 等の導入・利用状況は一律ではなく、事業所間で差があることが確認されます（図表 4-1-44、図表 4-1-45）。

これらの結果から、介護サービスを支える事業所においては、人材確保・定着に関する課題に加え、外国人労働者の受入れや業務効率化に向けた ICT・介護テクノロジーの導入・活用といった状況の中で、事業運営が行われている実態が確認されます。

6 高齢者の情報入手手段の変化

一般高齢者・要支援認定者調査では、調査への回答方法について、インターネットによる回答が 12.7%で、前回調査時（4.6%）から約 3 倍に増加しています。同様に、在宅介護実態調査においても、インターネットによる回答が 9.0%で、前回調査時（4.0%）より大幅に増加しています（図表 1-3-1、図表 1-3-3）。

一般高齢者・要支援認定者調査における情報通信機器の保有状況を見ると、全体では 81.6%がスマートフォンを保有しており、特に 65～69 歳では 95.9%と高い割合を示しています（図表 2-14-1、図表 2-14-3）。

また、日常生活に関する情報の入手方法については、「テレビ」が 87.4%で最も高い一方で、「インターネット・携帯電話」が 59.3%に上っており、従来の媒体に加えて、デジタル機器を通じた情報入手が広がっている状況がうかがえます（図表 2-5-29）。

これらの結果から、高齢者の情報入手手段については、テレビを中心とした従来の媒体が引き続き主要である一方で、スマートフォンやインターネットを通じた情報入手が広く浸透している状況が確認されます。

第6章 母集団に関する推定

1 母集団に関する推定について

今回実施した一般高齢者・要支援認定者調査（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）では、各区の地域特性を統計的に分析するために区別で層化無作為抽出で調査対象者を抽出していますが、各層で母集団の規模が異なるため、各層での抽出率（有効回収数÷対象者数）の逆数で加重平均することで、回答から母集団の平均値を偏りなく適切に推定することができますようになります。

図表 6-1-1 対象者数及び配布数、有効回収数

区別	対象者数		配布数		有効回収数	
	実数（人）	構成比（%）	実数（人）	構成比（%）	実数（人）	構成比（%）
堺1区	9,624	5.1	634	4.8	405	4.5
堺2区	7,674	4.1	615	4.7	409	4.6
堺3区	7,488	4.0	614	4.7	406	4.5
堺4区	7,337	3.9	614	4.7	384	4.3
中1区	8,273	4.4	622	4.7	415	4.6
中2区	7,709	4.1	615	4.7	398	4.5
中3区	10,489	5.5	642	4.9	430	4.8
東1区	10,478	5.5	642	4.9	453	5.1
東2区	10,410	5.5	642	4.9	455	5.1
西1区	8,860	4.7	628	4.8	417	4.7
西2区	11,443	6.0	650	4.9	444	5.0
西3区	8,956	4.7	629	4.8	428	4.8
南1区	9,901	5.2	636	4.8	443	5.0
南2区	11,632	6.1	651	4.9	468	5.2
南3区	8,445	4.5	623	4.7	417	4.7
南4区	9,180	4.8	630	4.8	447	5.0
北1区	7,552	4.0	614	4.7	401	4.5
北2区	7,148	3.8	613	4.6	396	4.4
北3区	8,346	4.4	623	4.7	418	4.7
北4区	8,985	4.7	629	4.8	451	5.1
美原1区	9,539	5.0	634	4.8	441	4.9
合計	189,469	100.0	13,200	100.0	8,926	100.0

2 母集団の推定方法

層化無作為抽出の場合、母集団の推定方法を一般的な数式で表現すると、以下のようになります。

$$\text{母集団の推定値} = \frac{1}{N} \sum_{h=1}^L \frac{N_h}{n_h} \sum_{i=1}^{n_h} X_{hi}$$

N:母集団の大きさ L:設定した層の数 N_h :h 番目の層における母集団の大きさ
 n_h :h 番目の層における標本の大きさ X_{hi} :h 番目の層における i 番目の標本の値

3 一般高齢者・要支援認定者調査 母集団に関する推定値

一般高齢者・要支援認定者調査における母集団に関する推定値は以下の通りです。

なお、回答者数は小数第1位を四捨五入しているため、単一回答の設問であっても回答者数の合計は全体と合わない場合があります。

1. 家族や生活状況について

問1 (1) 家族構成をお教えてください (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	1人暮らし	45,710	24.1
2	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	80,459	42.5
3	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	8,362	4.4
4	息子・娘との2世帯	25,533	13.5
5	その他	25,169	13.3
	無回答	4,236	2.2
	全体	189,469	100.0

問1 (2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	介護・介助は必要ない	158,349	83.6
2	何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	15,937	8.4
3	現在、何らかの介護を受けている (介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)	11,836	6.2
	無回答	3,346	1.8
	全体	189,469	100.0

問1 (3) 定期的に通っていたり、必要な時に診療や相談しようと思う、かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいますか (○はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	かかりつけ医師	162,146	85.6
2	かかりつけ歯科医師	112,407	59.3
3	かかりつけ薬局 (薬剤師)	62,132	32.8
4	いない	12,307	6.5
	無回答	2,370	1.3
	全体	189,469	100.0

問1 (4) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	大変苦しい	17,379	9.2
2	やや苦しい	50,202	26.5
3	ふつう	100,951	53.3
4	ややゆとりがある	15,553	8.2
5	大変ゆとりがある	2,915	1.5
	無回答	2,469	1.3
	全体	189,469	100.0

2. からだを動かすことについて

問 2 (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	できるし、している	106,083	56.0
2	できるけどしていない	40,809	21.5
3	できない	40,309	21.3
	無回答	2,269	1.2
	全体	189,469	100.0

問 2 (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	できるし、している	136,522	72.1
2	できるけどしていない	24,535	12.9
3	できない	25,417	13.4
	無回答	2,995	1.6
	全体	189,469	100.0

問 2 (3) 15 分位続けて歩いていますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	できるし、している	144,635	76.3
2	できるけどしていない	26,888	14.2
3	できない	15,782	8.3
	無回答	2,164	1.1
	全体	189,469	100.0

問 2 (4) 過去 1 年間に転んだ経験がありますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	何度もある	18,483	9.8
2	1 度ある	47,718	25.2
3	ない	121,551	64.2
	無回答	1,717	0.9
	全体	189,469	100.0

問 2 (5) 転倒に対する不安は大きいですか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	とても不安である	29,868	15.8
2	やや不安である	78,162	41.3
3	あまり不安でない	49,145	25.9
4	不安でない	29,965	15.8
	無回答	2,328	1.2
	全体	189,469	100.0

問 2 (6) 週に 1 回以上は外出していますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	ほとんど外出しない	8,319	4.4
2	週 1 回	20,646	10.9
3	週 2~4 回	84,048	44.4
4	週 5 回以上	74,504	39.3
	無回答	1,952	1.0
	全体	189,469	100.0

問 2 (7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	とても減っている	7,987	4.2
2	減っている	49,315	26.0
3	あまり減っていない	62,951	33.2
4	減っていない	67,509	35.6
	無回答	1,706	0.9
	全体	189,469	100.0

問 2 (8) 外出する際の移動手段は何ですか (○はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	徒歩	141,032	74.4
2	自転車	81,198	42.9
3	バイク	8,149	4.3
4	自動車 (自分で運転)	72,978	38.5
5	自動車 (人に乗せてもらう)	49,799	26.3
6	電車	89,039	47.0
7	路線バス	74,867	39.5
8	病院や施設のバス	8,200	4.3
9	車いす	972	0.5
10	電動車いす (カート)	462	0.2
11	歩行器・シルバーカー	4,753	2.5
12	タクシー	18,884	10.0
13	その他	2,097	1.1
	無回答	1,194	0.6
	全体	189,469	100.0

3. 食べることについて

問 3 (1) 身長・体重を教えてください (数字を記入)

BMI (身長・体重より算出)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	低体重 (やせ) (18.5 未満)	16,119	8.5
2	普通体重 (18.5 以上 25.0 未満)	125,807	66.4
3	肥満 (25.0 以上)	39,782	21.0
	無回答	7,760	4.1
	全体	189,469	100.0

問 3 (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	64,940	34.3
2	いいえ	120,581	63.6
	無回答	3,947	2.1
	全体	189,469	100.0

問 3 (3) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用	29,681	15.7
2	自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし	62,763	33.1
3	自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用	67,841	35.8
4	自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし	21,606	11.4
	無回答	7,578	4.0
	全体	189,469	100.0

問 3 (4) どなたかと食事をとにもする機会がありますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	毎日ある	104,992	55.4
2	週に何度かある	16,865	8.9
3	月に何度かある	27,557	14.5
4	年に何度かある	20,485	10.8
5	ほとんどない	16,081	8.5
	無回答	3,489	1.8
	全体	189,469	100.0

問 3 (5) 主食・主菜・副菜をそろえた食事を毎日していますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	ほぼ毎日 3 食そろえている	66,151	34.9
2	ほぼ毎日 2 食はそろえている	63,646	33.6
3	ほぼ毎日 1 食はそろえている	37,070	19.6
4	週の半分ぐらいはそろえている	10,567	5.6
5	ほとんどできていない	9,167	4.8
	無回答	2,869	1.5
	全体	189,469	100.0

問 3 (6) 口や顔の体操に毎日取り組んでいますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	ほぼ毎日 3 回以上取り組んでいる	5,611	3.0
2	ほぼ毎日 2 回は取り組んでいる	6,195	3.3
3	ほぼ毎日 1 回は取り組んでいる	21,863	11.5
4	週の半分ぐらいは取り組んでいる	9,223	4.9
5	週 1 回は取り組んでいる	13,687	7.2
6	ほとんど取り組んでいない	128,378	67.8
	無回答	4,511	2.4
	全体	189,469	100.0

4. 毎日の生活について

問 4 (1) 物忘れが多いと感じますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	84,119	44.4
2	いいえ	100,847	53.2
	無回答	4,503	2.4
	全体	189,469	100.0

問 4 (2) バスや電車を使って 1 人で外出していますか (自家用車でも可) (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	できるし、している	145,928	77.0
2	できるけどしていない	27,496	14.5
3	できない	13,082	6.9
	無回答	2,964	1.6
	全体	189,469	100.0

問 4 (3) 自分で食品・日用品の買物をしていますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	できるし、している	157,612	83.2
2	できるけどしていない	22,407	11.8
3	できない	6,759	3.6
	無回答	2,691	1.4
	全体	189,469	100.0

問 4 (4) 自分で食事の用意をしていますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	できるし、している	138,364	73.0
2	できるけどしていない	35,185	18.6
3	できない	13,433	7.1
	無回答	2,487	1.3
	全体	189,469	100.0

問 4 (5) 自分で請求書の支払いをしていますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	できるし、している	154,863	81.7
2	できるけどしていない	24,222	12.8
3	できない	7,392	3.9
	無回答	2,992	1.6
	全体	189,469	100.0

問 4 (6) 自分で預貯金の出し入れをしていますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	できるし、している	159,119	84.0
2	できるけどしていない	20,127	10.6
3	できない	7,921	4.2
	無回答	2,301	1.2
	全体	189,469	100.0

問 4 (7) 年金などの書類 (役所や病院などに出す書類) が書けますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	168,561	89.0
2	いいえ	18,050	9.5
	無回答	2,858	1.5
	全体	189,469	100.0

問 4 (8) 日常生活に関する情報をどこから得ていますか (○はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	インターネット・携帯電話	112,300	59.3
2	家族	91,122	48.1
3	雑誌	19,850	10.5
4	新聞 (タウン紙を含む)	101,002	53.3
5	チラシ・折込・ダイレクトメール等	56,745	29.9
6	テレビ	165,713	87.5
7	友人・隣人	69,970	36.9
8	ラジオ	31,947	16.9
9	市の広報	74,395	39.3
10	その他の広報や回覧板	35,970	19.0
11	その他	1,482	0.8
12	特にない	992	0.5
	無回答	2,759	1.5
	全体	189,469	100.0

問 4 (9) 今後、参加 (活動) したいと思うものはどれですか。 (○は3つまで)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	健康増進のための体操教室	55,363	29.2
2	認知症予防のための脳トレ教室	41,034	21.7
3	教養講座や英会話などの生涯学習	18,369	9.7
4	料理教室	13,025	6.9
5	文化系のサークル活動	16,769	8.9
6	運動系のサークル活動	22,109	11.7
7	自治会や老人クラブなどの地域活動	17,276	9.1
8	ボランティア活動	15,121	8.0
9	その他	4,319	2.3
10	特にない	81,060	42.8
	無回答	6,370	3.4
	全体	189,469	100.0

5. 地域での活動について

問 5 (1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

※ ① - ⑧それぞれに回答してください (〇はそれぞれひとつずつ)

① ボランティアのグループ

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	週 4 回以上	1,277	0.7
2	週 2~3 回	2,013	1.1
3	週 1 回	2,276	1.2
4	月 1~3 回	7,408	3.9
5	年に数回	4,959	2.6
6	参加していない	136,311	71.9
	無回答	35,226	18.6
	全体	189,469	100.0

② スポーツ関係のグループやクラブ

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	週 4 回以上	7,257	3.8
2	週 2~3 回	13,074	6.9
3	週 1 回	8,620	4.5
4	月 1~3 回	7,022	3.7
5	年に数回	3,320	1.8
6	参加していない	118,606	62.6
	無回答	31,570	16.7
	全体	189,469	100.0

③ 趣味関係のグループ (各種文化活動や料理教室等を含む)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	週 4 回以上	1,591	0.8
2	週 2~3 回	4,514	2.4
3	週 1 回	6,326	3.3
4	月 1~3 回	14,207	7.5
5	年に数回	5,058	2.7
6	参加していない	124,482	65.7
	無回答	33,291	17.6
	全体	189,469	100.0

④ 学習・教養サークル

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	週 4 回以上	504	0.3
2	週 2~3 回	1,136	0.6
3	週 1 回	2,388	1.3
4	月 1~3 回	4,973	2.6
5	年に数回	3,399	1.8
6	参加していない	138,456	73.1
	無回答	38,614	20.4
	全体	189,469	100.0

⑤ (いきいきサロンや体操など) 介護予防のための通いの場

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	週4回以上	967	0.5
2	週2~3回	2,775	1.5
3	週1回	3,238	1.7
4	月1~3回	4,438	2.3
5	年に数回	2,757	1.5
6	参加していない	138,767	73.2
	無回答	36,528	19.3
	全体	189,469	100.0

⑥ 老人クラブ

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	週4回以上	754	0.4
2	週2~3回	649	0.3
3	週1回	1,495	0.8
4	月1~3回	4,299	2.3
5	年に数回	6,276	3.3
6	参加していない	139,565	73.7
	無回答	36,431	19.2
	全体	189,469	100.0

⑦ 町内会・自治会

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	週4回以上	1,170	0.6
2	週2~3回	874	0.5
3	週1回	1,364	0.7
4	月1~3回	9,433	5.0
5	年に数回	30,399	16.0
6	参加していない	112,218	59.2
	無回答	34,010	18.0
	全体	189,469	100.0

⑧ 収入のある仕事

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	週4回以上	26,742	14.1
2	週2~3回	12,583	6.6
3	週1回	2,466	1.3
4	月1~3回	2,788	1.5
5	年に数回	2,301	1.2
6	参加していない	109,023	57.5
	無回答	33,565	17.7
	全体	189,469	100.0

問 5 (2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	是非参加したい	10,447	5.5
2	参加してもよい	88,205	46.6
3	参加したくない	73,976	39.0
4	既に参加している	7,908	4.2
	無回答	8,933	4.7
	全体	189,469	100.0

問 5 (3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営 (お世話役) として参加してみたいと思いますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	是非参加したい	3,745	2.0
2	参加してもよい	52,678	27.8
3	参加したくない	117,701	62.1
4	既に参加している	5,473	2.9
	無回答	9,872	5.2
	全体	189,469	100.0

6. たすけあいについて

問 6 (1) あなたの心配事や愚痴 (ぐち) を聞いてくれる人 (○はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	配偶者	100,730	53.2
2	同居の子ども	34,166	18.0
3	別居の子ども	73,574	38.8
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	53,952	28.5
5	近隣	17,083	9.0
6	友人	89,727	47.4
7	その他	4,606	2.4
8	そのような人はいない	9,420	5.0
	無回答	2,706	1.4
	全体	189,469	100.0

問 6 (2) 反対に、あなたが心配事や愚痴 (ぐち) を聞いてあげる人 (○はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	配偶者	96,002	50.7
2	同居の子ども	29,629	15.6
3	別居の子ども	65,021	34.3
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	56,783	30.0
5	近隣	18,727	9.9
6	友人	88,898	46.9
7	その他	3,516	1.9
8	そのような人はいない	13,485	7.1
	無回答	4,210	2.2
	全体	189,469	100.0

問 6 (3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人 (○はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	配偶者	107,108	56.5
2	同居の子ども	40,258	21.2
3	別居の子ども	68,008	35.9
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	23,228	12.3
5	近隣	3,710	2.0
6	友人	10,490	5.5
7	その他	2,502	1.3
8	そのような人はいない	16,379	8.6
	無回答	3,225	1.7
	全体	189,469	100.0

問 6 (4) 反対に、看病や世話をしあげる人 (○はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	配偶者	111,163	58.7
2	同居の子ども	36,534	19.3
3	別居の子ども	50,889	26.9
4	兄弟姉妹・親戚・親・孫	37,886	20.0
5	近隣	5,883	3.1
6	友人	14,507	7.7
7	その他	2,244	1.2
8	そのような人はいない	26,888	14.2
	無回答	5,826	3.1
	全体	189,469	100.0

問 6 (5) ふだん、近所の人との程度のつきあいをしていますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	親しくつきあっている	23,892	12.6
2	あいさつ以外にも多少のつきあいがある (相手の名前や家族構成を知っていたり、物の貸し借りや趣味を共有しているなど)	55,621	29.4
3	あいさつをする程度	93,225	49.2
4	つきあいはほとんどない	13,068	6.9
	無回答	3,663	1.9
	全体	189,469	100.0

問 6 (6) 病気やけがで入院・療養が必要になった場合、身の回りのことを頼める人はいますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	いつでも頼める人がいる	101,403	53.5
2	状況によっては頼める人がいる	61,112	32.3
3	頼める人はほとんどいない	14,957	7.9
4	まったく頼める人がいない	7,707	4.1
	無回答	4,291	2.3
	全体	189,469	100.0

問 6 (7) 災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	できる	126,771	66.9
2	普段から近所づきあいがあまりないため、できない	27,553	14.5
3	近所の人を全く知らないため、できない	5,801	3.1
4	その他	1,580	0.8
5	わからない	24,545	13.0
	無回答	3,219	1.7
	全体	189,469	100.0

7. 健康について

問 7 (1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	とてもよい	17,090	9.0
2	まあよい	130,398	68.8
3	あまりよくない	35,050	18.5
4	よくない	4,944	2.6
	無回答	1,988	1.0
	全体	189,469	100.0

問 7 (2) あなたは、現在どの程度幸せですか

(「とても不幸」を 0 点、「とても幸せ」を 10 点として、ご記入ください)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	0 点	633	0.3
2	1 点	775	0.4
3	2 点	1,462	0.8
4	3 点	4,448	2.3
5	4 点	5,496	2.9
6	5 点	34,592	18.3
7	6 点	17,432	9.2
8	7 点	30,256	16.0
9	8 点	44,716	23.6
10	9 点	18,038	9.5
11	10 点	25,849	13.6
	無回答	5,772	3.0
	全体	189,469	100.0

問 7 (3) この 1 か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	78,093	41.2
2	いいえ	107,127	56.5
	無回答	4,249	2.2
	全体	189,469	100.0

問 7 (4) この 1 か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか
(○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	48,771	25.7
2	いいえ	135,443	71.5
	無回答	5,255	2.8
	全体	189,469	100.0

問 7 (5) タバコは吸っていますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	ほぼ毎日吸っている	17,773	9.4
2	時々吸っている	2,721	1.4
3	吸っていたがやめた	60,988	32.2
4	もともと吸っていない	105,331	55.6
	無回答	2,656	1.4
	全体	189,469	100.0

問 7 (6) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (○はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	ない	29,628	15.6
2	高血圧	84,831	44.8
3	脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	6,307	3.3
4	心臓病	19,872	10.5
5	糖尿病	27,863	14.7
6	高脂血症 (脂質異常)	29,835	15.7
7	呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)	12,126	6.4
8	胃腸・肝臓・胆のうの病気	12,306	6.5
9	腎臓・前立腺の病気	17,190	9.1
10	筋骨格の病気 (骨粗しょう症・関節症等)	24,788	13.1
11	外傷 (転倒・骨折等)	7,211	3.8
12	がん (悪性新生物)	9,604	5.1
13	血液・免疫の病気	3,960	2.1
14	うつ病	1,960	1.0
15	認知症 (アルツハイマー病等)	1,336	0.7
16	パーキンソン病	679	0.4
17	目の病気	35,949	19.0
18	耳の病気	11,920	6.3
19	その他	17,269	9.1
	無回答	6,084	3.2
	全体	189,469	100.0

8. 耳の状態について

問 8 (1) あなたは耳がよく聞こえますか。補聴器を使っている人は、使っている状態を教えてください (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	とてもよく聞こえる	25,935	13.7
2	よく聞こえる	54,138	28.6
3	聞こえる	77,843	41.1
4	あまり聞こえない	25,398	13.4
5	聞こえない	1,755	0.9
	無回答	4,400	2.3
	全体	189,469	100.0

問 8 (2) あなたは補聴器を使っていますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	12,840	6.8
2	いいえ	171,171	90.3
	無回答	5,458	2.9
	全体	189,469	100.0

問 8 (3) 補聴器を使っている人にお聞きします。使っている場合は補聴器を付けている時間はどのくらいですか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	ほとんど終日	4,417	34.4
2	半日程度	1,955	15.2
3	2~3 時間	353	2.7
4	必要なときのみ	5,106	39.8
5	使っていない	779	6.1
	無回答	230	1.8
	全体	12,840	100.0

9. 認知症について

問 9 (1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	19,573	10.3
2	いいえ	165,425	87.3
	無回答	4,471	2.4
	全体	189,469	100.0

問 9 (2) 認知症予防や健康を保つために、何か取り組んでいることはありますか (〇はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	バランスのとれた食事を心がけている	98,428	51.9
2	定期的に運動している	79,079	41.7
3	十分な睡眠をとるようにしている	87,118	46.0
4	健康診断や血圧・血糖などを定期的にチェックし、健康管理を行っている	98,579	52.0
5	スマホ等の ICT 機器を活用して健康管理を行っている	11,245	5.9
6	趣味や学習などで頭を使う活動 (脳トレなど) をしている	50,754	26.8
7	友人や地域の人との交流を大切にしている	49,598	26.2
8	ボランティアや自治会活動などの地域活動に参加している	16,282	8.6
9	ストレスをためないように心がけている	60,877	32.1
10	特に取り組んでいることはない	20,662	10.9
11	その他	6,094	3.2
	無回答	4,050	2.1
	全体	189,469	100.0

問 9 (3) 認知症に関する相談窓口を知っていますか (〇はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	はい	59,134	31.2
2	いいえ	123,840	65.4
	無回答	6,494	3.4
	全体	189,469	100.0

10. 仕事について

問 10 (1) これから働き始めようとする (または引き続き働き続ける) 場合に、あなたが仕事に一番求めるものは何ですか (〇はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	収入を得ること	36,909	19.5
2	社会・人の役に立つこと	8,974	4.7
3	生きがい	12,630	6.7
4	健康の維持	24,944	13.2
5	その他	3,230	1.7
6	働くつもりはない	82,332	43.5
	無回答	20,450	10.8
	全体	189,469	100.0

11. 介護について

問 11 (1) 介護が必要になった場合、どのような暮らし方をしたいと思いますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい	37,944	20.0
2	居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい	66,919	35.3
3	高齢者向けに配慮された住宅に入居したい	16,570	8.7
4	介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) や介護老人保健施設などの施設に入所したい	25,689	13.6
5	その他	1,850	1.0
6	わからない	33,873	17.9
	無回答	6,624	3.5
	全体	189,469	100.0

問 11 (2) 家族に介護が必要になったとしたら、どのような暮らし方をしてほしいと思いますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けてほしい	31,535	16.6
2	居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けてほしい	62,219	32.8
3	高齢者向けに配慮された住宅に入居してほしい	13,783	7.3
4	介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) や介護老人保健施設などの施設に入所してほしい	25,686	13.6
5	その他	4,443	2.3
6	わからない	38,240	20.2
	無回答	13,563	7.2
	全体	189,469	100.0

問 11 (3) 人生の最終段階における医療や介護について、あなた自身の希望を、家族等や医療介護関係者と話し合っていますか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	詳しく話し合っている	3,932	2.1
2	一応話し合っている	36,700	19.4
3	話し合ったことはある	50,717	26.8
4	話し合ったことはない	93,262	49.2
	無回答	4,859	2.6
	全体	189,469	100.0

問 11 (4) 将来の判断能力の低下や人生の最終段階に備えて、どのような準備をしていますか (○はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	家族や信頼できる人と自分の希望や考えについて話し合っている	47,648	25.1
2	地域包括支援センターや社会福祉協議会など、地域の相談窓口にご相談したことがある	4,098	2.2
3	エンディングノートやメモなどに自分の思いや希望を書き残している	16,377	8.6
4	人生の最終段階における医療や介護についての生前の意思表示である「事前指示書 (リビングウィル)」を作成している	2,809	1.5
5	任意後見契約や財産管理等の委任契約を結んでいる	1,279	0.7
6	亡くなった後の手続きなどを頼む「死後事務委任契約」を結んでいる	1,447	0.8
7	遺言書を作成している	6,867	3.6
8	特に準備していない	112,983	59.6
9	その他	3,170	1.7
	無回答	11,225	5.9
	全体	189,469	100.0

問 11 (5) 家族を介護する人の介護疲れやストレスのケアをするためには、何が必要だと思いますか

(○は3つまで)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	周りの人の理解や協力	103,653	54.7
2	介護生活に必要な情報の提供	68,115	36.0
3	介護者同士が気兼ねなく話し合いや相談をする場	38,410	20.3
4	介護者が息抜きできるイベント	18,802	9.9
5	ボランティアによる手助け	20,696	10.9
6	専門職員による相談窓口	55,267	29.2
7	介護に必要な技術を習得する機会	11,277	6.0
8	ショートステイなどの介護保険サービスの活用	87,366	46.1
9	その他	3,375	1.8
	無回答	21,841	11.5
	全体	189,469	100.0

12. 住み慣れた地域で暮らし続けることについて

問 12 (1) 高齢者ができる限り自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために、どのようなことが必要だと思いますか
(○はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	気軽に相談できるかかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局を持つこと	122,190	64.5
2	入院しても、退院後すぐに介護サービスを受けられること	92,836	49.0
3	介護予防のための教室（筋力トレーニング・転倒予防・認知症予防）	35,839	18.9
4	24 時間対応してもらえる訪問介護サービス	72,505	38.3
5	普段介護している人が介護できない時などに利用できる介護サービス	79,474	41.9
6	日頃から健康づくりや生活習慣病予防に取り組むこと	61,075	32.2
7	何でも相談できる高齢者の相談窓口	74,791	39.5
8	地域の人々の見守りや助け合い	27,113	14.3
9	生きがいづくりや地域貢献のための社会参加の機会	15,547	8.2
10	ボランティアや N P O などによるさまざまな生活の支援	17,643	9.3
11	体の状態に合わせた住宅への改修	43,416	22.9
12	高齢者に配慮された多様な住まいや施設	41,187	21.7
13	自分の将来について、家族などと話し合っておくこと	64,649	34.1
14	その他	2,418	1.3
	無回答	13,244	7.0
	全体	189,469	100.0

問 12 (2) 地域包括支援センターは、高齢者の方々が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、介護・福祉・健康などさまざまな面から総合的に相談や支援を行う役割を担っていますが、この役割を知っていましたか (○はひとつ)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	知っていた	56,554	29.8
2	名前は聞いたことがあるが、役割までは知らなかった	60,048	31.7
3	地域包括支援センターの存在を知らなかった	58,812	31.0
	無回答	14,055	7.4
	全体	189,469	100.0

13. スマートフォン、タブレット、パソコン等の使用状況について

問 13 (1) お持ちの通信機器と通信環境について、当てはまる番号に○をしてください。(○はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	スマートフォンを持っている	154,667	81.6
2	タブレットを持っている	25,867	13.7
3	パソコンを持っている	61,875	32.7
4	機器をどれも持っていない	16,103	8.5
5	自宅に Wi-Fi 環境（無線で接続する環境）が整備されている	84,094	44.4
6	自宅にインターネット回線（光回線・ケーブル回線など）がある	72,141	38.1
7	自宅にインターネット環境は特にない	14,692	7.8
	無回答	9,774	5.2
	全体	189,469	100.0

問 13 (2) どのような機能を使用したことがありますか (○はいくつでも)

No.	選択肢	回答者数 (人)	構成比 (%)
1	音声のみの通話	98,975	62.2
2	ビデオ通話	49,824	31.3
3	メール	126,693	79.6
4	ゲーム	36,348	22.8
5	インターネットでの情報収集	92,015	57.8
6	写真・動画撮影	108,188	68.0
7	万歩計などの健康管理	68,104	42.8
8	二次元コード (QR コード等) の読み取り	69,918	43.9
9	動画の視聴 (YouTube (ユーチューブ) 等)	74,238	46.7
10	オンラインショッピング (Amazon (アマゾン) 等)	46,250	29.1
11	キャッシュレス決済 (PayPay (ペイペイ) 等)	50,252	31.6
12	LINE (ライン)	110,239	69.3
13	Facebook (フェイスブック)	12,733	8.0
14	X (エックス) (旧ツイッター)	10,641	6.7
15	Instagram (インスタグラム)	15,955	10.0
16	その他	2,678	1.7
	無回答	2,378	1.5
	全体	159,130	100.0

第7章 調査票

1 一般高齢者・要支援認定者調査

(調査①：一般高齢者・要支援認定者調査)

令和7年度堺市高齢者等実態調査ご協力をお願い

日頃から、堺市の福祉施策の推進にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
このたび、市内在住の介護保険の認定を受けていない65歳以上の方及び要支援1、要支援2の認定を受けている65歳以上の方13,200名を無作為に抽出し、「アンケート調査」を実施することになりました。

この調査は、今後の高齢者保健福祉行政の計画的かつ効果的な推進と次期の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のために役立たせていただくものです。

ご多忙の折、誠に恐縮でございますが、調査の趣旨をご理解いただきまして、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

回答に当たってのお願い

- 1 このアンケートは、ご本人が回答してください。ご本人が回答できない場合は、ご家族等がご本人の立場に立って回答していただいて結構です。
- 2 ご回答は、令和7年12月1日現在の状況を回答してください。
- 3 アンケートの回答はお答えいただける範囲で結構です。途中まででも結構ですので、ご回答くださいますようお願い申し上げます。
- 4 アンケートは、**令和8年1月23日(金)**までにご回答ください。
- 5 次のいずれかの方法で、回答をお願いします。
(1) 紙での回答：この調査票に記入し、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに無記名でご投函ください。堺市役所長寿支援課へ直接お持ちいただいても結構です。
(2) インターネットでの回答：次のページをご覧ください。

【 この調査の実施主体 】

堺市 健康福祉局 長寿社会部 長寿支援課
電話 072-228-8347 FAX 072-228-8918
メールアドレス choshi@city.sakai.lg.jp

【 この調査に関するお問い合わせ先 】

(堺市高齢者等実態調査業務 受託事業者) 株式会社グリーンエコ
電話 0120-341-296 FAX 06-6484-5573
メールアドレス sakaisurvey@gr-eco.co.jp
※ お問い合わせ時間：平日の午前9時から午後5時30分まで
(年末年始および午後0時から午後1時を除く)

インターネットでの回答方法

このアンケートは、パソコン、スマートフォン等を使って、インターネット上でもご回答いただけます。

以下の【ログイン方法】から、アンケート専用ウェブサイトアクセスし、回答ID・回答パスワードを入力の上、ご回答ください。

※ インターネット接続に係る通信料が発生する場合は、ご負担をお願いします。

【ログイン方法】

右記の二次元コードまたは
下記アドレスよりご回答ください。



アドレス:



スマートフォンのカメラを
このコードに向けると、
簡単にページが開きます

専用サイトへのログインには、次の回答IDと回答パスワードを入力してください。

◆回答ID : ●●●●●●

◆回答パスワード : ○○○○

インターネットで回答していただいた場合、本調査票のご返送は不要です。

調査票での回答方法

アンケートに記入する際は、各項目で該当する数字に○をつけてください。設問によって、「○はひとつ」「○は3つまで」「○はいくつでも」など、○をつける数が異なりますので、ご注意ください。なお、「その他」を選択された場合は、()内に具体的な内容を記入してください。

■まずはじめに、記入日などについてお教えてください。

記 入 日	令和 年 月 日
調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。	
1. ご本人が記入	
2. ご家族が記入（ご本人からみた続柄）	
3. その他（）	

個人情報の取り扱いについて

【個人情報の保護および活用目的について】

- この調査は、今後の高齢者保健福祉行政の計画的かつ効果的な推進と次期の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定及び策定後の政策評価のために行うものです。調査結果は、介護保険の認定・利用状況等の個人データと連結し、分析する場合がありますが、この調査で得られた個人情報については、個人情報保護法に基づき適切に管理し、これらの目的以外には利用いたしません。
- この調査で得られたデータについては、個人が識別されないよう加工した上で、大学等の研究機関や厚生労働省等に提供することがあります。
- 回答内容に応じて、市から高齢者保健福祉や介護保険に関する施策・サービスの案内を行うことがあります。

問1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください (○はひとつ)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 1人暮らし | 2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上) |
| 3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下) | 4. 息子・娘との2世帯 |
| 5. その他 () | |

(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか (○はひとつ)

1. 介護・介助は必要ない
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3. 現在、何らかの介護を受けている
(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)

(3) 定期的に通っていたり、必要な時に診療や相談しようと思う、かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師はいますか (○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1. かかりつけ医師 | 2. かかりつけ歯科医師 |
| 3. かかりつけ薬局(薬剤師) | 4. いない |

(4) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (○はひとつ)

- | | | |
|-------------|-------------|--------|
| 1. 大変苦しい | 2. やや苦しい | 3. ふつう |
| 4. ややゆとりがある | 5. 大変ゆとりがある | |

問2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか (○はひとつ)

- | | | |
|--------------|---------------|---------|
| 1. できるし、している | 2. できるけどしていない | 3. できない |
|--------------|---------------|---------|

(8) 日常生活に関する情報をどこから得ていますか (○はいくつでも)		
1. インターネット・携帯電話	2. 家族	3. 雑誌
4. 新聞 (タウン紙を含む)	5. チラシ・折込・ダイレクトメール等	
6. テレビ	7. 友人・隣人	8. ラジオ
9. 市の広報	10. その他の広報や回覧板	
11. その他 () 12. 特にない
(9) 今後、参加 (活動) したいと思うものはどれですか。 (○は<u>3つ</u>まで)		
1. 健康増進のための体操教室	2. 認知症予防のための脳トレ教室	
3. 教養講座や英会話などの生涯学習	4. 料理教室	
5. 文化系のサークル活動	6. 運動系のサークル活動	
7. 自治会や老人クラブなどの地域活動	8. ボランティア活動	
9. その他 () 10. 特にない

問5 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

※ ① - ⑧それぞれに回答してください (○はそれぞれひとつずつ)

	週4回 以上	週2 ~3回	週1回	月1 ~3回	年に 数回	参加して いない
① ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
② スポーツ関係のグループやクラブ	1	2	3	4	5	6
③ 趣味関係のグループ (各種文化活動や料理教室等を含む)	1	2	3	4	5	6
④ 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤ (いきいきサロンや体操など) 介護予防のための通いの場	1	2	3	4	5	6
⑥ 老人クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦ 町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧ 収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか (○はひとつ)

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 是非参加したい | 2. 参加してもよい |
| 3. 参加したくない | 4. 既に参加している |

(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか (○はひとつ)

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 是非参加したい | 2. 参加してもよい |
| 3. 参加したくない | 4. 既に参加している |

問6**たすけあいについて**

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

(1) あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(○はいくつでも)

- | | | |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他() | 8. そのような人はいない | |

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(○はいくつでも)

- | | | |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他() | 8. そのような人はいない | |

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(○はいくつでも)

- | | | |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他() | 8. そのような人はいない | |

(4) 反対に、看病や世話をしてあげる人(○はいくつでも)

- | | | |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他() | 8. そのような人はいない | |

(5) ふだん、近所の人とどの程度のつきあいをしていますか (○はひとつ)	
1. 親しくつきあっている	
2. あいさつ以外にも多少のつきあいがある (相手の名前や家族構成を知っていたり、物の貸し借りや趣味を共有しているなど)	
3. あいさつをする程度	
4. つきあいはほとんどない	
(6) 病気やけがで入院・療養が必要になった場合、身の回りのことを頼める人はいますか (○はひとつ)	
1. いつでも頼める人がいる	2. 状況によっては頼める人がいる
3. 頼める人はほとんどいない	4. まったく頼める人がいない
(7) 災害発生時に、近所の人と声をかけ合って避難することができますか (○はひとつ)	
1. できる	
2. 普段から近所づきあいがあまりないため、できない	
3. 近所の人を全く知らないため、できない	
4. その他 () 5. わからない	

問7 健康について																									
(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか (○はひとつ)																									
1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない																									
(2) あなたは、現在どの程度幸せですか (「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)																									
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">とても 不幸</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> <td style="text-align: center;">とても 幸せ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">0点</td> <td style="text-align: center;">1点</td> <td style="text-align: center;">2点</td> <td style="text-align: center;">3点</td> <td style="text-align: center;">4点</td> <td style="text-align: center;">5点</td> <td style="text-align: center;">6点</td> <td style="text-align: center;">7点</td> <td style="text-align: center;">8点</td> <td style="text-align: center;">9点</td> <td style="text-align: center;">10点</td> <td></td> </tr> </table>	とても 不幸												とても 幸せ	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	
とても 不幸												とても 幸せ													
0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点															

(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか (○はひとつ)		
1. はい	2. いいえ	
(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか (○はひとつ)		
1. はい	2. いいえ	
(5) タバコは吸っていますか (○はひとつ)		
1. ほぼ毎日吸っている	2. 時々吸っている	3. 吸っていたがやめた
4. もともと吸っていない		
(6) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (○はいくつでも)		
1. ない	2. 高血圧	
3. <small>のうそっちゅう</small> 脳卒中 (<small>のうしゅっけつ</small> 脳出血・ <small>のうこうそく</small> 脳梗塞等)	4. 心臓病	
5. <small>とうにょうびょう</small> 糖尿病	6. <small>こうしけっしょう</small> 高脂血症 (<small>しじついじょう</small> 脂質異常)	
7. 呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)	8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気	
9. <small>じんぞう</small> 腎臓・ <small>ぜんりつせん</small> 前立腺の病気		
10. <small>きんこっかく</small> 筋骨格の病気 (<small>こつそ</small> 骨粗しょう症・ <small>しじょう</small> 関節症等)		
11. <small>がいしじょう</small> 外傷 (<small>てんとう</small> 転倒・ <small>こっせつ</small> 骨折等)	12. がん (悪性新生物)	
13. 血液・ <small>めんえき</small> 免疫の病気	14. うつ病	
15. <small>にんちじょう</small> 認知症 (アルツハイマー病等)	16. パーキンソン病	
17. 目の病気	18. 耳の病気	
19. その他 ()	

問8 耳の状態について

(1) あなたは耳がよく聞こえますか。補聴器を使っている人は、使っている状態を教えてください (○はひとつ)

1. とてもよく聞こえる 2. よく聞こえる 3. 聞こえる
4. あまり聞こえない 5. 聞こえない

(2) あなたは補聴器を使っていますか (○はひとつ)

1. はい ⇒ 1の方は(3)へ 2. いいえ ⇒ 2の方は問9へ

(3) 補聴器を使っている人にお聞きします。使っている場合は補聴器を付けている時間はどのくらいですか (○はひとつ)

1. ほとんど終日 2. 半日程度 3. 2～3時間
4. 必要なときのみ 5. 付けていない

問9 認知症について

(1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか (○はひとつ)

1. はい 2. いいえ

(2) 認知症予防や健康を保つために、何か取り組んでいることはありますか (○はいくつでも)	
1. バランスのとれた食事を心がけている 2. 定期的に運動している 3. 十分な睡眠をとるようにしている 4. 健康診断や血圧・血糖などを定期的にチェックし、健康管理を行っている 5. スマホ等のICT機器を活用して健康管理を行っている 6. 趣味や学習などで頭を使う活動(脳トレなど)をしている 7. 友人や地域の人との交流を大切にしている 8. ボランティアや自治会活動などの地域活動に参加している 9. ストレスをためないように心がけている 10. 特に取り組んでいることはない 11. その他 ()	
(3) 認知症に関する相談窓口※を知っていますか (○はひとつ)	
1. はい	2. いいえ

※ かかりつけの病院や診療所、地域包括支援センター等

問 10	仕事について
(1) これから働き始めようとする(または引き続き働き続ける)場合に、あなたが 仕事に一番求めるものは何ですか (○はひとつ)	
1. 収入を得ること 2. 社会・人の役に立つこと 3. 生きがい 4. 健康の維持 5. その他 () 6. 働くつもりはない	

(4) 将来の判断能力の低下や人生の最終段階に備えて、どのような準備をしていますか (○はいくつでも)

1. 家族や信頼できる人と自分の希望や考えについて話し合っている
2. 地域包括支援センターや社会福祉協議会など、地域の相談窓口相談したことがある
3. エンディングノートやメモなどに自分の思いや希望を書き残している
4. 人生の最終段階における医療や介護についての生前の意思表示である「事前指示書 (リビングウィル)」を作成している
5. 任意後見契約や財産管理等の委任契約を結んでいる
6. 亡くなった後の手続きなどを頼む「死後事務委任契約」を結んでいる
7. 遺言書を作成している
8. 特に準備していない
9. その他 ()

(5) 家族を介護する人の介護疲れやストレスのケアをするためには、何が必要だと思いますか (○は3つまで)

1. 周りの人の理解や協力
2. 介護生活に必要な情報の提供
3. 介護者同士が気兼ねなく話し合いや相談をする場
4. 介護者が息抜きできるイベント
5. ボランティアによる手助け
6. 専門職員による相談窓口
7. 介護に必要な技術を習得する機会
8. ショートステイ※などの介護保険サービスの活用
9. その他 ()

※ ショートステイ：介護を必要とする方が介護老人福祉施設などに短期間入所して、日常生活上の世話や機能訓練を受けるサービス

問 12 住み慣れた地域で暮らし続けることについて

(1) 高齢者ができる限り自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために、どのようなことが必要だと思えますか (〇はいくつでも)

1. 気軽に相談できるかかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局を持つこと
2. 入院しても、退院後すぐに介護サービスを受けられること
3. 介護予防のための教室 (筋力トレーニング・転倒予防・認知症予防)
4. 24時間対応してもらえる訪問介護サービス
5. 普段介護している人が介護できない時などに利用できる介護サービス
6. 日頃から健康づくりや生活習慣病予防に取り組むこと
7. 何でも相談できる高齢者の相談窓口
8. 地域の人々の見守りや助け合い
9. 生きがいづくりや地域貢献のための社会参加の機会
10. ボランティアやNPOなどによるさまざまな生活の支援
11. 体の状態に合わせた住宅への改修
12. 高齢者に配慮された多様な住まいや施設
13. 自分の将来について、家族などと話し合っておくこと
14. その他 ()

(2) 地域包括支援センターは、高齢者の方々が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、介護・福祉・健康などさまざまな面から総合的に相談や支援を行う役割を担っていますが、この役割を知っていましたか (〇はひとつ)

1. 知っていた
2. 名前は聞いたことがあるが、役割までは知らなかった
3. 地域包括支援センターの存在を知らなかった

問13 スマートフォン、タブレット、パソコン等の使用状況について

(1) お持ちの通信機器と通信環境について、当てはまる番号に○をしてください。
(○はいくつでも)

- 1. スマートフォンを持っている
- 2. タブレットを持っている
- 3. パソコンを持っている
- 4. 機器をどれも持っていない

⇒ 1～3を回答した方は(2)へ

⇒ 4を回答した方は17ページへ

- 5. 自宅にWi-Fi環境(無線で接続する環境)が整備されている
- 6. 自宅にインターネット回線(光回線・ケーブル回線など)がある
- 7. 自宅にインターネット環境は特にない

(2) 【(1)で「1」～「3」を回答した方におうかがいします。】
どのような機能を使用したことがありますか(○はいくつでも)

- 1. 音声のみの通話
- 2. ビデオ通話
- 3. メール
- 4. ゲーム
- 5. インターネットでの情報収集
- 6. 写真・動画撮影
- 7. 万歩計などの健康管理
- 8. 二次元コード(QRコード等)の読み取り※
- 9. 動画の視聴(YouTube(ユーチューブ)等)
- 10. オンラインショッピング(Amazon(アマゾン)等)
- 11. キャッシュレス決済(PayPay(ペイペイ)等)
- 12. LINE(ライン)
- 13. Facebook(フェイスブック)
- 14. X(エックス)(旧ツイッター)
- 15. Instagram(インスタグラム)
- 16. その他()

※ 二次元コードの読み取りとは、スマホ等のカメラで読み取ることで、文字入力などの手間を省くことができる便利な機能のことです。

二次元コードの例：堺市ホームページ(右コード) <https://www.city.sakai.lg.jp/>



QRコードは、(株)デンソーウェーブの登録商標です。

(調査②：在宅介護実態調査)

令和7年度堺市高齢者等実態調査ご協力をお願い

日頃から、堺市の福祉施策の推進にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
このたび、市内在住の要支援1～要介護5の認定を受けている在宅の65歳以上の方
1,300名を無作為に抽出し、「アンケート調査」を実施することになりました。

この調査は、今後の高齢者保健福祉行政の計画的かつ効果的な推進と次期の高齢者保
健福祉計画・介護保険事業計画策定のために役立たせていただくものです。

ご多忙の折、誠に恐縮でございますが、調査の趣旨をご理解いただきまして、ご協力くだ
さいますようお願い申し上げます。

回答に当たってのお願い

- 1 このアンケートは、【A票】のA-問1～17まではご本人が、【B票】のB-問1～
24までは主な介護者の方が回答してください。ご本人が回答できない場合は、
ご家族等がご本人の立場に立って回答していただいて結構です。
- 2 ご回答は、令和7年12月1日現在の状況を回答してください。
- 3 アンケートの回答はお答えいただける範囲で結構です。途中まででも結構ですので、
ご回答くださいますようお願い申し上げます。
- 4 アンケートは、令和8年1月23日(金)までにご回答ください。
- 5 次のいずれかの方法で、回答をお願いします。
(1) 紙での回答：この調査票に記入し、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに無記
名でご投函ください。堺市役所長寿支援課へ直接お持ちいただいても結構です。
(2) インターネットでの回答：次のページをご覧ください。

【 この調査の実施主体 】

堺市 健康福祉局 長寿社会部 長寿支援課
電話 072-228-8347 FAX 072-228-8918
メールアドレス choshi@city.sakai.lg.jp

【 この調査に関するお問い合わせ先 】

(堺市高齢者等実態調査業務 受託事業者) 株式会社グリーンエコ
電話 0120-341-296 FAX 06-6484-5573
メールアドレス sakaisurvey@gr-eco.co.jp
※ お問い合わせ時間：平日の午前9時から午後5時30分まで
(年末年始および午後0時から午後1時を除く)

インターネットでの回答方法

このアンケートは、パソコン、スマートフォン等を使って、インターネット上でもご回答いただけます。

以下の【ログイン方法】から、アンケート専用ウェブサイトアクセスし、回答ID・回答パスワードを入力の上、ご回答ください。

※ インターネット接続に係る通信料が発生する場合は、ご負担をお願いします。

【ログイン方法】

右記の二次元コードまたは
下記アドレスよりご回答ください。



アドレス:



スマートフォンのカメラを
このコードに向けると、
簡単にページが開きます

専用サイトへのログインには、次の回答IDと回答パスワードを入力してください。

◆回答ID : ●●●●●●
◆回答パスワード : ○○○○

インターネットで回答していただいた場合、本調査票のご返送は不要です。

調査票での回答方法

アンケートに記入する際は、各項目で該当する数字に○をつけてください。設問によって、「○はひとつ」「○は3つまで」「○はいくつでも」など、○をつける数が異なりますので、ご注意ください。なお、「その他」を選択された場合は、()内に具体的な内容を記入してください。

■まずはじめに、記入日についてお教えてください。

記 入 日	令和 年 月 日
-------	----------

※ 【A票】のA-問1～17まではご本人が、【B票】のB-問1～24までは主な介護者の方が記入してください。ご本人が記入できない場合は、ご家族等がご本人の立場に立って記入していただいて結構です。

個人情報の取り扱いについて

【個人情報の保護および活用目的について】

- この調査は、今後の高齢者保健福祉行政の計画的かつ効果的な推進と次期の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定及び策定後の政策評価のために行うものです。調査結果は、介護保険の認定・利用状況等の個人データと連結し、分析する場合がありますが、この調査で得られた個人情報については、個人情報保護法に基づき適切に管理し、これらの目的以外には利用いたしません。
- この調査で得られたデータについては、個人が識別されないよう加工した上で、大学等の研究機関や厚生労働省等に提供することがあります。
- 回答内容に応じて、市から高齢者保健福祉や介護保険に関する施策・サービスの案内を行うことがあります。

A票 調査対象者様ご本人について、おうかがいします。

※「ご本人」が記入してください。「ご本人」のご回答・ご記入が難しい場合は、ご家族等がご本人の立場に立って記入していただいで結構です。

この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 調査対象者本人 | 2. 主な介護者となっている家族・親族 |
| 3. 主な介護者以外の家族・親族 | 4. 調査対象者のケアマネジャー |
| 5. その他 () | |

A-問1 世帯類型について、お教えてください。(○はひとつ)

- | | | |
|-----------|---|---------------|
| 1. 単身世帯 | } | ⇒ 1の方は【A-問3】へ |
| 2. 夫婦のみ世帯 | | } |
| 3. その他 | | |

問1で「2.夫婦のみ世帯」「3.その他」と回答した方(ご家族など同居されている方)におうかがいします。

A-問2 日中、あなた(ご本人)は一人になることがありますか。(○はひとつ)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 週に4～5日 | 3. 週に2～3日 |
| 4. 週に1日 | 5. ほとんどない | |

※ここから再び、全員におうかがいします。

A-問3 現在のお住まいをお教えてください。(○はひとつ)

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1. 持ち家(一戸建て) | 2. 持ち家(マンションなど) |
| 3. 借家(一戸建て) | 4. 借家(マンション・アパートなど) |
| 5. 施設等 | 6. その他 () |

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

A-問4 初めて要支援・要介護認定を申請した際、どなたから申請を勧められましたか。(○はひとつ)

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1. ご本人の家族や親族 | 2. 友人・知人 |
| 3. 近所の人 | 4. 医療機関 |
| 5. 地域包括支援センター | 6. 民生委員・児童委員などの地域の方 |
| 7. 介護サービス事業者 | 8. ご本人の意向 |
| 9. その他 () | |

A-問5 あなた（ご本人）が初めて要支援・要介護認定が必要になった主な原因は何ですか。（○はひとつ）

- | | |
|-------------------------|---------------------------------|
| 1. 脳卒中（脳出血・脳こうそく等） | 2. 心臓病 |
| 3. がん（悪性新生物） | 4. 呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等） |
| 5. 関節の病気（リウマチ、変形性膝関節症等） | 6. 認知症（アルツハイマー病等） |
| 7. パーキンソン病 | 8. 糖尿病 |
| 9. 泌尿器の病気（膀胱炎、前立腺肥大症等） | 10. 視覚・聴覚障害（白内障、難聴等） |
| 11. 骨折・転倒 | 12. 脊髄（せきずい）損傷 |
| 13. 高齢による衰弱 | 14. その他（ ） |

A-問6 あなた（ご本人）が、現在抱えている傷病についてお教えてください。（○はいくつでも）

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1. 脳血管疾患（脳卒中） | 2. 心疾患（心臓病） |
| 3. 悪性新生物（がん） | 4. 呼吸器疾患 |
| 5. 腎疾患（透析） | 6. 筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等） |
| 7. 膠原病（関節リウマチ含む） | 8. 変形性関節疾患 |
| 9. 認知症 | 10. パーキンソン病 |
| 11. 難病（パーキンソン病除く） | 12. 糖尿病 |
| 13. 眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの） | |
| 14. その他 | 15. なし |
| 16. わからない | |

ご本人の生活状況や健康についておうかがいします。

A-問7 あなた（ご本人）は普段どのような食事をとっていますか。（○はいくつでも）

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 自宅で本人または家族が調理した食事 |
| 2. 家族が持ってきてくれる食事（家族が調理したかどうかは問いません） |
| 3. 本人または家族が店で買った弁当、調理済食品 |
| 4. 配食サービス |
| 5. ホームヘルパーが調理した食事 |
| 6. その他（ ） |

A-問8 定期的に通っていたり、必要な時に診療や相談しようと思う、かかりつけの医師・
歯科医師・薬剤師はいますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1. かかりつけ医師 | 2. かかりつけ歯科医師 |
| 3. かかりつけ薬局(薬剤師) | 4. いない |

サービスの利用状況についておうかがいします。

A-問9 令和7年12月1日現在、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サー
ビスを利用していますか。(○はひとつ)

- | | | | |
|-----------|-----------|------------|-----------|
| 1. 利用している | ⇒【A-問11へ】 | 2. 利用していない | ⇒【A-問10へ】 |
|-----------|-----------|------------|-----------|

A-問9で「2. 利用していない」と回答した方におうかがいします。

A-問10 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(○はいくつでも)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 現状では、サービスを利用するほどの状態ではない |
| 2. 本人にサービス利用の希望がない |
| 3. 家族が介護をするため必要ない |
| 4. 以前、利用していたサービスに不満があった |
| 5. 利用料を支払うのが難しい |
| 6. 利用したいサービスが利用できない、身近にない |
| 7. 住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため |
| 8. サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない |
| 9. その他 () |

※ここから再び、全員におうかがいします。

A-問 11 現在、あなた（ご本人）が利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、お教えてください。（〇はいくつでも）

- | | |
|-----------------------|---------------------------------|
| 1. 配食 | 2. 調理 |
| 3. 掃除・洗濯 | 4. 買い物（宅配は含まない） |
| 5. ゴミ出し | 6. 外出同行（通院、買い物など） |
| 7. 移送サービス（介護・福祉タクシー等） | 8. 見守り、声かけ |
| 9. サロンなどの定期的な通いの場 | 10. その他（ ） |
| 11. 利用していない | |

※ 総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます。

A-問 12 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、お教えてください。（〇はいくつでも）

- | | |
|-----------------------|---------------------------------|
| 1. 配食 | 2. 調理 |
| 3. 掃除・洗濯 | 4. 買い物（宅配は含まない） |
| 5. ゴミ出し | 6. 外出同行（通院、買い物など） |
| 7. 移送サービス（介護・福祉タクシー等） | 8. 見守り、声かけ |
| 9. サロンなどの定期的な通いの場 | 10. その他（ ） |
| 11. 特になし | |

※ 介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

A-問 13 現時点での、あなた（ご本人）の施設等への入所・入居の検討状況について、お教えてください（〇はひとつ）

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. 入所・入居は検討していない | 2. 入所・入居を検討している |
| 3. すでに入所・入居申し込みをしている | |

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

A-問 14 あなた（ご本人）は、現在、訪問診療を利用していますか。（〇はひとつ）

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 利用している | 2. 利用していない |
|-----------|------------|

※ 訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含みません。

住み慣れた地域で暮らし続けることについておうかがいします。

A-問 15 高齢者ができる限り自宅や住み慣れた地域で暮らし続けるために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 気軽に相談できるかかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局を持つこと
2. 入院しても、退院後すぐに介護サービスを受けられること
3. 介護予防のための教室(筋力トレーニング・転倒予防・認知症予防)
4. 24時間対応してもらえる訪問介護サービス
5. 普段介護している人が介護できない時などに利用できる介護サービス
6. 日頃から健康づくりや生活習慣病予防に取り組むこと
7. 何でも相談できる高齢者の相談窓口
8. 地域の人々の見守りや助け合い
9. 生きがいづくりや地域貢献のための社会参加の機会
10. ボランティアやNPOなどによるさまざまな生活の支援
11. 体の状態に合わせた住宅への改修
12. 高齢者に配慮された多様な住まいや施設
13. 自分の将来について、家族などと話し合っておくこと
14. その他 ()

A-問 16 災害発生時に、誰かの助けを借りたりしながら避難できるよう、普段から話し合っていますか。(〇はひとつ)

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. 詳しく話し合っている | 2. 一応話し合っている |
| 3. 関係する話をしたことはある | 4. 話し合ったことはない |

A-問 17 ご家族やご親族の方からあなた(ご本人)への介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)。(〇はひとつ)

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. ない | ⇒ 1の方は最終ページ「自由記入欄」へ |
| 2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日より少ない | } ⇒ 2～5の方は【B票】へ |
| 3. 週に1～2日ある | |
| 4. 週に3～4日ある | |
| 5. ほぼ毎日ある | |

B票 主な介護者の方について、おうかがいします。

※「主な介護者」の方のご回答・ご記入が難しい場合は、ご本人がご回答・ご記入をお願いします（ご本人のご回答・ご記入が難しい場合は、無回答で結構です）。

B-問1 ご家族やご親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）。
（○はいくつでも）

1. 主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）
2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）
3. 主な介護者が転職した
4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した
5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない
6. わからない

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

B-問2 主な介護者の方は、どなたですか。（○はひとつ）

- | | | |
|--------|----------|----------|
| 1. 配偶者 | 2. 子 | 3. 子の配偶者 |
| 4. 孫 | 5. 兄弟・姉妹 | 6. その他 |

B-問3 主な介護者の方の性別について、お教えてください。（○はひとつ）

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

B-問4 主な介護者の方の年齢について、お教えてください。（○はひとつ）

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 20歳未満 | 2. 20代 | 3. 30代 |
| 4. 40代 | 5. 50代 | 6. 60代 |
| 7. 70代 | 8. 80歳以上 | 9. わからない |

B-問5 主な介護者の方と要介護者との同居状況について、お教えてください。（○はひとつ）

1. 同居している
2. 別居しているが、15分以内で行き来できる範囲である
3. 別居しており、行き来に15分以上かかる

B-問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、お教えてください。

(○はいくつでも)

【身体介護】	
1. 日中の排泄	2. 夜間の排泄
3. 食事の介助（食べる時）	4. 入浴・洗身
5. 身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	6. 衣服の着脱
7. 屋内の移乗・移動	8. 外出の付き添い、送迎等
9. 服薬	10. 認知症状への対応
11. 医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）	
【生活援助】	
12. 食事の準備（調理等）	
13. その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）	
14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き	
【その他】	
15. その他()	
16. わからない	

B-問7 ご本人に認知症の症状がありますか。(○はひとつ)

1. 認知症の症状がある	2. 認知症の症状がない
--------------	--------------

B-問8 人生の最終段階における医療や介護について、ご本人自身の希望を、家族等や医療介護関係者と話し合っていますか。(○はひとつ)

1. 詳しく話し合っている	2. 一応話し合っている
3. 話し合ったことはある	4. 話し合ったことはない

B-問9 この1年間のご本人の介護サービスの利用頻度を教えてください。(○はひとつ)

1. これまで利用したことが1度もない	2. この1年間は利用していない
3. 年に1回程度、利用している	4. 半年に1回程度、利用している
5. 2～3カ月に1回程度、利用している	6. 月に1回程度、利用している
7. 月に2回程度、利用している	8. 週に1回程度、利用している
9. 週に2～4回程度、利用している	10. 週に5～7回程度、利用している

主な介護者の方の介護に要する時間についておうかがいします。

B-問 10 介護の日数について、お教えてください。(○はひとつ)

- | | | |
|-----------|-------------|-------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に4～5日程度 | 3. 週に2～3日程度 |
| 4. 週に1日程度 | 5. 週に1日未満 | |

B-問 11 1日あたりの介護の時間について、お教えてください。(○はひとつ)

- | | |
|------------|----------|
| 1. 1～2時間程度 | 2. 4時間程度 |
| 3. 8時間程度 | 4. ほぼ1日中 |

B-問 12 主な介護者の方の介護期間について、お教えてください。(○はひとつ)

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 6か月未満 | 2. 6か月～1年未満 |
| 3. 1年～2年未満 | 4. 2年～3年未満 |
| 5. 3年～5年未満 | 6. 5年～10年未満 |
| 7. 10年～20年未満 | 8. 20年以上 |

B-問 13 主な介護者の方の育児状況について、お教えてください。(○はひとつ)

※「1. 育児をしている」を選んだ方は子どもの人数・末子の年齢を()内に数字で記入してください。

- | | |
|-------------|----------------------|
| 1. 育児をしている | …こどもの人数()人 末子年齢()歳 |
| 2. 育児はしていない | |

※ 18歳以下の自分の子ども(養子等を含む)および孫を対象とします。なお、育児には見守り、認定こども園・幼稚園等・学校・塾・習い事等の送迎、付き添い、保護者会等への出席なども含みます。また、同居の有無は問いません。

B-問 14 主な介護者の方の現在の勤務形態について、お教えてください。(○はひとつ)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. フルタイムで働いている | } ⇒1、2の方は【B-問15～17】へ |
| 2. パートタイムで働いている | |
| 3. 働いていない | } ⇒3、4の方は【B-問18】へ |
| 4. 主な介護者に確認しないと、わからない | |

※ 「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

B-問 14 で「1.フルタイムで働いている」「2.パートタイムで働いている」と回答した方におうかがいします。

B-問 15 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をして
いますか。(○はいくつでも)

1. 特に行っていない
2. 介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」
しながら、働いている
3. 介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
6. 主な介護者に確認しないと、わからない

B-問 14 で「1.フルタイムで働いている」「2.パートタイムで働いている」と回答した方におうかがいします。

B-問 16 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効
果があると思いますか。(○は3つまで)

1. 自営業・フリーランス等のため、勤め先はない
2. 介護休業・介護休暇等の制度の充実
3. 制度を利用しやすい職場づくり
4. 労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）
5. 働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）
6. 仕事と介護の両立に関する情報の提供
7. 介護に関する相談窓口・相談担当者の設置
8. 介護をしている従業員への経済的な支援
9. その他()
10. 特にない
11. 主な介護者に確認しないと、わからない

B-問 14 で「1.フルタイムで働いている」「2.パートタイムで働いている」と回答した方におうかがいします。

B-問 17 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。
(○はひとつ)

1. 問題なく、続けていける
2. 問題はあるが、何とか続けていける
3. 続けていくのは、やや難しい
4. 続けていくのは、かなり難しい
5. 主な介護者に確認しないと、わからない

※ここから再び、介護者の方全員におうかがいします。

B-問 18 介護に対して負担に感じることは何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------|--------------------|
| 1. いつまで介護が続くかわからない | 2. 家族が介護に非協力的 |
| 3. 相談できる人がいない | 4. 仕事と両立することの負担 |
| 5. 育児も含めて世話や介護が必要な人が他にもいる | |
| 6. (介護を必要とする人が) 介護サービスの利用を嫌がる | |
| 7. 介護に関する制度がわからない | 8. 介護に関する情報が入手しづらい |
| 9. 体力的な負担 | 10. 自由な時間が減る |
| 11. 孤独を感じる | 12. 介護にお金がかかる |
| 13. 特に負担はない | |
| 14. その他 () | |

B-問 19 介護を続ける上で、日常生活の負担を軽減するために、どのような家事援助サービスを利用したいと思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1. 掃除 (居室・トイレ・浴室など) の手伝い | 2. 洗濯や衣類の整理 |
| 3. 食事の準備 | 4. ゴミ出しや片づけの手伝い |
| 5. 庭の手入れや簡単な修繕 | 6. 日用品の買い物代行 |
| 7. 定期的な見守り | 8. 話し相手 |
| 9. 通院や外出時の付き添い・送迎 | |
| 10. 特に利用したいと思わない | |
| 11. その他 () | |

B-問 20 現在、介護の際に利用している ICT・IoT※機器やサービスについて、お教えください。(○はいくつでも)

1. 見守りカメラ (室内の様子を確認できるカメラ)
2. センサー付き見守り機器 (人の動きや温度を感知する装置)
3. GPS機能付き機器 (外出時の位置情報確認など)
4. 服薬支援機器 (服薬時間を知らせる機器など)
5. 排泄支援機器 (尿意や排泄状況を感知・通知する機器など)
6. 緊急通報装置 (ペンダント型・ボタン型など)
7. コミュニケーションロボット・AIスピーカー (会話や見守り機能のある機器)
8. スマート家電 (声で操作・連携できるもの)
9. どれも利用していない
10. その他 ()

※ ICT (情報通信技術) や IoT (モノのインターネット) とは、通信機能を備えた機器やサービスを活用し、情報の記録・共有・見守りなどを行う仕組みのことです。

B-問 21 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、お教えください (現状で行っているか否かは問いません)。
(○は3つまで)

- 【身体介護】**
- | | |
|---------------------------|----------------|
| 1. 日中の排泄 | 2. 夜間の排泄 |
| 3. 食事の介助 (食べる時) | 4. 入浴・洗身 |
| 5. 身だしなみ (洗顔・歯磨き等) | 6. 衣服の着脱 |
| 7. 屋内の移乗・移動 | 8. 外出の付き添い、送迎等 |
| 9. 服薬 | 10. 認知症状への対応 |
| 11. 医療面での対応 (経管栄養、ストーマ 等) | |
- 【生活援助】**
12. 食事の準備 (調理等)
 13. その他の家事 (掃除、洗濯、買い物 等)
 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き
- 【その他】**
15. その他 ()
 16. 不安に感じていることは、特にない
 17. 主な介護者に確認しないと、わからない

B-問 22 介護に困ったときだれに相談していますか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1. 家族・親戚 | 2. 友人・知人 |
| 3. となり近所の人 | 4. ホームヘルパー |
| 5. 市や府の相談窓口(介護・福祉担当職員、保健師など) | |
| 6. 地域包括支援センターや在宅介護支援センターの職員 | |
| 7. ケアマネジャー(介護支援専門員) | 8. 介護サービスを利用する施設の職員 |
| 9. 民生委員・児童委員 | 10. かかりつけ医・かかりつけ歯科医 |
| 11. 薬局(薬剤師)や介護用品店(店員) | 12. 職場の同僚 |
| 13. 家族会 | 14. インターネット上のコミュニティ・サイト |
| 15. その他() | |
| 16. 相談したいが、相談する相手がいない | |
| 17. だれにも相談しない | |

B - 問 23 地域包括支援センターは、高齢者の方々が住みなれた地域で安心して暮らしていけるよう、介護・福祉・健康など、さまざまな面から総合的に相談や支援を行う役割を担っていますが、この役割を知っていましたか。(○はひとつ)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 知っていた |
| 2. 名前は聞いたことがあるが、役割までは知らなかった |
| 3. 地域包括支援センターの存在を知らなかった |

B - 問 24 家族を介護する人の介護疲れやストレスのケアをするためには、何が必要だと思いますか。(○は3つまで)

- | |
|---------------------------|
| 1. 周りの人の理解や協力 |
| 2. 介護生活に必要な情報の提供 |
| 3. 介護者同士が気兼ねなく話し合いや相談をする場 |
| 4. 介護者が息抜きできるイベント |
| 5. ボランティアによる手助け |
| 6. 専門職員による相談窓口 |
| 7. 介護に必要な技術を習得する機会 |
| 8. ショートステイ※などの介護保険サービスの活用 |
| 9. その他() |

※ ショートステイ：介護を必要とする方が介護老人福祉施設などに短期間入所して、日常生活上の世話や機能訓練を受けるサービス

3 介護事業者調査

令和7年度堺市高齢者等実態調査（介護事業者調査） ご協力をお願い

日頃から、堺市の福祉施策の推進にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

このたび、堺市内をサービス提供区域とする事業所を営む法人を対象に「実態調査」を実施することになりました。

この調査は、今後の高齢者保健福祉行政の方向性を示す次期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定にあたり、皆様に事業の運営体制や新たなサービスへの参入意向などについてお伺いするものです。

ご回答いただきました内容は、すべて統計的に処理し、上記の目的以外には利用しません。なお、ご回答内容について確認が必要な場合、または不明点がある場合には、電話等でご連絡させていただくことがあります。あらかじめご了承ください。

ご多忙の折、誠に恐縮でございますが、調査の趣旨をご理解いただきまして、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

回答に当たってのお願い

- 1 法人単位で作成してください。
- 2 設問をお読みいただき、各項目で該当する数字に○をつけてください。設問によって、「○はひとつ」、「○はいくつでも」、「○は3つまで」など、○をつける数が異なりますので、ご注意ください。なお、「その他」を選択された場合は、() 内に具体的な内容を記入してください。
- 3 ご回答は、令和7年12月1日現在の状況を記入いただくことを基本とし、設問によって基準日の指定がある場合は、それに従ってください。
- 4 アンケートは、**令和8年2月13日（金）**までにご回答ください。
- 5 次のいずれかの方法で、回答をお願いします。

(1) 紙での回答：この調査票に記入し、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにご投函ください。

堺市役所長寿支援課へ直接お持ちいただいても結構です。

(2) インターネットでの回答：右記の二次元コードまたは下記URLよりご回答ください。

URL：

※専用サイトへのログインには、次の回答IDと回答パスワードを入力してください。

◆回答ID : ●●●●●●

◆回答パスワード : ○○○○



【 この調査の実施主体 】

堺市 健康福祉局 長寿社会部 長寿支援課
電話 072-228-8347 F A X 072-228-8918
メールアドレス choshi@city.sakai.lg.jp

【 この調査に関するお問い合わせ先 】

(堺市高齢者等実態調査業務 受託事業者) 株式会社グリーンエコ
電話 0120-341-296 F A X 06-6484-5573
メールアドレス sakaisurvey@gr-eco.co.jp

※ お問い合わせ時間：平日の午前9時から午後5時30分まで
(年末年始および午後0時から午後1時を除く)

問3 現在、事業運営している中で、最も課題に感じていることは何ですか。
(○はひとつ)

- 1. 財政状況
- 2. 人手不足
- 3. 後継者不足
- 4. 施設の老朽化や安全性の課題
- 5. 利用者からの苦情、要望
- 6. 事業運営のための情報やノウハウの不足
- 7. その他 ()
- 8. 特にない

問4 現在のサービス提供状況からみて、職員数の過不足はありますか。
(○はひとつ)

- 1. 非常に不足している
- 2. やや不足している
- 3. 過不足なく適当な状態である
- 4. やや多い
- 5. 非常に多い

問4で「1.」「2.」と回答した法人にお伺いします。

問4-1 職員数が不足している主な理由は何ですか。(○はひとつ)

- 1. 新規雇用の際、思った程の人材を確保できなかったため
- 2. 新規採用者が短期間で退職していくため
- 3. 新規採用者に限らず離職者が増えているため
- 4. その他 ()

問5 貴法人の職員の定着率をどう感じていますか。(○はひとつ)

- 1. 非常に定着率が良い
- 2. どちらかという而定着率が良い → 【問6へ】
- 3. どちらかという而定着率が悪い
- 4. 非常に定着率が悪い → 【問5-1へ】

問5で「3.」「4.」と回答した法人にお伺いします。

問5-1 職員の離職理由で多いものは何だと思えますか。(自己都合は除く)(○は3つまで)

- 1. 仕事の内容や負担が重い
- 2. 給与や処遇に不満がある
- 3. 職場の人間関係がよくない
- 4. 勤務時間や休日の条件が合わない
- 5. 結婚や出産
- 6. 子育てのため
- 7. 親の介護のため
- 8. 自身の健康上の理由
- 9. 転職(同業種への転職)
- 10. 転職(他業界への転職)
- 11. その他 ()
- 12. わからない

問6 介護職員等特定処遇改善加算(区分Ⅱ以上)を取得していますか。
(○はひとつ)

- 1. はい → 【問6-1へ】
- 2. いいえ
- 3. 一部の施設(事業所)のみ → 【問6-2へ】

問6で「1. はい」と回答した法人にお伺いします。

問6-1 取得した主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

1. キャリアパス要件を満たすことが容易だったから
2. 職場環境要件を満たすことが容易だったから
3. 加算所得に必要な事務作業(計画書や実績報告書の作成など)が負担にならないから
4. 加算による収益が大きく、メリットを感じるから
5. 人材の定着や確保に、従業員への賃金改善を図る必要があると考えたから
6. 制度内容や取得方法の情報を十分に得られたから
7. 他の法人で取得が進んでおり、自法人でも取得する必要があると判断したから
8. その他()

問6で「2.」「3.」と回答した法人にお伺いします。

問6-2 取得しない主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

1. キャリアパス要件を満たすことが難しいから
2. 職場環境要件を満たすことが難しいから
3. 加算所得に必要な事務作業(計画書や実績報告書の作成など)が負担になるから
4. 加算による収益が少なく、メリットを感じにくいから
5. 従業員への賃金を十分に支給しており、取得の必要性を感じないから
6. 制度内容や取得方法の情報が不足している、または複雑で分かりにくいから
7. 処遇改善加算の対象外のサービスだから
8. 現在、取得を検討中である
9. その他()

問7 堺市では、職員のスキルアップや人材育成を目的として階層別研修を実施しています。今後、介護事業所向けに実施する研修として、どのようなテーマの研修があれば良いと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 介護職員の接遇・コミュニケーションに関する研修
2. 認知症ケア・高齢者への対応力向上に関する研修
3. 介護技術(移乗・排泄・食事介助など)の実践的研修
4. 介護記録やICT活用など、業務効率化に関する研修
5. 介護職員のメンタルヘルス・ストレスマネジメント研修
6. リーダー・管理者のマネジメント力向上に関する研修
7. ハラスメント防止・職場の人間関係改善に関する研修
8. 新人・若手職員の育成・定着支援に関する研修
9. 看取りや終末期ケアに関する研修
10. 虐待防止・権利擁護に関する研修
11. その他()
12. 特にない

問8 介護の仕事に携わる外国人労働者を受け入れていますか。(〇はひとつ)

- | | |
|-------------|-----------|
| 1. 受け入れている | → 【問8-1へ】 |
| 2. 受け入っていない | → 【問9へ】 |

問8で「1. 受け入れている」と回答した法人にお伺いします。

問8-1 どの制度に基づいて外国人労働者を受け入れているのかお教えてください。(〇はいくつでも)

1. E P A (経済連携協定) に基づく外国人介護福祉士候補者の受け入れ
2. 在留資格「介護」をもつ外国人の受け入れ
3. 技能実習制度を活用した外国人の受け入れ
4. 在留資格「特定技能1号」をもつ外国人の受け入れ
5. その他 ()

問9 今後(または引き続き)、外国人労働者を受け入れる予定はありますか。(〇はひとつ)

1. 受け入れる予定はある
2. 受け入れる予定はない

問10 今後(または引き続き)、外国人労働者を受け入れるうえでの課題は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 利用者との会話などにおいて、意思疎通に支障がある
2. 日本人の職員との会話などにおいて、意思疎通に支障がある
3. 日本語の読解力や文章力の不足などにより、介護記録の作成に支障がある
4. 生活習慣の違いなどにより、日常的な業務に支障がある
5. 受け入れるための制度や外国人労働者の活躍できる場が少ない
6. 受け入れにあたって様々なサポート(住まいの確保、社会・文化に馴染むための生活面でのサポートなど)が必要
7. 外国人労働者の離職率が高い(定着率が低い)
8. 利用者やその家族から、外国人労働者への理解が得られにくい
9. 特に課題はない
10. その他 ()

問11 職員の確保や質の向上を図るために、現在どのような取組を実施していますか。(〇は3つまで)

1. 基本的な技術や実践的知識の向上
2. 利用者からの苦情や相談への対処能力の向上
3. 利用者への対応の仕方などマナーやコミュニケーション技術の向上
4. 職員の福利厚生 の 充実
5. 職員のモチベーション保持のための制度の充実(キャリアアップなど)
6. 職場に対する相談体制の確保
7. 意思疎通を図るためのミーティングの充実
8. 外部研修への参加
9. 介護職の魅力向上に向けた取り組み
10. 他の事業所との情報交換会
11. 介護職員の負担軽減(ICTや介護ロボットの導入など)
12. 職員の報酬や手当などの充実
13. その他 ()
14. 特に実施していることはない

問 12 ICTや介護ロボット等について、現在どのようなものを導入・利用していますか。(〇はいくつでも)

1. 介護記録ソフト(記録・情報共有機能)
2. 請求業務ソフト(介護報酬請求など)
3. 利用者情報共有システム(職員間・他事業所との情報共有)
4. 家族・利用者との情報共有システム(状況報告・請求・連絡など)
5. 給与計算・勤怠管理・シフト作成ソフト
6. AIによる音声入力や記録・編集機能を有したツール
7. ケアプラン作成支援ソフト
8. グループウェアなどのオンライン連絡ツール
9. タブレットやスマートフォンによる記録入力・閲覧
10. 移乗支援機器(リフト、パワーアシストスーツなど)
11. 移動支援機器(歩行支援ロボット、電動車いすなど)
12. 排泄支援機器(排泄予知センサー、自動排泄処理装置など)
13. 見守り支援機器(センサー、カメラ、バイタル測定連携など)
14. 入浴支援機器(自動入浴装置、移乗リフト付き浴槽など)
15. コミュニケーション支援機器(コミュニケーションロボット、AIスピーカー)
16. 食事に関する機器(とろみサーバー、姿勢保持イス・テーブル)
17. その他()
18. 特に利用していない

問 12 で「1.」～「17.」と回答した法人にお伺いします。

問 12-1 導入・利用している理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 導入や維持にかかる費用に支障がなかったから
2. 導入に必要な補助金・制度などの情報を得て活用できたから
3. 機器の操作や管理が難しくなかったから
4. 現在の業務に不便を感じ、導入の必要性を感じたから
5. 導入効果(業務効率化・負担軽減・サービス向上など)が期待できたから
6. 機器の設置や通信環境など、施設環境に問題がないから
7. 他の事業所での活用事例を知ったから
8. 費用が高くても、職員の負担軽減・人材確保のためには必要と考えたから
9. 利用者側から導入を要望されたから
10. その他()

問 12 で「18.」と回答した法人にお伺いします。

問 12-2 導入・利用していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 導入や維持にかかる費用が高いから
2. 導入に必要な補助金・制度などの情報が十分でないから
3. 機器の操作や管理が難しそうだから
4. 現在の業務に特に不便を感じていないから
5. 導入効果(業務効率化・負担軽減・サービス向上など)が分かりにくいから
6. 機器の設置や通信環境など、施設環境が整っていないから
7. 他の事業所の活用事例を知らないから
8. 現在、導入を検討中である
9. 利用者側から導入を要望されていないため
10. その他()
11. 特に理由はない

問 13 令和6年度の貴法人の介護事業会計についてお伺いします。介護事業収支は、どのような状況ですか。(〇はひとつ)

1. 大幅な黒字である 2. やや黒字である →【問 13-1 へ】

3. ほぼ収支が均衡している

4. やや赤字である 5. 大幅な赤字である →【問 13-2 へ】

問 13 で「1.」「2.」を選んだ法人にお伺いします。

問 13-1 その主な理由は何だと思えますか。(〇は2つまで)

1. 一定以上の利用者数を確保できたため
2. 利用者1人当たりについて、一定以上のサービス量を確保できたため
3. 人件費・事務費・事業費などの経費の支出を低く抑えることができたため
4. 介護報酬が改定されたため
5. その他 ()

問 13 で「4.」「5.」を選んだ法人にお伺いします。

問 13-2 その主な理由は何だと思えますか。(〇は2つまで)

1. 当初見込んだ利用者数を確保できなかったため
2. 見込んだ利用者1人当たりのサービス量を確保できなかったため
3. 人件費・事務費・事業費などの経費が予想より大きかったため
4. 介護報酬が改定されたため
5. その他 ()

問 14 今後、堺市内で事業運営を行いたいサービスはありますか。

ある場合はその理由について、それぞれサービス種別ごとに 10 ページの (1) 「今後事業運営を行いたい理由」から該当するものを選び、その番号を記入してください(番号は3つまで)。また、それぞれ予定している地域があれば 10 ページの (2) 「日常生活圏域」から該当する地域の番号を記入してください。

サービス種別 (介護予防サービス含む)		(1) 今後事業運営を行いたい理由 ※10 ページの (1) から、番号を選択し記入 (3つまで)	(2) 日常生活圏域 ※10 ページの (2) から、番号を選択し記入
居宅サービス	<input type="checkbox"/> 居宅介護支援		
	① 訪問介護		
	② 訪問入浴介護		
	③ 訪問看護		
	④ 訪問リハビリテーション		
	⑤ 居宅療養管理指導		
	⑥ 通所介護		
	⑦ 通所リハビリテーション		
	⑧ 短期入所生活介護		
	⑨ 短期入所療養介護		
	⑩ 特定施設入居者生活介護		
	⑪ 福祉用具貸与		
	⑫ 特定福祉用具販売		

(9 ページに続く)

(8ページの続き)

サービス種別 (介護予防サービス含む)	(1) 今後事業運営を行いたい理由 ※10ページの(1)から、番号を選択し記入(3つまで)	(2) 日常生活圏域 ※10ページの(2)から、番号を選択し記入
地域密着型サービス	①定期巡回・随時対応型訪問介護看護	
	②夜間対応型訪問介護	
	③認知症対応型通所介護	
	④小規模多機能型居宅介護	
	⑤地域密着型通所介護	
	⑥認知症対応型共同生活介護	
	⑦地域密着型特定施設入居者生活介護	
	⑧地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	
	⑨看護小規模多機能型居宅介護	
施設サービス	①介護老人福祉施設	
	②介護老人保健施設	
	③介護医療院	

(1) 今後事業運営を行いたい理由（各サービスにつき3つまで）

1. 土地・建物の確保ができた（できる）ため	2. 建築などの整備にあたり資金の確保ができた（できる）ため
3. 利用者確保の見込みがあった（ある）ため	4. 事業経営に見合った介護報酬が得られるため
5. 市で既に他の介護サービスを行っているため	6. 職員確保の見込みがあった（ある）ため
7. 事業経営が安定しており余力があるため	8. 利用者から他の介護サービスの要望があったため
9. 特になし	10. その他

(2) 日常生活圏域

選択番号	圏域	圏域を構成する小学校区	選択番号	圏域	圏域を構成する小学校区	選択番号	圏域	圏域を構成する小学校区
1	堺1区	三宝・錦西・市・英彰	8	東1区	南八下・八下西・日置荘・日置荘西・白鷺	15	南3区	上神谷・宮山台・竹城台・竹城台東・若松台・茶山台
2	堺2区	錦・錦陵・浅香山・三国丘	9	東2区	登美丘西・登美丘東・登美丘南・野田	16	南4区	三原台・泉北高倉・はるみ・槇塚台
3	堺3区	熊野・少林寺・安井・榎	10	西1区	浜寺・浜寺東・浜寺石津・浜寺昭和	17	北1区	東浅香山・新浅香山・五箇荘・五箇荘東
4	堺4区	神石・新湊・大仙・大仙西	11	西2区	鳳・鳳南・福泉・福泉上・福泉東	18	北2区	東三国丘・光竜寺・新金岡・新金岡東
5	中1区	八田荘・八田荘西・深井・深井西	12	西3区	津久野・向丘・平岡・家原寺・上野芝	19	北3区	大泉・金岡・金岡南・北八下
6	中2区	東百舌鳥・宮園・東深井・土師	13	南1区	美木多・赤坂台・新檜尾台・城山台	20	北4区	中百舌鳥・百舌鳥・西百舌鳥
7	中3区	久世・東陶器・西陶器・福田・深阪	14	南2区	福泉中央・桃山台・原山ひかり・庭代台・御池台	21	美原1区	黒山・平尾・美原北・八上・美原西・さつき野

災害時の対策についてお伺いします。

問 15 貴法人の災害に対する対策の実施状況について、それぞれサービス種別ごとに該当する番号に○をつけてください。

サービス種別 (介護予防サービス含む)		(1) 地震・津波対策			(2) 風水害対策 (土砂災害は除く)			(3) 火災対策			(4) 土砂災害対策		
		実施済 み	検討中	実施・検 討のどち らもして いない	実施済 み	検討中	実施・検 討のどち らもして いない	実施済 み	検討中	実施・検 討のどち らもして いない	実施済 み	検討中	実施・検 討のどち らもして いない
居宅サービス	①通所介護	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
	②通所リハビリテーション	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
	③短期入所生活介護	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
	④短期入所療養介護	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
	⑤特定施設入居者生活介護	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
地域密着型サービス	①認知症対応型通所介護	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
	②小規模多機能型居宅介護	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
	③地域密着型通所介護	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
	④認知症対応型共同生活介護	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
	⑤地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
	⑥看護小規模多機能型居宅介護	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3

(12 ページに続く)

問 17 から問 20 は、堺市内で居宅介護支援事業所を運営している法人にお伺いします。

問 17 貴法人から見て、堺市の要介護者（要介護 1～5）にとって不足していると感じるサービスは何ですか。（〇はいくつでも）

1. 居宅介護支援
2. 訪問介護
3. 訪問入浴介護
4. 訪問看護
5. 訪問リハビリテーション
6. 居宅療養管理指導
7. 通所介護
8. 通所リハビリテーション
9. 短期入所生活介護
10. 短期入所療養介護
11. 特定施設入居者生活介護
12. 福祉用具貸与
13. 特定福祉用具販売
14. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
15. 夜間対応型訪問介護
16. 認知症対応型通所介護
17. 小規模多機能型居宅介護
18. 地域密着型通所介護
19. 認知症対応型共同生活介護
20. 地域密着型特定施設入居者生活介護
21. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
22. 看護小規模多機能型居宅介護
23. 介護老人福祉施設
24. 介護老人保健施設
25. 介護医療院
26. 特になし

問 18 サービスを実施するにあたって、他の事業所や機関等との連携はどの程度とれていますか。下記の①～⑧の項目ごとに、あてはまるものを選択してください。（それぞれ〇はひとつ）

連携の相手	連携がとれている 大変うまく 連携がとれている	おおむね 連携はとれている	どちらとも いえない	あまり連携は とれていない	まったく連携が とれていない
①他の居宅介護支援事業者	1	2	3	4	5
②他の居宅サービス提供事業者	1	2	3	4	5
③他の地域密着型サービス提供事業者	1	2	3	4	5
④他の施設サービス提供事業者	1	2	3	4	5
⑤医療機関	1	2	3	4	5
⑥介護保険以外のサービス提供機関 （ボランティア・NPO含む）	1	2	3	4	5
⑦地域包括支援センター	1	2	3	4	5
⑧行政機関	1	2	3	4	5

令和7年度 堺市 高齢者等実態調査報告書

令和8(2026)年3月

発行：堺市 健康福祉局 長寿社会部 長寿支援課

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号

堺市役所本館7階

電話 072-228-8347

FAX 072-228-8918

堺市配架資料番号 1-F4-25-0278